

## 第2節 出土遺物

### (1) 瓦類

#### 1) 上野国分尼寺瓦研究略史

上野国分尼寺跡(以下「尼寺」)出土の瓦についての研究は、上野国分寺跡(以下「僧寺」、尼寺と僧寺の区別なく言うときには「二寺」とする。)出土の瓦に比べてまだ浅いものがある。このことは、いくつかの要因が考えられる。一つは明治以降多くの先人によって軒先瓦、文字瓦の蒐集、研究がなされたがその多くが僧寺を中心としたものであったことによる。これは、かつては国指定史跡山王廃寺跡(前橋市総社町 註1、第86・87図)を尼寺跡、現在の二寺を一つの寺院跡(瓦が散布し、礎石が残っている)、すなわち僧寺跡ととらえていたことも影響しているのかもしれない(註2)。さらに、僧寺跡は大正15年(1925)に国指定史蹟となり注目を得たことによる影響も少なくはなかったと考えられる。もう一つは、発掘調査が実施されたのは尼寺のほうが早く昭和44・45年(1969・1970)であったものの、その成果は概報(註3)として公刊されただけで詳細な報告は平成5年(1993 註4)までまたなければならなかつたことである。この尼寺跡の発掘調査から報告書刊行までの間、昭和55年(1980)から僧寺跡では保存整備事業にともなう発掘調査(第1期調査)が開始され、その成果が平成元年(1989)にまとめられている(註5)。この報告書ではそれまでの軒先瓦の文様(拓本)をもとに整理検討されてきた成果の域を超えた、科学的すなわち考古学的手法による詳細な観察と多くの分析・分類が行われ、二寺創建以降の上野国における古代瓦の生産と供給を考えるうえでの基本的資料が提供されたことになる。なお、僧寺跡においては平成24年～平成28年(2012～2016)にかけ第2期調査が実施され、新たな文様の軒先瓦のほか伽藍構造などでも多くの新知見を得ている(註6)。一方、僧寺跡の第1期調査が始められた翌年に群馬県立歴史博物館において、当時、収集・検討されていた瓦と寺院に関する企画展が開催され(註7)、群馬県内における古代寺院等に関して初めて網羅的に知る機会ができた。さらに昭和48年(1973)からは関越自動車道、上越新幹線などの大規模開発事業にともなう数多くの遺跡の発掘調査が行われ、それらの調査でも古代瓦が出土するなど寺院と瓦に関する様々な情報が整理され現在に至っている。

#### 2) 古代寺院と瓦(第86図及び第87図)

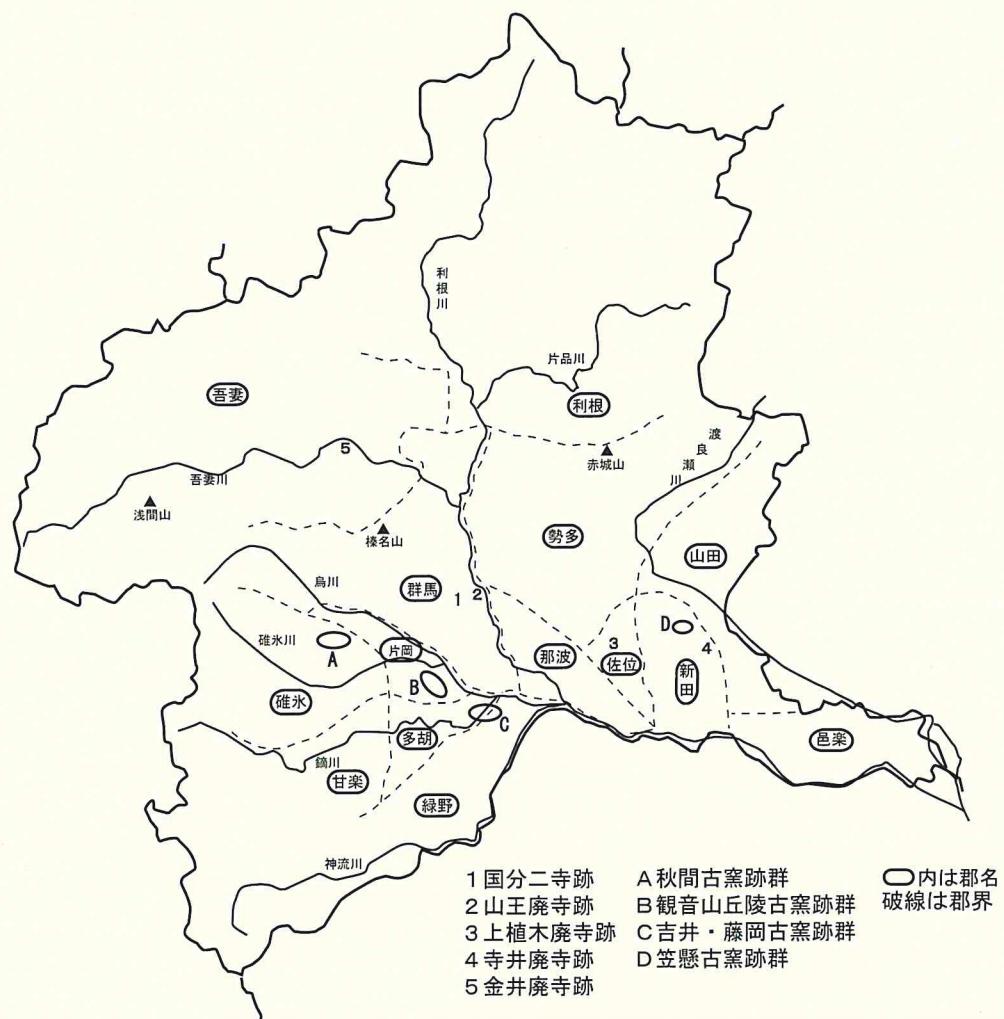
二寺の建立は、それ以前の上野国内の寺院で使用されていた瓦の文様の系譜からはたどれない統一の意匠(註8)を生み出すこととなった。二寺の建立は国家的大事業であり、地域の生産活動とその後の寺院に用いられた軒先瓦の文様意匠に大きな影響を与えた。そのため、古代上野国における寺院と瓦については二寺の創建以前と創建期、さらにそれ以降の3時期に分けて検討することができる。

6世紀末に蘇我氏により建立された我が国最初の本格的伽藍をもった飛鳥寺(法興寺、奈良県高市郡明日香村)の主要堂宇の屋根は瓦で葺かれていた。崇峻元年(588)に百濟から寺工・露盤博士・画工とともに4人の瓦博士が我が国に献じられており(註9)、寺院建築の一部として瓦生産技術が伝わったことによる。飛鳥地方において始まった本格的伽藍をもつ寺院建築と瓦生産は、その後間もなく畿内周辺に、さらには遠方の地域にまで広まっていった。上野国では7世紀後半の飛鳥時代の後期(いわゆる白鳳期)に山王廃寺跡(前橋市総社町 註10)、上植木廃寺跡(伊勢崎市本関町ほか 註11)、寺井廃寺跡(太田市天良町ほか 註12)といった群馬県南東部の平野部のほか、吾妻川右岸の榛名山の北麓に金井廃寺跡(吾妻郡東吾妻町 註13)などが創建され、仏教の受容と屋根に瓦を載せた本格的な寺院が建築されている。これらは天平13年(741)に二寺建立の勅(註14)が発布される以前に、すでに在地の有力者等によって創建された寺院である。このほか高崎市域においても馬庭東遺跡(吉井町馬庭 註15)、田端廃寺跡(阿久津町 註16)、新保遺跡(新保町 註17)、奥原廃寺跡(本郷町 註18)など二寺創建よりも

古く7世紀末以降に創建された寺院跡が確認されている。そして寺院跡ではないが、僧寺の創建年代を検証するにあたって重要な指標となる複弁六葉軒丸瓦(第88図-1)を出土した多胡郡正倉跡(吉井町池 註19)が調査報告されたほか、隣接する藤岡市牛田では僧寺七重塔で用いられた蟹爪状蓮華文八葉軒丸瓦(第88図-2 註20)と同一文様で直径の小さい軒丸瓦を出土した牛田廃寺跡(註21)が調査されている。この牛田廃寺跡からは前述の複弁六葉軒丸瓦と極めて似た文様の軒丸瓦も出土しているが、中房内の蓮子がはっきり残っていることから多胡郡正倉跡、僧寺跡出土のものに先行するものであることが指摘されている。

二寺創建以降の高崎市内においては綿貫町の綿貫廃寺跡(註22)、吉井町黒熊の黒熊中西遺跡(註23)などの寺院跡が発掘調査され、さらには箕郷町中野の唐松廃寺跡(註24)では採集瓦の報告がなされている。

このように上野国内では二寺創建以前の7世紀後半の飛鳥時代後期から多くの地域において寺院が建立され、創建以降も伽藍規模の大小はあるものの複数の寺院が建立されたことが知られている。そして、それらの寺院等で用いられた瓦を生産した古窯跡については、次のことがこれまでに検討、報告されている。

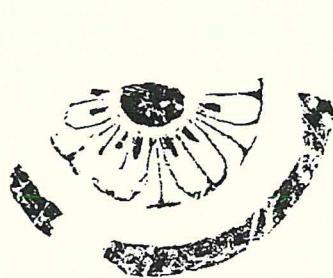


註 郡界は川原秀夫「古代上野の国府及び郡郷に関する基礎的考察」『ぐんま史料研究』第23号を基に作成

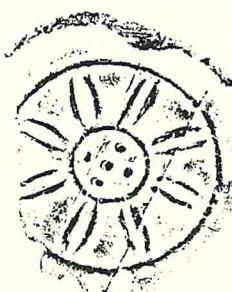
第86図 飛鳥時代後期寺院・郡界図



第87図 高崎市及び隣接地域古代寺院跡と古窯跡



1 複弁六葉軒丸瓦 (註 19 より転載)



2 蟹爪状蓮華文八葉軒丸瓦 (註 20 より転載)

第88図 多胡郡正倉跡・牛田廢寺跡出土軒丸瓦(縮尺任意)

### 3) 上野国における主な古窯跡

古代上野国内における瓦の生産地(瓦窯跡)は、10か所以上(註25)が判明しており、その中で二寺及び上記寺院跡と強い関連のある古窯跡群は次のとおりである。

#### ①笠懸古窯跡群(みどり市笠懸 註26)

この窯跡群の鹿ノ川支群(第89図A 註27)・山際支群(第89図B)では二寺創建時の瓦を焼造したことがわかっている。そして鹿ノ川窯生産の瓦は二寺だけではなく、本窯跡のある新田郡内の寺井廃寺・台之原廃寺(太田市藪塚町 註28)・源六堰遺跡・釣堂遺跡(註29)などにも供給され、山際窯生産の瓦は隣接する佐位郡に所在した上植木廃寺のほか、寺院跡の可能性が指摘されている十三宝塚遺跡(伊勢崎市境伊与久 註30)、勢多郡の上西原遺跡など郡境を越えて広範囲に供給されていたことがわかっている(註31)。

#### ②吉井・藤岡古窯跡群(高崎市吉井町多比良及び藤岡市金井ほか 註32)

従来から吉井古窯跡群、藤岡古窯跡群と別々に呼称されている窯跡群である。多胡郡正倉跡の発掘調査では吉井古窯跡群生産の瓦が出土しているほか、二寺跡や綿貫廃寺跡など多くの寺院跡からも大量に出土している。藤岡古窯跡群では金山1号窯・2号窯(第90図)の発掘調査(註33)から僧寺所用瓦が出土しており、国分寺創建にあたって笠懸古窯跡群とともに2大供給地となっていたことがわかる。

#### ③秋間古窯跡群(安中市下秋間～東上秋間 註34)

7世紀初頭には須恵器生産が始まったと考えられ、その後に瓦の生産も始まり、八重巻支群・刈稻(かんね)支群では瓦窯跡が調査されている。この古窯跡の瓦は山王廃寺に継続的に供給されたほか、奥原廃寺などにも供給されている。さらに創建後の二寺のほか綿貫廃寺・唐松廃寺などにも供給され、広範囲にしかも長期間にわたって古代上野国内における瓦の主要生産地であったことがわかる。

#### ④中之条古窯跡群(中之条町大字伊勢町天代 註35)

一部の発掘調査が行われ、8世紀前半から中頃にかけての瓦専業の窯跡と考えられ、金井廃寺のほか渋川市有馬廃寺などにも供給されている。

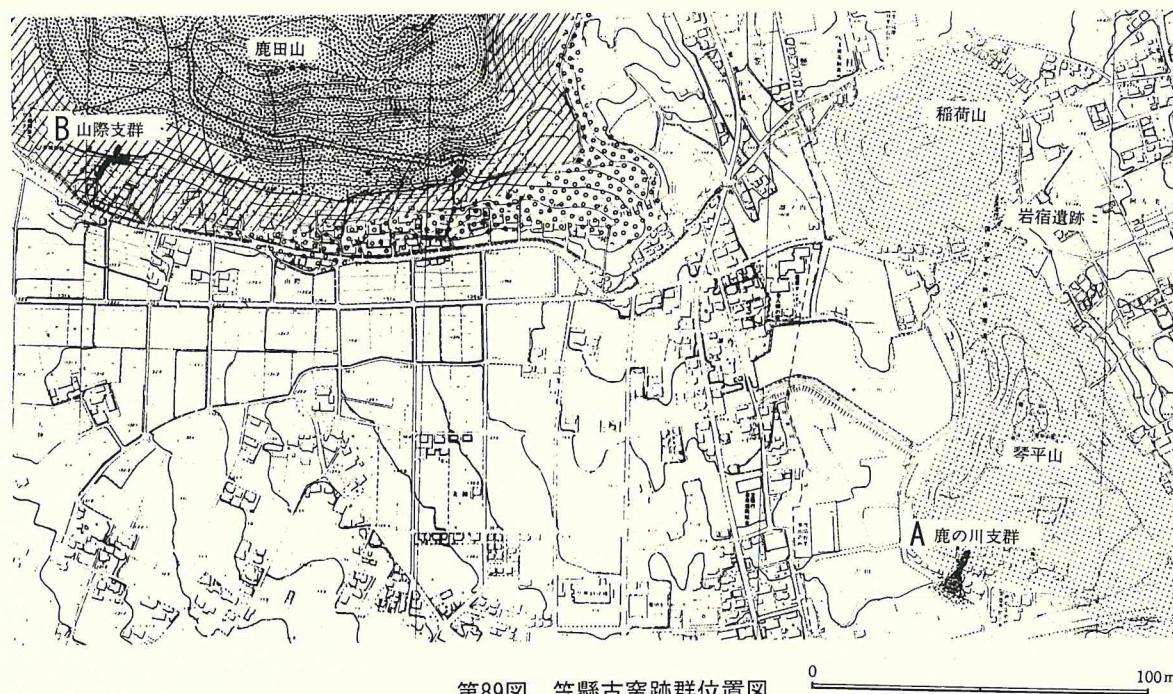
#### ⑤雷電山古窯跡群(桐生市新里町)

7世紀中頃には瓦生産が始まり、上植木廃寺の創建時から8世紀頃まで生産されたと考えられている。上植木廃寺では伽藍地のすぐ西脇の瓦窯跡で創建初期の瓦を生産したが(註36)、その後間野谷瓦窯(伊勢崎市赤堀間野谷)を経て雷電山瓦窯に生産の中心が移り、さらに二寺が創建されると笠懸古窯跡群生産の瓦も供給されている。

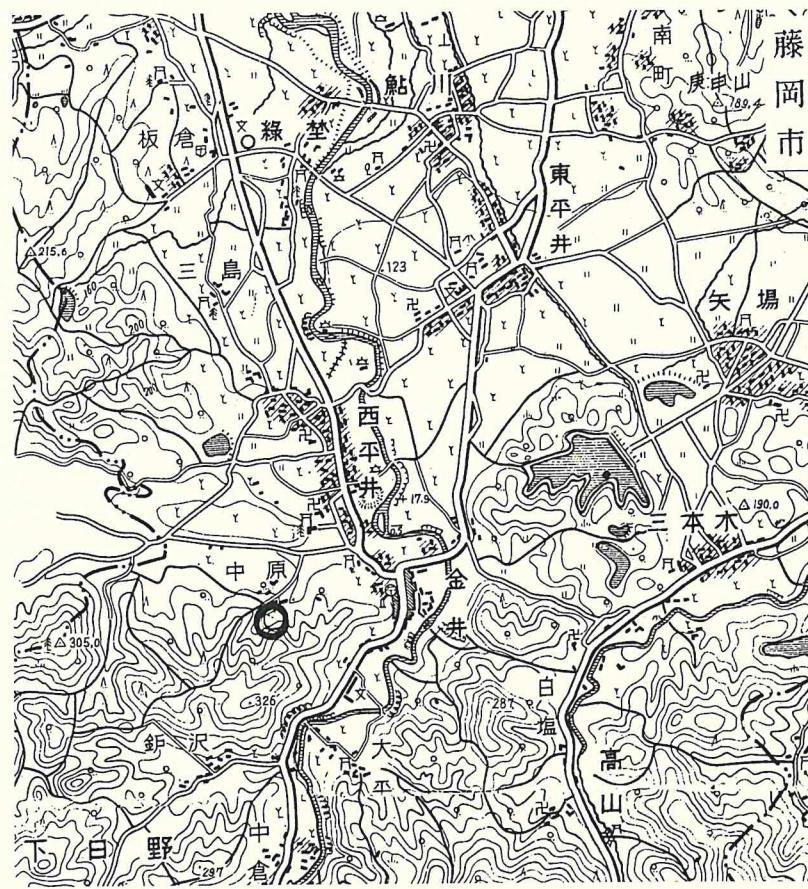
#### ⑥観音山丘陵古窯跡群(高崎市寺尾町～吉井町南陽台 註37)

かつては本窯跡群の所在する観音山丘陵(岩野谷丘陵の南端)の小地域の名称を付け乗附古窯跡群とされていたが、古窯跡が広範囲に点在することから今では大きな範囲を表す名称が使用されている。二寺創建以前の寺院があった田端遺跡では、本窯跡群特有の胎土をもつ須恵器が竪穴建物跡から出土している。山名町のでえせえじ支群では7世紀末、寺尾町の小塚支群では8～10世紀初頭まで瓦が須恵器と共に生産されている。田端廃寺跡で出土した瓦は主体が本古窯跡群中でのえせえじ支群産で、他の瓦も本古窯跡群産であるとの報告がなされている。小塚支群の瓦の凹面には布目痕ではなく莫蘆目痕が残るものがあることが特徴的である。

以上が上野国内の主な瓦生産古窯跡であるが、古窯跡群と寺院についてはそれぞれ密接な関係が認められている。なかでも創建が最も古い山王廃寺は秋間古窯跡群と、上植木廃寺は雷電山古窯跡との結びつきが強いことがこれまでの研究で明らかにされており、前者の系統に属する瓦を山王・秋間系、



第89図 笠懸古窯跡群位置図  
(註8dより転載改変)



第90図 金山古窯跡位置図(図の○部分)  
(註33より転載改変)

後者を上植木・雷電山系として把握し、この二つの造瓦組織が上野国内の瓦生産と供給の流れの中心的存在であったことが指摘されている（註38）。そして、国分寺創建にあたってこの流れとは異なる笠懸古窯跡群と吉井・藤岡古窯跡群から、従前までとは異なる文様意匠の軒先瓦が考案され二寺に供給が始まることになる。

#### 4) 出土した瓦

今回の調査では、昭和期の調査により既にいくつかの主要建物が明らかとなっていたことから、建物別に使用された瓦に何らかの傾向や特徴があるのかといった点に留意した。このためAs-B混土（以下「表土」）中から出土した瓦も含めて極力3メートル四方のグリッドで出土位置の把握に努めた。また、表土よりも下層（遺構埋土として捉えた）のものについては小破片を除いて出土レベルと層位、出土位置の記録を行った。整理にあたっては、建物ごとの傾向のほか僧寺との比較が行えるよう軒平瓦・軒丸瓦の文様の把握に努めたほか、平瓦・丸瓦についてもその成形、整形技法や胎土の特徴などの把握を行った。

5次にわたる調査では、表土中から出土したものも含む合計で約27,200点・約3,020kg（いずれも接合前）の瓦が出土し、そのうち嘉承3（天仁元）年（1108）のAs-B降下以前に尼寺跡を覆っていた埋土及び地業の版築内からは、平瓦（軒平瓦を含む）約14,870点・約1,610kg、丸瓦（軒丸瓦を含む）が約3,950点・約577kgが出土した。殆どが割れた状態で出土し、全形を復元できたものは整理作業により接合したものである。完形の瓦が殆どないこと、平瓦・丸瓦が重層的に整然と出土していないこと、さらに金堂・回廊・尼坊などの基壇上部が削平されていることから、基壇上の建物が健全な状態にあるときに屋根から滑落したものではなく、廃材整理にともない基壇下周辺に集積されたものと考えられる。

前記のとおり瓦は遺構埋土中から大量に出土しているが、各遺構における地業の状況を確認するために設けた基壇断ち割りのためのサブトレーナー内からも瓦が出土している。これらの瓦は掘り込み地業に伴う版築を行う際、屋根に葺く前に割れてしまった瓦を補強材として使用したものと考えられる。なお、断ち割り箇所の偶然性によるのか、版築土の土質等に基づく工法の違いによるのか今回の調査では判明しなかったが、尼坊跡の掘り込み地業内から瓦は出土していない。

出土した瓦の概要は次のとおりである。平瓦の凸面には縄目・格子目・平行条目が残るもの、さらにそれらをナデ消したもののほか、その痕跡を見つけることができない素文、掌で押圧した不定形の浅い凹みが残るものもある。凹面には粘土塊から一枚の粘土板を切り出したときの糸切り痕、粘土板を巻き付けた模骨桶の側板圧痕が残るもの、粘土を巻く前に模骨桶や木型に巻き付けた布目が残るもの、それをナデ消したものなどがある。一方、丸瓦の凸面には格子目痕は見られず、平行条目と縄目が認められ、平瓦と同じくナデ消しにより痕跡のみを留めるものが多い。丸瓦凹面は平瓦同様に糸切り痕・布目痕・ナデが見られ、側板圧痕を確認できたものはわずかであった。

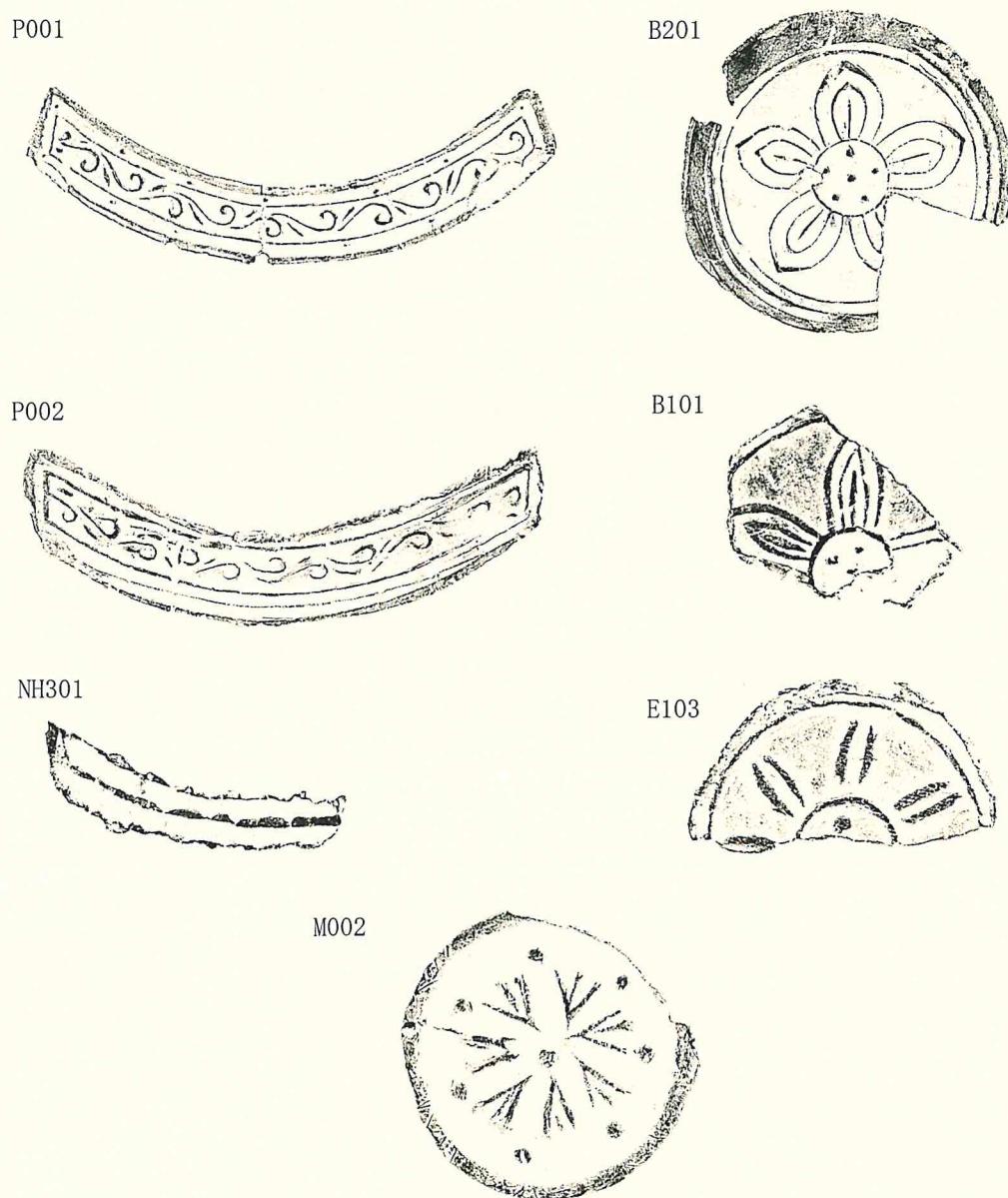
胎土は平瓦・丸瓦とも夾雜物が多いものと少ないもの、割れ口の目が詰んだ綺麗なものや粒状に見える粗いものなど様々である。そして色調も須恵器に似た褐灰色のもの、土師器に似た橙色のほか黒褐色のものなど多岐に及んでいる。

このように瓦の胎土、焼成や調整方法の違いがそれぞれ多数あることから、尼寺に瓦を供給した古窯跡群が複数あつただけではなく、各古窯跡群内における生産窯も多数あったことが想像できる。

軒平瓦・軒丸瓦で瓦当面が完全な形で残っていたものは極めて少なかったため、僧寺跡の文様分類に準じて観察を行ったが完全には把握できていない。僧寺跡では軒平瓦87種、軒丸瓦78種と他の国分寺で類を見ないほど多くの範種が確認されている。その中でも主なものの出土数（使用されていた枚数を反映していると考えられる）は次のようであった。軒平瓦では笠懸古窯跡群産のP001

が366片、P002が178片、吉井・藤岡古窯跡群産と思われるNH301が323片出土している。また、軒丸瓦でも笠懸古窯跡群産のB201が347片、B101が111片、吉井・藤岡古窯跡群産E103が235片出土しており、僧寺創建期と一致する軒先瓦が多いことがわかる(第91図)。一方、尼寺跡の調査においては軒平P001が39片(昭和期の調査を含めると45片、以下同じ。)、P002が19片(23片)出土し、他の軒平瓦より多く出土しているが、三重弧文・三重廓文は合計で10片に満たないことから重弧文・重廓文は少数であったと考えられる。軒丸瓦はB201が22片(22片)で他の文様のものより多い。さらに秋間古窯跡群産で僧寺の修造期に用いられた鳥趾状蓮華文七葉軒丸瓦M002(註39)が36片(37片)出土しており、僧寺跡では19片のみであったことに比してM002は尼寺に多量に供給された可能性を示唆している。また、僧寺跡では確認されていない文様の軒平瓦、軒丸瓦がそれぞれ数点出土したことも注意を引く。

※僧寺跡の範種別出土数は註5・註6から算出した。



第91図 尼寺創建と補修に係る軒平瓦・軒丸瓦(縮尺任意)

## 5) 瓦の分類及び観察

①瓦の名称 瓦の名称は研究者により科学的名称と歴史的名称とが用いられているが、本書では科学的名称を用いている。従って本書での平瓦は女瓦、丸瓦は男瓦、軒丸瓦は鎧瓦、軒平瓦は宇瓦のことである。また、丸瓦の狭端部に丸瓦より一回り小さな玉縁が付いているものを有段式(玉縁式)、無いものを無段式(行基式)と区分したが、有段式ではないものや狭端部がなくはつきりしないものは無段式を含め単に丸瓦とした。

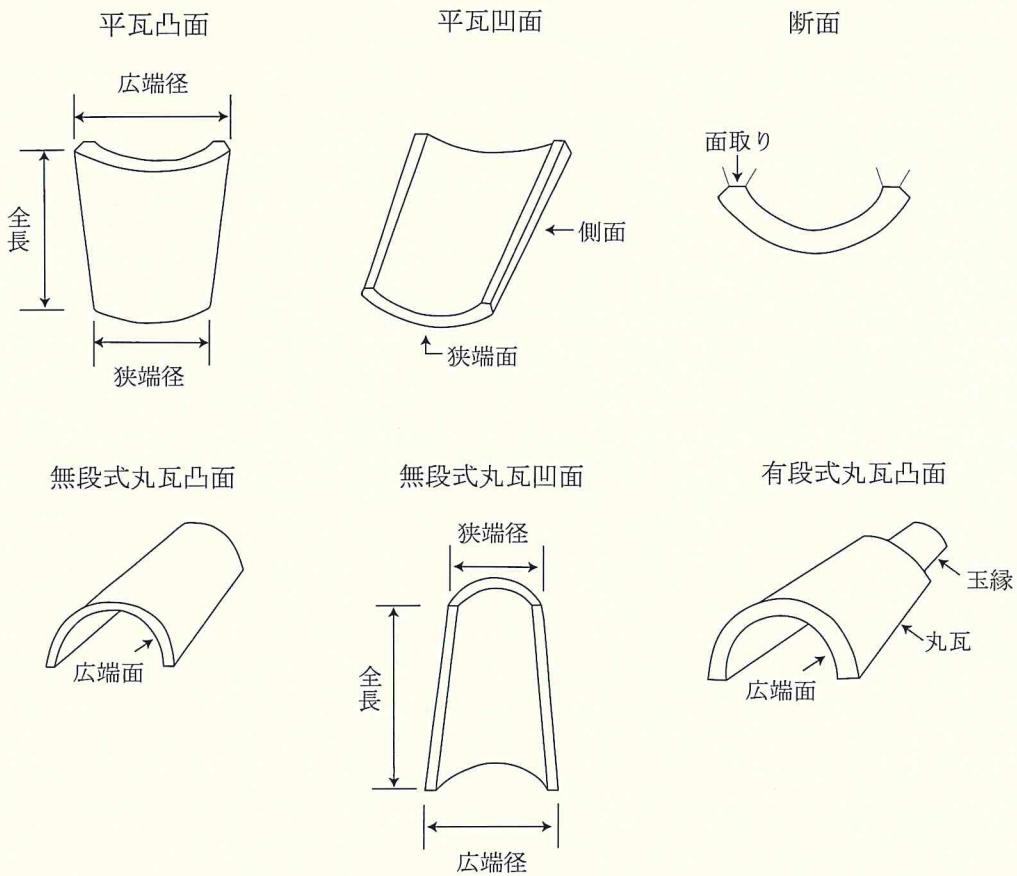
②瓦の部位と名称 各部位の名称は第92・93図のとおりとした。その際、平瓦は広端を上方、狭端を下方とし、丸瓦はその反対である。

③瓦の成形 瓦の成形にあたっては、製作時に桶状または丸太状の芯型を用いるか否か、粘土を板状にするか紐状にするかによりいくつかの方法に分類できるが、その概要は次のとおりである(第94図)。

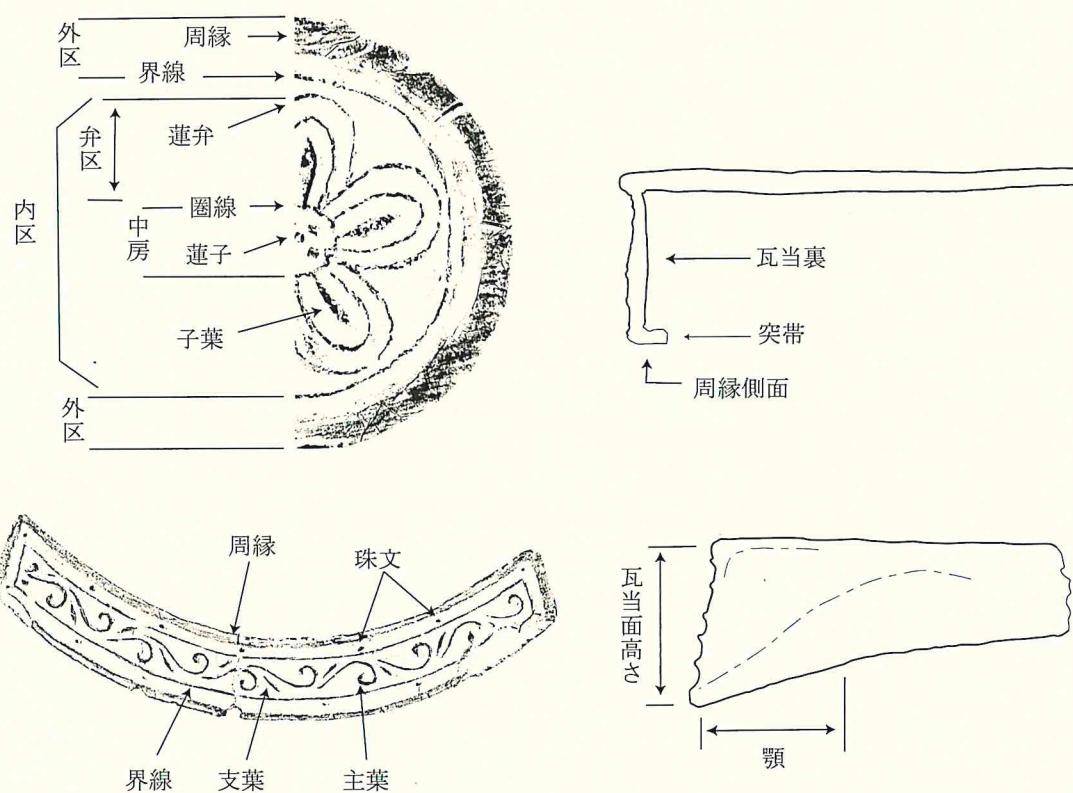
ア. 「桶巻作り技法」 模骨桶(上部の径が下部より小さい截頭円錐形をした桶状の器具)の周囲に布袋をかけ、その上に粘土塊から糸状のものを用いて1枚ずつ切り出した粘土板、あるいは細長い粘土紐を幾段も巻き付けて円筒状となったものを2ないし4枚に分割する方法(註40)。ただし、丸瓦については桶ではなく木型を芯にしたと思われ、本遺跡出土瓦には側板圧痕が残る丸瓦はわずかである。

イ. 「一枚作り技法」 瓦1枚分の台型に布を敷いてその上に粘土板を押し当てて作る方法。平瓦側面に凹面から連続する布目痕がある場合には一枚作り技法によることがわかる。

ウ. 「泥状盤築技法」 内型となる模骨桶や木型を使わずに、粘土紐を積み重ねるか巻き上げるかして作る方法。凹面には布目痕や側板圧痕がなく粘土接合痕や凹凸が残るものがある(註41)。



第92図 瓦の部位名称



第93図 軒平瓦・軒丸瓦の部位名称



第94図 瓦の製作技法

④瓦の凸面 成形時に粘土中の空気を抜くため、模骨桶や木型に巻き付けた粘土を板などの道具を使用して外側から叩き締めている。その時の道具痕が凸面に残っているものがあり、道具の種類によって以下のとおりに分けられる。

ア. 「格子目」 板に格子状の刻線を彫りそれで叩き締めた痕跡。格子目の形状から正方形・長方形・平行四辺形・ひし形・不定形に分けられる。

イ. 「平行条目」 板に平行の溝を彫りそれで叩き締めた痕跡。この平行条目は従来「平行叩き」と表現されているが、叩きの向きとしての「平行」と使われた道具に平行な溝が彫られたこととの混乱を避けるため平行条目とした(註42)。

ウ. 「縄目」 板に無節の縄を巻き付けそれで叩き締めるか押圧した痕跡。格子目と比べるとナデ等により縄目が消されていることが多い。

エ. 「素文」 格子目や縄目が無く、特段の加工のない板または掌で叩き締めた痕跡。ただし、小破片の場合には素文に見えることもあるため記載していないものもある。特段の加工がない板の場合、板の木理が極めて微かな隆線として細い筋状に残っている場合があるが、溝と隆線の形状が弱々しいため平行条目とは明らかに異なる(註43)。

⑤瓦の凹面 桶巻作り技法・一枚作り技法いずれの場合も、成形道具と粘土板などの間に布袋や布切れを挟んで作り、その布の目の痕が凹面に残っている。ただし、凹面調整時に布目をナデにより消しているものが多数ある。

⑥瓦分割時の側面痕跡 円筒状に作られた瓦は、乾燥時に2分割あるいは4分割される。通常はその「分割截面」(註44)が瓦の側面になる。分割の際に円筒状の瓦に分割補助のため刃ものを入れている('分割截線')。通常は破面に残るバリなどの凹凸も調整され綺麗な側面となるが、処理が不十分であったり未処理のときの割れ口('分割破面')の状態がわかるものがある。

⑦有段式丸瓦 有段式丸瓦は上部に肩があり、玉縁側の径が小さくなる瓶形をした木型で丸瓦部と玉縁部を一体で作り、肩の部分に外から粘土を貼って段を作つて成形している。

丸瓦部から玉縁部へのくびれにあたる内側(凹面)に段の形状に違いが認められ、これは芯となる木型の違いによるものである(第94図)。

⑧文字瓦 瓦の凹面または凸面に文字または記号と思われるものが残っている場合があり、総称して文字瓦とした。ヘラ先等が偶然に瓦にあたった傷と思われるものは除いた。

文字瓦の分類は、文字を瓦に記した方法により大きく2分類した。文字・記号を手で直接瓦に記した手書きによるものと、叩き板などに文字を彫ってその板などを瓦に押し当てて文字を映したものがあり、方法と道具の違いによって5分類した。

ア. 「ヘラ書き型」 ヘラ状工具の先端で彫りつけたもので、細い釘状の先端によるいわゆる「針書き」も含めた。「一」・「二」・「織継」など。

イ. 「墨書き型」 今回の出土は1例だが、筆と墨を用いて書いたもの。

ウ. 「指頭書き型」 指頭または頂部が丸みを持ったヘラ状工具によるもの。今回確実な資料はなかった。

エ. 「刻印型」 格子ではなく文字のみあるいは文字を枠で囲んだ印鑑状の道具によるもの。

「佐」、囲いの中に「當」など。「當」は刻字が鮮明であることから金属印であるとみられている。

オ. 「格子一体型」 文字が格子の一部に組み込まれて彫られているもの、格子のすぐ脇に一体となっているもの。「雀」・「渕」など。

ア・イ・ウは手で直接瓦に書いた直接法によるもので、エ・オは文字を道具に彫ってそれを瓦に映した間接法によるものである。

⑨胎土 胎土の観察にあたっては、夾雜物の粒径と量のほか割れ口面の表情に着目した。

- 註1 推定上野国府跡から北に約1km、尼寺跡から牛池川を挟んで北東約0.8kmの前橋市総社町に位置し、7世紀後半の創建とされる。塔心礎の根巻石、石製鷲尾、礎石などが残る。国指定特別史跡「山上碑」(高崎市山名町)の碑文にある「放光寺」に比定されている。前橋市教育委員会により1974年から継続して発掘調査が実施されており一連の報告書が公刊されている。
- 註2 a 上野国分寺跡出土の軒先瓦と文字瓦に関して複数の報告・研究が主に『上毛及上毛人』に掲載されている。詳細は註5を参照。  
b 僧寺跡が所在する高崎市東国分町に居住していた住谷 修は『上野瓦集 西毛編』(私家版 1982)として軒先瓦を中心に拓影をまとめており、この拓本集が果たした役割は極めて大きいものがある。また住谷修・佳禹親子が長年にわたり蒐集した膨大な量の瓦類が平成25年(2013)に高崎市に寄贈された。この収集、寄贈された資料が『住谷コレクション』と呼ばれている。『上野国分寺 瓦にこめられた祈り』かみつけの里博物館 2013
- 註3 a 『上野国分尼寺跡発掘調査報告書』群馬県教育委員会 1970  
b 『上野国分尼寺跡発掘調査報告書』群馬県教育委員会 1971
- 註4 『上野国分尼寺跡 上野国分二寺中間地域』群馬県教育委員会 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993
- 註5 『史跡上野国分寺跡 発掘調査報告書』群馬県教育委員会 1989
- 註6 『史跡上野国分寺跡 第2期発掘調査報告書』群馬県教育委員会 2018
- 註7 第8回企画展『群馬の古代寺院と古瓦』群馬県立歴史博物館 1981
- 註8 a 須田 茂「群馬県における古代軒瓦の変遷」『入谷遺跡』新田町教育委員会 1981  
b 大江正行・川原嘉久治「天代瓦窯跡存在の意義をめぐって」『天代瓦窯遺跡』中之条町教育委員会 1982  
c 大江正行「瓦類」『有馬廃寺跡』渋川市教育委員会 1988  
d 木津博明・綿貫邦男「新田郡笠懸町山際窯跡採集遺物」『研究紀要 8』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991 なお、本註及び註26 b では「鹿の川窯跡」としているが、本報告書では註25 b にならい「鹿ノ川窯跡」とする。  
e 出浦 崇「上野国分寺の瓦窯」『古代東国の国分寺瓦窯』高志書院 2019
- 註9 『日本書紀』卷第二十一
- 註10 a 註1に同じ  
b 以下の寺院跡、瓦窯跡については大江正行『第3回 関東古瓦研究会 研究資料No. 3』関東古瓦研究会群馬部会 1982 が網羅的であり参考となる。
- 註11 1982年から継続調査が行われている一連の『上植木廃寺』の調査報告書 伊勢崎市 伊勢崎市教育委員会
- 註12 須田 茂「上野国新田郡における古代寺院について」『研究紀要 7』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990
- 註13 『金井廃寺遺跡』吾妻町教育委員会 1979
- 註14 『類聚三代格』、『続日本紀』なお、両者で勅の発布の日付が異なっている。
- 註15 川原嘉久治「西上野における古瓦散布地の様相」『研究紀要 10』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業 1992
- 註16 『田端遺跡』群馬県教育委員会 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 東日本旅客鉄道株式会社 1988
- 註17 『新保遺跡III 蝦沢遺跡』群馬県教育委員会 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988
- 註18 a 「本郷奥原遺跡」『榛名町誌』資料編 I 原始古代 榛名町誌刊行委員会 2010  
b 近年、道路建設に伴い奥原廃寺の中枢部分の発掘調査が実施されている。  
c 註15に同じ
- 註19 『多胡郡正倉跡』高崎市教育委員会 2019
- 註20 花弁の形態が特徴的で類例がないことからその特徴を捉え「( )形の蓮弁」等と表現されてきたが、同一意匠のものが複数あること、説明の容易さを考慮して抽象化されているが「蟹爪状蓮華文」とした。
- 註21 『牛田廃寺跡』藤岡市教育委員会 群馬県西部農業事務所 2020
- 註22 『綿貫遺跡』高崎市教育委員会 1985
- 註23 『黒熊中西遺跡』(1)群馬県教育委員会 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 日本道路公団 1992

- 註24 a 註15に同じ  
 b 川原嘉久治「榛名山麓の古代寺院II—唐松庵寺—」『研究紀要 11』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993
- 註25 a 相京建史「群馬県の古窯跡群の概観」註8のbに同じ  
 b 大江正行「窯業」『群馬県史』通史編2 原始古代2 群馬県 1991  
 以下の各古窯跡について特に断らないが本註を参照のこと
- 註26 a 岩澤正作「笠懸村古代瓦の窯跡發見始末」『上毛及び上毛人64』 1921  
 b 井上唯雄・若月省吾「笠懸村の原始・古代」『笠懸村誌別巻』笠懸村 1983  
 c 註8のdに同じ
- 註27 僧寺の軒先瓦について註5において詳細な文様分類を高井佳弘が行っており、尼寺跡出土の瓦との比較を容易に行うためその分類番号を以下でも用いる。
- 註28 『台之原廃寺跡 II』藪塚本町教育委員会 1986
- 註29 註12に同じ
- 註30 『史跡十三宝塚遺跡』群馬県教育委員会 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992
- 註31 a 註8のcに同じ  
 b 須田 茂「上野国分寺の軒瓦」『群馬文化 177』 1979  
 c 『上西原遺跡』群馬県教育委員会 1999
- 註32 この窯跡群は吉井古窯跡群と藤岡古窯跡群の二つを連結しての呼称である。高崎市吉井町から藤岡市金井地区までの同一丘陵北面と南面に広がる窯跡群で丘陵南東部では接していること、胎土の類似性から本稿では吉井・藤岡古窯跡群とする。
- 註33 坂詰秀一『上野・金山瓦窯跡』ニュー・サイエンス社 1966
- 註34 a 『安中市史』第四巻 原始古代中世資料編 安中市 2001  
 b 註15に同じ
- 註35 註8のb
- 註36 『上植木廃寺 上植木廃寺瓦窯』伊勢崎市教育委員会 2002
- 註37 註25のbに同じ
- 註38 註8のbに同じ
- 註39 鳥の足跡のような花弁の形態が特徴的で類例がないことからその特徴を捉え「鳥の足状」等と表現されてきたが、同範のものが多数あること、説明の容易さを考慮して簡略化・抽象化されているが「鳥趾状蓮華文」とした。なお、尼寺南大門推定地すぐ南側の元総社蒼海遺跡群(20)では同範の軒丸瓦について「鳥足状蓮弁文」としている。『元総社蒼海遺跡群(20)』前橋市埋蔵文化財調査団 2009  
 今回の瓦の整理にあたり尼寺跡を始めとして群馬県内の多くの遺跡で古代瓦の調査研究を重ねてきた大江正行、木津博明両氏に幾度となく教示を受けた。前掲註20の「蟹爪状蓮華文」と「鳥趾状蓮華文」の名称は、その際にこれら軒丸瓦を「蟹爪文」、「鳥趾文」と3人の間で呼び始めたものを元にしている。
- 註40 佐原 真「平瓦桶巻作り」『考古学雑誌』第58巻第2号 日本考古学会 1972
- 註41 a 註40に同じ  
 b 大脇 潔「丸瓦の製作技術」『研究論集IX』奈良国立文化財研究所学報第49冊 奈良国立文化財研究所 1991
- 註42 a 註40の「刻線が平行」のもの。この特徴がわかる瓦は觀音山丘陵古窯跡群のでせえじ支群、田端廃寺跡、吉井・藤岡古窯跡群産である多胡郡正倉跡や黒熊中西遺跡などから出土している。  
 b 栗原和彦の「平行線紋」と同じ。『山王廃寺 平成22年度調査報告別冊』2012 前橋市教育委員会
- 註43 大江正行・木津博明 第4章第2節「瓦」『国分境遺跡』群馬県教育委員会 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990
- 註44 a 註40に同じ  
 b 滝本正志「平瓦桶巻作りにおける一考察 一粘土円筒分割のための指標の種類について一」『考古学雑誌』第69巻第2号 日本考古学会 1983  
 c 註41bに同じ

補 上記本文中の註は個々の遺跡等の報告、論文があるものに限っており、上記以外にも『群馬県史』資料編原始古代2に個々の寺院跡、窯跡の報告がなされており参照していただきたい。なお、群馬県内の古代寺院及び古窯跡群については『群馬県史』通史編2第1章第四節で松田 猛「寺院の建立とその背景」に論じられており群馬県内の全容を知ることができる。他に松田 猛・右島和夫「上毛野地域における古瓦の検討－正満コレクションの基礎調査－」(『群馬県立歴史博物館紀要第24号』2003)も群馬県内出土の古瓦を知るための重要な手掛かりとなる。

近年の発掘調査報告書の中に「観音山丘陵古窯跡群」のことを「乗附観音山古窯跡群」と表現したものがあるが、本報告では小地域の呼称をやめ複数の地域を含んだ名称としての「観音山丘陵古窯跡群」とし、『群馬県史』に倣っている。

## 瓦図凡例

縮尺・・軒平瓦・軒丸瓦は4分の1、平瓦・丸瓦は5分の1とし、各図版の上段に5分の1、下段に4分の1の目盛りで示した。ただし、必要に応じ変更した場合は図中にその旨を記した。

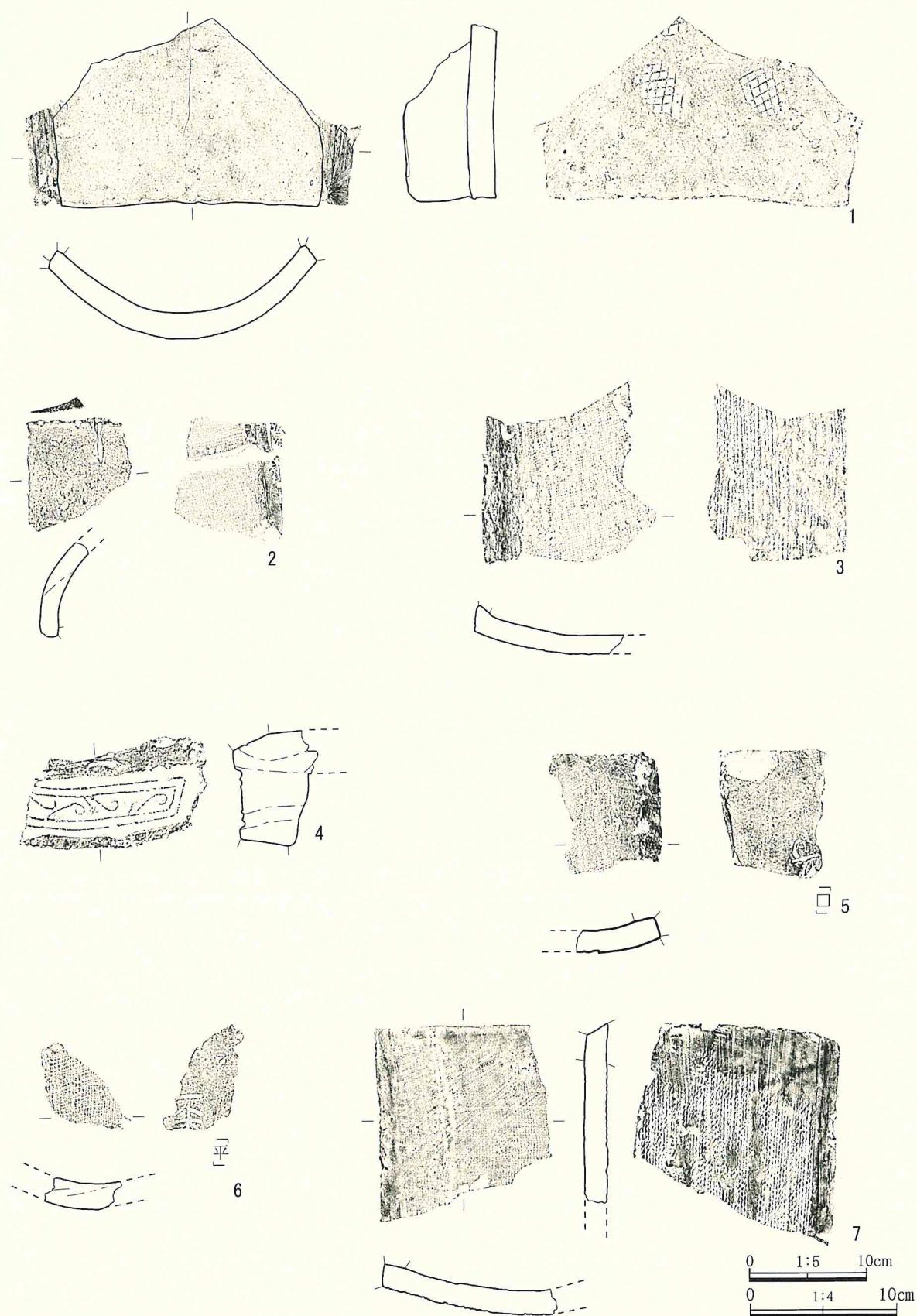
文字瓦・・左文字(鏡文字)は左に続けて「左」と記し、「刻印型」と「格子一体型」は僧寺の例によって分類記号を図中及び観察表中に記した。

実測図、拓本で使用した線種・記号等は次のとおり。

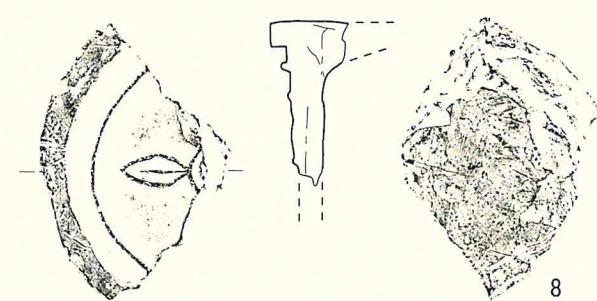
太実線・・外形及び外形復元 中太実線・・外形補助 細実線・・割れ口 破線・・推定線  
一点鎖線・・粘土巻合せ目・貼り合せ及び軒平瓦・軒丸瓦瓦当断面の粘土の流れ(土練り不足によるのかタタラにおける重ね合わせ目なのか判然としないが粘土板の単位がある場合も記入した)  
点線・・粘土紐単位 ケバ・・瓦側面、端面の面取り範囲 網掛け・・付着した他の瓦・窯体  
►・・粘土の合わせ目 →・・拓本採取位置  
このほか必要に応じて図、拓本脇に記入した。

6) 瓦類実測図及び拓本

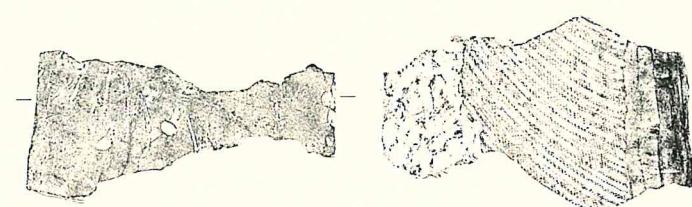
金堂



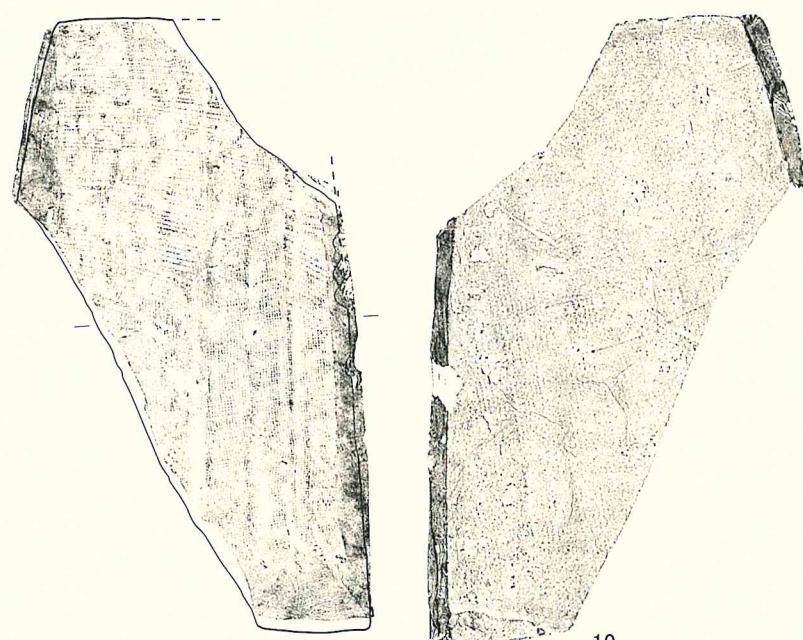
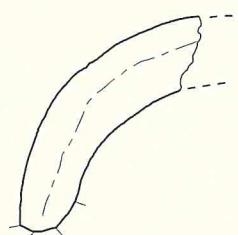
第95図 瓦1 金堂(1)



8



9

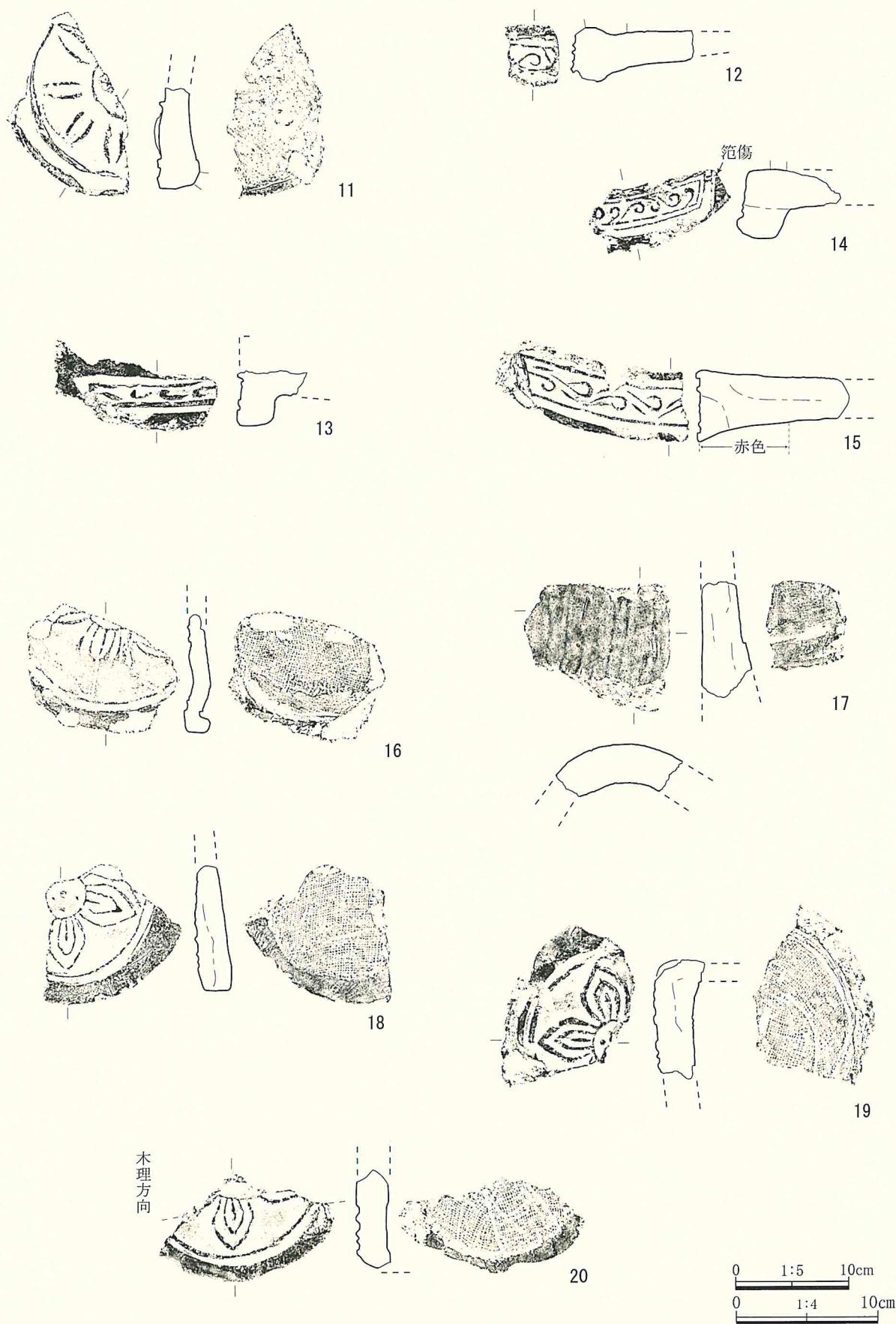


10

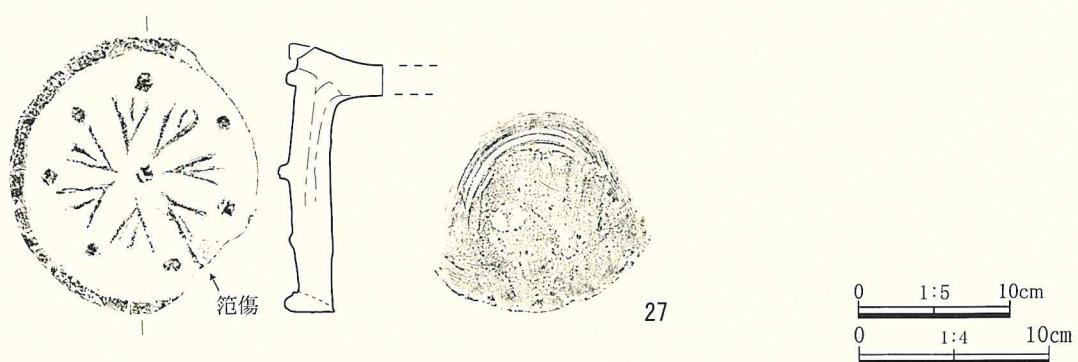
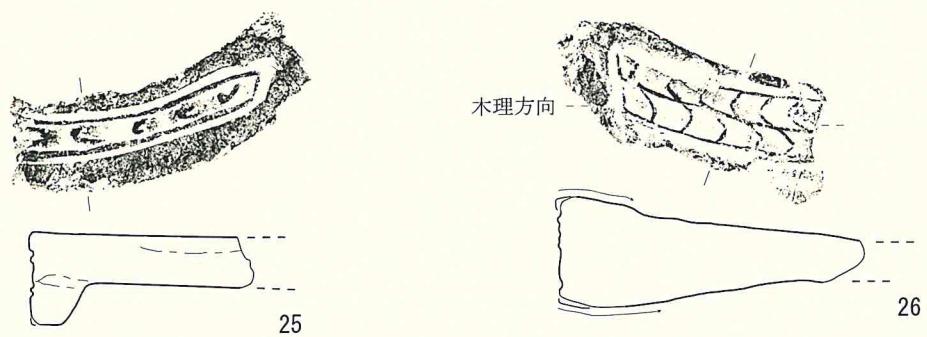
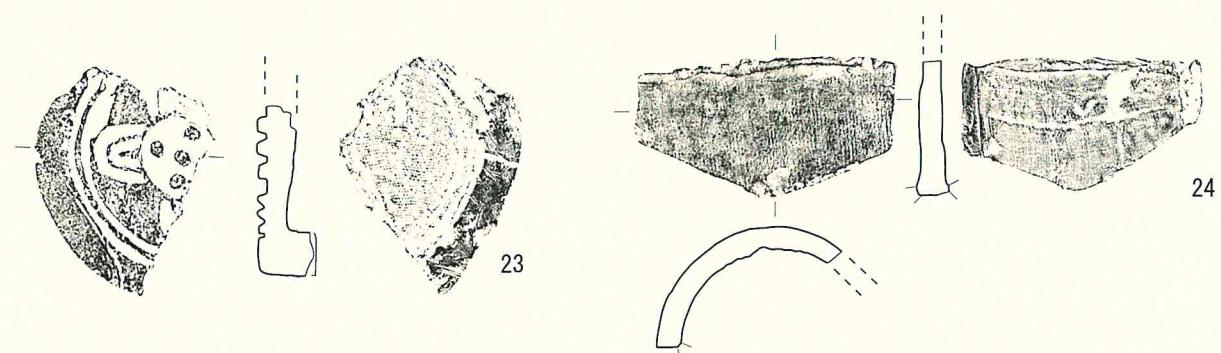
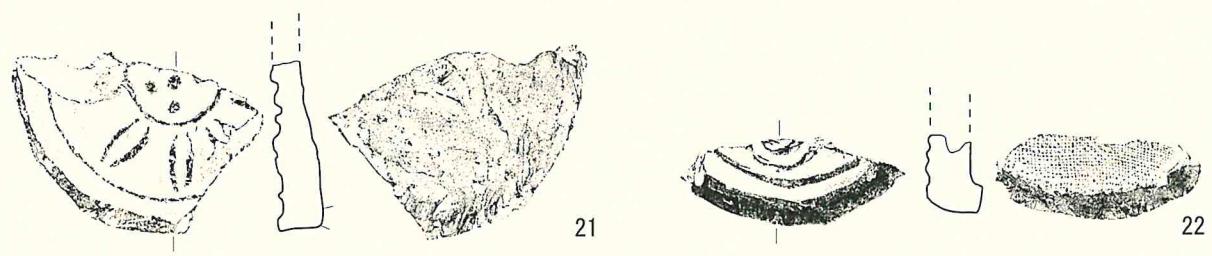


0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

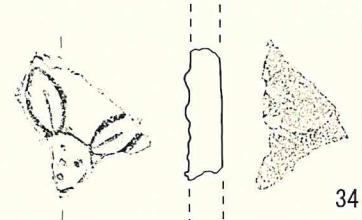
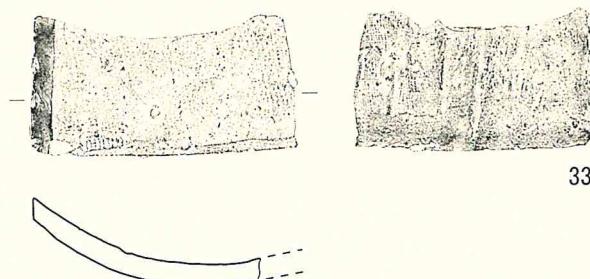
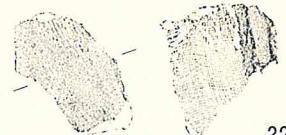
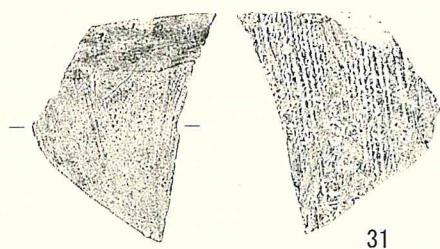
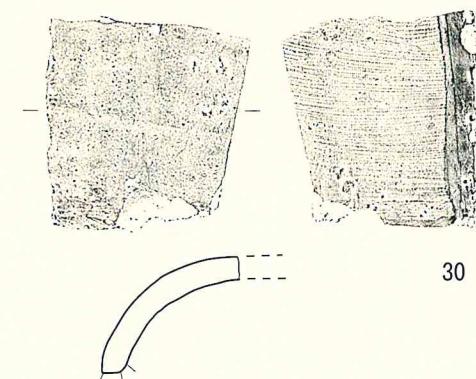
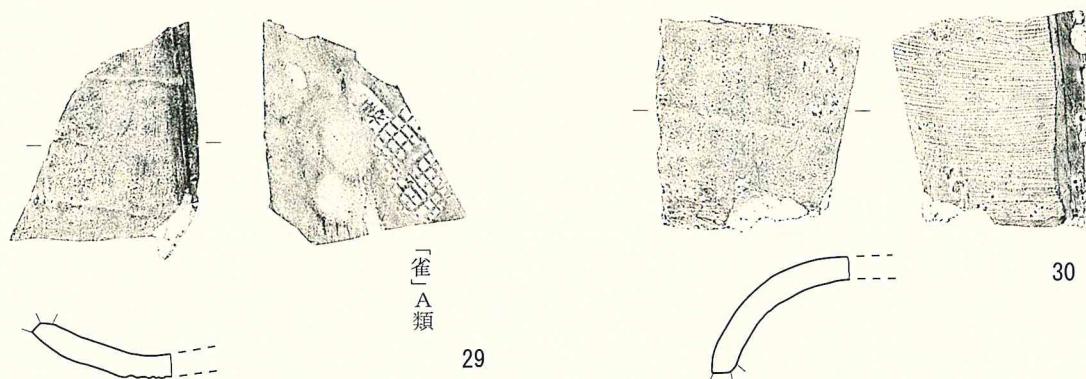
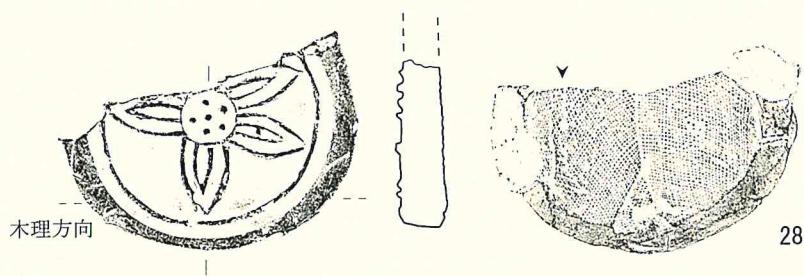
第96図 瓦2 金堂(2)



第97図 瓦3 金堂(3)

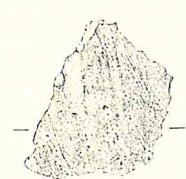


第98図 瓦4 金堂(4)

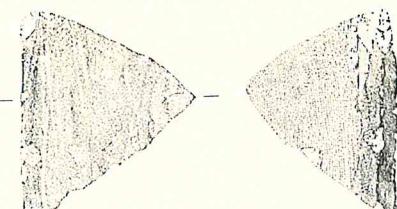


0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

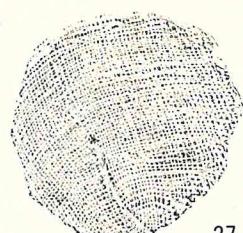
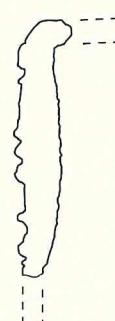
第99図 瓦5 金堂(5)



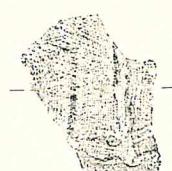
35



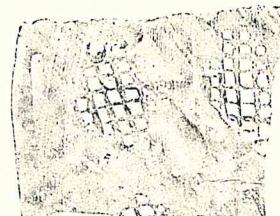
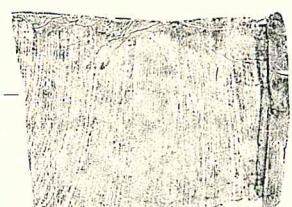
36



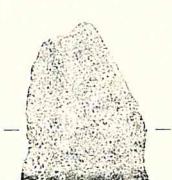
37



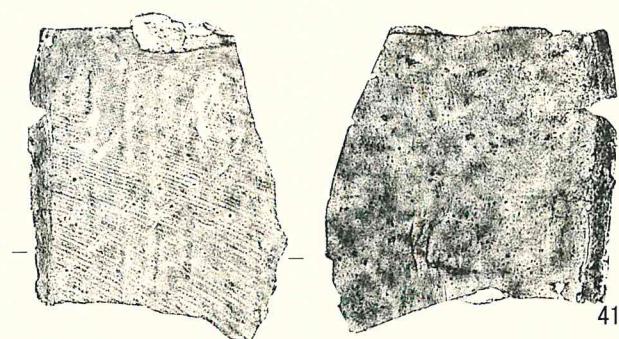
38



39



40

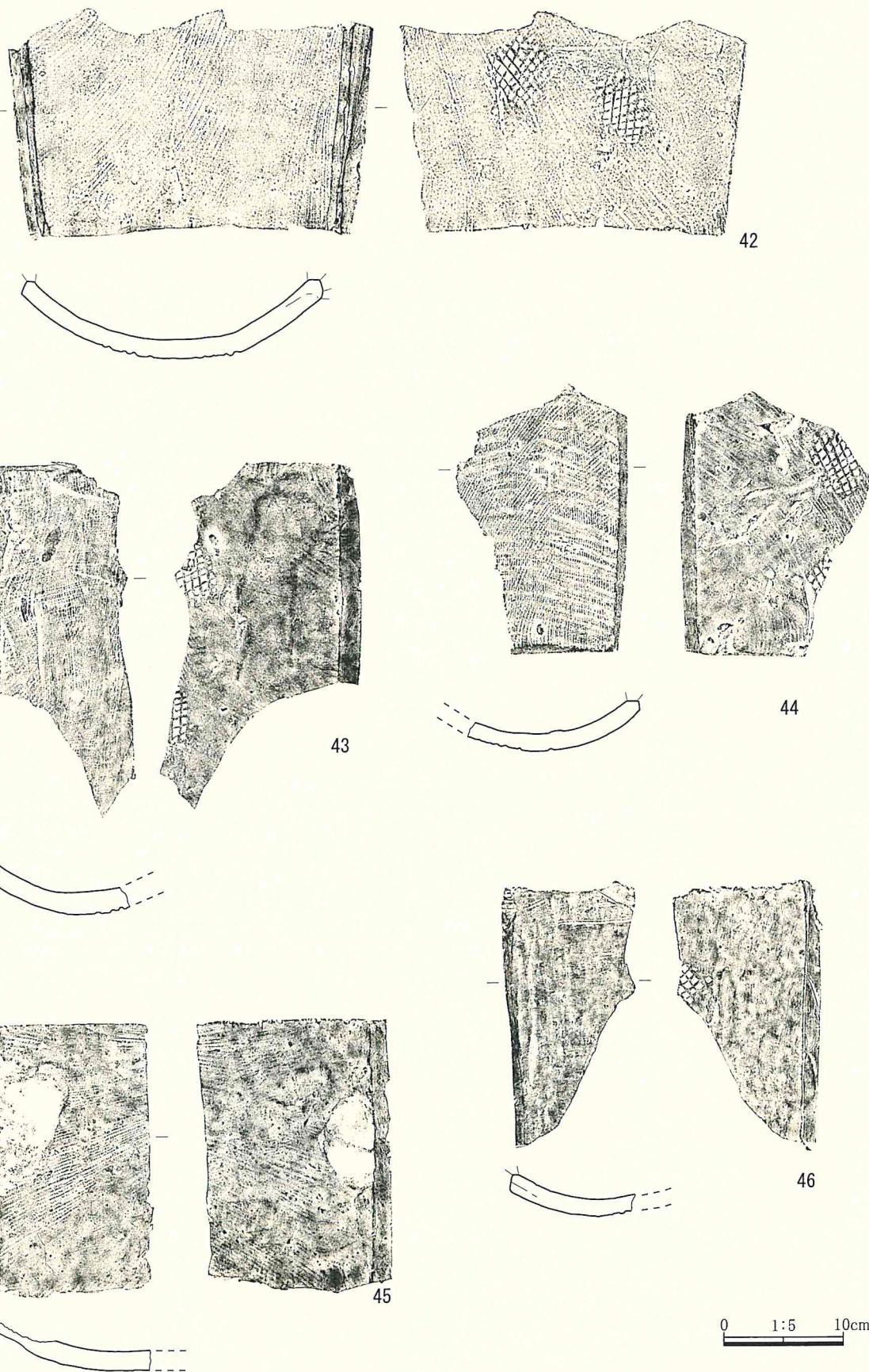


41

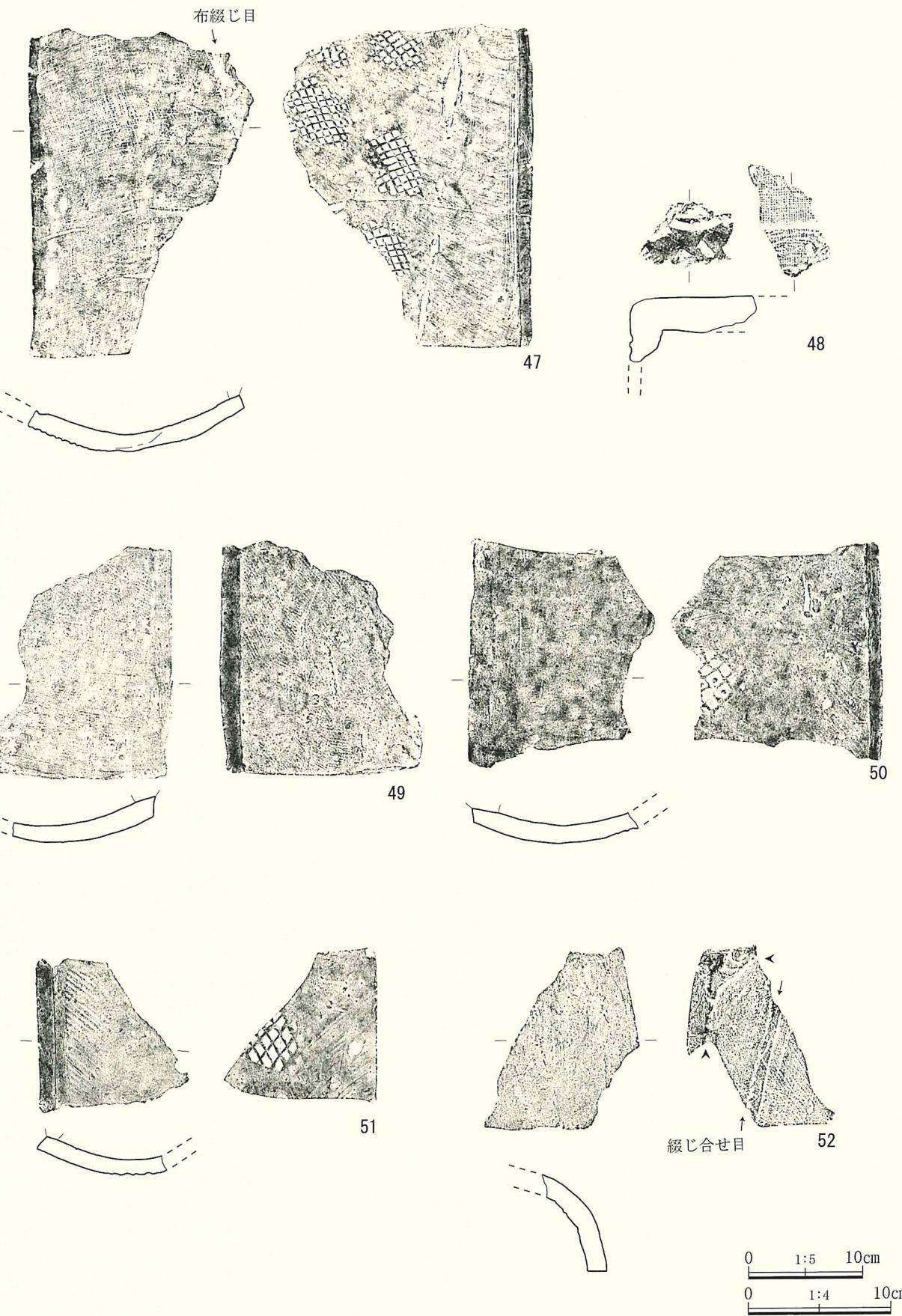


0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

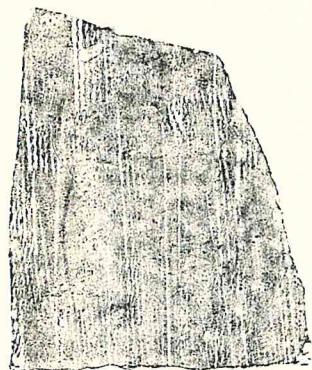
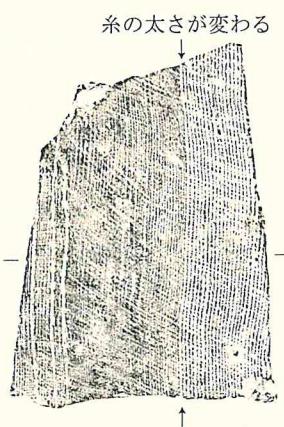
第100図 瓦6 金堂(6)



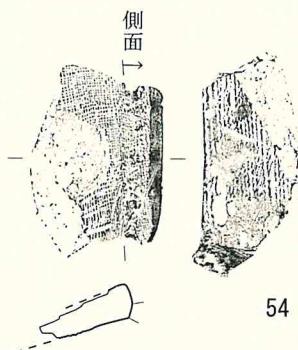
第101図 瓦7 金堂(7)



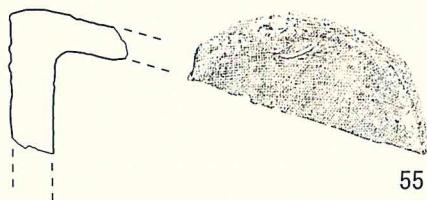
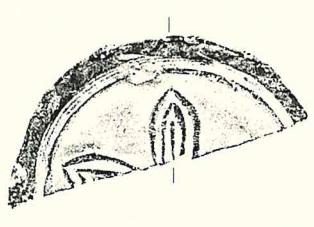
第102図 瓦8 金堂(8)



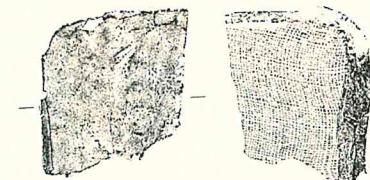
53



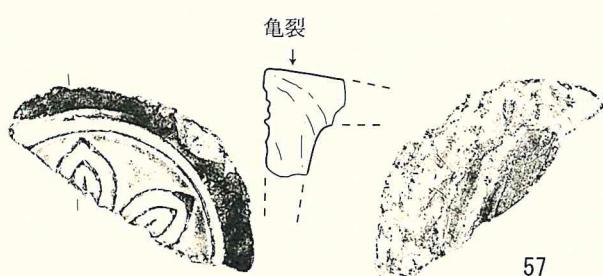
54



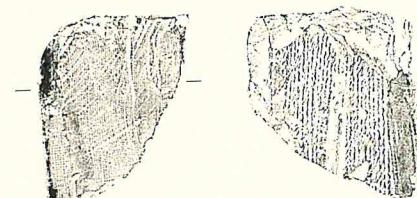
55



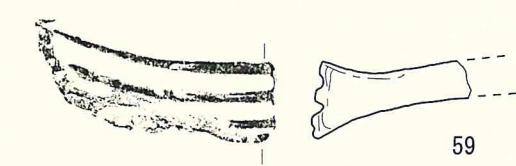
56



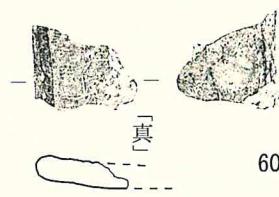
57



58



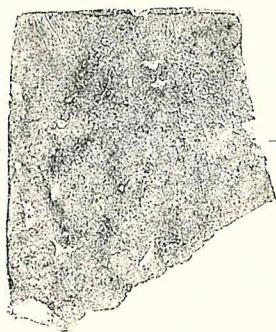
59



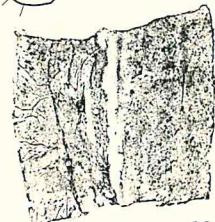
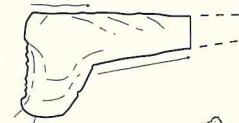
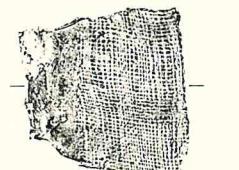
60

0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

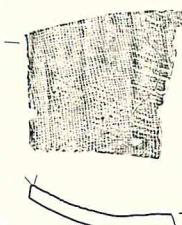
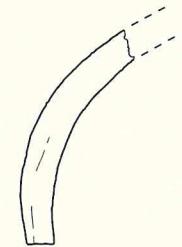
第103図 瓦9 金堂(9)



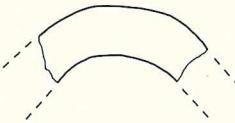
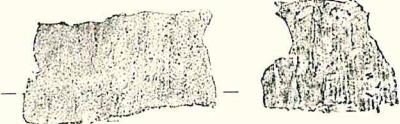
61



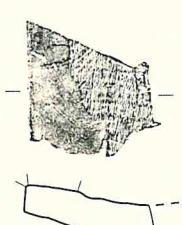
62



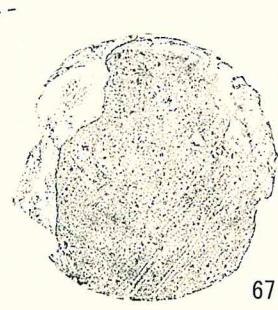
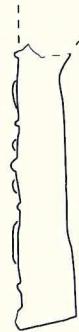
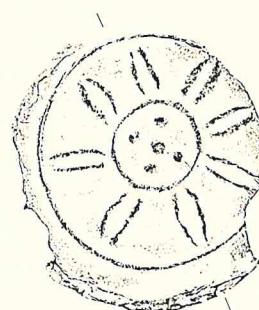
63



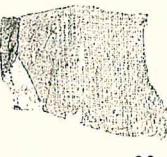
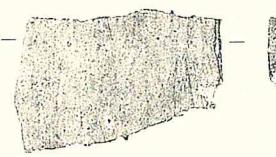
64



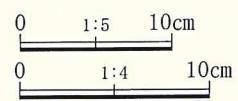
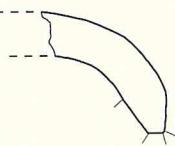
65



67



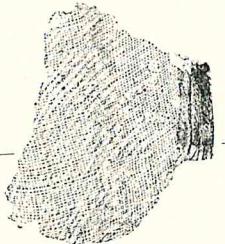
66



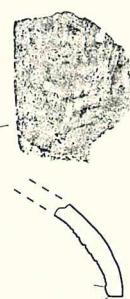
第104図 瓦10 金堂(10)



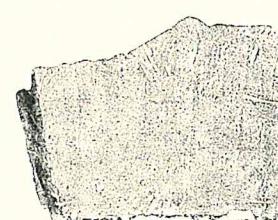
68



69

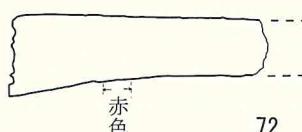
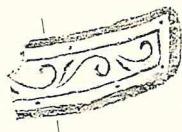


70



71

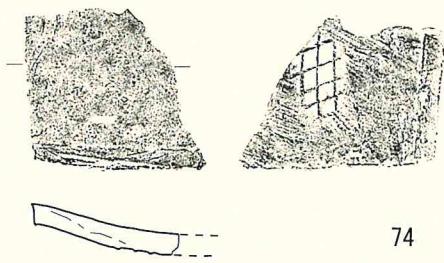
## 南面回廊



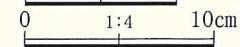
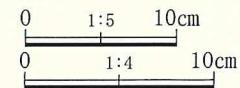
72



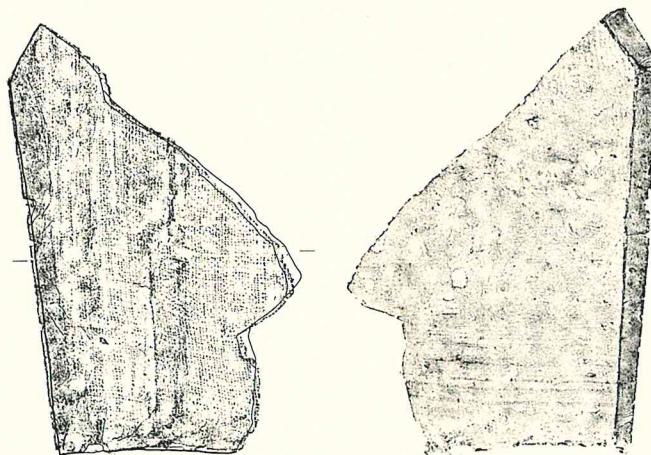
73



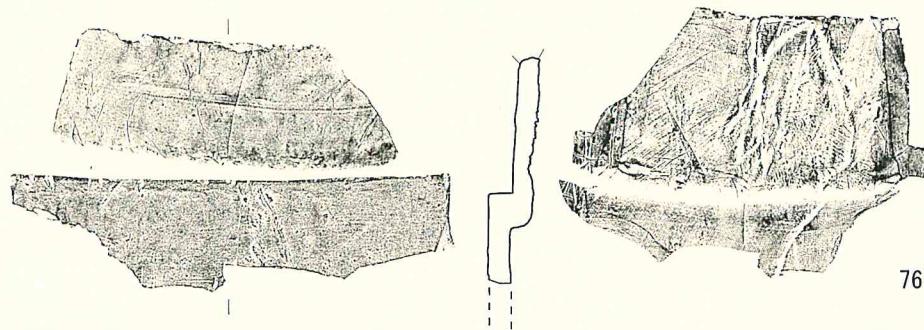
74



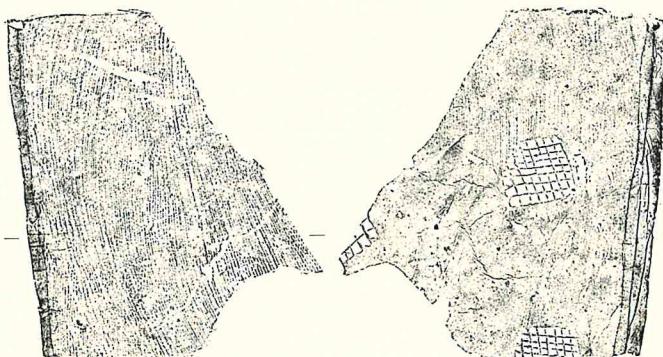
第105図 瓦11 金堂(11)・南面回廊(1)



75



76

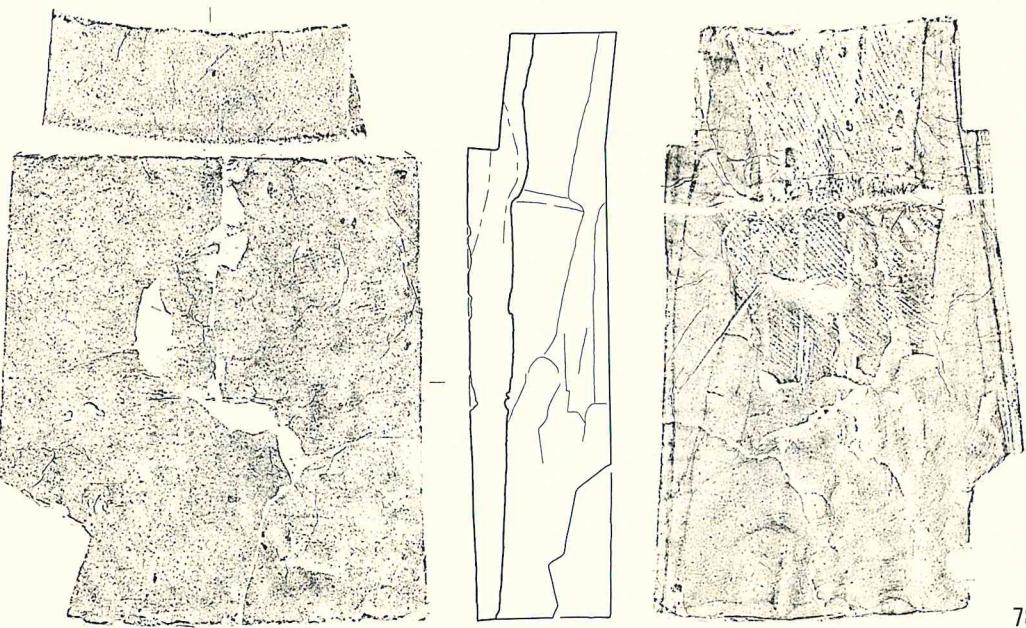


77

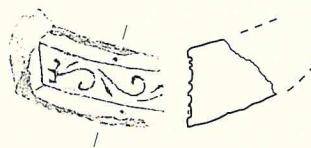
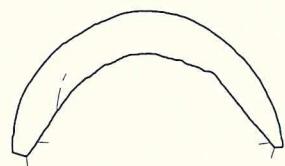


0 1:5 10cm

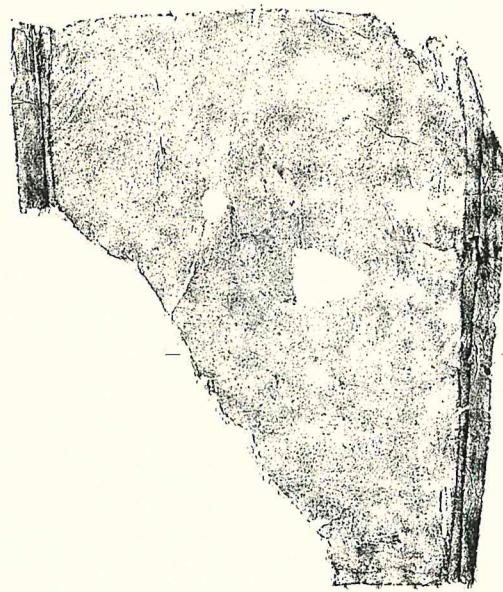
第106図 瓦12 南面回廊(2)



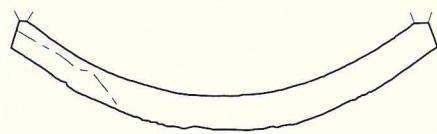
78



79

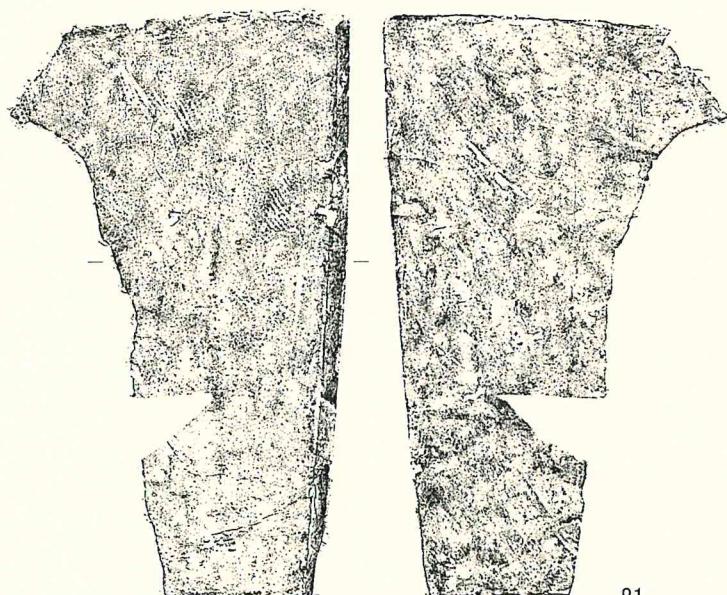


80

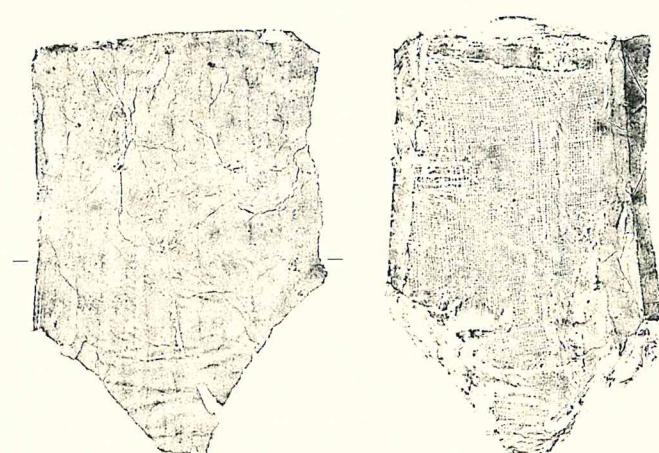


0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

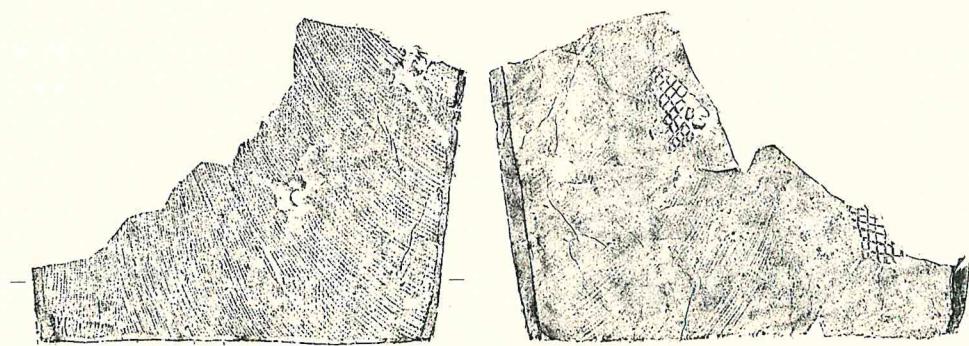
第107図 瓦13 南面回廊(3)



81



82

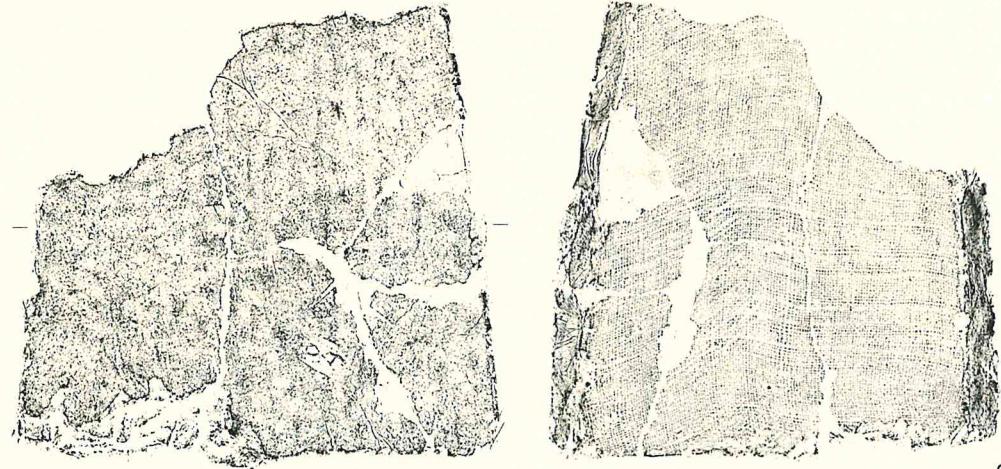
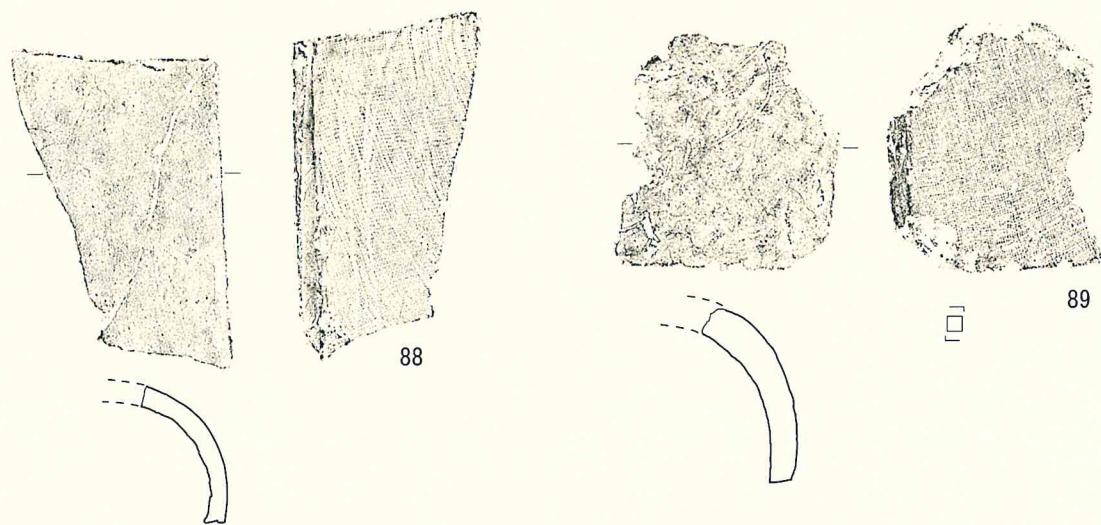
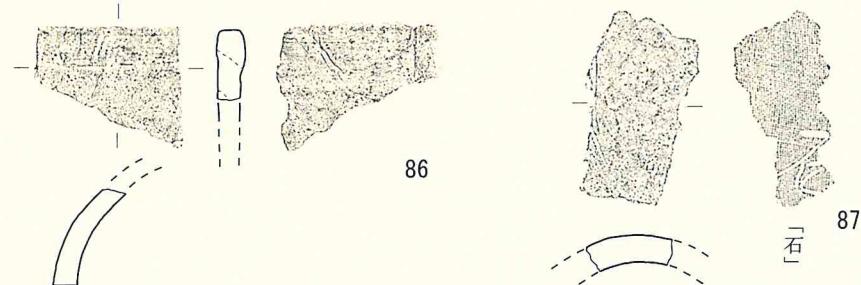
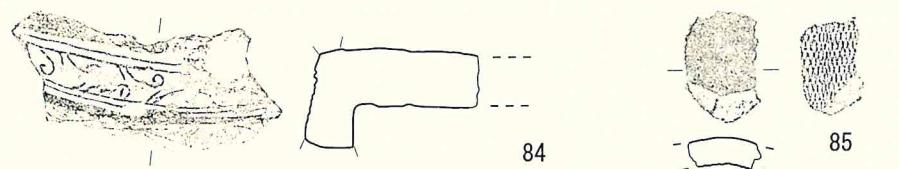


83



0 1:5 10cm

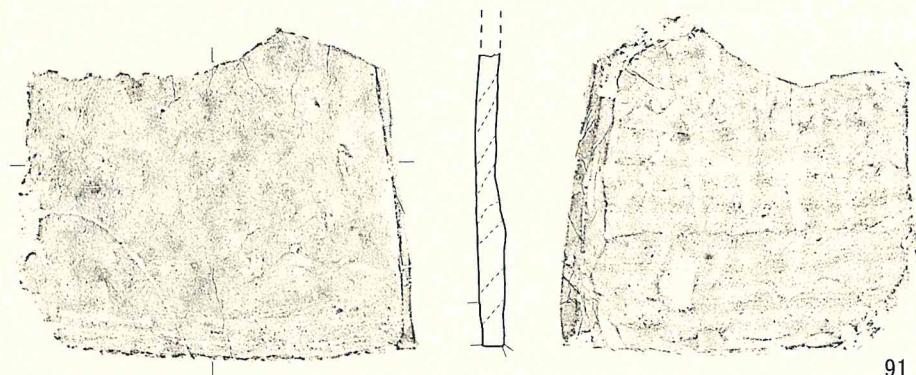
第108図 瓦14 南面回廊(4)



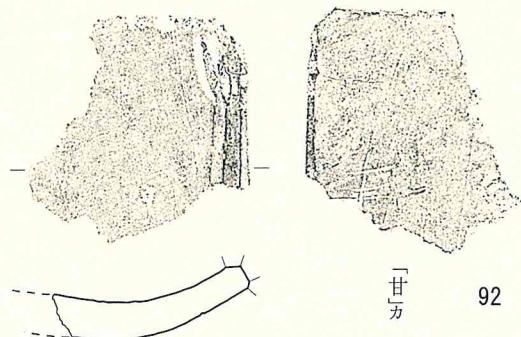
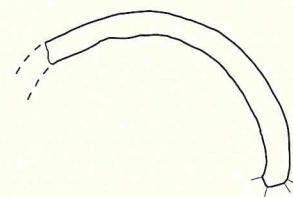
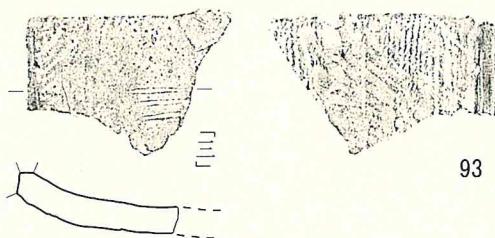
多  
人  
力

0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

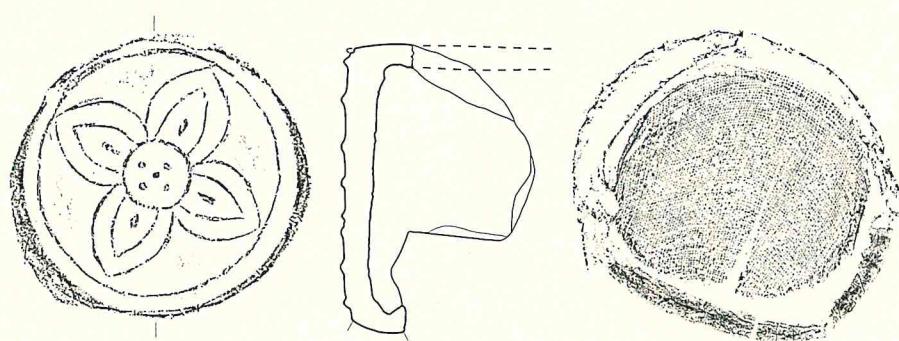
第109図 瓦15 南面回廊(5)



91

92  
甘方

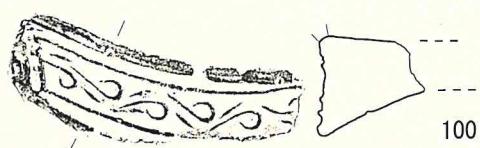
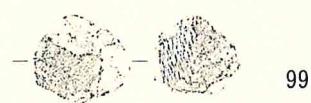
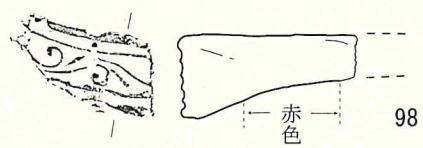
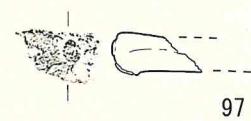
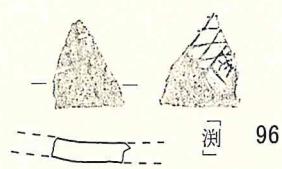
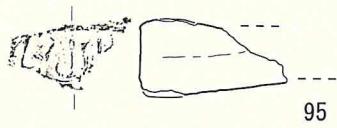
93



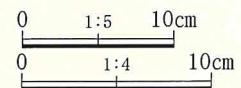
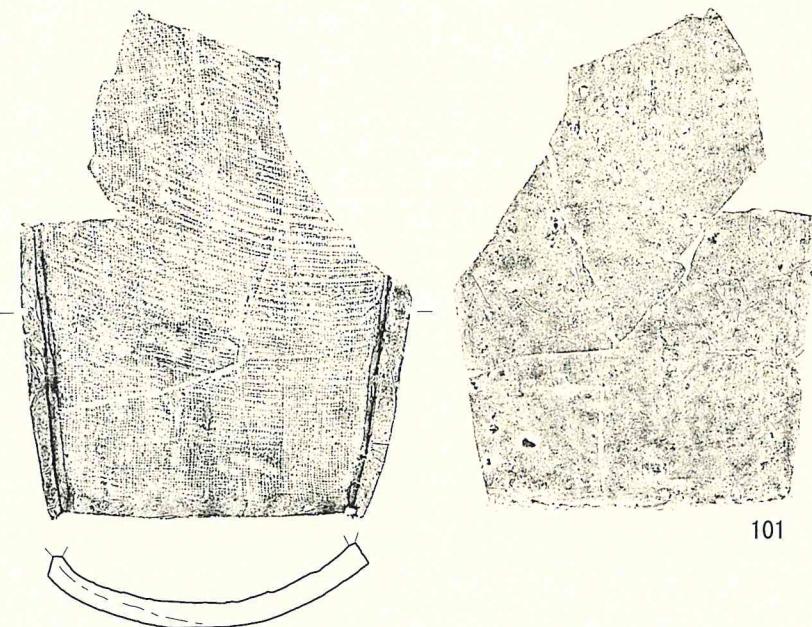
94

0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

第110図 瓦16 南面回廊(6)

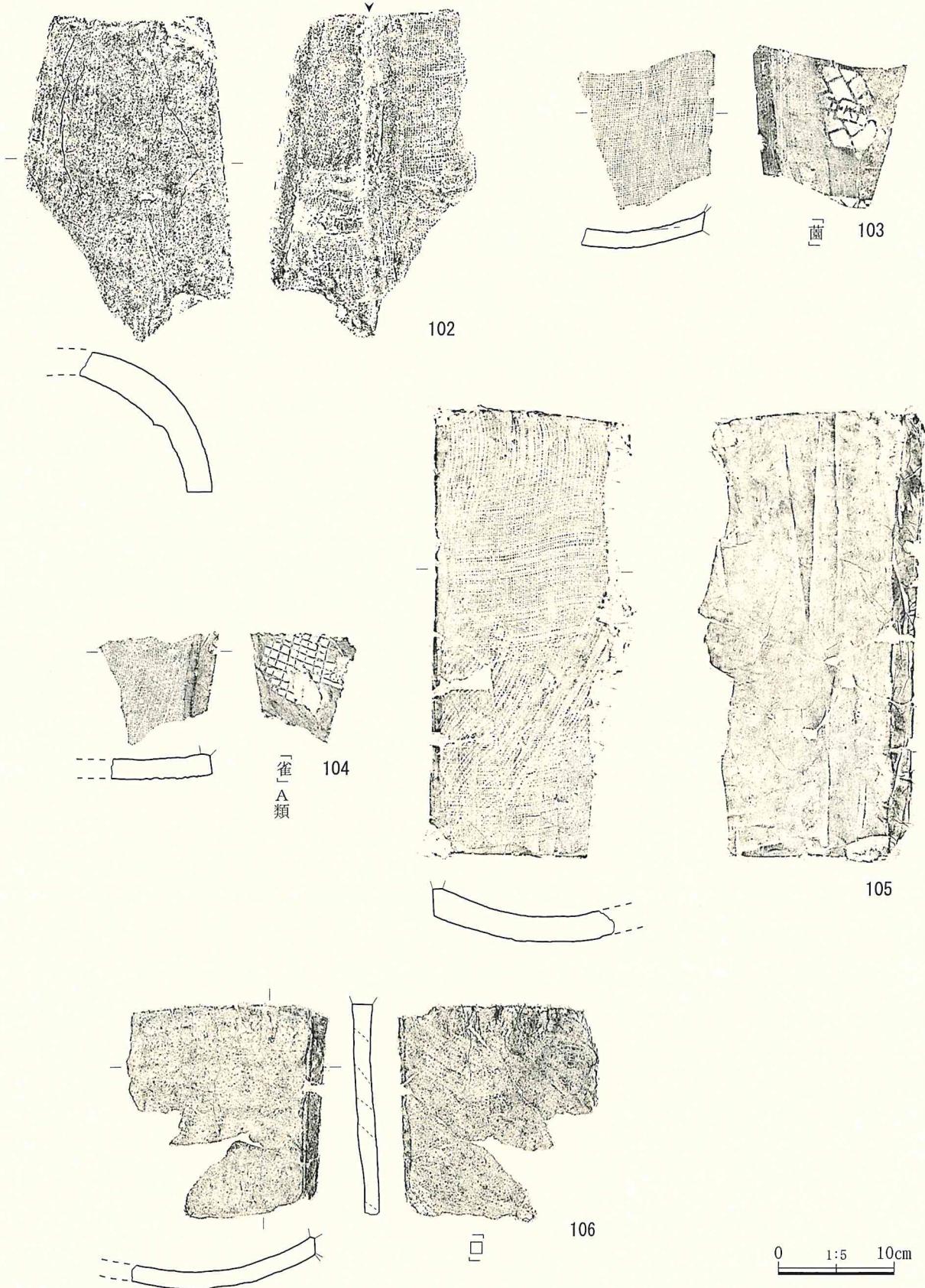


S=1:3

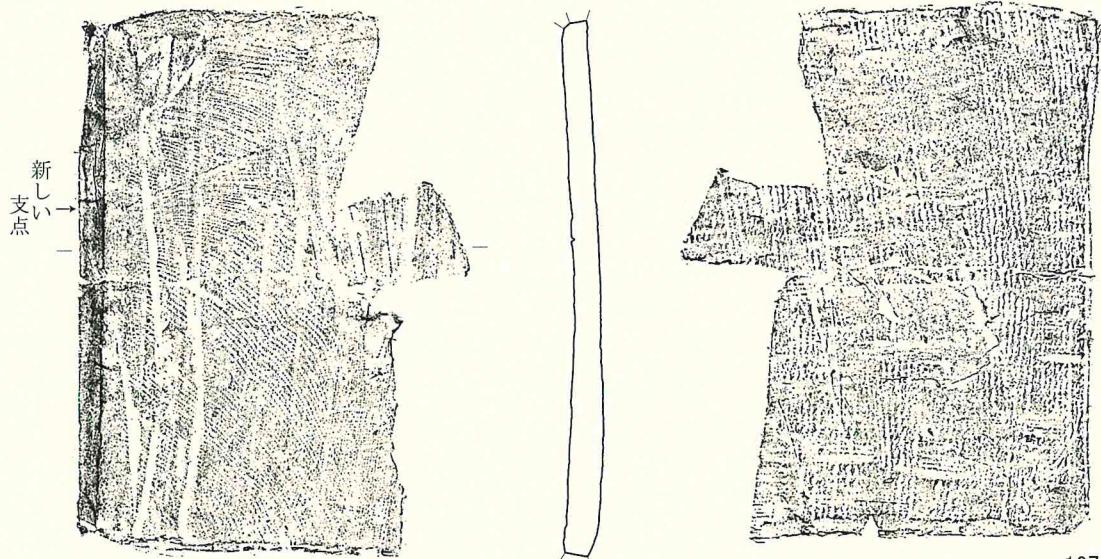


第111図 瓦17 南面回廊(7)

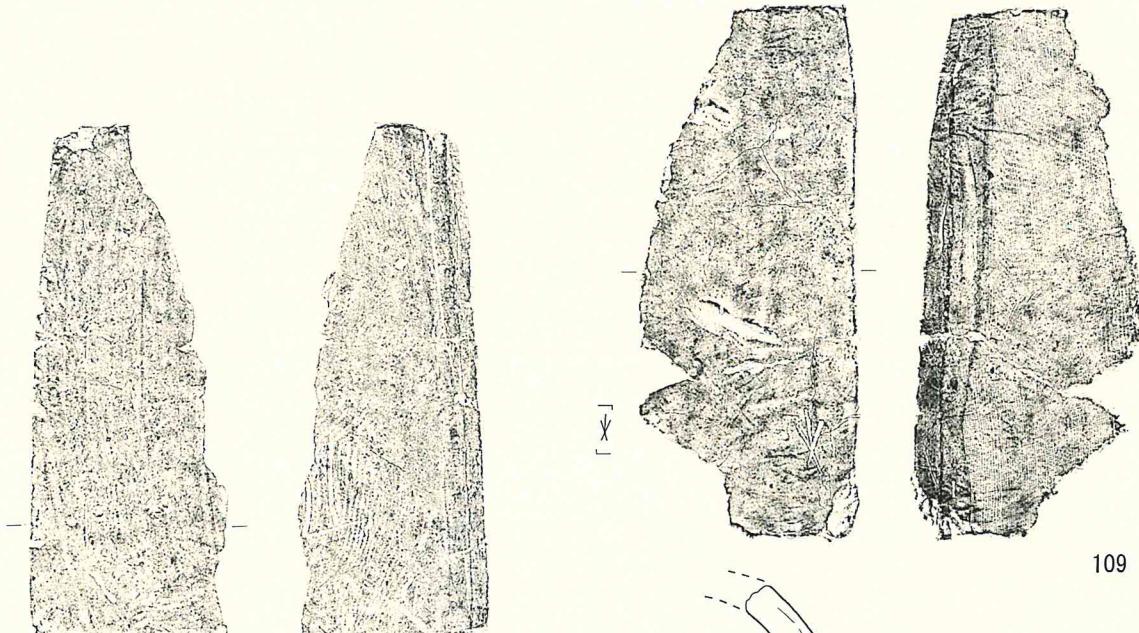
回廊南東隅



第112図 瓦18 回廊南東隅(1)

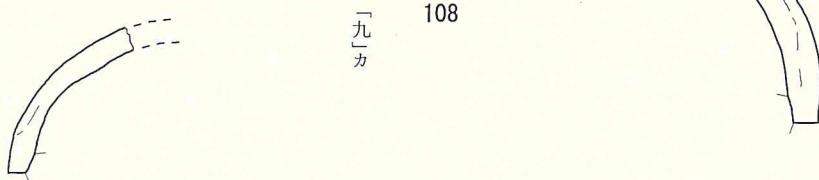


107



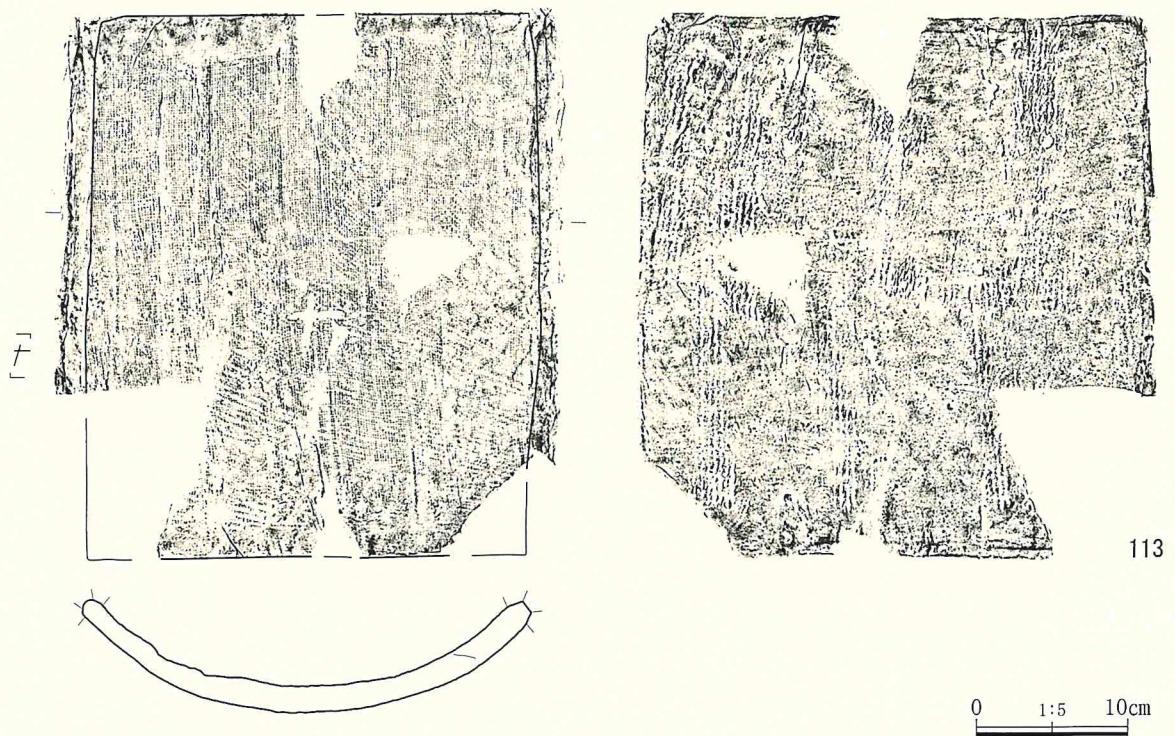
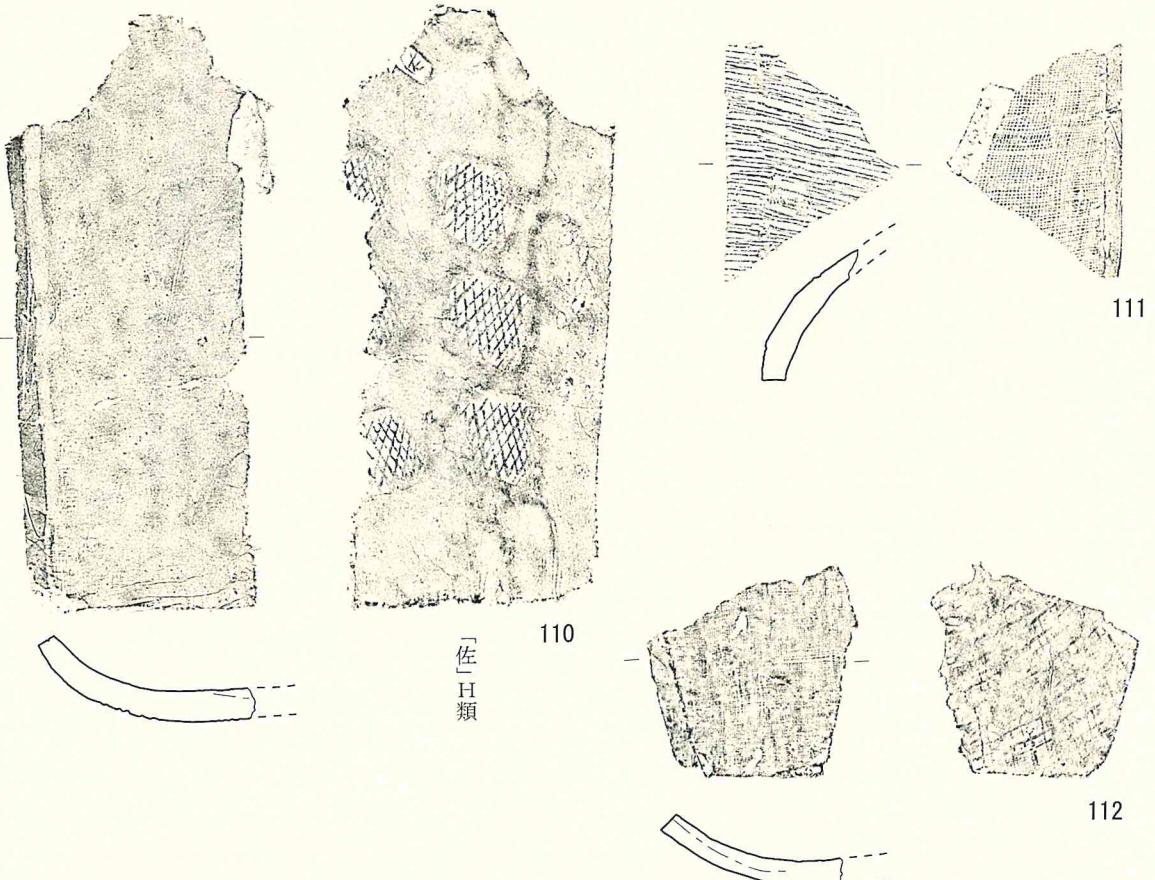
108

109

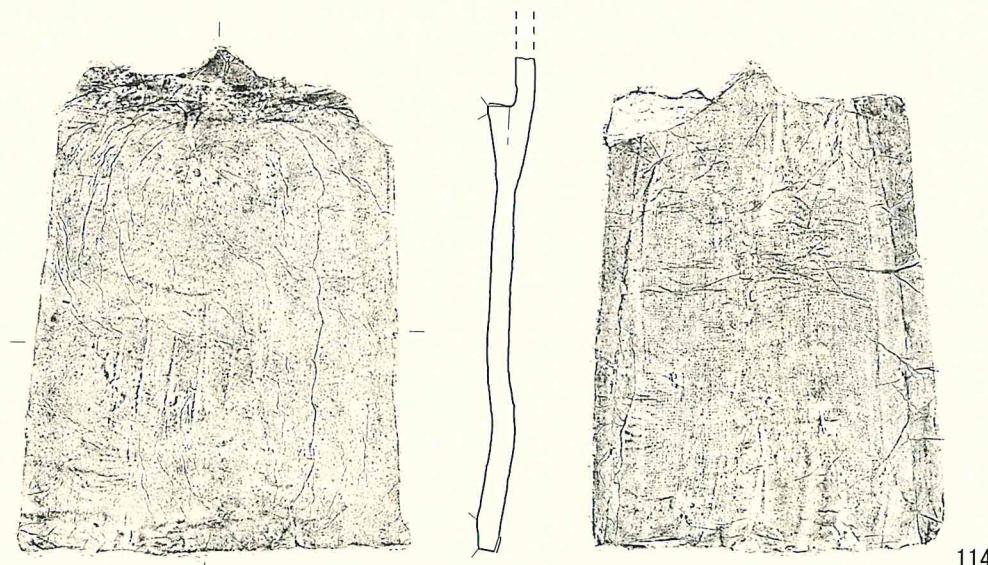
九  
カ

0 1:5 10cm

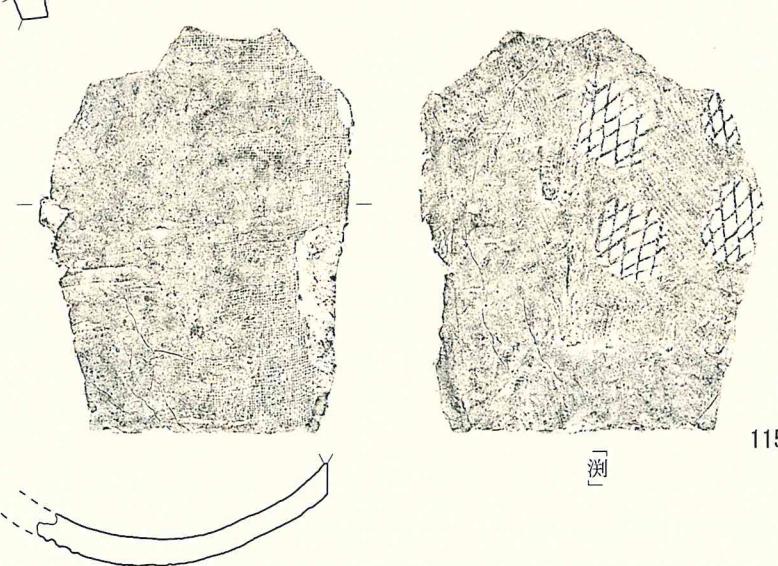
第113図 瓦19 回廊南東隅(2)



第114図 瓦20 回廊南東隅(3)

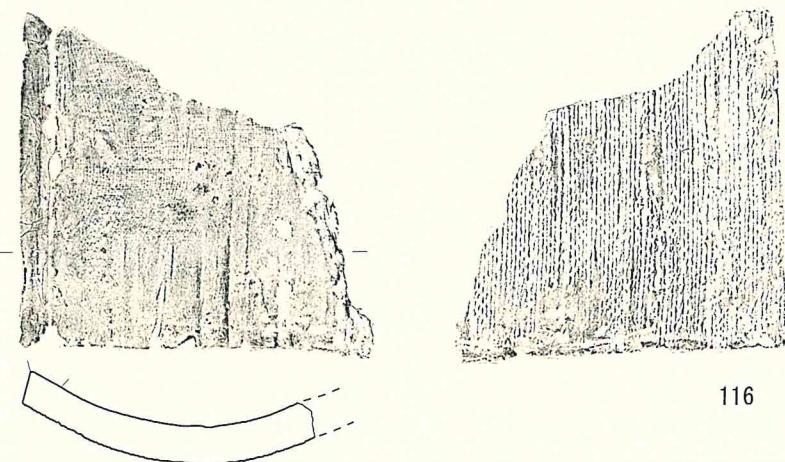


114



115

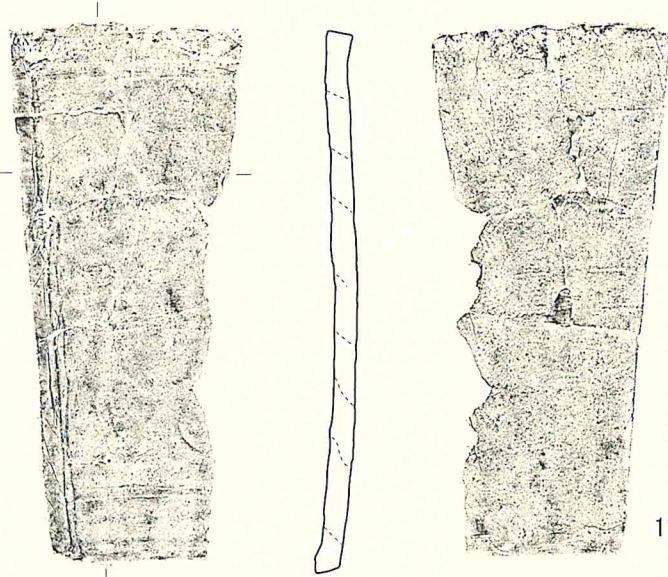
測



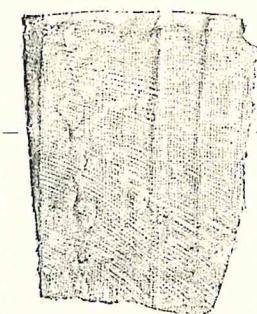
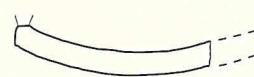
116

0 1:5 10cm

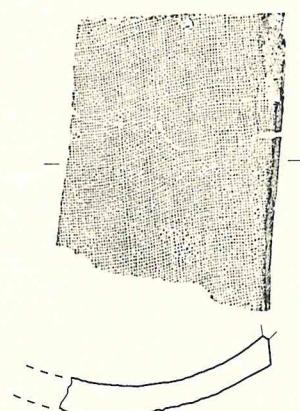
第115図 瓦21 回廊南東隅(4)



117



118



119

「菌田」

布目痕

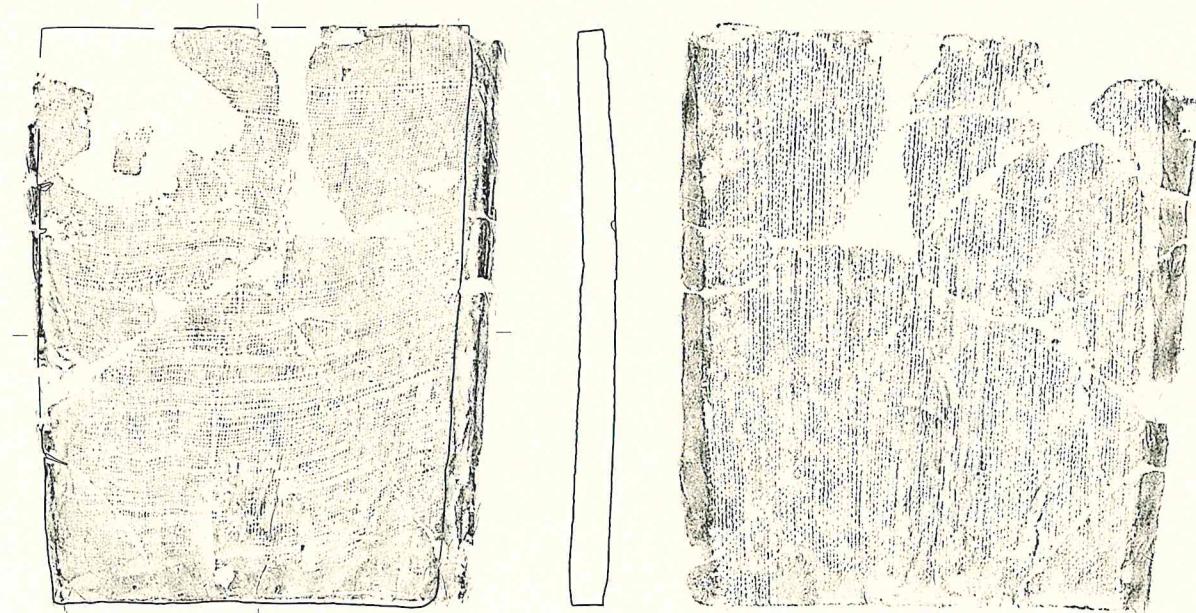


120

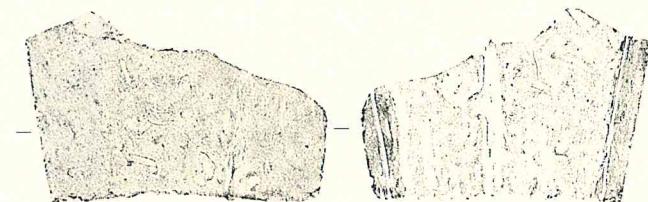
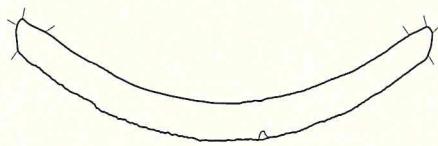


0 1:5 10cm

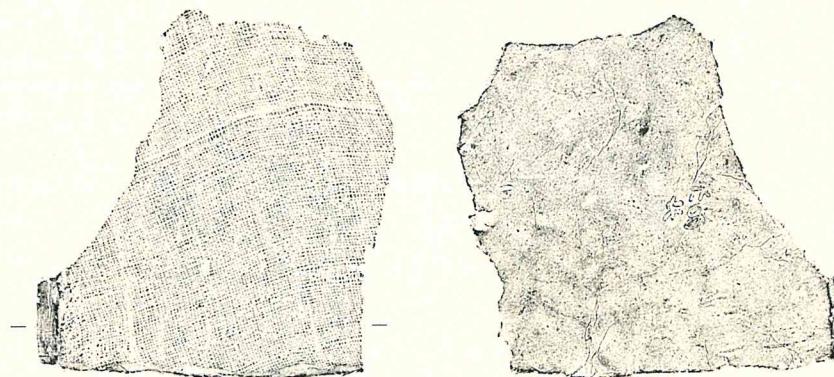
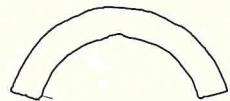
第116図 瓦22 回廊南東隅(5)



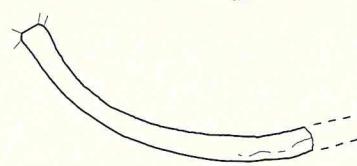
121



122



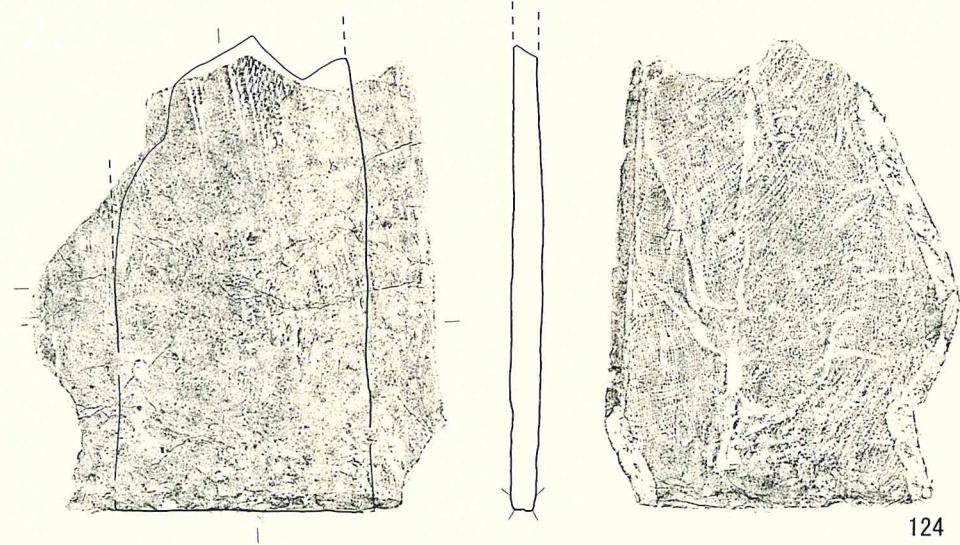
123



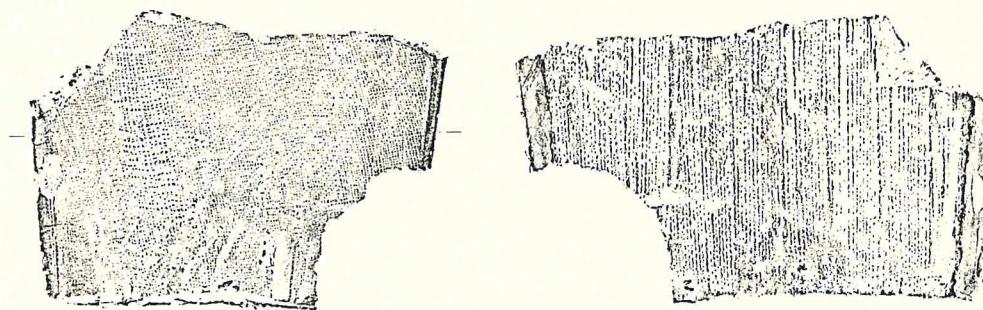
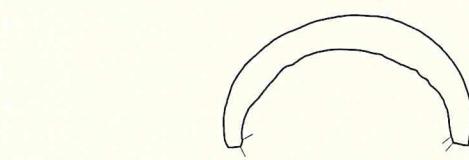
桙

0 1:5 10cm

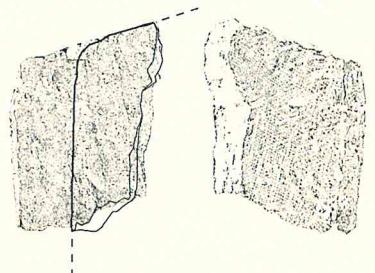
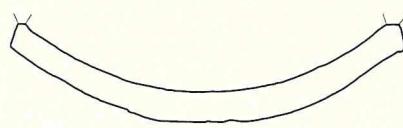
第117図 瓦23 回廊南東隅(6)



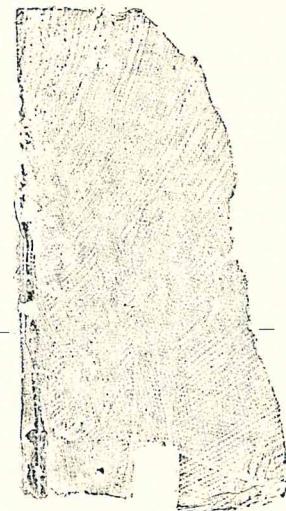
124



125



126

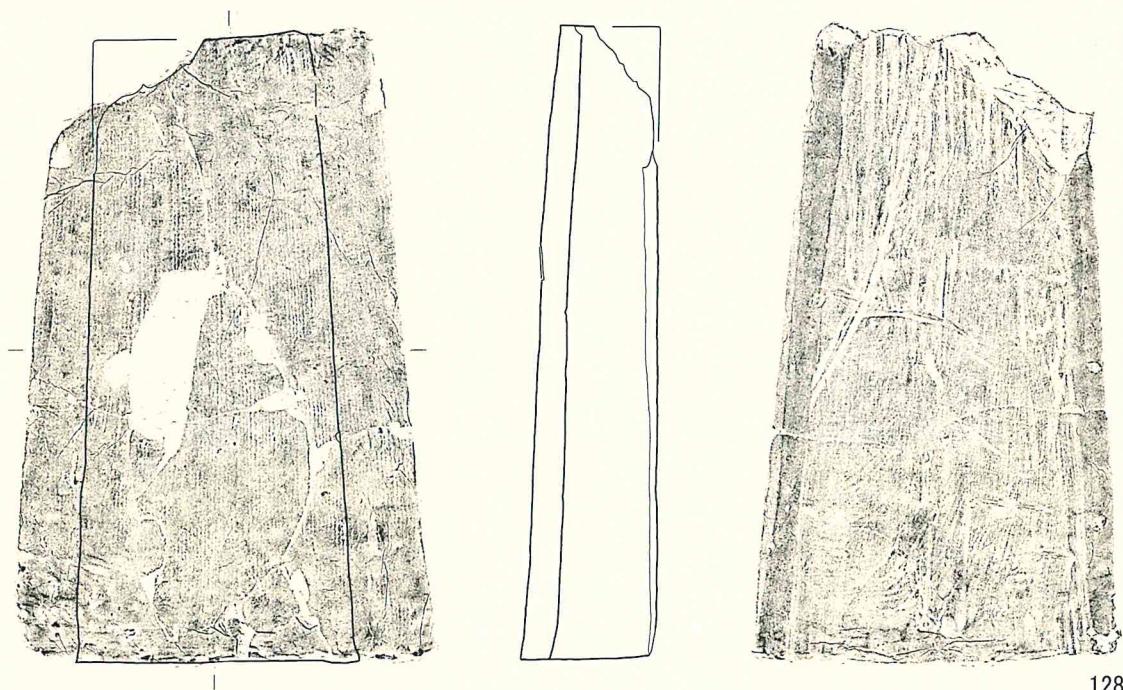


127

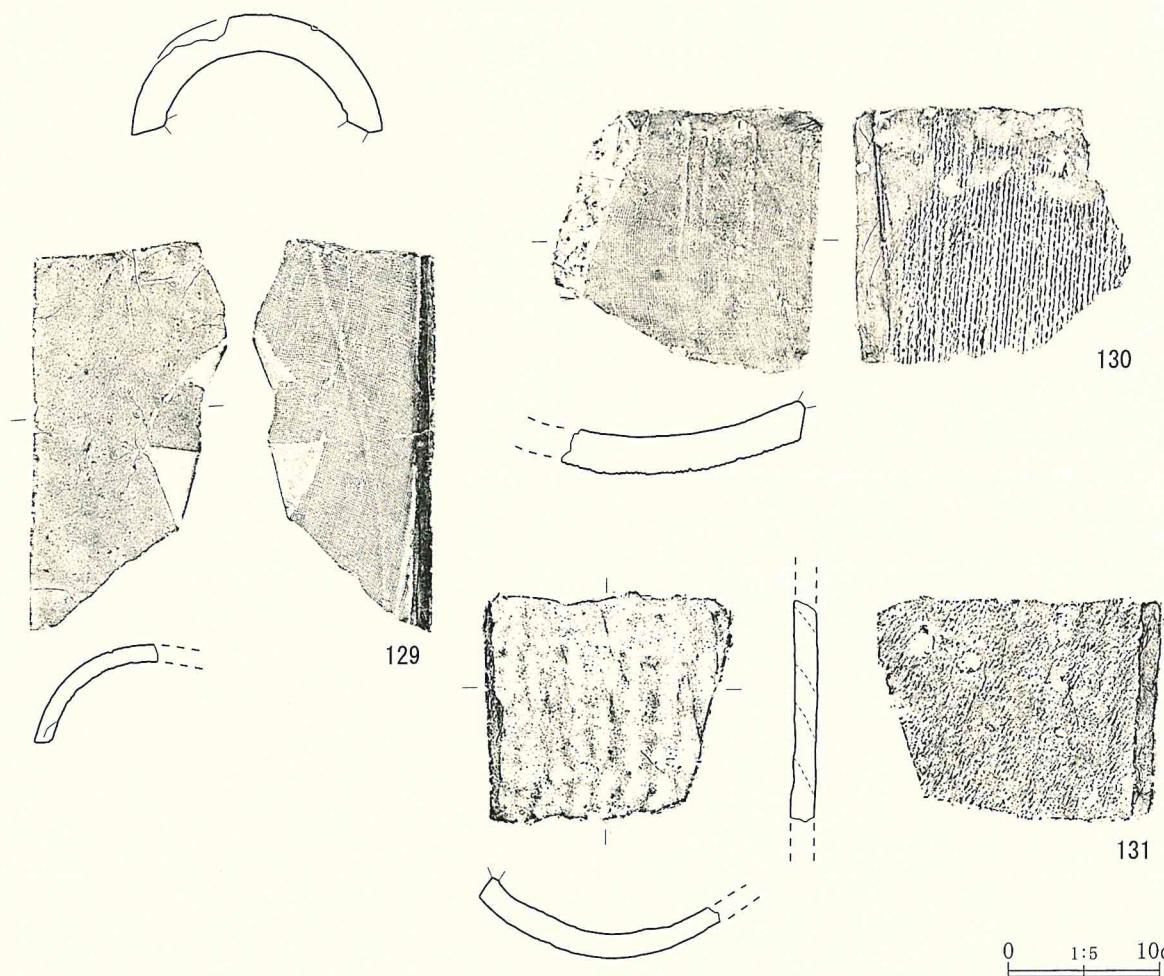


0 1:5 10cm

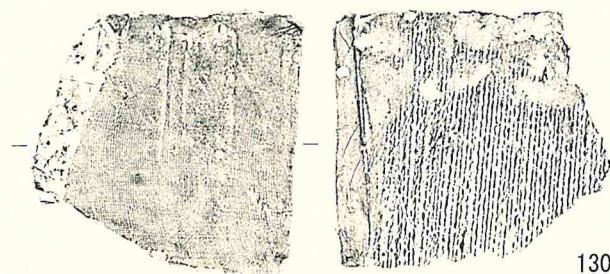
第118図 瓦24 回廊南東隅(7)



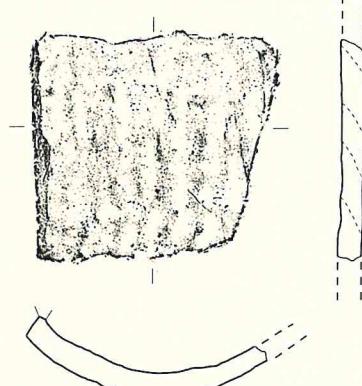
128



129



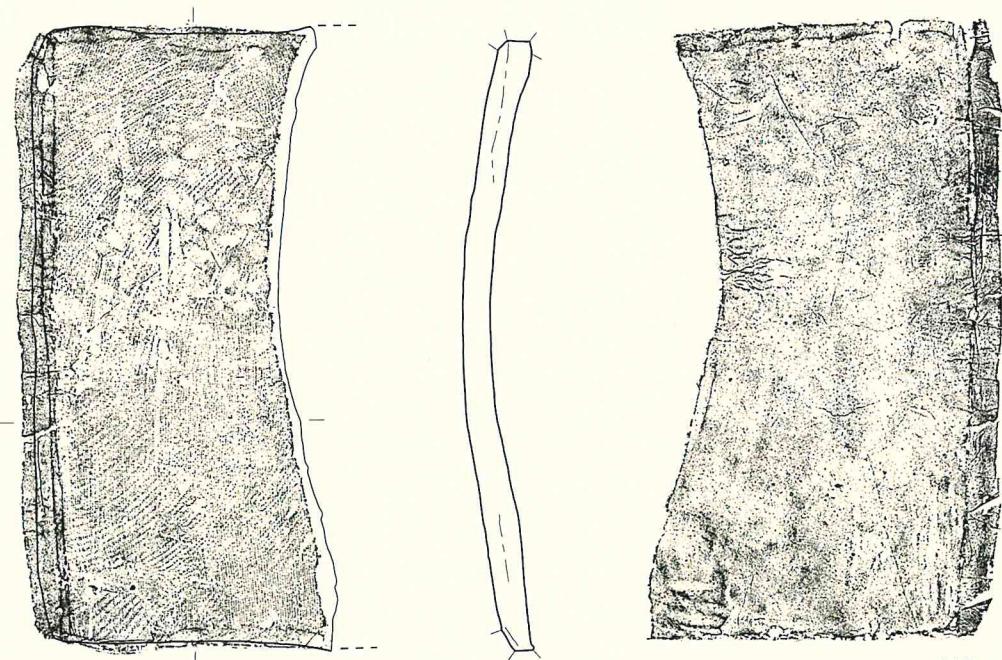
130



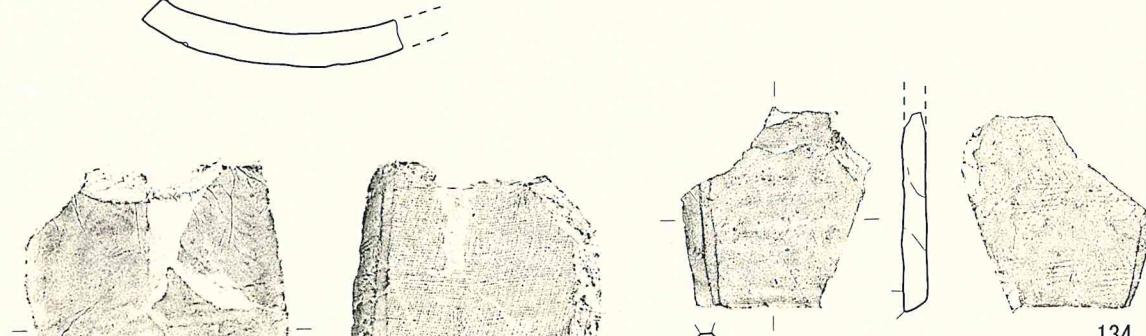
131

0 1:5 10cm

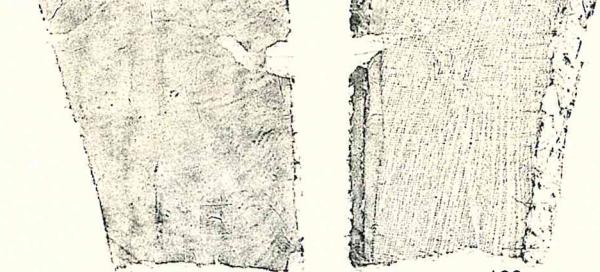
第119図 瓦25 回廊南東隅(8)



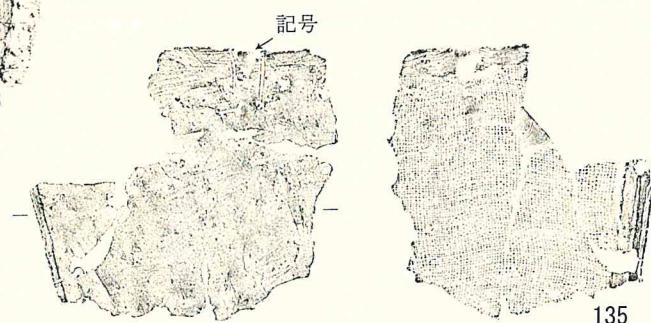
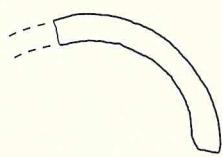
132



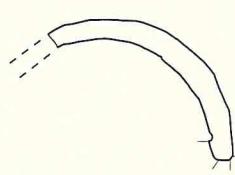
134



133

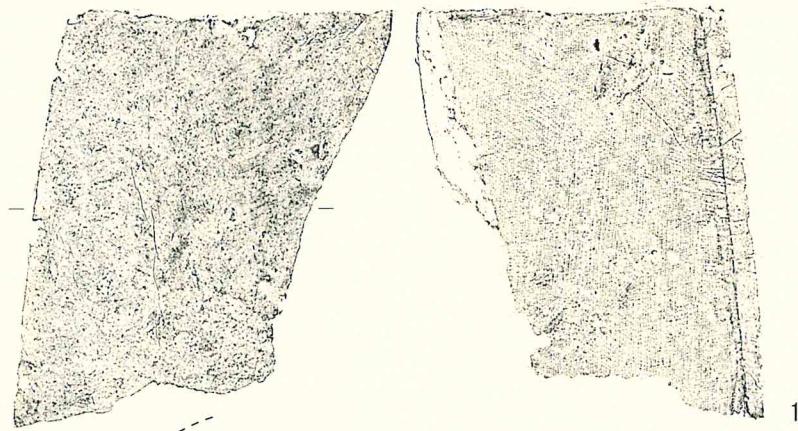


135

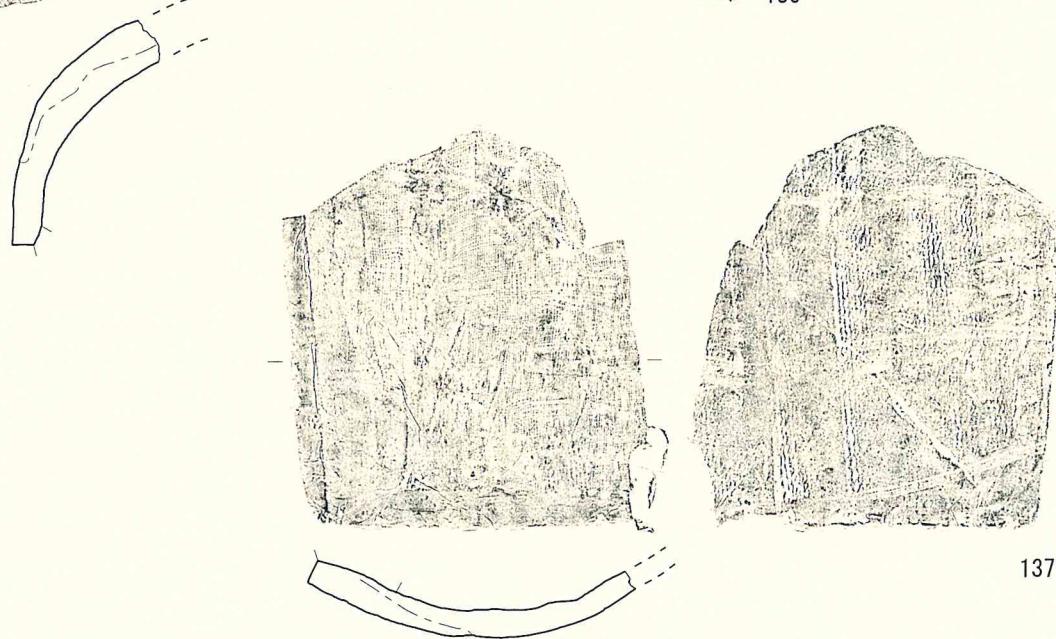


0 1:5 10cm

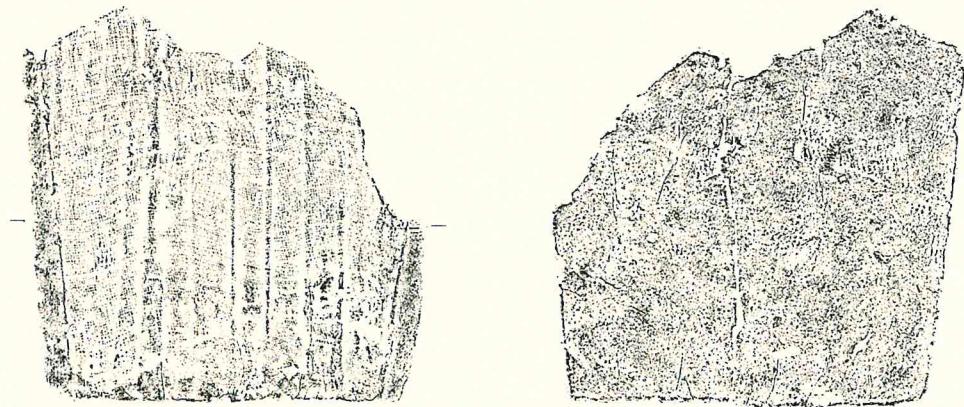
第120図 瓦26 回廊南東隅(9)



136



137

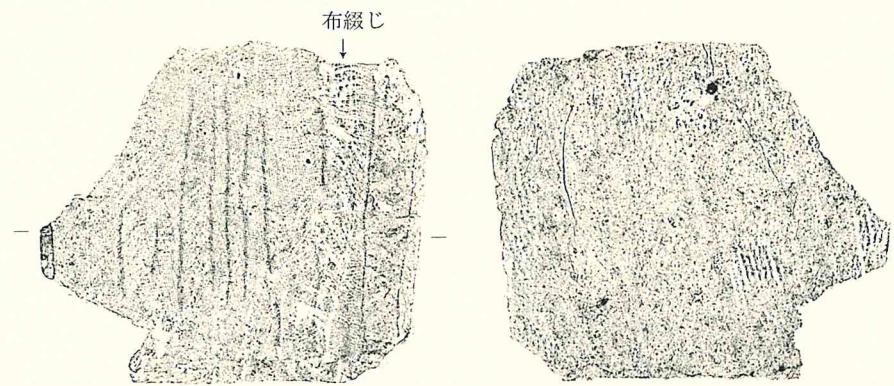


138

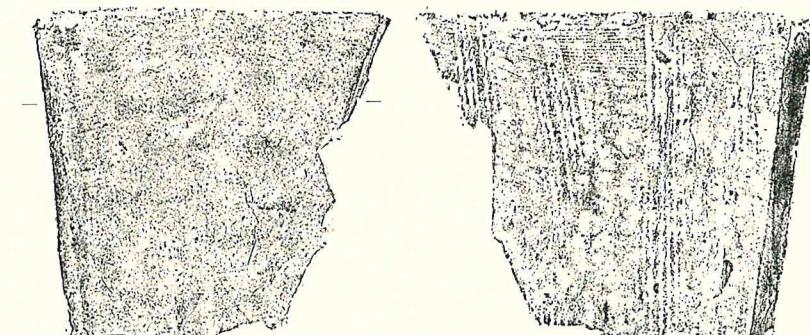
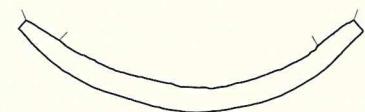


0 1:5 10cm

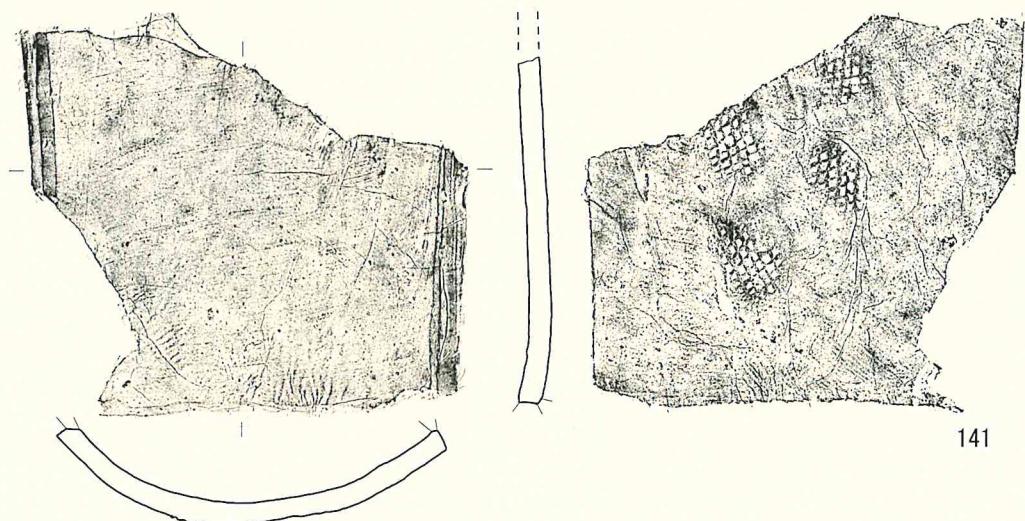
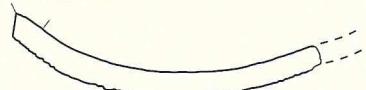
第121図 瓦27 回廊南東隅(10)



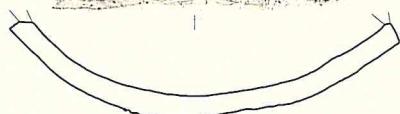
139



140

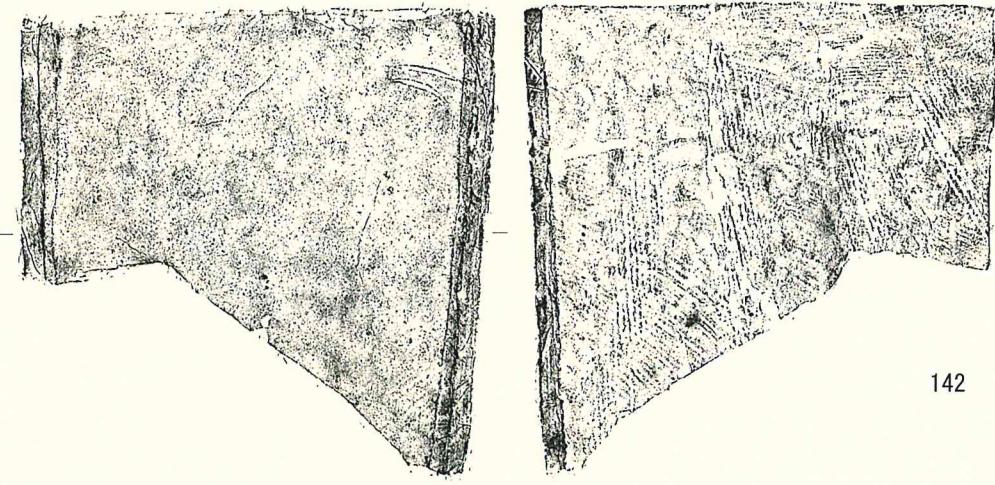


141



0 1:5 10cm

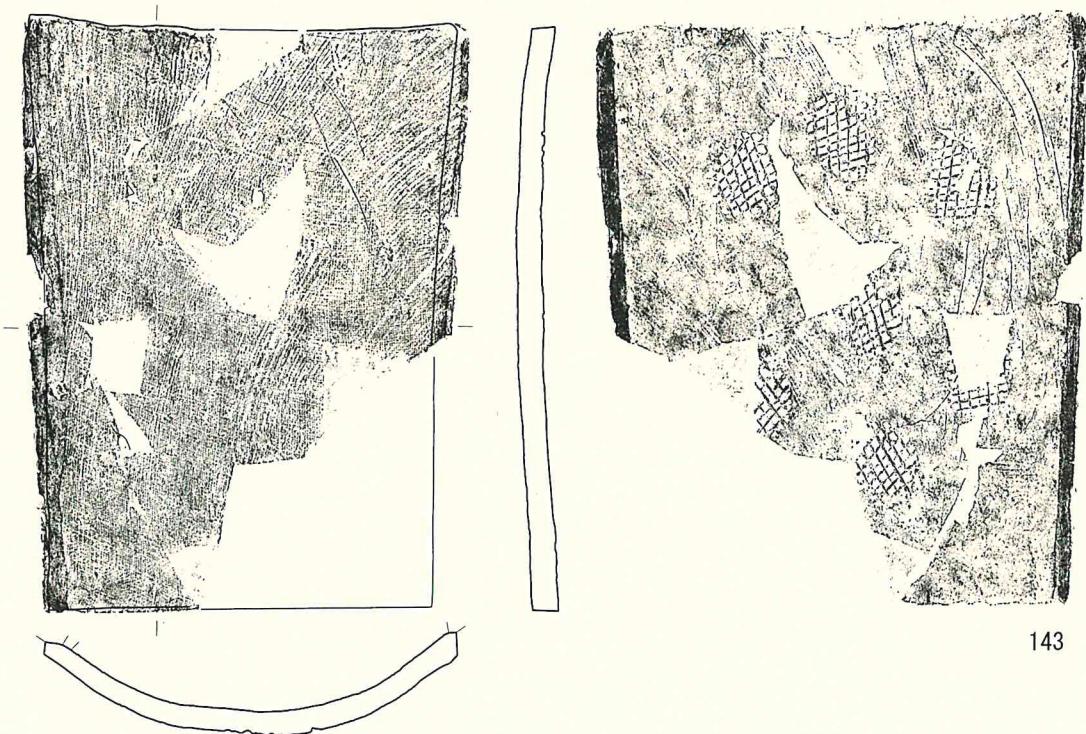
第122図 瓦28 回廊南東隅(11)



142



[1]

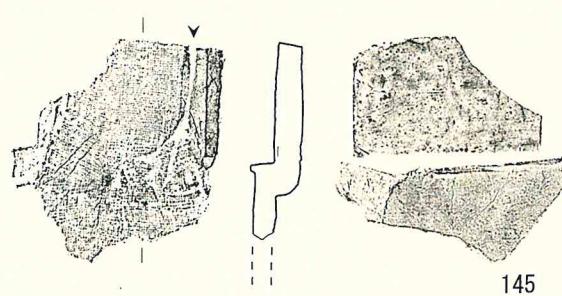
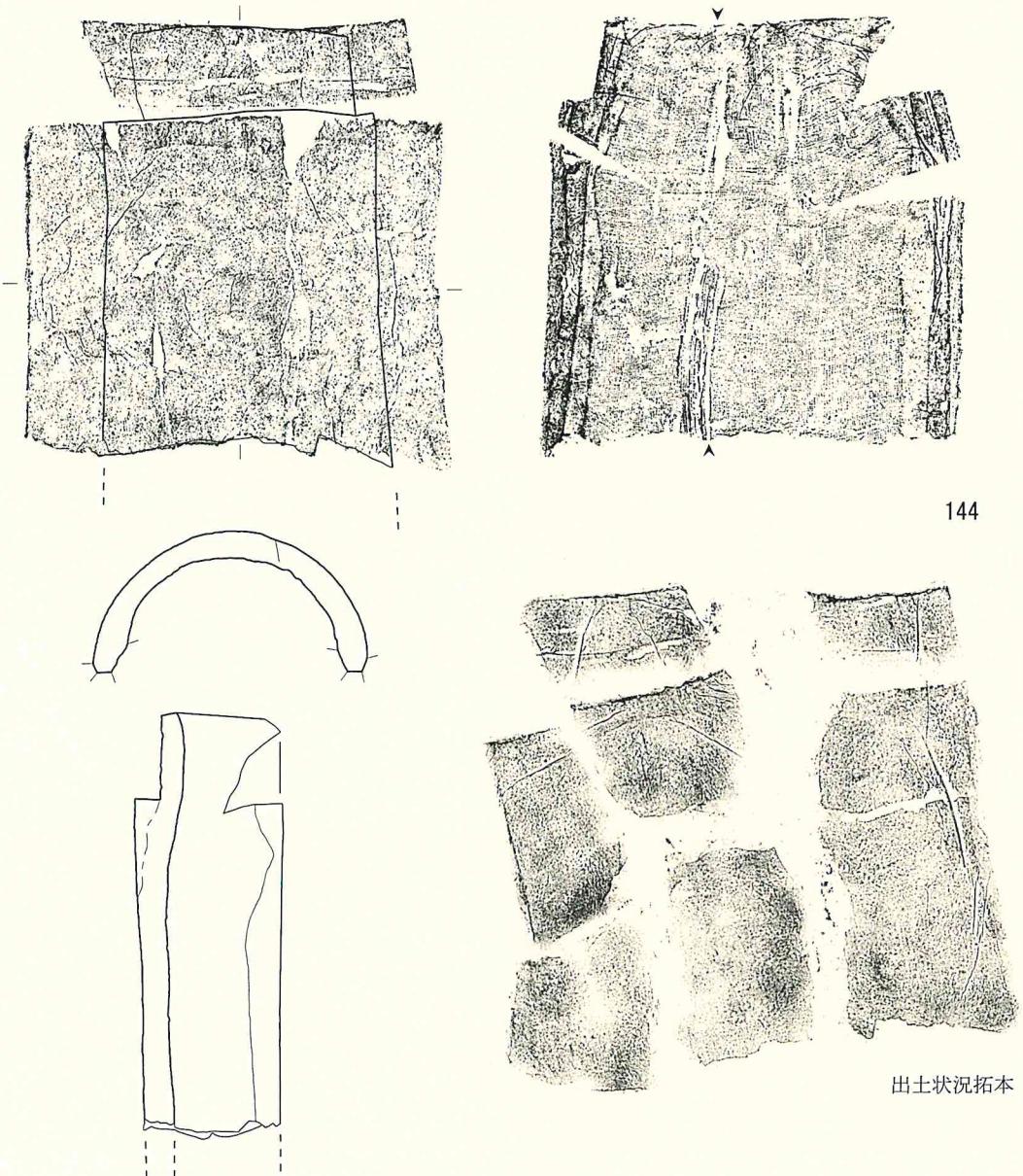


143



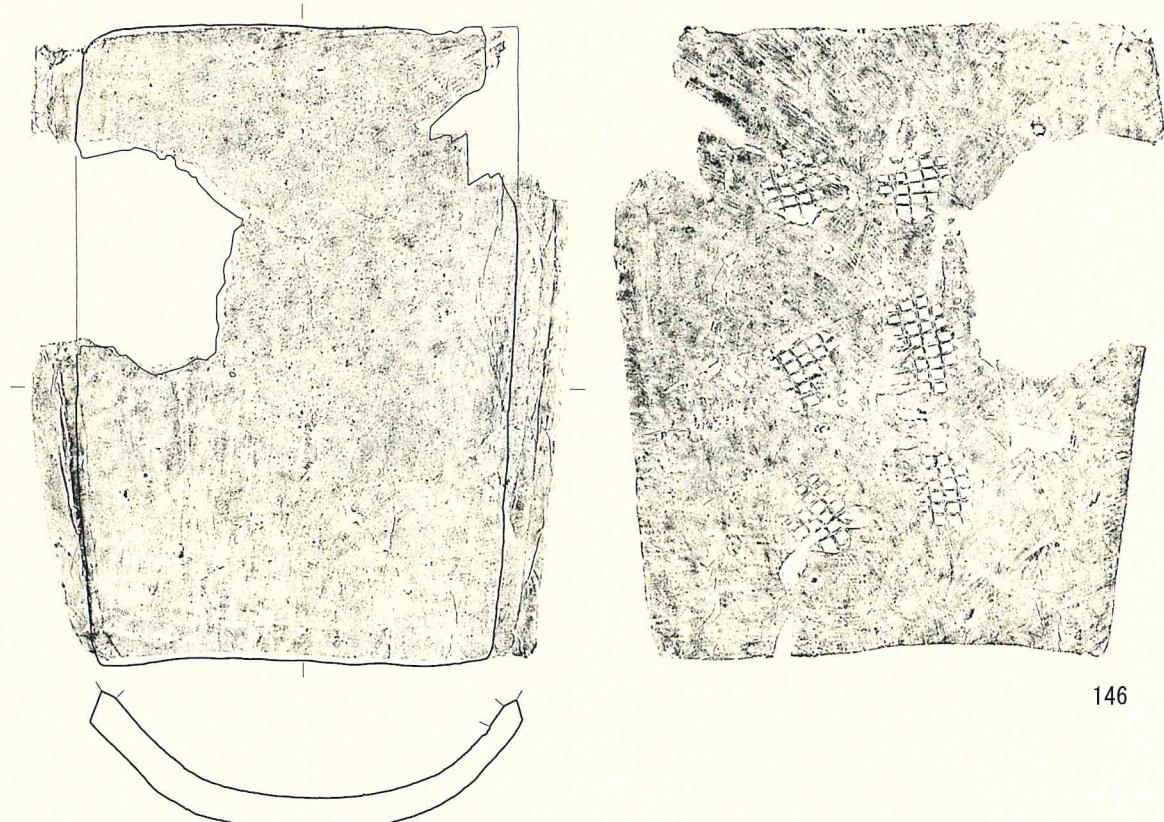
0 1:5 10cm

第123図 瓦29 回廊南東隅(12)

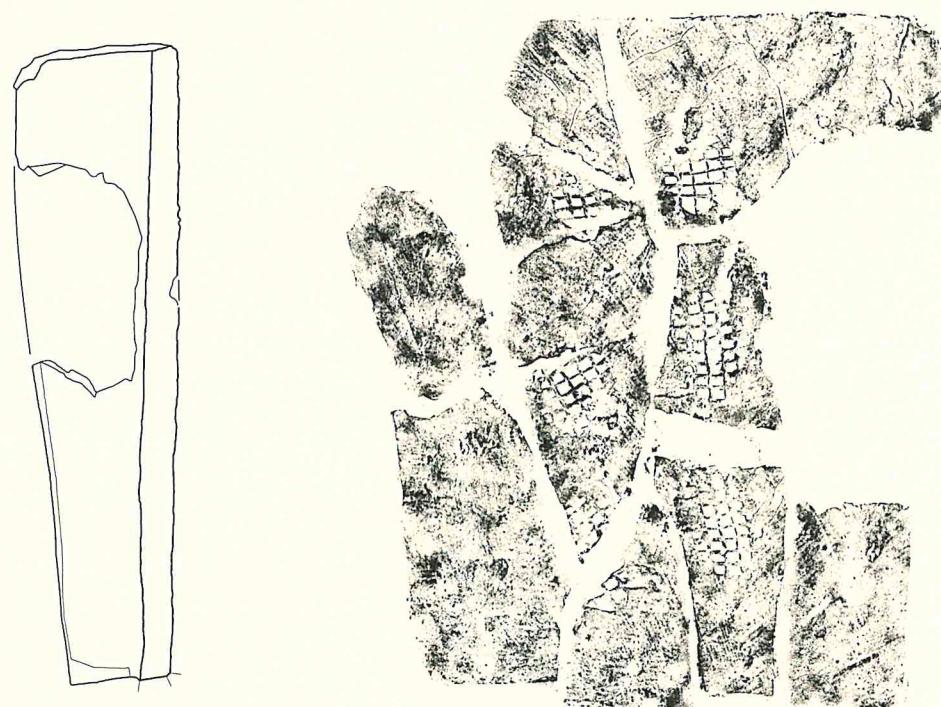


0 1:5 10cm

第124図 瓦30 回廊南東隅(13)



146

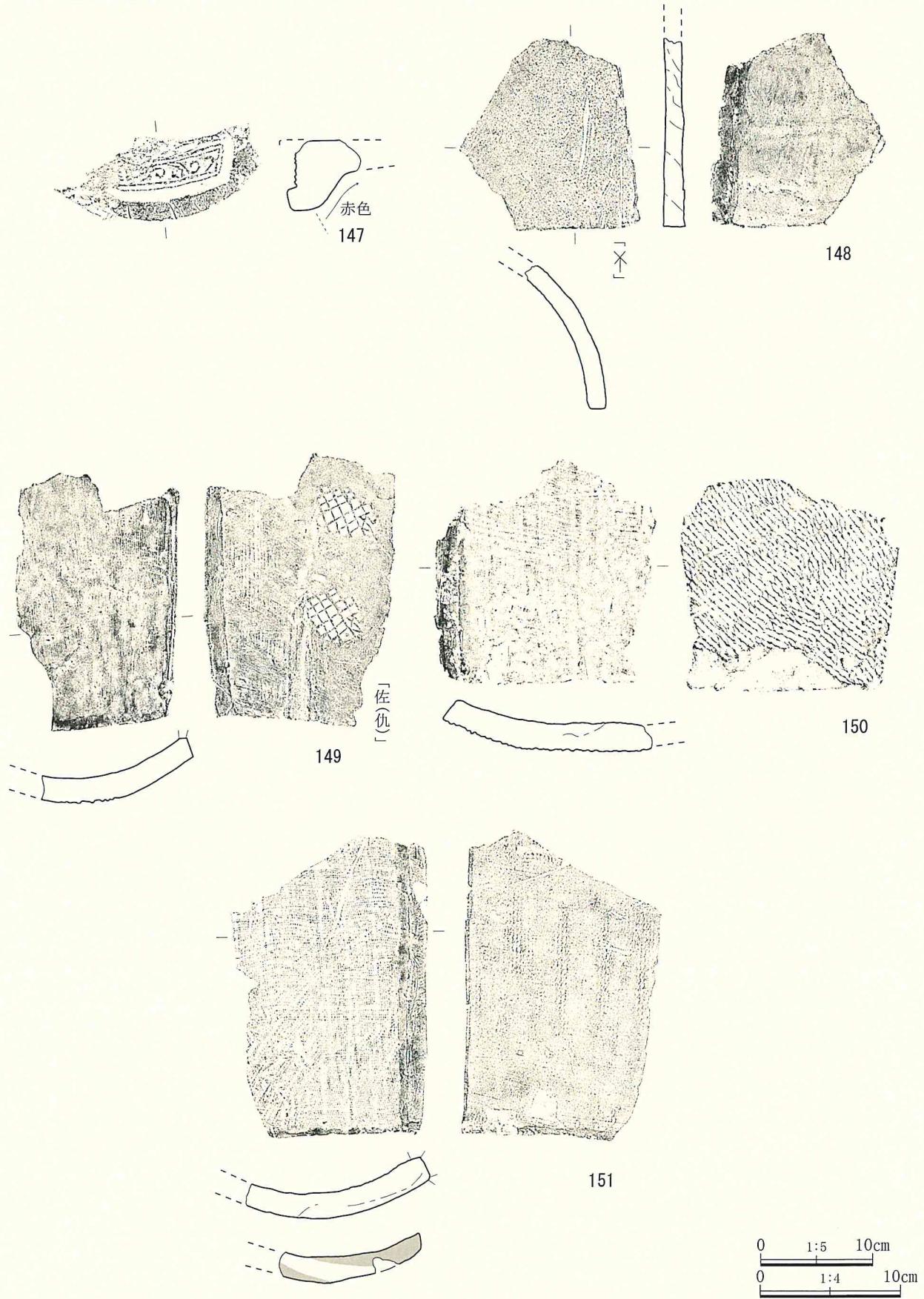


出土状況拓本

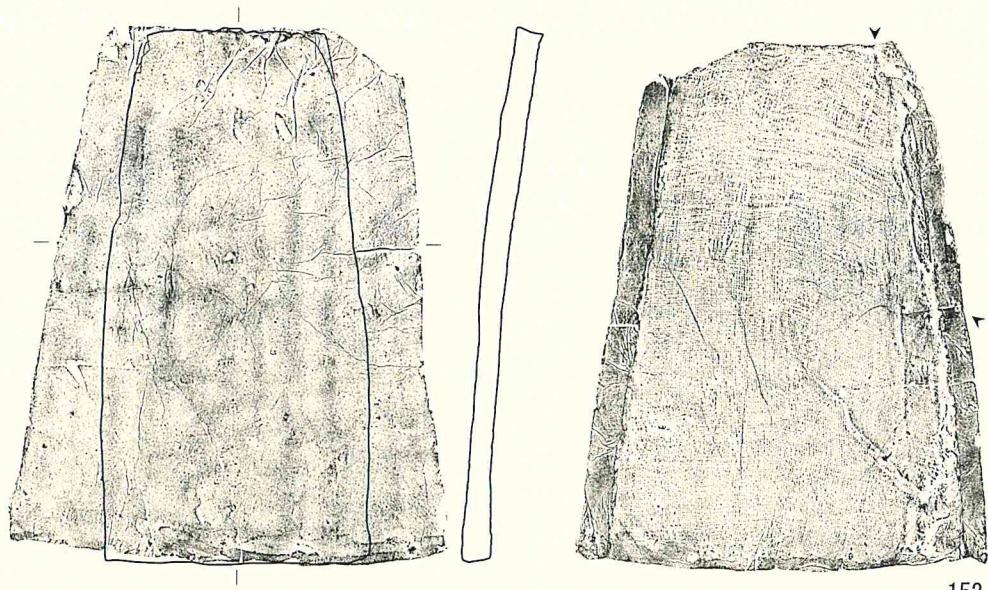
0 1:5 10cm

第125図 瓦31 回廊南東隅(14)

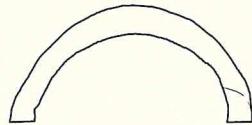
西面回廊中央付近



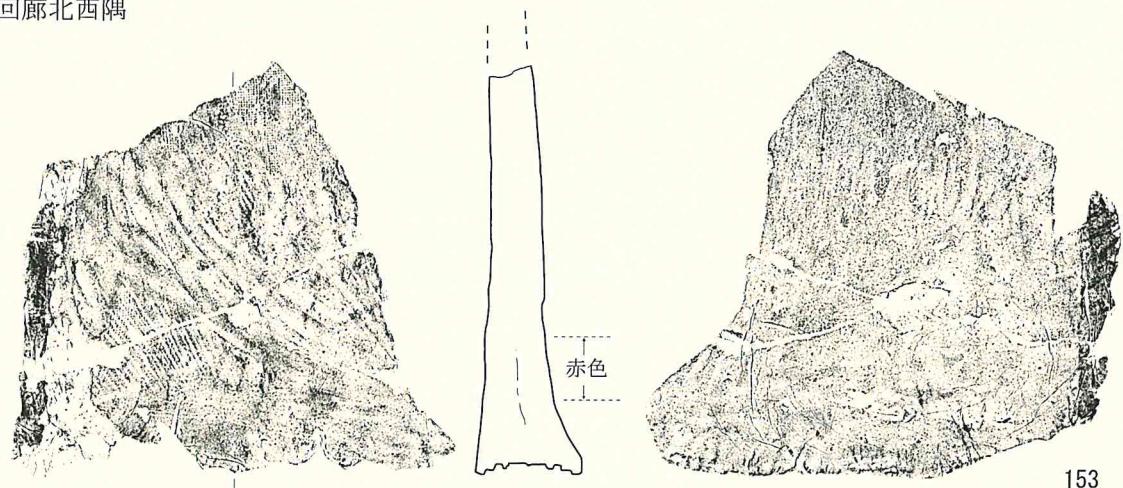
第126図 瓦32 西面回廊中央付近(1)



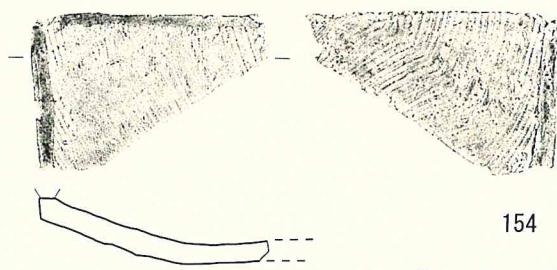
152



回廊北西隅



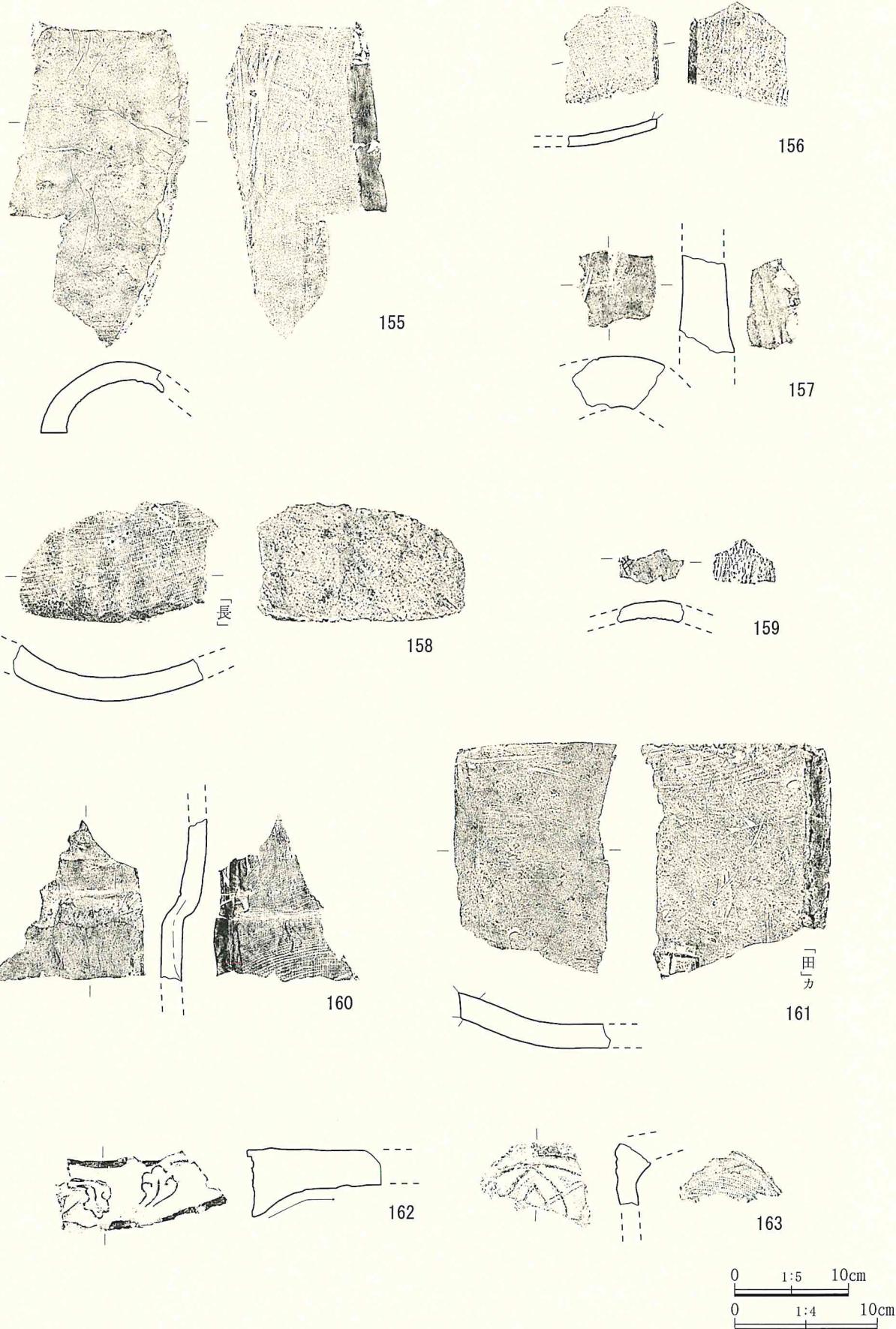
153



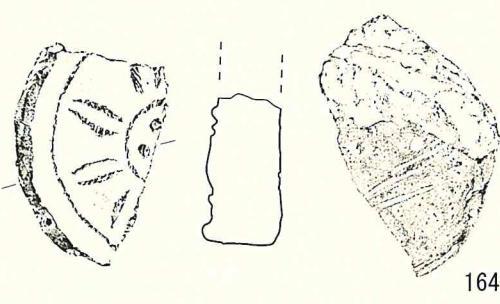
154

0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

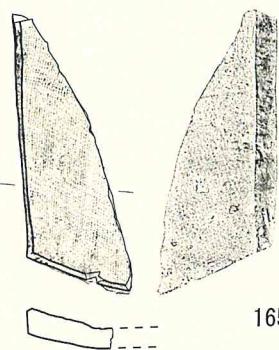
第127図 瓦33 西面回廊中央付近(2)・回廊北西隅(1)



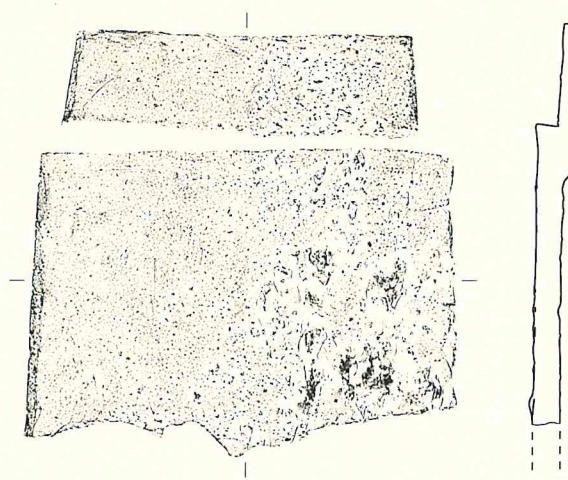
第128図 瓦34 回廊北西隅(2)



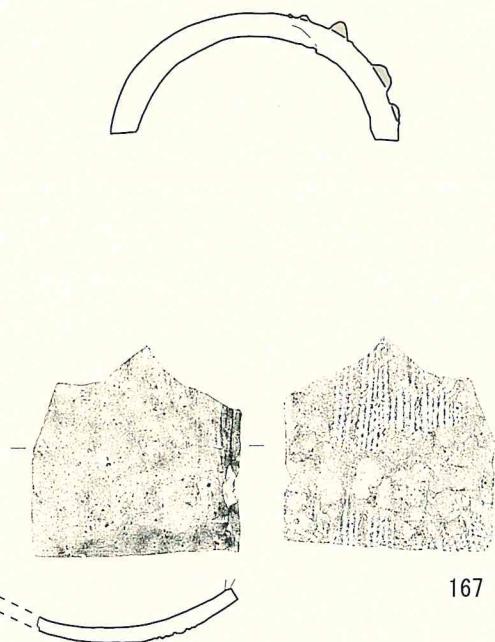
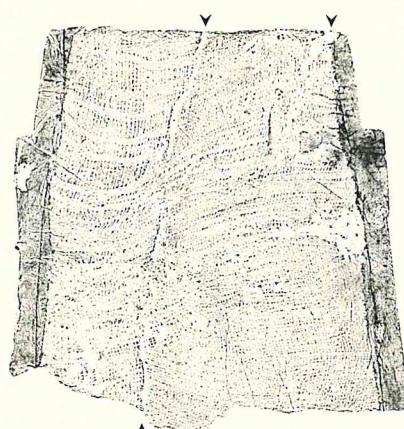
164



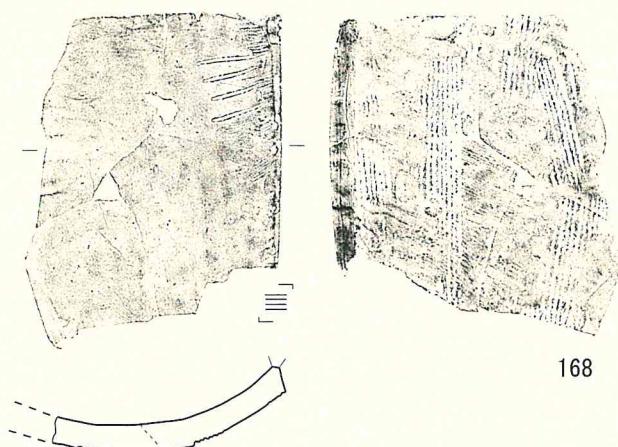
165



166



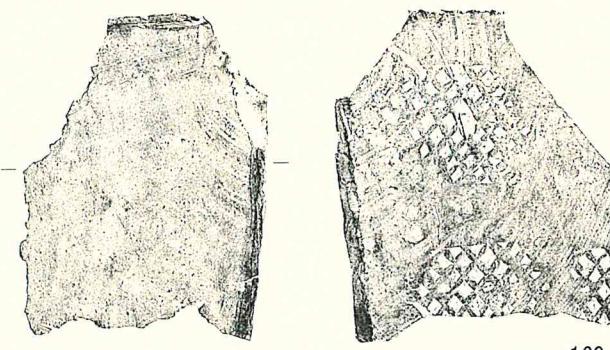
167



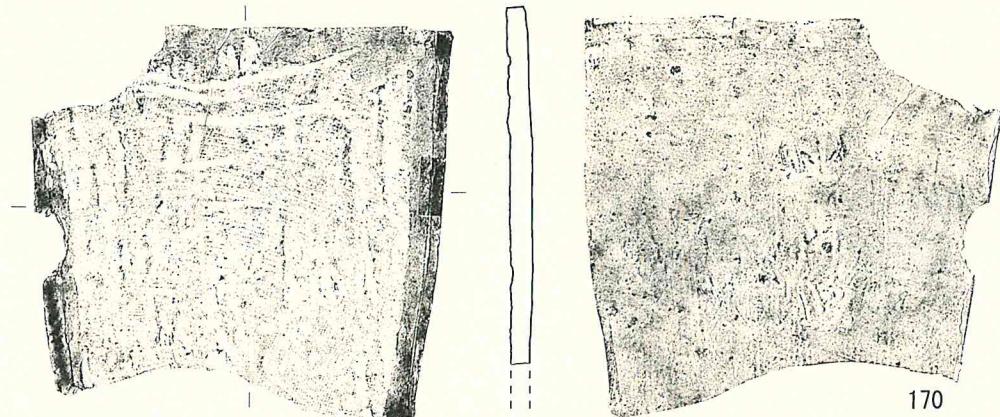
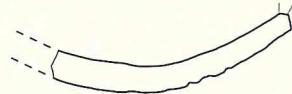
168

0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

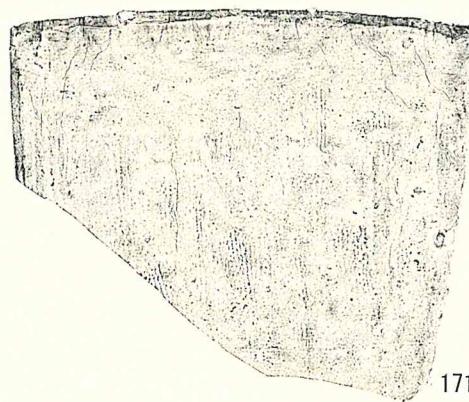
第129図 瓦35 回廊北西隅(3)



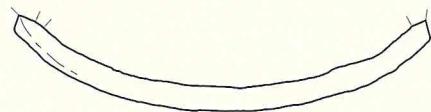
169



170



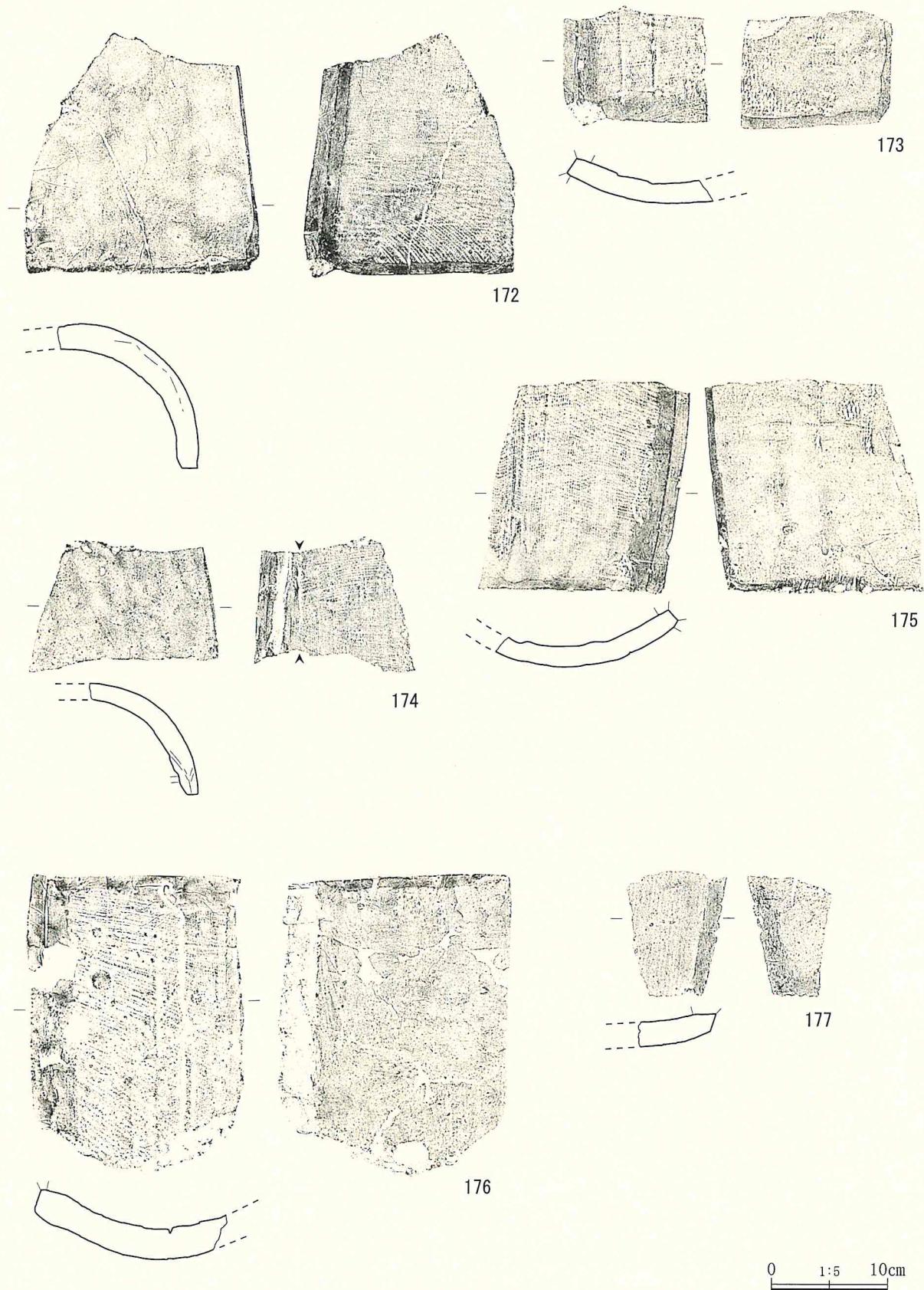
171



0 1:5 10cm

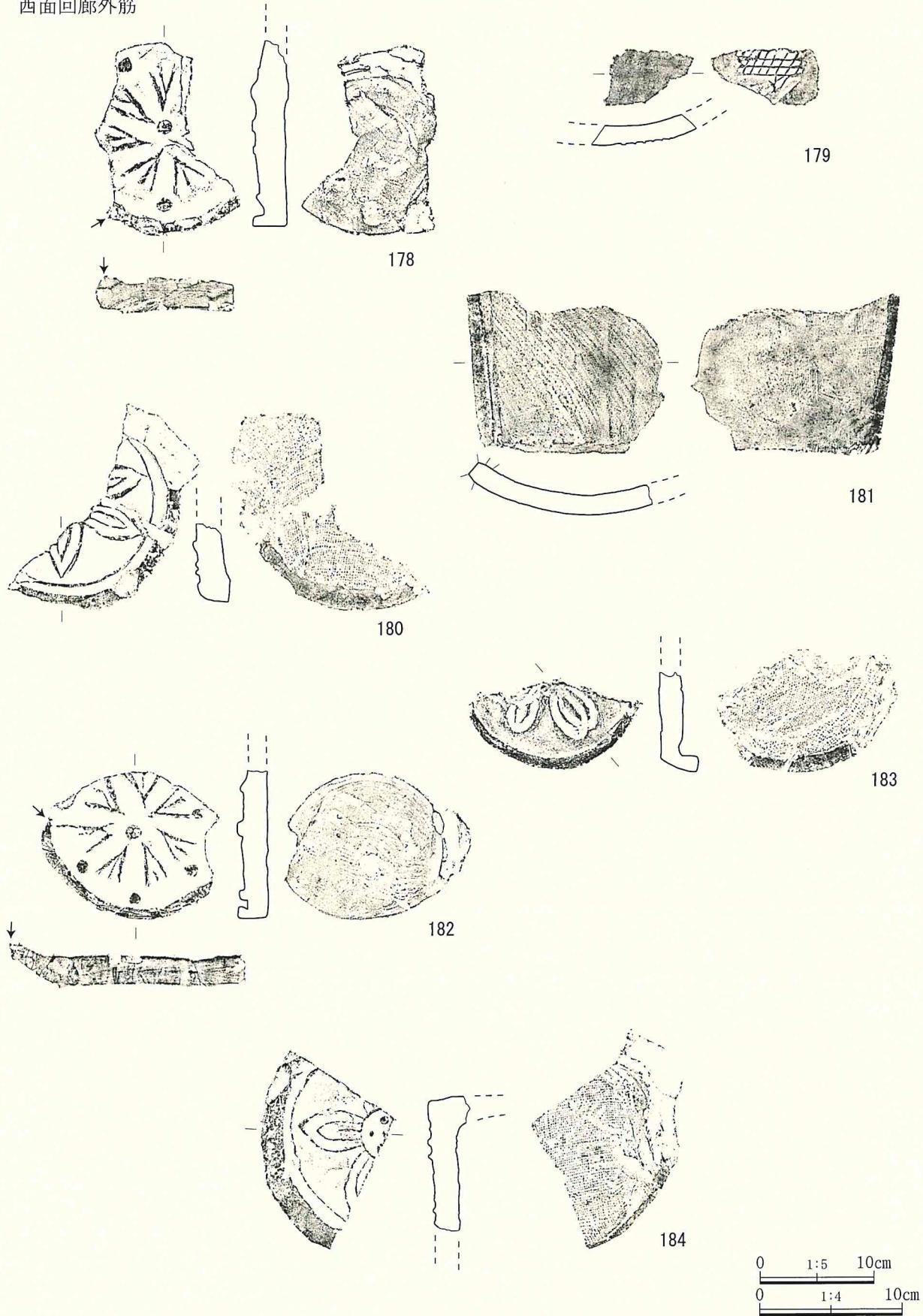
第130図 瓦36 回廊北西隅(4)

回廊北西隅地業内



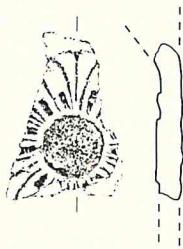
第131図 瓦37 回廊北西隅地業内

西面回廊外筋

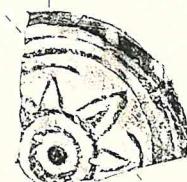


第132図 瓦38 西面回廊外筋

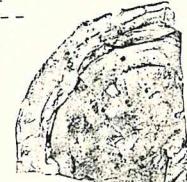
西面回廊内筋



185

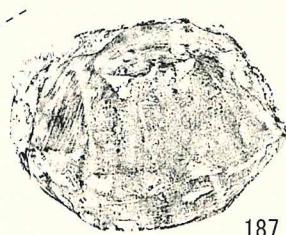
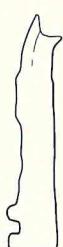
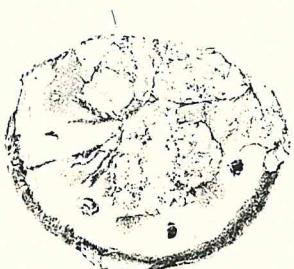


木理方向



186

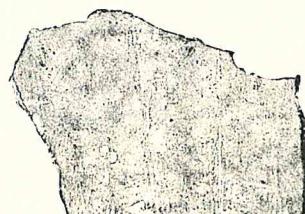
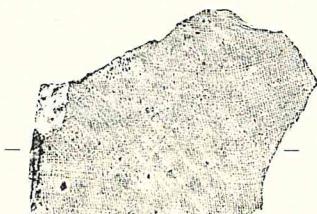
金堂南東隅と回廊取付き



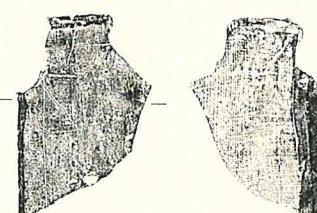
187



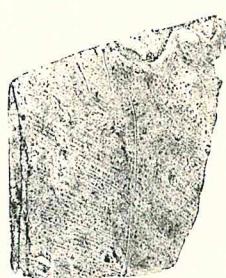
188



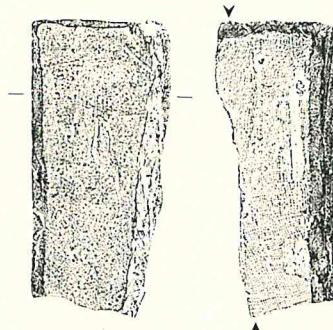
189



190



191

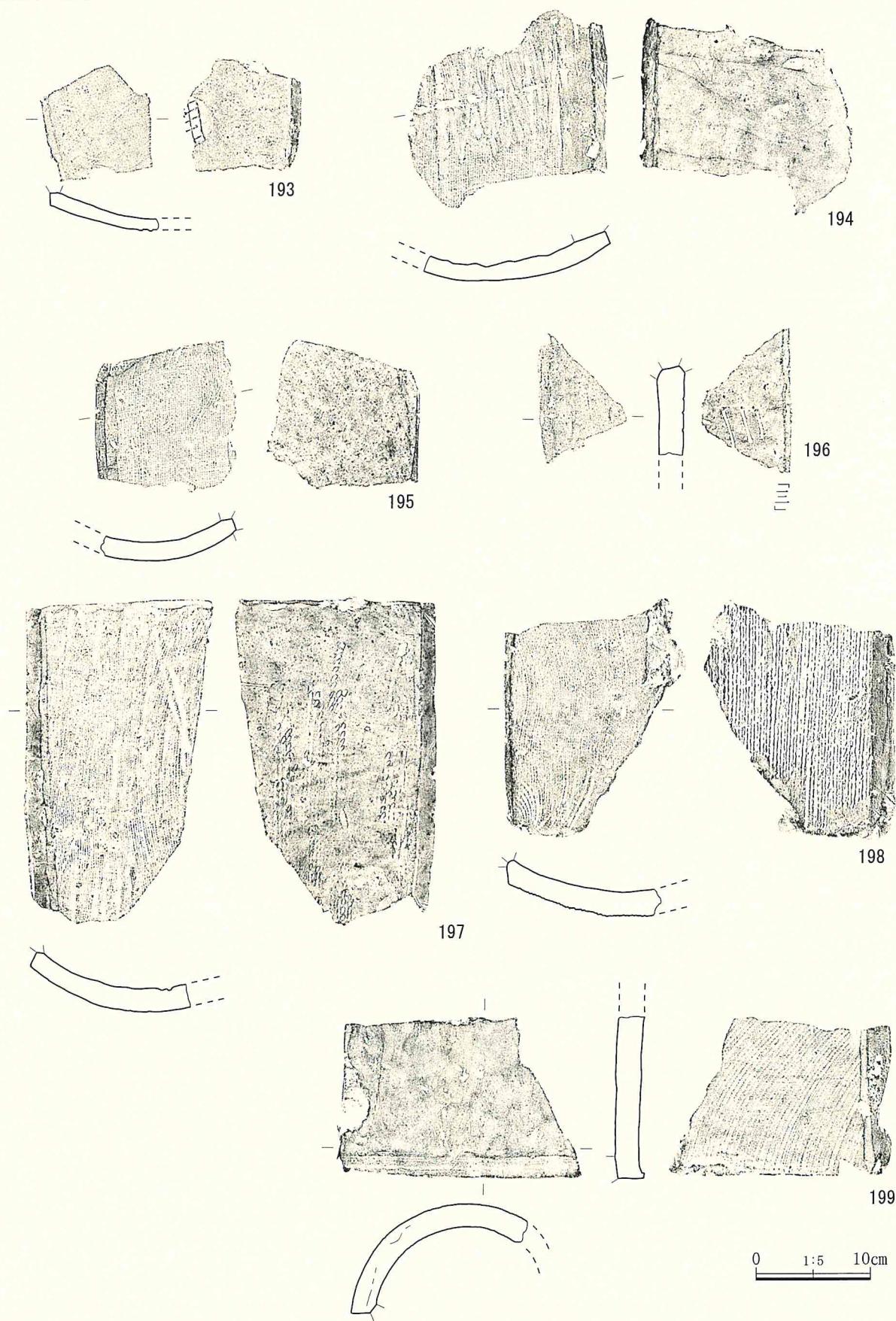


192

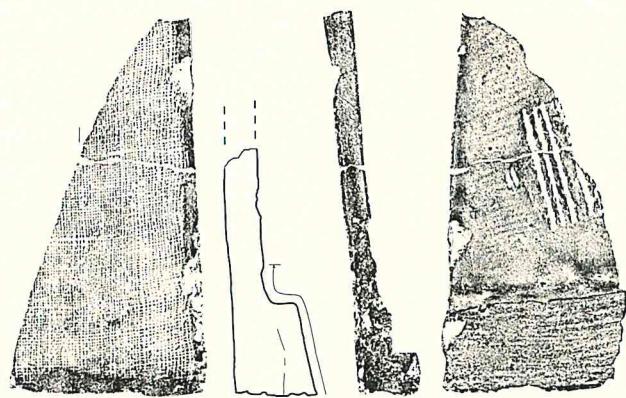
0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

第133図 瓦39 西面回廊内筋・金堂南東隅と回廊取付き

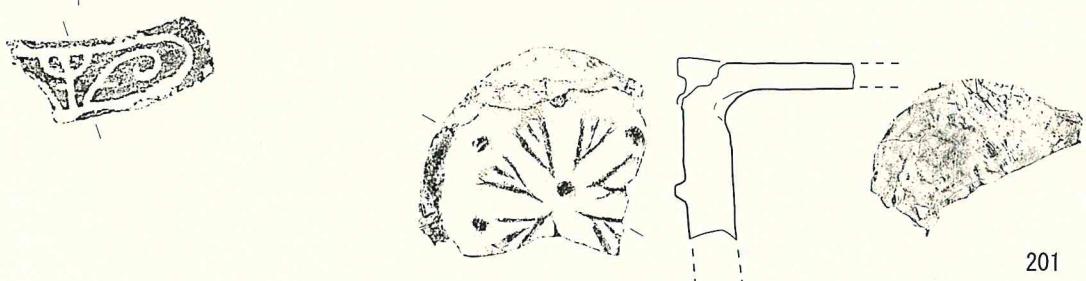
回廊北東隅



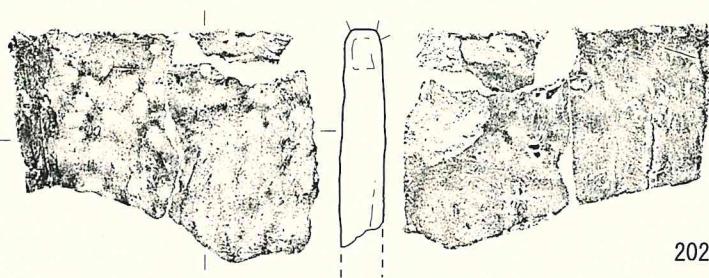
第134図 瓦40 回廊北東隅(1)



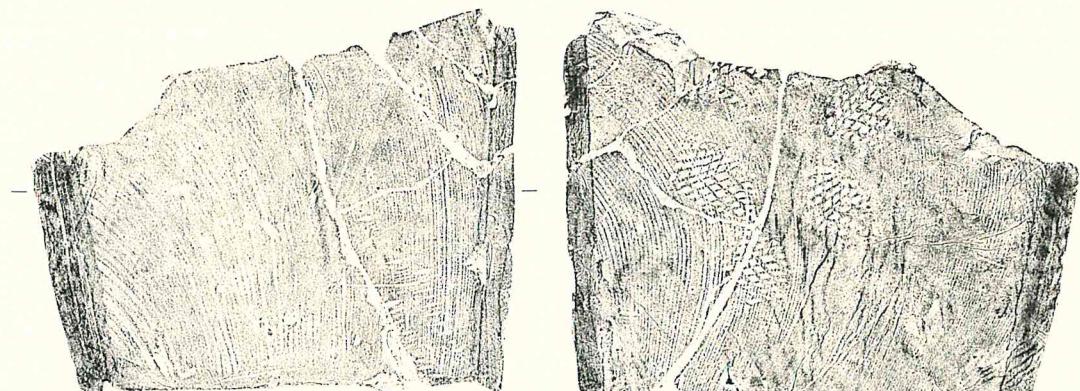
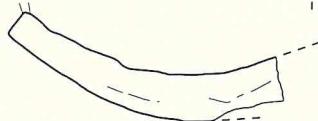
200



201



202

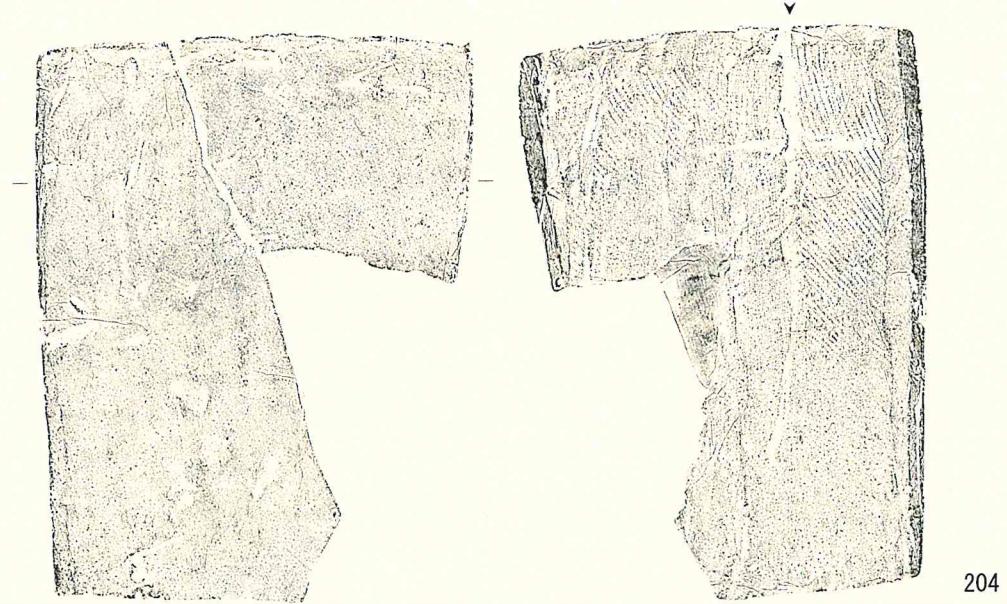


203

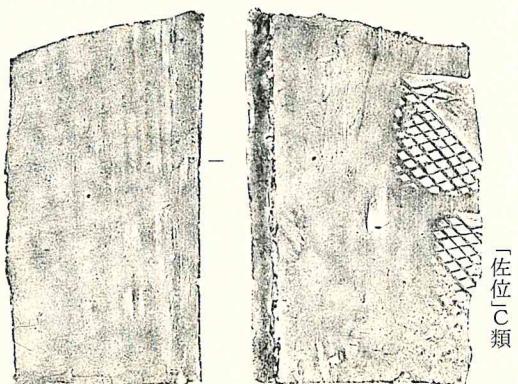
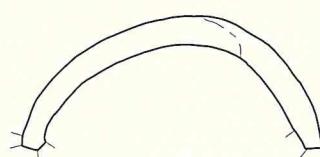


0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

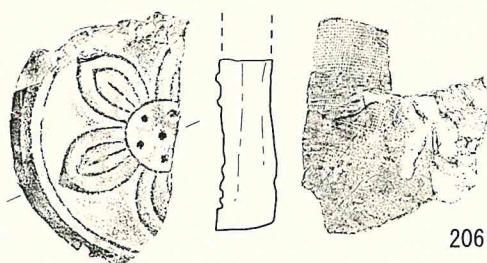
第135図 瓦41 回廊北東隅(2)



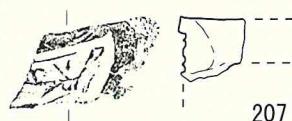
204



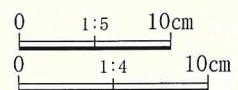
205



206

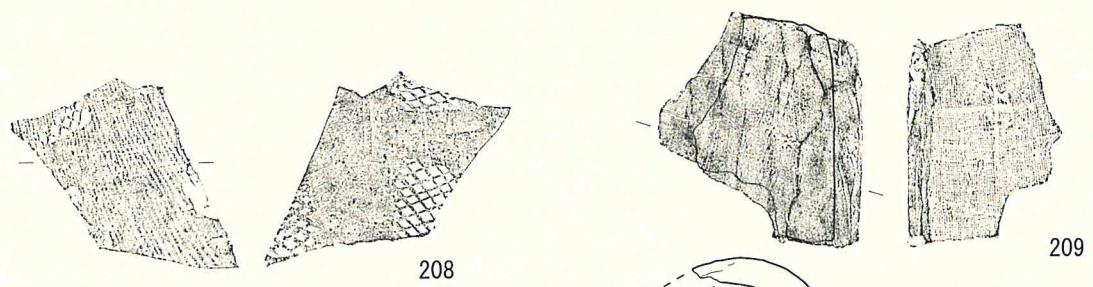


207

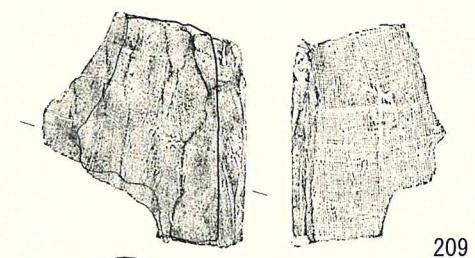


第136図 瓦42 回廊北東隅(3)

東面回廊



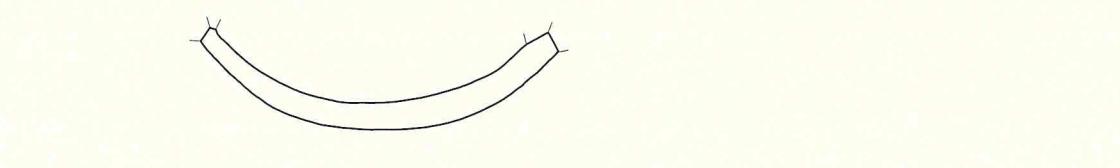
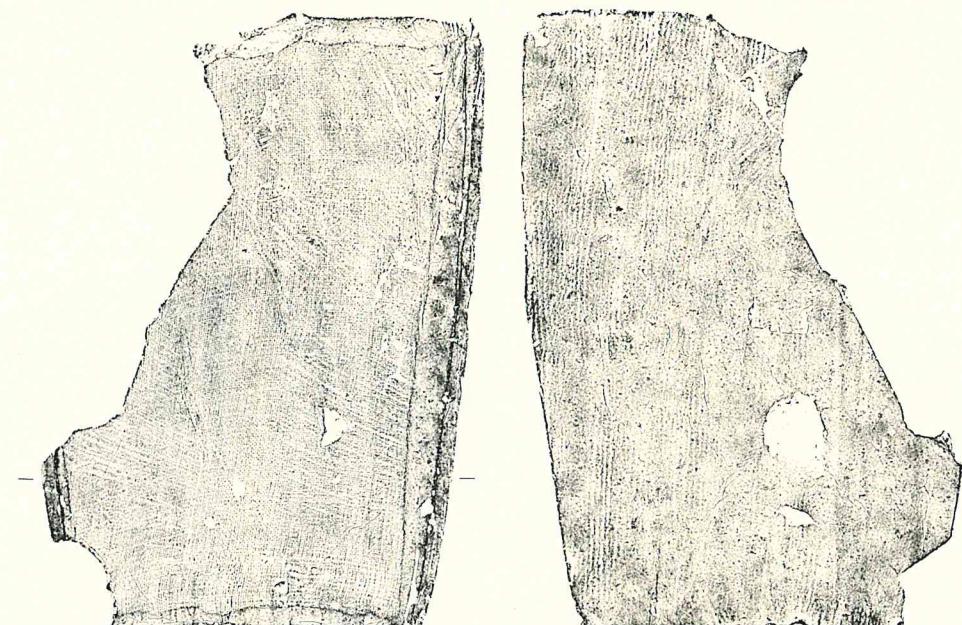
208



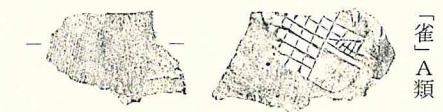
209



210



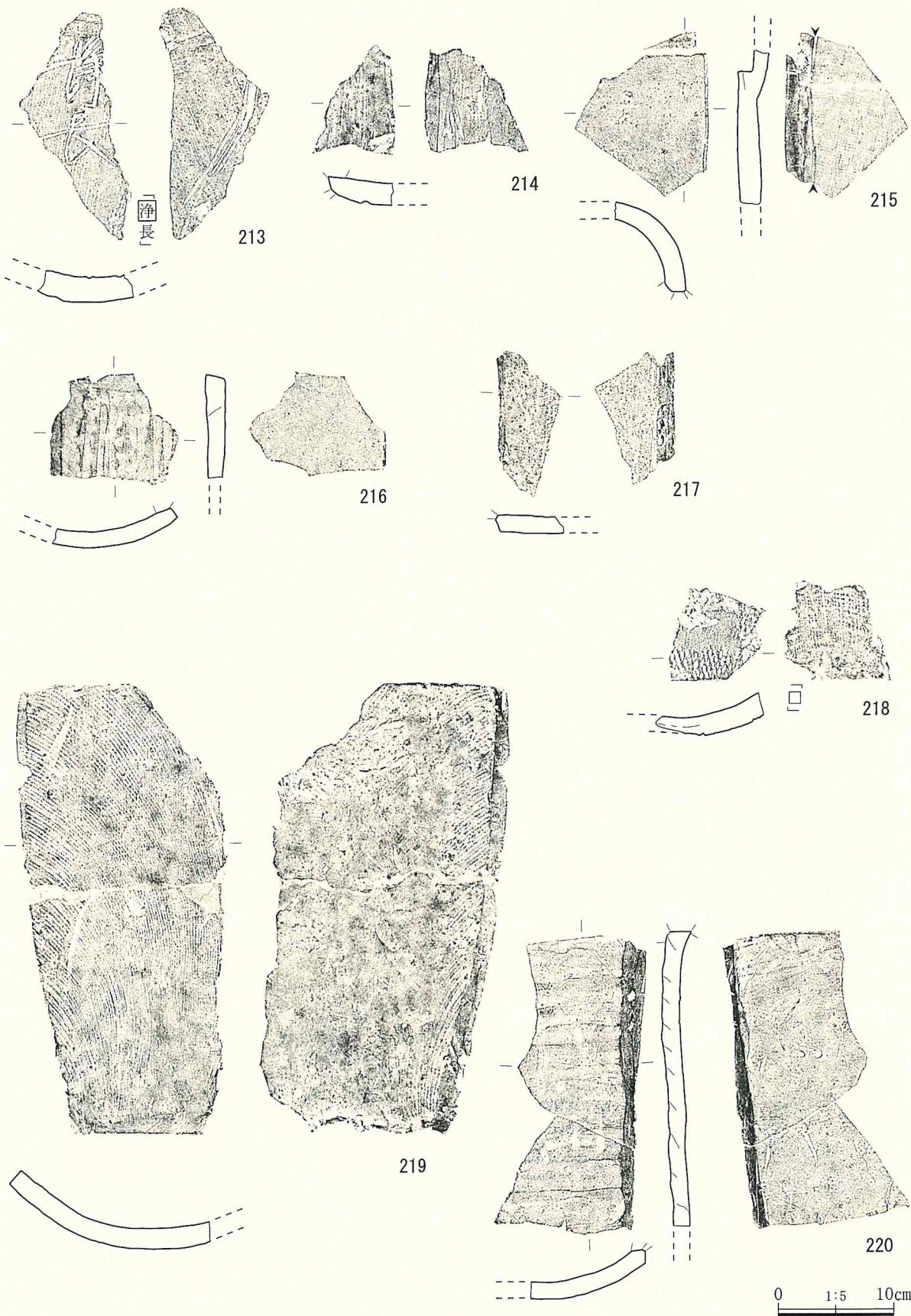
211



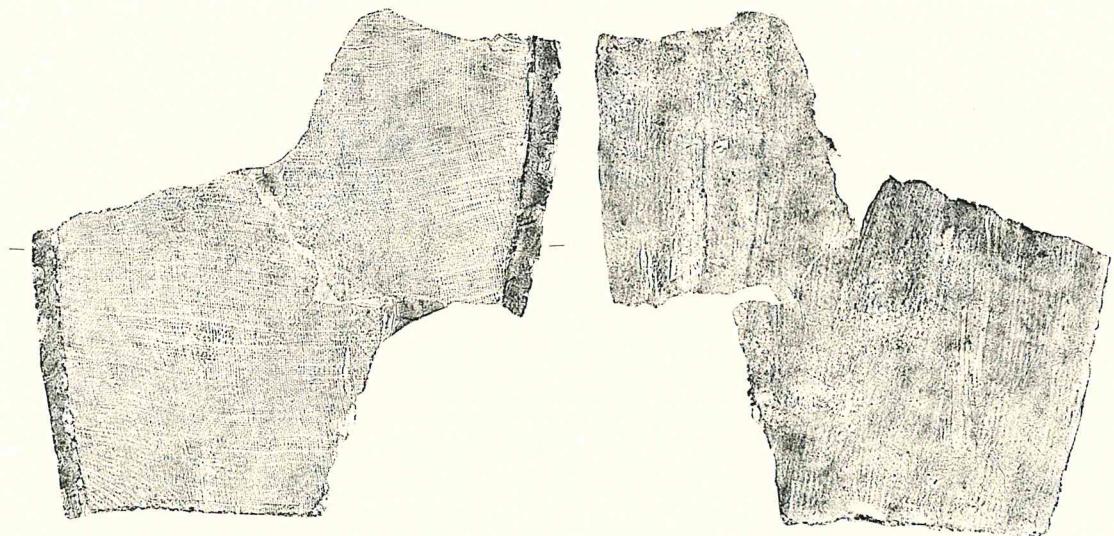
212

0 1:5 10cm

第137図 瓦43 東面回廊(1)



第138図 瓦44 東面回廊(2)

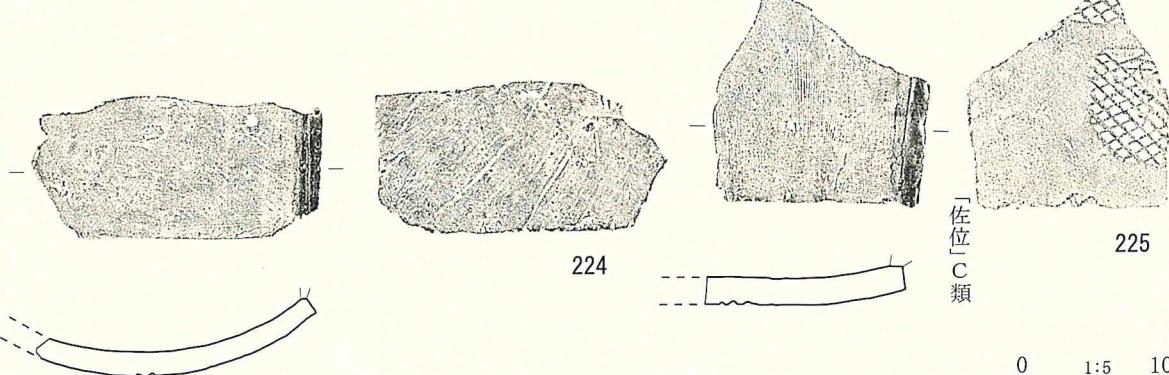


221



222

223



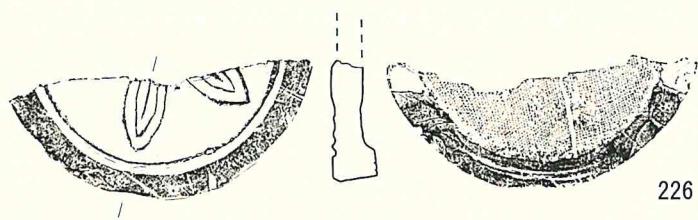
224

225

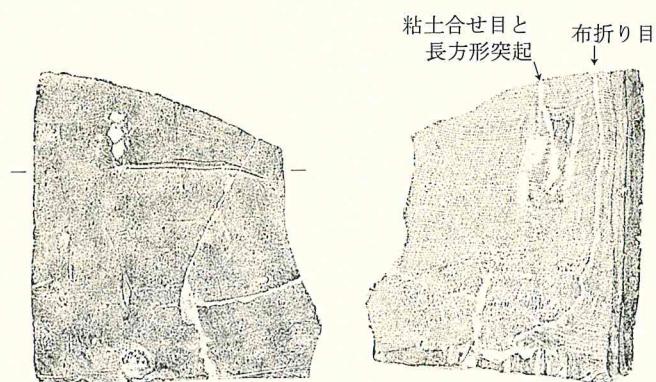
佐位  
C類

0 1:5 10cm

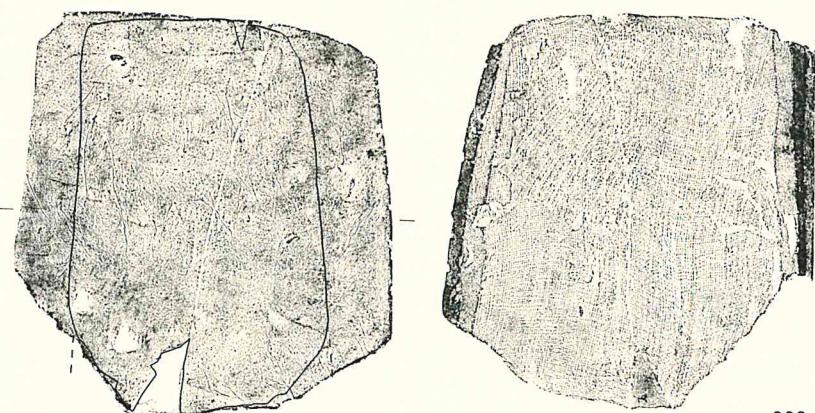
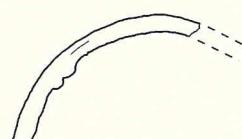
第139図 瓦45 東面回廊(3)



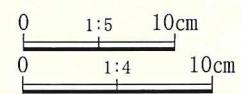
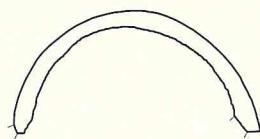
226



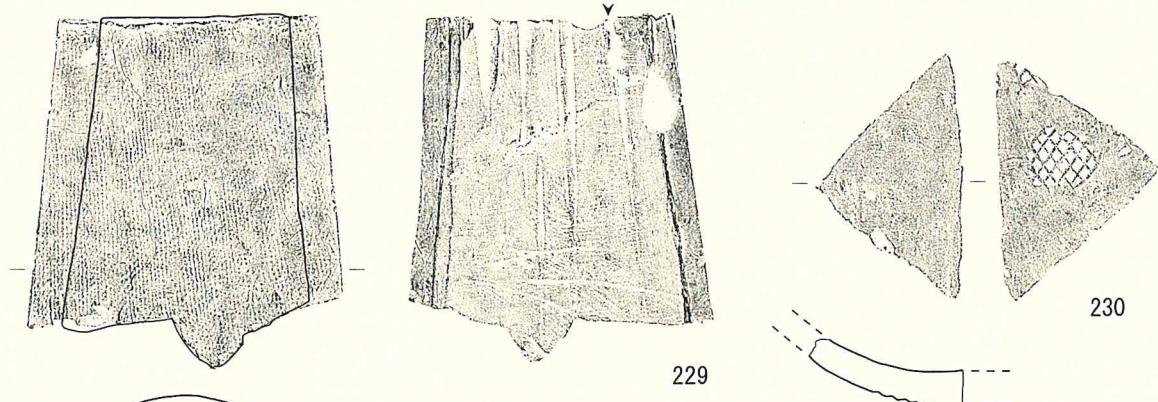
227



228

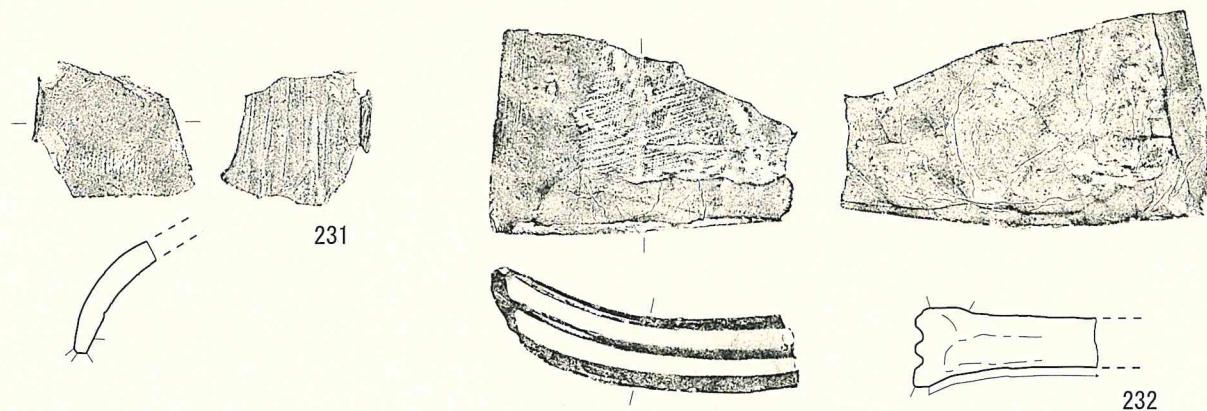


第140図 瓦46 東面回廊(4)



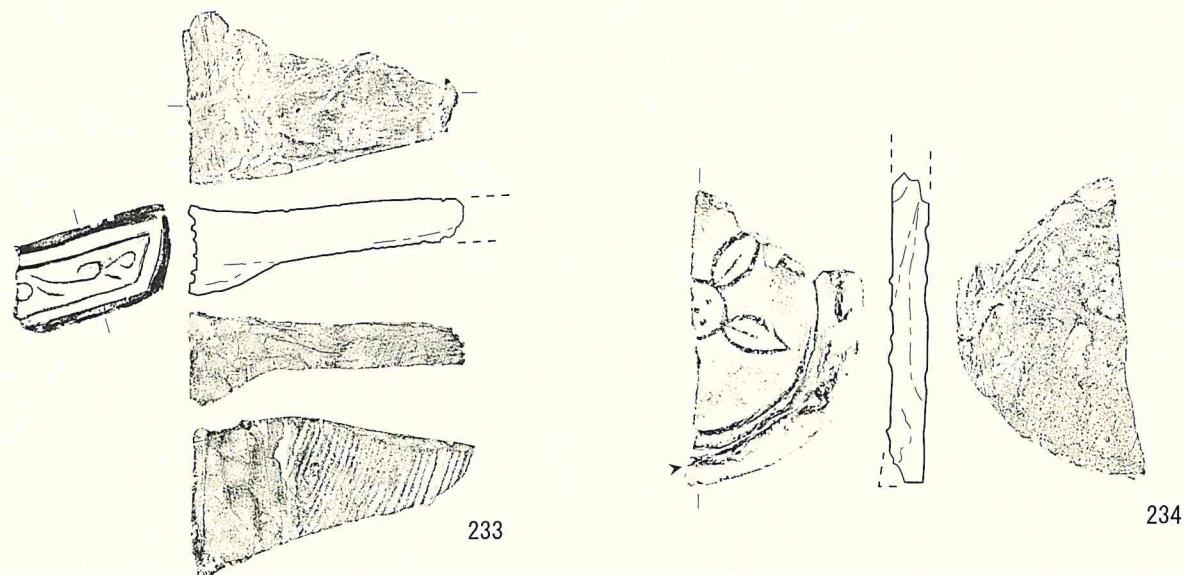
229

230



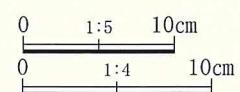
231

232

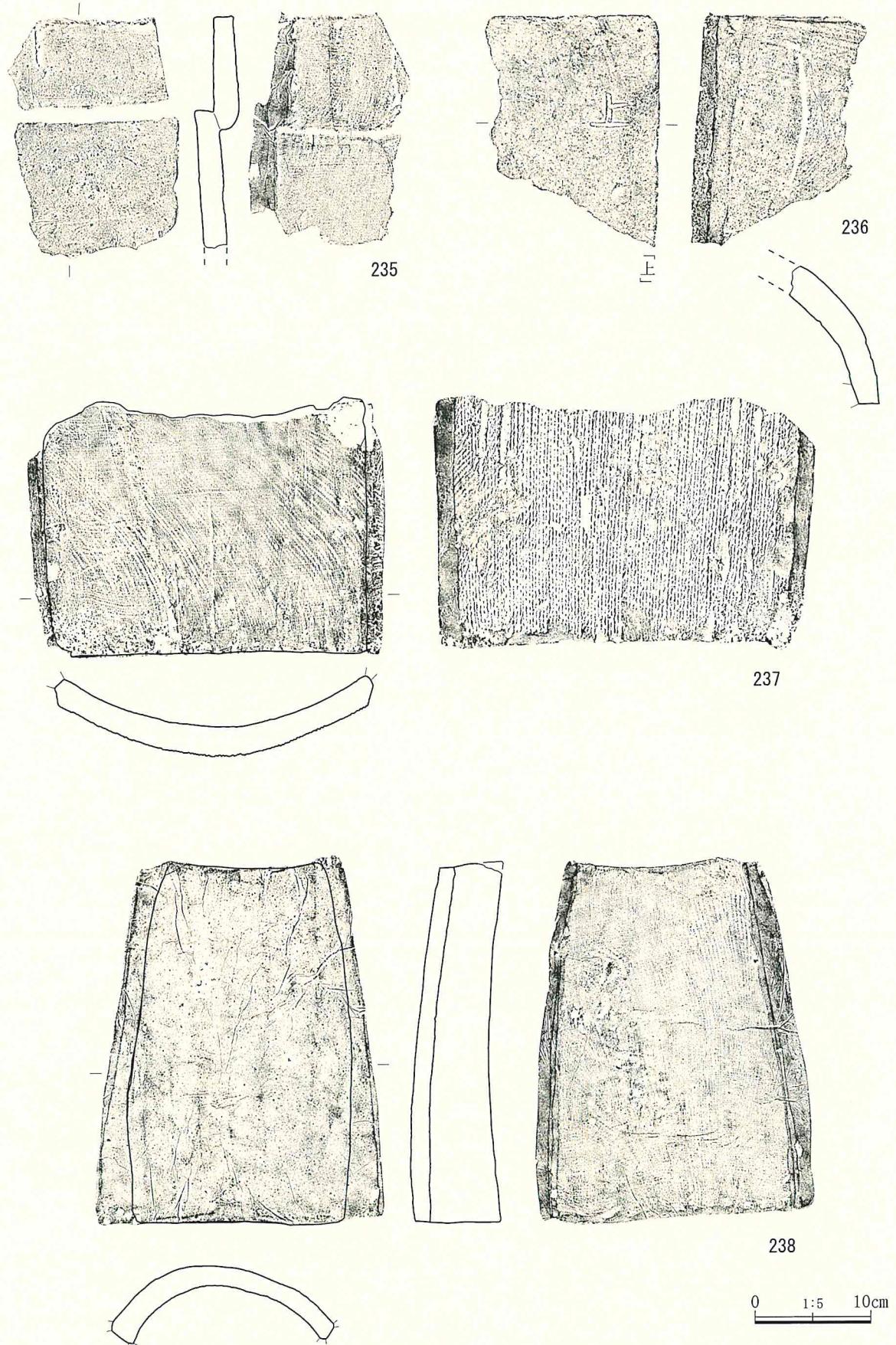


233

234



第141図 瓦47 東面回廊(5)

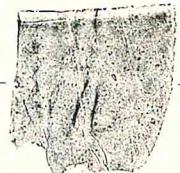


第142図 瓦48 東面回廊(6)

尼坊



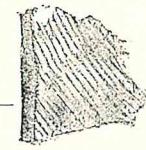
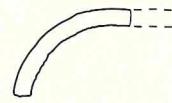
239



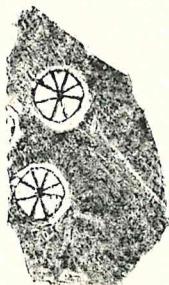
240



241



242



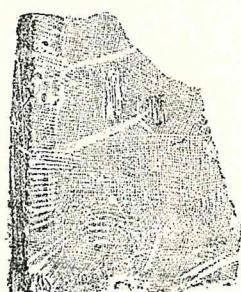
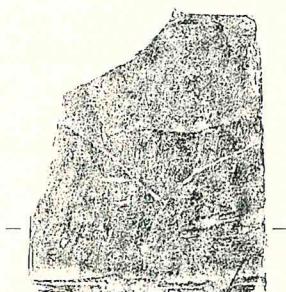
243



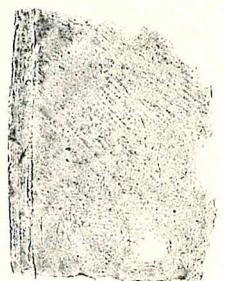
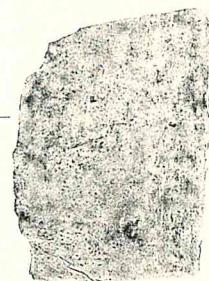
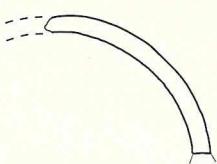
「法輪」



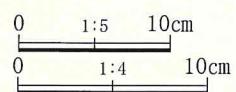
244



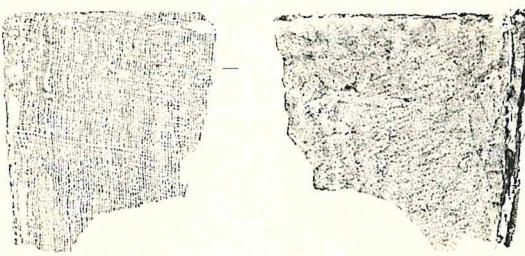
245



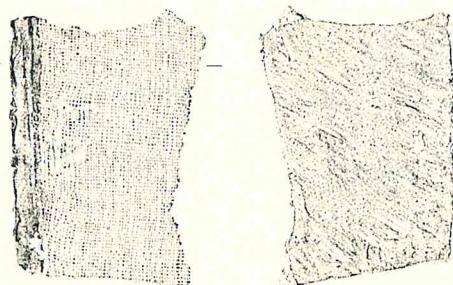
246



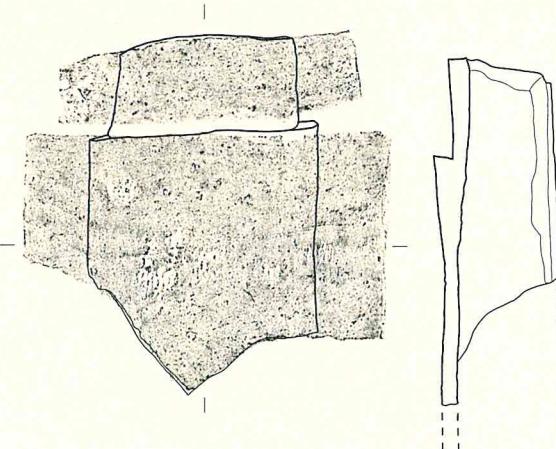
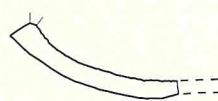
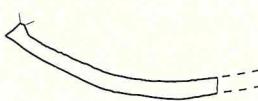
第143図 瓦49 尼坊(1)



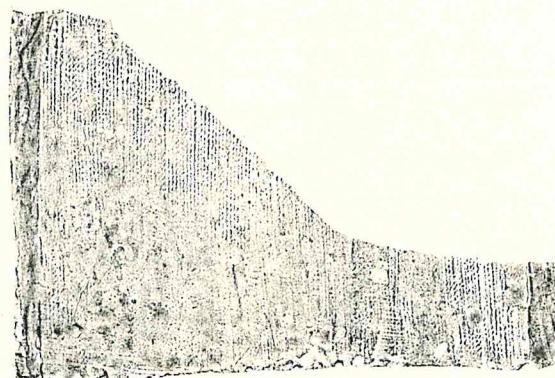
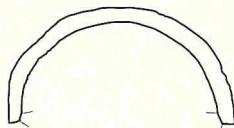
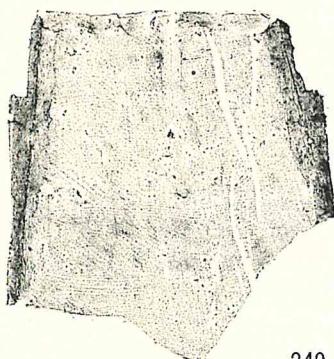
247



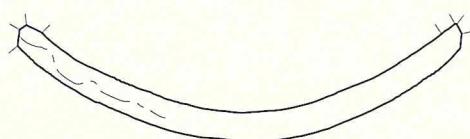
248



249

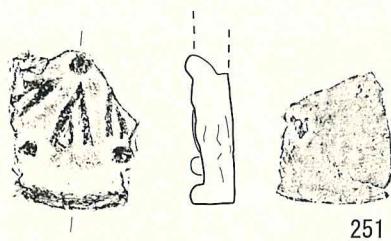


250

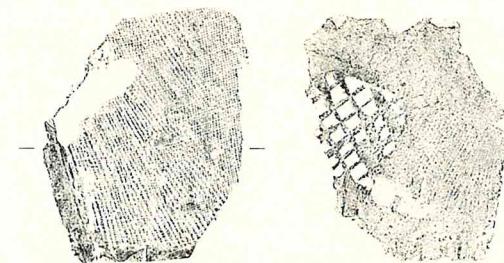


0 1:5 10cm

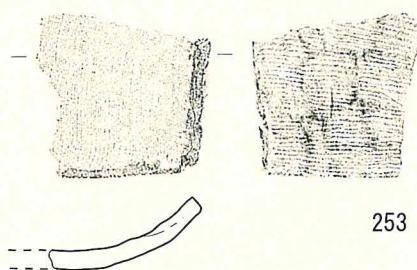
第144図 瓦50 尼坊(2)



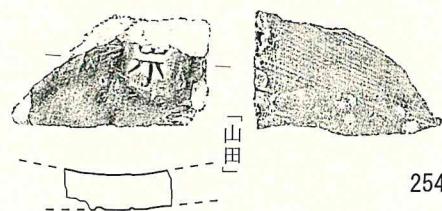
251



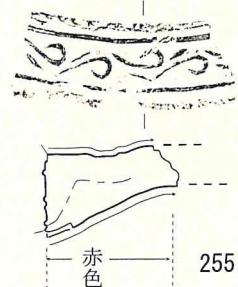
252



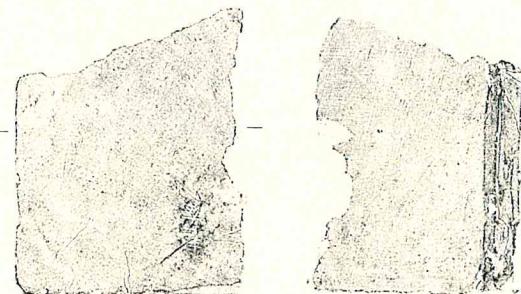
253



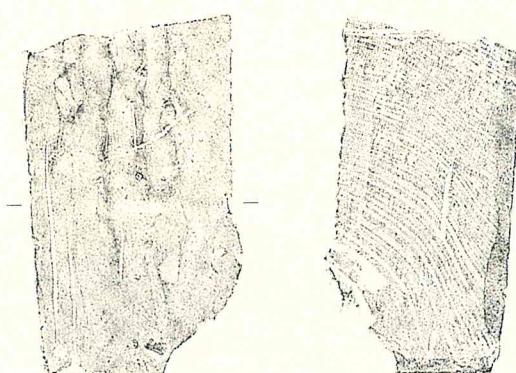
254



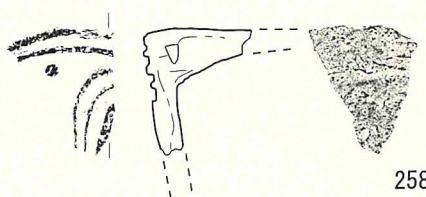
255



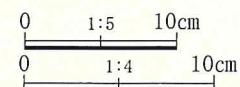
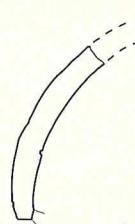
256



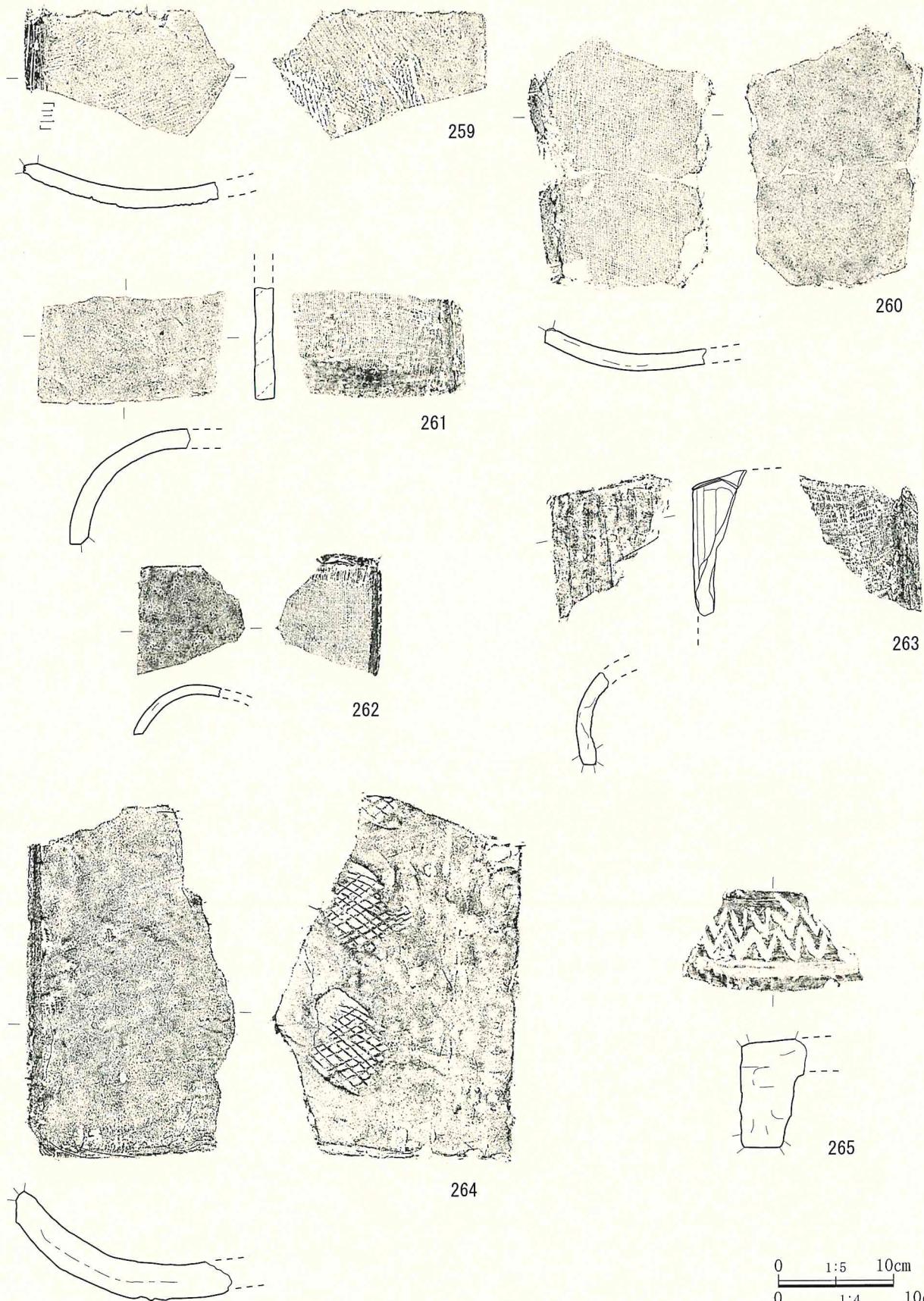
257



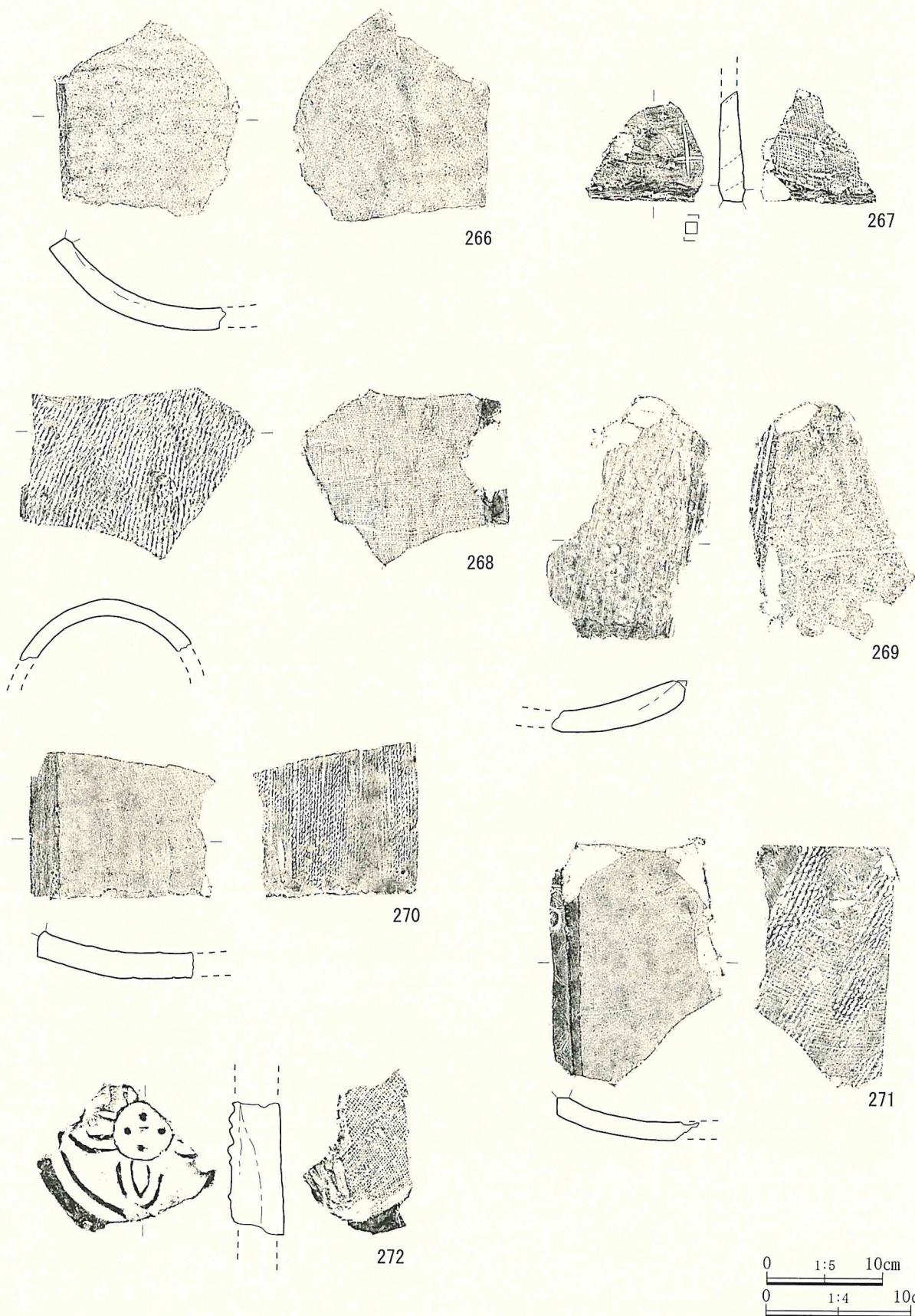
258



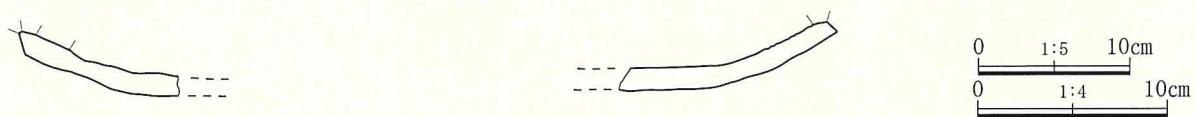
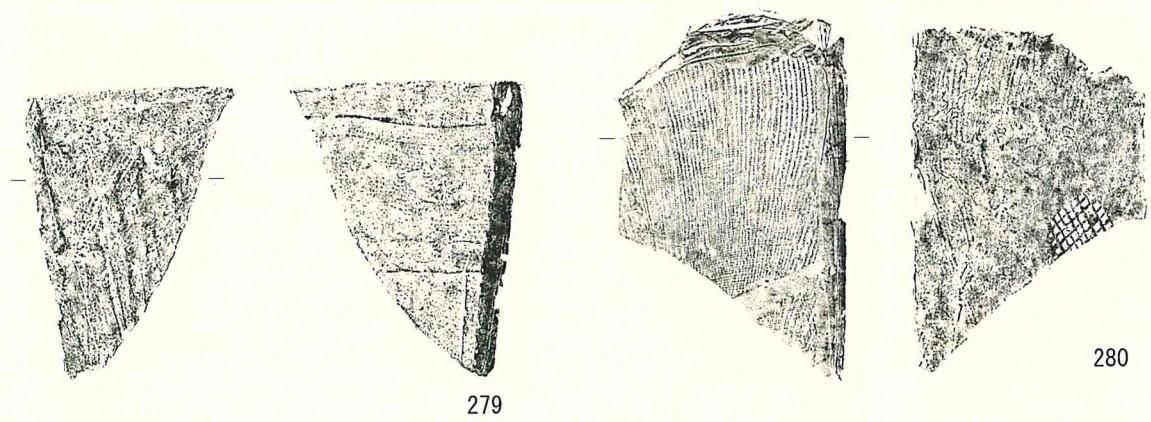
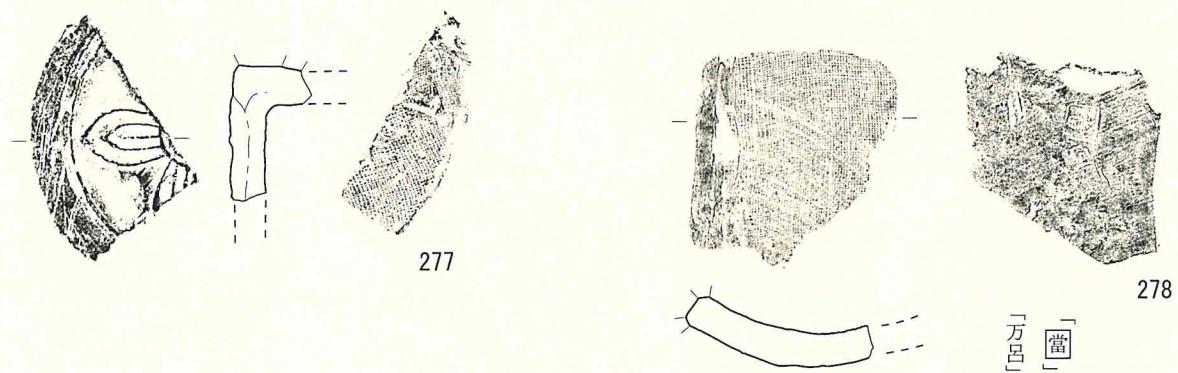
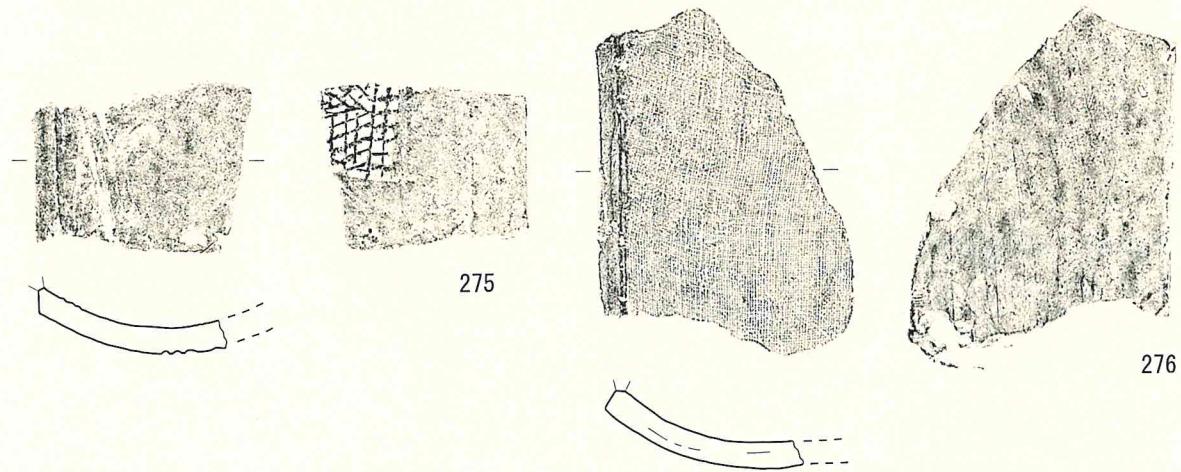
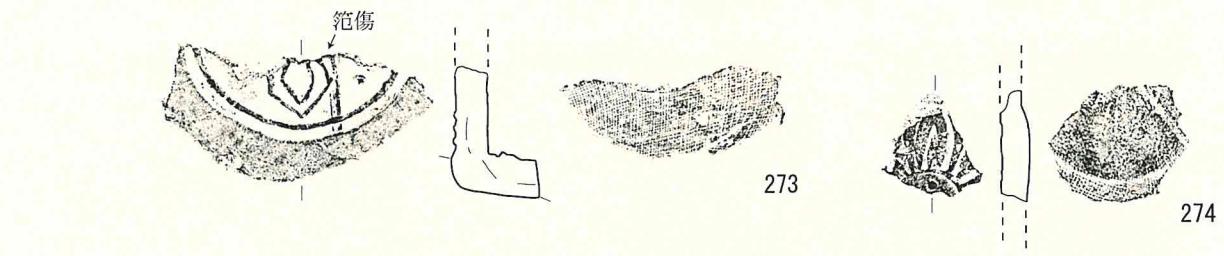
第145図 瓦51 尼坊(3)



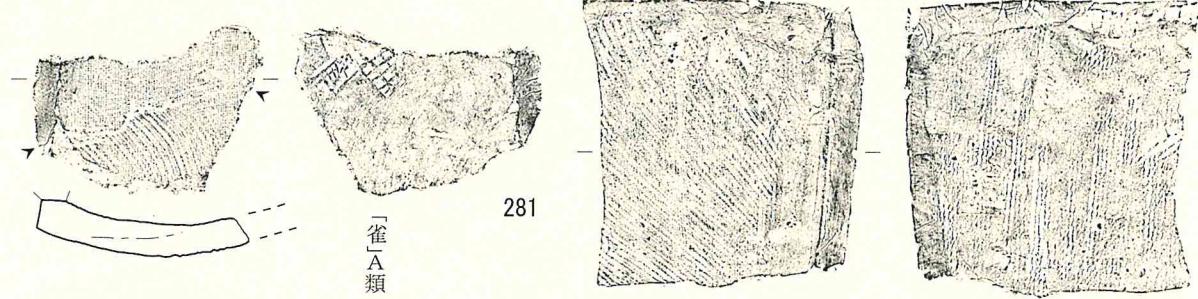
第146図 瓦52 尼坊(4)



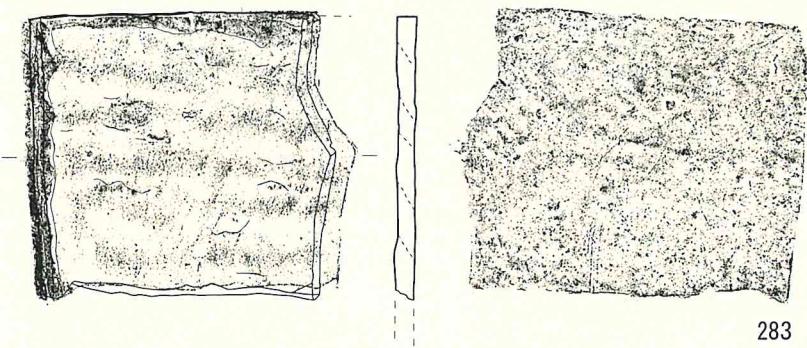
第147図 瓦53 尼坊(5)



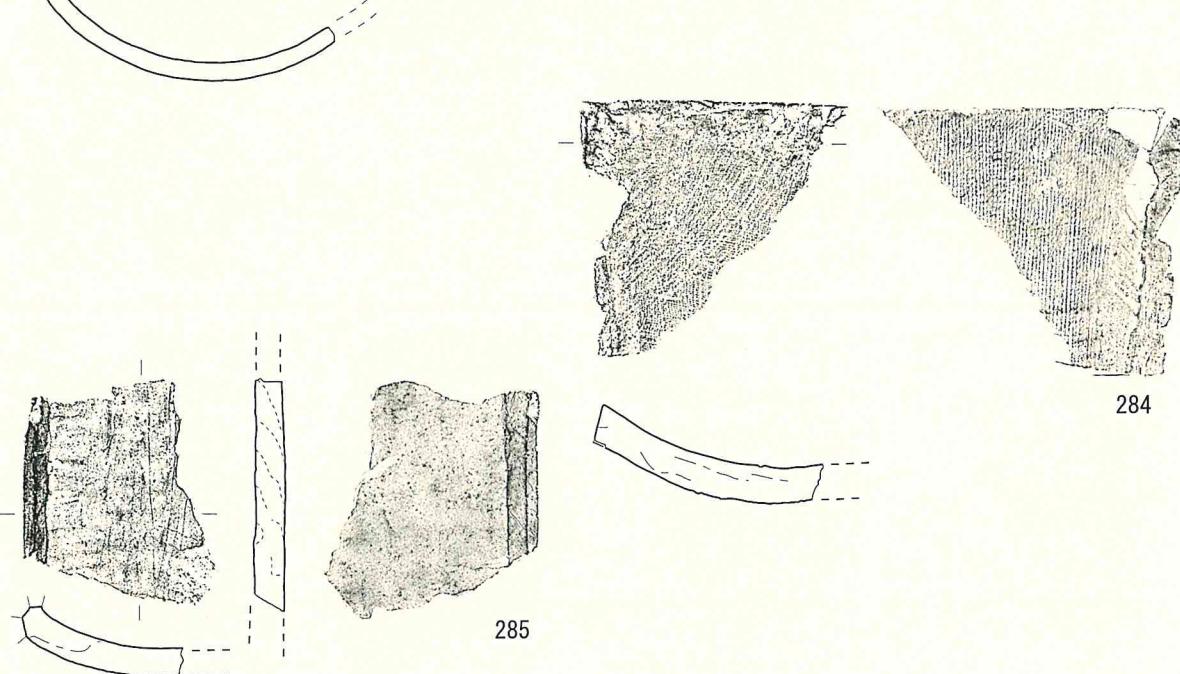
第148図 瓦54 尼坊(6)



282



283

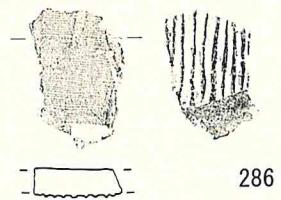


284

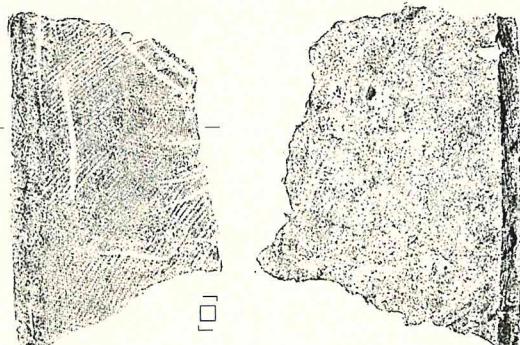
285

0 1:5 10cm

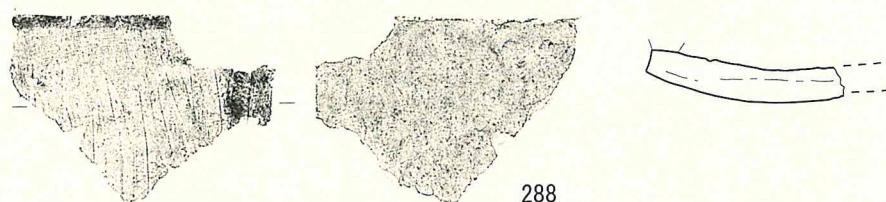
第149図 瓦55 尼坊(7)



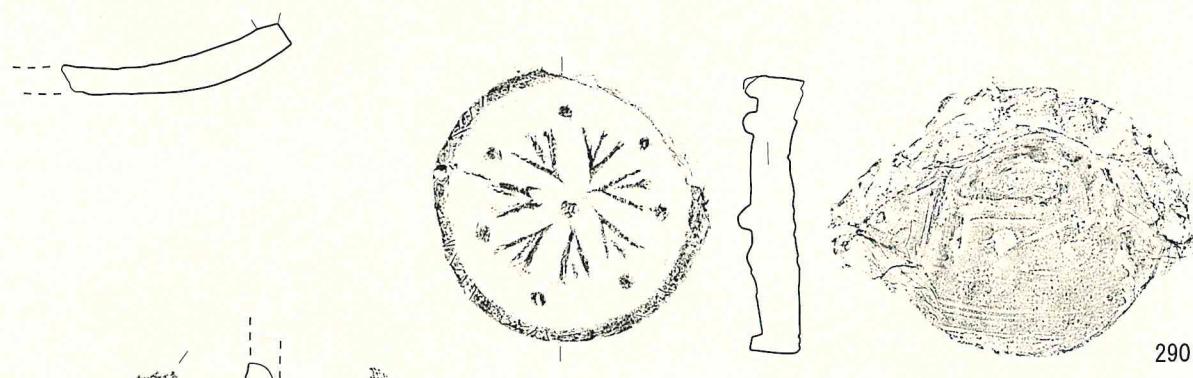
286



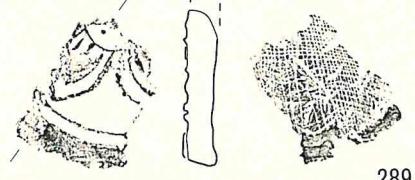
287



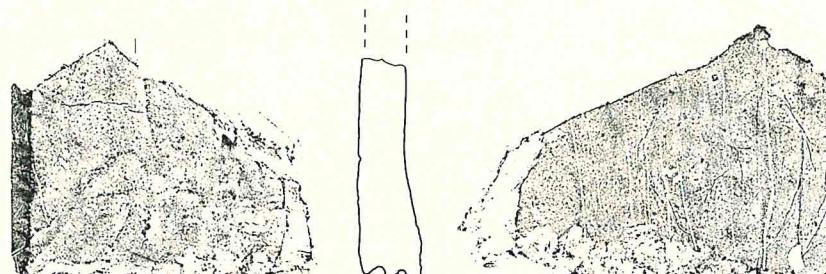
288



290



289



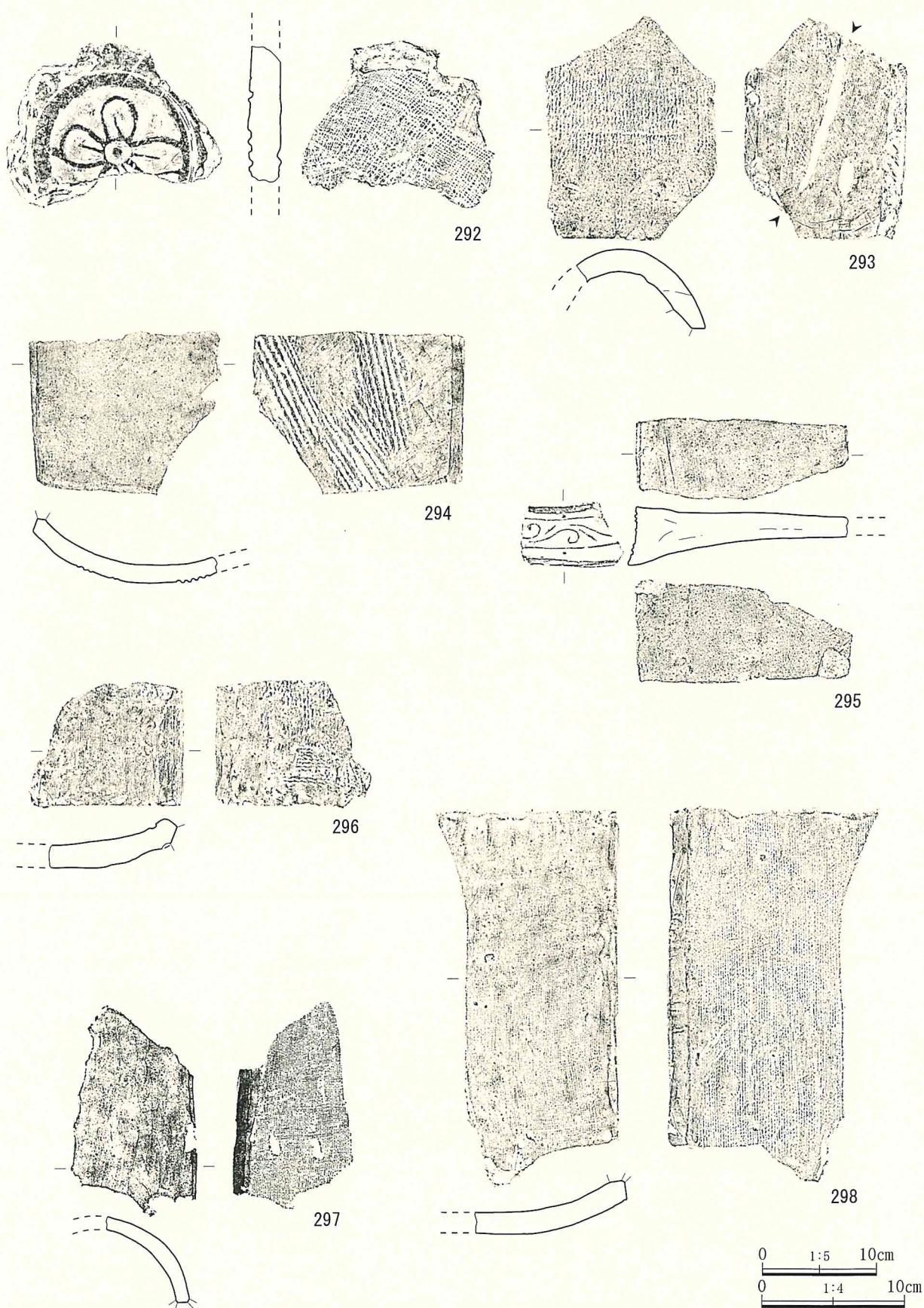
291



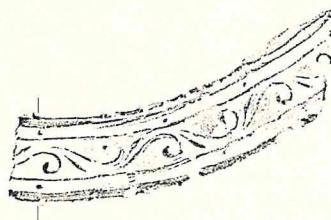
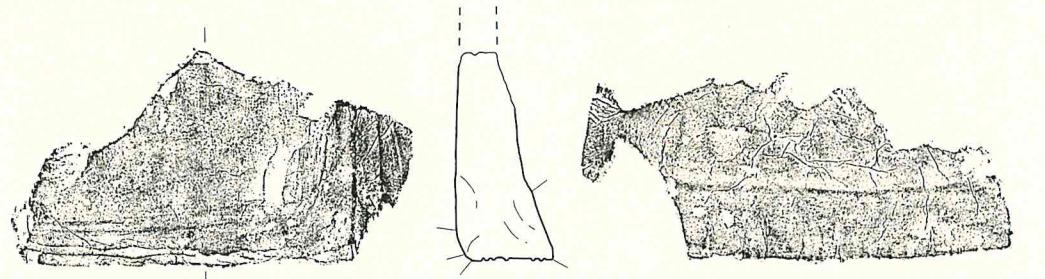
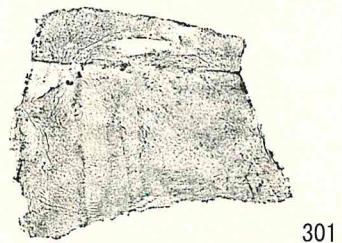
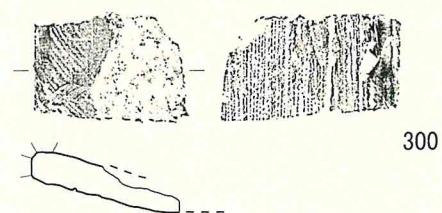
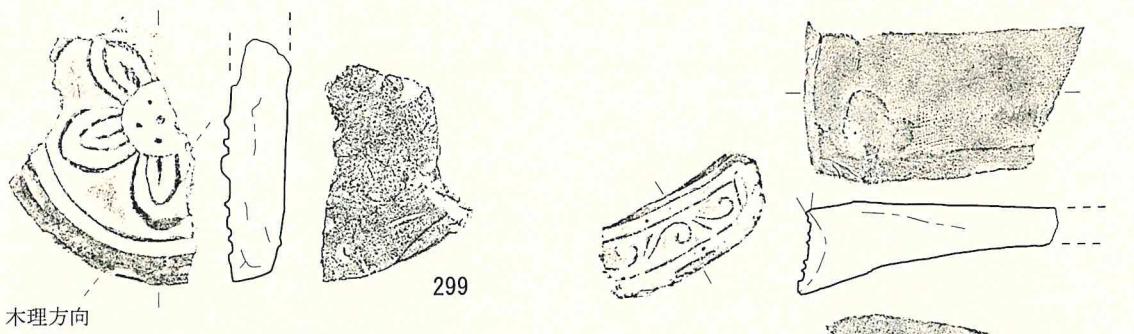
0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

第150図 瓦56 尼坊(8)

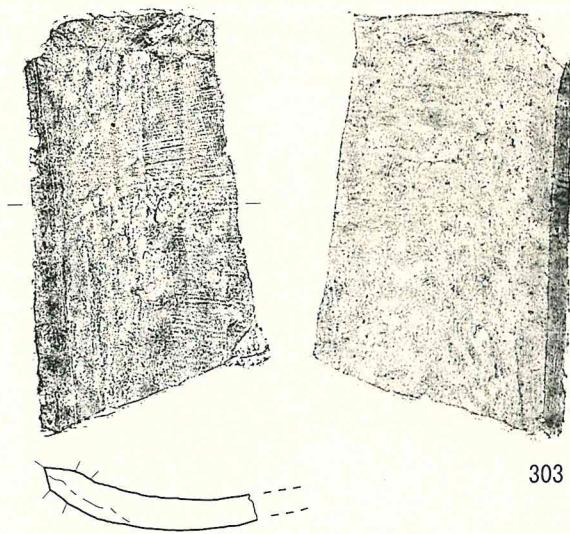
伽藍地北辺内側



第151図 瓦57 伽藍地北辺内側(1)

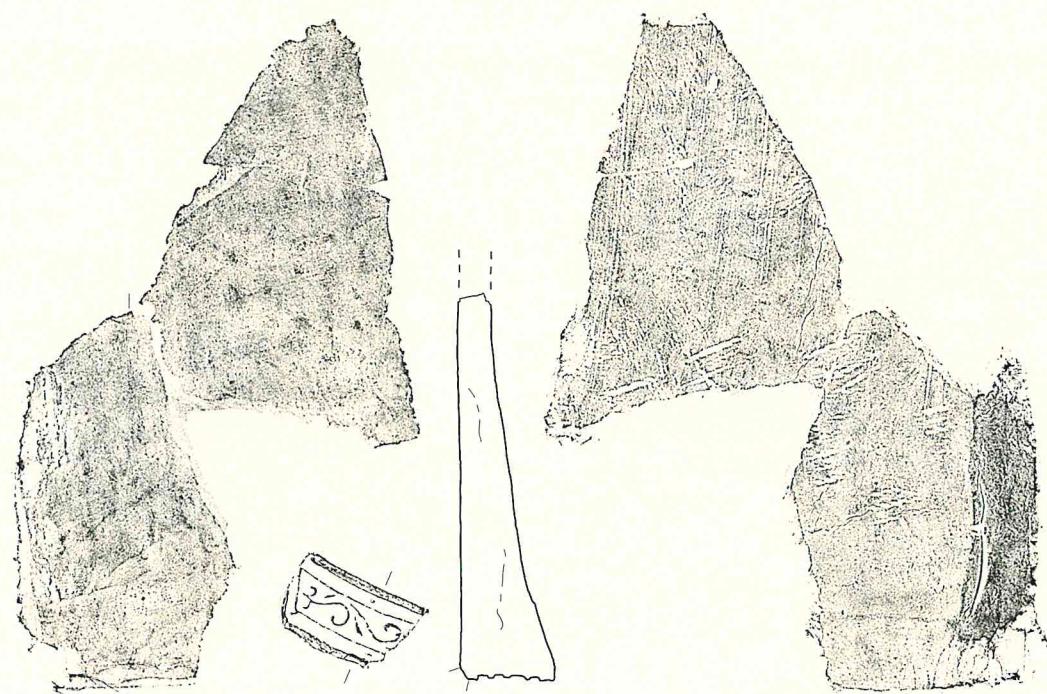


伽藍地北辺外側

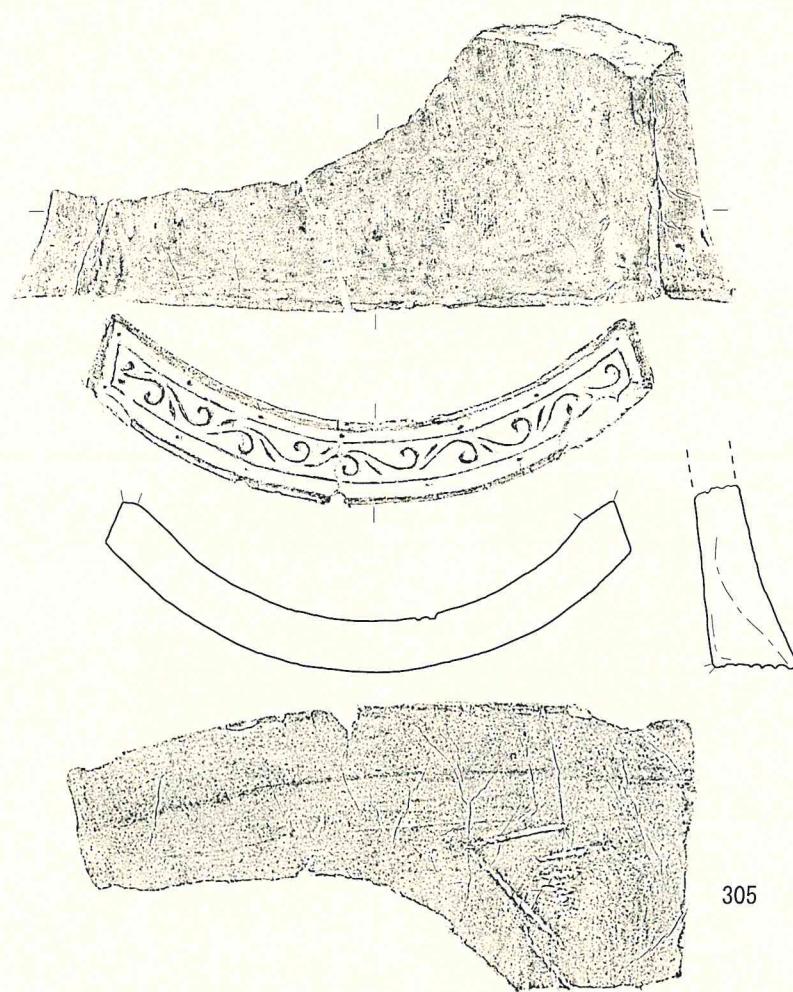


0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

第152図 瓦58 伽藍地北辺内側(2)・伽藍地北辺外側(1)



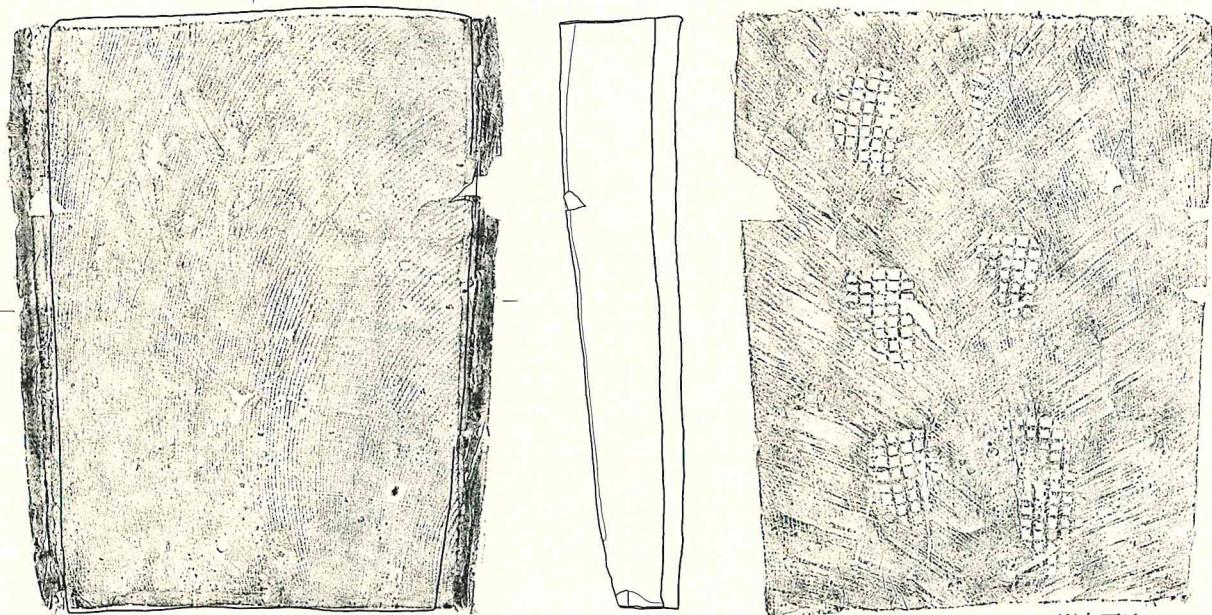
304



305

0 1:4 10cm

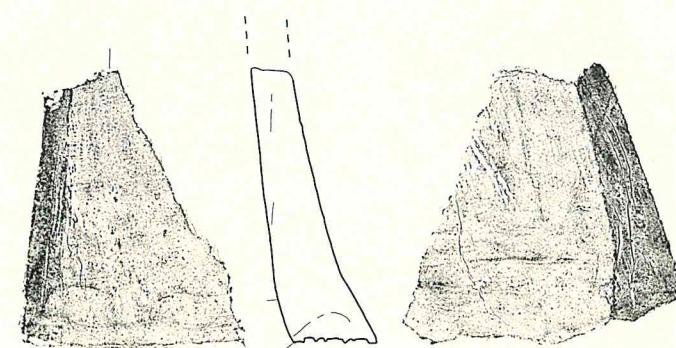
第153図 瓦59 伽藍地北辺外側(2)



復元した  
原体

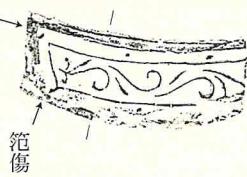
※右下は  
重ね打ち

306

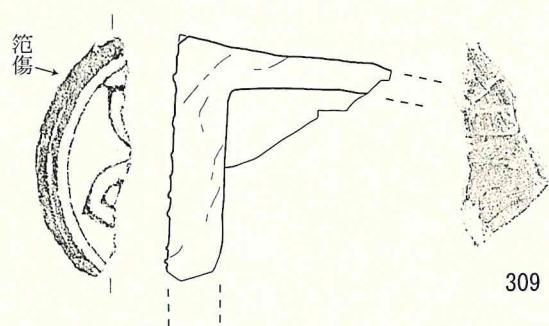


307

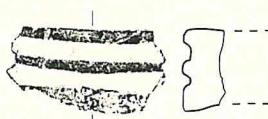
範傷



308

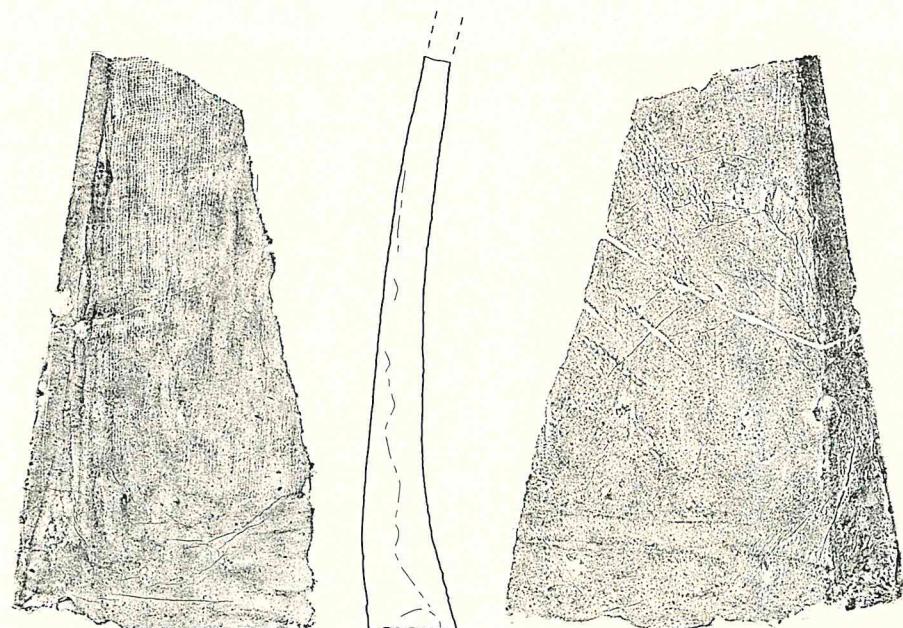


309

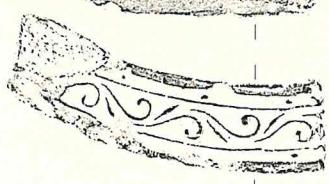


0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

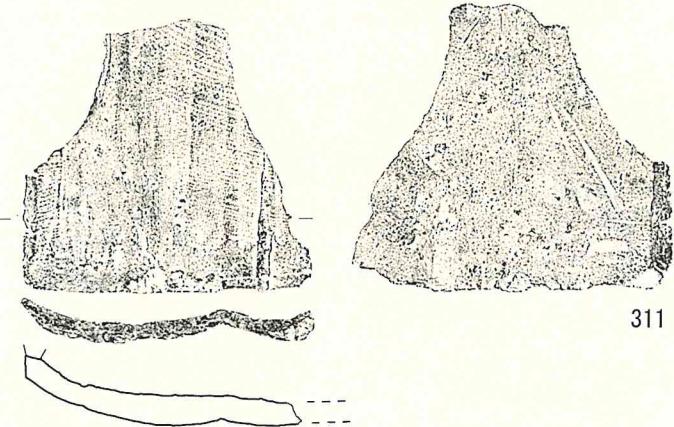
第154図 瓦60 伽藍地北辺外側(3)



310



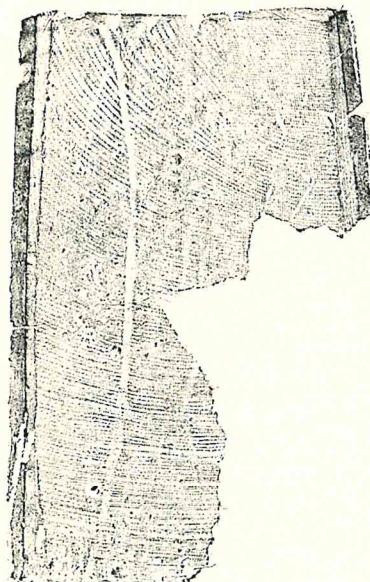
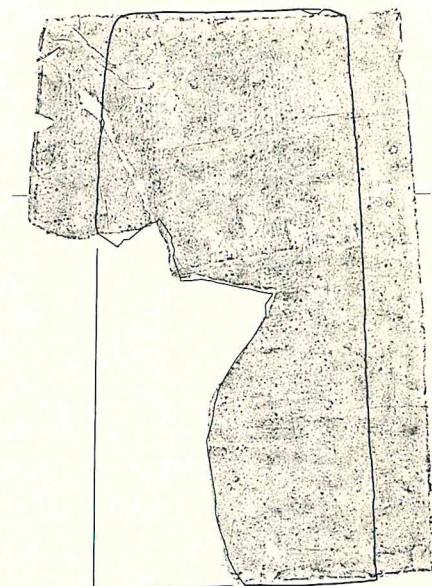
311



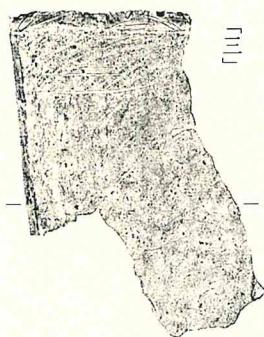
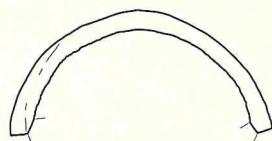
312

0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

第155図 瓦61 伽藍地北辺外側(4)



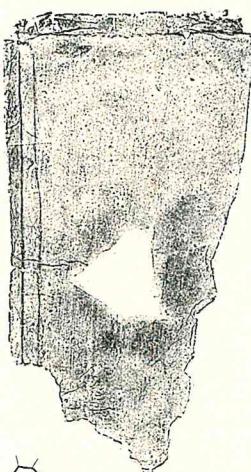
313



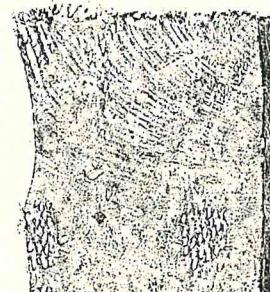
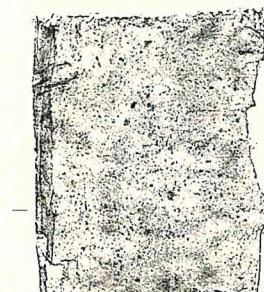
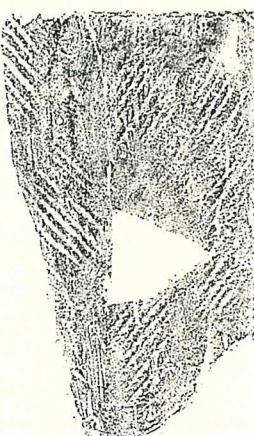
〔三〕



314



315

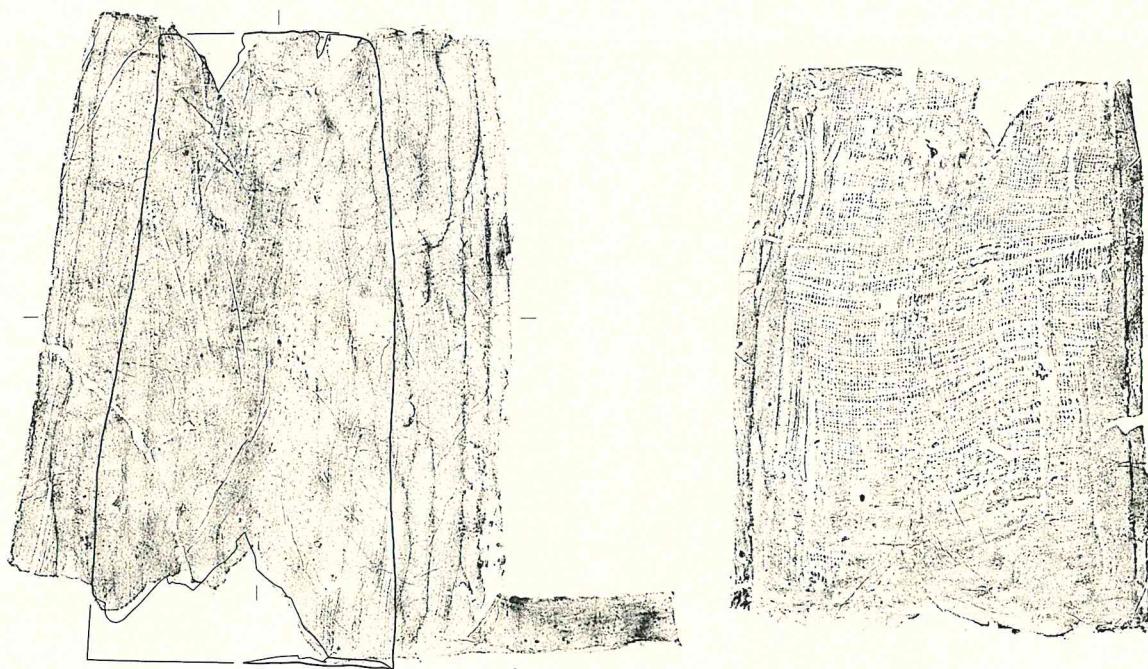


316

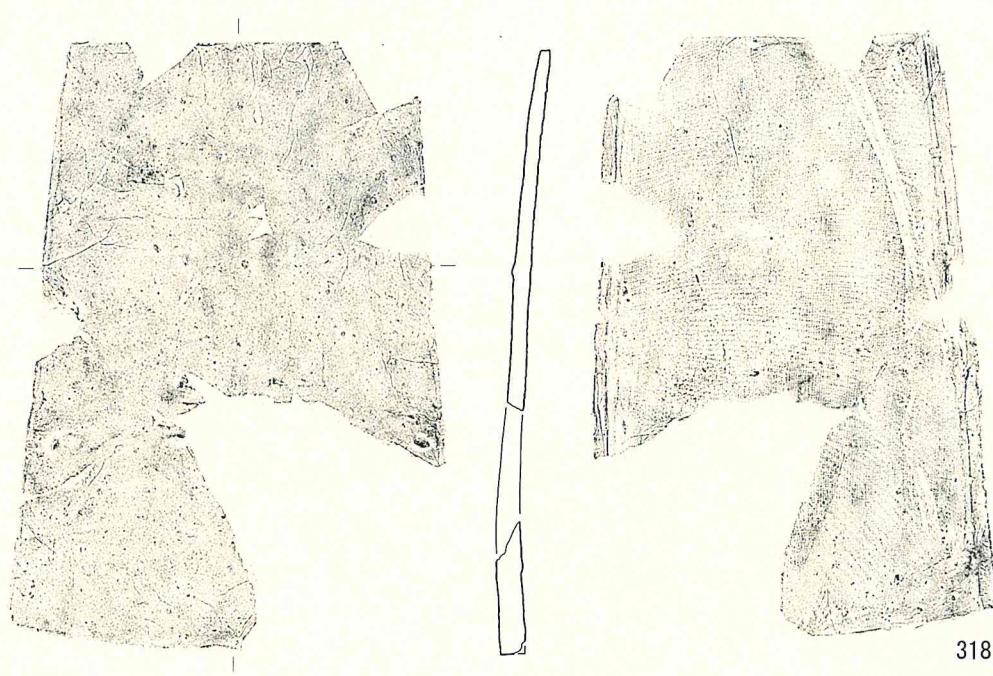


0 1:5 10cm

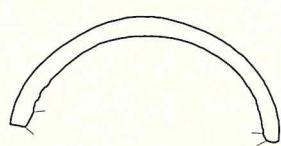
第156図 瓦62 伽藍地北辺外側(5)



317

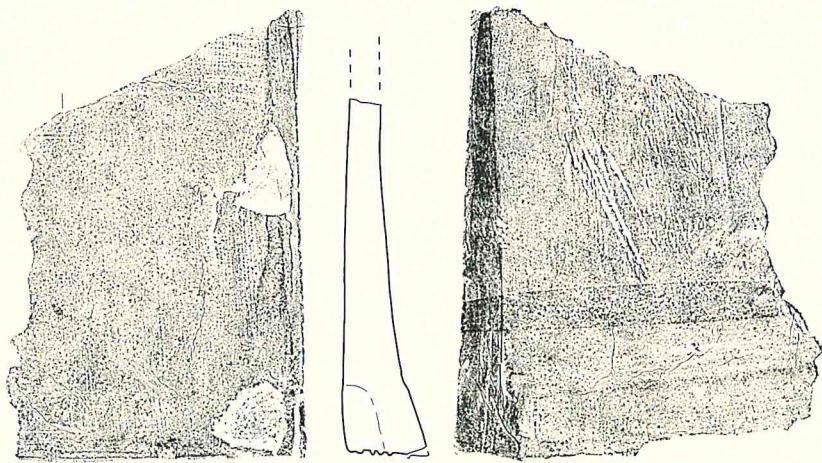


318

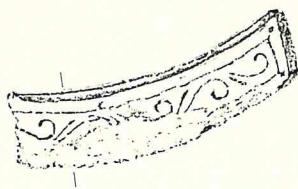


0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

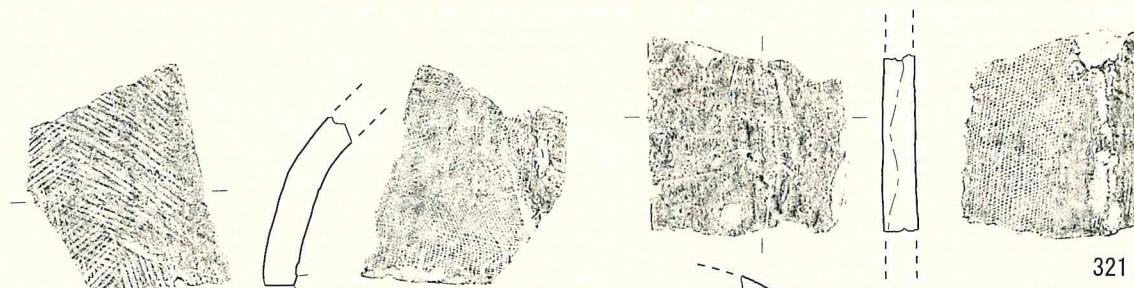
第157図 瓦63 伽藍地北辺外側(6)



319

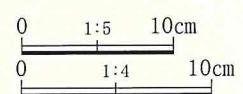


伽藍地区画北東隅

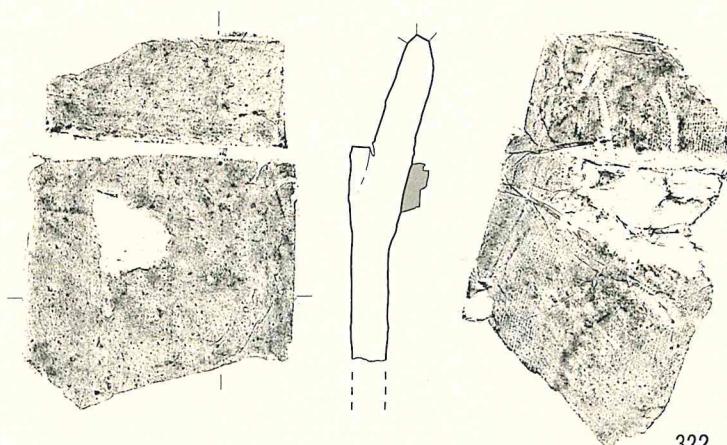


320

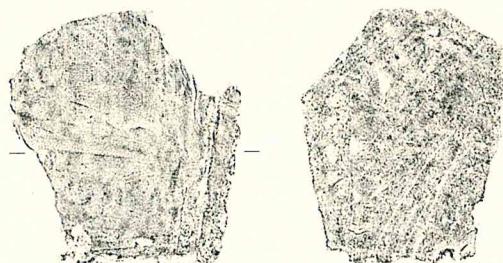
321



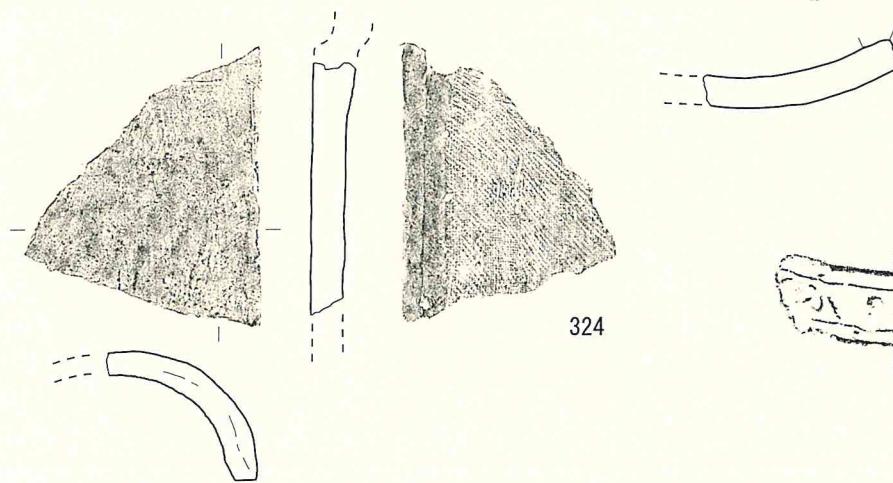
第158図 瓦64 伽藍地北辺外側(7)・伽藍地区画北東隅(1)



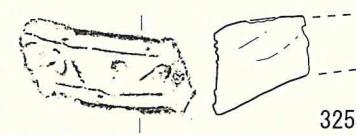
322



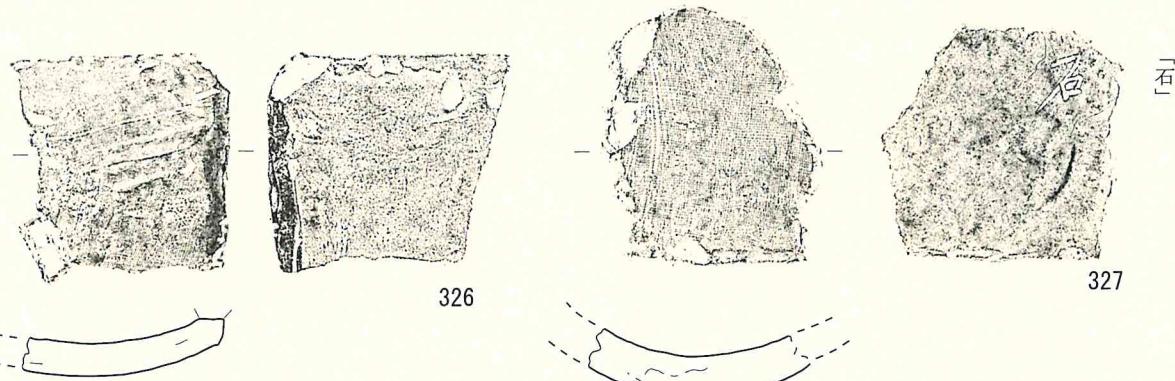
323



324



325



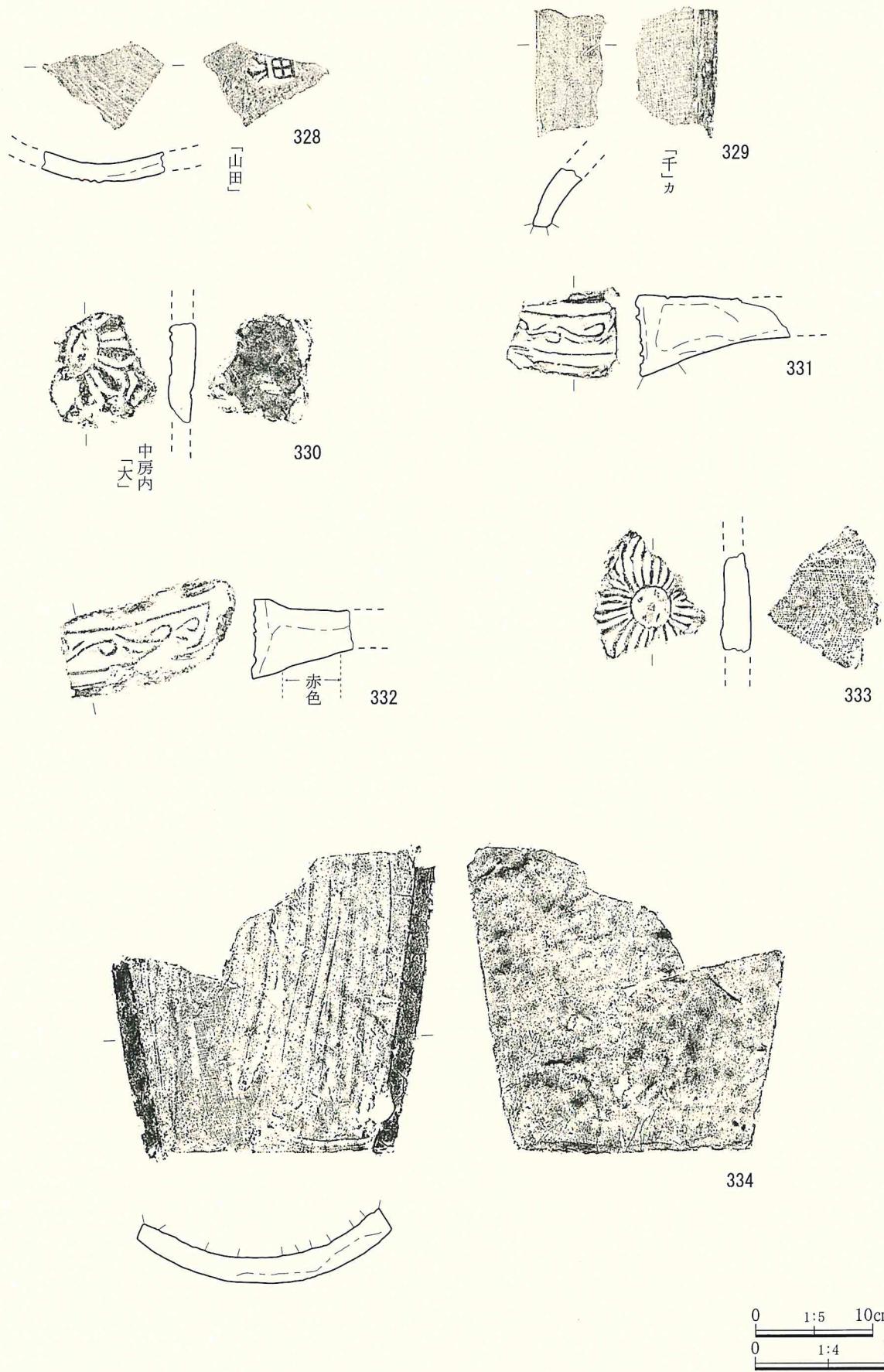
326



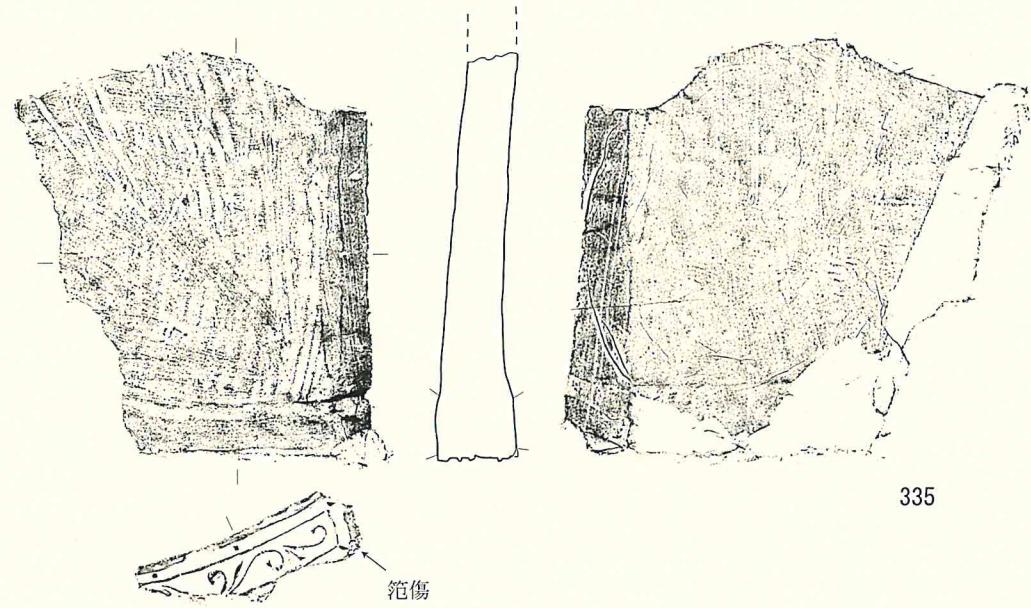
327

0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

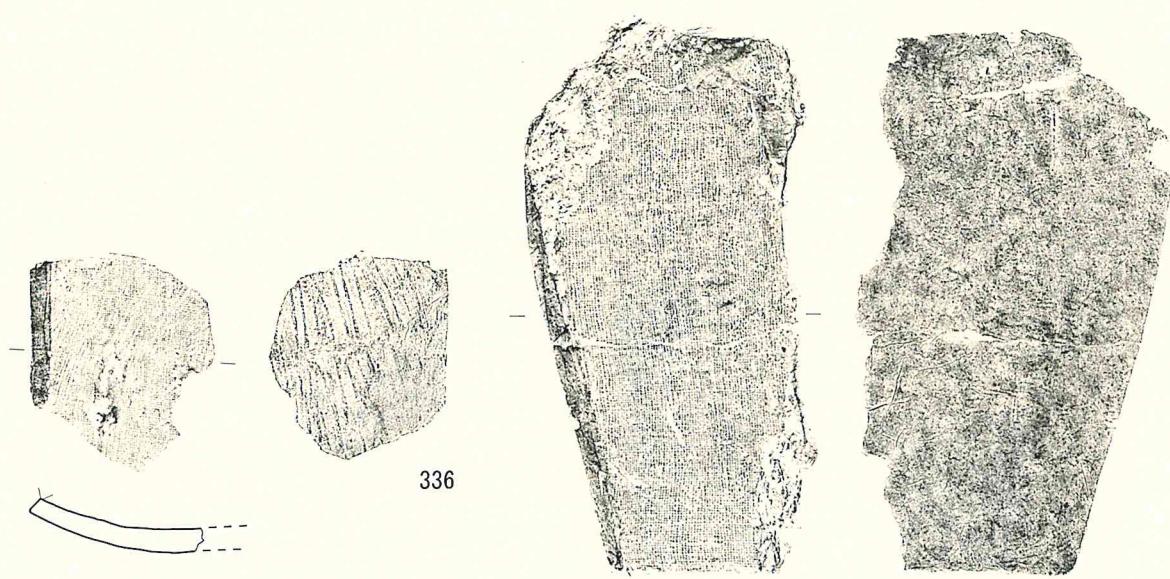
第159図 瓦65 伽藍地区画北東隅(2)



第160図 瓦66 伽藍地区画北東隅(3)

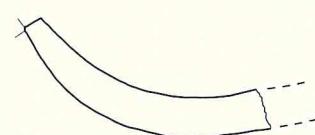


335



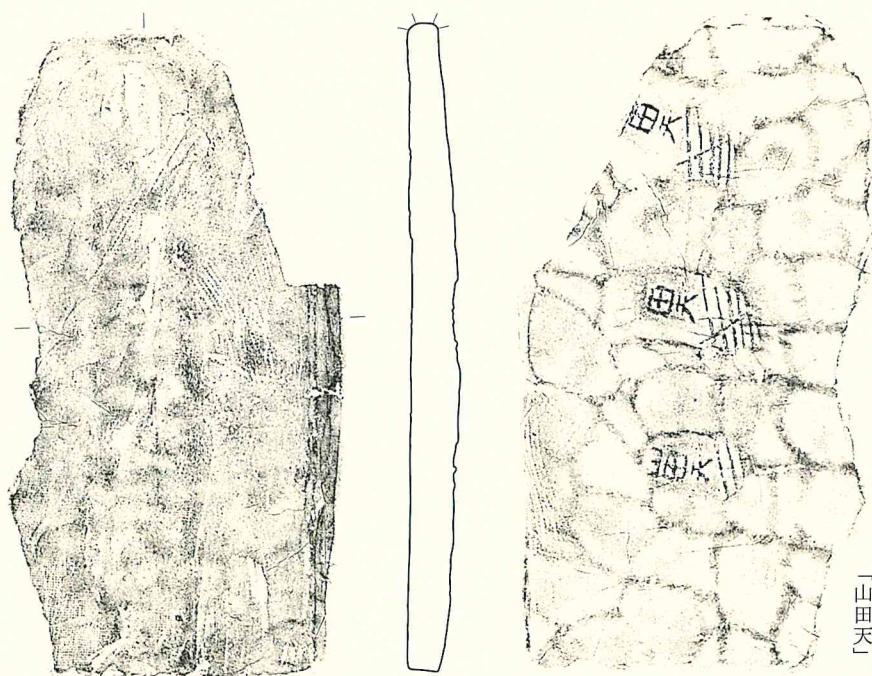
336

337

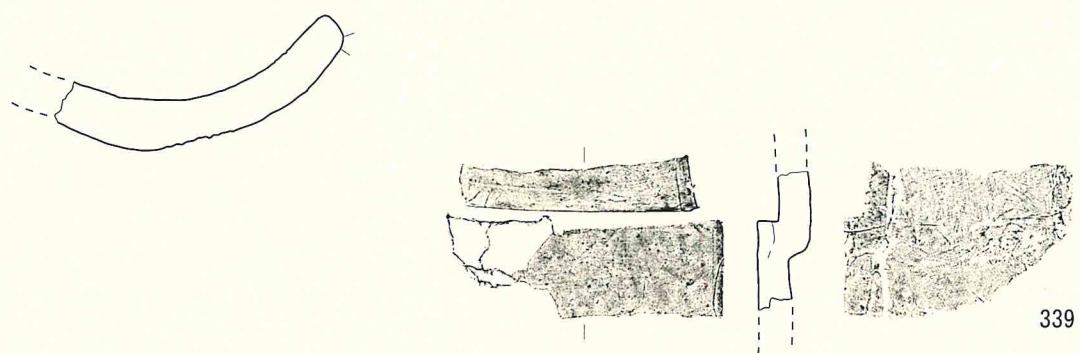


0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

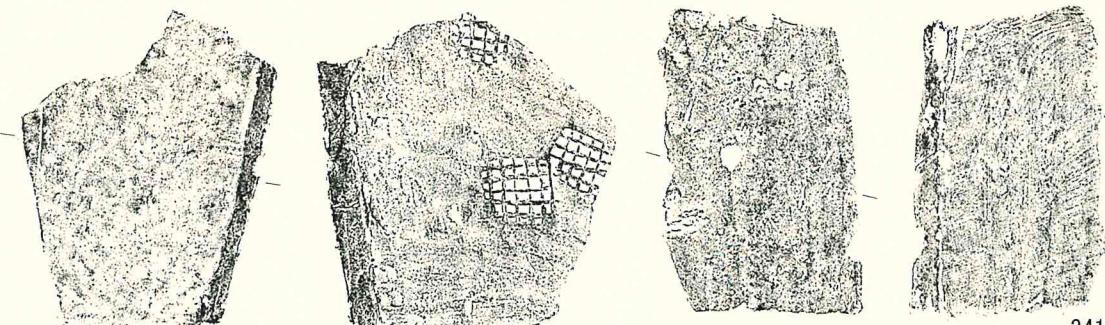
第161図 瓦67 伽藍地区画北東隅(4)



338



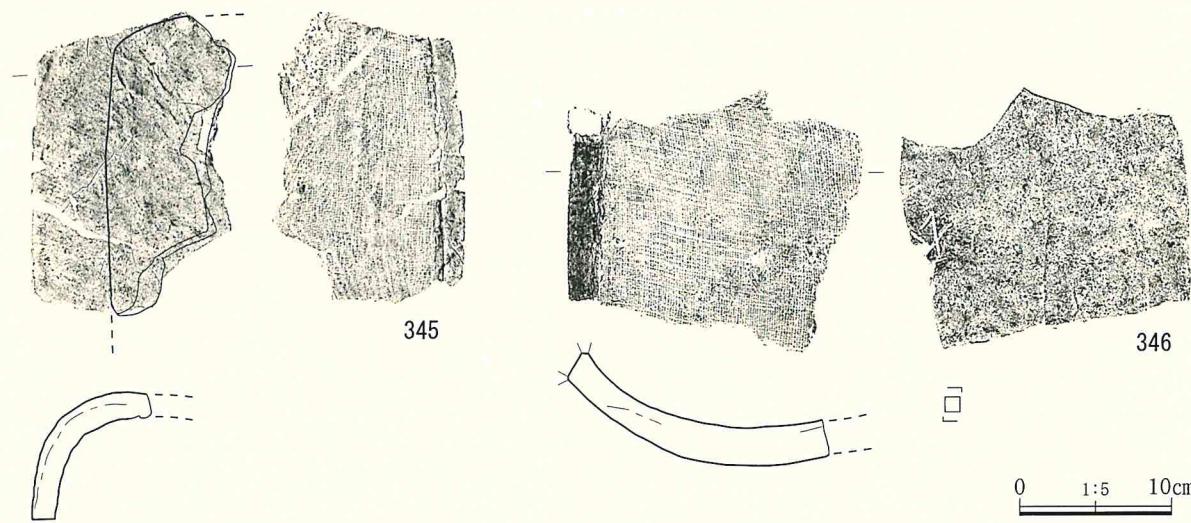
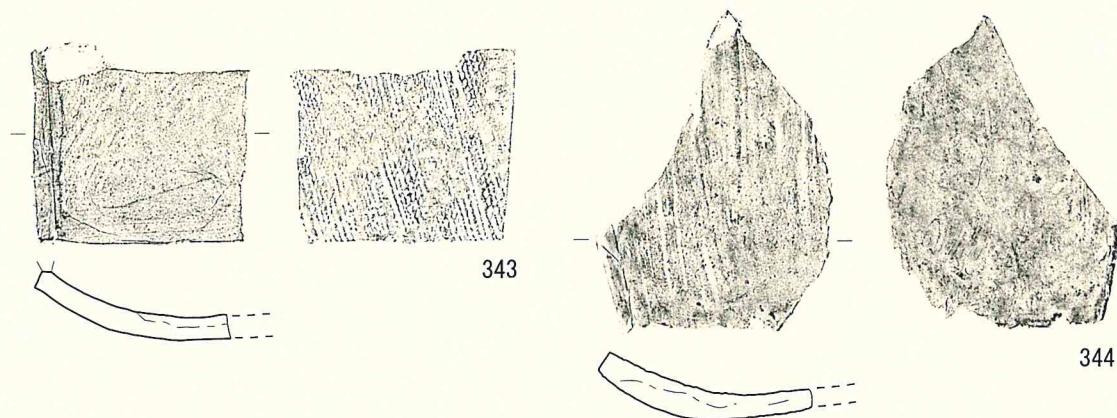
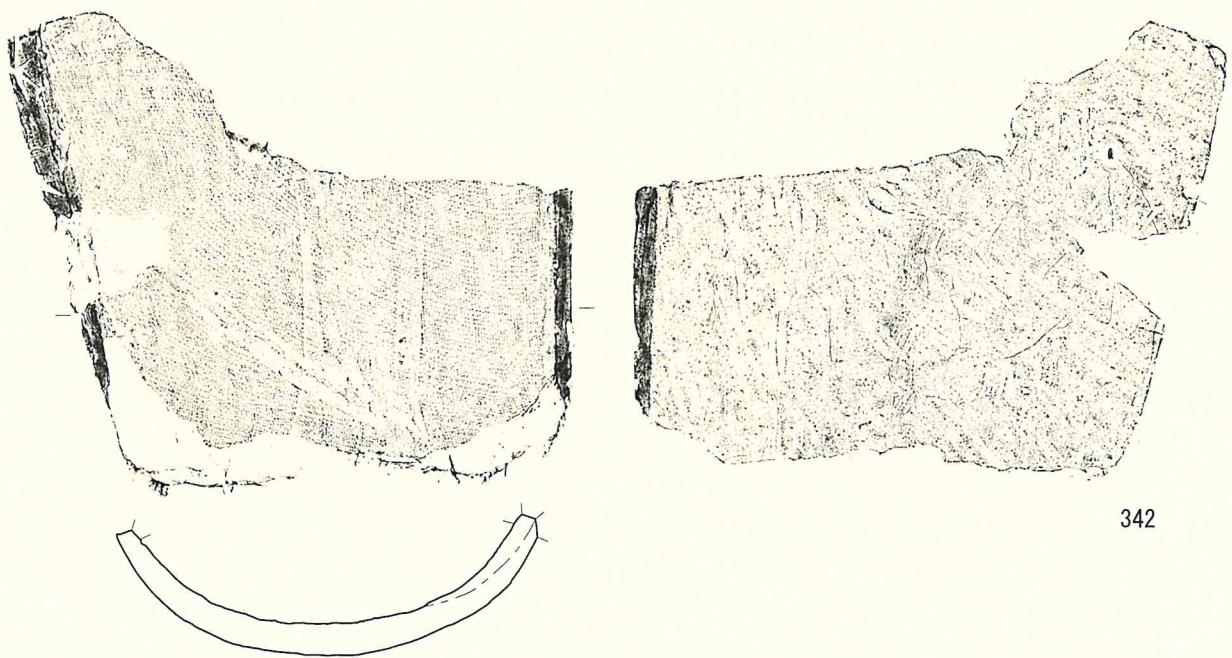
339



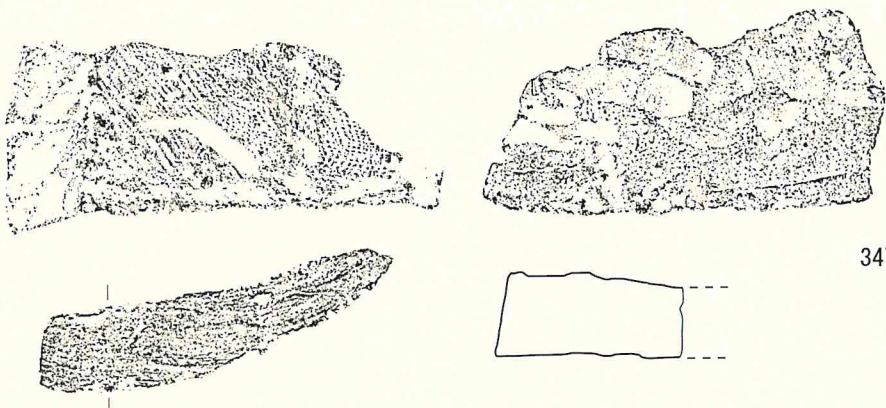
340



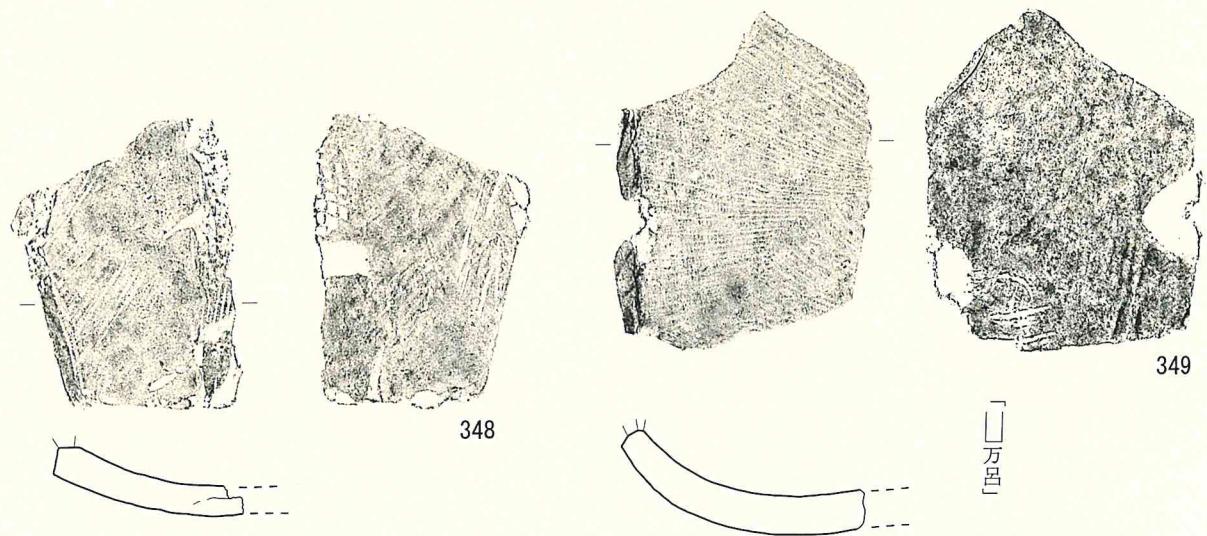
第162図 瓦68 伽藍地区画北東隅(5)



第163図 瓦69 伽藍地区画北東隅(6)

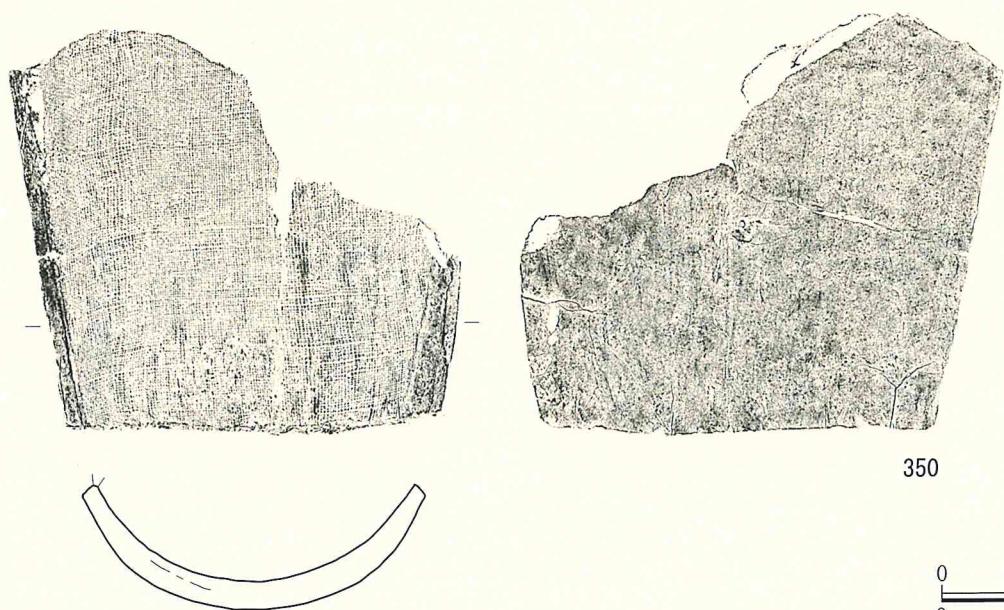


347



348

349

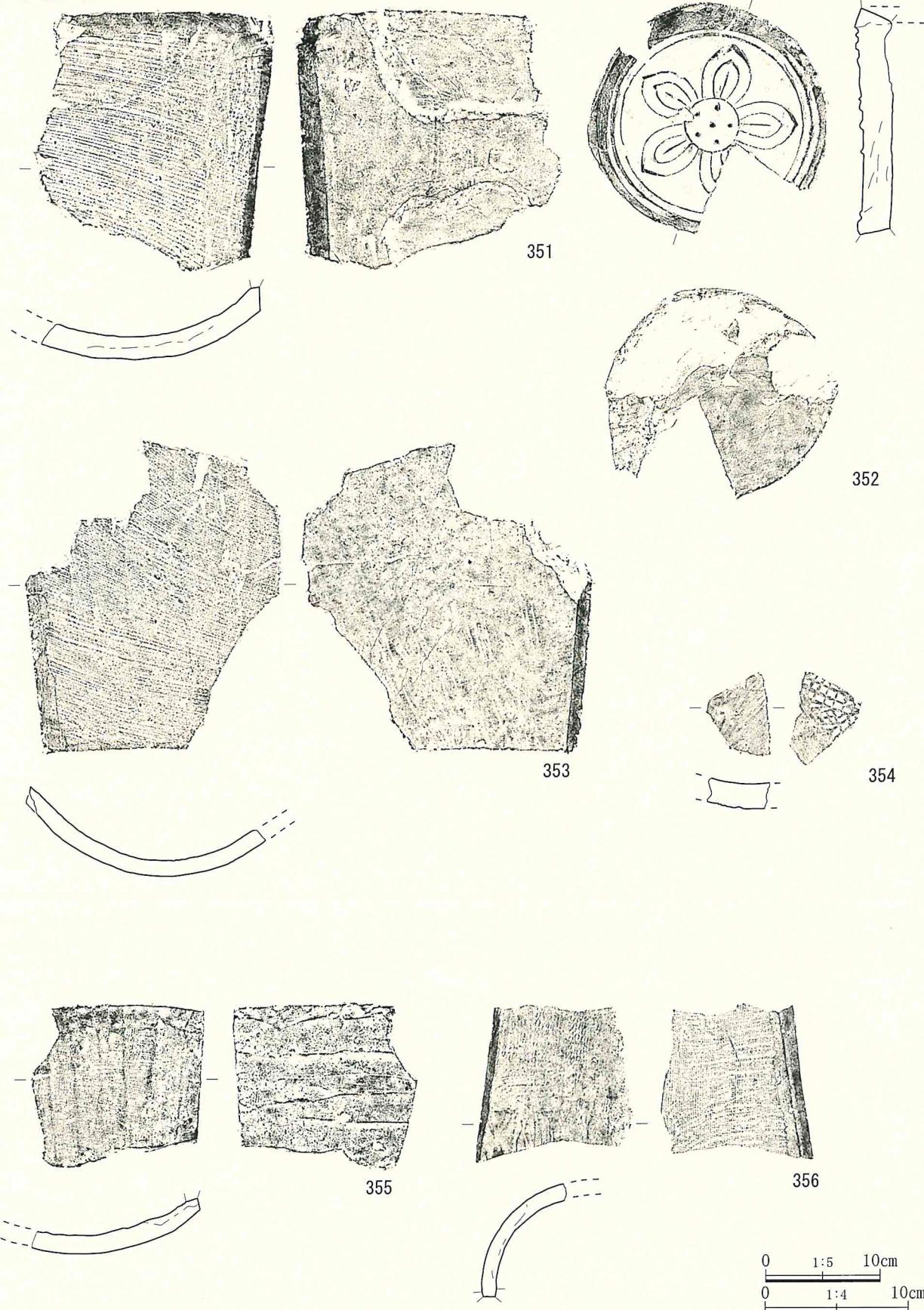


350

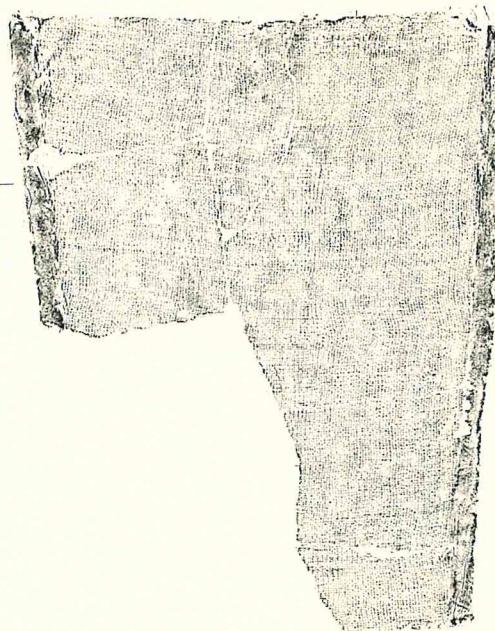
0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

第164図 瓦70 伽藍地区画北東隅(7)

伽藍地東辺



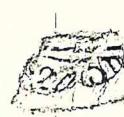
第165図 瓦71 伽藍地東辺(1)



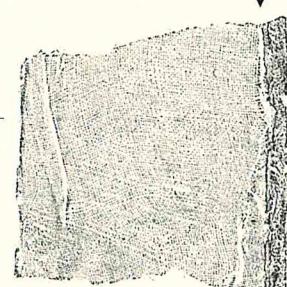
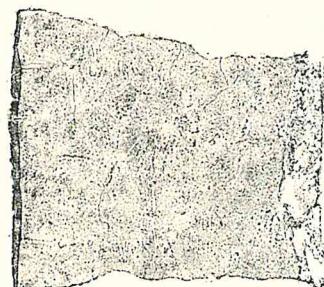
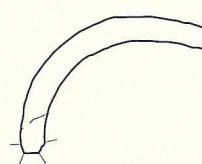
357



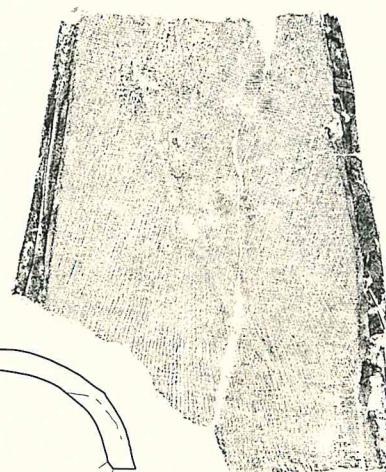
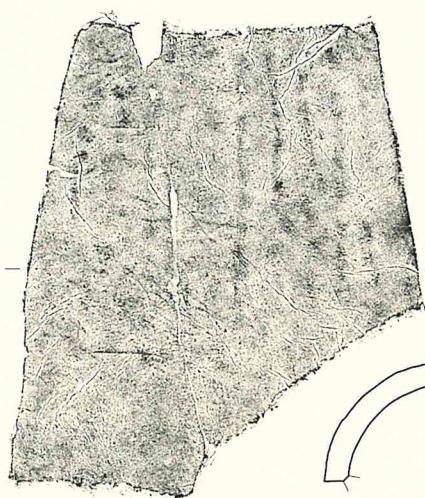
358



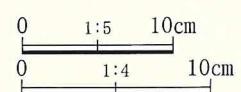
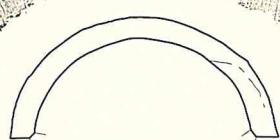
359



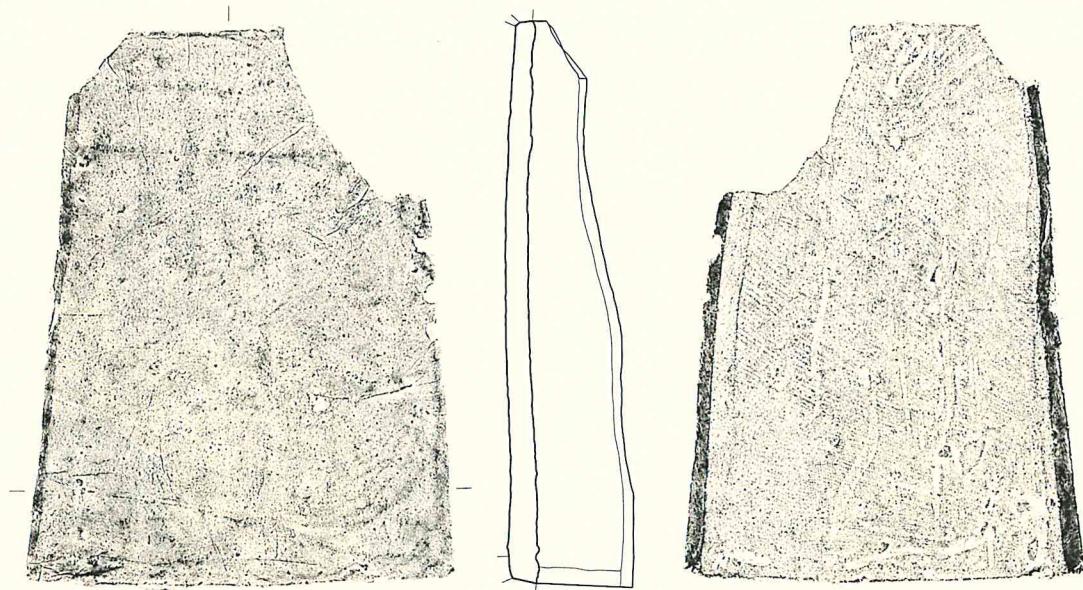
360



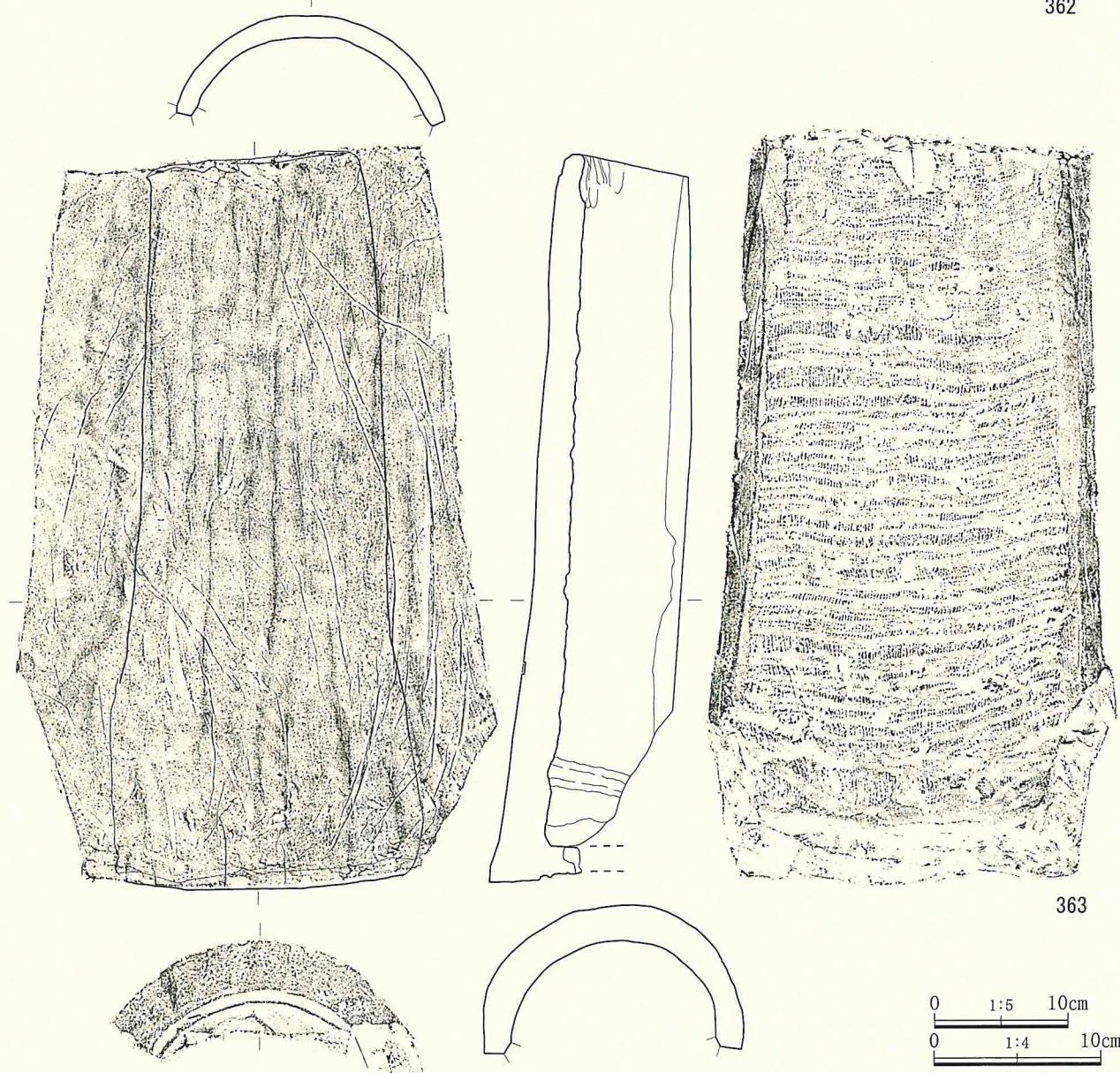
361



第166図 瓦72 伽藍地東辺(2)



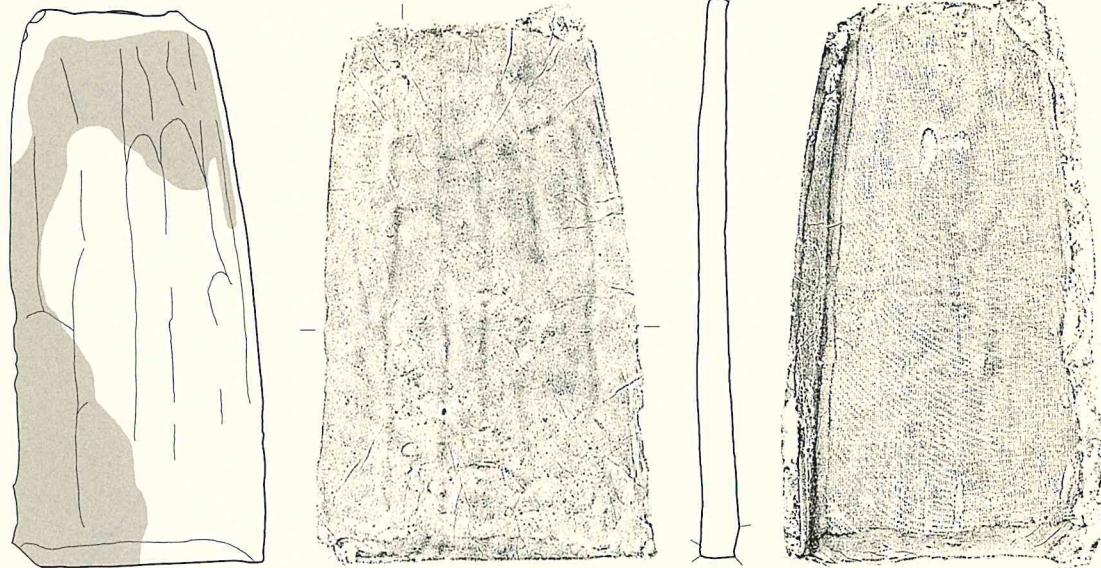
362



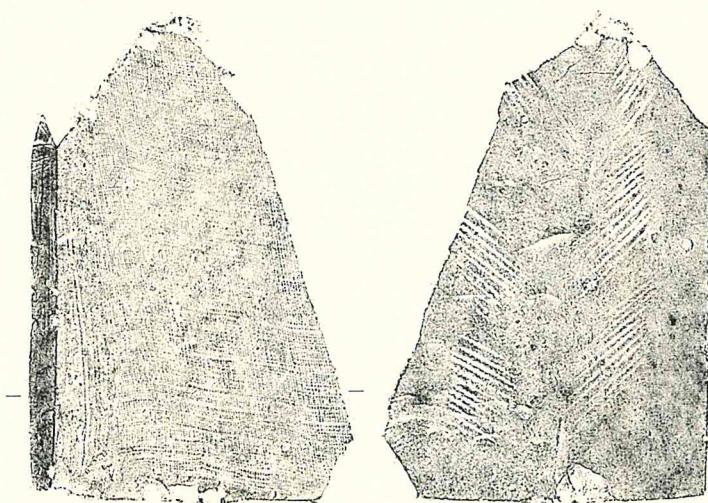
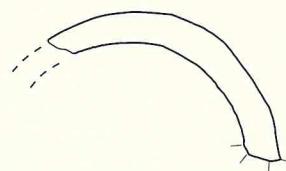
363

0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

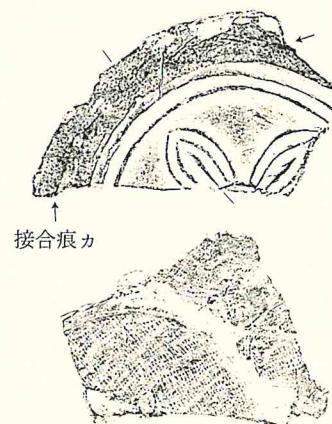
第167図 瓦73 伽藍地東辺(3)



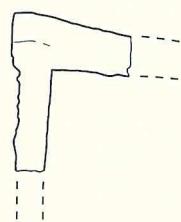
364



365

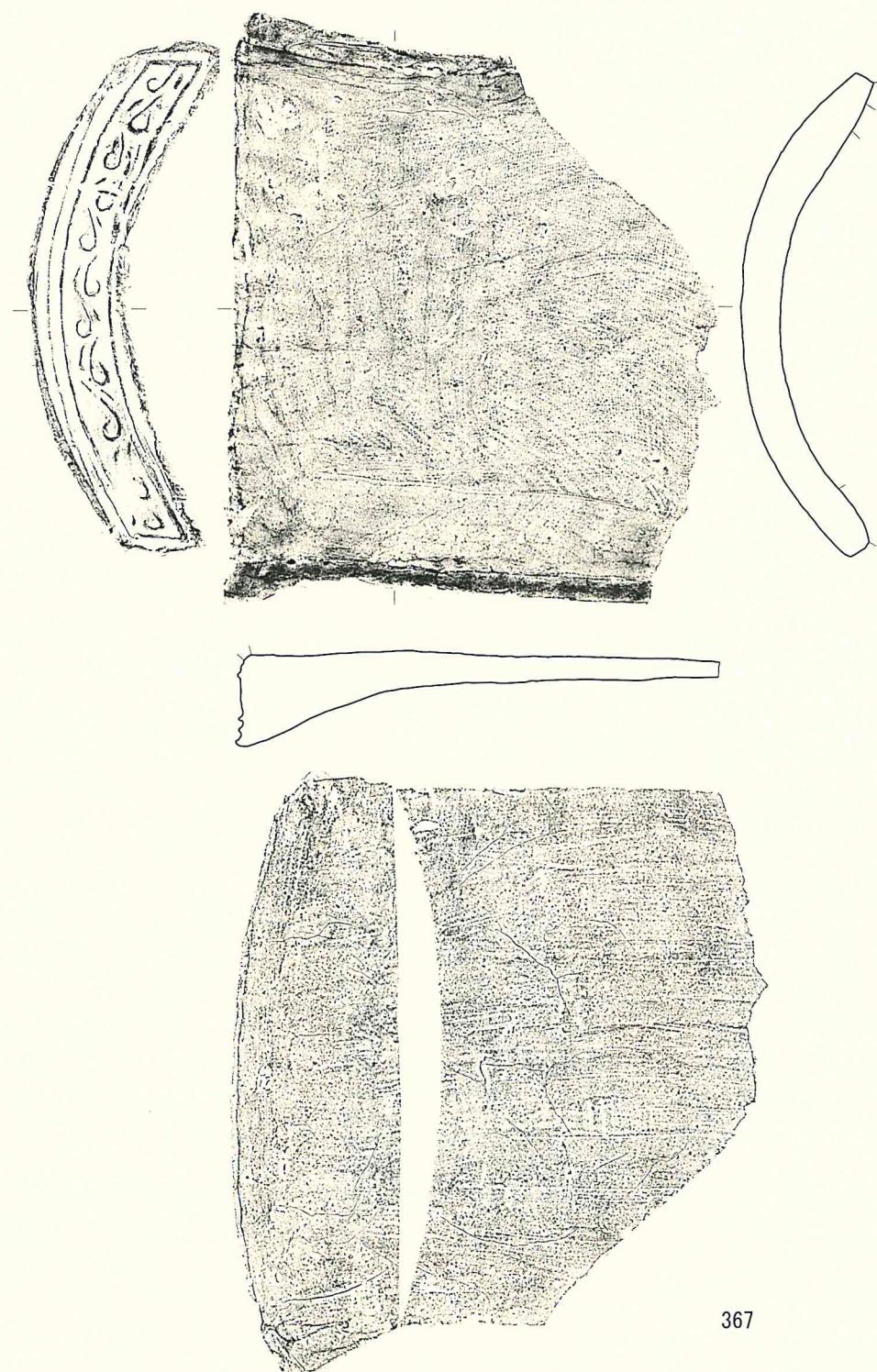


366



0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

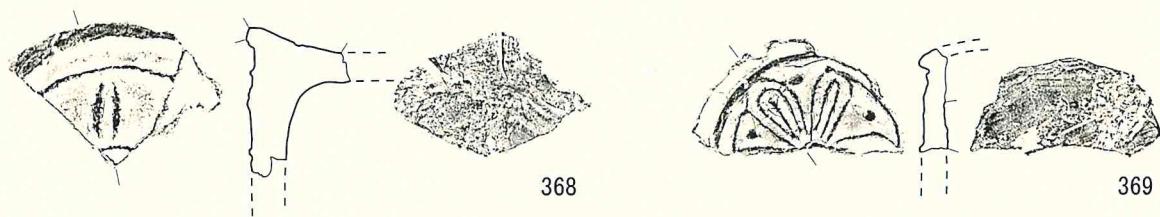
第168図 瓦74 伽藍地東辺(4)



367

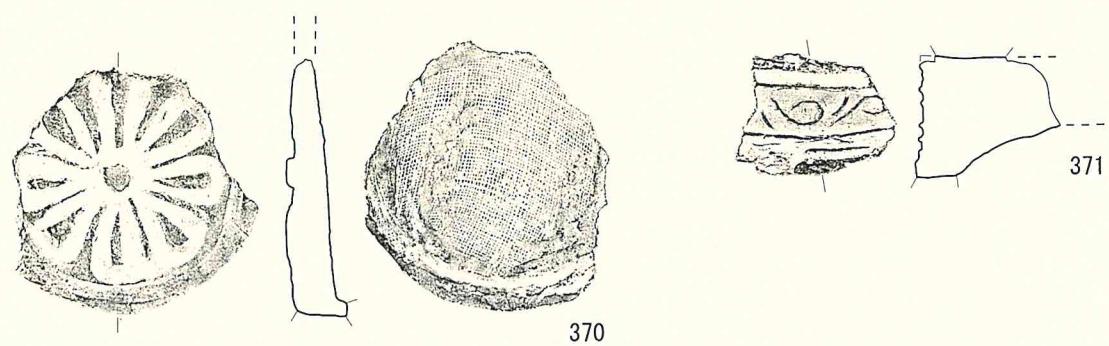
0 1:4 10cm

第169図 瓦75 伽藍地東辺(5)



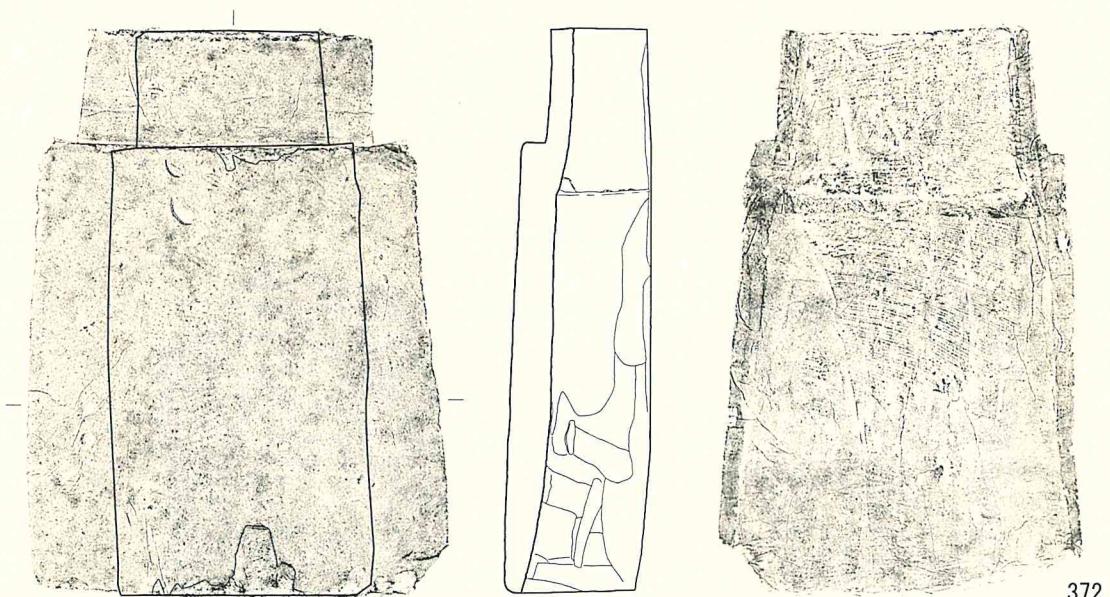
368

369

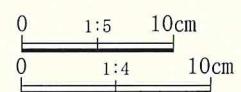
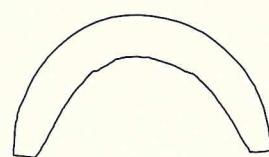


370

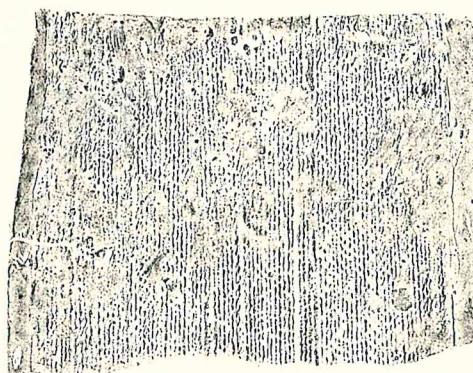
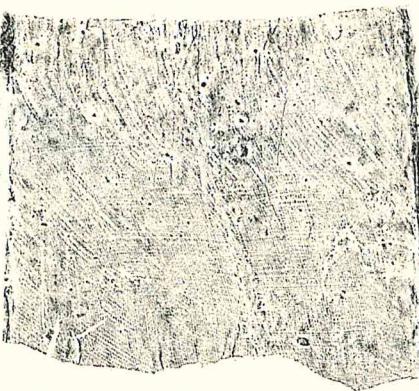
371



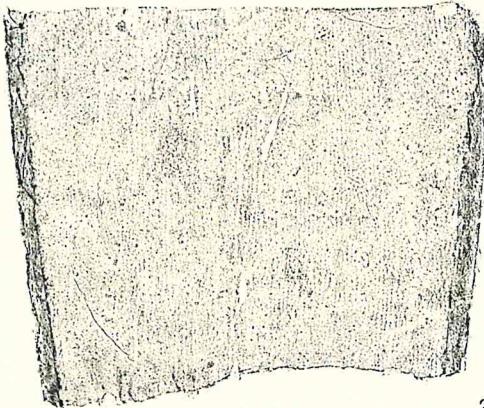
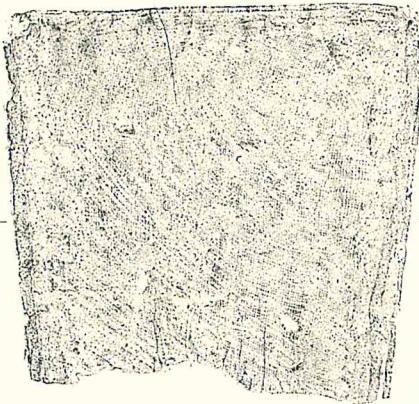
372



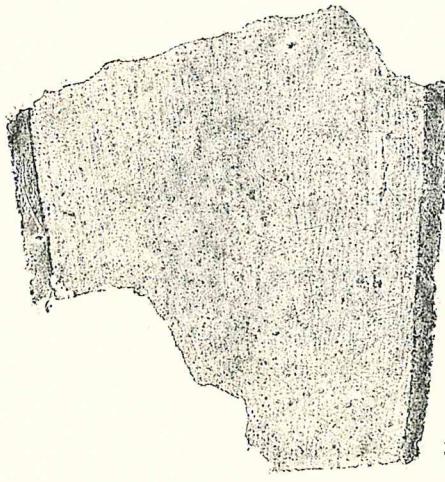
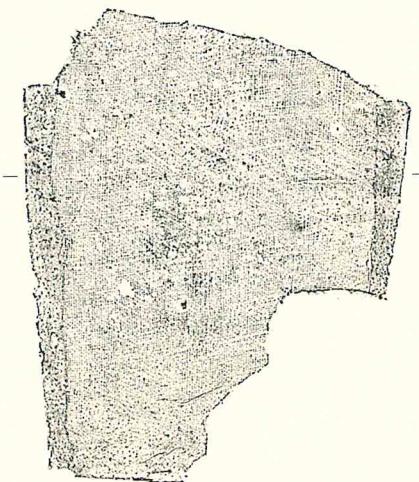
第170図 瓦76 伽藍地東辺(6)



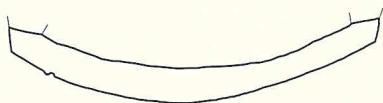
373



374

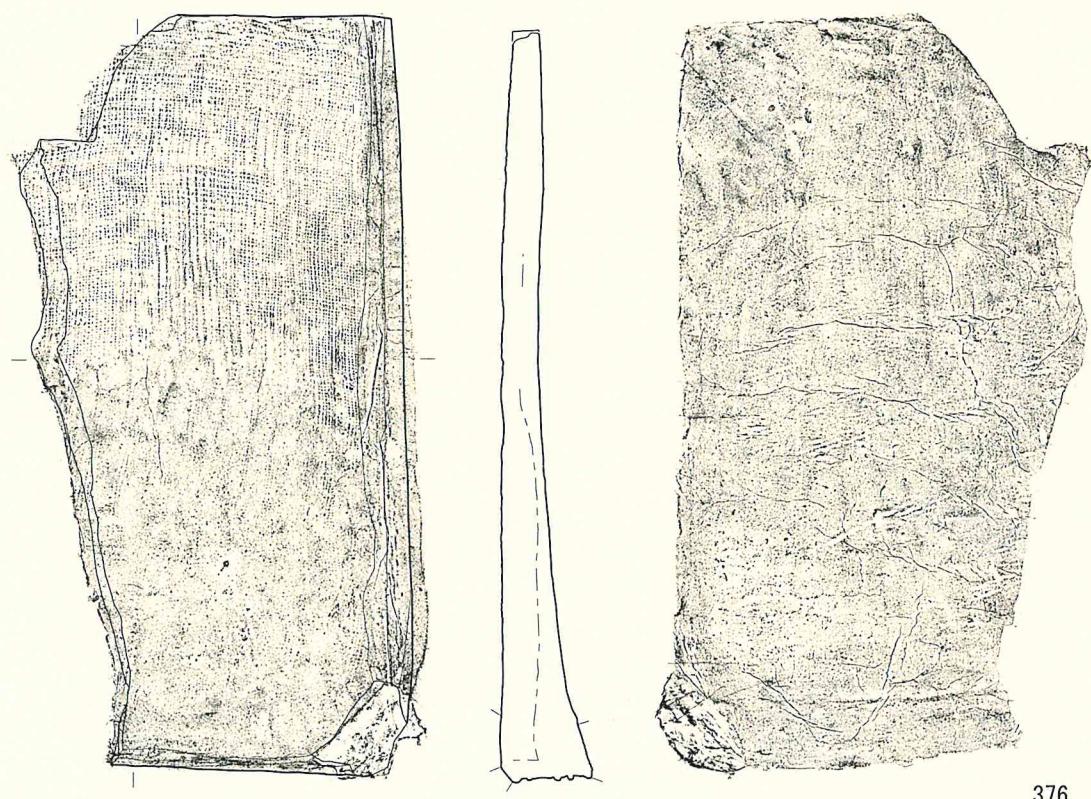


375

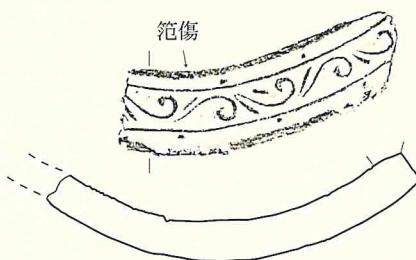


0 1:5 10cm

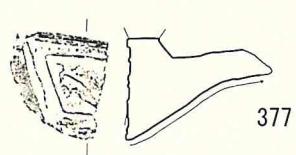
第171図 瓦77 伽藍地東辺(7)



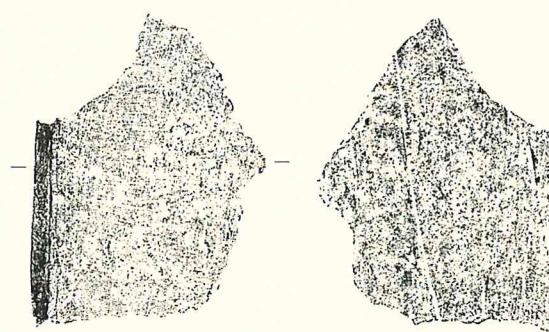
376



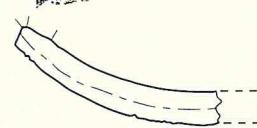
377



378

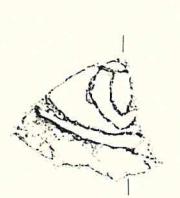


379

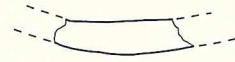


0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

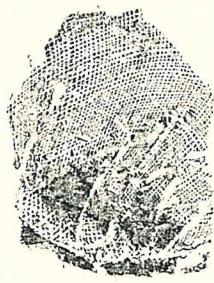
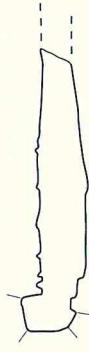
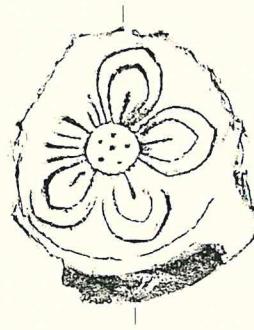
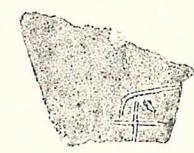
第172図 瓦78 伽藍地東辺(8)



380



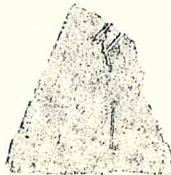
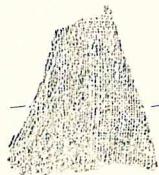
381



382



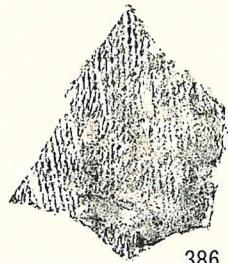
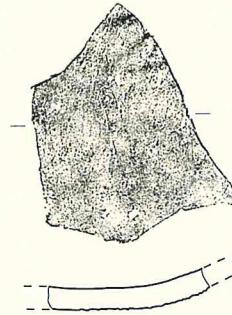
383



384



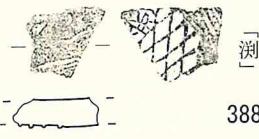
385



386



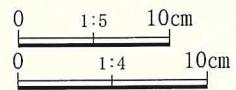
387



388

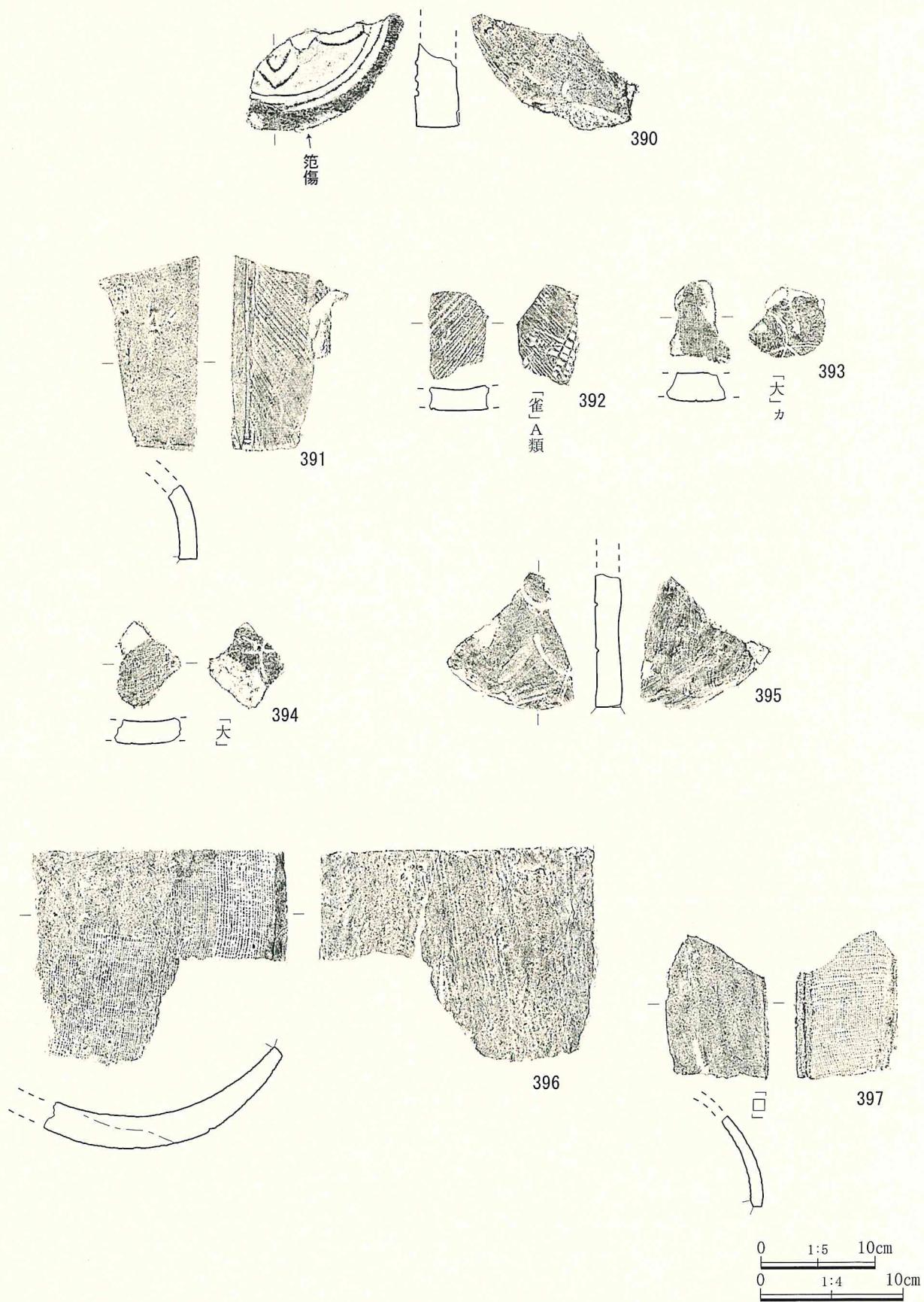


389

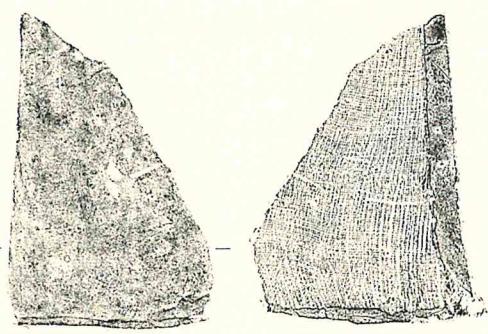


第173図 瓦79 伽藍地東辺(9)

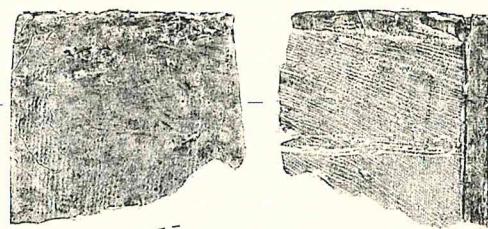
伽藍地南辺



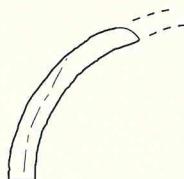
第174図 瓦80 伽藍地南辺(1)



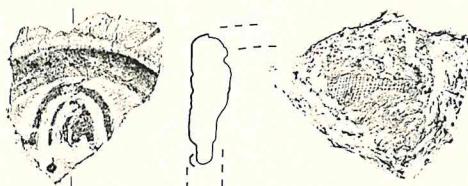
398



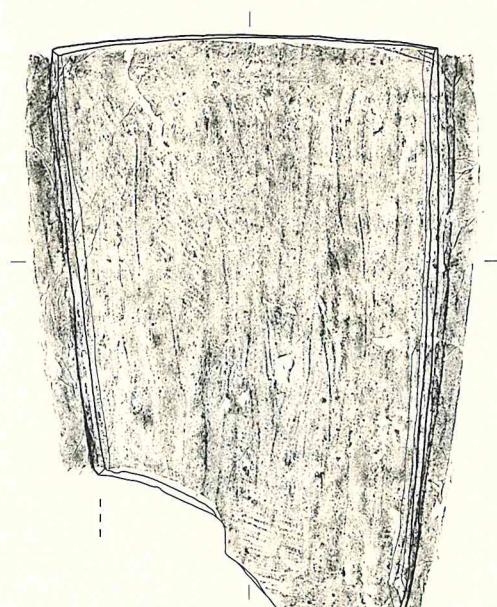
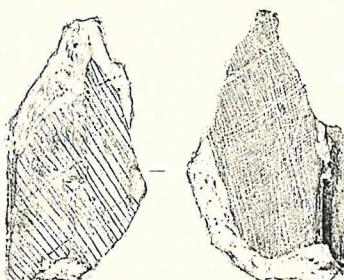
399



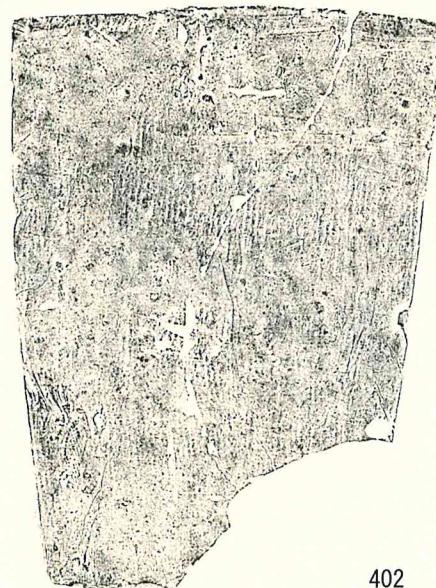
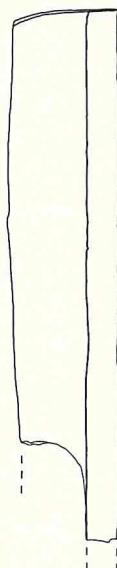
400



401

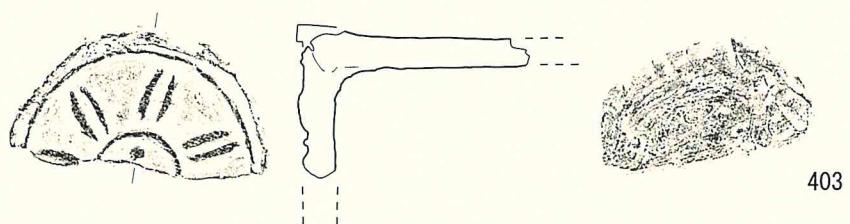
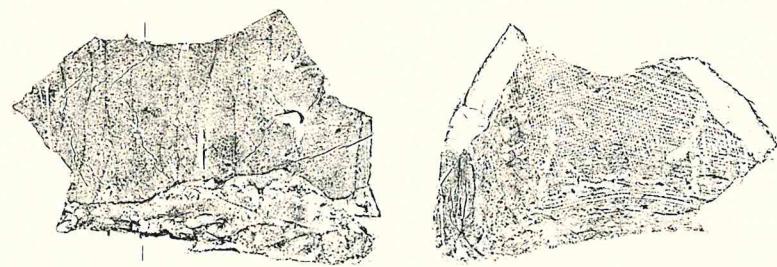


402

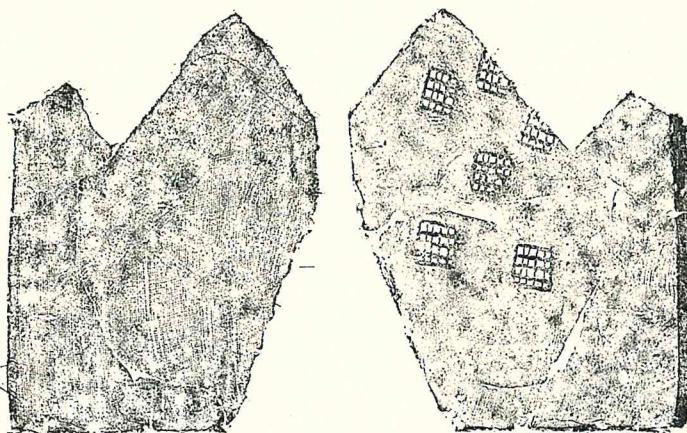


0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

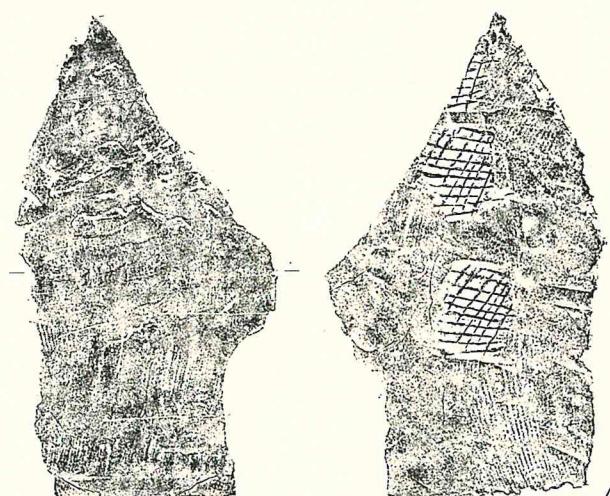
第175図 瓦81 伽藍地南辺(2)



403



404

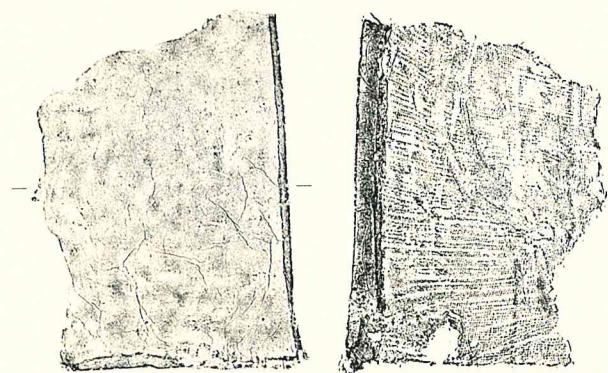


405

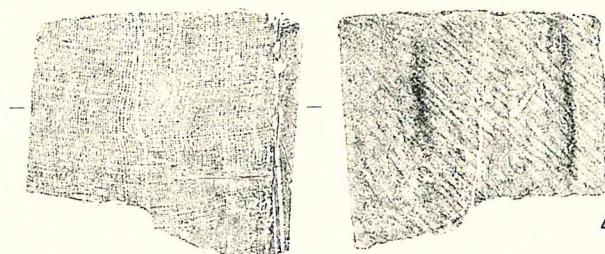
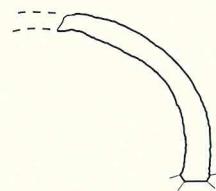


0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

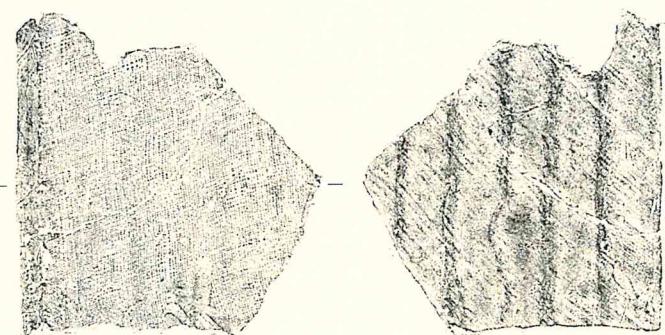
第176図 瓦82 伽藍地南辺(3)



406



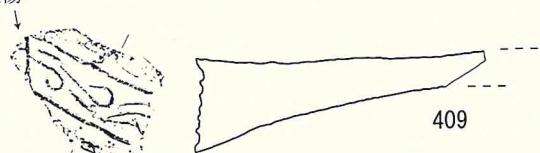
407



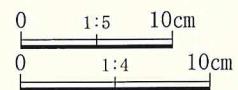
408



范傷

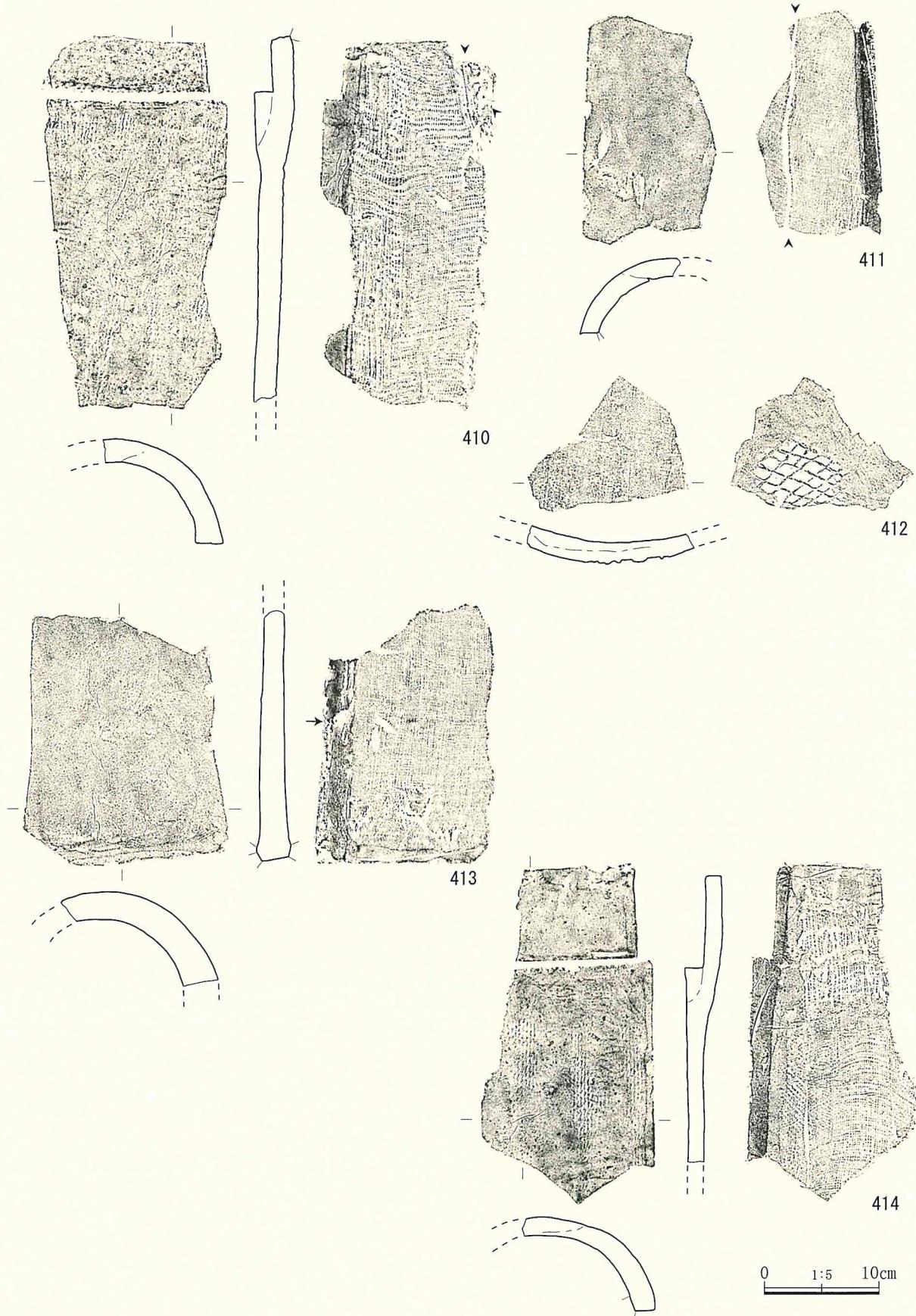


409

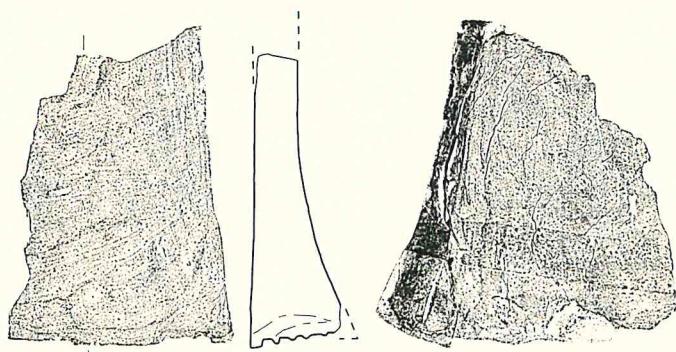


第177図 瓦83 伽藍地南辺(4)

伽藍地西辺



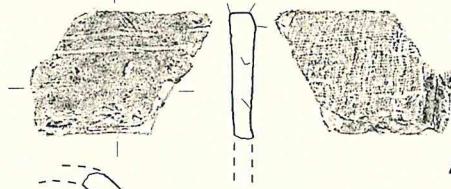
第178図 瓦84 伽藍地西辺(1)



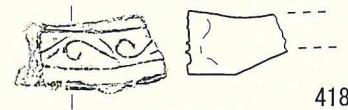
415



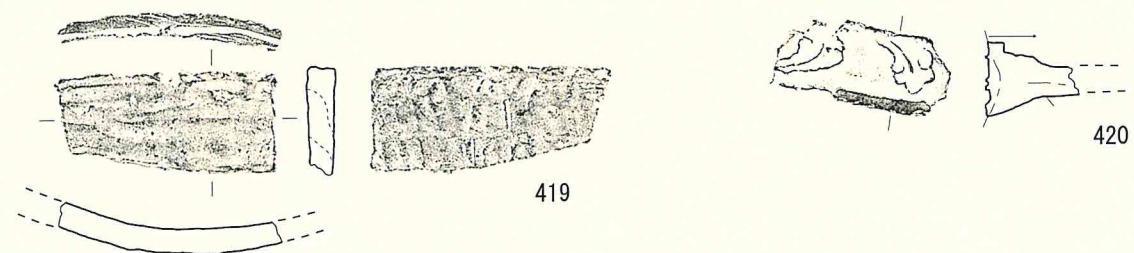
416



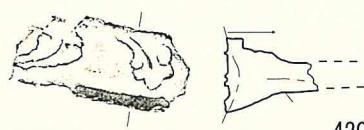
417



418



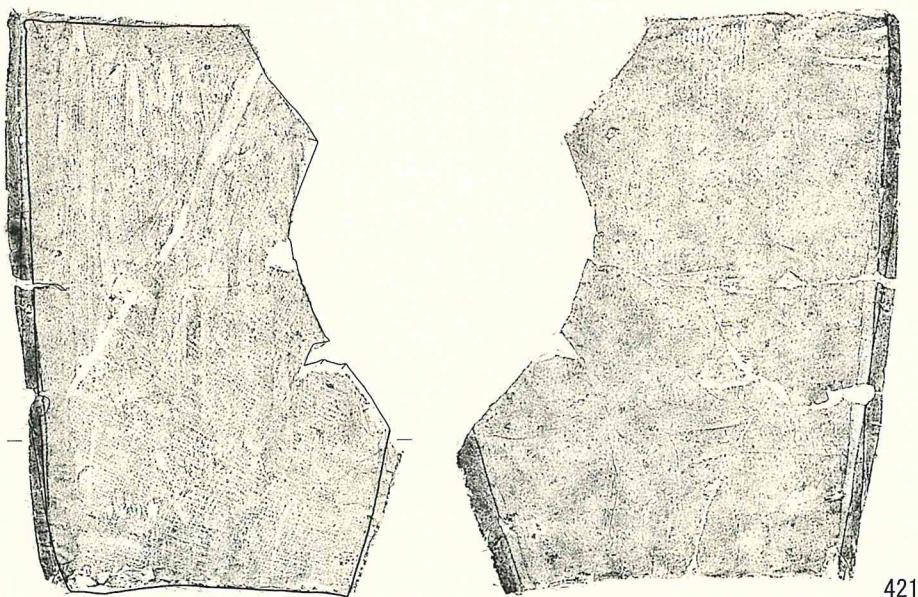
419



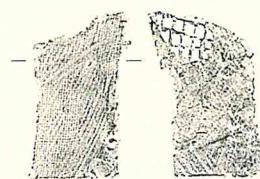
420

0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

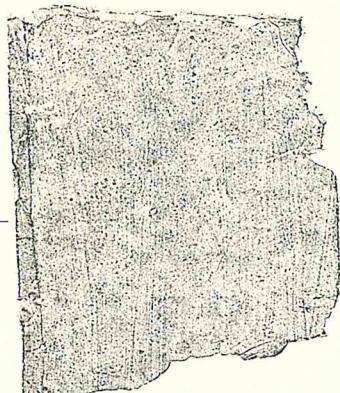
第179図 瓦85 伽藍地西辺(2)



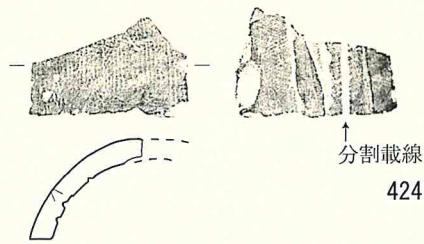
421



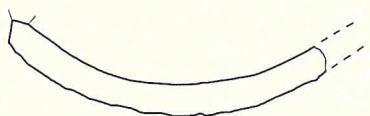
422



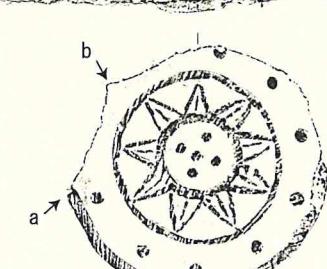
423



424



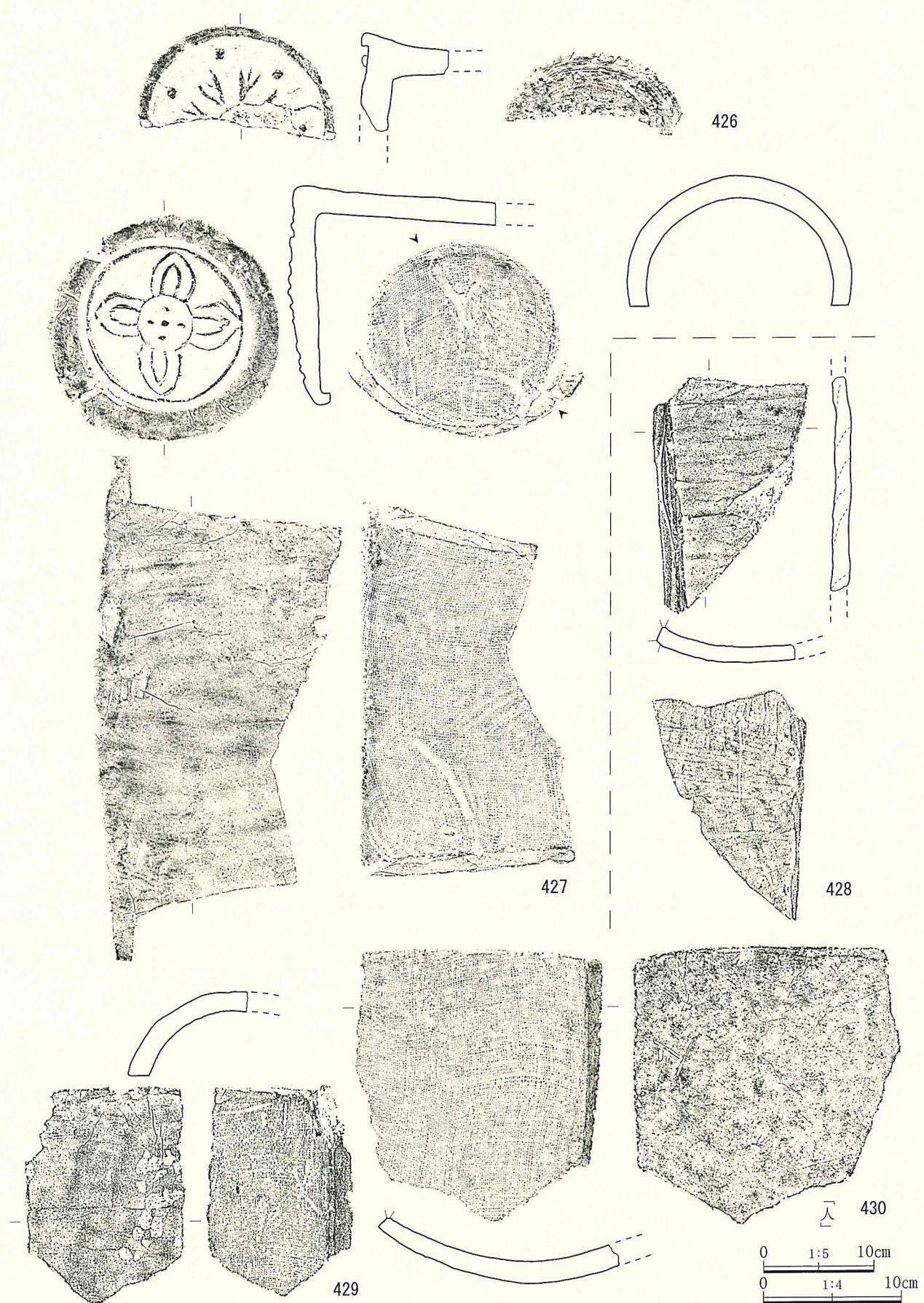
転写布目



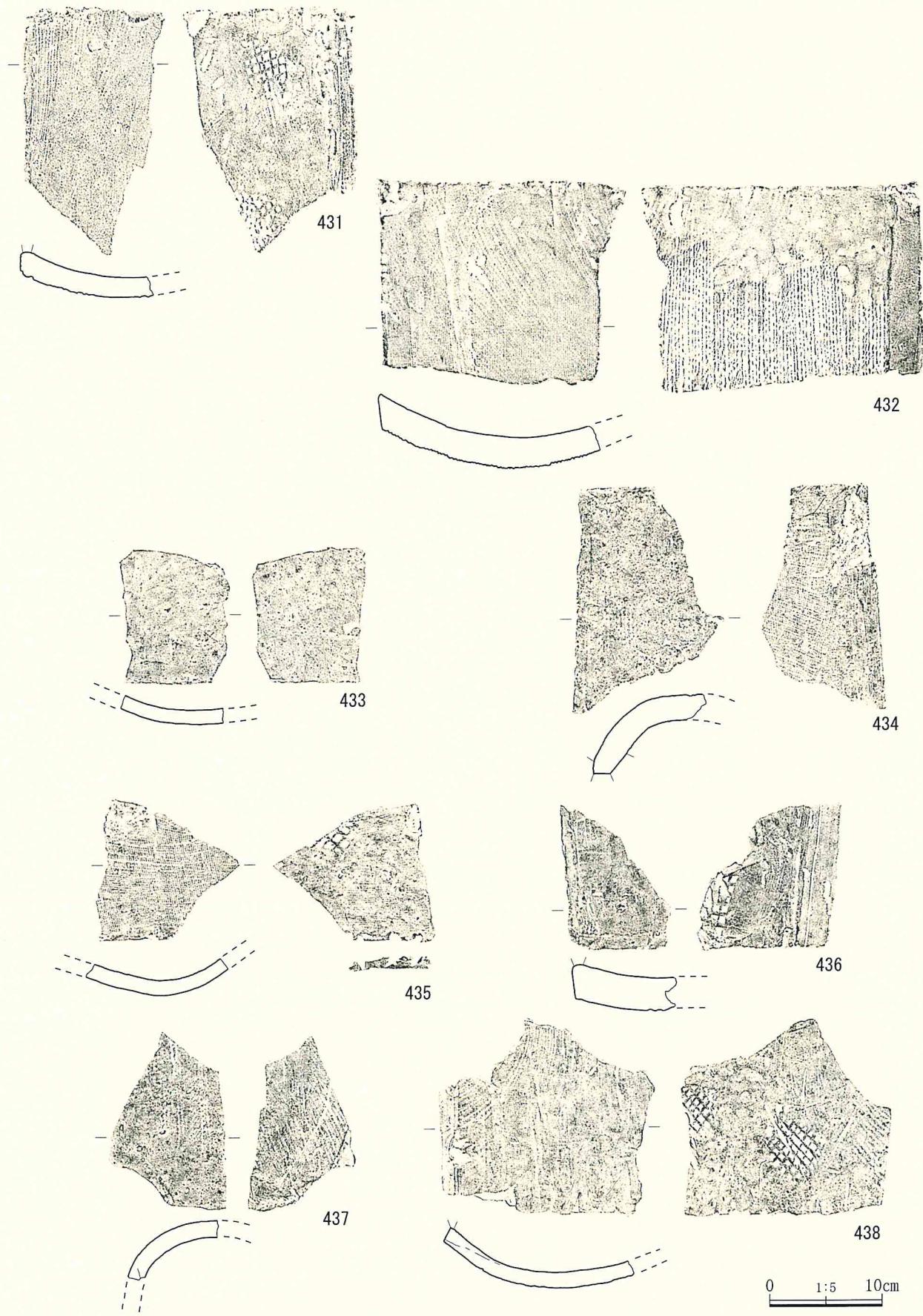
425

0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

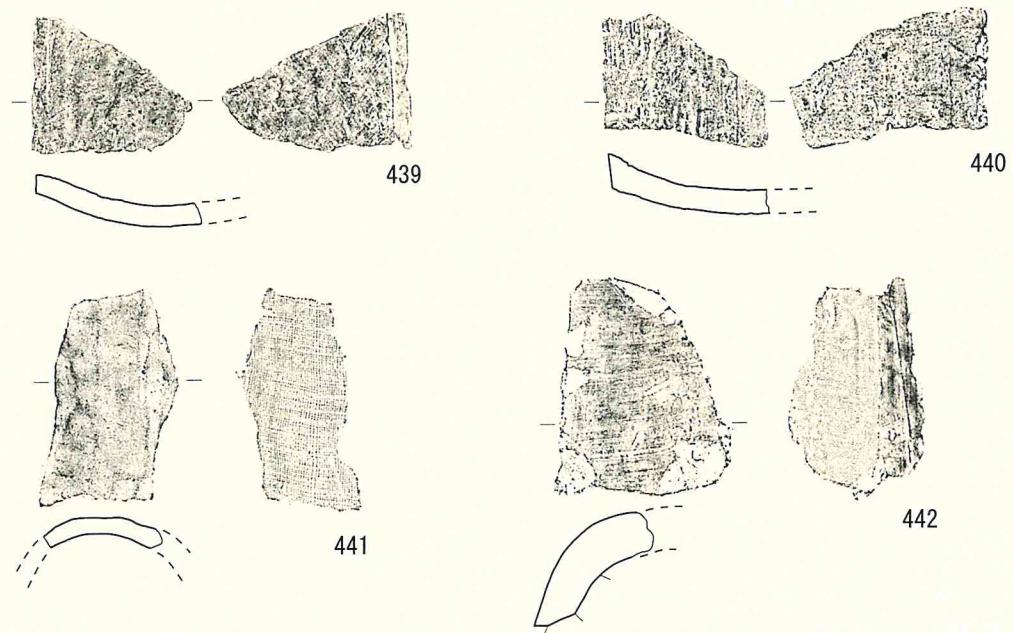
第180図 瓦86 伽藍地西辺(3)



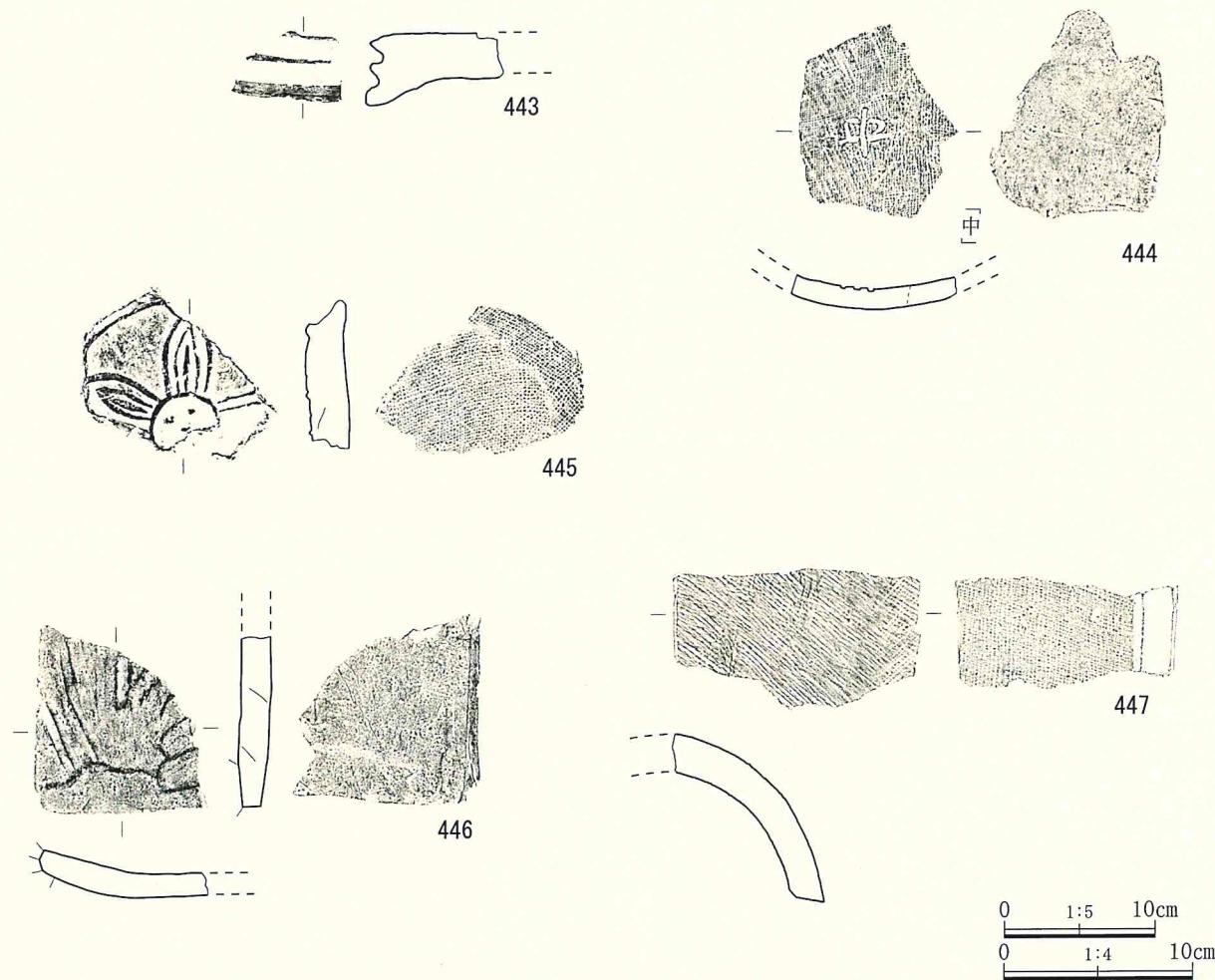
第181図 瓦87 伽藍地西辺(4)



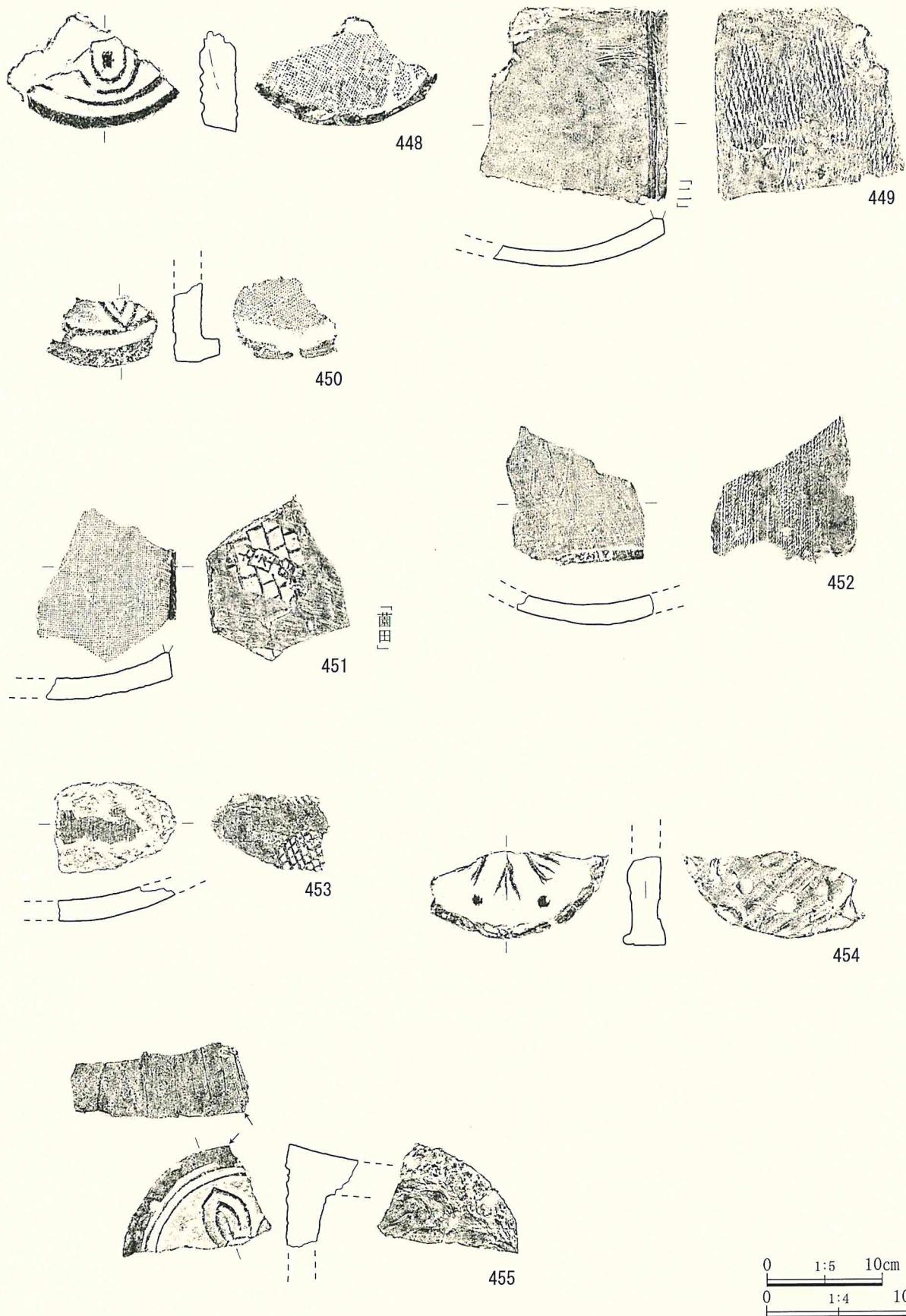
第182図 瓦88 伽藍地西辺(5)



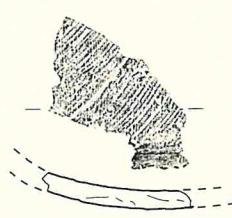
講堂



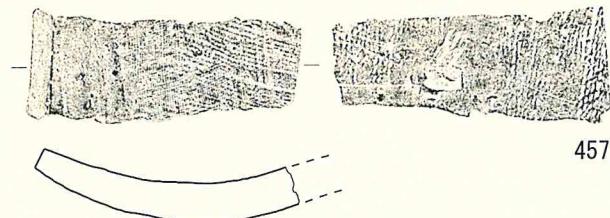
第183図 瓦89 伽藍地西辺(6)・講堂(1)



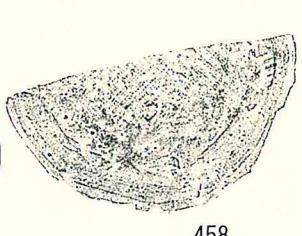
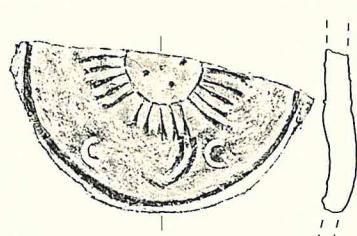
第184図 瓦90 講堂(2)



456



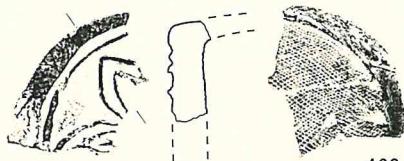
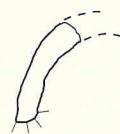
457



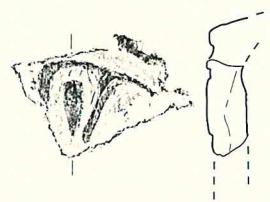
458



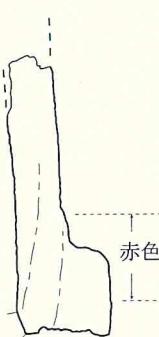
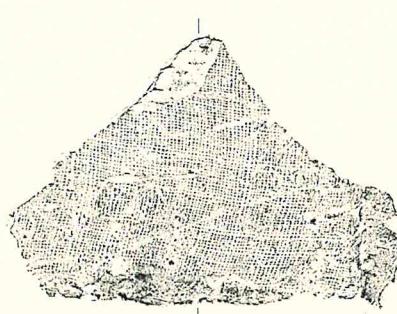
459



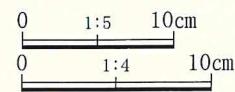
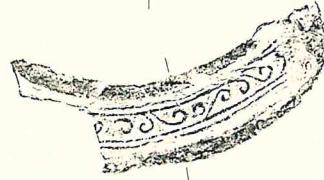
460



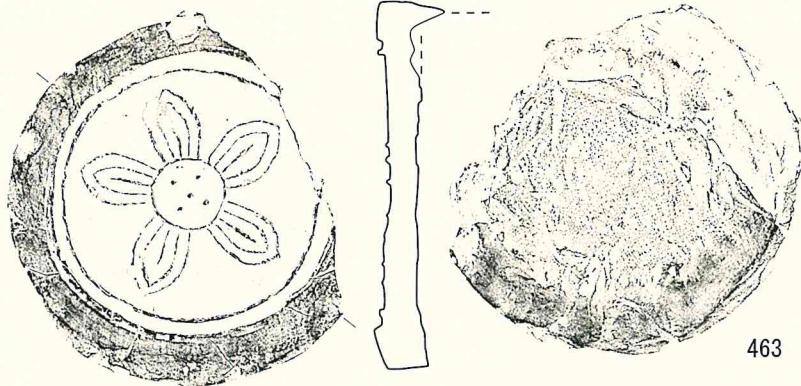
461



462

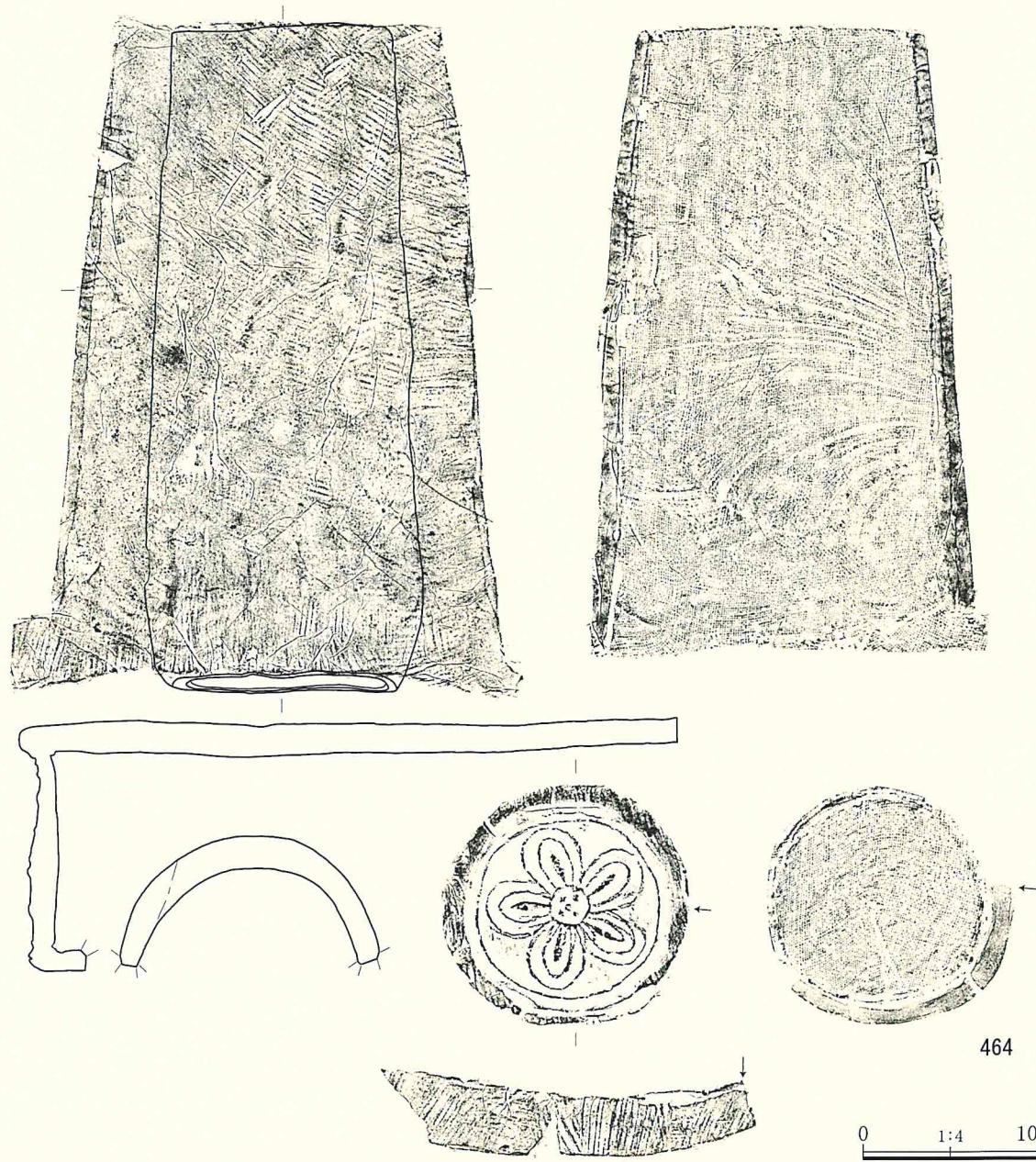


第185図 瓦91 講堂(3)



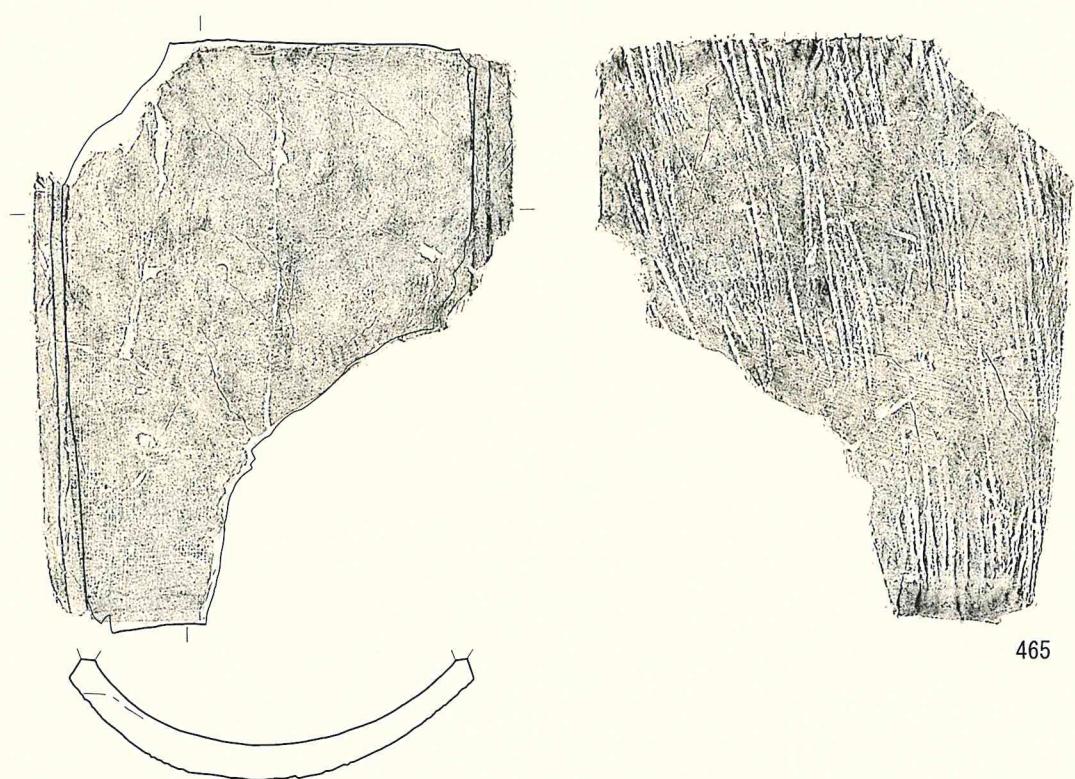
463

金堂西側瓦溜り

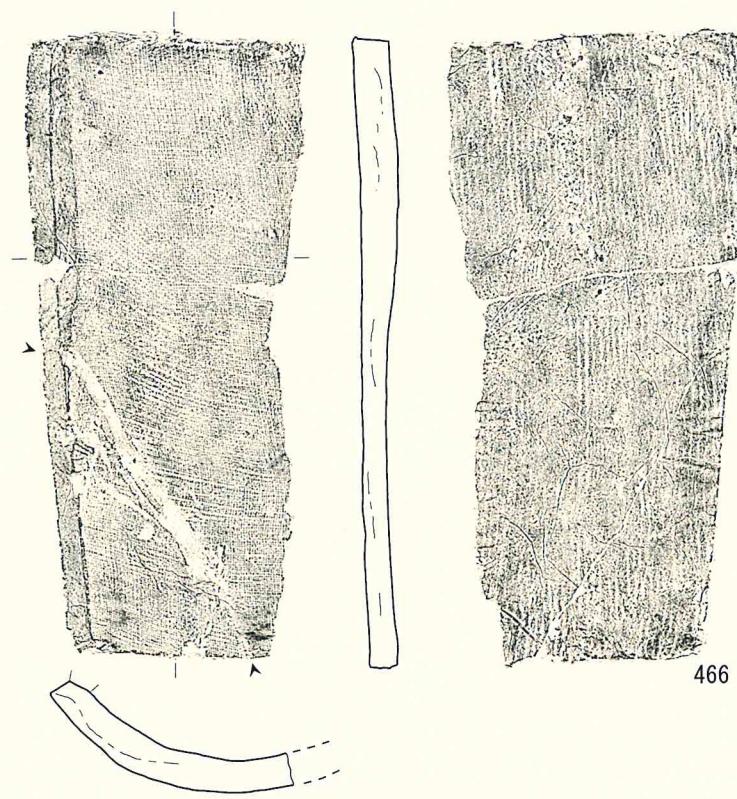


464

第186図 瓦92 講堂(4)・金堂西側瓦溜り(1)



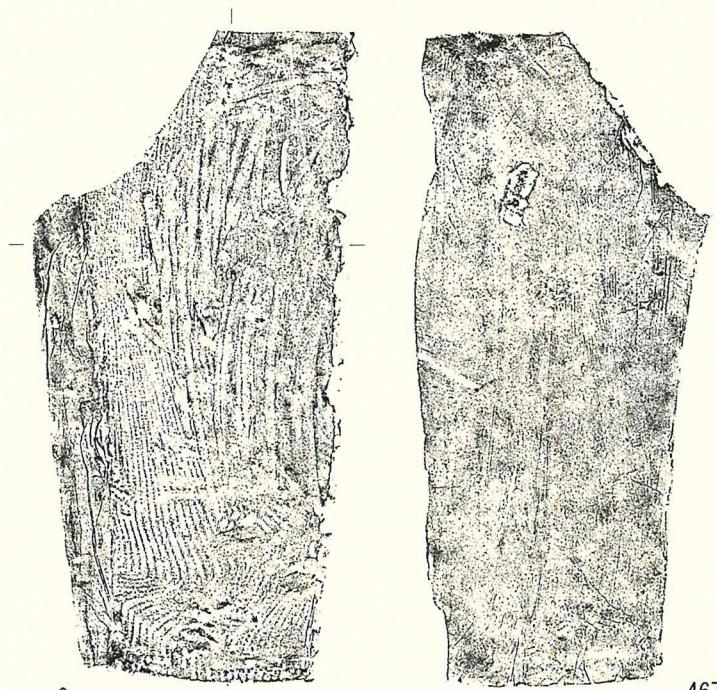
465



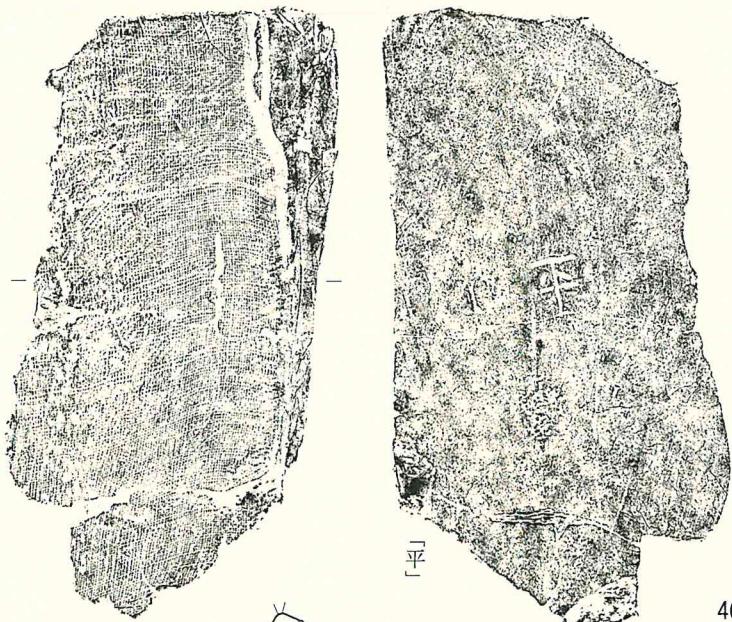
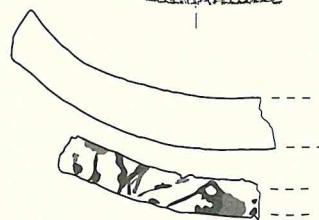
466

0 1:5 10cm

第187図 瓦93 金堂西側瓦溜り(2)



467

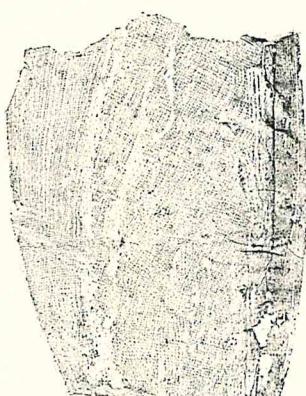
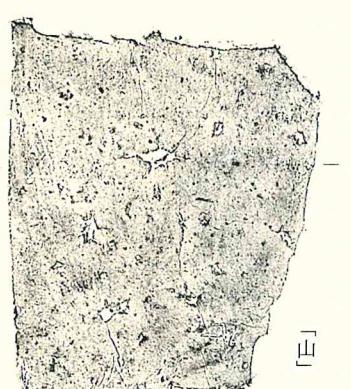


468

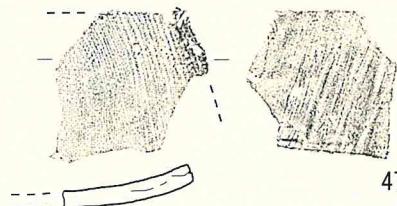
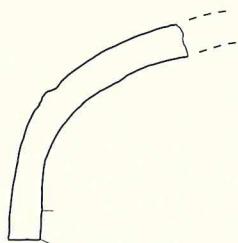


0 1:5 10cm

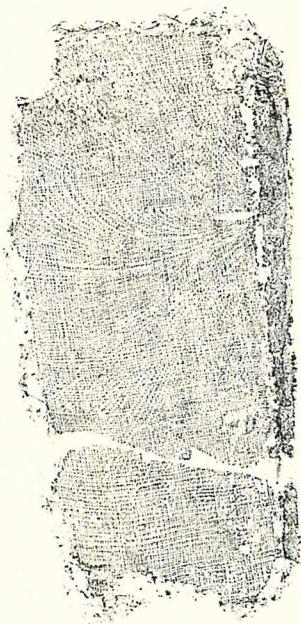
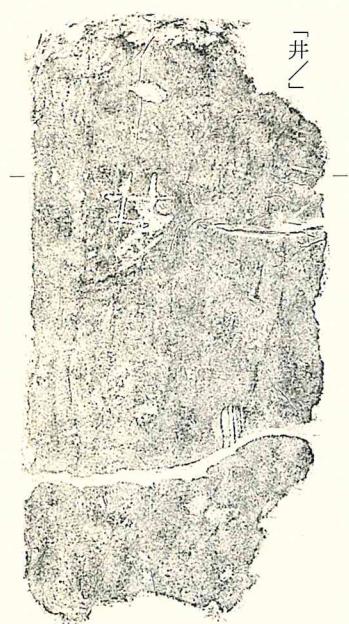
第188図 瓦94 金堂西側瓦溜り(3)



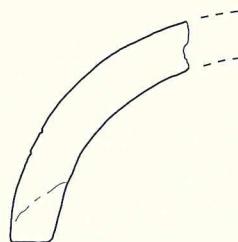
469



470

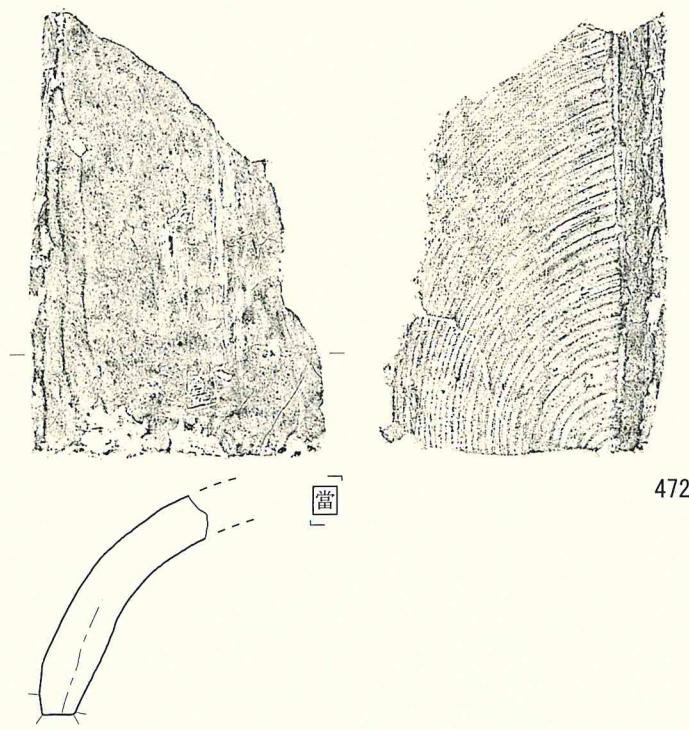


471

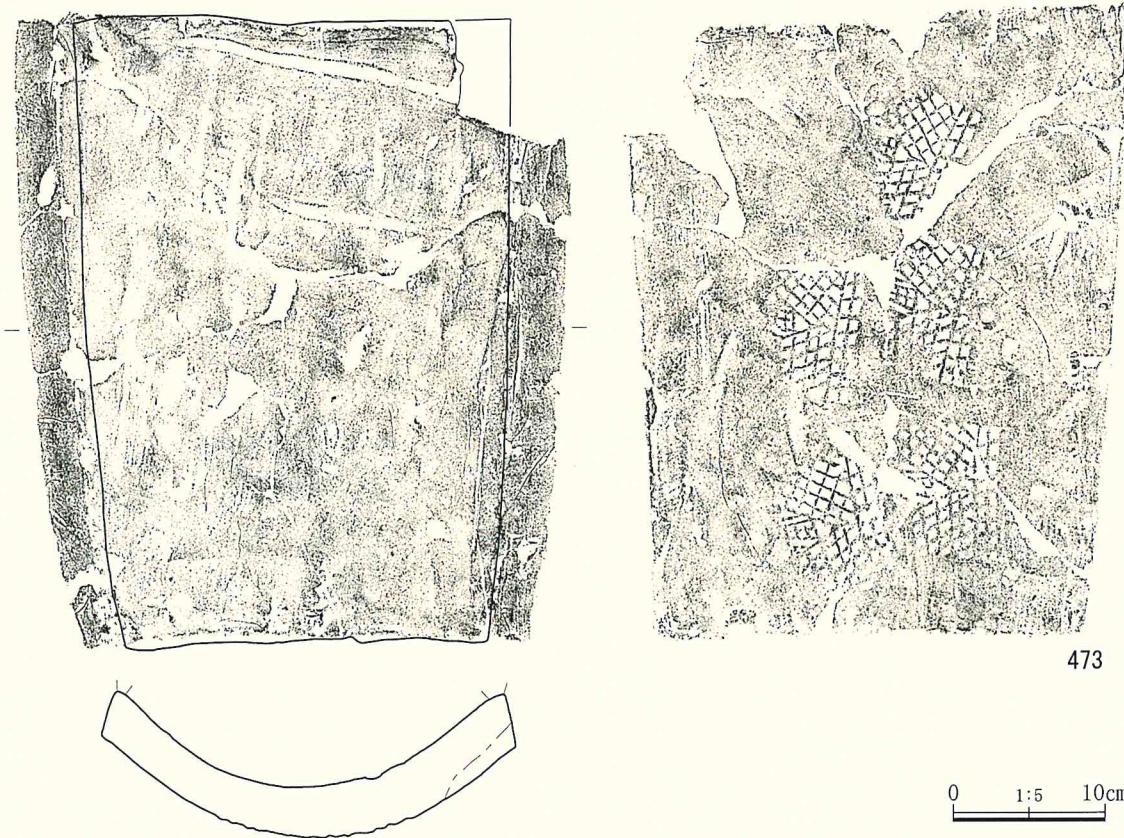


0 1:5 10cm

第189図 瓦95 金堂西側瓦溜り(4)



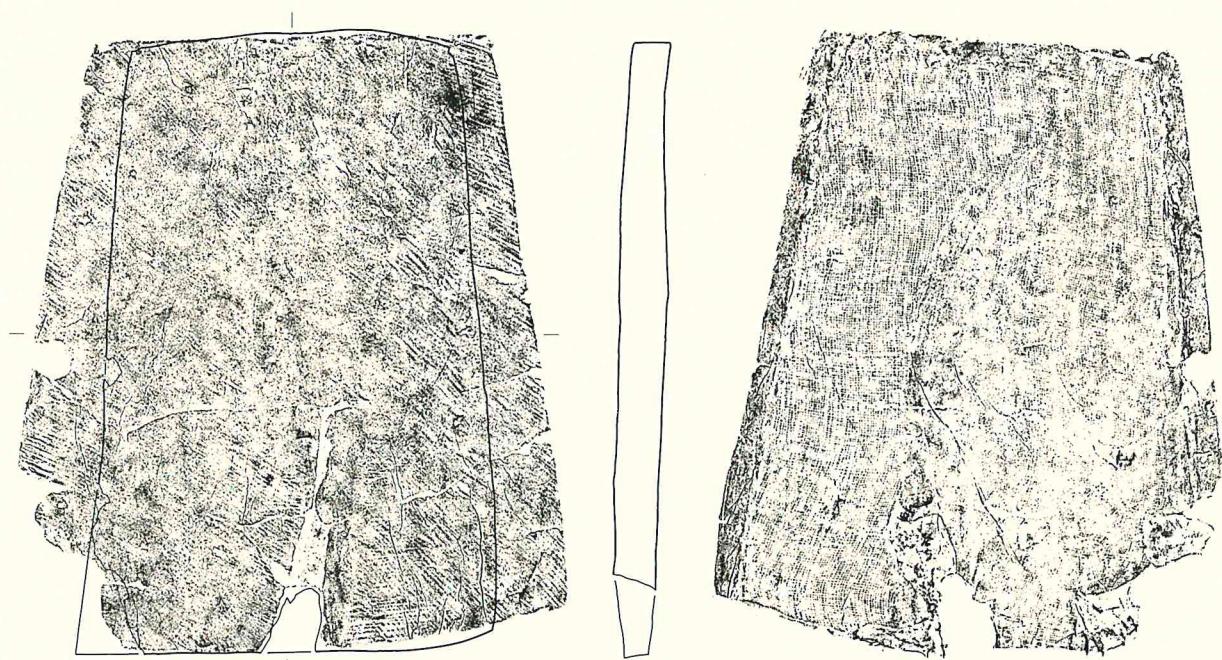
472



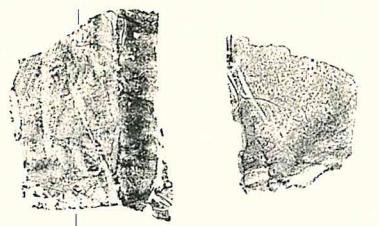
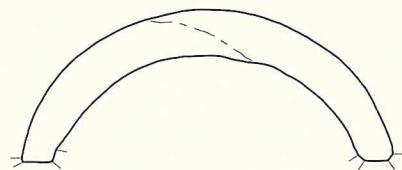
473

0 1:5 10cm

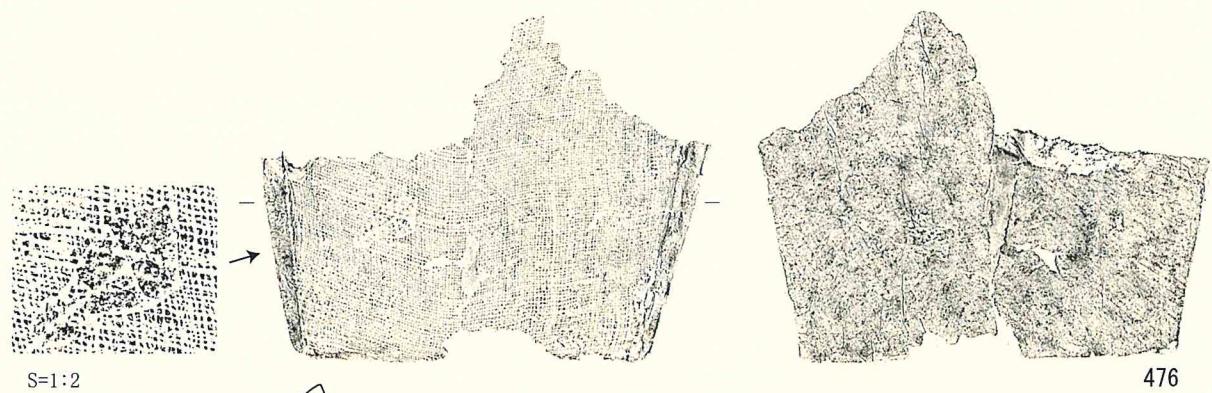
第190図 瓦96 金堂西側瓦溜り(5)



474

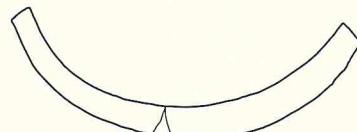


475



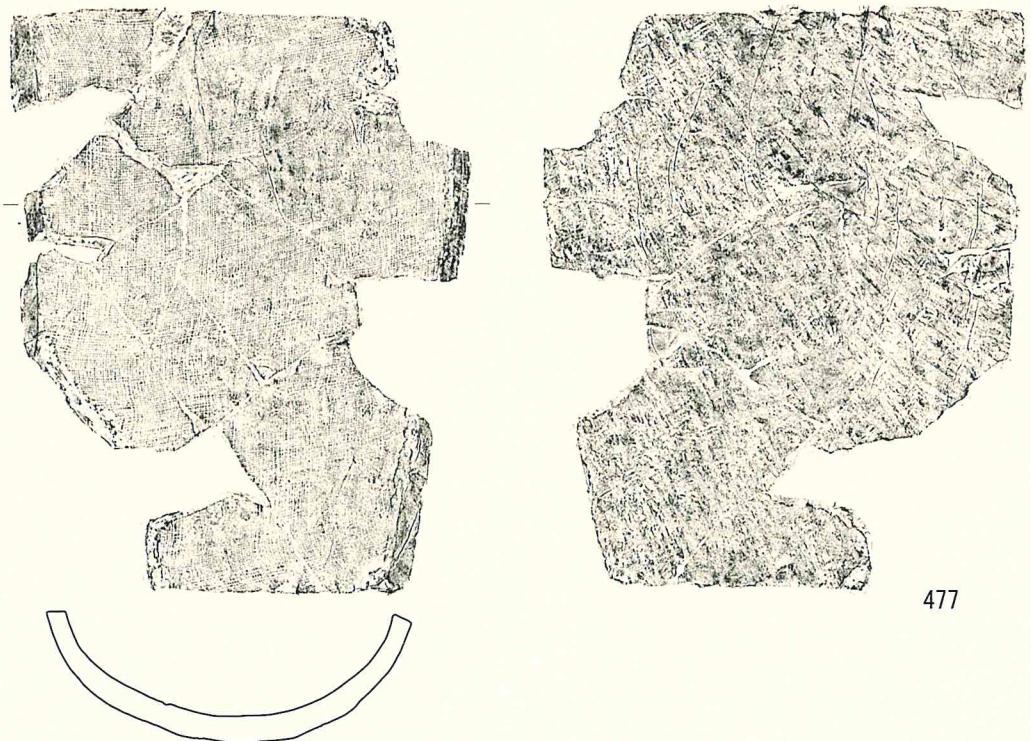
S=1:2

476

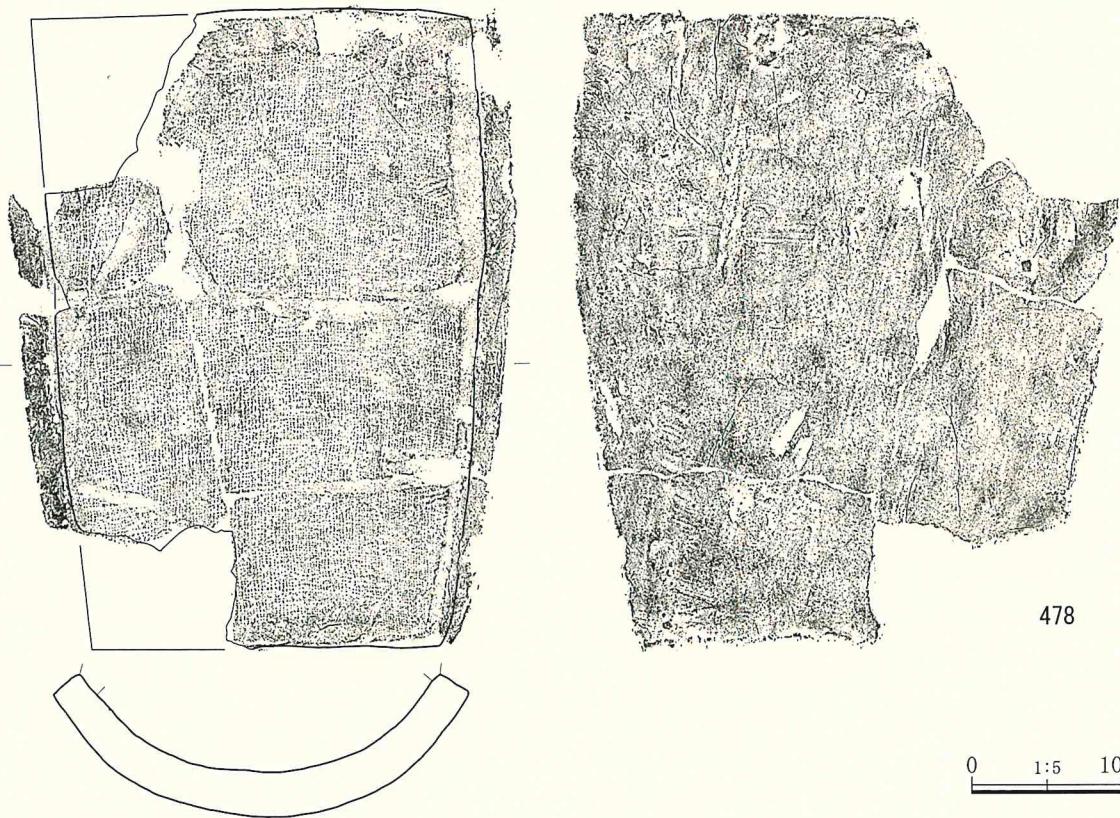


0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

第191図 瓦97 金堂西側瓦溜り(6)



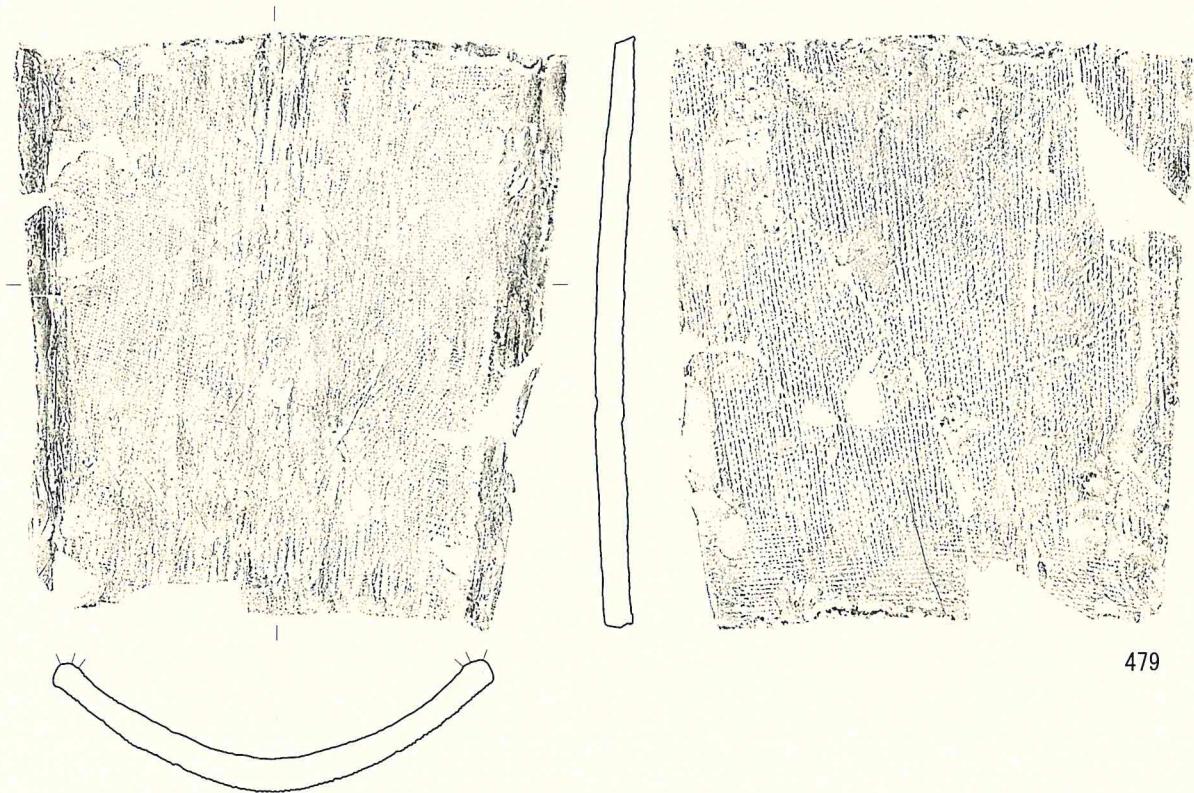
477



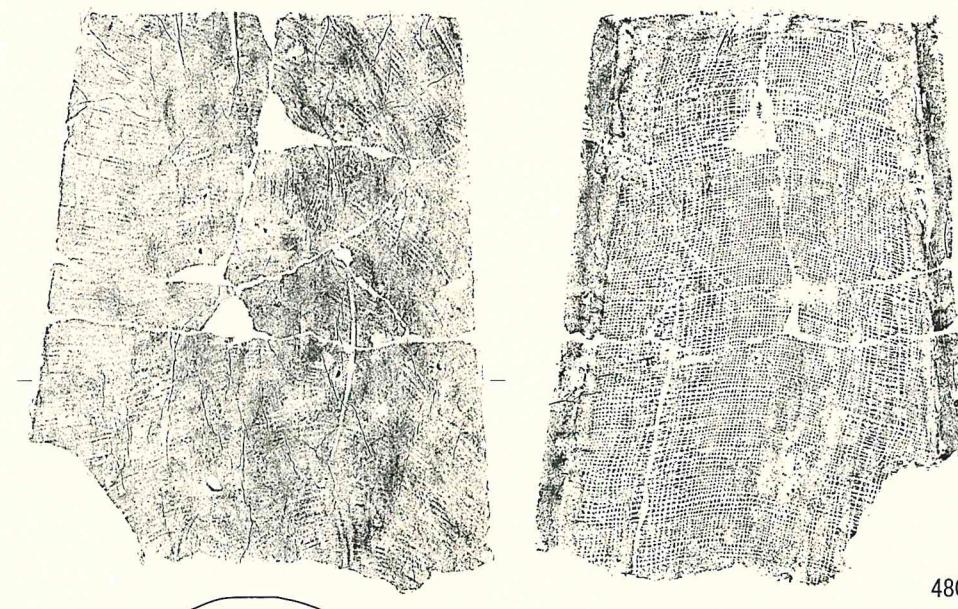
478

0 1:5 10cm

第192図 瓦98 金堂西側瓦溜り(7)



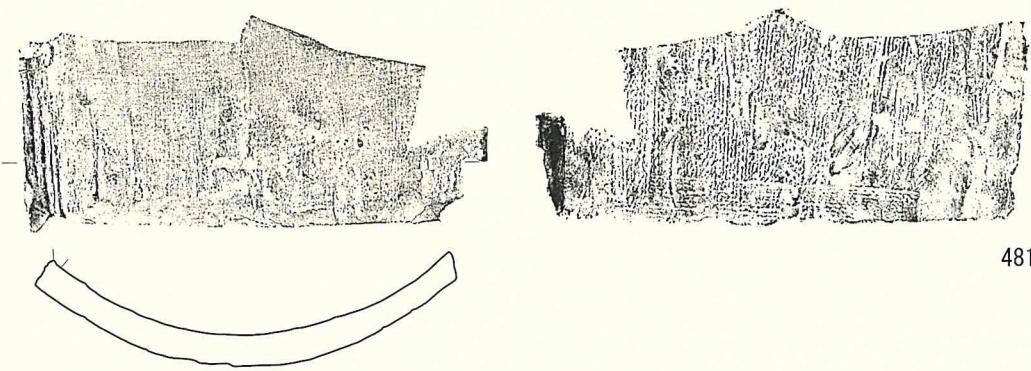
479



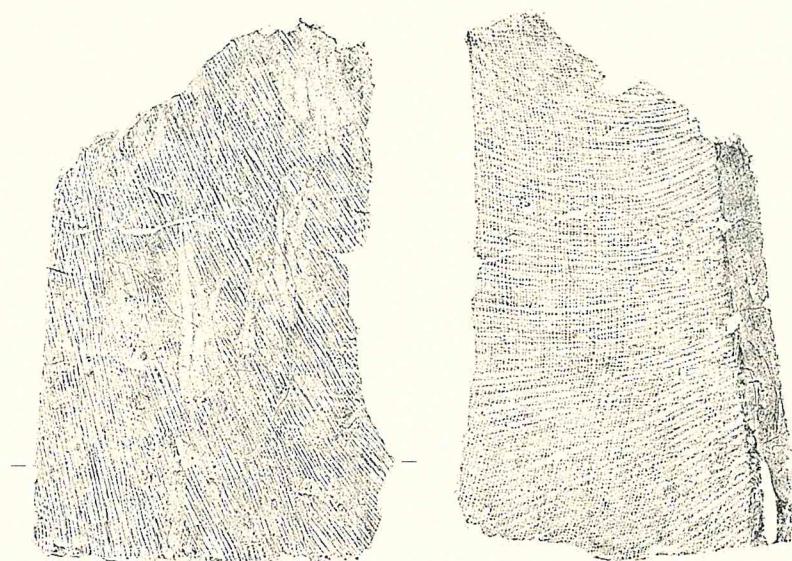
480



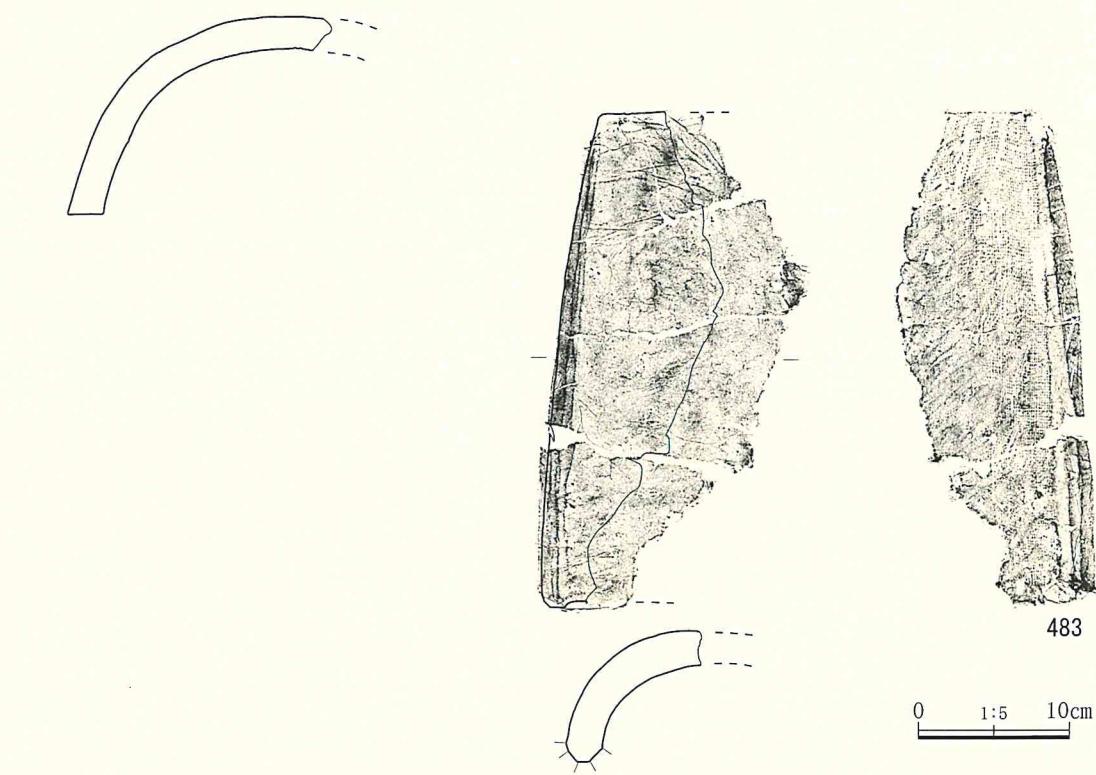
第193図 瓦99 金堂西側瓦溜り(8)



481



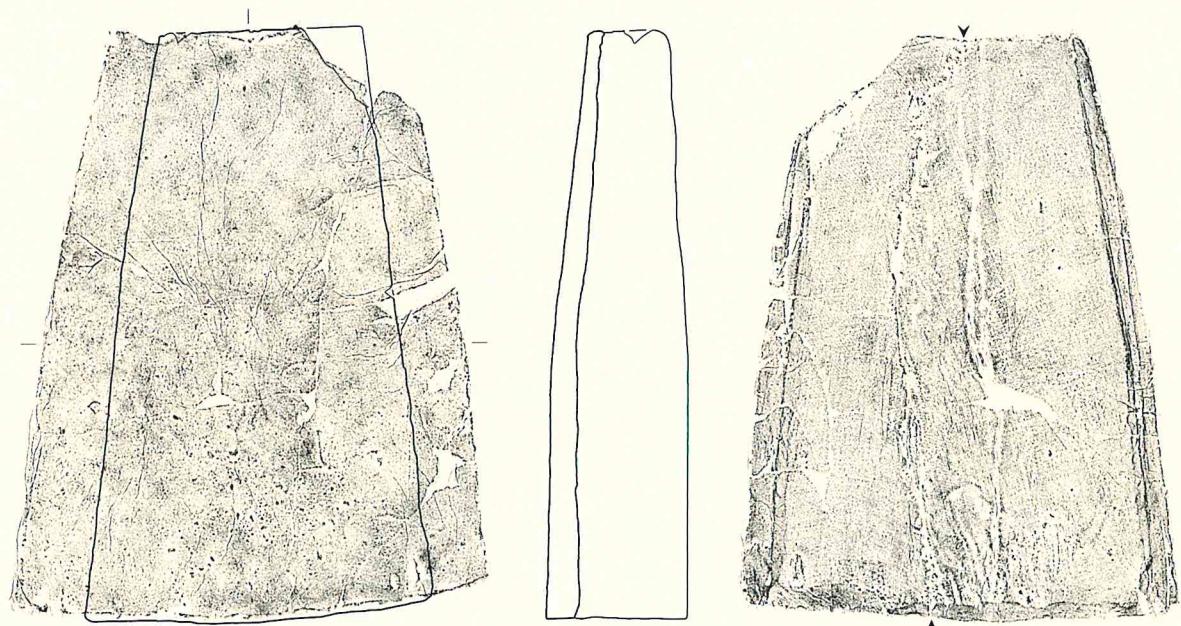
482



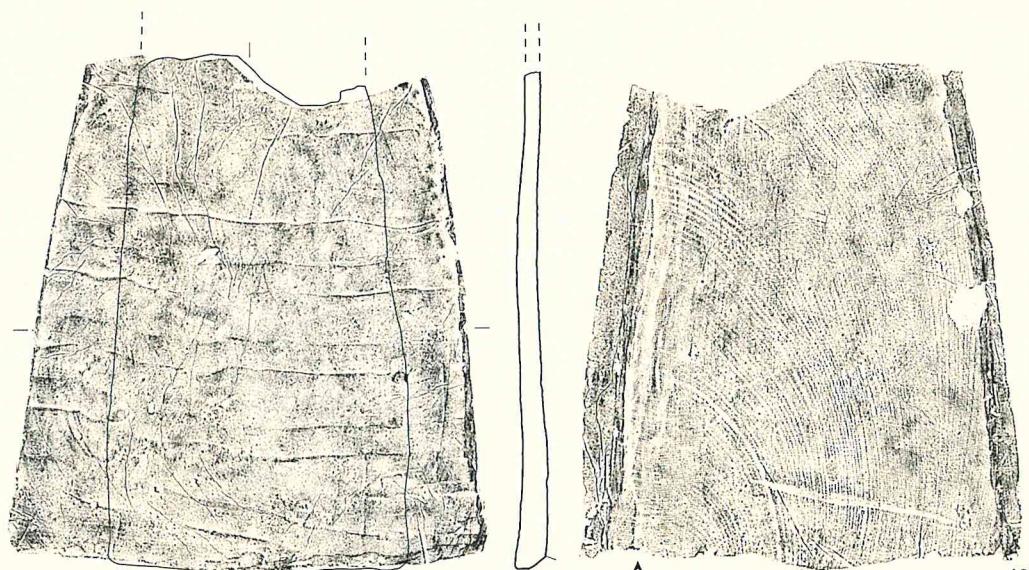
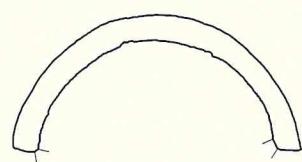
483

0 1:5 10cm

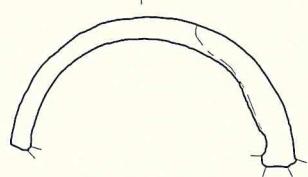
第194図 瓦100 金堂西側瓦溜り(9)



484



485

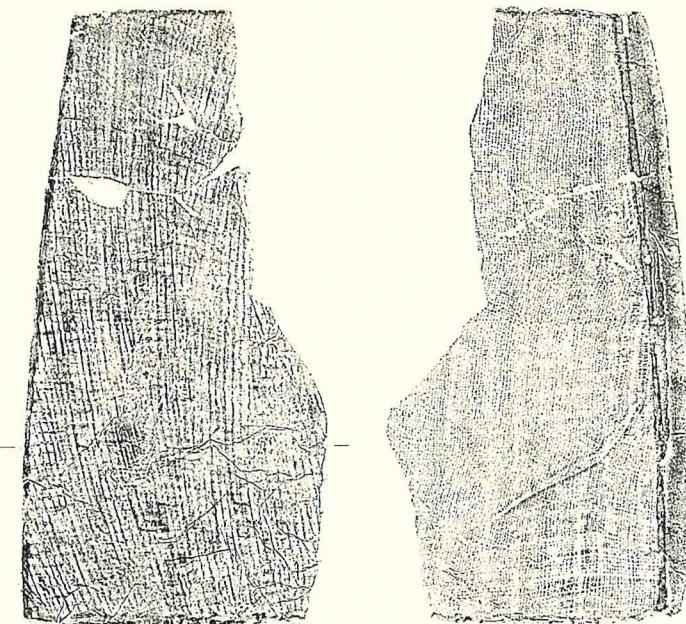


0 1:5 10cm

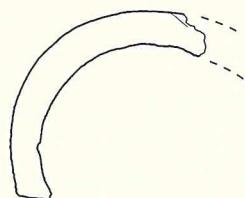
A scale bar indicating a ratio of 1:5 and a length of 10 cm.

第195図 瓦101 金堂西側瓦溜り(10)

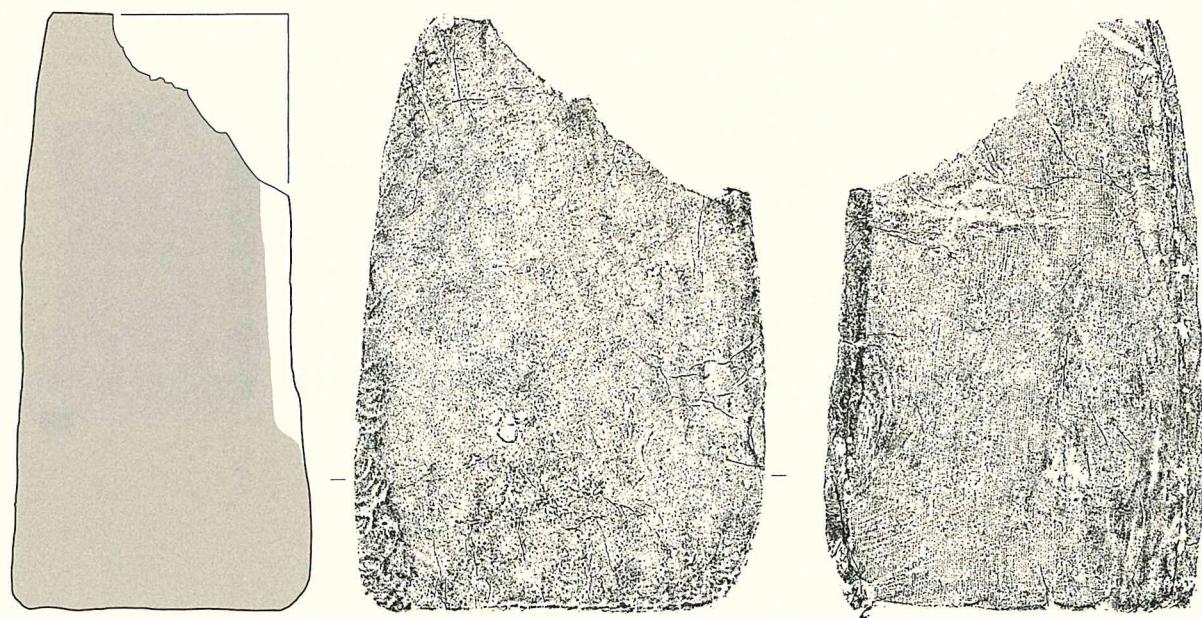
0919



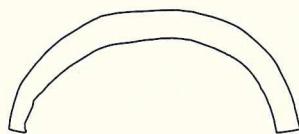
486



0915

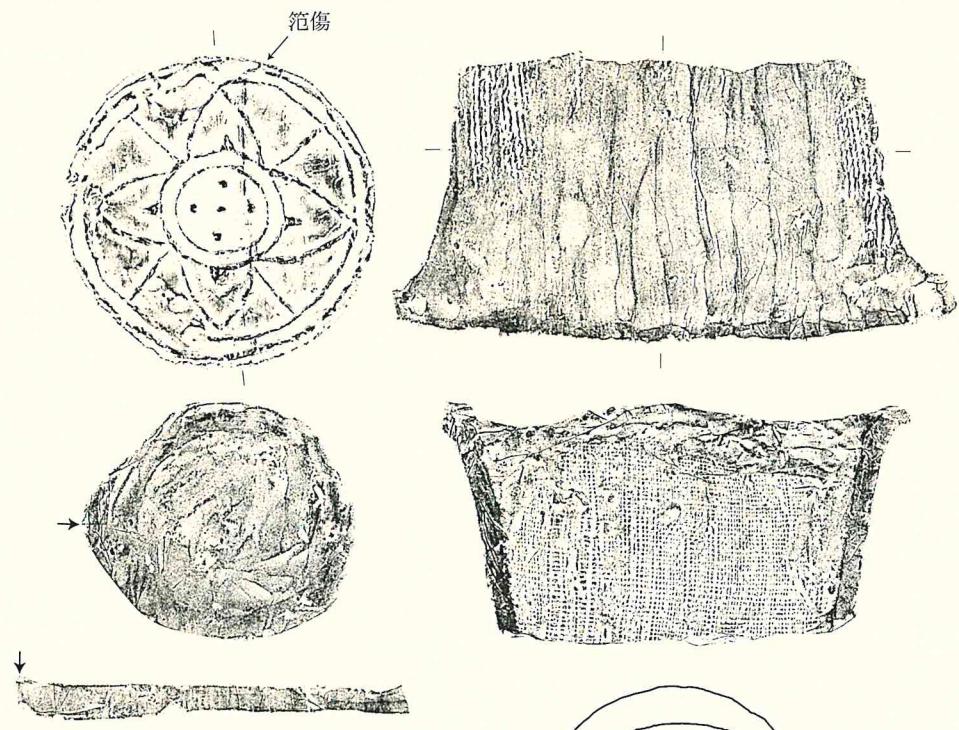


487

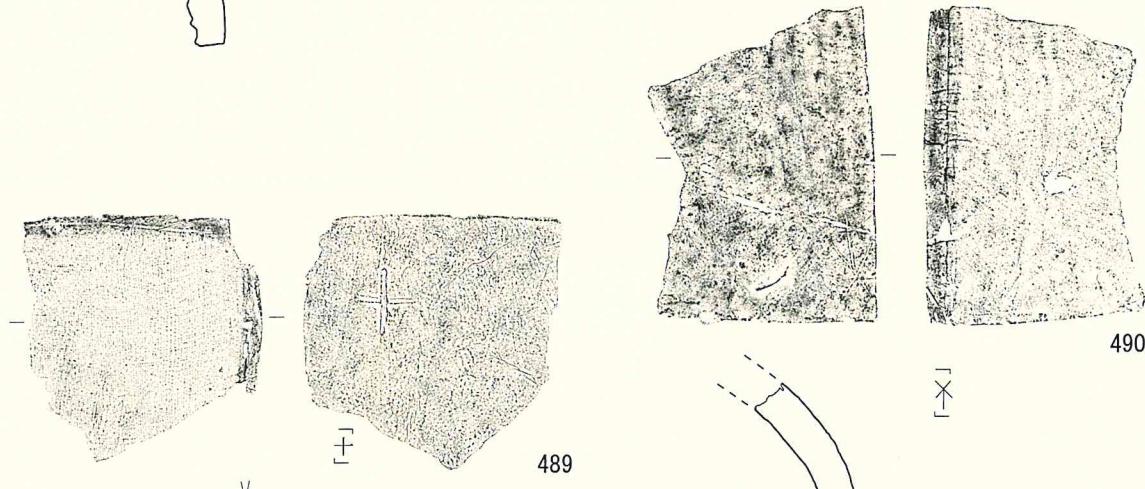
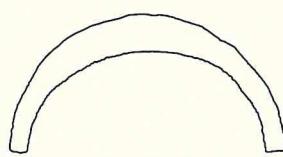
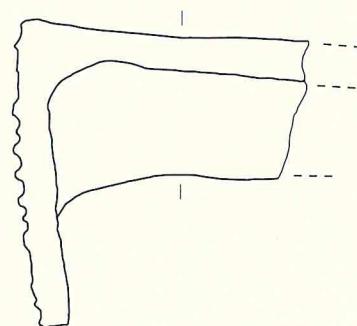


0 1:5 10cm

第196図 瓦102 金堂西側瓦溜り(11)



488

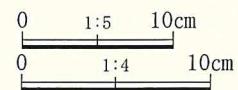


490

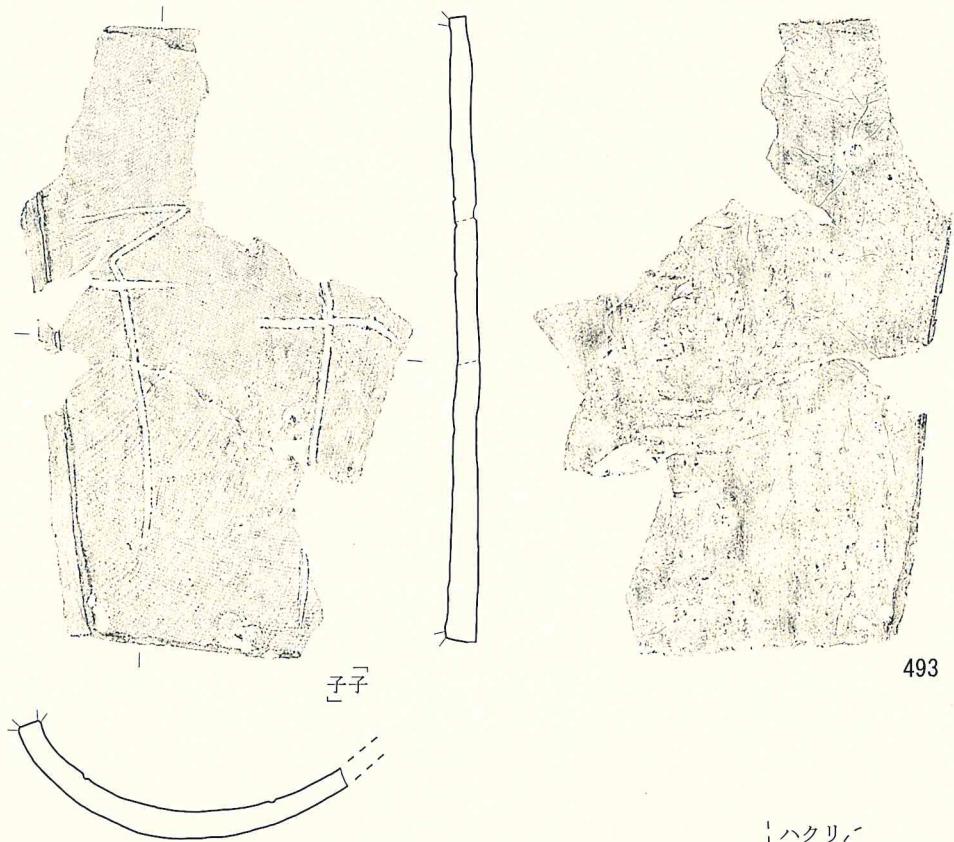
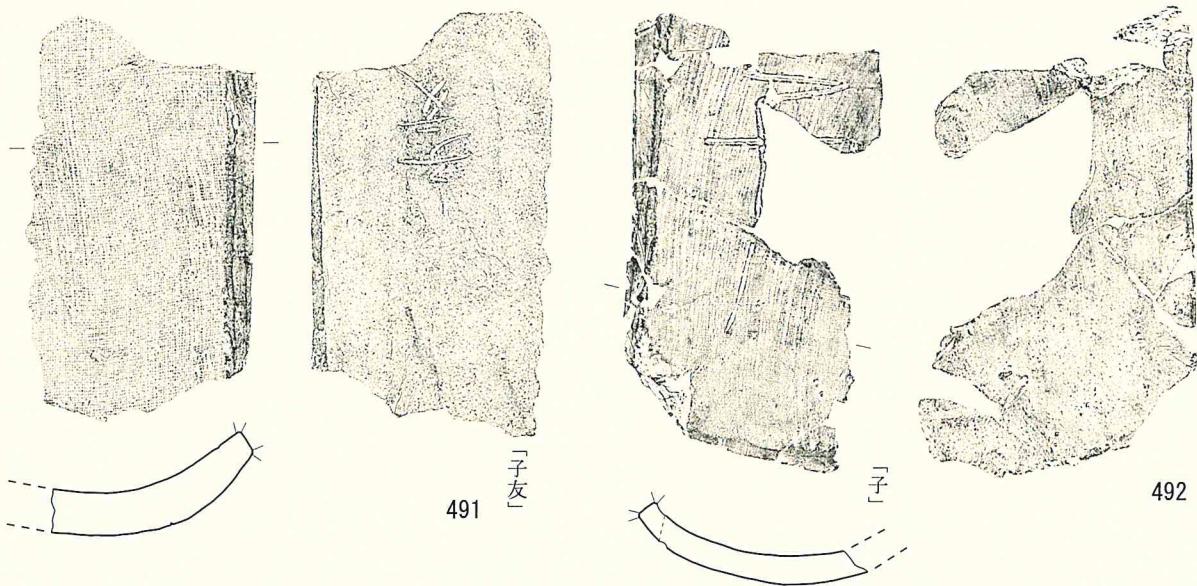
489



X

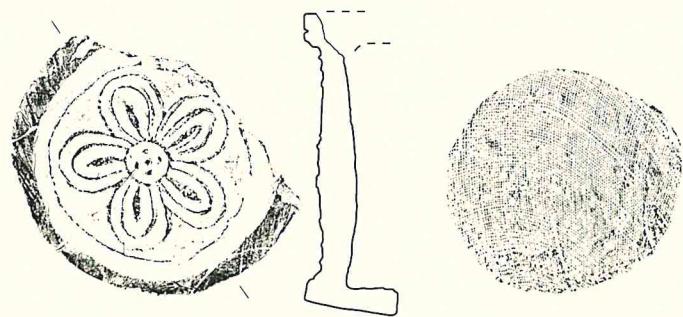


第197図 瓦103 金堂西側瓦溜り(12)

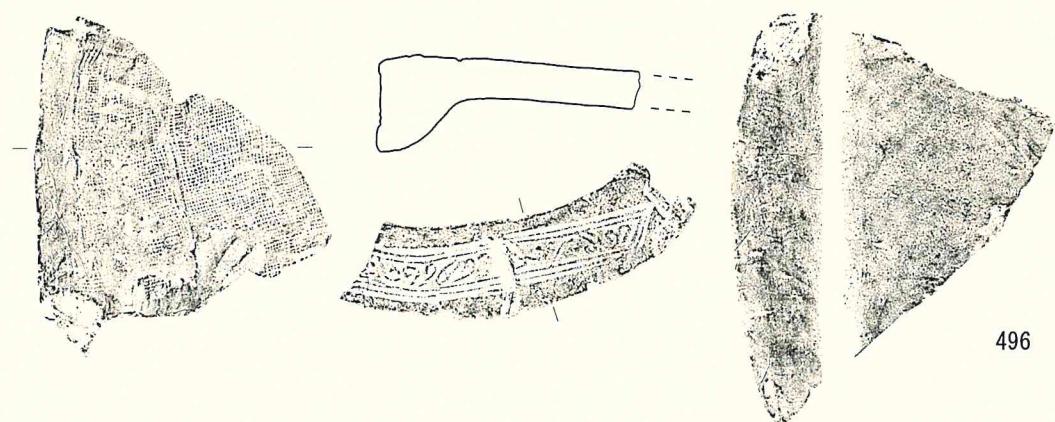


0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

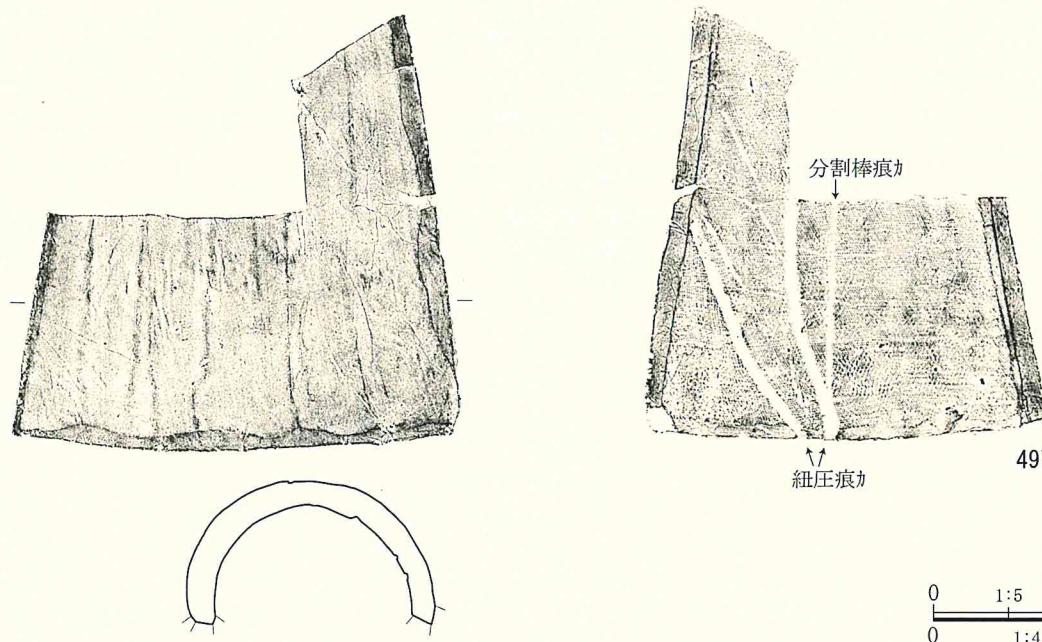
第198図 瓦104 金堂西側瓦溜り(13)



495



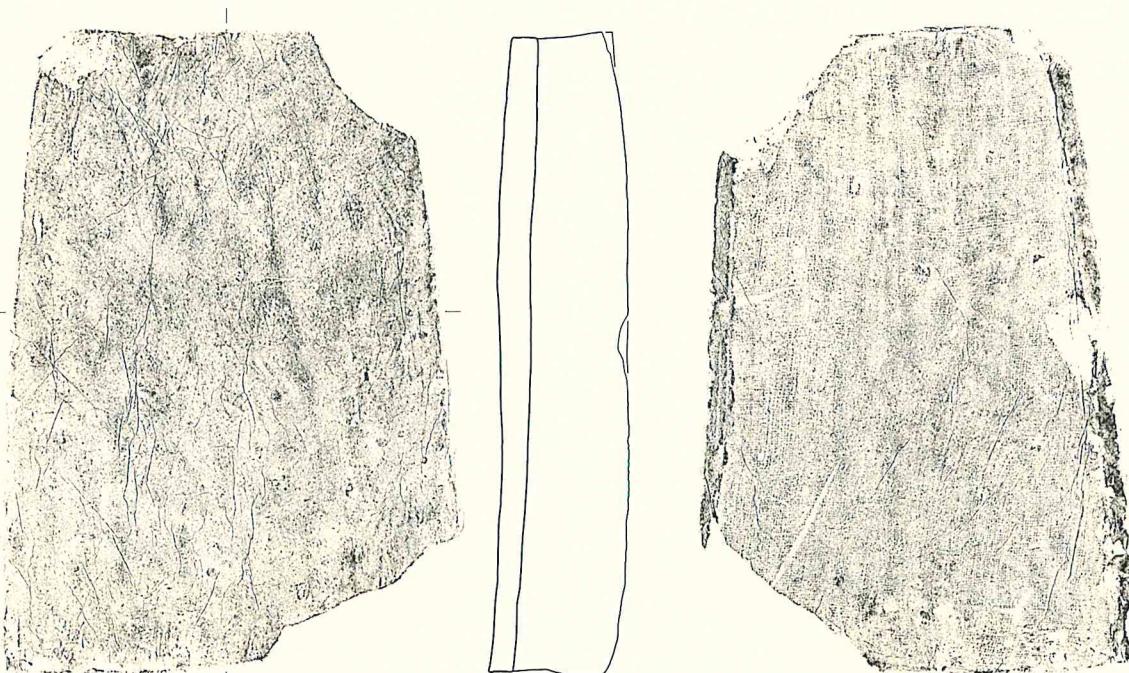
496



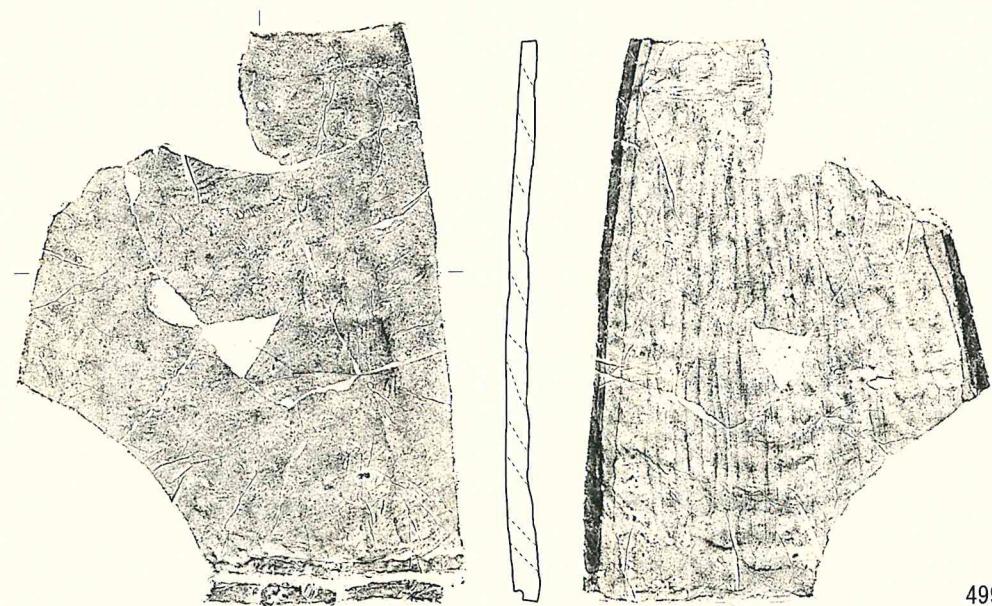
497

第199図 瓦105 金堂西側瓦溜り(14)

0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

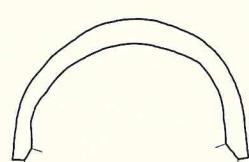


498

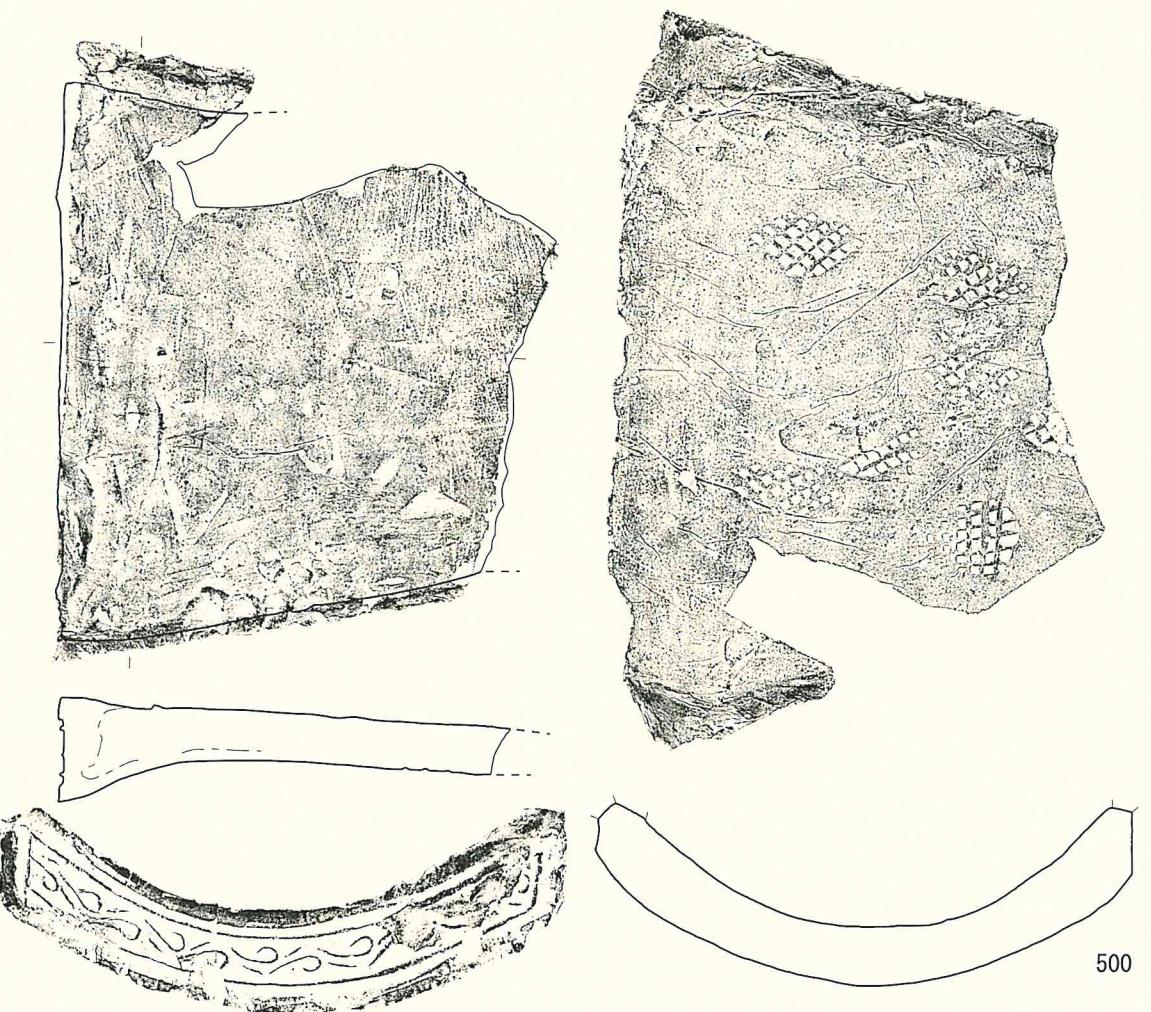


499

0 1:5 10cm



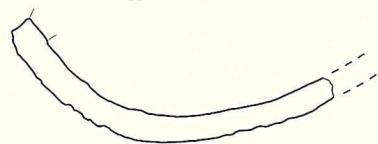
第200図 瓦106 金堂西側瓦溜り(15)



500



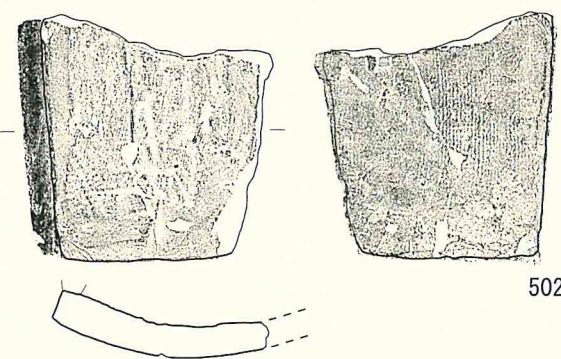
501



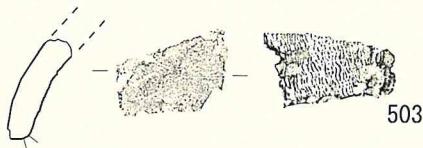
0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

第201図 瓦107 金堂西側瓦溜り(16)

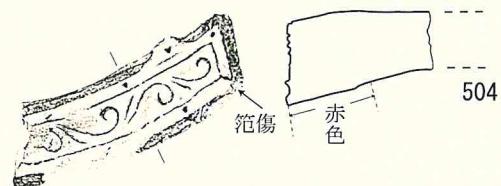
金堂西側



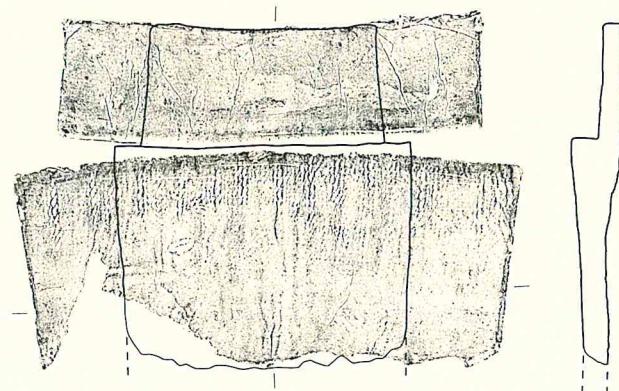
502



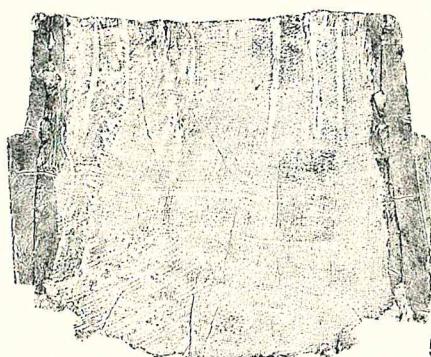
503



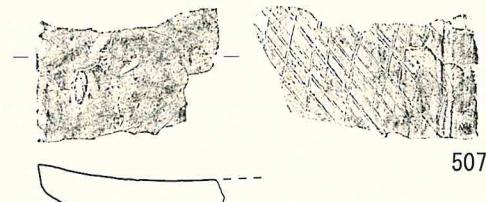
504



505



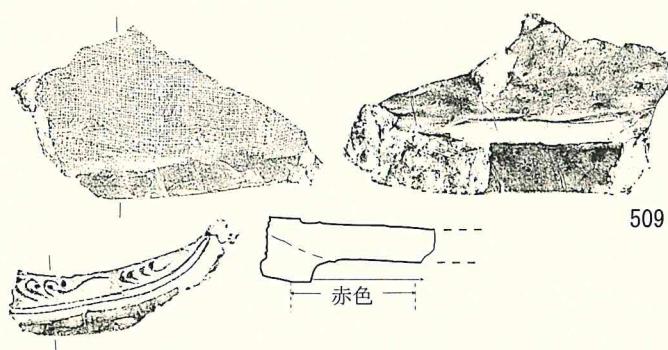
506



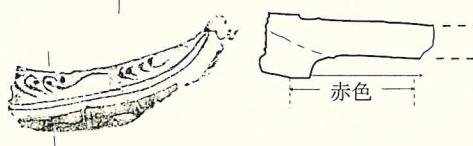
507



508



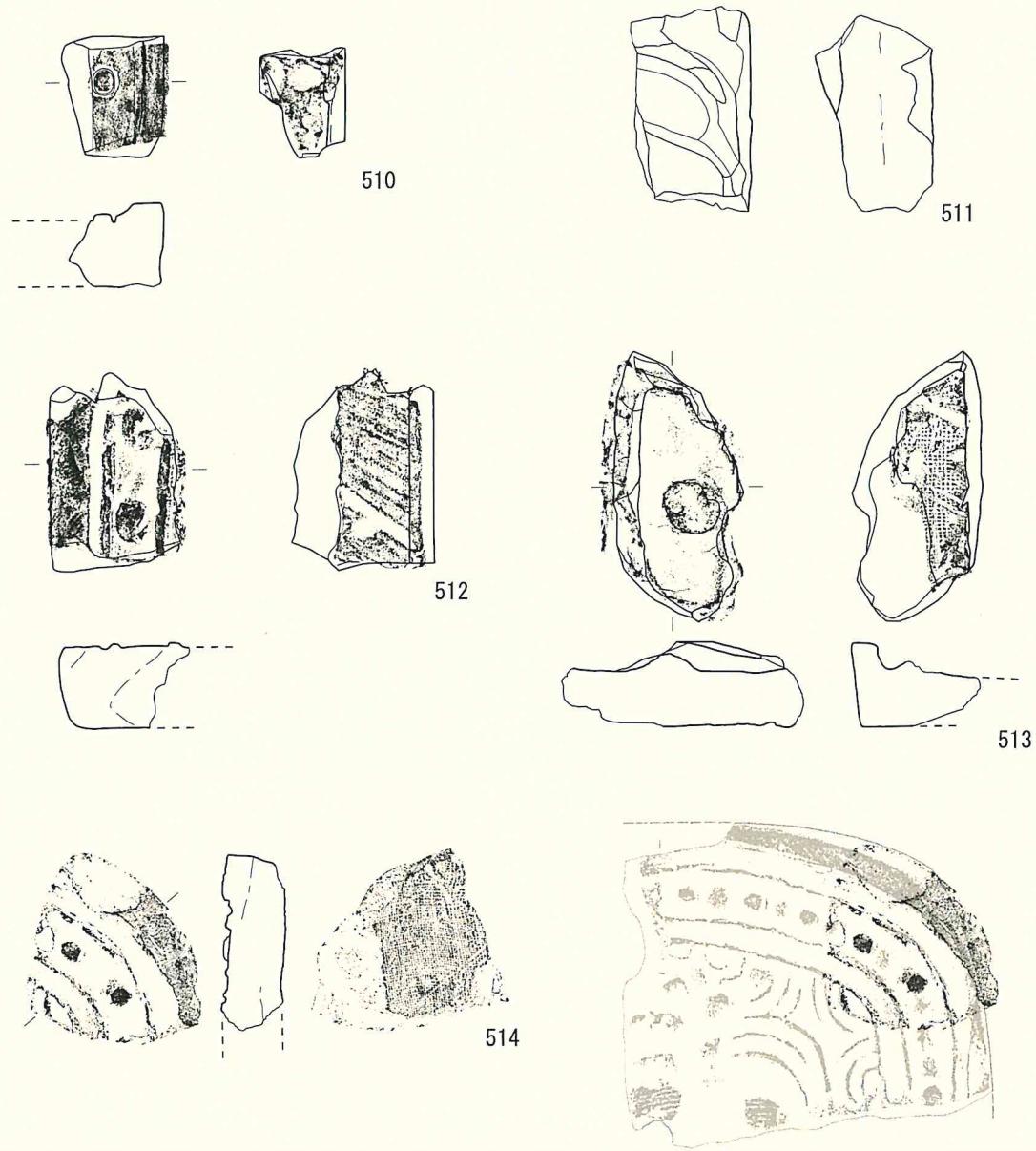
509



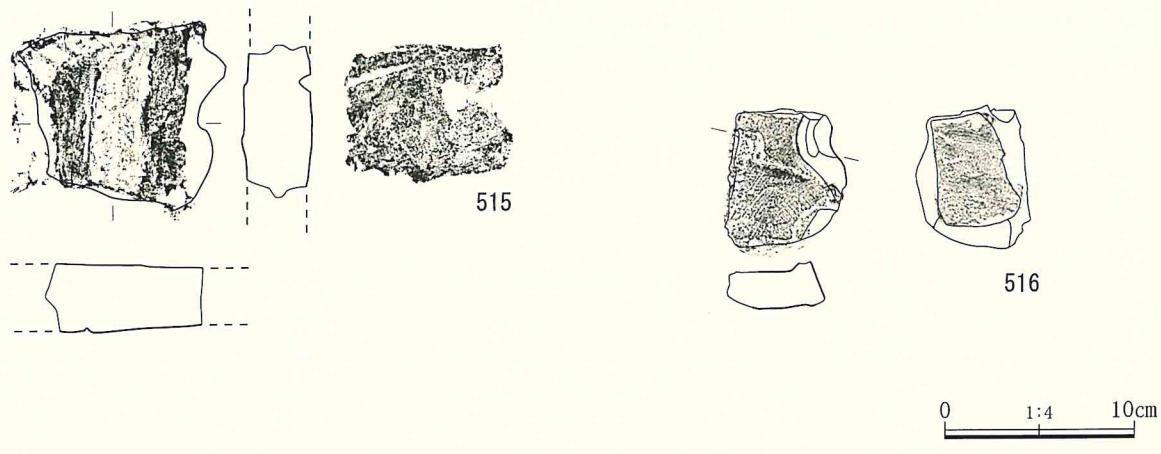
0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

第202図 瓦108 金堂西側

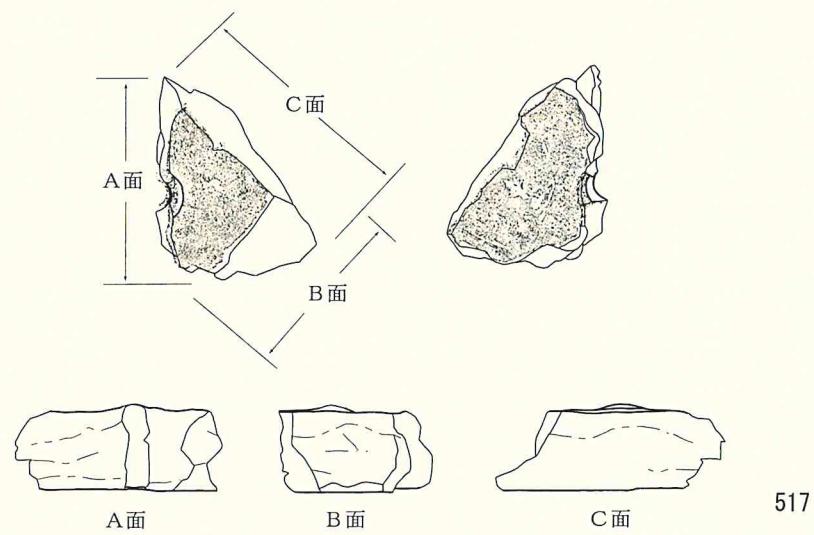
鬼瓦



『上野国分尼寺跡 上野国分二寺中間地域』  
P47 図48（網掛）との重ね図

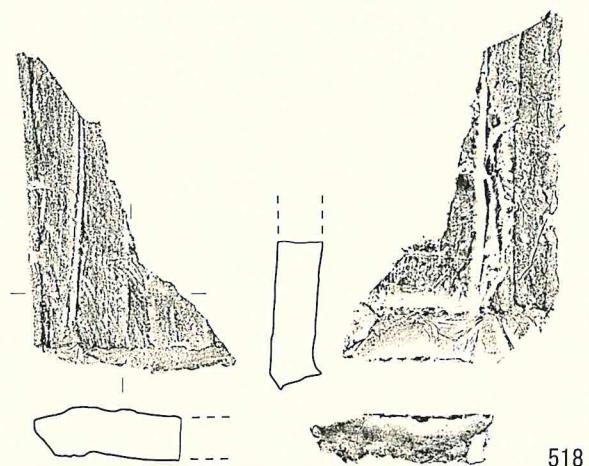


第203図 瓦109 鬼瓦(1)

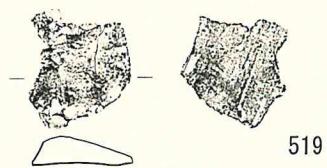


517

特殊瓦



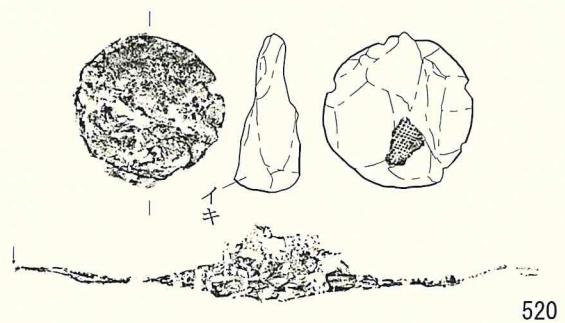
518



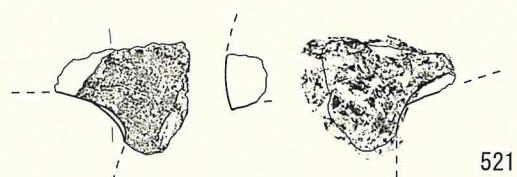
519

0 1:4 10cm

第204図 瓦110 鬼瓦(2)・特殊瓦(1)

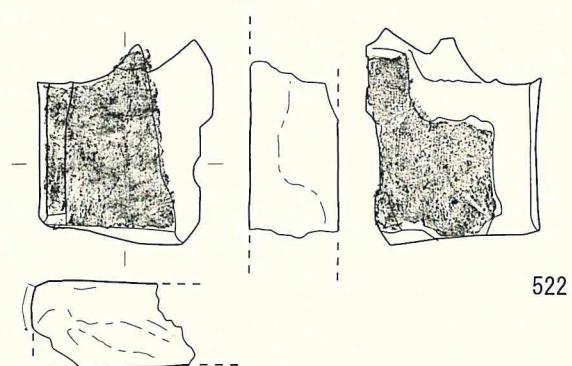


520



521

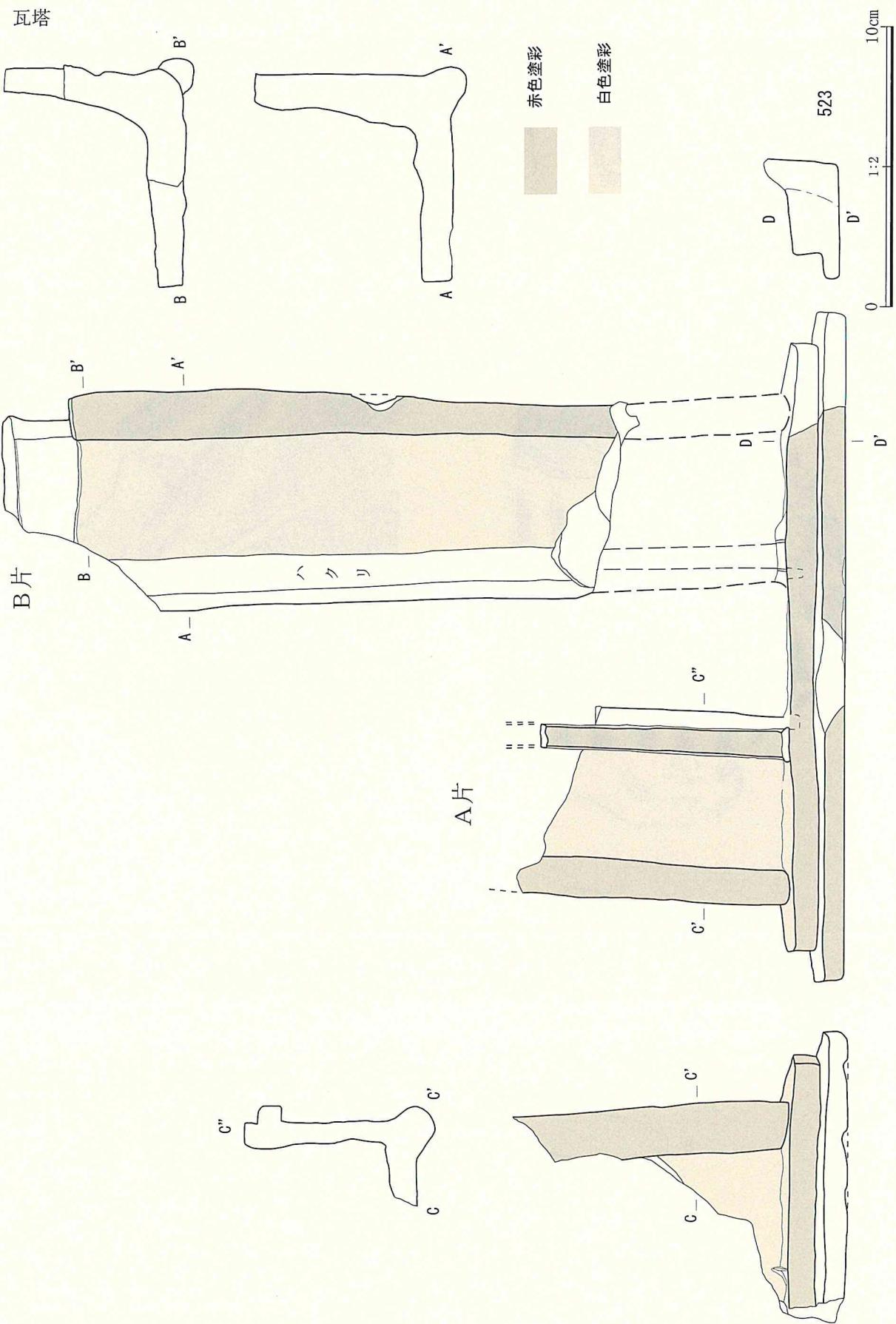
埠



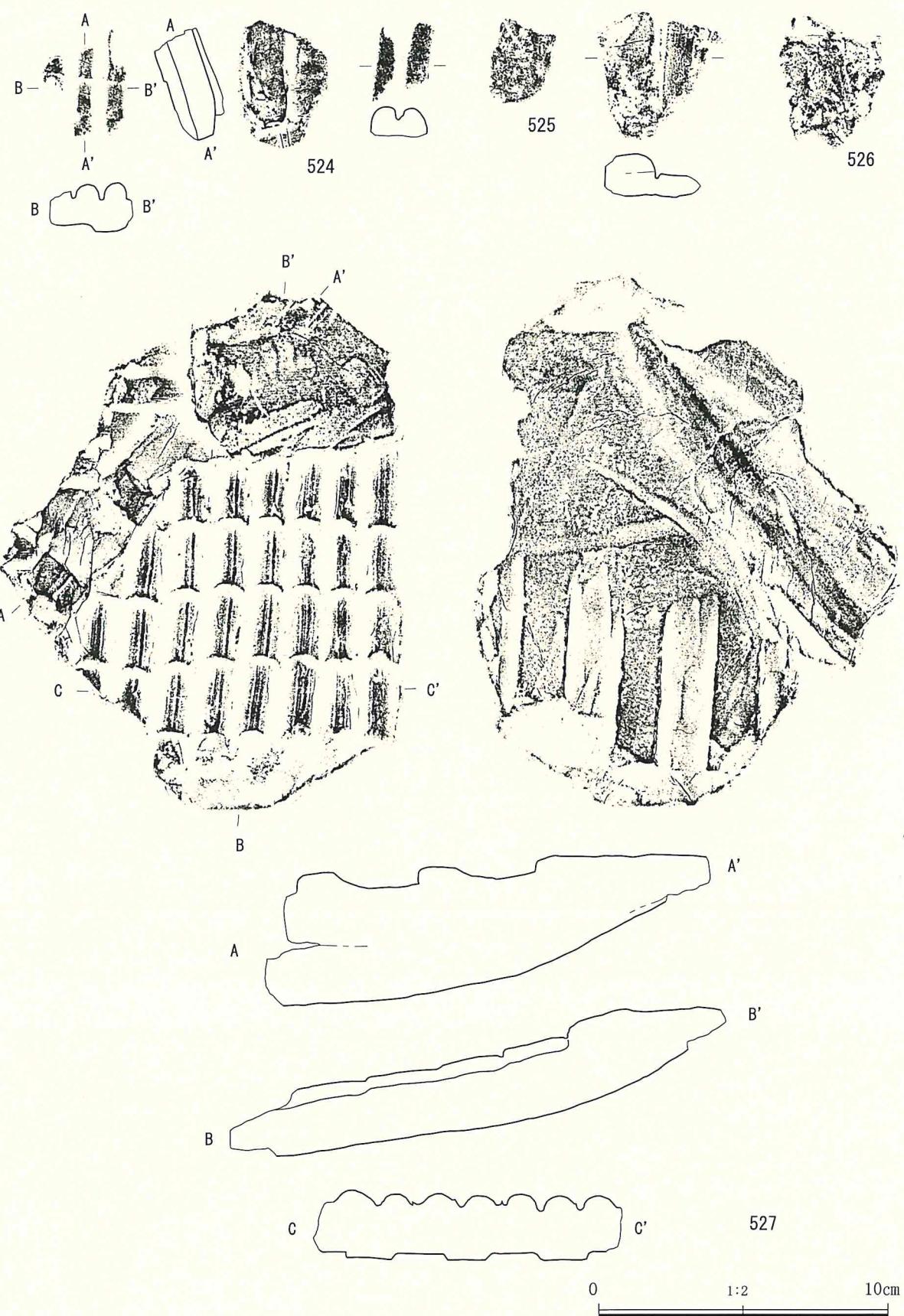
522

0 1:4 10cm

第205図 瓦111 特殊瓦(2)・埠



第206図 瓦112 瓦塔(1)



第207図 瓦113 瓦塔(2)

表3 遺構(トレント)別瓦の出土状況

各遺構(トレント)における瓦の出土状況は以下のとおりである。ただし、各瓦の個数(接合前)・重量kg(小数2位を切り捨て)は、As-Bを含まない遺構埋土中から出土したもののみで、平瓦には軒平瓦、丸瓦には軒丸瓦を含めている。ただし、必要に応じて表土中から出土した瓦についても触れているが、その場合には表土中からの出土であることを明記した。本文中()内の数字は瓦類実測図の瓦類の通し番号、「文」に続く数字は文字瓦図での通し番号である。

### 1) 金堂跡

#### ①北辺から北東隅(13-1 トレント)

基壇外側を中心に瓦が出土した。出土量は平瓦180片・26.9kg、丸瓦63片・9.0kg。軒平瓦P008(4)、文字瓦は「格子一体型雀」A類(29 文698)などがある。また、基壇東辺の外には13-3 トレント同様に、広端面を上に、凸面を外に向けた瓦列が検出され、そのうち1点を取り上げ図化した(1)。瓦列の東に近接してAs-B混土の瓦廃棄溝があり、そこから多数の軒平瓦・軒丸瓦・文字瓦・鬼瓦などの破片が出土した。軒平瓦には新範種p108(26)があり、鬼瓦の中には僧寺A類と昭和期の尼寺跡調査(註4 第30図48)で既出のものと同範のもの(514)が出土した。この瓦廃棄溝は北側には続いていないことから、これらの瓦類は金堂に使用されていた可能性が高い。基壇西寄りの地業内から平瓦が数片出土している。

#### ②南東隅及び回廊接続部分(13-2 トレント)

出土量は平瓦110片・24.0kg、丸瓦24片・4.7kg。軒平瓦・軒丸瓦の出土量は少なくM002(187)などであった。回廊取り付き部の地業内から数片の瓦が出土している。

#### ③伽藍中軸の南辺部(13-3 トレント)

基壇南辺の外側から瓦が出土した。基壇寄りで瓦の出土密度が濃い状況であった。出土量は平瓦581片・48.9kg、丸瓦295片・27.8kg。軒平瓦はP001・P004(62 金山2号窯)・NH3系がそれぞれ1片、軒丸瓦はB201(57)2片・B202が1片出土した。文字瓦はヘラ書き型「真」(60 文586)などが出土した。観音山小塚支群の特徴である凹面に莫蘿目痕のある平瓦(65)が出土した。このほか厚さが約3.5cmの厚い丸瓦(64)、厚さ1cmの薄い平瓦(63)が出土している。

### 2) 回廊跡

#### ①南面回廊(8-1・8-2 トレント)

##### ア. 8-1 トレント

出土量は平瓦218片・20.4kg、丸瓦68片・7.2kg。地業内から平瓦101片・30.6kg、丸瓦41片・16.9kg。埋土中から軒平瓦はP001(72)、文字瓦はヘラ書き型「織継」(73 文614)などが出土した。地業内には破片となった瓦が敷き詰められており、そこから軒平瓦P001・P010の小破片も出土した。8-3 トレントと同様に、地業縁辺部に有段式丸瓦片が埋められていたが、現地での記録に留めた。表土中から軒平瓦P002、軒丸瓦M002、莫蘿目痕のある丸瓦(85)の小破片が出土した。文字瓦はヘラ書き型「真」(文587)・「辛」(文590)・格子一体型「雀」A類(文697)などが出土している。

##### イ. 8-2 トレント

出土量は平瓦340片・21.1kg、丸瓦87片・14.0kg。地業内から平瓦13片・5.3kgが出土し、丸瓦は出土していない。埋土中から軒平瓦はP001(98)・P002(100)・P102・P307(95)・Z003(97)、軒丸瓦はA101(94)・M002などが出土した。文字瓦はヘラ書き型「石」(87 文565)・「三」(93 文545)・「虫」(文584)などが数片、判読困難な格子一体型(文722・723)が出土した。地業内からの出土量は8-1 トレントに比べると少ないが、地業の断ち割りを行った面積が小さいことによる可能性が高い。

## ②回廊南東隅(8-3トレンチ)

基壇東辺外側裾部から大量に出土した。堆積状況は整然としたものではなく、平瓦・丸瓦の破片が混然と重なっていたことから、回廊の倒壊による堆積ではなく廃材処分により堆積したものと考えられる。出土量は平瓦1,116片・167.9kg、丸瓦403片・72.1kg。軒平瓦はP008、軒丸瓦はA101とみられる小破片が僅かに出土した。文字瓦はヘラ書き型の「二」(142 文537)・「川」(文596)のほか、格子一体型「菌田」(103・119 文714・文716)・「雀」A類(104 文702)などが出土し、判読困難なものも含めると17片出土した。地業の断ち割り面積が狭いものであったので、8-1・8-2トレンチよりも地業内出土の瓦数は少なく、平瓦48片・22.1kg、丸瓦24片・10.8kg。このトレンチでも地業縁辺には有段式丸瓦(144)が敷かれていた。また、地業確認面の下約3cmのところから平瓦(146)が出土した。この2点はその場で割られたようにまとまっており、瓦葺きの作業中に一部を破損したため埋設地点で割つて地業内に敷いたものと考える。

## ③西面回廊内筋(11-1E・11-1Wトレンチ)

回廊内筋は尼寺廃絶以降の溝などにより壊されており、表土中から平瓦・丸瓦合わせて16片の出土であった。軒丸瓦は二寺創建前に牛田廃寺跡・多胡郡正倉跡などで用いられていた6弁複葉のJ001(185)1片、A004(186)1片が表土中から出土した。

## ④西面回廊中央付近(11-2トレンチ)

基壇裾部分を掘り下げていないため、埋土中からの出土量は少ない。平瓦52片・11.2kg、丸瓦9片・1.6kg。表土中から軒平瓦はP004(147 金山2号窯)、文字瓦は格子一体型「佐」(149 文708)のほか、泥状盤築技法で凸面に記号のある丸瓦(148 文734)、端面に重ね焼き痕のある平瓦(151)などが出土した。

## ⑤北西隅(11-1W・11-3トレンチ)

### ア. 11-1Wトレンチの北西隅部分

出土量は平瓦366片・90.5kg、丸瓦168片・31.2kg。軒平瓦P002(153)・軒丸瓦A101(163)のほか鬼瓦片(511)、瓦塔初層軸部(523)など特殊な瓦製品類も出土した。地業内からは平瓦5片・1.2kg、丸瓦1片・0.08kgが出土した。

### イ. 11-3トレンチ

出土量は平瓦44片・7.7kg、丸瓦16片・3.1kg。軒平瓦はP001の小破片が1片、分類不明の軒丸瓦が数片出土している。地業内からは平瓦3片・2.1kg、丸瓦1片・0.1kgが出土した。

## ⑥西面回廊外筋(11-4・11-5トレンチ)

### ア. 11-4トレンチ

出土量は平瓦64片・10.8kg、丸瓦43片・5.4kg。軒丸瓦はM002(178)・新範種b211(180)が出土した。文字瓦は格子一体型「佐位」C類(179 文707)が1片出土した。

### イ. 11-5トレンチ

西面回廊の痕跡は確認できず、瓦は表土中からの出土であった。軒丸瓦D001カ(183)・B2系(184)が出土した。

## ⑦東面回廊(15トレンチ)

基壇上面は耕作等で消失しており、本トレンチから出土した瓦は表土中からのものである。遺構埋土中から出土した瓦は、サブトレンチ(15-1・15-2・15-3・15-4)からの出土である。基壇外側の15-1・15-3トレンチは瓦の出土量が多いが、内側の15-2・15-4トレンチの出土量は極めて少量であった。このほか、基壇断ち割り調査により地業内から瓦が出土した。

#### ア. 15トレンチ

表土中からほぼ完形の丸瓦(238)が出土した。この丸瓦は長さが30.8cmと短く、曲率も小さいことから通常とは異なる用途に用いられた可能性がある。このほか軒平瓦はNH301(232)・P001・P002(233)、軒丸瓦はA101・B104(234)・E103が出土し、文字瓦はヘラ書き型の「上」(236 文598)・「又」(文571)が出土した。

#### イ. 15-1トレンチ

基壇外側裾部にあたり、平瓦197片・35.5kg、丸瓦88片・15.2kgが出土した。軒平瓦P002、文字瓦は格子一体型「雀」A類(212 文699)・ヘラ書き型「淨長」(213 文613)が出土した。地業内からは平瓦2片・0.3kg、丸瓦1片・0.3kgが出土した。

#### ウ. 15-2トレンチ

15-1トレンチと対称の位置にある基壇内側裾部である。瓦の出土量は15-1トレンチに比べ極端に少なかった。平瓦7片・0.6kgで、丸瓦は出土しなかった。

#### エ. 15-3トレンチ

基壇外側裾部にあたり、平瓦84片・20.3kg、丸瓦39片・10.7kgが出土した。軒平瓦の出土はなく、軒丸瓦B101(226)が1片出土したのみである。文字瓦は格子一体型「佐位」C類(225 文706)が1片出土した。泥状盤築技法の平瓦、隅切りの丸瓦が出土した。

#### オ. 15-4トレンチ

15-3トレンチと対称の位置にある基壇内側裾部である。瓦の出土量は15-2トレンチと同様に少なく、平瓦4片・1.1kg、丸瓦7片・2.2kgである。

#### カ. 地業内

15-1トレンチでは、平瓦2片・0.3kg、丸瓦6片・0.6kg、15-3及びその延長から、平瓦2片・0.5kg、丸瓦6片・0.6kgが出土した。いずれも小破片である(214・215・216)。

### 3) 尼坊(3・4トレンチ)

基壇上面は土地改良事業・耕作によって消失しているが、基壇外側裾部及びAs-Bの混入がない瓦溜まりから大量の瓦が出土した。出土量は平瓦5,354片・365.3kg、丸瓦1,131片・17.0kg。ただし、尼坊南面と推定講堂北面はそれほど離れていない(約10m)ため、尼坊跡南面出土の瓦の中には講堂で用いた瓦が混入している可能性がある。出土した瓦は小破片のものが多い。尼坊跡からは軒平瓦・軒丸瓦・文字瓦も多数出土したが隅切り瓦は出土しなかった。軒平瓦はP001が4片、P002(255)・P008・鋸歯文u002(265)がそれぞれ1片のほか分類不明の軒平瓦が2片出土した。軒丸瓦はA106(272)・B001・B203カ(277)・B201・B204・B205・B208カ・B20系(289)・E202・M002(251・290)のほか、分類不明の軒丸瓦が35片出土した。このうちM002は10片出土している。文字瓦はヘラ書き型「三」(259 文555)・刻印型「山(田)」(254 文711)・ヘラ書き型「万呂」と刻印型「當」が並んで記された平瓦(278 文683)、刻印による「法輪」(243 文738)が出土した。平瓦(286)に残る平行条目は道具端部も見え、1片だけの出土である。表土中から軒平瓦NH301(291)、文字瓦の格子一体型「雀」A類(281 文694)が出土した。

### 4) 伽藍地

#### ①伽藍地北辺(9・5トレンチ)

##### ア. 9トレンチ

築垣内側では平瓦690片・76kg、丸瓦210片・3kgが出土した。軒平瓦はP001が4片(295・301・302)出土し、軒丸瓦はB202カ(299)・M002のほか新範種がそれぞれ1片出土した。このほか判読困難な文字瓦1片が出土した。盛土基部内から小破片の平瓦が5片・0.2kg出土した。表土中からヘラ書き型「千」(文599)が1片、鬼瓦(517)が出土した。

築垣外側では平瓦453片・61.1kg、丸瓦120片・23.0kgの出土量であった。このうち外側基部裾部の瓦溜まりからは平瓦124片・21.6kg、丸瓦44片・10.9kgが出土した。軒平瓦はP001が6片(304・305・307・310)、NH3系1片(308)、軒丸瓦はB201が2片(309・317)出土した。文字瓦はヘラ書き型「三」(314)が1片のほか判読困難なものが2片出土した。

#### イ. 5-1トレンチ

築垣内側の出土量は平瓦262片・23.0kg、丸瓦52片・6.6kg。表土中からは分類不明な軒丸瓦小破片が2片出土した。基部外側の出土量は平瓦92片・7.3kg、丸瓦22片・3.1kg。軒平瓦はP001(325)、分類不明がそれぞれ1片出土し、軒丸瓦は出土しなかった。

#### ウ. 5-2トレンチ

築垣外側から多量の瓦が出土し、平瓦327片・74.7kg、丸瓦52片・17.4kgであった。軒平瓦はP001が1片(335)、P002が2片(331・332)、Z008が1片(347)出土した。軒丸瓦はA102が1片(333)、新范種h003が1片(330)出土した。文字瓦は刻印型「山田」(328 文712)・格子一体型「山田天」(338 文720)がそれぞれ1片出土した。隅切り瓦が1片出土した。表土中から軒丸瓦M002が1片出土した。

### ②伽藍地東辺(6-1・6-2・2・1トレンチ)

6-1・6-2トレンチどちらも伽藍地東辺を区画する施設の外側(E)と内側(W)に分けて取り上げを行った。また、6-2Wトレンチには竪穴建物跡が2棟あり、どちらも竪に使用した軒平瓦は遺存度が大きいものであった。

#### ア. 6-1Eトレンチ

出土量は平瓦120片・16.2kg、丸瓦37片・5.3kg。軒平瓦はなく、軒丸瓦はB201が1片(352)、分類不明が1片のほか、表土中から分類不明が1片出土した。文字瓦はこれまで「田」と読まれていた格子一体型(354 文688「田」ではなく格子の一部の可能性が高い。)が出土した。

#### イ. 6-1Wトレンチ

出土量は、平瓦106片・10.3kg、丸瓦22片・1.8kg。軒平瓦はP001(358)・P008カ(359)のほか分類不明を含め3片が出土し、軒丸瓦は出土しなかった。

#### ウ. 6-2Eトレンチ

出土量は平瓦162片・18.4kg。軒平瓦の出土はなく、軒丸瓦はB203カ(366)が1片、分類不明1片が出土した。

#### エ. 6-2Wトレンチ

出土量は平瓦183片・42.5kg、丸瓦39片・4.5kg。軒平瓦はP001(376)1片、P002(367ほか)2片、軒丸瓦はE103・E202(370)・M002・E10系がそれぞれ1片である。SI1の埋土中から、出土した軒平瓦P002(367)は竪の補強材として使用されていた。文字瓦は判読困難なヘラ書き型が1片出土した。SI2は埋土を掘り下げなかつたが、軒丸瓦P001(376)が瓦当面を上にして立った状態で出土した。

#### オ. 2トレンチ

出土量は平瓦467片・26.2kg、丸瓦79片・3.2kg。軒平瓦はP001が1片、軒丸瓦はA106(380)・B207a(382 金山2号窯)・E102がそれぞれ1片、分類不明の破片が2片出土した。格子目が米字状をした叩きの平瓦が1片(378)出土した。表土中から軒平瓦P3系(383)1片、分類不明1片、軒丸瓦P201(385)1片のほか、瓦塔屋蓋の小破片(524)が出土した。

#### カ. 1トレンチ

出土量は平瓦467片・15.8kg、丸瓦45片・4.1kg。軒平瓦の出土はなく、軒丸瓦M002が1片であった。表土中から文字瓦は判読困難な墨書型(389)・格子一体型「渕」(388 文692)がそれぞれ1片出土した。

### ③伽藍地南辺(7-1・7-2・7-3トレンチ)

#### ア. 7-1トレンチ

出土量は平瓦59片・3.2kg、丸瓦13片・1.5kg。軒平瓦の出土はなく、軒丸瓦はB201(390)が1片出土した。

#### イ. 7-2トレンチ

出土量は平瓦75片・5.4kg、丸瓦24片・2.8kg。文字瓦はヘラ書き型「大」(394 文576)1片・格子一体型「雀」A類(392 文696)1片が出土した。表土中から軒丸瓦A107・新範種a007(395)がそれぞれ1片出土した。

#### ウ. 7-3トレンチ

出土量は伽藍地南辺で最も多く、平瓦708片・73.9kg、丸瓦186片・27.8kg。軒平瓦はP002が2片(409ほか)、軒丸瓦はB105(400)・E103(403)がそれぞれ1片出土し、判読困難な文字瓦類が6片出土した。表土中から判読困難な文字瓦類が2片出土した。

### ④伽藍地西辺(10-1・10-2・10-3・10-4・10-5・10-6・10-7・12トレンチ)

#### ア. 10-1トレンチ

出土量は平瓦132片・17.5kg、丸瓦56片・8.4kg。ほとんどは竪穴建物跡(SI1)の埋土中からである。軒平瓦はP101(418)・Q001(420)がそれぞれ1片、軒丸瓦はB001が2片出土した。泥条盤築技法の平瓦(419)、文字瓦が数片出土した。表土中から莫蘿目痕のある平瓦小破片が出土した。

#### イ. 10-2トレンチ

出土量は平瓦58片・12.7kg、丸瓦23片・7.5kg。軒平瓦の出土はなく、軒丸瓦M002(426)1片が出土した。SI1からは軒丸瓦A106(427)、文字瓦のヘラ書き型「人」(430 文575)が出土した。

#### ウ. 10-3トレンチ

出土量は平瓦17片・2.0キロkg、丸瓦1.0kg。

#### エ. 10-4トレンチ

出土量は2片のみで、平瓦1片・1.9kg、軒丸瓦F001(425)1片・0.4kg。

#### オ. 10-5トレンチ

出土量は平瓦18片・5.2kg、丸瓦23片・8.5kg。分類不明の軒平瓦1片が出土した。

#### カ. 10-6トレンチ

出土量は平瓦37片・8.8kg、丸瓦19片・5.2kg。軒平瓦P002(415)の小破片が出土した。表土中から軒平瓦P001の小破片が1片出土した。

#### キ. 10-7トレンチ

出土量は平瓦1片・0.2kg、丸瓦1片・0.1kg。

#### ク. 12トレンチ

出土量は丸瓦2片・0.3kgだけであった。

### 5) 推定講堂(3トレンチ)

講堂跡推定箇所では、東端の僅かな傾斜部を除いて明確な建物跡と掘り込み地業を確認できなかった。しかし、北に存在した尼坊跡につながるトレンチや西端のトレンチ内ではAs-Bの混入しない整地土と思われる土層中から瓦が出土した。出土量は平瓦468片・24.3kg、丸瓦93片・6.5kg。整地土内から平瓦243片・12.2kg、丸瓦48片・3.5kg。埋土中から軒平瓦はP001・NH3系がそれぞれ1片、軒丸瓦はB201(455)、尼坊南辺寄りからM002(454)、整地土中からB102b(458)がそれぞれ1片出土した。表土中から軒平瓦はNH3系(443)・P004(462)、軒丸瓦はB101(445)・B105(448)・B205カ(460)・E202(461)がそれぞれ1片出土した。文字瓦はヘラ書き型「二」(449 文541)・「三」(文547)・「中」(444 文588)・格子一体型「齒

「田」(451 文719)などが出土した。瓦塔等が出土した(525・526・527)。

6) 壺地業(11-1Wトレンチ)

壺地業内から瓦は出土しなかった。

7) 瓦溜まり(11-Eトレンチ)

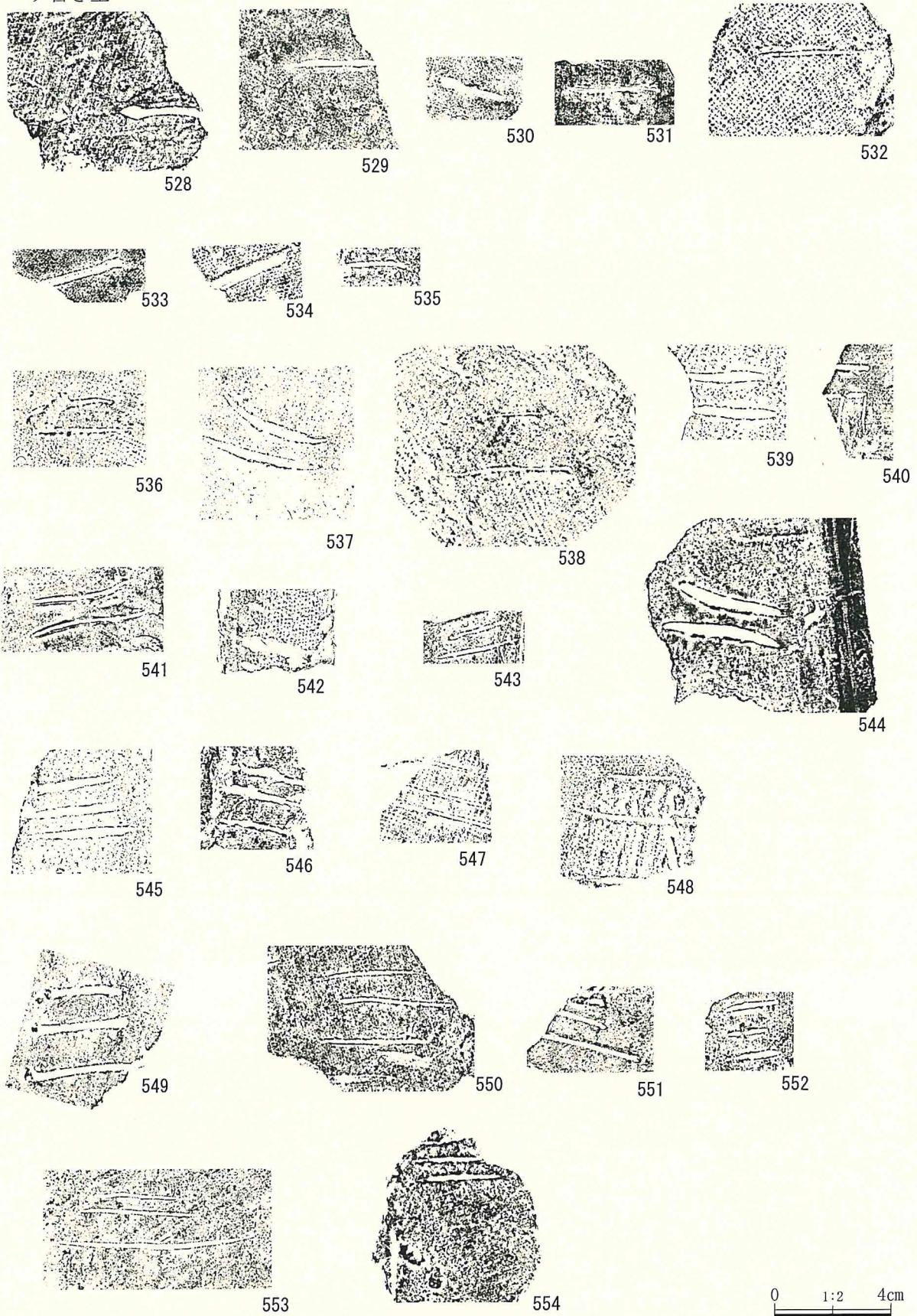
出土量は平瓦633片・122.3kg、丸瓦260片・79.2kg。軒平瓦はP002(500)・P010(496)・新範種鋸歯文u002(494)など、軒丸瓦はB103(464・495)が2片、新範種a108(488)などが出土し、ほかに泥状盤築技法の丸瓦(499)が出土した。文字瓦は多種に及び、ヘラ書き型では同一人の手によると思われる「子」(492文604)・「子子」(493 文603)のほか「子友」(491 文607)・「平」(468 文568)などが出土し、刻印型の「當」(472)、これまで「田」と読まれていた格子一体型(473 文687「田」ではなく格子の一部の可能性が高い。)が出土した。出土時に大きな破片のものは少なかったが、接合により完形に近く復元できたものが他のトレンチと比べ多い。

8) 金堂西側(11-1E・11-1Wトレンチ)

出土量は平瓦257片・37.1kg、丸瓦72片・10.2kg。平瓦凸面にヘラ状工具で斜格子目を入れたものが出土した(507)。軒平瓦はP001(504)・R003(509)、軒丸瓦は分類不明(506)がそれぞれ1片出土した。文字瓦は判読困難な平瓦(501 文721)が出土した。

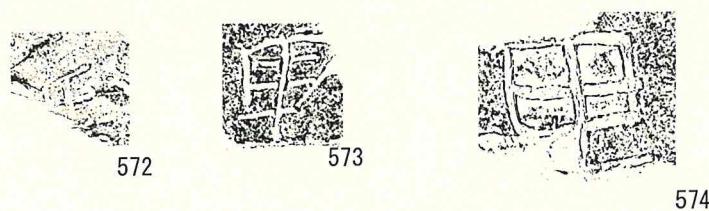
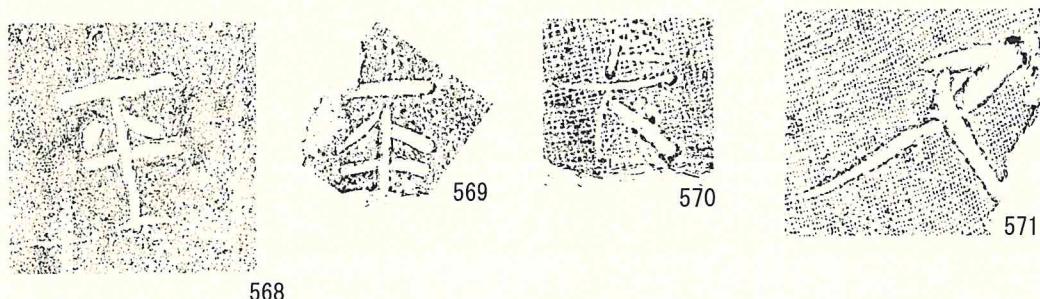
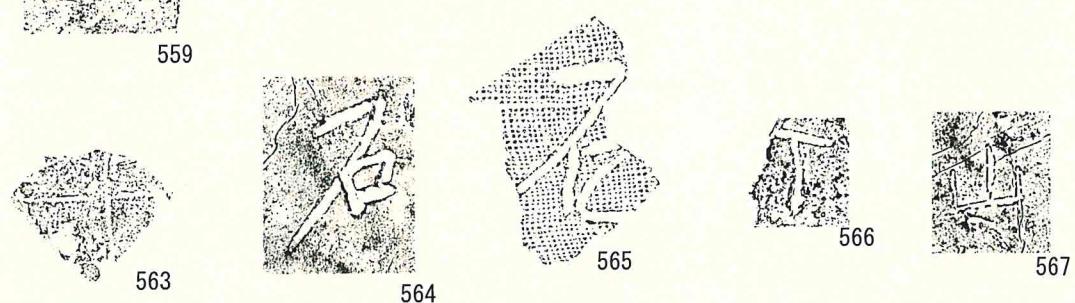
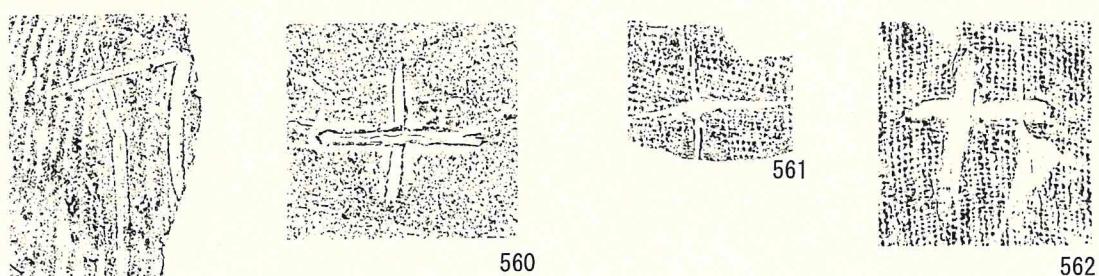
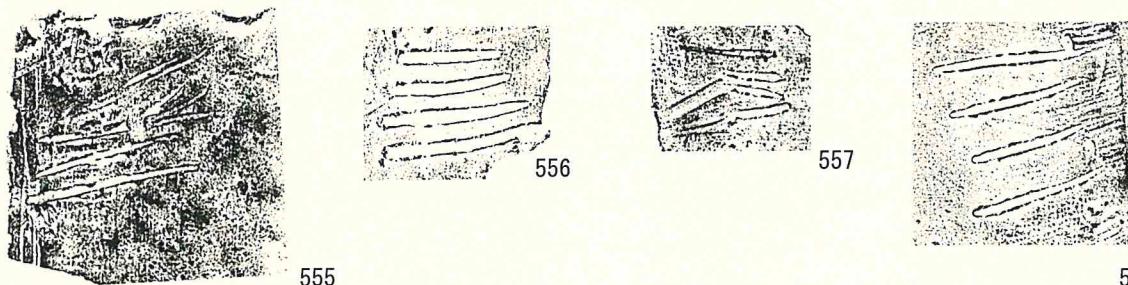
7) 文字瓦

ヘラ書き型



第208図 瓦114 文字瓦(1)

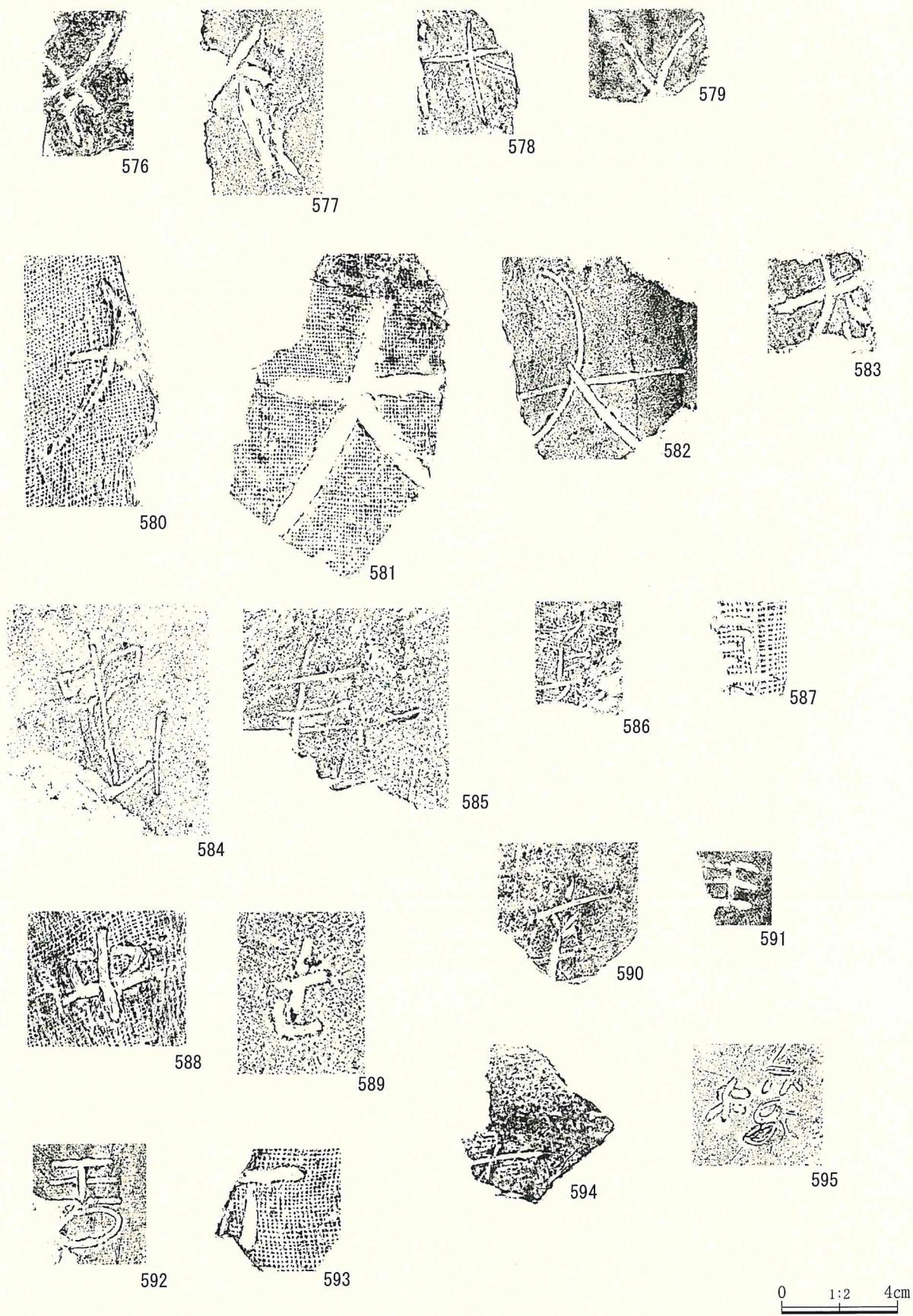
ヘラ書き型



0 1:2 4cm

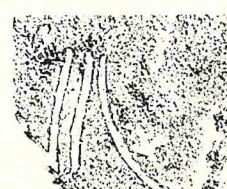
第209図 瓦115 文字瓦(2)

ヘラ書き型



第210図 瓦116 文字瓦(3)

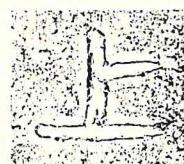
ヘラ書き型



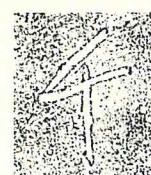
596



597



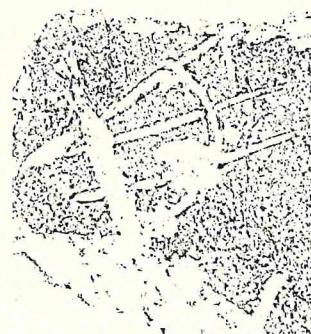
598



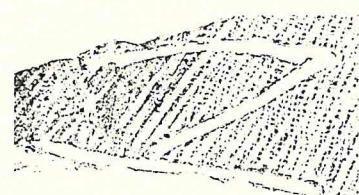
599



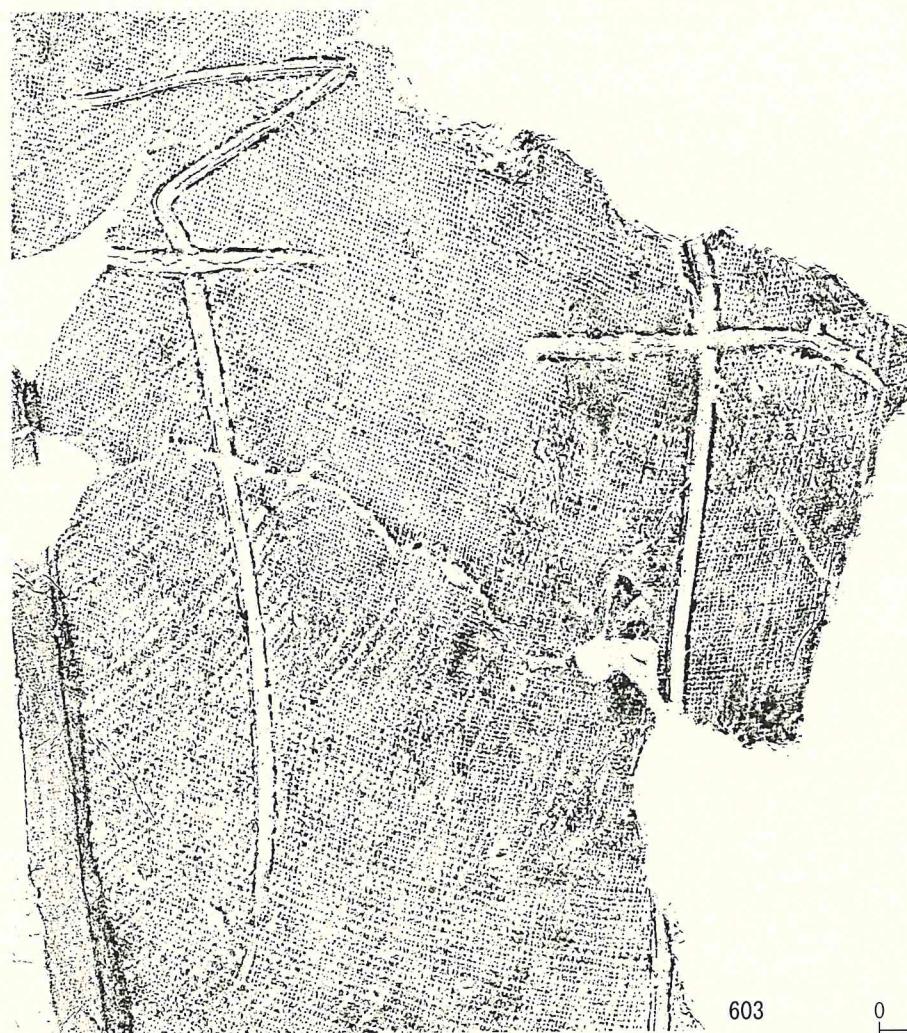
600



601



602

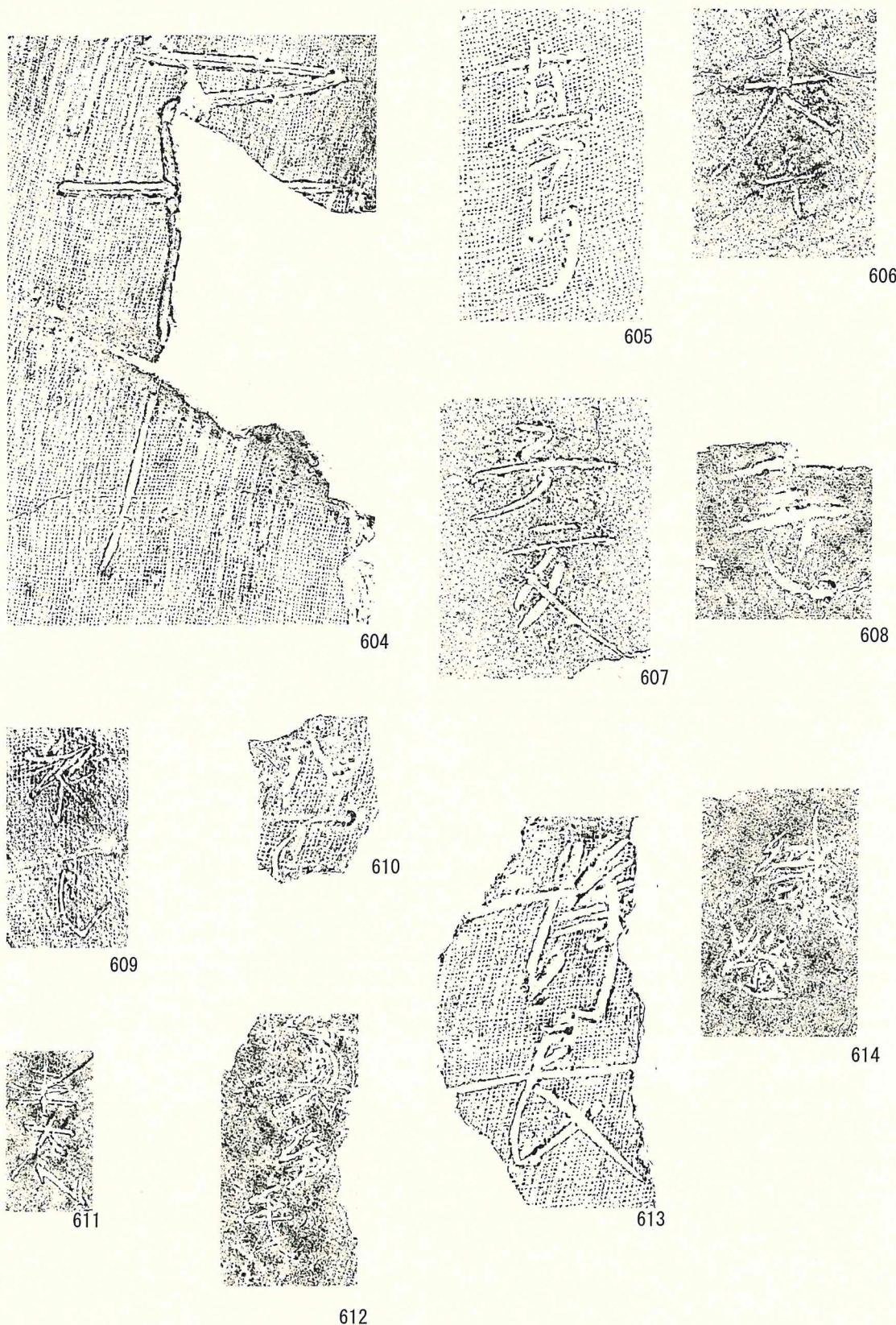


603

0 1:2 4cm

第211図 瓦117 文字瓦(4)

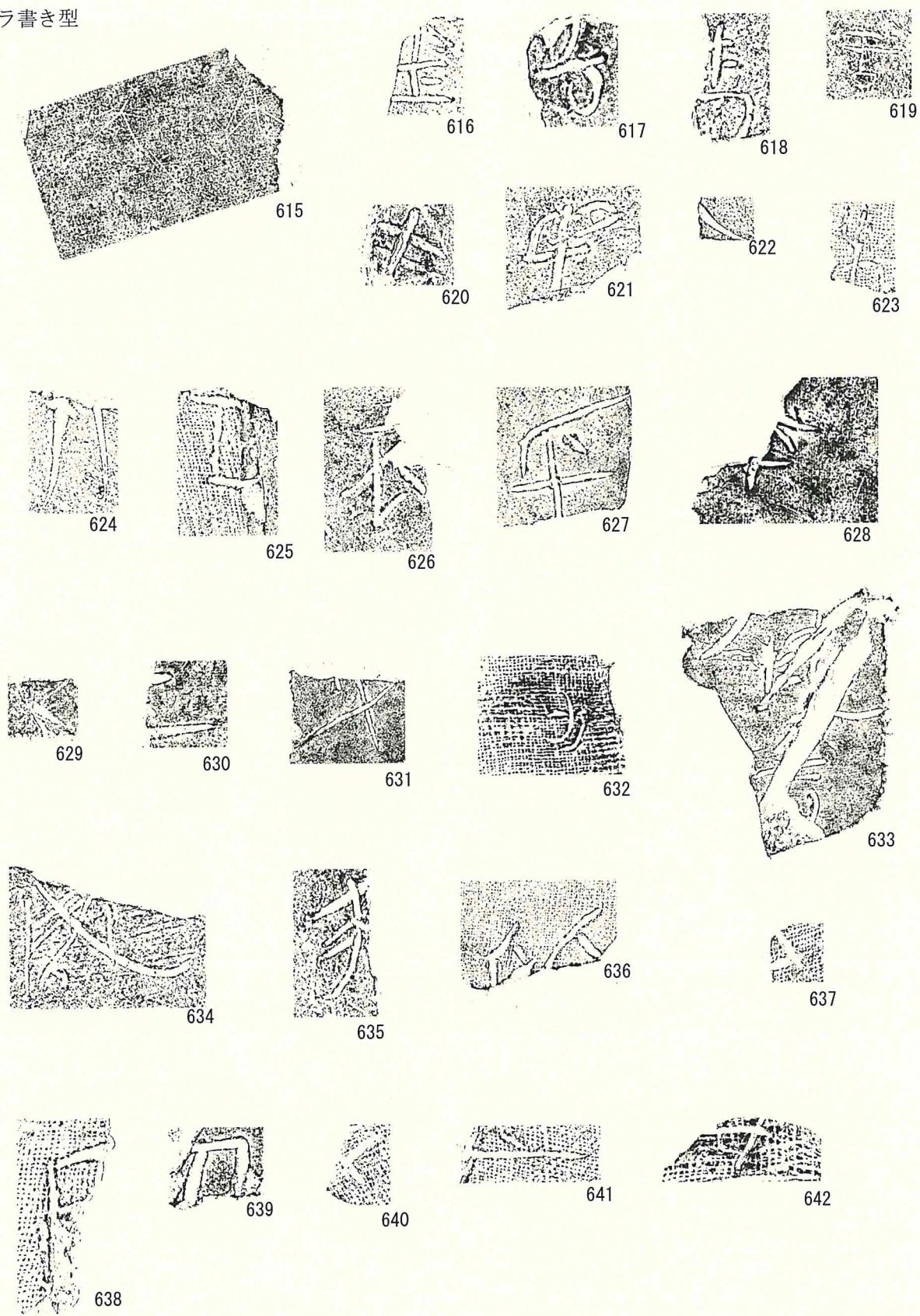
へラ書き型



0 1:2 4cm

第212図 瓦118 文字瓦(5)

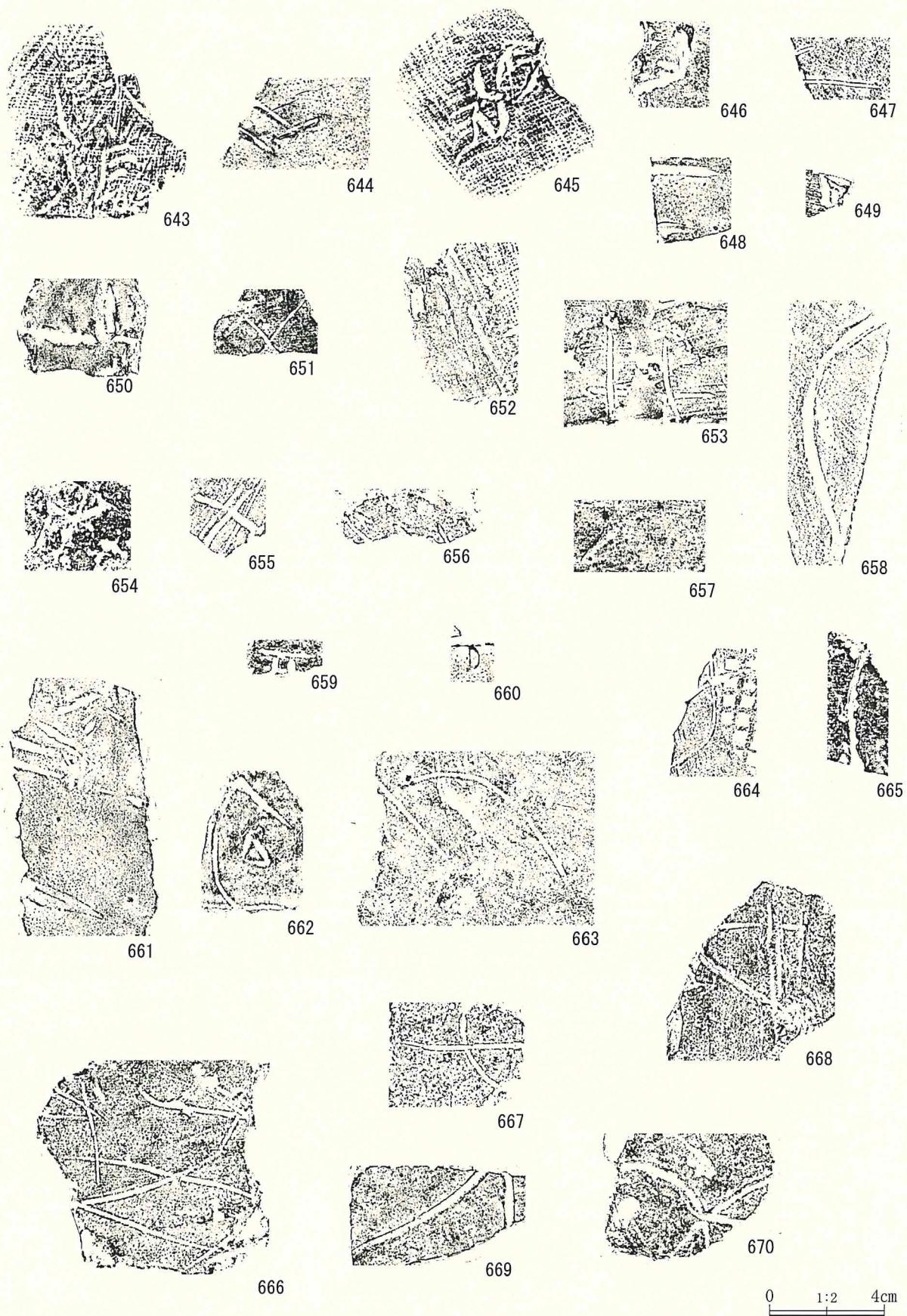
ヘラ書き型



0 1:2 4cm

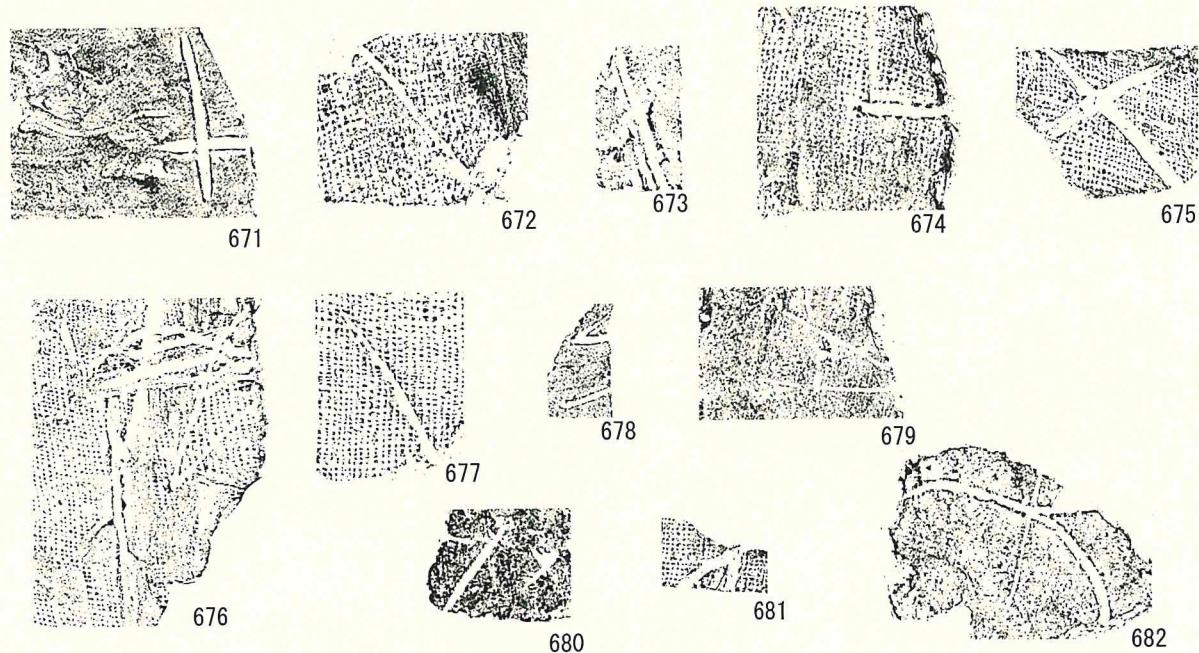
第213図 瓦119 文字瓦(6)

ヘラ書き型

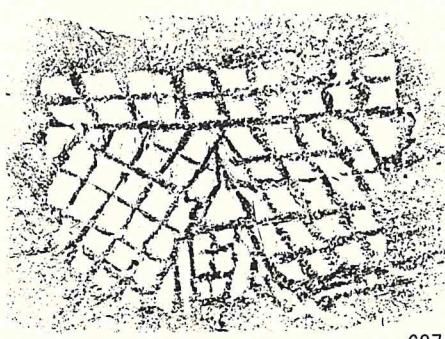


第214図 瓦120 文字瓦(7)

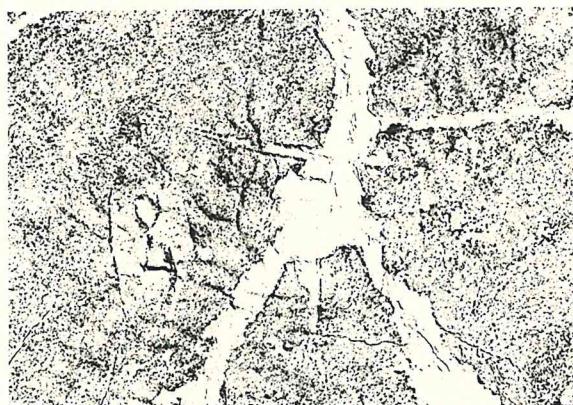
ヘラ書き型



ヘラ書き型と刻印型



格子一体型

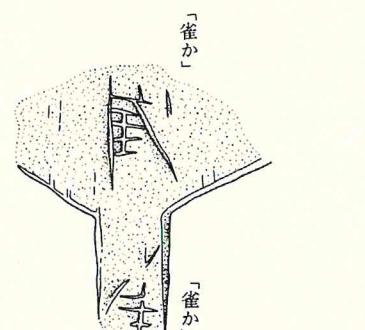
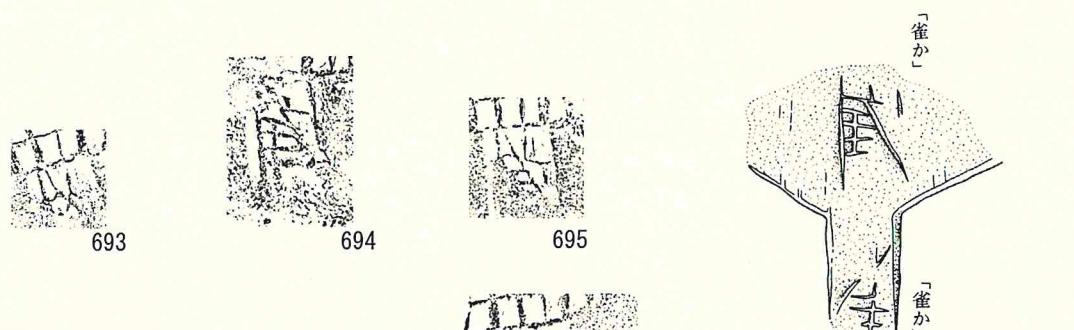
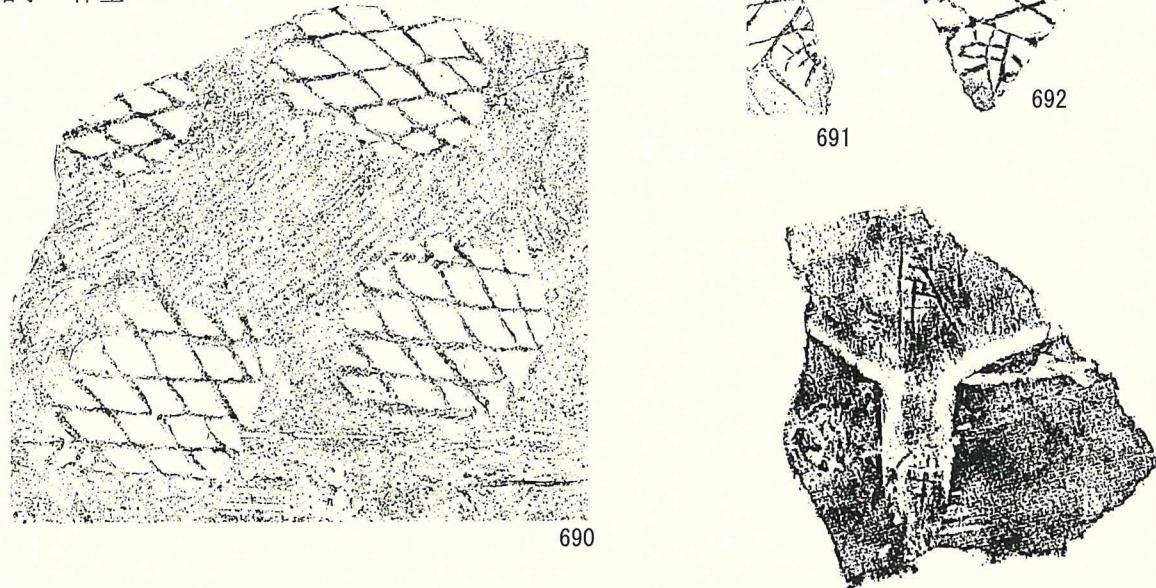


「多」刻印型陽刻  
「人」ヘラ書き型

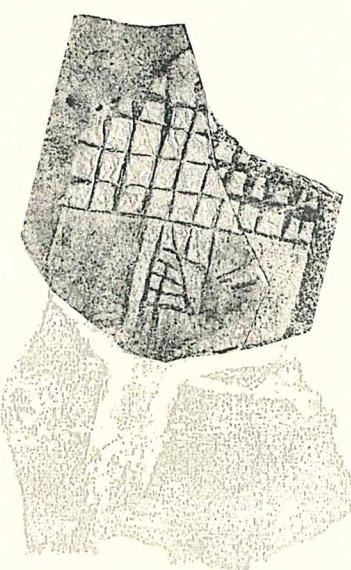


第215図 瓦121 文字瓦(8)

格子一体型



『上野国分尼寺跡  
上野国分二寺中間地域』より転載

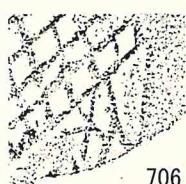
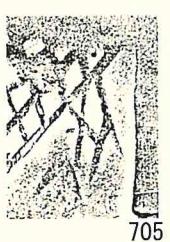


参考図1(註2)  
原体復元699・704を合成

0 1:2 4cm

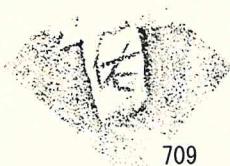
第216図 瓦122 文字瓦(9)

ヘラ書き型

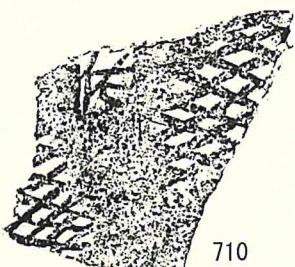


708

刻印型陽刻



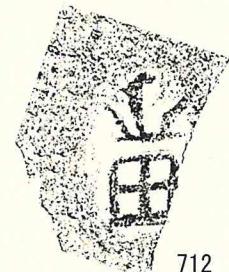
709



710



711



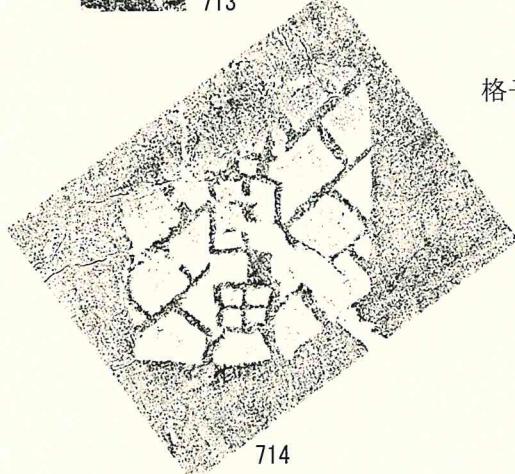
712

刻印型陰刻



713

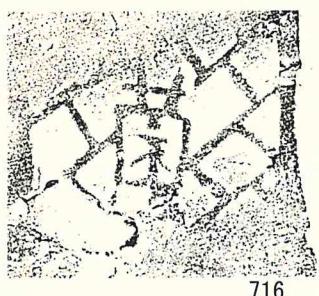
格子一体型



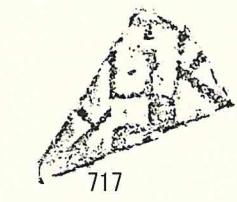
714



715



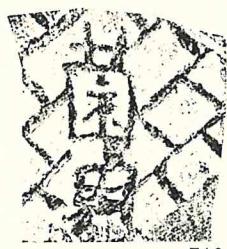
716



717



718



719

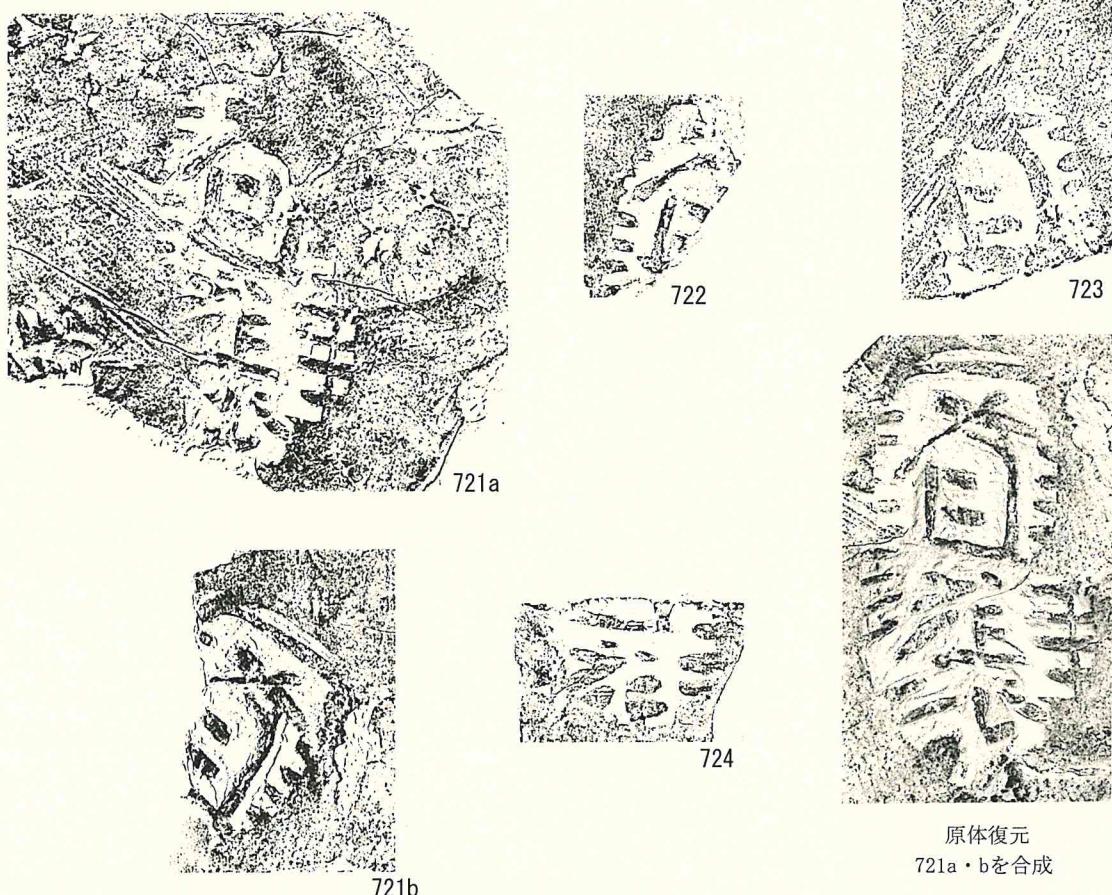


720

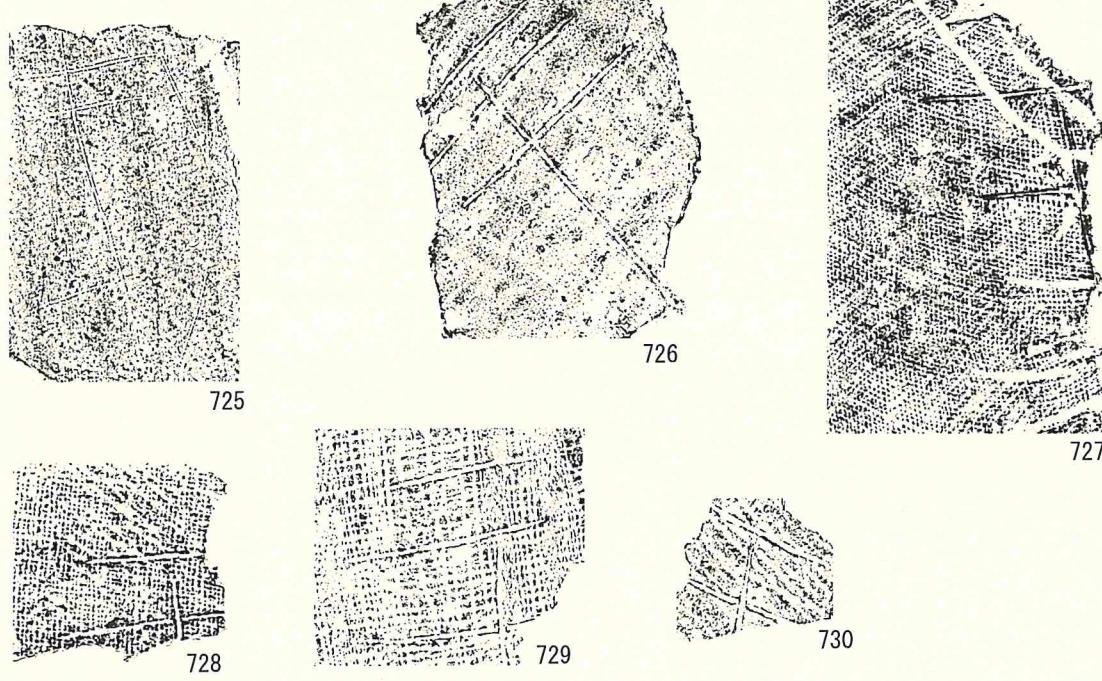
0 1:2 4cm

第217図 瓦123 文字瓦(10)

格子一体型



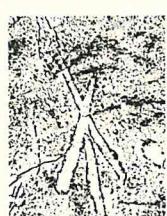
針書き型



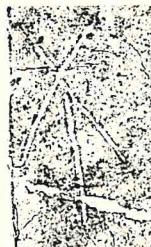
0 1:2 4cm

第218図 瓦124 文字瓦(11)

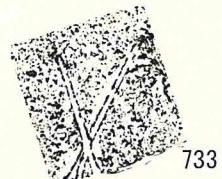
ヘラ書き型



731



732



733



734

記号刻印型



735

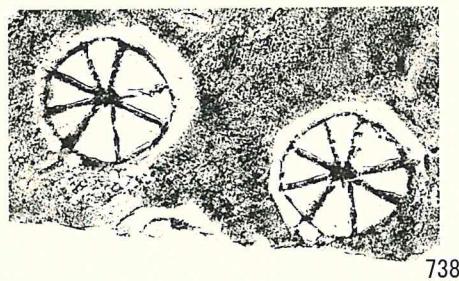


736



737

刻印型陽刻



738



739

0 1:2 4cm

第219図 瓦125 文字瓦(12)

表4 文字瓦一覧表

文字瓦 番号	釈	記載位置	出土場所	文字タイプ 備考	本篇	整理 番号
528	一	平瓦凸面	11-2 トレチ	ヘラ書き型	—	—
529	一	平瓦凸面	3 トレチ	ヘラ書き型	—	0683
530	一	平瓦凹面	11-4 トレチ	ヘラ書き型	—	1076
531	一	平瓦凹面	4 トレチ	ヘラ書き型	—	0240
532	一	平瓦凹面	3 トレチ	ヘラ書き型	—	0149
533	一	平瓦凸面	5-1N トレチ	ヘラ書き型	—	0266
534	一	丸瓦凹面	3 トレチ	ヘラ書き型	—	0148
535	一	平瓦凸面	11-1 トレチ	ヘラ書き型	—	0853
536	二	平瓦凹面	11-1W トレチ	ヘラ書き型	—	0981
537	二	平瓦凹面	8-3N トレチ	ヘラ書き型	142	0651
538	二	平瓦凸面	8-3N トレチ	ヘラ書き型	—	0648
539	二	平瓦凹面	11-1W トレチ	ヘラ書き型	—	1401
540	二	平瓦凹面	13-1 トレチ	ヘラ書き型	—	1163
541	二	平瓦凹面	3 トレチ	ヘラ書き型	449	0673
542	二	平瓦凹面	8-1 トレチ	ヘラ書き型	—	0459
543	二	平瓦凹面	3 トレチ	ヘラ書き型	—	0708
544	二	平瓦凹面	11-2 トレチ	ヘラ書き型	—	—
545	三	平瓦凹面	8-2 トレチ	ヘラ書き型	93	0505
546	三	平瓦凹面	11-1E トレチ	ヘラ書き型	—	0934
547	三	平瓦凹面	3 トレチ	ヘラ書き型	—	0680
548	三	平瓦凹面	11-2 トレチ	ヘラ書き型	—	1040
549	三	平瓦凸面	14 トレチ	ヘラ書き型	196	1281
550	三	平瓦凹面	3 トレチ	ヘラ書き型	—	0154
551	三	丸瓦凸面	13-1 トレチ	ヘラ書き型	—	1187
552	三	平瓦凹面	3 トレチ	ヘラ書き型	—	0105
553	三	平瓦凹面	9N トレチ	ヘラ書き型	314	0737
554	三	平瓦凹面	13-1 トレチ	ヘラ書き型	—	1176
555	三	平瓦凹面	3 トレチ	ヘラ書き型	259	0120
556	三	平瓦凹面	13-1 トレチ	ヘラ書き型	—	1151
557	三	平瓦凹面	13-1 トレチ	ヘラ書き型	—	1175
558	三	平瓦凹面	11-1W トレチ	ヘラ書き型	168	0981
559	九	丸瓦凹面	8-3N トレチ	ヘラ書き型	108	0532
560	十	平瓦凸面	11-1E トレチ	ヘラ書き型	489	0924
561	十	平瓦凹面	7-3W トレチ	ヘラ書き型	—	0422
562	十	平瓦凹面	8-3N レチ	ヘラ書き型	—	0528
563	十	平瓦凹面	7-3 トレチ	ヘラ書き型	—	0441
564	石	平瓦凸面	5-2S トレチ	ヘラ書き型	327	0275
565	石	丸瓦凹面	8-2 トレチ	ヘラ書き型	87	0501
566	丁	丸瓦凸面	5-2N トレチ	ヘラ書き型	—	0282
567	山	丸瓦凸面	11-1E トレチ	ヘラ書き型	469	0863
568	平	平瓦凸面	11-1E トレチ	ヘラ書き型	468	0862
569	平	平瓦凸面	13-1 トレチ	ヘラ書き型	6	1116
570	長	平瓦凹面	11-1E トレチ	ヘラ書き型	158	0845
571	又	丸瓦凹面	15 トレチ	ヘラ書き型	—	1316
572	馬カ	軒平凸面	3 トレチ	ヘラ書き型	462	0679

文字瓦 番号	釈	記載位置	出土場所	文字タイプ 備考	本篇	整理 番号
573	里又は黒	平瓦凸面	3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0687
574	里又は黒	平瓦凸面	11-1W トレンチ	ヘラ書き型	—	1008
575	人	平瓦凸面	10-2 トレンチ	ヘラ書き型	430	0795
576	大	平瓦凸面	7-2 トレンチ	ヘラ書き型	394	0395
577	大	平瓦凸面	8-3N トレンチ	ヘラ書き型	—	0520
578	大	平瓦凸面	3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0706
579	大カ	平瓦凸面	2 トレンチ	ヘラ書き型	—	0012
580	大カ	丸瓦凹面	11-1E トレンチ	ヘラ書き型	—	0893
581	大	平瓦凹面	4 トレンチ	先端丸みのあるヘラ書き型	—	0225
582	大	丸瓦凸面	11-2 トレンチ	ヘラ書き型	—	1017
583	大	平瓦凸面	11-1W トレンチ	ヘラ書き型	—	1400
584	虫	平瓦凸面	8-2 トレンチ	ヘラ書き型	—	0485
585	甘	平瓦凸面	8-2 トレンチ	ヘラ書き型	92	0502
586	真	平瓦凹面	13-3 トレンチ	ヘラ書き型	60	1237
587	真	平瓦凹面	8-1N トレンチ	ヘラ書き型	—	0467
588	中	平瓦凹面	3 トレンチ	ヘラ書き型	444	0201
589	万呂	丸瓦凸面	11-1E トレンチ	ヘラ書き型	—	0854
590	辛	丸瓦凸面	8-1N トレンチ	ヘラ書き型	—	0466
591	王カ	平瓦凸面	3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0206
592	不明	平瓦凸面	11-1E トレンチ	ヘラ書き型	—	0940
593	万呂カ	平瓦凹面	2 トレンチ	ヘラ書き型	—	0033
594	万呂	平瓦凹面	5-1N トレンチ	ヘラ書き型	—	0267
595	不明	平瓦凸面	8-3N トレンチ	ヘラ書き型	123	0570
596	川	平瓦凸面	8-3S トレンチ	ヘラ書き型	—	0524
597	井／	丸瓦凸面	11-1E トレンチ	ヘラ書き型	471	0864
598	上	丸瓦凸面	15 トレンチ	ヘラ書き型	236	1317
599	千	平瓦凸面	9-S トレンチ	ヘラ書き型	—	0775
600	千カ	丸瓦凸面	5-2N トレンチ	ヘラ書き型	329	0286
601	手	丸瓦凸面	13-1 トレンチ	ヘラ書き型	—	1156
602	子	平瓦凹面	11-1W トレンチ	ヘラ書き型	—	0973
603	子子	平瓦凹面	11-1E トレンチ	ヘラ書き型	493	0928
604	子	平瓦凹面	11-1E トレンチ	ヘラ書き型	492	0927
605	真弓	丸瓦凹面	11-1W トレンチ	ヘラ書き型	—	1005
606	大千	丸瓦凸面	11-1W トレンチ	ヘラ書き型	—	1007
607	子友	平瓦凸面	11-1E トレンチ	ヘラ書き型	491	0925
608	口万呂	平瓦凸面	5-2N トレンチ	ヘラ書き型	349	0320
609	家万呂	丸瓦凹面	5-2N トレンチ	ヘラ書き型	—	0294
610	弘万呂	丸瓦凹面	8-2 トレンチ	ヘラ書き型	—	0494
611	[ ]	丸瓦凸面	3 トレンチ	ヘラ書き型	256	0104
612	真淨毛	丸瓦凸面	11-1W トレンチ	ヘラ書き型	—	1006
613	淨長	平瓦凹面	15-1 トレンチ	ヘラ書き型	213	1328
614	織継	丸瓦凸面	8-1N トレンチ	ヘラ書き型	73	0457
615	大口	丸瓦凸面	3 トレンチ	ハリ書き型	—	0174
616	不明	平瓦凸面	9-S トレンチ	ヘラ書き型	—	0764
617	不明	平瓦凸面	13-1 トレンチ	ヘラ書き型	5	1112

文字瓦 番号	種	記載位置	出土場所	文字タイプ 備考	本篇	整理 番号
618	不明	平瓦凸面	11-2 トレンチ	ヘラ書き型	—	1032
619	不明	平瓦凸面	8-3N トレンチ	ヘラ書き型	106	0522
620	不明	平瓦凸面	11-1W トレンチ	ヘラ書き型	—	0952
621	不明	丸瓦凸面	11-2 トレンチ	ヘラ書き型	—	1030
622	不明	丸瓦凸面	9-N トレンチ	ヘラ書き型	—	0728
623	不明	丸瓦凹面	8-2 トレンチ	ヘラ書き型	—	0495
624	不明	平瓦凹面	8-1N トレンチ	ヘラ書き型	—	0606
625	不明	丸瓦凹面	8-3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0521
626	不明	平瓦凸面	5-2N トレンチ	ヘラ書き型	346	0318
627	不明	平瓦凸面	2 トレンチ	ヘラ書き型	381	0017
628	不明	平瓦凹面	1 トレンチ	ヘラ書き型	387	0006
629	不明	平瓦凸面	5-2N トレンチ	ヘラ書き型	—	0285
630	不明	平瓦凸面	3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0074
631	不明	平瓦凸面	4 トレンチ	ヘラ書き型	—	0228
632	不明	丸瓦凹面	11-2 トレンチ	ヘラ書き型	—	1028
633	不明	平瓦凹面	3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0205
634	不明	平瓦凸面	3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0145
635	不明	平瓦凸面	13-1 トレンチ	ヘラ書き型	—	1152
636	不明	平瓦凹面	8-2 トレンチ	ヘラ書き型	—	0481
637	不明	平瓦凹面	8-1N トレンチ	ヘラ書き型	—	0464
638	不明	平瓦凹面	11-2 トレンチ	ヘラ書き型	—	1041
639	不明	平瓦凸面	11-1E トレンチ	ヘラ書き型	—	1395
640	不明	丸瓦凹面	8-1N トレンチ	ヘラ書き型	—	0462
641	不明	丸瓦凹面	11-2 トレンチ	ヘラ書き型	—	1031
642	不明	丸瓦凹面	11-2 トレンチ	ヘラ書き型	—	1027
643	不明	丸瓦凹面	3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0689
644	不明	平瓦凸面	2 トレンチ	ヘラ書き型	384	0022
645	不明	平瓦凹面	6-1 トレンチ	ヘラ書き型	—	0335
646	不明	平瓦凸面	9N トレンチ	ヘラ書き型	—	0736
647	不明	丸瓦凸面	8-3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0521
648	不明	丸瓦凸面	15-1 トレンチ	ヘラ書き型	—	1325
649	不明	平瓦凸面	3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0690
650	不明	平瓦凸面	2 トレンチ	ヘラ書き型	—	0021
651	不明	平瓦凹面	1 トレンチ	ヘラ書き型	—	0005
652	不明	平瓦凹面	8-1N トレンチ	ヘラ書き型	—	0463
653	不明	丸瓦凸面	8-3 トレンチ	ヘラ書き型	135	0525
654	不明	平瓦凸面	6-2W トレンチ	ヘラ書き型	—	0386
655	不明	平瓦凸面	8-1N トレンチ	ヘラ書き型	—	0460
656	不明	平瓦凸面	7-3W トレンチ	ヘラ書き型	—	0434
657	不明	平瓦凸面	13-1 トレンチ	ヘラ書き型	—	1172
658	不明	平瓦凹面	7-3W トレンチ	ヘラ書き型	—	0442
659	不明	平瓦凹面	3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0682
660	不明	平瓦凸面	11-1E トレンチ	ヘラ書き型	—	0933
661	不明	丸瓦凸面	8-3N トレンチ	ヘラ書き型	—	0579
662	不明	平瓦凸面	13-3W トレンチ	ヘラ書き型	—	1263
663	不明	丸瓦凸面	8-2 トレンチ	ヘラ書き型	89	0491

文字瓦 番号	釈	記載位置	出土場所	文字タイプ 備考	本篇	整理 番号
664	不明	平瓦凸面	8-1N トレソチ	ヘラ書き型	—	0607
665	不明	平瓦凸面	6-2W トレソチ	ヘラ書き型	—	0387
666	不明	丸瓦凸面	13-1 トレソチ	ヘラ書き型	—	1154
667	不明	丸瓦凸面	11-1W トレソチ	ヘラ書き型	—	1009
668	不明	丸瓦凸面	11-1W トレソチ	ヘラ書き型	—	1010
669	不明	丸瓦凸面	13-3 トレソチ	ヘラ書き型	—	1226
670	不明(大)	平瓦凸面	7-2 トレソチ	ヘラ書き型	393	0392
671	不明	丸瓦凸面	3 トレソチ	ヘラ書き型	267	0155
672	不明	平瓦凹面	11-1W トレソチ	ヘラ書き型	—	1011
673	不明	平瓦凸面	8-1N トレソチ	ヘラ書き型	—	0610
674	不明	平瓦凹面	3 トレソチ	ヘラ書き型	—	0701
675	不明	丸瓦凹面	4 トレソチ	ヘラ書き型	—	0234
676	不明	平瓦凹面	8-3N トレソチ	ヘラ書き型	—	0671
677	不明	平瓦凹面	8-1W トレソチ	ヘラ書き型	—	0461
678	不明	平瓦凹面	3 トレソチ	ヘラ書き型	—	0097
679	不明	丸瓦凸面	3 トレソチ	ヘラ書き型	—	0686
680	不明	丸瓦凸面	3 トレソチ	ヘラ書き型	—	0688
681	不明	丸瓦凹面	3 トレソチ	ヘラ書き型	—	0212
682	不明	丸瓦凸面	13-1 トレソチ	ヘラ書き型	—	1173
683	万呂・當	平瓦凸面	3 トレソチ	線刻型と刻印型	278	0183
684	不明	丸瓦凹面	3 トレソチ	刻印型	—	0078
685	不明	平瓦凸面	14 トレソチ	刻印型カ	—	1293
686	不明	平瓦凸面	11-1E トレソチ	刻印型カ	161	1383
687	格子	平瓦凸面	11-1E トレソチ	格子一体型。「田」ではなく、格子の一部か	473	0866
688	格子	平瓦凸面	6-1E トレソチ	格子一体型。「田」ではなく、格子の一部か	354	0323
689	多・人	丸瓦凸面	8-2 トレソチ	「多」刻印型陽刻 「人」ヘラ書き型	90	0490
690	渕(左文字)	平瓦凸面	8-3N トレソチ	格子一体型。十三宝塚左型	115	0030
691	渕(左文字)	平瓦凸面	8-2 トレソチ	格子一体型。十三宝塚左型	96	0507
692	渕(左文字)	平瓦凸面	1 トレソチ	格子一体型。十三宝塚左型	388	0002
693	雀(左文字)	平瓦凸面	8-1N トレソチ	格子一体型。A類	—	0465
694	雀(左文字)	平瓦凸面	3 トレソチ	格子一体型。A類	281	0712
695	雀(左文字)	平瓦凸面	3 トレソチ	格子一体型。A類	—	0675
696	雀(左文字)	平瓦凸面	7-2 トレソチ	格子一体型。A類	392	0391
697	雀(左文字)	平瓦凸面	8-1N トレソチ	格子一体型。A類	—	0458
698	雀(左文字)	平瓦凸面	13-1E-1 トレソチ	格子一体型。A類	29	1111
699	雀(左文字)	平瓦凸面	15-1 トレソチ	格子一体型。A類	212	1323
700	雀(左文字)	平瓦凸面	4 トレソチ	格子一体型。A類	—	0239
701	雀(左文字)	平瓦凸面	5-1S トレソチ	格子一体型。A類	—	0261
702	雀(左文字)	平瓦凸面	8-3N トレソチ	格子一体型。A類	104	0519
703	雀(左文字)	平瓦凸面	3 トレソチ	格子一体型。A類	—	0198
704	雀(左文字)	平瓦凸面	11-2 トレソチ	格子一体型。A類	—	—
705	佐位(左文字)	平瓦凸面	14 トレソチ	格子一体型。C類	205	1285
706	佐位(左文字)	平瓦凸面	15-3 トレソチ	格子一体型。C類	225	1365

文字瓦 番号	釈	記載位置	出土場所	文字タイプ 備考	本篇	整理 番号
707	佐位(左文字)	平瓦凸面	11-4 トレンチ	格子一体型。C類	179	1077
708	佐(仇)	平瓦凸面	11-2 トレンチ	格子一体型。十三宝塚仇型	149	1026
709	佐	平瓦凸面	8-3N トレンチ	刻印型。陽刻。H類	110	0517
710	佐	平瓦凸面	8-3N トレンチ	刻印型。陽刻。H類	—	—
711	山田	平瓦凸面	3 トレンチ	刻印型。陽刻	254	0093
712	山田	平瓦凸面	5-2N トレンチ	刻印型。陽刻	328	0283
713	勢カ	丸瓦凸面	4 トレンチ	刻印型。陰刻	—	0250
714	菌田	平瓦凸面	8-3N トレンチ	格子一体型	119	0569
715	(菌)田	平瓦凸面	3 トレンチ	格子一体型	—	0676
716	菌(田)	平瓦凸面	8-3N トレンチ	格子一体型	103	0518
717	菌(田)	平瓦凸面	11-1E トレンチ	格子一体型	—	0850
718	菌(田)	平瓦凸面	13-3W-1 トレンチ	格子一体型	—	1262
719	菌田	平瓦凸面	3 トレンチ	格子一体型	451	0674
720	山田天	平瓦凸面	5-2N トレンチ	格子一体型	338	0295
721 a, b	不明	平瓦凸面	11-1E トレンチ	格子一体型。山王廃寺 跡。住コレ。元総社(116)	501	0923
722	不明	平瓦凸面	8-2 トレンチ	格子一体型	—	0486
723	不明	平瓦凸面	8-2 トレンチ	格子一体型	—	0487
724	不明	平瓦凸面	3 トレンチ	格子一体型	—	0681
725	不明	丸瓦凸面	7-3 トレンチ	針書き	397	0404
726	不明	平瓦凹面	13-1 トレンチ	針書き	—	1164
727	不明	平瓦凹面	4 トレンチ	針書き	287	0237
728	不明	平瓦凹面	11-1W トレンチ	針書き	—	1402
729	不明	平瓦凹面	8-3S トレンチ	針書き	—	0639
730	不明	平瓦凹面	13-3 トレンチ	針書き	—	1246
731	符牒カ	丸瓦凸面	8-3N トレンチ	ヘラ書き型 734まで同一記号	109	0523
732	符牒カ	丸瓦凸面	11-1E トレンチ	ヘラ書き型	490	0929
733	符牒カ	丸瓦凸面	7-3W トレンチ	ヘラ書き型	—	0421
734	符牒カ	丸瓦凸面	11-2 トレンチ	ヘラ書き型	148	1035
735	竹管文	平瓦凹面	5-2N トレンチ	—	—	0298
736	竹管文	平瓦凸面	13-1 トレンチ	—	—	1157
737	不明	丸瓦凸面	13-1 トレンチ	ヘラ書き型	—	1153
738	法輪(輪宝)	平瓦凸面	3 トレンチ	刻印型。陽刻。山王廃寺 跡	243	0054
739	法輪(輪宝)	平瓦凸面	5-2N トレンチ	刻印型。陽刻。山王廃寺 跡	—	0281

8) 文字瓦について 極小破片の数点を除いて、工具による傷と思われるものも含め211点を掲載した(註1)。

文字瓦についてはすでに記したとおり、瓦に文字を記す方法によって直接法と間接法に分類でき、さらにそれぞれその具体的方法・形態により細分した。直接法によるヘラ書き型・墨書き型と、文字(記号)を板などに彫りそれを瓦に押し当てた間接法による刻印型・格子一体型である。さらに、墨書き型を除き、瓦の表面に文字が窪んで記された陰刻、文字が突出している陽刻の形態がある。

文字を記す方法と主題である文字との関係については以下の3点が指摘できる。

- 1 人名と思われるものに刻印型・格子一体型のものはない。
- 2 東毛地域の郡・郷名が単独で記されたと思われるものにヘラ書き型はない。(郡・郷名は『群馬県史資料編4』に掲載した。)
- 3 数字は全て手書きによるヘラ書き型のみである。

今回出土した文字瓦・記号瓦の詳細は以下のとおりである。

#### ①文字瓦

- ア. ヘラ書き型には数字が書かれたものも多数出土した。特に「一」から「三」に集中している。「一」・「二」・「三」・「三」(文528~558)は、数例を除いて平瓦凹面の隅近くにヘラ書きで記されている。この数字は、生産窯あるいは供給単位などを示した記号あるいは符牒の可能性が高い。これらの数字を記した瓦の殆どは凹凸両面が炭素吸着により黒色を呈しており、胎土も白色微粒を多く含み、素地粒が粗いといった共通した特徴を持っている。このような特徴を持つ瓦は、笠懸古窯跡群で生産されたことがわかっている。文551は「三」の文字が丸瓦凸面にあり色調・胎土とも他のものとは異なっており、数字のもつ目的・意味が異なる可能性が大きい。
- イ. 郡・郷名がヘラ書きによるものは、多胡郡山字(山宗)郷の可能性がある「山」(文567)、同じく多胡郡辛科郷を意味する可能性のある「辛」(文590)が出土した。いずれも丸瓦凸面に記されている。
- ウ. ヘラ書き型の文字瓦は多数出土し、その文字が瓦の製作依頼者名であるとか、瓦製作者・窯の識別符号などであるのか不明なものが多い。「大」(文576~583)・「中」(文588)・「大千」(文606)など。
- エ. ヘラ書き型では人名のほか、「虫」(文584)・「真」(文586・587)・「上」(文598)などが出土した。これらのうち「子」(文602・603・604)の3片は、使用したヘラ状工具の先端が丸みを持ち、やや太め(0.5cm程度)で同一工具の可能性があり、さらに字形も似ていることから同一工人により記された可能性が高い。
- オ. 人名のみ及び人名と郷名が記されていると思われるものは、「万呂」(文589)・「真弓」(605)・「家万呂」(文609)・「織継」(文614)、刻印型 **當** に接して書かれた「万呂」(文683)などで、いずれもヘラ書き型である。ただし、「織継」の「織」は多胡郡織裳郷の郷名の一部を記した可能性もある。
- カ. 郡・郷名が格子一体型によるものは、山田郡菌田郷を表す「菌田」6片(文714~719)、このほか佐位郡の郡・郷名瓦は種類・数量が多く、「佐位」C類左文字3片(文705~707)、「仇」に読める「佐」1片(文708)、郷名を表す「渕」左文字3片(文690~692)、「雀」A類11片(文693~704)が出土している。「雀」はすべて同じ格子目と一体で、左文字となっている。参考図1のとおり、昭和期の調査時に原体の一部(おそらく手で握る付近)も映っている瓦が出土している(註2)。これは羽子板の柄と同じ形状で、柄の部分にも左文字で「雀」が彫られていることがわかるものである。今回の調査では、この「雀」A類の出土が最も多いかった(註3)。

キ. 郡・郷名が格子と一体となっていない押印型のものは、「山田」2片(文711・712)と「佐」1片(文709・710)が出土し、「勢」(文713)の可能性があるものが1片出土した。

今回の調査で出土した文字瓦の概要は上記のとおりであるが、以下の2点を指摘しておきたい。

1 尼寺跡では、格子一体型の「渕」が3片出土したが、これまでの僧寺跡の発掘調査では出土していないものである。しかし、この「渕」は「十三宝塚格子叩「渕」左型」(『史跡十三宝塚遺跡』)と同範型であり、上植木廃寺跡、国分境遺跡からも出土している。また、「仇(佐)」(文708)も僧寺跡からは出土していないが「十三宝塚格子叩「仇」型」である。

2 佐位郡雀部郷を表す「雀」は僧寺分類のA類のみが出土した。

上記のように「渕」、「雀」のどちらも佐位郡内の郷名を表していると考えられるが、このことから直ちに尼寺への瓦の供給が佐位郡主体であったとはいえない。

## ②記号瓦

ア. 記号であるのか、戯画や工具の当り痕であるのか不分明のものが多い(文616~682など)。

文721~724は、同一の工具による。また文725~730は、線刻が細くヘラ書きでも「針書き」と呼ぶことができるものである。

イ. 文731~734は、×の交点から一方向にだけ直線が伸びる記号で、尼寺のほか中間地域でも出土しており、生産窯を示した記号の可能性が高い。相川龍雄編著『上野國分寺文字瓦譜』(1934)において、出土地を今の尼寺跡に比定される「礎 住谷修氏藏」として紹介されている。

ウ. 文738・739は、「法輪」(仏像の持物「輪宝」)を陽刻したもの。山王廃寺跡、住谷コレクションにあり。

註1 • 拓影図の縮尺は全て2分の1とした。

• 拓影図右下の数字は瓦図版の通し番号を付し、この文章中は番号の前に「文」を付して文字瓦の図版であることを示した。

• 表4の「整理番号」には整理作業中の通し番号、「本篇」には本書の遺物編に掲載されている図番号を記して検索の便に供した。

註2 僧寺の調査においても類例が出土している。

註3 松田 猛「上野國分寺跡と「雀」の文字瓦」『赤城村歴史資料館紀要』第6集 赤城村教育委員会 赤城村歴史資料館 2004

補1 文字を瓦に記す方法・手段と記された文字の内容、その組み合わせをもとに多くの指摘がなされている。なかでも、上野國分寺跡第1期調査の結果から、前澤和之が精緻な整理と考察を行っており、多岐にわたる考察のうち、尼寺出土の文字瓦について考察するうえで主要なものを列記すると以下のとおりである。

○特定の建物に文字瓦を使用したわけではない。

○押印(本書の格子一体型・刻印型)には郡名・郷名が多く、籠書き(本書のヘラ書き型)には郷名と姓名ないし名が多い。( )は筆者が付した註。以下同じ。

○押印は創建期を含み東毛で作製され、籠書きは9世紀以降のものを含み主に西毛で作製された。

○押印に個人名がほとんどみられないことは、自発的な行為による知識というより郡ないし郷を単位とした税の賦課と同じような性格であった可能性がある。

○籠書きにおいて、郷名と姓名または名が記されているものはほぼ多胡郡に限られている。

○籠書きでは組織的な貢進形態が組まれていたことを示す内容のものはみられないが、作製主体者(瓦の発注者)を書いたものである可能性が強い。

○第三者には理解困難な略記は、瓦作製現場で区分するための目印として記された可能性がある。

上記のほか前澤は、格子一体型などの叩きにより郡郷名が刻されるのは笠懸古窯跡群を中心とした東毛地域生産に懸る国分寺創建期の瓦で、ヘラ書き型の文字瓦は多胡郡が関係するものが多く、8世紀末あるいは9世紀前半以降に補修のために生産された瓦であるとの見解を示している。

補2 群馬県内出土の文字瓦については川原秀夫が収集しまとめている。これにより県内の状況が網羅的にわかるものであり、今回の調査においても非常に多くの情報を得ることができた。  
「上野国文字瓦集成」『明和学園短期大学紀要』第16集・第17集・第18集・第19集 2005・2007・2008・  
2009

補3 上記のほか二寺跡出土の文字瓦について、高井佳弘、前澤和之、松田 猛が瓦生産地と瓦に記された文字と文字を記した方法の組み合わせから生産体制について述べている。  
a 高井佳弘 「上野国分寺跡出土の郡郷名押印文字瓦について」『古代』第107号 早稲田大学考古学会  
1999  
「上野・下野・信濃国分寺の創建期の瓦生産」『国分寺の創建 組織・技術編』吉川弘文館  
2013

高井は二寺跡出土の瓦だけでなく、周辺の古代寺院跡から出土した瓦も考慮に入れて瓦に文字を記す方法の違いによる分類、同一方法で同一文字だが複数種類の道具によって残されているものの分類などのほか、文字瓦が生産された時期、生産の状況(瓦窯と生産に係わる郡郷の関係など)について論考している。

特に後者では、僧寺の創建以降、軒先瓦が少品種大量生産から多品種少量生産に変化したこと。また、文字瓦に関しては、創建初期の笠懸鹿ノ川窯(新田郡の関与)から同じく山際窯に生産の中心が移り、その際に勢多・佐位・山田・新田の諸郡が瓦生産に係わるようになったとしている。そして、瓦に郡郷名を記す理由として複数の郡が関与することとなったため、各郡の生産分を明確にする必要が生じたためであろうとしている。

b 前澤和之『上野国交替実録帳と古代社会』同成社 2021

前澤は補1からさらに進んで、僧寺跡の伽藍地内から出土した軒先瓦と文字瓦の組み合わせと天平勝宝元年(749)の献物叙位の記述とともに、創建には碓氷郡の石上部君諸弟、勢多郡少領上毛野朝臣足人がそれ以前は碓氷・多胡・緑野、後者は勢多・佐位・山田・新田の諸郡の中心となって知識を編成して瓦の生産・供給に尽力をしたこと。さらに、その後の補修期にはヘラ書き文字瓦で多胡郡のものが増えたことから多胡郡居住の物部氏をはじめとする知識によって瓦の生産・供給が担われたとしている。

c 松田 猛「群馬県における文字瓦と墨書き土器」『信濃』第38巻第11号 1986

「VIII考察」『上西原遺跡』群馬県教育委員会 1999

松田は、僧寺跡と上西原遺跡から出土した瓦のうち、勢多郡を表す「勢」字の瓦について特に注目し、この「勢」字は格子叩きの格子目と一体となっている。一方、同じ格子目(同範)だが「勢」字のない瓦があることから、始めは格子目だけであったものに「勢」字を追刻して使用したことを明らかにした。そして、この「勢」が格子目に追加された叩き道具の使用を始めた時が僧寺に郡を単位とする瓦の供給が開始された時期であるとしている。

9) 格子目・平行条目・縄目 瓦凸面に残る格子目・平行条目・縄目痕を例示しておく。

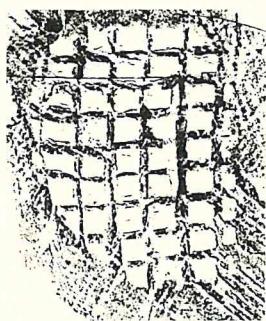
格子目は観察表を基に大きさ、形状で区分したが、一つの叩き痕の中で複数の大きさや形状があるため、異なる区分もできる。

平行条目は叩きを同一方向から行ったものと、交差する方向から行ったものがある。

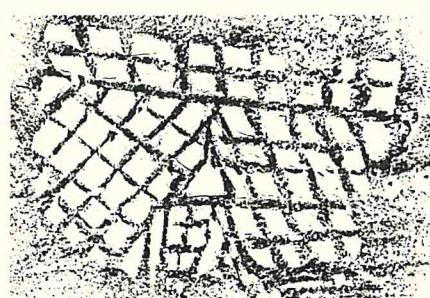
縄目は、縄が道具の長軸方向に巻いてある(縄長)か短軸方向に巻いてある(縄短)かで痕跡の大きさが異なる。また、縄長に分類した中には、縄目が狭端部でT字状に交差するものがある。

### ①格子目

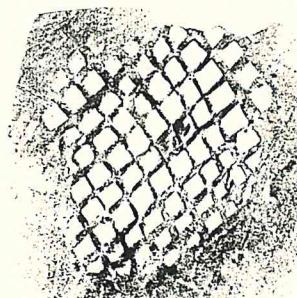
正方形(中)



1

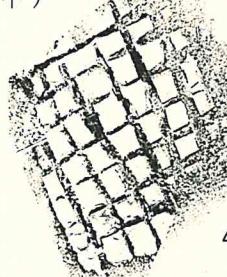


2

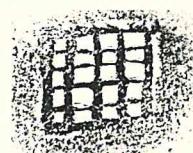


3

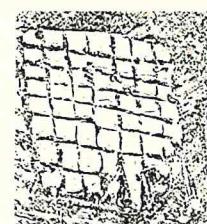
長方形(中)



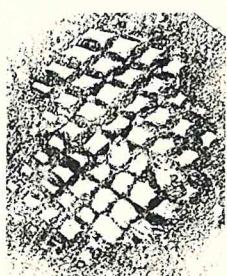
4



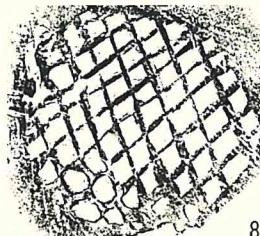
5



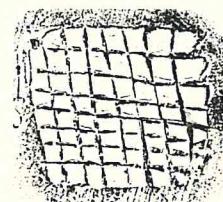
6



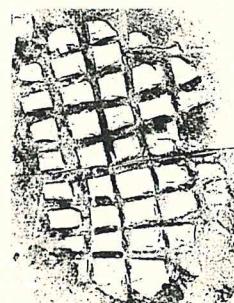
7



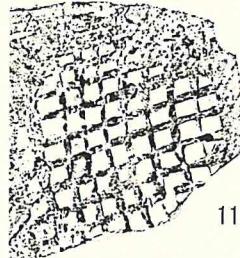
8



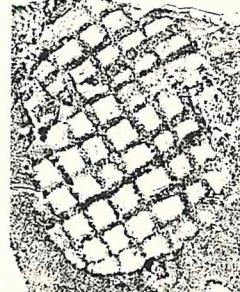
9



10



11

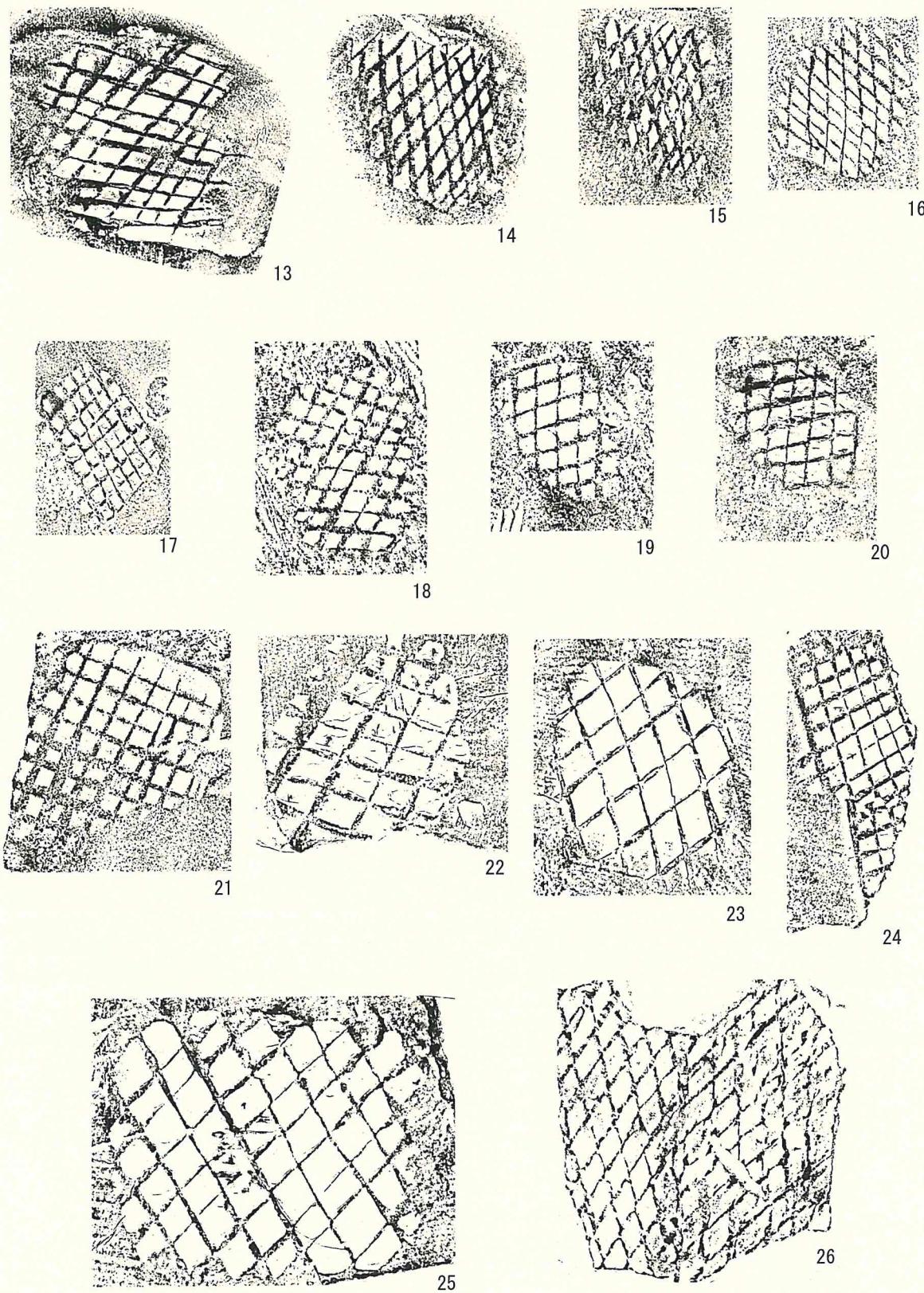


12

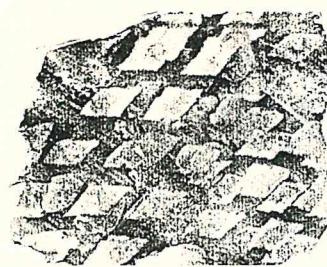
0 1:2 4cm

第220図 凸面叩き具痕(1)

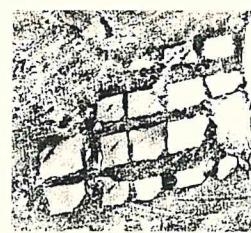
ひし形・平行四辺形（中）



第221図 凸面叩き具痕(2)

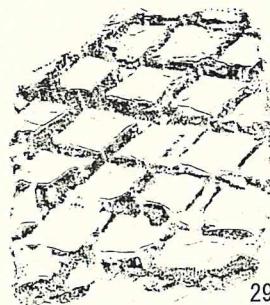


27

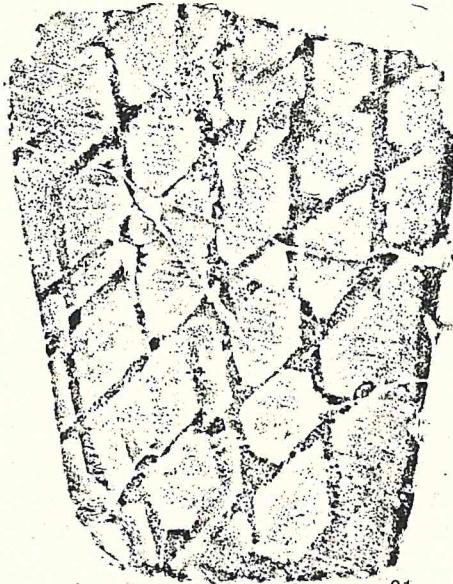


28

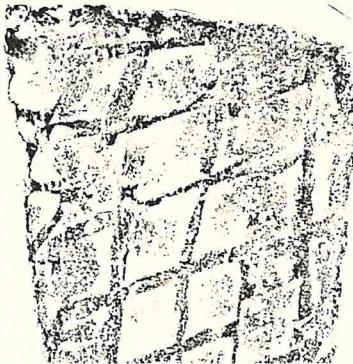
ひし形・平行四辺形(大)



29

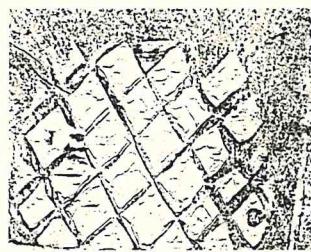


31



30

格子の中に珠点



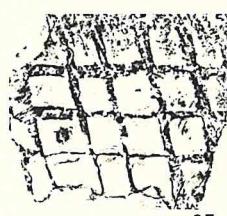
32



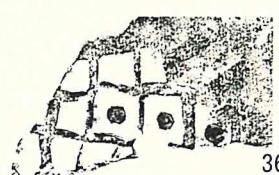
33



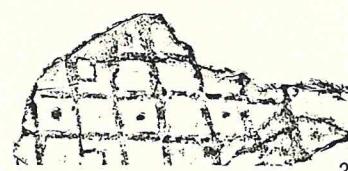
34



35



36

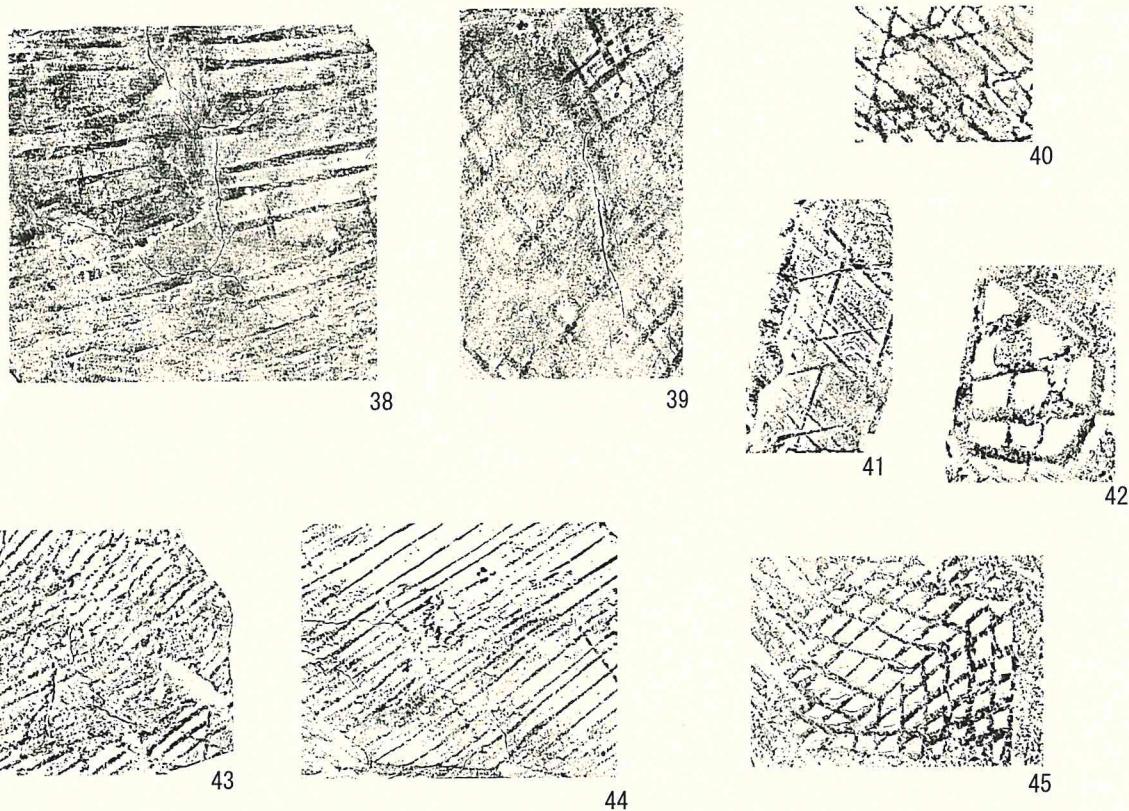


37

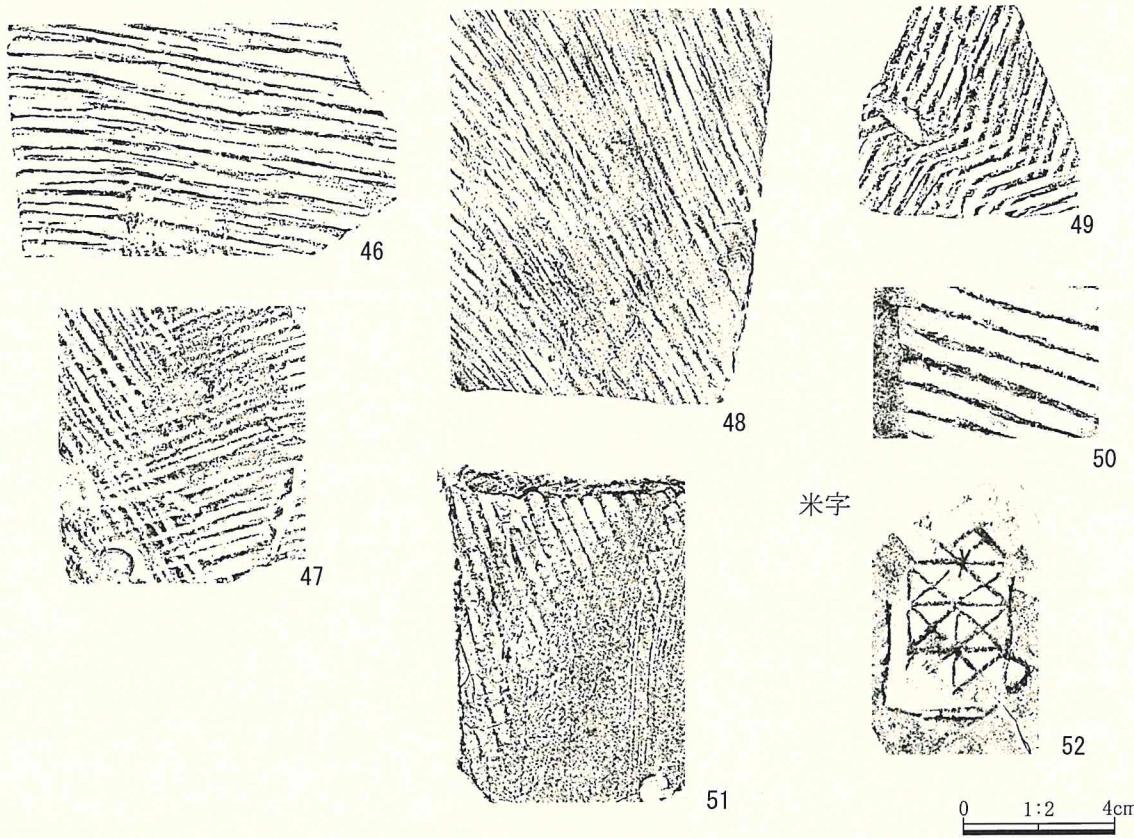
0 1:2 4cm

第222図 凸面叩き具痕(3)

異形格子



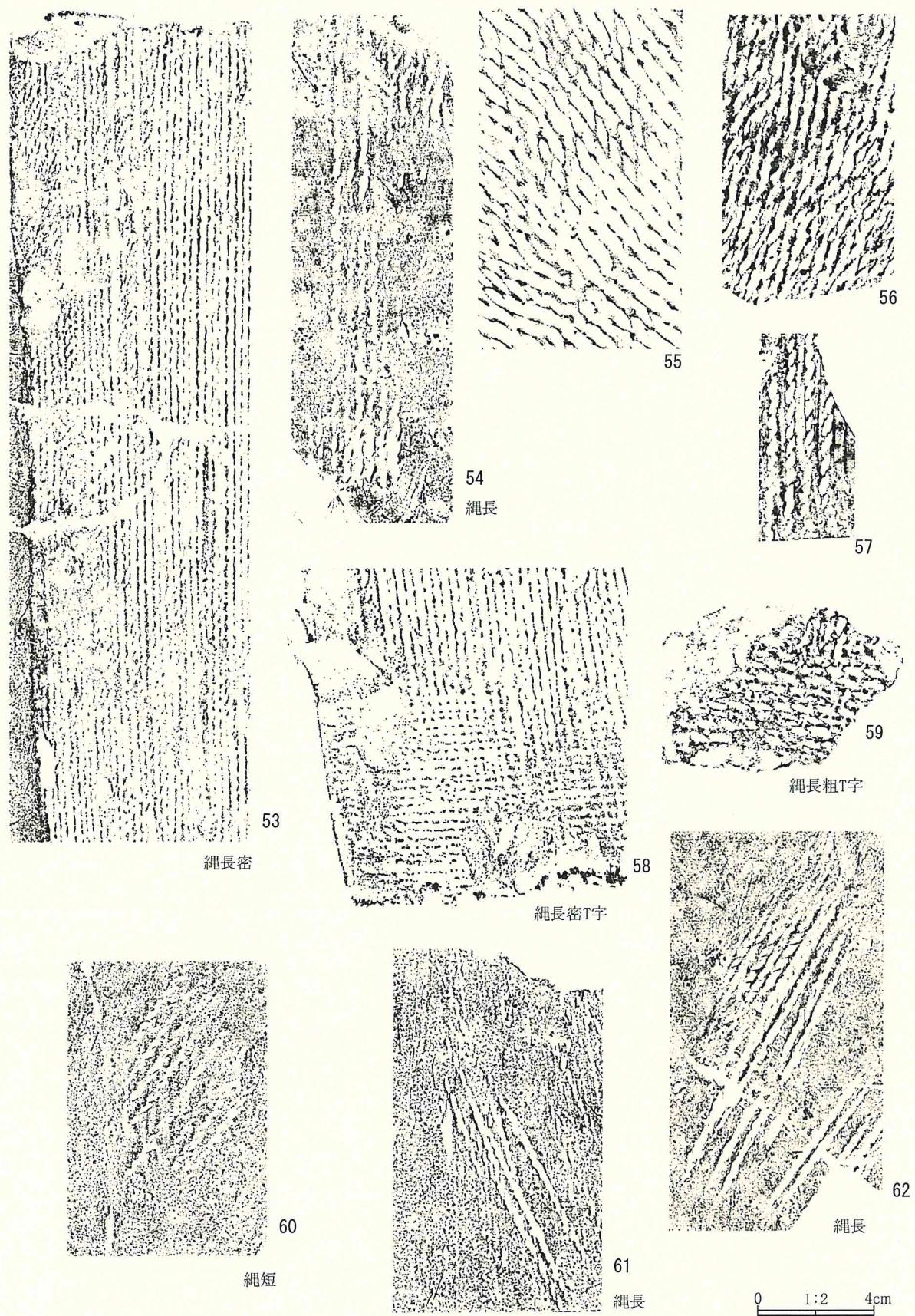
②平行条目



0 1:2 4cm

第223図 凸面叩き具痕(4)

③縄目

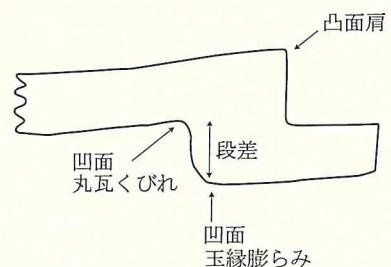


第224図 凸面叩き具痕(5)

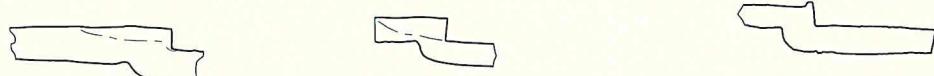
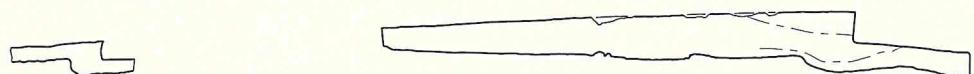
## 10) 有段式丸瓦玉縁断面の形態分類

有段式丸瓦は、丸瓦と玉縁接合部の凹面の丸瓦側のくびれと玉縁側の膨らみに大小(強弱)があり、その形態と、丸瓦と玉縁の段差の違いで4分類した。この違いは有段式丸瓦を製作したときに用いた木型の違いによるものである。下図に示したとおりC1類はくびれが強く、膨らみも強いもので、段差が1cm以上のものをC1aとし、それ以下をC1bとした。C2類はくびれが弱く、膨らみも緩やかなもので、玉縁側の膨らみが長く緩いものをC2a、膨らみが殆どなく直線的に端部まで続くものをC2bとした。

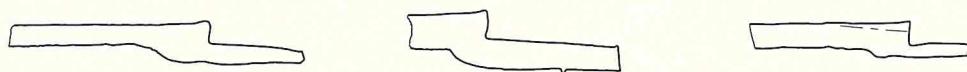
4分類の中で最も多いのはC1aで、C2bはわずかであった。  
凸面側肩部は、下図のとおり丸瓦に別の粘土を貼り、  
凸面の段が直角になるように整形したことがわかる。



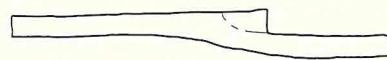
C1a



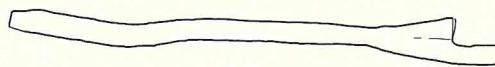
C1b



C2a



C2b



第225図 有段式丸瓦玉縁接合部分類図

## (2) 土器類(第 226 図～第 234 図)

土器類の出土状況は以下のように分類され、ほとんどは埋土内に混入したもので、使用状況を示すものでは無い。このため確認された土器類と尼寺の堂宇との関連は明らかではない。

- 1 尼寺に関連する遺構の埋土内での確認。
- 2 尼寺廃絶後に掘られた廃棄坑や瓦溜まり内での確認。
- 3 壁穴建物跡の床面上や埋土内での確認。

以下トレンチ番号順に記述する。8世紀以降の壁穴建物跡出土土器は第4章第1節(11)で言及した。

- 1) 1・2 トレンチ(伽藍地東辺・第 226 図 1～4) 1 の土師器杯(6世紀)は掘立柱建物跡の P4 埋土内で確認された。2 の須恵器蓋(8世紀前半か)は掘立柱建物跡確認面上の堆積土内、3 の須恵器杯(9～10世紀)は 1 トレンチ南端の尼寺整地面上の堆積土内で確認した。4 の須恵器碗(10世紀後半)は伽藍地東辺中央付近の地業状硬化面を掘り込む土坑あるいは溝跡の埋土内から出土した。
- 2) 3・4 トレンチ(尼坊跡・第 226 図 5～14) 5 の土師器杯(8世紀代)は尼坊跡南面(8P-3)の整地面上の堆積土、6 の土師器杯(7世紀前半)は北面(8P-85)でみられた尼寺創建以前の壁穴建物跡埋土内で出土した。7 の須恵器杯(10世紀)は尼寺跡南面に残存した講堂のものとみられる礎石(80-93)周辺の攪乱内でみられた。8・9 の須恵器碗(9世紀後半)は尼坊の基壇裾に掘られた廃棄坑内でみられ、8 は南辺(8P-71)で 9 は北辺(8P-21)で確認された。10・12・13 は地業面上の堆積土(廃絶後から As-B 降下前)内から出土したもので、10 の須恵器蓋(8世紀後半)は礎石抜取り痕(D2)付近、12 と 13 は灰釉陶器高台碗あるいは皿(9世紀後半か)で 12 が北西隅付近(9P-21)、13 が西辺(9P-42)でみられた。11 の須恵器杯(9世紀後半)は基壇裾北辺の外側(8P-71)埋土内で確認され、同じく北辺の西端では尼寺創建以前の壁穴建物跡がみられ、埋土内から 14 の土師器甕(7世紀)が出土した。
- 3) 5 トレンチ(伽藍地北東隅・第 227 図 15～29) 15・16 の土師器杯(7世紀後半)は北辺築垣東端の基部南裾埋土内で確認され、また 17 の須恵器杯(11世紀前半か)及び 18 の土師器杯(7世紀後半)は築垣南面の溝状掘込埋土内でみられた。15・16・18 は、築垣南東隅と重複する 7世紀代の壁穴建物跡に関連するものとみられる。19 の須恵器杯(9世紀後半)と 20 の須恵器碗(9世紀後半)は築垣南面の溝状掘込のさらに外側の整地面上堆積土内で確認された。22 の土師器杯(9世紀後半)は北辺築垣東端の北側整地面上の堆積土内でみられ、21 の須恵器碗(9世紀後半～10世紀)はさらに北側の掘込内で確認された。27 の須恵器杯(9世紀前半か)と 28 の灰釉陶器碗あるいは皿(9世紀後半)は築垣北東隅東側の溝状掘込埋土内でみられ、29 の須恵器甕は築垣北東隅東裾の瓦溜まり内に破片が散らばっていた。
- 4) 6 トレンチ(伽藍地東辺・第 228 図 30～40) 30 の須恵器杯(8世紀中葉)は東辺築垣東側(5P-18)の土坑状掘込埋土内で確認された。34 の須恵器蓋(8世紀中葉か)及び 35 の須恵器杯(9世紀前半)は東辺築垣東側(50-68)の溝状掘込埋土内でみられ、その外縁で重複する土坑状掘込の埋土内で 36 の須恵器杯(9世紀後半)が確認された。さらに、土坑状掘込東側の整地面上堆積土内から 37 の須恵器羽釜(10世紀後半)が出土した。また、築垣西側の SI1 周辺で 38 の須恵器杯(10世紀) 40 の須恵器碗(10世紀) や 39・40 の灰釉陶器碗(10世紀前半か)が確認された。
- 5) 7 トレンチ(伽藍地南辺・第 229 図 41～43) 41・42 の須恵器杯(9世紀後半)は、南辺中央付近(7L-70)の溝状掘込の埋め戻し土内で確認された。また、埋め戻し部の東端部は削り込みで整形されるとみられるが、削り込みの底面で 43 の須恵器杯(9世紀後半)が出土した。

6) 8 トレンチ(南面回廊・第 229 図 44~49) 44 は南面回廊東端部の基壇裾付近(7M-56)の堆積土内で確認され、45 の灰釉陶器皿(9 世紀末)はその南側(7M-36)の瓦溜まり内で出土した。また、46 の須恵器杯蓋(8 世紀中葉か)、48 の須恵器杯(9 世紀か)、47 及び 49 の須恵器高台付杯(8 世紀前半)は回廊南東隅の基壇裾東側の埋土内で確認された。

7) 10 トレンチ(伽藍地西辺・第 230~232 図 56・76~78) 56 の青磁碗(中世)は SD2 東側(100-6)の掘込埋土内、76 の須恵器杯蓋(8 世紀前半)は SD1 西側(10N-19)の埋土内、77 の軟質陶器鉢(中世)は SD2 の埋土内で確認された。78 の須恵器碗(9 世紀後半)は SD2 の西側(110-1)整地面上の堆積土内でみられた。

8) 11 トレンチ(西面回廊・第 232 図 79~81) 79 のカワラケ(14 世紀)は西面回廊と重複する溝(中世か)の南延長部とみられる箇所(9N-21)で確認された。80 の須恵器碗(9 世紀前半か)及び 81 の須恵器壺(9 世紀か)は西面回廊基壇裾の東側(8N-20)の埋土内で出土した。

9) 13 トレンチ(金堂跡・第 232 図 83~89) 83 の土師器杯(8 世紀後半)は金堂跡南辺中央付近の基壇残存部上の堆積土内で確認された。84~86 の須恵器杯(11 世紀)は、金堂跡南面(8N-33)の凝灰岩片敷込面上の堆積土内で確認され、正位置に置かれた状態であった。87・88 の須恵器杯(9 世紀)及び 89 の須恵器碗(10 世紀後半)は金堂跡南正面の「瓦列」付近(87・89 は 8N-53、88 は 8N-55)で出土した。

#### (3) 土製品(第 233 図)

土器類と同じく埋土内に混入した状況で確認され、本来の使用状況を示さず、尼寺の堂宇との関連は明らかではない。90 は円面硯の台部で回廊南東隅(8-3 トレンチ)から出土した。91 は円盤状で中央に孔を有する紡錘車、92 は羽口で、東辺築垣東側(6-2 トレンチ・50-68)の溝状掘込の埋土内で確認された。

#### (4) 鉄製品(第 233 図)

多くを釘が占め、多くは廃材処理によるとみられる焼土ブロックや炭片を含む埋土内で確認されている。93・94・98 は尼坊跡(3・4 トレンチ)で出土し、93 は南辺(8P-23)基壇裾、94 は礎石抜取痕 B2 周辺(8P-60)、98 は南辺(7P-19)の廃棄坑で確認された。96 は築垣基部の北東隅(5-2 トレンチ・5Q-39)、99 は金堂跡西側の北面回廊基壇北側裾(11-1E トレンチ・8N-80)、100 は東面回廊跡の柱跡 13 付近(15 トレンチ・7N-44)で出土した。95 の鉄鎌は北辺築垣基部北側(5-1 トレンチ・6Q-63)の埋土内で確認された。

#### (5) 銭貨(第 234 図)

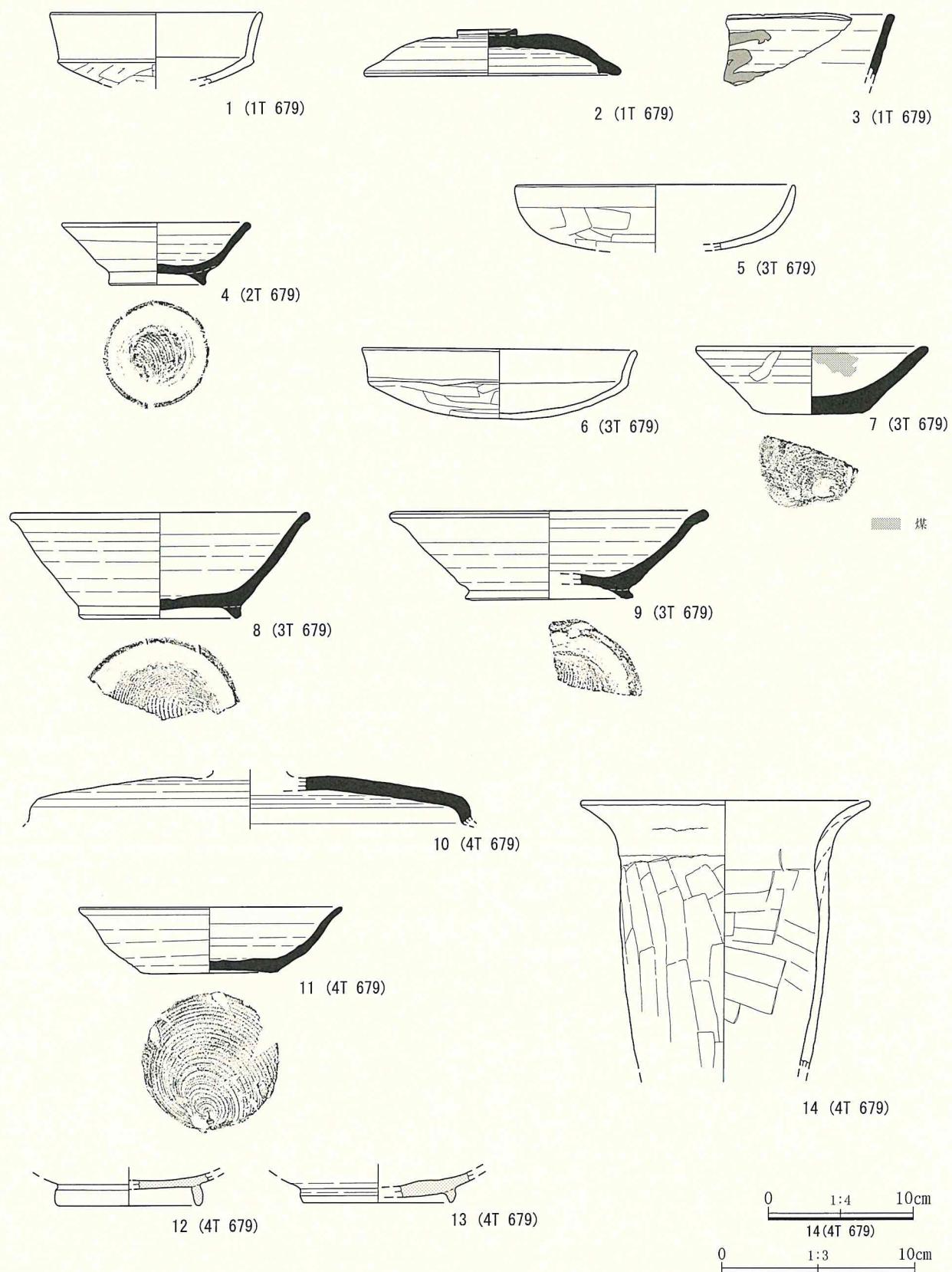
101 は治平元年(初鋸 1064 年)で伽藍地西辺の SD2 東側(10-1 トレンチ・100-7)で確認された。

#### (6) 石製品(第 234 図)

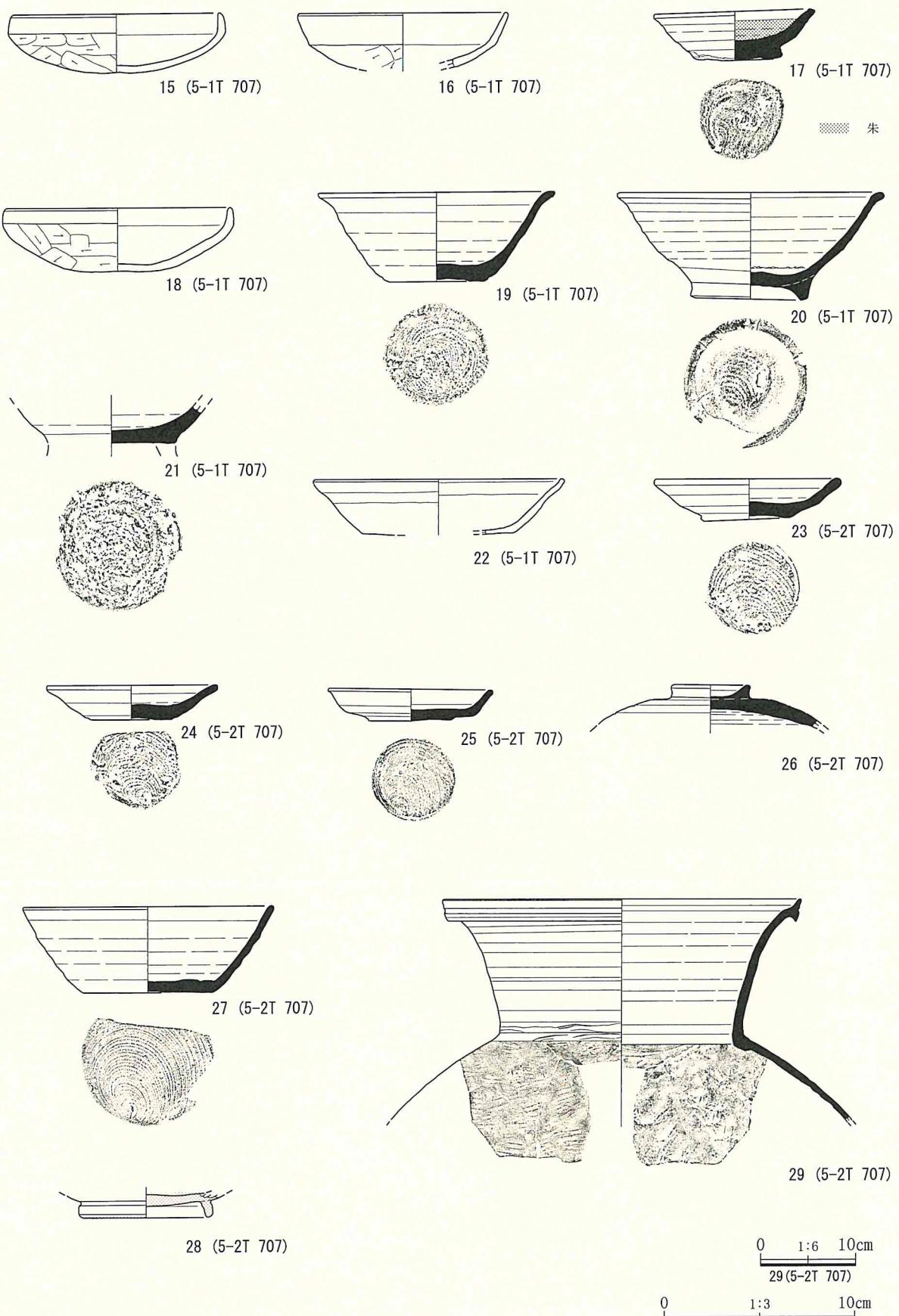
102 は古墳時代の石製模造品で、北辺築垣基部北側(5-1 トレンチ・6Q-63)の埋土内で確認された。103 は類例が無いため、名称を「環状加工礎」とした。扁平な礎の周囲を打ち欠き、中央に長軸 2.9 cm・短軸 2.2 cm の孔を穿ち、孔の両端周囲を打ち欠くことで全体を環状に整形している。擦痕等使用痕跡はみられなかった。104~106 は凝灰岩切石の破片で、金堂南辺に掘られた近年の耕作溝内に廃棄されていた。耕作溝の東側では、基壇外装と推定される凝灰岩切石列が確認されており、104~106 はこの一部を抜き取ったものとみられる。なお 104 では幅 5.0cm・高さ 2.5 cm の帯状の高まりが削り出され、石材相互のかみ合わせのための細工と推定される。106 は欠損により不明瞭だが 104 同様の削り出しを有するとみられる。

遺物実測図中に用いた表現は次の通り。

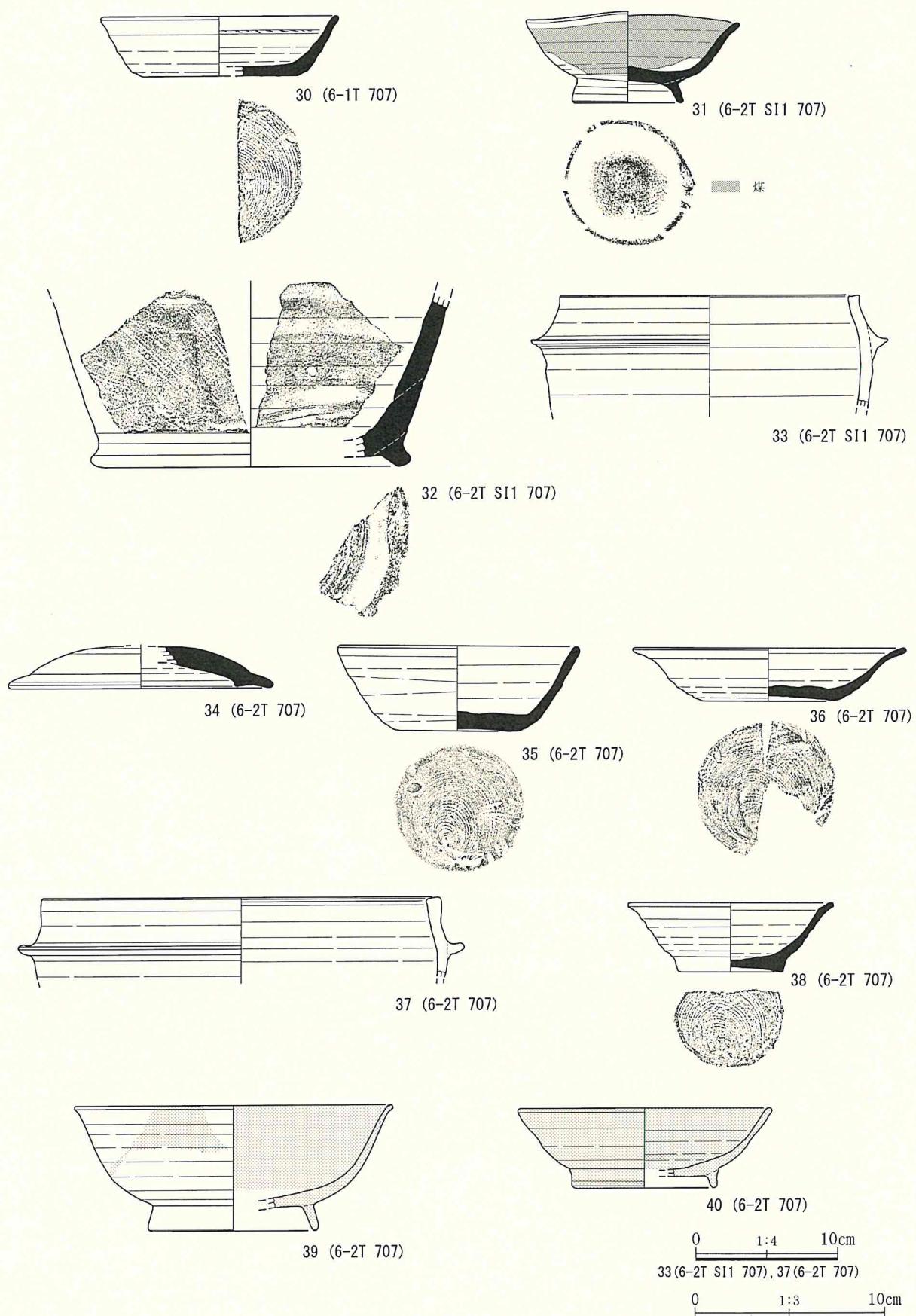
■ 須恵器・■ 灰釉陶器断面及び灰釉・■ 墨書。



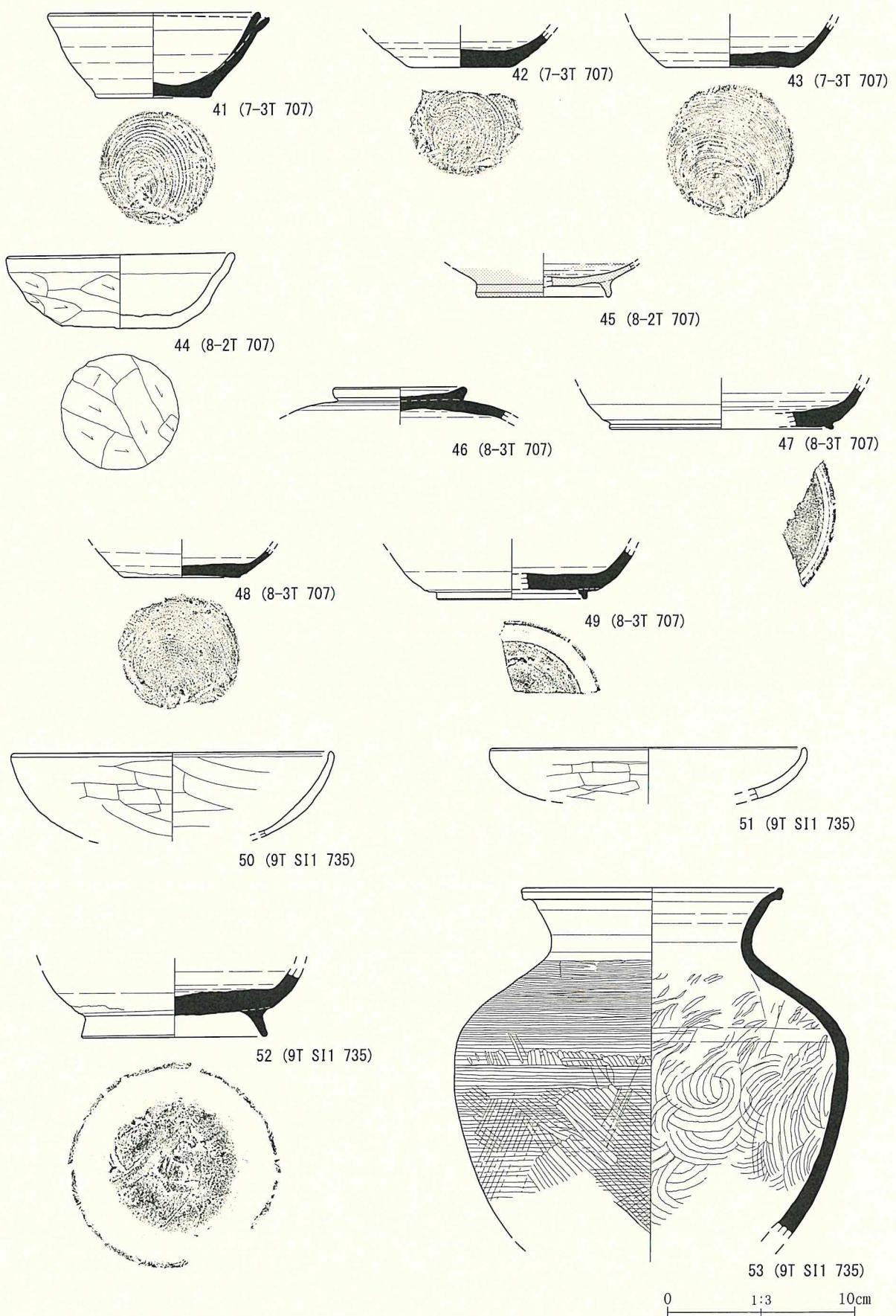
第226図 土器類1 1T, 2T, 3T, 4T



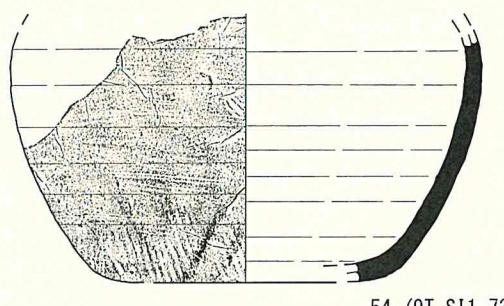
第227図 土器類2 5-1T, 5-2T



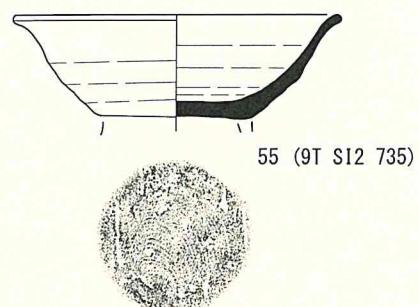
第228図 土器類3 6-1T, 6-2T, 6-2T(SI1)



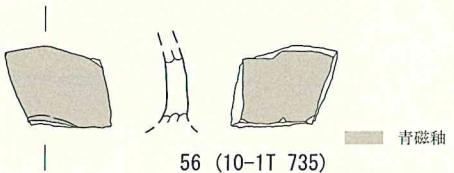
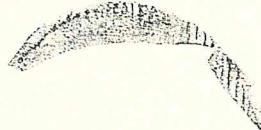
第229図 土器類4 7-3T, 8-2T, 8-3T, 9T (SI1)



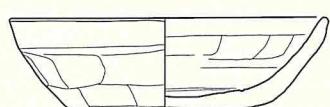
54 (9T SI1 735)



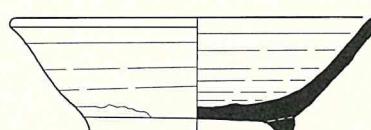
55 (9T SI2 735)



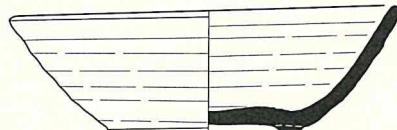
56 (10-1T 735)



57 (10-2T SI1 735)



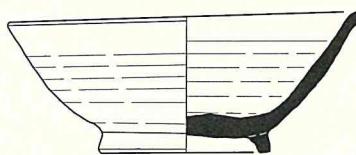
58 (10-2T SI1 735)



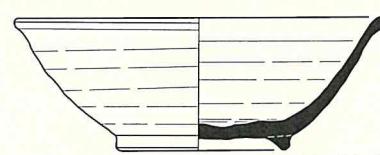
59 (10-2T SI1 735)



60 (10-2T SI1 735)



61 (10-2T SI1 735)



62 (10-2T SI1 735)



63 (10-2T SI1 735)



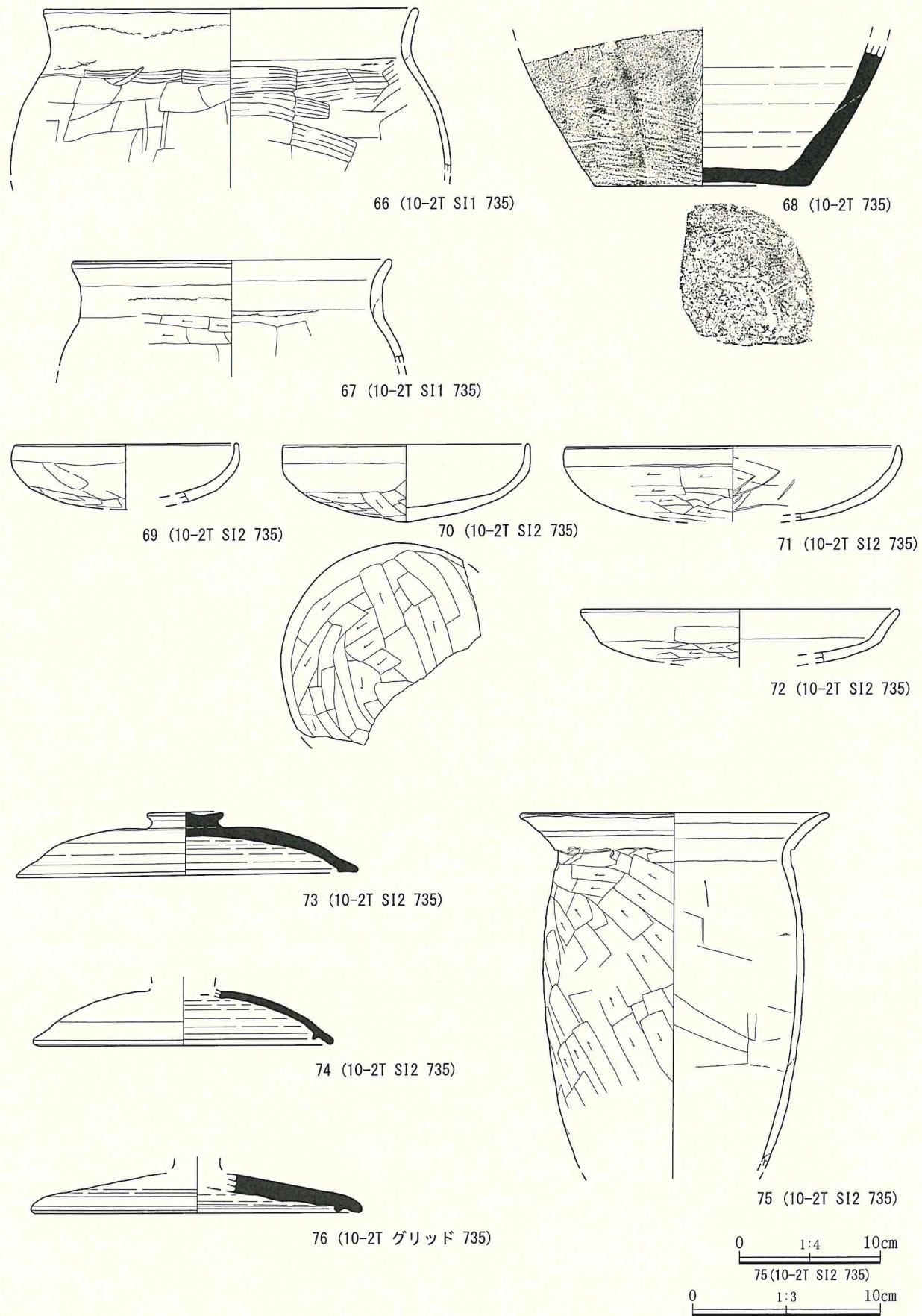
64 (10-2T SI1 735)



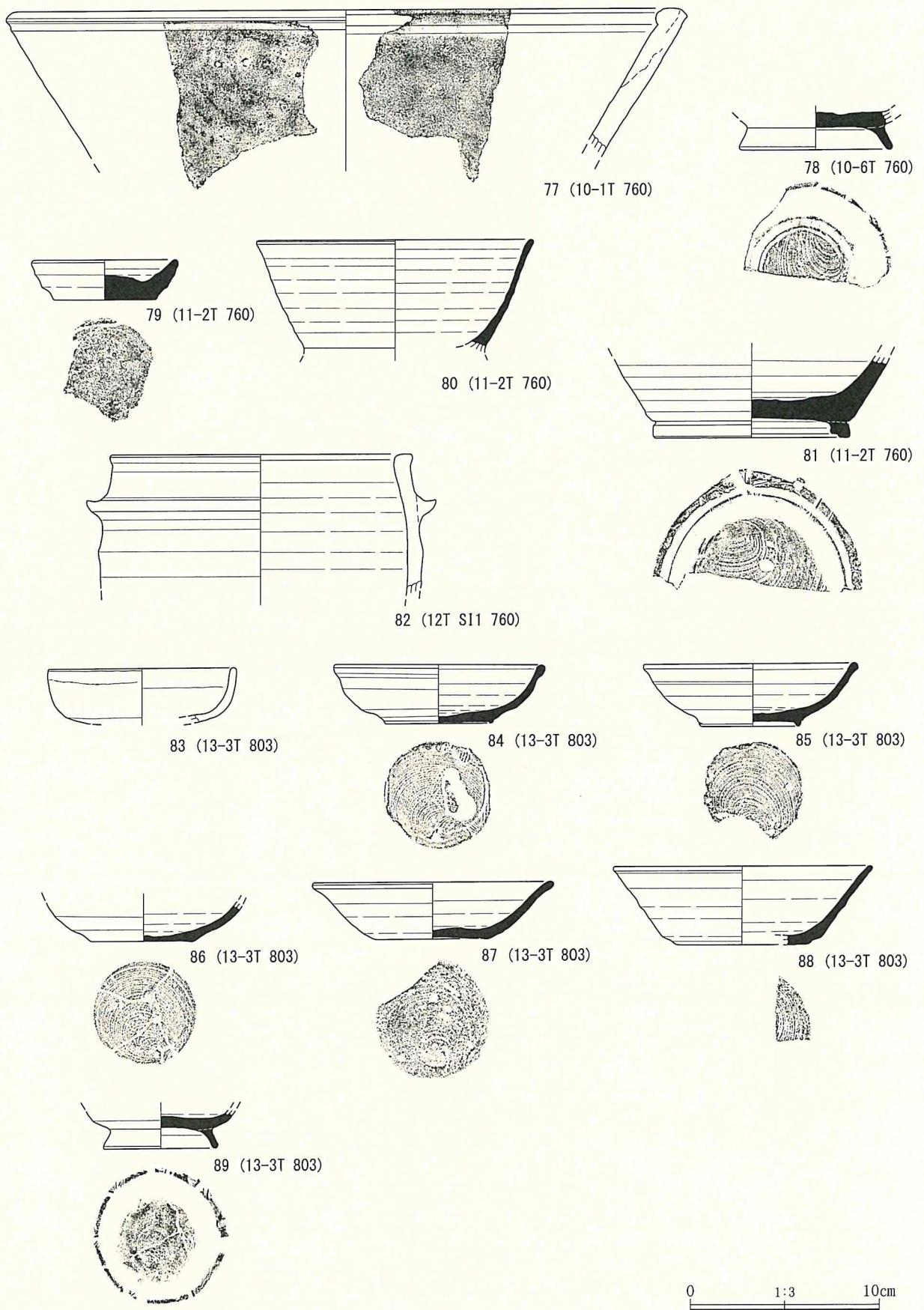
65 (10-2T SI1 735)

0 1:3 10cm

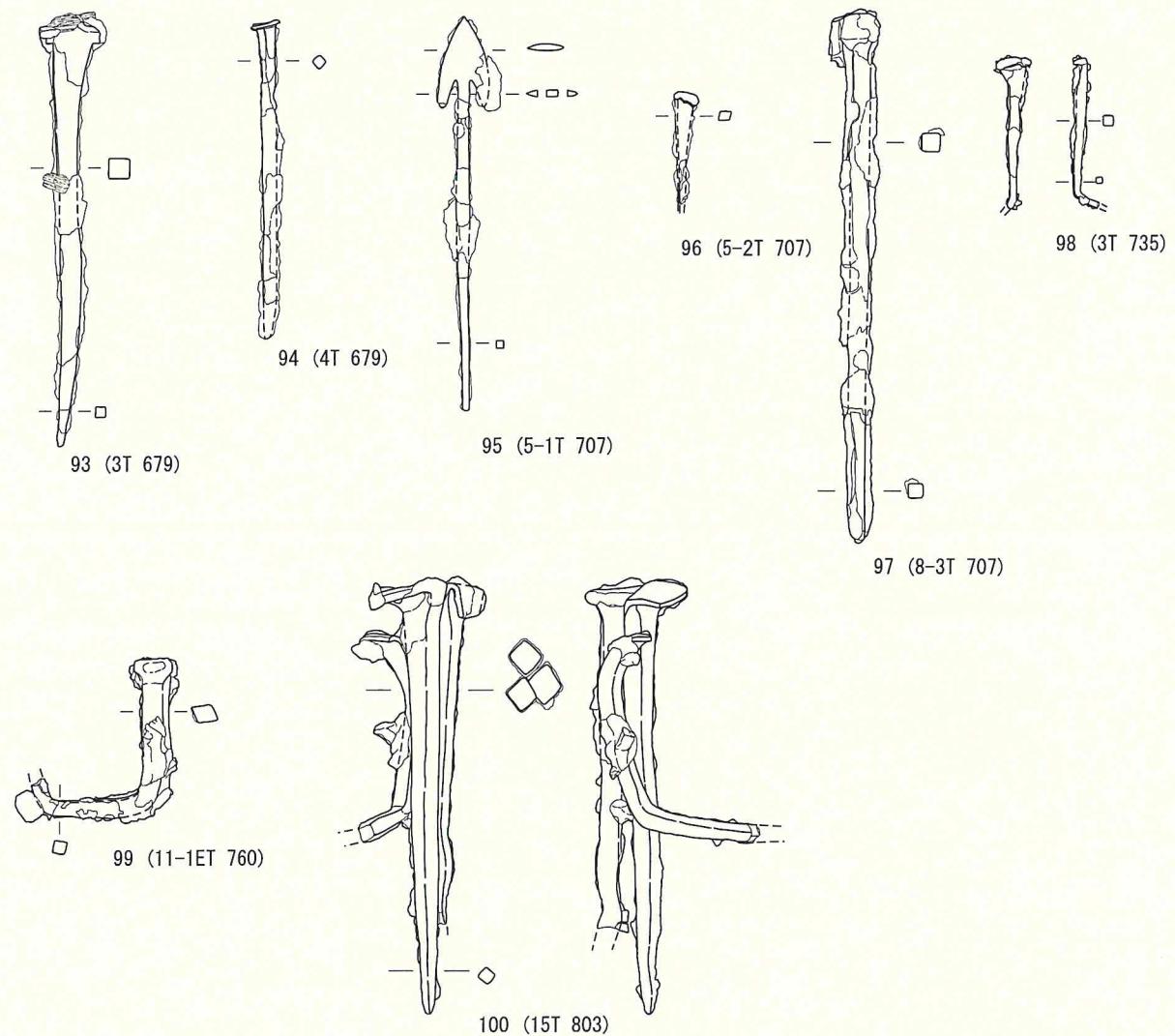
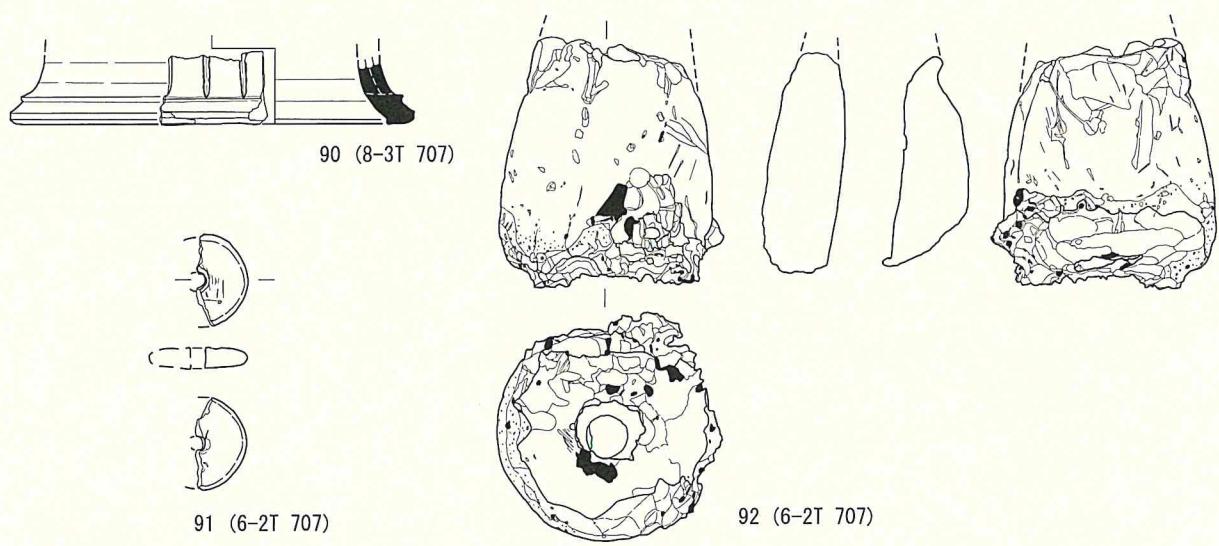
第230図 土器類5 9T(SI1, SI2), 10-1T, 10-2T(SI1)



第231図 土器類6 10-2T(SI1, SI2, グリッド)

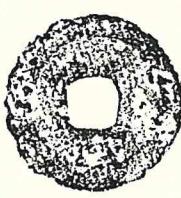


第232図 土器類7 10-1T, 10-6T, 11-2T, 12T(SI1), 13-3T



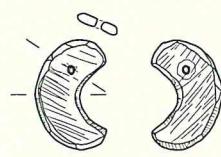
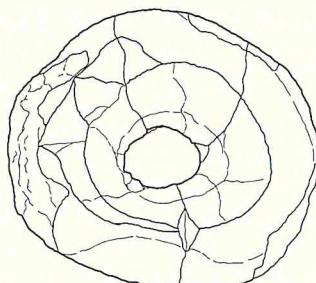
0 1:3 10cm

第233図 円面硯・土製品・鉄製品



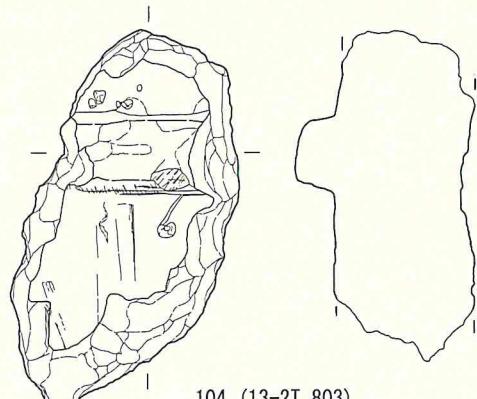
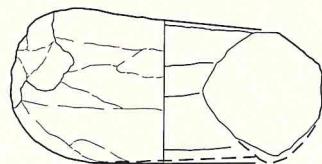
101 (10-1T 735)

0      1:1      2cm  
101 (10-1T 735)

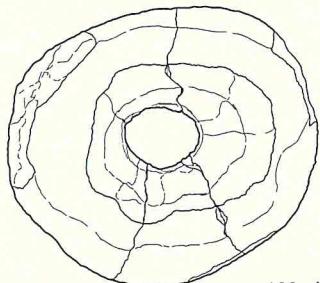


102 (5-1T 707)

0      1:2      5cm  
102 (5-1T 707)

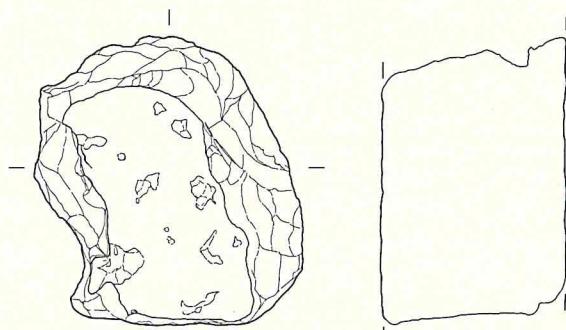
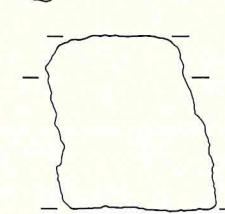


104 (13-2T 803)

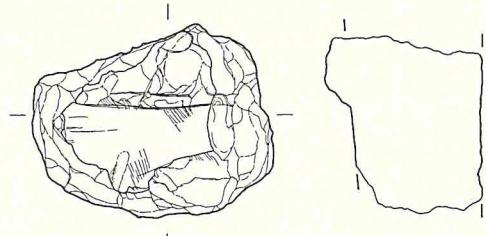


103 (10-1T 735)

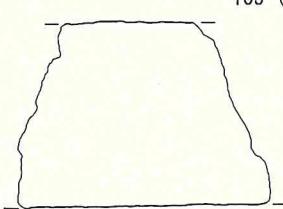
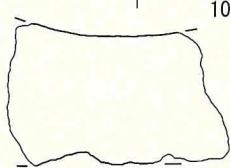
0      1:3      10cm  
103 (10-1T 735)



105 (13-2T 803)



106 (13-2T 803)



0      1:5      10cm  
104~106 (13-2T)

第234図 錢貨・石製品

## 瓦類観察表註

出土瓦観察表の各欄に用いた用語は次のとおりである。なお、出土例が僅かしか無いものについてはこの説明以外の表現をしたものがある。

**図番号、写真番号、整理番号** 図番号、写真番号は本書掲載の図版番号。整理番号は遺物観察時のメモ作成時の番号。

**出土地** 調査時のトレンチ名にTを付し、続けてグリッド名を記載。ただしAs-B混土中出土のものは「表土」、地業版築土中出土のものは「地業内」を付した。なお、調査時に出土グリッドが不明となってしまったものはトレンチ名だけである。

**瓦種** 平瓦、丸瓦(有段式・無段式)、軒平瓦、軒丸瓦の種別を記載。軒平瓦、軒丸瓦で僧寺調査の分類番号があるものはその番号(註1)、無いものは「新」とし、他の遺跡等で確認できるものは備考欄に遺跡名などを記載した(註2)。「有段式丸瓦」C1a・・丸瓦凹面と玉縁凹面の段差1cm以上。強く屈曲。C1b・・丸瓦凹面と玉縁凹面の段差1cm未満。強く屈曲。C2a・・丸瓦凹面から玉縁凹面にかけて緩い傾斜でやや屈曲。C2b・・丸瓦凹面から玉縁凹面にかけて大きな変換点がないままつながるもの(註3)。

**成形、整形** ①**凸面** 「格子目」は主たる格子目の形により正方形・長方形・平行四辺形・ひし形・不定形に分類。格子目大きさ区分は、格子の最も長い辺が5mm以下を「小」、最も短い辺が1cm以上を「大」、その間を「中」とした。「繩目」は3cmの幅にある条数で区分し、4本以下を「粗」、11本以上を「密」、その間を「中」とした。「繩短」は繩を板の短軸方向に巻いたと思われるもの、「繩長」は長軸方向に巻いたと思われるもの。「押圧」は繩巻道具を用い、叩きではなく押圧したと思われるもの。「ローラー状」は絡繩体を転がしたのではないかと思われるもの(註4)。「平行条目」は瓦に残る溝の幅で分類。窪みの幅が4mm以上を「太」、4mm未満を「細」とした。「素文」は掌、手根や無地の板で叩いた痕跡の場合。「叩き方向」は叩いた(押圧)方向も可能な限り観察をし、「タテ」は瓦の長軸方向、「ヨコ」は短軸方向、「ナナメ」は斜め方向。工具等の痕跡が平行の場合は「平行」、そうでない場合に「ハの字状」、「X字状」と記載。「T字状」は平瓦に密接して細い繩長での痕跡があるものの中で狭端部際に繩長と直行する方向に繩目がありT字状に見えるものをいう。「○段○列」は瓦全体が残っている場合で、叩き道具の単位が明瞭なものについて、長軸方向の単位個数を段、側面方向の単位個数を列で記した。「糸切り痕」は明瞭な場合は「糸切り痕」とのみ、ナデ等で大部分が消えている場合は「僅かに」、殆ど消えているが調整の下に見える場合は「微かに」とした。「離れ砂」は成形時、叩き締め道具等が瓦から離れやすくするための離材のことと、ある場合にのみ記載。「調整」は最終調整が確認できるので「ケズリ」・「ナデ」のほか、方向が明瞭のときは方向を記し、強い回転痕が認められるときは「回転」とした。調整の順序がわかるときは「→」で前後を表した。「石目地」は軒平瓦・軒丸瓦の瓦当面に気泡が抜けた痕のような細かい穴が全面に見えることがある。日本刀で用いる鎧の表面仕上げの石目地に似ているためこの用語を用いた。

②**凹面** 「布目」は布目痕がある場合、1cm四方の中に見える経糸緯糸の本数を数え、4本以下を「粗」、11本以上を「密」、その間を「中」とした。布の綴目がある場合にはそのことを記した。限られた部分的なものを除き、ナデ調整が施されているときは凸面と同様とした。「側板圧痕」は模骨桶の側板圧痕が残っている場合。

「瓦当裏」は軒丸瓦の瓦当裏面に残る布目、ナデ、ケズリの状態を記した。布目は袋の綴目があるものを「有絞り」、無いものを「無絞り」とした。軒丸瓦の瓦当面と丸瓦接合技法は僧寺の例による(註5)。

**法量** 「厚」は最も厚いと思われる部分の厚みを左に、最も薄いと思われる部分の厚みを右に記した。全体がほぼ同一の厚さのときは区分しない。「広端径」は広端面の直径、「狭端径」は狭端面の直径、「全長」は瓦の全長である。

**色調** 瓦の凹面は「凹○○色」、凸面は「凸○○色」、凹凸面同じ場合は「凹凸○○色」で記した。色調は農林水産省技術会議事務局・財團法人日本色彩研究所2016年版『新版標準土色帖』によった。「尾を引く」は側面等に墨を流したように筋状の黒色粘土が伸びているもの。「炭素吸着」は炭素が全面に吸着するように焼成され黒色の燻となっているもの。

**胎土** 「夾雜物」は粒径1mm未満を「微粒」、1~2mmを「細粒」、2~4mmを「小礫」、4mm以上を「礫」とした。量は新版標準土色帖の面積割合を参考にし、1~3%を「微量」、5~10%を「少量」、15~25%を「多量」、30~50%を「大量」とした。微粒の白色粒が、割れ口全体にまんべんなく粉を振りかけたように見えるものは「まぶしたよう」と記した。「素地粒」は割れ口面が緻密でスッキリしたものを「密」、粒状のものを「粗」とし、同じ夾雜物、色調で幾層かに重なったようにみえるものを「層状」とした。薄い粘土が隙間を挟んで幾層にも重なっている場合は「パイ皮状」、色の異なる粘土が幾層か重なっているものを「粘土縞状」とし、全体が均質なものは「均質」とした。「マーブル状」は複数の色の粘土が波を打ったように重なり合うもので、渦巻状のものも含む。

**備考** 項目立てできるほどの資料がないものなどを記入した。そのうちいくつかは次のとおりである。「瓦分割時の側面痕跡」は円筒状の瓦を一枚ずつに分割する際、刃もので瓦に傷を付け分割時の補助としているが、分割後の側面の調整状況と刃を入れた向き(凹面側が圧倒的に多い)がわかるものについて記した。瓦の厚みの半分程度まで刃先を入れた後分割する際のバリが出ている状態を「破面a」、バリと対になる窪みの状態を「破面b」とし、上下端部以外は刃先が貫通しているもので端部近くにだけ分割痕がありバリが出ているものを「破面d+」、窪んでいるものを「破面d-」とした(註6)。刃先が入った面を凹面、凸面で表記した。

「側面布目」は一枚づくりの証左となる凹面から続く布目が側面にあるもの。

「隅切り」は降棟に接する瓦で側面の長さが大きく異なるもの。「隅落」は瓦の隅を僅かに一部だけ切り落としたもの。

「表面剥離」は瓦の表面が剥離したもの。「石爆ぜ」は胎土中に大きな礫が含まれ、そこからヒビが入っているもの。

「文字瓦」文字瓦のうち文字として読めるものはその文字を、判読困難なものは「不明文字」とした。一部のものには僧寺の文字瓦に係る高井佳弘の種類を付した(註7)。

「○○窓」從来からの調査研究で生産窓が判明している場合記載した。

上記ほか次の事柄なども記載した。

○いくつかの瓦について参考のため重さをg単位で記入した。

○同範瓦など参考となる図版中の瓦はNo.を付して記した。

註1 僧寺における軒先瓦の分類番号

分類番号はアルファベット1文字と数字3桁で表され、A～Mが軒丸瓦、N～Z(0を除く)が軒平瓦をあらわし、数字の1桁目が弁数など小分類、それ以下は同じ小分類での個体番号となっている。今回報告に関わりのあるところは以下のとおりである。  
 (『史跡上野国分寺跡』発掘調査報告書 1989および『史跡上野国分寺跡 第2期発掘調査報告書－総括編－』 2018 どちらも群馬県教育委員会)

両書より抜粋し改編 ※軒丸瓦の蓮子1+4は中央に蓮子1個その周囲に蓮子4個を表す。

軒丸瓦			軒平瓦	
	大分類	小分類	大分類	小分類
単弁	A 4葉	0 蓮子1	N 重弧・重廓文	
		1 蓮子1+4		NH 範
		2 蓮子1+5		NT 手描き
		3 その他		NR ロクロ
	B 5葉	0 蓮子1	P 唐草文	0 右偏行
		1 蓮子1+4		1 左偏行
		2 蓮子1+5	Q 飛雲文	
		3 その他	R 流水文	
	E 8葉	1 弁が()の形	U 鋸歯・波状文	0 範
	H 11葉～			1 手描き
複弁	J 6・7葉		V 連珠文	
			W 植物文	

註2 軒平瓦、軒丸瓦の文様区分と郡郷名文字瓦の分類は僧寺の例によるが、僧寺において未発見の文様、文字については、「新」とし、そのうちいくつかは新たな分類番号を付し、同じ文様等のものが住谷コレクションや他の報告書に掲載されている場合にはその旨を備考に記した。その際の略語は次のようにした。住谷 修編『上野瓦集西毛編』⇒住谷西毛、住谷コレクション⇒住コレ、『上野国分尼寺跡』(昭和期の国分尼寺の調査)⇒尼寺昭和、『上野国分僧寺・尼寺中間地域』(関越自動車道の建設に伴う発掘調査報告書 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1～8)⇒中間地域及び巻数、『元総社蒼海遺跡群』(前橋市教育委員会等が尼寺南方を中心に実施している調査報告書)⇒元総社及び巻数、『上野国分寺隣接地域発掘調査報告書』⇒「隣接地域」、『史跡十三宝塚遺跡』⇒「十三宝塚」ほかこの例による。

註3 玉縁の形式は大脇 潔の玉縁の成型におけるC1手法、C2手法の区分を基にした。大脇 潔「丸瓦の製作技術」『研究論集IX』奈良国立文化財研究所学報 第49冊 1991

註4 ローラー状については原体がつかめる例がなく明確ではないが、これまでも可能性を指摘されている。佐原 真「平瓦桶巻作り」『考古学雑誌』第58巻第2号 1972、大江正行第4章第2節「瓦」『国分境遺跡』群馬県教育委員会 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990

註5 A技法は瓦當に瓦当面を接合する方法。A-1は接着法、A-3は印籠つき。B技法は丸瓦と瓦当を同時に成形する方法。B-1、B-2は截頭円錐形の型木を用い、B-3は蒲鉾状型木を使用したとする。

註6 佐原 真の分割手法を参考に、大脇 潔の分類のa、bのほかd(佐原の「粘土円筒分割法3種」のII)を追加し、破面に粘土が付いて大きなバリが残ったものを+、凹んでいるものを-で表した。多くの場合刃先は凹面側から入るがバリの遺存状況から凸面(製作時の外)側から入るものがあるので刃の入った側を凹面、凸面で表記した。

註7 文字瓦の種類は高井佳弘の種類によった。「上野国分寺跡出土の郡郷名押印文字瓦について」『古代』第107号 早稲田大学考古学会 1999

## 上野国分尼寺跡出土瓦類觀察表

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦1-1 PL. 26-1 1090	13-1T 7019	平瓦	凹 僵かに布目中。ヨコナデ 凸 微かに糸切り痕。ヨコナデ	厚 2.3／1.8 狭端径 22.2	凹 灰黄褐色 凸 暗灰色	・白色微粒まぶした よう ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	・金堂基壇の東外の瓦列 ・端面及びその際の両面に自 然軸付着
瓦1-2 — 1087	13-1T 7012	有段式 丸瓦	凹 布目中 凸 回転ヨコナデ	丸瓦厚 1.6	凹 暗灰色 凸 暗灰色	・白色微粒まぶした よう ・素地粒 粗	・C1b ・粘土巻合せ Z ・破面b凹面から
瓦1-3 — 1088	13-1T 8024	平瓦	凹 布目中。僵かに糸切 り痕 凸 繩目中、一方向タテ 密着、繩長。ヨコナデ	厚 1.7	凹 にぶい黄橙色 凸 にぶい橙色	・白濁微粒多量 ・灰白色粘土縞状	
瓦1-4 — 1089	13-1T 8024	軒平瓦 P008	瓦当面 右偏行唐草。主葉、支葉 とも界線から。界線2本 深い段頸(5.1cm) 凹 布目中	瓦当高 6.0	瓦当面 灰白色 瓦当裏 灰色 凹 灰白色	・白濁微粒多量 ・色の異なる粘土が マーブル状	・頸は貼付け
瓦1-5 — 1112	13-1T 7009	平瓦	凹 布目中 凸 ヨコナデ	厚 2.2／1.9	凹 灰白色 凸 炭素吸着	・白濁微粒大量 ・黒褐色微粒多量 ・バイ皮状	凸 ヘラ書き型不明文字
瓦1-6 — 1116	13-1T 7009	平瓦	凹 布目中。糸の乱れあ り 凸 タテナデ	厚 2.2	凹 黄灰色 凸 黄灰色	夾雜物大量 ・白濁微粒・細粒多 量 ・灰白粘土縞状 ・バイ皮状	凸 ヘラ書き型「平」
瓦1-7 — 1183	13-1T 7019	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 繩目密、一方向タテ 密着、繩長。端部際掌押 圧	厚 2.1／1.6	凹 にぶい橙色 凸 にぶい橙色 側面 灰白色粘土、 黒褐色粘土尾を引く	・黒褐色微粒少量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	
瓦2-8 — 1184	13-1T 8022	軒丸瓦 B104	瓦当面 先端の尖った一重花弁。 子葉あり(五葉)。中房圓 線1本。界線1本 瓦当側面 下半分円周ケズリ。瓦當 上面タテケズリ 瓦當裏 タテナデ。突帯なし。肩 円周方向ほぼ水平にケズ リ。丸瓦差し込み用の溝 あり	瓦当厚 1.4	瓦当面 黄灰色 瓦当裏 灰黄色	・白濁微粒多量 ・黒褐色微粒少量 ・同じ粘土層状 ・瓦当面細い石目地 状 ・周縁、丸瓦部に灰 白色粘土、黒褐色粘 土縞状	・周縁高 0.6～1.0cm ・周縁幅 1.0～1.5cm ・瓦当直徑 16.8cm ・界線直徑 12.0cm ・A-3技法 ・尼寺昭和(この項目は以下 では略)
瓦2-9 — 1185	13-1T 8022	丸瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 タテナデ	厚 4.6/3.7	凹 にぶい黄橙色 凸 暗灰色	・白濁微粒多量 ・暗灰色粘土マーブ ル状	・二枚の瓦を重ねて作ったよ う
瓦2-10 — 1091	13-1T 8024 地業内	平瓦	凹 布目中。側板圧痕幅 2.3cm 凸 繩目中、一方向タテ 密着、繩長→回転ヨコナ デ	厚 1.9／1.4 長 40.5	凹 炭素吸着 凸 炭素吸着	・白濁微粒大量 ・片岩 ・均質	
瓦3-11 — 1143	13-1T 7029 表土	軒丸瓦 E103	瓦当面 蟹爪状蓮華文八葉。子葉 なし。界線1本。周縁ナ デ。中房圓線あり、蓮子 不明 瓦當裏 ヨコナデ。突帯なし。側 面際を斜めに削る	瓦当厚 2.4／1.6	瓦当面 暗灰色 瓦当裏 暗灰色	夾雜物多量 ・白濁微粒大量・細 粒多量 ・同じ粘土層状	・周縁幅 4～5mm ・弁が盛り上る ・A-3技法
瓦3-12 — 1123	13-1T 7029 表土	軒平瓦 判別不 能	瓦当面 右偏行唐草。主葉+支葉 が界線から生じる。界線 1本(2本の可能性あり) 凹 布目中	平瓦厚 2.2	凹 暗灰色 凸 暗灰色	夾雜物多量 ・白濁微粒大量・細 粒・小穂多量 ・バイ皮状	・平瓦は瓦当上端より窪む
瓦3-13 — 1125	13-1T 7029 表土	軒平瓦 P103	瓦当面 左偏行唐草。退化した唐 草。支葉なし。界線1本 段頸	—	瓦当面 明暗灰色	・白濁微粒大量 ・灰白色粘土マーブ ル状	・頸の付け根強くユビナデ ・頸赤色塗彩 ・No.25と同一文様だが個体は 異なる
瓦3-14 — 1124	13-1T 7029 表土	軒平瓦 P010	瓦当面 右偏行唐草。界線2本 段頸	瓦当高 4.3 平瓦厚 2.3	瓦当面 黄灰色 凹 黄灰色 凸 黄灰色 ・瓦表面に灰白色、 黒褐色粘土尾を引く	・白濁微粒多量 ・灰白色粘土マーブ ル状	・右上隅、外側界線から周縁 に范傷あり ・頸赤色塗彩 ・頸部貼付け

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦3-15 — 1130	13-1T 7029 表土	軒平瓦 P002	瓦当面 右偏行唐草。界線1本。 外区珠文1つのみあり 三角形顎 顎部ヨコナデ 凹 僅かに布目中。瓦当 上面ヨコナデ 凸 タテケズリ	瓦当高 4.8 平瓦厚 2.6	瓦当面 灰色 凹 暗褐色 凸 暗褐色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	・上植木庵寺跡。十三宝塚遺 跡。寺井庵寺跡。中間地域で 出土。(この項目は以下では 省略) ・顎と凸面赤色塗彩 ・笠懸山際窓
瓦3-16 — 1135	13-1T 7029 表土	軒丸瓦 B201カ	瓦当面 二重花弁。子葉あり。界 線1本。中房圈線1本、蓮 子不明。周縁ナデ。 瓦当裏 布無絞り。布二重。突帶 あり	瓦当中央厚 1.1	瓦当面 暗灰黄色 瓦当裏 黄灰色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	・周縁幅 1.4cm ・瓦当薄い ・弁中央から界線にかけて掌 で押したか円周状に凹む ・瓦当裏面突帶際を斜めにケ ズル ・台之原庵寺跡。有馬庵寺 跡。寺井庵寺跡。源六振遺 跡。中間地域などから出土 (この項目は以下では省略)
瓦3-17 — 1166	13-1T 7029 表土	丸瓦	凹 微かに布目中。ヨ コナデ 凸 タテケズリ	厚 4.2／3.4	凹 にぶい橙色 凸 灰黄褐色。灰付 着	・白濁微粒多量 ・素地粒 粗	・縦方向徐々に厚くなる、軒 丸瓦の瓦当欠落にして厚す ぎるので鳥糞のような道具瓦 の可能性あり
瓦3-18 PL. 26-2 1139	13-1T 7029 表土	軒丸瓦 B205カ	瓦当面 二重花弁五葉か。子葉あ り。界線1本。中房圈線1 本、蓮子1+3α 瓦当裏 無絞り布目。突帶なし。 下方は斜めケズリ 瓦当側面 段を有するケズリ	瓦当厚 1.9／1.6	瓦当面 浅黄色 瓦当裏 浅黄色	・白濁微粒大量	・子葉 細く高い隆線 ・周縁幅 1.5～2.5cm、平坦 ・僧寺B205は突帶があり本品 と異なる ・No.18～20まで文様は酷似す るが同范確定できていない
瓦3-19 PL. 26-3 1140	13-1T 7029 表土	軒丸瓦 B205カ	瓦当面 二重花弁五葉か。子葉あ り。界線1本。中房圈線1 本、蓮子個数不明 瓦当裏 無絞り布目。突帶不明。 布袋の合せ目か	瓦当厚 2.8／2.4	瓦当面 にぶい橙色 瓦当裏 暗褐色	・白濁微粒少量 ・同じ粘土層状	・周縁幅 0.9cm ・周縁肩丸味
瓦3-20 PL. 26-4 1141	13-1T 7029 表土	軒丸瓦 B205カ	瓦当面 二重花弁五葉か。子葉あ り。界線1本 瓦当裏 無絞り布目。布袋の合せ 目か。突帶なし	瓦当厚 2.2	瓦当面 にぶい黄橙 色 瓦当裏 にぶい黄橙 色	・白濁微粒多量 ・灰白色粘土縞状	・周縁幅 0.5～1.2cm ・周縁 一部肩が落ちて水平 面はない ・中心部欠のため中房、蓮子 不明 ・僧寺B205は突帶があり本品 と異なる ・No.460と胎土、弁形似る
瓦4-21 — 1142	13-1T 7029 表土	軒丸瓦 E103	瓦当面 蟹爪状蓮華文八葉。子葉 なし。界線1本。中房圈 線1本、蓮子1+4。周縁ナ デ 瓦当裏 ヨコナデ。突帶なし。側 面際を斜めに削る	瓦当厚 2.2／1.6	瓦当面 暗褐色 瓦当裏 灰色	夾雜物多量 ・白濁微粒大量 ・片岩 ・同じ粘土層状	・周縁幅 0.5～1.0cm ・弁区が盛り上る ・A-3技法
瓦4-22 — 1146	13-1T 7039 表土	軒丸瓦 B105カ	瓦当面 弁先の丸い二重花弁。界 線1本。周縁テイネイな ナデ。中房蓮子存在しな い 瓦当裏 無絞り布目。突帶ありナ デ	瓦当厚 1.9	瓦当面 灰白色 瓦当裏 灰白色	・白濁微粒多量 ・灰黑色粘土縞状 ・素地粒 密 ・バイ皮状	・周縁幅 8mm ・周縁肩面取りして、外に開 く ・突帶幅 1.1～1.5cm ・突帶高 0.6cm ・中間地域。白倉下原・天引 向原遺跡。高崎市寺尾町茶臼 山(この項目は以下では省略)
瓦4-23 PL. 26-5 1144	13-1T 7039 表土	軒丸瓦 A107	瓦当面 弁間は盛り上がり陰刻に より弁先の丸い二重花 弁。子葉は隆線。中房蓮 子1+4か。周縁ナデ。界 線1本 瓦当裏 無絞り布目。突帶ありテ イネイなナデ 瓦当側面 ミガキに似たテイネイな ナデ	瓦当厚 1.6	瓦当面 にぶい橙色 瓦当裏 にぶい橙色	・赤褐色微粒、細粒 多量 ・灰白色粘土縞状 ・素地粒 密	・周縁幅 2.0cm ・界線幅 2～4mm ・突帶幅 2.0cm ・突帶高 1.4cm

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦4-24 — 1162	13-1T 7029 表土	丸瓦	凹 布目中。側板圧痕幅 2.3cm 凸 微かに縄目密、一方 向タテ密着、縄長。回転 ヨコナデ	厚 1.6／1.3	凹 灰色 凸 灰色	・白色微粒多量 ・均質 ・緻密	・凹面端部際に円形窪み(分 割結節痕か深さ0.8cm)と縦方 向窪み
瓦4-25 — 1179	13-1T 7039 表土	軒平瓦 P103	瓦当面 左偏行唐草。界線1本。 周縁ナデ 凹 布目中。糸切り痕 段頭	平瓦厚 3.0／2.4	瓦当面 黄灰色 凹 黄灰色 凸 灰黄褐色	夾雜物大量 ・白濁微粒大量・細 粒多量	・頸部貼付け ・No.13と同一文様だが個体は 異なる ・全面に二次的灰付着
瓦4-26 PL. 26-6 1186	13-1T 7039 表土	軒平瓦 新 p108	瓦当面 中央を隆線で二分割し、 S字状の文様が繋がる。 界線1本。細い木理が明 瞭 凹 布目中。糸切り痕。 瓦当上面ヨコナデ。平瓦 側窪む 凸 タテナデ 頭 ヨコナデ ゆるい曲線頭	瓦当高 5.7 平瓦厚 2.3	凹 灰黄褐色 凸 にぶい黄橙色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質	
瓦4-27 — 1108	13-1E1T 7008 13-1E1T 7019	軒丸瓦 M002	瓦当面 烏趾状蓮華文七 葉。界線なし。中房圓線 なし、蓮子1個。弁間に 珠文2個 瓦當裏 布目なし。ヨコナデ。丸 瓦接合部分円周ナデ 瓦当側面 ヨコナデ 凹 瓦当裏から4cmの高 さまでヨコナデ	瓦当厚 2.3	瓦当面 黄灰色 瓦当裏 黄灰色 凹 黄灰色 凸 黄灰色	・黒褐色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質	・周縁幅 1.0cm ・蓮子の1つが弁先に付く ・弁先から界線に向って范傷 あり ・A-2技法 ・山王庵寺跡から出土(この 項目は以下では省略) ・秋間窯
瓦5-28 PL. 26-7 1110	13-1E1T 7009	軒丸瓦 新 b211	瓦当面 二重花弁。子葉なし。中 房圓線1本、蓮子1+5。界 線1本 瓦當裏 無絞り布目。突帶なし。 粘土接合痕あり。端部斜 め下にケズリ。外に広が る	瓦当厚 2.0	瓦当面 灰色 瓦当裏 黄灰色	・白濁微粒多量 ・片岩 ・同じ粘土層状 ・素地粒 粗 ・均質	・圓線直径 2.9cm ・周縁幅 0.5~1.2cm ・周縁 界線より低く、肩が 丸く丸瓦に統く ・尼寺昭和。中間地域(4)。 隣接地域A地点
瓦5-29 — 1111	13-1E1T 7009	平瓦	凹 布目中 凸 長方形格子中	厚 1.6	凹 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	凸 格子一体型「雀」A類(左 文字)
瓦5-30 — 1113	13-1E1T 7009	丸瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 回転ヨコナデ	厚 1.7／1.6	凹 黄灰色 凸 黄灰色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	
瓦5-31 — 1114	13-1E1T 7009	平瓦	凹 タテナデ 凸 縄目中、一方向タテ 平行、縄長。タテナデ	厚 1.7	凹 黄灰色 凸 黄灰色	・白色微粒多量 ・同じ粘土層状 ・均質 ・精選	
瓦5-32 — 1096	13-1N1T 8029	丸瓦	凹 布目中 凸 タテナデ	厚 1.8	凹 灰白色 凸 灰白色	夾雜物多量 ・白濁微粒大量 ・素地粒 粗	・粘土巻合せ SZ不明
瓦5-33 — 1092	13-1N1T 8024	平瓦	凹 布目中。側板圧痕幅 2.5cm。タテナデ 凸 縄目中、一方向タテ 密着、縄長。ヨコナデ	厚 1.6	凹 暗灰色 凸 暗灰色	・白濁微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・凹凸面に小疊露出	
瓦5-34 — 1093	13-1N1T 8024	軒丸瓦 B104	瓦当面 先端の尖った一重花弁。 子葉あり。中房圓線1 本、蓮子1+4 瓦當裏 ケズリ→ナデ	瓦当中央厚 1.7	瓦当面 灰白色 瓦当裏 灰白色	夾雜物多量 ・白濁微粒大量 ・赤褐色微粒多量 ・同じ粘土層状	・弁元に范傷あり
瓦6-35 — 1094	13-1N1T 8024	平瓦	凹 微かに布目中。タテ ナデ 凸 長方形格子中。タテ ナデ	厚 2.3／1.8	凹 暗灰色 凸 暗灰色	・白色微粒多量 ・素地粒 密	
瓦6-36 — 1107	13-1N2T 8022	丸瓦	凹 布目中 凸 タテケズリ→タテナ デ	厚 2.2／1.8	凹 灰白色 凸 黄灰色	・白濁微粒大量 ・均質	

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦6-37 PL. 26-8 1100	13-1N2T 8022	軒丸瓦 新 a006	瓦当面 先端が丸味のある花弁四葉。子葉あり。 界線1本。中房圏線1本、 蓮子1個 瓦当裏 無絞り布目	瓦当中央厚 1.9	瓦当面 暗灰色 瓦当裏 灰色	・白濁微粒多量 ・灰白色粘土綱状 ・片岩あり	・蓮子直径 0.7cm ・中房直径 1.5cm ・界線直径 8.9~9.2cm ・沈線直径 11.2cm ・界線は平坦、幅0.5~1.3cm ・界線の外側に沈線が廻る ・周縁肩に丸味をもつて斜めに丸瓦に続く ・瓦当裏中央やや膨らむ ・花の1つは弁先が界線と一体 ・弁先に范傷のあるものがある ・A105と似るが異なる ・No.292と同范
瓦6-38 — 1102	13-1N2T 8022	平瓦	凹 布目中。側板圧痕幅 2.2cm。糸切り痕 凸 回転ヨコナデ	厚 1.3	凹 灰白色 凸 灰白色	・黒褐色微粒少量 ・白濁微粒微量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	・粘土巻合せ SZ不明
瓦6-39 — 1101	13-1N2T 8022	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 長方形格子中。糸切 り痕	厚 1.5	凹 にぶい黄橙色 凸 灰白色	・断面鉄分沈着のた め観察できず	・粘土巻合せ S
瓦6-40 — 1106	13-1N2T 8022	平瓦	凹 布目中。微かに糸切 り痕。ヨコナデ 凸 平行四辺形格子中	厚 1.4／1.2	凹 黄灰色 凸 黄灰色	・白色微粒大量 ・黒褐色微粒微量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	
瓦6-41 — 1208	13-2T 7N78 地業内	平瓦	凹 布目中。側板圧痕幅 1.8cm。糸切り痕。薄く 自然釉付着 凸 繩の条痕らしき窪み あり。一部自然釉付着。 回転ヨコナデ	厚 1.7	凹 暗灰色 凸 暗灰色	・白濁微粒大量 ・小礫微粒	
瓦7-42 PL. 26-9 1205	13-2T 7N78 地業内	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 平行四辺形格子中。 糸切り痕	厚 1.8／1.3 狭端径 23.3	凹 炭素吸着 凸 炭素吸着	・白色微粒少量 ・均質 ・精選	
瓦7-43 — 1201	13-2T 7N78 地業内	平瓦	凹 布目中 凸 平行四辺形格子中。 僅かに糸切り痕。ヨコナ デ	厚 1.8	凹 にぶい黄橙色 凸 灰白色	・白色微粒微量 ・黒褐色微粒多量	
瓦7-44 — 1207	13-2T 7N78 地業内	平瓦	凹 布目中、縦糸に疎密 あり。糸切り痕 凸 長方形格子中。糸切 り痕	厚 1.3	凹 暗灰色 凸 暗灰色	・灰雜物少量 ・白色微粒少量 ・黒褐色微粒少量 ・均質 ・素地粒 粗	
瓦7-45 — 1209	13-2T 7N28 地業内	平瓦	凹 僅かに布目中。ヨコ ナデ。糸切り痕 凸 糸切り痕	厚 1.6／1.5	凹 黑褐色 凸 灰色	・白色微粒大量 ・均質	
瓦7-46 — 1215	13-2T 7N68 地業内	平瓦	凹 僅かに布目中。回転 ヨコナデ 凸 長方形格子中。タテ ナデ。微かに糸切り痕。 側面際指頭押圧による凹 み	厚 1.4／1.2	凹 炭素吸着 凸 炭素吸着	・白色微粒多量 ・素地粒 密 ・均質	
瓦8-47 PL. 26-10 1210	13-2T 7N68 地業内	平瓦	凹 布目中。布綴目か。 側面際分割突起結節痕か 凸 別の瓦を立てかけた 痕。糸切り痕	厚 1.6／1.2	凹 灰黄色 凸 灰白色	・黒褐色微粒多量 ・白色微粒少量 ・均質 ・精選	
瓦8-48 — 1220	13-2T 7N79	軒丸瓦 判別不 能	瓦当面 界線1本。周縁円周ナデ 瓦当裏 布目あり 絞り有無不 明。弁区が薄くなる二段 か 凹 布目中 凸 タテナデ	丸瓦厚 2.3	瓦当面 橙色 瓦当裏 灰黃褐色 凹 にぶい黄橙色 凸 灰黃褐色	・白濁微粒多量 ・素地粒 粗 ・灰白色粘土マーブ ル状	・周縁幅 2.4cm ・周縁肩は小さく丸い
瓦8-49 — 1212	13-2T 7N68 地業内	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 微かに平行条目細。 ヨコナデ→タテナデ。別 の瓦が接した痕跡	厚 1.7／1.2	凹 暗灰色 凸 暗灰色	・白色微粒多量 ・黒褐色微粒少量 ・素地粒 粗 ・均質	
瓦8-50 — 1213	13-2T 7N68 地業内	平瓦	凹 ごく僅かに布目中。 ヨコナデ 凸 その他格子。格子内 に珠点あり。微かに糸切 り痕	厚 1.7／1.3	凹 暗灰色 凸 暗灰色	・白色微粒大量 ・黒褐色微粒多量	

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦8-51 — 1189	13-2S1T 7N68	平瓦	凹 僅かに布目中。ヨコナデ。糸切り痕。自然釉付着 凸 平行四辺形格子中。糸切り痕。自然釉付着	厚 1.4	凹 灰色 凸 灰色	・白色微粒多量 ・均質 ・素地粒 粗	
瓦8-52 — 1190	13-2S1T 7N67	丸瓦	凹 布目中。糸切り痕。 布筒綴じ合わせ目 凸 ヨコナデ	厚 1.8／1.7	凹 にぶい橙色 凸 にぶい橙色	・白濁微粒大量	・粘土巻合せ S
瓦9-53 — 1191	13-2S1T 7N67	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 微かに縄目中、一方向タテ密着、縄長。ヨコナデ→タテナデ	厚 2.1／1.6	凹 灰白色 凸 灰白色	・白濁微粒大量	
瓦9-54 — 1243	13-3T 8N53	平瓦	凹 布目中。側面中位まで布目 凸 縄目密、一方向タテ密着、縄長	厚 2.2／2.0	凹 灰色 凸 灰色	・黒褐色微粒少量 ・灰白色粘土粒 ・均質 ・精選	・一枚作り技法
瓦9-55 — 1228	13-3T 8N52	軒丸瓦 B101	瓦当面 二重垂弁。長い子葉あり。界線1本。膨らみのない先細りの花弁。 瓦当裏 無絞り布目	瓦当中央厚 2.0 瓦当面端際厚 2.4 丸瓦厚 2.0／1.7	瓦当面 黒褐色 瓦当裏 灰色 凹 灰色 凸 灰褐色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗	・周縁幅 0.8～1.2cm ・瓦当面直径 17.0cm ・界線直径 13.4cm ・瓦当頂部面取り ・丸瓦との接合部に円周のスキ間あり ・笠懸山際窓
瓦9-56 — 1236	13-3T 8N53	丸瓦	凹 布目中 凸 素文。タテナデ	厚 1.4／1.0	凹 黄灰色 凸 黄灰色	夾雜物多量 ・白濁微粒大量 ・均質 ・同じ粘土層状	
瓦9-57 — 1229	13-3T 8N53	軒丸瓦 B201	瓦当面 先端内側が反る二重花弁。子葉あり。界線1本。范枠の一部が周縁に。周縁不定方向ケズリ、ナデ 瓦当裏 布目なし。ナデ 凸 タテナデ	瓦当厚 2.1 丸瓦厚 3.4	瓦当面 灰色 瓦当裏 黑褐色 凸 灰色 凹 黑褐色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	・周縁幅 1.8～1.9cm ・笠懸鹿ノ川窓
瓦9-58 — 1242	13-3T 8N54	平瓦	凹 布目中。糸切り痕。 側面面取り部にも布目 凸 縄目密、一方向タテ密着、縄長	厚 2.4／2.2	凹 にぶい黄橙色 凸 灰黄褐色	・黒褐色微粒少量 ・均質 ・精選	・一枚作り技法
瓦9-59 — 1231	13-3T 8N53	軒平瓦 NH3系	瓦当面 三重廓 額 ヨコナデ。側面際は額を削って段を作らるが中央寄りは緩やかな三角額(バチ状に開く) 凹 微かに布目中。ナデ 方向不明 凸 タテケズリ	瓦当高 4.1	瓦当面 灰白色 凹 灰白色 凸 にぶい黄橙色	・白濁微粒少量 ・黒褐色微粒少量 ・素地粒 粗 ・均質	
瓦9-60 — 1237	13-3T 8N54	平瓦	凹 布目中 凸 ナナメナデ	厚 1.8／1.5	凹 にぶい橙色 凸 褐灰色	夾雜物大量 ・白濁微粒大量 ・パイ皮状	凹 ヘラ書き型「真」
瓦10-61 — 1234	13-3T 8N53	丸瓦	凹 布目密。一部先の細いヘラ状工具でタテ、ナナメになれる 凸 素文。石ハゼ。ヨコナデ→タテナデ	厚 2.5／1.9	凹 灰色 凸 黄灰色	夾雜物大量 ・白濁微粒大量・細粒多量 ・同じ粘土層状	・粘土巻合せ S
瓦10-62 — 1240	13-3T 8N54	軒平瓦 P004	瓦当面 右偏行唐草。界線2本。 周縁ナデ 凹 布目中。瓦当上面ヨコナデ 凸 額付根付近ヨコナデ。額付根に工具先の当たり痕か 額 ミガキのようなケズリ 稜のある段額	瓦当高 4.5 平瓦厚 2.1	瓦当面 灰黄褐色 凹 にぶい黄褐色 凸 褐灰色	・白濁微粒多量 ・素地粒 粗	・藤岡金山2号窓
瓦10-63 — 1245	13-3T 8N53	平瓦	凹 布目中。側板圧痕幅2.5cm。糸切り痕 凸 微かに縄目中縄長タテ密着。回転ヨコナデ	厚 1.0／0.8	凹 灰色 凸 灰色	・白濁微粒多量 ・均質 ・精選	・薄い瓦
瓦10-64 — 1257	13-3T 8N54	丸瓦	凹 僅かに布目中。タテナデ 凸 タテケズリ→タテナデ	厚 3.5／3.4	凹 褐灰色 凸 灰黄橙色	・白色微粒大量 ・黒褐色微粒少量 ・素地粒 粗	・極めて厚い瓦 ・No.66と同一個体か

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦10-65 — 1248	13-3T 8N64	平瓦	凹 莫蘿目 凸 ヨコナデ	厚 2.3	凹 灰白色 凸 にぶい黄橙色 側面及び側面際凹凸 面炭素吸着	・白濁微粒少量 ・黒褐色微粒少量 ・赤褐色微粒少量 ・灰白粘土マーブル 状	・観音山小塚窯
瓦10-66 — 1258	13-3T 8N54	丸瓦	凹 布目中 凸 タテケズリ→タテナ デ	厚 3.0	凹 黄灰色 凸 褐灰色	・白色微粒大量 ・黒褐色微粒多量	・極めて厚い瓦 ・No.64と同一個体か
瓦10-67 — 1254	13-3 T8N54 表土	軒丸瓦 E103	瓦当面 蟹爪状蓮華文八葉。 界線1本。中房圓線1本、 蓮子1+4 瓦当裏 ヨコナデ	瓦当厚 2.4／1.9	瓦当面 褐灰色 瓦当裏 褐灰色	・白濁微粒多量 ・均質	・周縁幅 0.4cm ・瓦当直径 18.0cm ・界線直径 12.4cm ・弁区と中房の中心が盛り上 る ・A-3技法 ・瓦当表・裏に自然釉と灰付 着
瓦11-68 — 1260	13-3W1T 8N54	軒平瓦 新 u002	瓦当面 二重鋸歯文 段頭	瓦当高 4.6	瓦当面 褐灰色 凸面 褐灰色	・赤褐色微粒多量 ・灰白粘土縞状 ・素地粒 粗	・顎部貼付け ・顎赤色塗彩 ・額面は内側に傾斜 ・范と瓦当面の曲率が合わな い ・顎面及び平瓦との付根付近 を強い指頭圧 ・尼寺昭和。住コレ
瓦11-69 — 1264	13-3W1T 8N55	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 直交軸の入る平行条 目太。ナメ叩きは全面 に施され重複も認められ る。叩きの向きは長軸方 向ごとに異なり交差する 方向。	厚 2.0／1.7	凹 褐灰色 凸 褐灰色	灰雜物多量 ・白濁微粒大量 ・片岩あり ・灰黃褐色マーブル 状	・多胡郡正倉跡に類似叩きあ り
瓦11-70 — 1267	13-3W1T 8N55	丸瓦	凹 布目中。端部から3 cm付近横方向に布の綴じ 合わせ目 凸 ヨコナデ	厚 1.3	凹 にぶい橙色 凸 にぶい黄橙色	夾雜物多量 ・白濁微粒大量 ・片岩あり	
瓦11-71 — 1268	13-3W1T 8N55	平瓦	凹 布目中 糸切り痕 凸 微かに縄目中、一方 向タテ密着、縄長。回転 ヨコナデ	厚 1.8／1.7	凹 灰白色 凸 黄灰色	・白濁微粒多量 ・均質	
瓦11-72 — 0450	8-1NT 7M70	軒平瓦 P001	瓦当面 右偏行唐草。界線1本。 外区珠文あり。右隅珠文 キズ 凹 僅かに布目中。タテ 凸 ナデにより僅かに縄 目中。額及び際をヨコナ デ。一部煤付着 三角形頭	瓦当高 4.1	瓦当面 灰褐色 凹 灰黃褐色 凸 褐灰色	・白色微粒まぶした よう ・素地粒 密	・平瓦凸面赤色塗彩 ・笠懸鹿ノ川窯 ・台之原廃寺跡。有馬廃寺 跡。寺井廃寺跡。源六堰遺 跡。中間地域などから出土 (この項目は以下では省略)
瓦11-73 — 0457	8-1NT 7M40	丸瓦	凹 布目中 凸 ナメナデ	厚 1.9／1.8	凹 炭素吸着 凸 炭素吸着	・白濁微粒多量・細 粒多量 ・赤褐色微粒多量・ 細粒少量	凸 ヘラ書き型「織維」
瓦11-74 — 0474	8-1NT 7M50	平瓦	凹 僅かに布目中。ヨコ ナデ 凸 ひし形格子中。糸切 り痕	厚 1.5／1.4	凹 褐灰色 凸 褐灰色	・白色微粒多量 ・均質 ・素地粒 密	・粘土巻合せ S
瓦12-75 PL. 26-11 0489	8-1NT 7M40	平瓦	凹 布目中。側板压痕幅 2.6cm 凸 微かに縄長痕跡。回 転ヨコナデ	厚 1.7／1.6	凹 炭素吸着 凸 炭素吸着	・白濁微粒・細粒多 量 ・片岩あり	・隅切り瓦 ・隅切りは焼成前にティネイ な調整
瓦12-76 — 0597	8-1NT 7M55 地業内	有段式 丸瓦	凹 布目中。布袋引上げ 紐の溝か 凸 回転ヨコナデ	丸瓦厚 1.5 丸瓦狭端径 15.1 玉縁長 8.8	凹 褐灰色 凸 灰白色	・白色微粒少量 ・精選	・C1a
瓦12-77 — 0622	8-1NT 7M50 地業内	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 正方形格子中。糸切 り痕	厚 1.6／1.1	凹 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色	・白色微粒多量 ・黒褐色微粒多量 ・素地粒 密	
瓦13-78 PL. 27-12 0601	8-1NT 7M40 地業内	有段式 丸瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 回転ヨコナデ	丸瓦厚 2.7／1.4 丸瓦長 31.2 丸瓦狭端径 16.2 玉縁長 7.6	凹 にぶい黄褐色 凸 灰黃褐色	・白色微粒まぶした よう ・黒褐色微粒多量	・C1a ・粘土巻合せ S
瓦13-79 — 0603	8-1NT 7M70 地業内	軒平瓦 P001	瓦当面 右偏行唐草。界線1本。 外区珠文あり。細かい石 目地 小さく緩い段頭 頭 ヨコナデ	瓦当高 4.1	瓦当面 にぶい橙色 凸 にぶい橙色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗	・左下隅の珠文、范で押され た痕跡あるが、周縁に向けて 傷ありか ・笠懸鹿ノ川窯

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦13-80 PL. 27-13 0618	8-1NT 7M60 地業内	平瓦	凹 僅かに布目中。ヨコ ナデ 凸 縄目粗、一方向ナナ メ、縄短	厚 2.2／1.5 長 37.1	凹 黄灰色 凸 灰色	・白色微粒まぶした よう ・層状	・広端から7.0cmの幅で水平 に弱い炭素吸着がみられる
瓦14-81 — 0617	8-1NT 7M40 地業内	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 素文	厚 1.9／0.9 長 38.5	凹 暗灰色 凸 暗灰色	・白濁微粒大量 ・黒褐色細粒多量 ・灰白色粘土マープ ル状	・粘土巻合せ Z
瓦14-82 — 0629	8-1NT 7M55 地業内	有段式 丸瓦	凹 布目中。側面際粘土 を折り返してナデつける 凸 テイネイなタテケズ リ(磨きのよう)	厚 1.7／1.4	凹 暗灰色 凸 暗灰色	・白色微粒まぶした よう ・均質 ・素地粒 密	・玉縁部欠失 ・玉縁分類不明
瓦14-83 — 0619	8-1NT 7M60 地業内	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 平行四辺形格子中。 糸切り痕	厚 1.7／1.3 狭端径 25.0	凹 灰黄褐色 凸 暗灰色	・白色微粒大量	
瓦15-84 — 0452	8-1NT 7M59 表土	軒平瓦 新カ	瓦当面 右偏行唐草。界線2本 凹 布目中 狭い段頸	瓦当高 4.5	瓦当面 にぶい黄橙 色 凹 灰黄褐色 凸 暗灰色	・白濁微粒大量・細 粒少量 ・灰白色粘土混ざる ・パイ皮状	・支葉と主葉が組みどちらも 界線から生じる。 ・左上隅の主葉の巻く向きが 左方向 ・頸部を貼り付け ・頸面僅かに赤色塗彩
瓦15-85 — 0472	8-1NT 7M59 表土	丸瓦	凹 莫蘆目 凸 ヨコナデ	厚 1.8／1.7	凹 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色	・白濁微粒多量 ・素地粒 粗	・観音山小塚窯
瓦15-86 — 0470	8-1T 7M30 表土	丸瓦	凹 回転ヨコナデ 凸 回転ヨコナデ	厚 1.8／1.5	凹 黄灰色 凸 黄灰色	・白濁微粒多量 ・灰白色粘土マープ ル状	・泥条盤築技法 ・端部際は凹凸面とも肥厚 し、明瞭な回転ナデ
瓦15-87 — 0501	8-2T 7M26	丸瓦	凹 布目中 凸 タテナデ	厚 2.0／1.7	凹 灰色 凸 灰色	・白濁微粒多量 ・マーブル状	凹 ヘラ書き型「石」
瓦15-88 — 0478	8-2T 7M26	丸瓦	凹 布目中 凸 タテナデ	厚 1.5／1.3	凹 灰白色 凸 灰白色	・白濁微粒少量 ・黒褐色微粒・細粒 少量 ・素地粒 粗	・破面b凹面から
瓦15-89 — 0491	8-2T 7M26	丸瓦	凹 布目中 凸 ヨコナデ	厚 2.2／1.6	凹 灰色 凸 灰色	夾雜物大量 ・白濁微粒大量 ・均質 ・パイ皮状	凸 ヘラ書き型不明文字
瓦15-90 — 0490	8-2NT 7M26	丸瓦	凹 布目中。微かに糸切 り痕 凸 ナナメナデ	厚 2.3／1.9	凹 暗灰色 凸 暗灰色	・白濁微粒大量 ・1.4cm繩 ・パイ皮状	・粘土巻合せ S 凸 ヘラ書き型「人」 凸 刻印型「多」
瓦16-91 — 0484	8-2T 7M26	丸瓦	凹 布目なし。ヨコナ デ。指圧痕か窪みあり。 粘土紐接合痕 凸 タテナデ。広端際約 2.0cmヨコケズリ	厚 2.0／1.5	凹 灰黄褐色 凸 灰黄褐色	・白濁微粒多量 ・赤褐色微粒・細粒 少量	・泥条盤築技法 ・隅切り瓦
瓦16-92 PL. 27-14 0502	8-2T 7M26	平瓦	凹 布目中 凸 タテナデ	厚 2.7／1.8	凹 灰色 凸 灰色	夾雜物大量 ・白濁微粒大量・1.2 cm繩あり ・黒褐色細粒少量 ・灰白色粘土粒あり	凸 ヘラ書き型「甘」カ
瓦16-93 — 0505	8-2T 7M36	平瓦	凹 布目なし。ティネイ なタテナデ。微かに糸切 り痕 凸 縄目中、一方向タテ 平行、縄長か	厚 1.9	凹 炭素吸着 凸 炭素吸着	・白色微粒まぶした よう	凹 ヘラ書き型「三」
瓦16-94 PL. 27-15 0497	8-2T 7M36	軒丸瓦 A101	瓦当面 二重花弁四葉。子葉あ り。中房圓線1本、蓮子 1+4 瓦当裏 無絞り布目。突帯あり	瓦当厚 1.5	瓦当面 灰色 瓦当裏 灰色 凹 灰色 凸 灰色	・白濁微粒多量 ・灰白色粘土マープ ル状 ・瓦当面にも灰白色 粘土縞状	・外側花弁の根元は隣りの花 弁と共に ・周縁は下部が少し歪む ・範傷なし ・瓦当面径 14.8～16.0cm ・界線径 12.7cm ・突帯高 1.4cm ・瓦当裏と丸瓦接合部の間に 布目あり
瓦17-95 — 0542	8-2T 7M36	軒平瓦 P307	頭 ヨコナデ 三角形頸 凹 布目中 凸 タテナデ	—	凹 暗灰色 凸 暗灰色	・白濁微粒多量・細 粒少量 ・黒褐色細粒少量 ・灰白色粘土縞状	

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦17-96 — 0507	8-2T 7M26	平瓦	凹 微かに布目中。ヨコナデ 凸 ひし形格子中。ナデ 方向不明。微かに糸切り 痕	厚 1.4／1.2	凹 黄灰色 凸 灰色	・白色微粒多量 ・均質 ・素地粒 密	凸 格子一体型「渕」(左文 字) ・十三宝塚 ・僧寺跡出土なし
瓦17-97 — 0537	8-2T 7M67	軒平瓦 Z003類	瓦当面 界線なし。周縁なし 凹 布目中	瓦当高 2.0 平瓦厚 1.6／1.5	凹 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色	・白濁微粒多量 ・素地粒 粗	・瓦当面にボタン状粘土の貼 り付けか
瓦17-98 — 0541	8-2T 7M36	軒平瓦 P001	瓦当面 右偏行唐草。界線1本。 外区珠文あり。 瓦当裏 ヨコナデ 三角形頸 凹 テイネイなヨコナデ	瓦当高 4.2	瓦当面 灰色 凹 灰色 凸 灰色	・白色微粒多量 ・精選 ・素地粒 密	・顎の終わりから平瓦にかけ て赤色塗彩 ・笠懸鹿ノ川窓
瓦17-99 — 0508	8-2T 7M36	丸瓦	凹 莫蘿目 凸 タテナデ	厚 1.4	凹 灰黄褐色 凸 にぶい黄橙色	・白濁微粒多量 ・黒褐色微粒少量 ・素地粒 粗	・観音山小塚窓
瓦17-100 PL. 28-16 0540	8-2T 7M36	軒平瓦 P002	瓦当面 右偏行唐草。界線1本 下外区珠文あり。 凹 ヨコナデ 頸 ヨコナデ 三角形頸	瓦当高 4.6	瓦当面 灰色 凹 灰色 凸 灰色	・白色微粒まぶした よう ・素地粒 粗	・下外区の珠文は極小 ・左から3葉目、下界線との 間にキズか ・笠懸山際窓
瓦17-101 — 0635	8-2T 7M46 地業内	平瓦	凹 布目中。側板圧痕幅 3.0cm。糸切り痕 凸 微かに縄目。回転ヨ コナデ	厚 1.9／1.3 狭端径 18.3	凹 炭素吸着 凸 炭素吸着	・白濁微粒大量	・粘土巻合せ S
瓦18-102 — 0512	8-3NT 7M53	丸瓦	凹 布目中。所々に強い ヨビナデ 凸 微かにタテ方向縄長 痕。タテナデ	厚 3.0／2.2	凹 灰色 凸 灰色	・白濁微粒・細粒大 量	・複数の粘土板を貼り合せた か
瓦18-103 — 0518	8-3NT 7M53	平瓦	凹 布目中 凸 長方形格子中。タテ ナデ	厚 1.5／1.1	凹 灰色 凸 灰色	・白色微粒多量 ・灰白色粘土マープ ル状 ・素地粒 粗	凸 格子一体型「菌(田)」 ・笠懸山際窓
瓦18-104 — 0519	8-3NT 7M52	平瓦	凹 布目中。僅かに糸切 り痕 凸 長方形格子中	厚 1.8／1.7	凹 灰黄褐色 凸 にぶい黄橙色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗	凸 格子一体型「雀」A類(左 文字) ・笠懸山際窓
瓦18-105 — 0516	8-3NT 7M52 8-3NT 7M53	平瓦	凹 布目中。糸切り痕二 方向 凸 タテナデ(ヘラか)	厚 2.4／2.0 長 39.0	凹 炭素吸着 凸 灰白色	夾雜物殆どなし ・黒褐色微粒微量 ・均質	
瓦18-106 — 0522	8-3NT 7M53	平瓦	凹 僅かに粘土紐貼合せ 痕。ヨコナデ 凸 微かに平行条目太。 ヨコナデ	厚 1.7／1.4	凹 暗灰色 凸 灰色	・白濁微粒大量 ・灰白色粘土縞状	・泥条盤築技法 凸 ヘラ書き型不明文字
瓦19-107 PL. 28-17 0515	8-3NT 7M52	平瓦	凹 布目中。側板圧痕部 分的に幅2.6cm。糸切り 痕 凸 ヨコナデ→縄目中、 一方向タテ密着、縄長	厚 2.1／1.4 長 36.3	凹 灰白色 凸 灰白色	・白濁微粒多量 ・黒褐色微粒少量 ・均質 ・素地粒 密	・粘土巻合せ S ・糸切りの支点途中で移った か
瓦19-108 — 0532	8-3NT 7M53	丸瓦	凹 布目密。糸切り痕。 タテナデ 凸 タテナデ	厚 2.1／1.4 長 34.5	凹 暗灰黄色 凸 暗灰黄色	夾雜物大量 ・白濁微粒大量 ・灰白色粘土マープ ル状	凹 ヘラ書き型「九」カ
瓦19-109 — 0523	8-3NT 7M52	丸瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 ヨコナデ	厚 2.4／2.0 長 35.5	凹 灰黄色 凸 黄灰色	夾雜物多量 ・白濁細粒多量 ・灰白色粘土縞状 ・バイ皮状	凸 ヘラ書き型記号 ・中間地域(4)・(5)。住コレ
瓦20-110 PL. 28-18 0517	8-3N 7M52	平瓦	凹 布目中。微かに糸切 り痕。ヨコナデ 凸 ひし形格子中	厚 2.3／1.7	凹 橙色 凸 にぶい橙色	・白色微粒多量 ・赤褐色小穂微量 ・素地粒 粗 ・均質	凸 刻印型「佐」H類 ・笠懸山際窓
瓦20-111 PL. 28-19 0543	8-3NT 7M53	丸瓦	凹 布目中 凸 平行条目太、一方向 ヨコ	厚 1.8／1.7	凹 暗灰色 凸 にぶい黄橙色	・白濁微粒多量 ・マーブル状 ・側面縞状	
瓦20-112 — 0533	8-3NT 7M53	平瓦	凹 布目中。側板圧痕幅 2.0cm 凸 全面に長方形格子中	厚 1.6／1.4	凹 黄灰色 凸 暗灰色	・黒褐色微粒・細粒 多量 ・均質	

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦20-113 PL. 28-20 0528	8-3NT 7M52	平瓦	凹 布目中。糸切り痕。 側板圧痕幅2.5cm 凸 繩目中、一方向タテ 平行、繩長。長軸方向約 1/2で方向が異なる。ヨ コナデ	厚 1.8／1.3 長 36.4	凹 灰白色 凸 灰白色。一部炭 素吸着	・白濁微粒多量 ・均質	凹 ヘラ書き型「十」
瓦21-114 — 0534	8-3NT 7M52	有段式 丸瓦	凹 布目中 凸 僅かに繩目密、繩 長。回転ヨコナデ	丸瓦厚 2.8／1.8 丸瓦長 29.7 丸瓦広端径 16.8	凹 灰色 凸 灰白色	・白濁微粒多量 ・一部バイ皮状 ・素地粒 密	・C2b
瓦21-115 PL. 29-21 0530	8-3NT 7M53	平瓦	凹 僅かに布目中。ヨコ ナデ 凸 ひし形格子中。糸切 り痕	厚 1.9／1.5	凹 灰色 凸 灰色	・白色微粒多量 ・黒褐色微粒少量 ・素地粒 粗	凸 格子一体型「渕」(左文 字) ・上植木廃寺跡。十三宝塚 ・僧寺跡出土なし ・笠懸山際窯
瓦21-116 — 0529	8-3NT 7M52	平瓦	凹 布目中。端部から1 cm程のところに横方向紐 状の凹み。不明瞭な板状 圧痕あり 凸 繩目中、一方向タテ 密着、繩長	厚 2.4／2.1	凹 黄灰色 凸 黄灰色	・黒褐色微粒少量 ・均質 ・精選	
瓦22-117 — 0553	8-3NT 7M52	平瓦	凹 回転ヨコナデ 凸 回転ヨコナデ	厚 1.8／1.5 長 35.5	凹 灰白色 凸 にぶい黄橙色	・白濁微粒・細粒多 量 ・灰白色粘土縞状及 び小塊(1cm)	・泥条盤築技法 ・狭端面外側丸味をもちティ ネイな回転ナデ ・広端面平滑
瓦22-118 — 0554	8-3NT 7M53	平瓦	凹 布目中。側板圧痕幅 2.5cm。糸切り痕 凸 僅かに繩目中、一方 向タテ密着、繩長。回転 ヨコナデ	厚 1.5／0.9	凹 灰白色 凸 灰白色	・白濁微粒微量 ・黒褐色微粒少量 ・精選 ・均質	
瓦22-119 — 0569	8-3NT 7M53	平瓦	凹 布目中 凸 長方形格子中。ヨコ ナデ	厚 2.3／1.1	凹 褐灰色 凸 炭素吸着	・白色微粒多量 ・素地粒 粗	凸 格子一体型「菌田」 ・菌と田の間が繋がる ・笠懸山際窯
瓦22-120 — 0573	8-3NT 7M53	平瓦	凹 布目中 凸 繩目中、一方向タテ 密着、繩長	厚 2.5／21.0	凹 灰色 凸 灰色	夾雜物少量 ・黒褐色微粒少量 ・精選 ・側面に灰白色粘土 縞状	・一枚作り技法 ・凹面側部際に布目痕
瓦23-121 PL. 29-22 0562	8-3NT 7M53	平瓦	凹 布目中 凸 繩目中、一方向タテ 密着、繩長。離れ砂	厚 2.5／2.1 長 38.5 狭端径 25.5	凹 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色	・黒褐色微粒多量 ・灰白色粘土粒あり	
瓦23-122 — 0567	8-3NT 7M53	丸瓦	凹 布目中。上幅0.8cm 縦方向の凹みあり 凸 回転ヨコナデ	厚 2.1／1.9 狭端径 13.8	凹 灰白色 凸 にぶい黄橙色	・赤褐色微粒少量 ・黒褐色微粒少量 ・白色粘土粒 ・素地粒 密 ・精選	
瓦23-123 — 0570	8-3NT 7M52	平瓦	凹 布目中。側板圧痕か 凸 素文。ヨコナデ	厚 1.7／1.4	凹 にぶい橙色 凸 浅黃橙色	・白濁微粒多量 ・赤褐色細粒微粒 ・灰白色粘土縞状 ・均質	凸 ヘラ書き型不明文字 ・粘土巻合せ Z
瓦24-124 — 0571	8-3NT 7M53	丸瓦	凹 布目中。微かに糸切 り痕。布継合せ布痕 凸 微かに繩目中、一方 向タテ、繩長。ヨコナデ	厚 2.1／1.1	凹 黄灰色 凸 黄灰色。一部に ぶい橙色	・白濁微粒大量 ・素地粒 粗	
瓦24-125 — 0578	8-3NT 7M52	平瓦	凹 布目中。僅かに糸切 り痕 凸 繩目密、一方向タテ 密着、繩長。離れ砂。右 下隅に板で押した痕跡	厚 2.2／1.9	凹 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色	・黒褐色微粒少量 ・灰白色粘土粒縞状 あり	
瓦24-126 — 0585	8-3NT 7M52	丸瓦	凹 布目中 凸 タテナデ	厚 1.7／1.6	凹 黄灰色 凸 黄灰色	・白濁微粒大量・細 粒多量 ・灰白色粘土と黒色 粘土が縞状	・隅切り瓦
瓦24-127 — 0589	8-3NT 7M52	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 繩目中、一方向タテ 密着、繩長。側部際指頭 圧痕	厚 2.1／1.9	凹 炭素吸着 凸 炭素吸着	・黒褐色微粒少量 ・均質 ・素地粒 粗	
瓦25-128 PL. 29-23 0572	8-3NT 7M53	丸瓦	凹 布目密。微かに糸切 り痕 凸 繩目密、一方向タテ 密着、繩長。ヨコナデ→ タテナデ	厚 2.2／1.7 長 41.6 広端径 19.0	凹 褐灰色 凸 褐灰色	・黒褐色微粒多量 ・灰白色粘土あり ・精選	

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦25-129 — 0583	8-3NT 7M52 8-3NT 7M53	丸瓦	凹 布目中。布袋引き上げ紐の凹みか 凸 回転ヨコナデ	厚 1.2／1.0	凹 黄灰色 凸 灰白色	・黒褐色微粒多量 ・均質 ・精選	・薄い瓦
瓦25-130 — 0594	8-3NT 7M53	平瓦	凹 布目中。側面際に巻き込むように布目痕あり 凸 繩目中、一方向タテ密着、繩長	厚 2.4／2.3	凹 にぶい橙色。端部際炭素吸着 凸 炭素吸着	・黒褐色微粒多量 ・灰白色粘土粒縞状	・一枚作り技法
瓦25-131 — 0592	8-3NT 7M53	平瓦	凹 布目なし。ユビ押えか。一部タテナデ 凸 繩目中、ナナメ重複ローラーか	厚 1.7／1.5	凹 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色	・白濁微粒多量 ・黒褐色微粒少量 ・灰白色粘土粒縞状	・泥条盤築技法
瓦26-132 — 0590	8-3NT 7M52	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 ヨコナデ→タテナデ。全面に自然釉付着	厚 2.2／1.7 長 40.5	凹 灰色 凸 灰色	・黒褐色微粒・細粒 多量 ・白濁小疊凹面に露出 ・均質	・縦方向大きく反る
瓦26-133 — 0662	3NT	丸瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 タテナデ。長軸方向に稜あり。タテケズリの痕跡か	厚 1.9／1.4	凹 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色	・白色微粒大量 ・黒褐色微粒多量	
瓦26-134 — 0557	8-3ST 7M43	平瓦	凹 回転ヨコナデ 凸 微かに平行条目太。テイネイな回転ヨコナデ	厚 1.7	凹 灰白色 凸 灰白色	・白濁微粒多量 ・赤褐色細粒少量	・泥条盤築技法 ・狭端外面側、丸味をもちテイネイな回転ナデ
瓦26-135 — 0525	8-3NT 7M52	丸瓦	凹 布目中 凸 ヨコナデ	厚 2.6／1.3	凹 灰黄褐色 凸 灰黄褐色	・白色微粒少量・0.5 ~1.0cm疊あり ・赤褐色微粒少量	凸 ヘラ書き型記号
瓦27-136 — 0593	8-3NT 7M53	丸瓦	凹 布目中 凸 ナナメナデ	厚 3.4／2.0	凹 灰黄褐色 凸 灰黄褐色	・白濁微粒多量 ・灰白色粘土粒縞状・ 小ブツロク ・パイ皮状	
瓦27-137 — 0596	8-3NT 7M53	平瓦	凹 布目中。側板圧痕僅かに痕跡か。布目のない 凹 囲みあり 凸 繩目中、一方向タテ密着、繩長	厚 2.1／1.6	凹 炭素吸着 凸 炭素吸着	・白濁微粒多量 ・黒褐色微粒多量	
瓦27-138 PL. 30-24 0591	8-3NT 7M52	平瓦	凹 布目中。側板圧痕幅 1.9~2.2cm 凸 微かに繩目中、一方 向タテ平行、繩長。回転 ヨコナデ	厚 1.9／1.1 狭端径 21.2	凹 灰色 凸 灰色	・白濁微粒大量・小 疊少量 ・灰白色粘土粒縞状	
瓦28-139 — 0531	8-3ST 7M43	平瓦	凹 布目中。側板圧痕幅 2.3cm 凸 僅かに繩目中、一方 向ナナメ密着、繩長。ヨ コナデ	厚 1.6／1.3	凹 褐灰色 凸 褐灰色	夾雜物大量 ・白濁微粒大量・細 粒多量	・凸面に窓体付着 ・凹面側面際に布綴じ目
瓦28-140 — 0650	8-3NT 7M54 地業内	平瓦	凹 僅かに布目中。ヨコ ナデ 凸 繩目中、一方向タ テ、繩長。糸切り痕	厚 1.7／1.5	凹 炭素吸着 凸 炭素吸着	・白色微粒大量 ・均質	
瓦28-141 PL. 30-25 0640	8-3ST 7M44 地業内	平瓦	凹 僅かに布目中。回転 ヨコナデ 凸 ひし形格子中。糸切 り痕	厚 1.7／1.5	凹 褐灰色 凸 褐灰色	・白色微粒大量・小 疊あり ・素地粒密 ・精選 ・均質	
瓦29-142 PL. 30-26 0651	8-3NT 7M54 地業内	平瓦	凹 僅かに布目中。微か に糸切り痕。タテナデ 凸 繩目中、繩長。糸切 り痕	厚 1.9／1.4 広端径 27.5	凹 褐灰色 凸 褐灰色	・白色微粒まぶした よう ・黒褐色微粒多量 ・均質	凹 ヘラ書き型「二」 ・粘土巻合せ S
瓦29-143 — 0654	8-3NT 7M55 地業内	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 平行四辺形格子中、 2段+3段+2段で3列。糸切 り痕	厚 1.6／1.4 長 39.7 広端径 28.3	凹 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色	・白色微粒大量 ・精選 ・素地粒密	
瓦30-144 PL. 30-27 0652	8-3NT 7M54 地業内	有段式 丸瓦	凹 布目中。巻合せ痕を タテナデで消したか 凸 微かに繩目、一方向 タテ、繩長か痕跡。回転 ヨコナデ	丸瓦厚 2.1／1.6 丸瓦狭端径 18.8 玉縁長 6.2	凹 褐灰色 凸 にぶい黄橙色	・白濁微粒大量 ・素地粒密	・C2a ・粘土巻合せ SZ不明 ・玉縁凸面粘土不足の凹み複 数あり
瓦30-145 — 0646	8-3ST 7M43 地業内	有段式 丸瓦	凹 布目中 凸 回転ヨコナデ	丸瓦厚 1.4 玉縁厚 1.9 玉縁長 8.0	凹 灰白色 凸 灰白色	・白色微粒多量	・Cla ・粘土巻合せ S

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦31-146 PL. 31-28 0655	8-3NT 7M55 地表内	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 正方形格子中、3段 +2列。糸切り痕	厚 2.3／1.5 長 42.0 狭端径 25.3	凹 黄灰色 凸 黄灰色	・白色微粒大量・8mm 大礫あり ・均質	
瓦32-147 — 1024	11-2T 8N20 表土	軒平瓦 P004カ	瓦当面 右偏行唐草。界線2本 凹 布目中。僅かに糸切 り痕 段頭	瓦当高 4.9	瓦当面 黄灰色 凹 黄灰色 凸 黄灰色	・白濁微粒大量 ・同じ粘土層状	・内区は周縁より0.6cm深い が文様は薄くはつきりしない ・頸近辺に赤色塗彩 ・藤岡金山2号窯
瓦32-148 — 1035	11-2T 9N14 表土	丸瓦	凹 布目なし。自然釉付 着 凸 ヨコナデ→タテナ デ。自然釉付着	厚 1.9／1.6	凹 黒褐色 凸 灰褐色	・白濁微粒大量	凸 ヘラ書き型記号 ・泥条盤築技法
瓦32-149 PL. 31-29 1026	11-2T 9N14 表土	平瓦	凹 僅かに布目中。タテ ナデ 凸 長方形格子中。僅か に糸切り痕。側部際掌押 圧痕。タテ、ヨコナデ 痕。他の瓦を立てかけた 痕跡か	厚 2.2／1.9	凹 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	凸 格子一体型「佐(仇)」 ・十三宝塚 ・僧跡出土なし ・笠懸山際窯
瓦32-150 PL. 31-30 1034	11-2T 9N14 表土	平瓦	凹 布目中。僅かに糸切 り痕。側板圧痕幅3.0cm 凸 縄目中、全面縄目 (ローラーか)	厚 3.1／2.6	凹 にぶい黄橙色 凸 にぶい橙色	・白濁微粒多量 ・黒褐色微粒多量	
瓦32-151 PL. 31-31 1044	11-2T 9N14 表土	平瓦	凹 布目中。糸切り痕。 側板圧痕幅2.0cm 凸 縄目中、一方向タテ 密着、縄長。回転ヨコナ デ	厚 2.3／1.9	凹 灰白色。部分的 炭素吸着 凸 灰白色。部分的 炭素吸着	・白濁微粒大量・1cm の礫あり ・片岩あり	・粘土巻合せ Z ・端面に重焼き痕
瓦33-152 — 1037	11-2T 9N14 表土	丸瓦	凹 布目中 凸 回転ヨコナデ。縦方 向に緩い稜が複数本	厚 1.7／1.3 長 35.5 広端径 17.5	凹 灰褐色 凸 鍋灰色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	・粘土巻合せ S ・布と粘土合せ目で分割
瓦33-153 — 0980	11-1WT 9N74	軒平瓦 P002	瓦当面 右偏行唐草。界線1本。 外区珠文あり。 凹 布目中。僅かに糸切 り痕。瓦当上面ヨコナ デ、平瓦部ナメナデ 凸 タテナデ 三角形頭	瓦当高 6.0 平瓦厚 2.2／2.0	瓦当面 黄灰色 凹 黄灰色 凸 暗灰色	・白色微粒まぶした よう ・素地粒 素	・外区の珠は極小 ・平瓦先端に赤色塗彩 ・範の上下端の圧痕 ・笠懸山際窯
瓦33-154 — 0992	11-1WT 9N73	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 糸切り痕途中で向き 変る。掌で押圧がみられ る	厚 1.4	凹 灰色 凸 灰色	・白色微粒多量 ・素地粒 密	
瓦34-155 — 1049	11-3T 9N74	丸瓦	凹 布目中。巻合せ痕タ テユビナデで消す 凸 素文。回転ヨコナデ	厚 1.6／1.3	凹 鍋灰色 凸 鍋灰色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	・粘土巻合せ Z ・破面d+凹面から ・粘土巻合せ目で割れ
瓦34-156 — 1055	11-3T 9N83	平瓦	凹 布目中 凸 微かに縄目中、一方 向タテ。タテナデ	厚 1.0／0.9	凹 灰白色 凸 鍋灰色	夾雜物大量 ・白濁微粒大量 ・素地粒 密	・薄い瓦
瓦34-157 — 0846	11-1ET 8N90	不明	凹 布目なし。タテナデ 凸 タテナデ	厚 4.3／3.8	凹 明褐灰色 凸 橙色	・白濁微粒大量 ・赤褐色細粒少量	
瓦34-158 — 0845	11-1ET 8N90	平瓦	凹 布目中。側板圧痕幅 2.3cm。自然釉付着 凸 タテナデ。僅かに糸 切り痕	厚 2.3／1.8	凹 灰色。自然釉付 着 凸 暗灰色。自然釉 付着	・白濁微粒多量 ・灰白色粘土竪状 ・素地粒 密	凹 ヘラ書き型「長」
瓦34-159 — 1381	11-1ET 8N90	丸瓦	凹 莓苔目 凸 タテナデ	厚 1.6／1.3	凹 橙色 凸 にぶい橙色	微粒の夾雜物多量 ・白濁微粒多量 ・素地粒 粗	・観音山小塚窯
瓦34-160 — 1385	11-1ET 8N80	有段式 丸瓦	凹 布目中 凸 ヨコナデ	丸瓦厚 2.0	凹 炭素吸着 凸 炭素吸着	・白色微粒大量 ・均質	・C1a ・凸面は丸瓦から玉縁まで連 続して均質に炭素吸着して いることから玉縁の肩が焼成前 にはずれていたと考えられる
瓦34-161 — 1383	11-1ET 8N90	平瓦	凹 僅かに布目中。ヨコ ナデ 凸 素文。糸切り痕	厚 2.2／2.0	凹 褐灰色 凸 褐灰色	・白色微粒まぶした よう ・均質	凸 刻印型か。陽刻「田」カ

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦34-162 PL. 31-32 1384	11-1ET 8N90	軒平瓦 Q001	瓦当面 周縁ナデ 左から1番目と2番目の飛 雲文 凹 布目なし。ヨコナデ 凸 タテケズリ。頭付近 ヨコナデ 三角形頭	瓦当高 4.8 平瓦厚 2.2	瓦当面 黄灰色 凹 黄灰色 凸 黄灰色	・白色微粒多量 ・素地粒 密 ・均質	・左側面際は頭形成用の粘土 を足している ・上植木廃寺跡(この項目は 以下では省略) ・笠懸または間野谷窯
瓦34-163 — 0958	11-1WT 9N71	軒丸瓦 A101	瓦当面 二重花弁。界線1本。自 然釉付着 瓦当裏 無絞り布目。丸瓦取り付 け部円周ナデ	瓦当厚 1.3	瓦当面 暗灰色 瓦当裏 灰色	夾雜物大量 ・白濁微粒大量 ・同じ粘土層状	・花弁を貫く范キズ
瓦35-164 — 0957	11-1WT 9N74	軒丸瓦 E103	瓦当面 蟹爪状蓮華文八葉。界線 1本。蓮子1+4か。自然釉 付着 瓦当裏 ケズリ。突帶なし 凸 差し込み溝あり 瓦当側面 ナデ	瓦当厚 3.5／3.2	瓦当面 暗灰色 瓦当裏 灰色	・白濁微粒大量 ・均質 ・緻密	・直径8mmの大きい蓮子 ・下半の肩は側面向て斜 めに下る ・瓦当側面は瓦当が裏に向つ て開く
瓦35-165 — 0982	11-1WT 9N74	平瓦	凹 布目中。微かに側板 圧痕幅2.3cm 凸 微かに繩長。回転ヨ コナデ	厚 1.6／1.3	凹 灰色 凸 灰色	・白濁微粒多量 ・片岩 ・均質	・隅切り瓦
瓦35-166 — 0962	11-1WT 9N74	有段式 丸瓦	凹 布目中。糸切り痕。 粘土合せ目 凸 回転ヨコナデ。窓体 付着。自然釉付着	丸瓦 1.8／1.5 玉縁長 6.7	凹 灰色 凸 灰色	夾雜物大量 ・白濁微粒多量 ・緻密	・C2a ・粘土巻合せ S 凸 粘土縫目が複数か所あり 粘土板を摸骨捕に巻くとき、 ところどころ切れた痕跡か
瓦35-167 — 0971	11-1WT 9N74	平瓦	凹 微かに布目あり。タ テナデ 凸 繩目中、一方向タテ 密着、綱單か。端部寄り を掌で押圧	厚 1.1／0.7	凹 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色	・白色微粒多量 ・黒褐色微粒少量 ・均質 ・精選	・薄い瓦
瓦35-168 — 0981	11-1WT 9N74	平瓦	凹 僅かに布目中。ヨコ ナデ→タテナデ。微かに 糸切り痕 凸 繩目中、一方向タ テ、繩長	厚 1.6／1.5	凹 炭素吸着 凸 炭素吸着	・白色微粒大量 ・均質 ・精選	凹 ヘラ書き型「≡」
瓦36-169 — 0974	11-1WT 9N74	平瓦	凹 僅かに布目中。タテ ナデ。微かに糸切り痕 凸 長方形格子中。糸切 り痕	厚 1.8／1.6	凹 暗灰色 凸 灰黃褐色	・白色微粒多量 ・赤褐色微粒少量 ・素地粒 密 ・均質 ・精選	・粘土巻合せ S
瓦36-170 — 0979	11-1WT 9N74	平瓦	凹 布目中。横方向に布 の寄り数条。側板圧痕幅 2.2cm。広端際U字形構状 凹みあり 凸 微かに繩目中、繩長。 回転ヨコナデ	厚 1.3／1.2	凹 黄灰色 凸 灰白色。一部炭 素吸着	・白濁微粒多量 ・灰白粘土粒あり ・疊凹凸面に露出 ・均質	
瓦36-171 PL31-33 0964	11-1WT 9N74	平瓦	凹 側板圧痕幅2.8cm。 糸切り痕。広端際ヨコ方 向U字状構 凸 微かに繩目密、一方 向タテ密着、繩長。回転 ヨコナデ	厚 1.7／1.5 広端径 28.0	凹 灰色 凸 にぶい黄橙色	・白濁微粒大量	・粘土巻合せ Z
瓦37-172 — 0945	11-1ET 8N80 地業内	丸瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 素文。回転ヨコナデ	厚 2.4／2.0	凹 にぶい橙色 凸 にぶい黄橙色	・白色微粒多量 ・赤褐色微粒少量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	
瓦37-173 — 0942	11-1ET 8N80 地業内	平瓦	凹 布目中。側板圧痕 2.8cm 凸 微かに繩目密、一方 向タテ。ヨコナデ	厚 2.1／1.7	凹 灰黄色 凸 灰黄色	・白濁微粒微量 ・黒褐色微粒微量 ・灰白色粘土粒ロッ ク ・凹凸側面マーブル 状 ・均質 ・精選	
瓦37-174 — 0946	11-1ET 8N80 地業内	丸瓦	凹 布目中。糸切り痕。 粘土巻合痕 凸 素文。ヨコナデ→ナ ナメナデ	厚 1.7／1.5	凹 灰白色 凸 黄灰色	・黒褐色微粒少量 ・白濁微粒細粒少量 ・白色微粒少量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	

図版番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦37-175 — 0998	11-1WT 9N73 地業内	平瓦	凹 布目中。側板圧痕幅 2.0cm。糸切り痕 凸 備かに縄目中、一方 向タテ、縄長。回転ヨコ ナデ	厚 1.9／1.6	凹 灰黄褐色 凸 灰黄褐色	・白濁微粒大量 ・素地粒 粗	
瓦37-176 — 1052	11-3T 9N73 地業内	平瓦	凹 布目中。側板圧痕幅 2.0cm。糸切り痕	厚 2.6／2.4	凹 炭素吸着 凸 炭素吸着	・白濁微粒多量 ・バイ皮状	
瓦37-177 — 1054	11-3T 9N73 地業内	平瓦	凹 布目中 凸 微かに縄目中、一方 向タテ密着、縄長。タテ ナデ	厚 2.0	凹 暗褐色 凸 暗褐色	・白濁微粒多量 ・黒褐色微粒少量 ・灰白色粘土マーブ ル状	
瓦38-178 — 1062	11-4T 9N63	軒丸瓦 M002	瓦当面 鳥趾状蓮華文七葉。界線 なし。中房圓線なし、蓮 子1個。弁間に珠文 瓦当裏 ヨコナデ。側面際ヘラ。 突帯なし	瓦当厚 1.9／1.6	瓦当面 にぶい黄橙 色 瓦当裏 灰白色	夾雜物少量 ・黒褐色微粒微量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	・瓦当面中央が厚く周縁に 向って薄くなる ・秋間窓
瓦38-179 — 1077	11-4T 9N63	平瓦	凹 布目なし。ヨコナデ 凸 平行四辺形格子中	厚 1.9	凹 灰黄色 凸 明赤褐色	・白色微粒大量 ・赤褐色微粒少量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	凸 格子一体型「佐位」C類 (左文字) ・笠懸山際窓
瓦38-180 — 1073	11-4T 9N52	軒丸瓦 新 b211	瓦当面 先端が細い二重花弁。子 葉なし。弁先端が界線に 付く。界線1本 瓦当裏 無絞り布目。突帯なし	瓦当厚 1.5	瓦当面 橙色 瓦当裏 にぶい橙色	・白濁微粒多量 ・灰白粘土縞状	・周縁幅 0.5～0.8cm ・周縁肩は丸味をもって外に 開く ・尼寺昭和。中間地域(4)。 隣接地域A地点
瓦38-181 — 1078	11-4T 9N63	平瓦	凹 布目中。糸切り痕。 自然釉付着 凸 自然釉付着	厚 1.9	凹 灰色 凸 灰色	・白濁微粒多量・細 粒・小礫微粒 ・素地粒 密 ・均質	
瓦38-182 — 1079	11-4T 9N63	軒丸瓦 M002	瓦当面 鳥趾状蓮華文七葉。界線 なし。中房圓線なし、蓮 子1個。弁間に珠文 瓦当裏 突帯なし。丸瓦接合面あり。 ヨコナデ端は円周方 向ナデ 瓦当側面 ヨコナデ	瓦当中央厚 1.8 瓦当周縁厚 1.4	瓦当面 黄灰色 瓦当裏 灰黄色	・黒褐色微粒多量 ・灰白色粘土縞状 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	・瓦当面直径 14.0cm ・瓦当面中央が厚く周縁に 向って薄くなる ・蓮子の1つが弁先に付く ・秋間窓
瓦38-183 PL31-34 1080	11-5T 9N93 表土	軒丸瓦 D001カ	瓦当面 中房、蓮子不明。界線な し 瓦当裏 無絞り布目。突帯あり	瓦当面央厚 1.5 瓦当径 13.8	瓦当面 にぶい黄橙 色 瓦当裏 浅黄橙色	夾雜物大量 ・白濁微粒大量 ・灰白粘土マーブル 状 ・バイ皮状	・突帶高 1.5cm ・突帶幅 0.9～1.1cm ・周縁幅 6～9mm ・周縁僅かな高まり1mm ・瓦当面肩は角張り突帶側に 向けて開く
瓦38-184 — 1081	11-5T 9M93 表土	軒丸瓦 B2系	瓦当面 先端盛り上る二重花弁五 葉か。子葉あり。界線1 本。中房圓線1本、蓮子 1+5か。周縁円周ナデ 瓦当裏 無絞り布目。突帯なし 瓦当側面 弱い段をつくりながら円 周ケズリ	瓦当面中房厚 1.5	瓦当面 にぶい黄橙 色 瓦当裏 にぶい黄橙 色	・白色微粒大量 ・同じ粘土層状 ・均質 ・精選 ・瓦当面細い石目地 ・素地粒 粗	・瓦当裏下端、丸瓦接合部粘 土を足して円周ナデ ・弁が中位であまり膨らまな いのでB203か ・弁の割付から五葉、蓮子の 割付から1+5と推定
瓦39-185 PL. 32-35 1393	11-1ET 8N50 表土	軒丸瓦 J001	瓦当面 複弁六葉。T字の間弁。 蓮子なし 瓦当裏 ナデ	瓦当面中房厚 1.4	瓦当面 黄灰色 瓦当裏 黄灰色	・白濁微粒多量 ・バイ皮状	・中房直径 3.3cm ・牛田庵寺跡。多胡郡正倉跡 (牛田庵寺跡が先行)
瓦39-186 PL. 32-36 1394	11-1ET 8N60 表土	軒丸瓦 A004	瓦当面 細長い三角形に子葉のあ る花弁四葉、子葉のない 三角形の間弁、間弁の先 に弧状の弁間文。 界線2本。中房圓線2本、 中央に直径1.2cmの蓮子1 個。周縁平坦、ナデ 瓦当裏 ナデ	瓦当中房厚 1.3	瓦当面 灰色 瓦当裏 灰色	・白濁微粒少量 ・均質 ・緻密	・周縁幅 0.7cm ・A技法 ・わずかに灰白色粘土縞状 ・秋間窓東谷津支群

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦39-187 — 1195	13-2S2T 7N59	軒丸瓦 M002	瓦当面 剥離。鳥趾状蓮華文七葉 弁間に珠文。周縁平坦で はない 瓦当裏 ヨコケズリ→ヨコナデ下 半の側面際部円周ナデ。 突帯なし。円周ナデ 瓦当側面 円周ナデ	瓦当厚 2.1	瓦当面 灰色 瓦当裏 灰白色	・黒褐色微粒少量 ・素地粒 粗	・周縁幅 0.8~10. cm ・周縁高 0.7cm ・瓦当面直径 14.5cm ・周縁と弁先の范傷は繋がつ ていない ・A-2技法
瓦39-188 — 1194	13-2S2T 7N39	丸瓦	凹 布目中。粘土合せ目 あり 凸 回転ヨコナデ	厚 1.3 / 1.0	凹 灰色 凸 灰色	夾雜物大量 ・白濁微粒大量	・粘土卷合せ S ・分割時の粘土を凹面に折返 す
瓦39-189 — 1198	13-2S2T 7N59	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 微かに縄目密、一方 向タテ密着、縄長。タテ ナデ	厚 1.5 / 1.1	凹 炭素吸着 凸 炭素吸着	・白濁微粒大量 ・灰白粘土マーブル 状 ・素地粒 密	・粘土卷合せ S
瓦39-190 — 1196	13-2S2T 7N49	丸瓦	凹 布目中 凸 回転ヨコナデ	厚 1.2 / 0.9	凹 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色	夾雜物少量 ・黒褐色微粒微量 ・精選 ・素地粒 粗 ・均質	・薄い瓦
瓦39-191 — 1192	13-2S2T 7N59	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 タテナデ。糸切り痕	厚 1.9 / 1.7	凹 黄灰色 凸 灰色 侧面 灰褐色粘土尾 を引く	・白濁微粒多量 ・黒褐色微粒少量 ・両面に小縫露出 ・同じ粘土層状	・粘土卷合せ Z ・隅切り瓦
瓦39-192 — 1199	13-2S2T 7N59	丸瓦	凹 布目中 凸 回転ヨコナデ	厚 1.7 / 1.4	凹 灰色 凸 灰白色	・白濁微粒多量 ・黒褐色微粒少量 ・素地粒 密	・粘土卷合せ Z ・粘土卷合せ目で割れ
瓦40-193 — 1273	14T 7N94	平瓦	凹 微かに布目中。ヨコ ナデ 凸 微かに糸切り痕	厚 1.1	凹 灰黄色 凸 にぶい黄橙色	・白色微粒多量 ・黒褐色微粒多量 ・均質	・薄い瓦
瓦40-194 — 1278	14T 7005	平瓦	凹 布目中。側板圧痕幅 2.5cm 凸 回転ヨコナデ	厚 2.1 / 1.3	凹 炭素吸着 凸 炭素吸着	・白濁微粒多量 ・黒褐色微粒多量 ・赤褐色微粒多量 ・均質	
瓦40-195 — 1280	14T 7005	平瓦	凹 布目中 凸 タテナデ	厚 1.8 / 1.4	凹 黄灰色 凸 黄灰色	・白濁微粒少量 ・黒褐色微粒微量 ・灰白色粘土マーブル状	
瓦40-196 — 1281	14T 7N94	平瓦	凹 布目なし。ヨコナデ 凸 ヨコナデ	厚 2.2	凹 黑褐色 凸 灰色	夾雜物大量 ・白濁微粒大量・細 粒多量 ・均質 ・同じ粘土層状	凸 ヘラ書き型「三」
瓦40-197 — 1287	14T 7005	平瓦	凹 布目中。微かに糸切 り痕。側板圧痕幅2.4cm 凸 縄目中、一方向タテ 平行、縄長	厚 2.1 / 1.6	凹 灰色 凸 鍔灰色	・白濁微粒・細粒多 量	
瓦40-198 — 1289	14T 7005	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 縄目中、一方向、タ テ密着、縄長	厚 2.3 / 2.0	凹 炭素吸着 凸 炭素吸着	・黒褐色微粒多量 ・赤褐色微粒多量 ・灰白色粘土縞状、 ・プロック ・均質 ・精選	
瓦40-199 — 1292	14T 7005	丸瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 素文。タテケズリ→ タテナデ	厚 2.3	凹 黄灰色 凸 灰色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	
瓦41-200 PL. 32-37 1279	14T 7005	軒平瓦 新 w002	瓦当面 異形唐草。手彫り。界線 を沈線で表す 頸幅が広くあまり高くな い段頸 凹 布目中 凸 縄目中、縄短。頸の 付根付近ヨコナデ付根部 分は頸側に窪む 頸 ヨコナデ	瓦当高 4.2 平瓦厚 1.8	瓦当面 灰黄褐色 凹 にぶい橙色 凸 炭素吸着	・白色微粒多量 ・赤褐色微粒多量 ・黒褐色微粒少量	・コレと同文様だが細部が 異なる

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦41-201 — 1282	14T 7005	軒丸瓦 M002	瓦当面 鳥趾状蓮華文七葉。界線なし。中房圈線なし、蓮子1個。弁間に珠文。周縁角は丸味 瓦当裏 タテナデ。丸瓦接合部は円周ナデ 凹 布目密 凸 タテナデ	瓦当厚 2.6／2.1 丸瓦厚 1.7／1.0	瓦当面 にぶい黄橙色 瓦当裏 灰色 凹 にぶい黄橙色 凸 灰色	・黒褐色微粒大量 ・灰白色粘土縞状 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	・周縁幅 1.0cm ・周縁高 0.7cm ・瓦当面中央が厚く周縁に向って薄くなる ・A-2技法
瓦41-202 — 1288	14T 7N84	平瓦	凹 布目なし。指頭押圧痕多 凸 ヨコナデ	厚 3.3／2.0	凹 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色	夾雜物大量 ・白濁微粒大量 ・片岩	・端部に帶状の粘土を芯にして両面から貼り付けている
瓦41-203 — 1286	14T 7N84	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 ひし形格子中。糸切り痕	厚 2.7／1.8 狭端径 24.3	凹 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	
瓦42-204 — 1283	14T 7N84	丸瓦	凹 布目中。糸切り痕。 粘土合せ目(一部ナデ消し)。横方向端部に平行に凹み 凸 ヨコナデ→タテナデ	厚 2.1／1.3 長 37.7 広端径 21.0	凹 浅黄橙色 凸 浅黄橙色 暗灰色粘土端面に尾を引く	・白濁微粒大量・細粒多量	
瓦42-205 PL_32-38 1285	14T 7N84	平瓦	凹 僅かに布目中。ヨコナデ→タテナデ 凸 ひし形格子中。タテナデ	厚 2.0	凹 灰黄褐色 凸 褐灰色～にぶい褐色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	凸 格子一体型「佐位」C類(左文字) ・笠懸山際窓
瓦42-206 — 1295	14T 7N86 表土	軒丸瓦 B201	瓦当面 先端内側が反る二重花弁。子葉あり。界線1本。中房圈線1本、蓮子1+5。細い石地目。 瓦当裏 布目中。突帶なし 瓦当側面 丸瓦部はタテケズリ、下半は円周ナデ	厚 3.3／2.2	瓦当面 黄灰色 瓦当裏 褐灰色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	・周縁幅 0.7～1.1cm ・瓦当面直径 15cm ・界線直径 12.8cm ・中房直径 4cm ・瓦当の厚みは丸瓦寄りが厚く、下方に向って薄くなる ・笠懸鹿ノ川窓
瓦42-207 — 1296	14T 7N86 表土	軒平瓦 新カ	瓦当面 左偏行唐草。界線上は1本、右は2本 段頸	—	瓦当面 灰色 凹 灰色 凸 灰色	・白濁微粒多量 ・黒褐色微粒多量 ・灰白色粘土縞状 ・素地粒 粗	・P101に似ているが右端双葉状支葉が上下各2枚計4枚あるので異なる
瓦43-208 — 1318	15-1T 7N23	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 ひし形格子中。格子目内に木理明瞭	厚 1.8／1.6	凹 灰色 凸 灰色	・白色微粒多量 ・均質 ・精選	・凹面に格子目痕あり、その後に布目痕がつく
瓦43-209 — 1321	15-1T 7N23	丸瓦	凹 布目中 凸 タテケズリ	厚 1.8／1.3	凹 暗灰黄色 凸 灰黄色	・白色微粒大量 ・にぶい橙色粘土縞状 ・均質	・粘土巻合せ S ・凹凸面の一部に灰付着 ・隅切り瓦
瓦43-210 PL_32-39 1320	15-1T 7N23	平瓦	凹 布目中。微かに糸切り痕 凸 微かに縄目中、一方向タテ密着、縄長。タテナデ	厚 1.9／1.3 長 40.7	凹 灰白色 凸 灰白色	・白濁微粒大量 ・素地粒 密 ・片岩 ・均質	・粘土巻合せ S
瓦43-211 — 1326	15-1T 7N23	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 正方形格子中。微かに糸切り痕	厚 1.8／1.6	凹 灰黄褐色 凸 褐灰色	・黒褐色微粒多量 ・白濁微粒少量 ・素地粒 粗 ・均質	
瓦43-212 — 1323	15-1T 7N23	平瓦	凹 布目中 凸 微かに糸切り痕	厚 1.5／1.3	凹 暗灰黄色 凸 黄褐色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	凸 格子一体型「雀」A類(左文字) ・笠懸山際窓
瓦44-213 PL_32-40 1328	15-1T 7N23	平瓦	凹 布目中 凸 ヨコナデ→タテナデ	厚 2.3／1.9	凹 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色	・白濁微粒多量 ・灰白色粘土縞状	凹 ヘラ書き型「淨長」カ
瓦44-214 — 1338	15-1T 7N23 地業内	平瓦	凹 布目なし。タテナデ 凸 タテケズリ	厚 2.0	凹 にぶい橙色 凸 褐灰色	・白濁微粒多量 ・灰白色粘土粒	
瓦44-215 — 1340	15-1T 7N23 地業内	有段式 丸瓦	凹 布目中 凸 回転ヨコナデ→一部タテナデ。火摺状痕あり	丸瓦厚 1.8／1.6	凹 灰色 凸 灰色	・白色微粒大量 ・素地粒 密 ・均質 ・精選	・C2a ・玉縁と丸瓦で分割線を間違えたためか両者の側面が連続せず段違いとなっている
瓦44-216 — 1339	15-1T 7N23 地業内	平瓦	凹 布目なし。タテナデ 凸 ヨコナデ	厚 1.5／1.3	凹 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色	・白濁微粒多量	・断面円磨されているため明確ではないが凹面に横方向の凹凸があるので泥条盤築技法の可能性あり

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦44-217 — 1343	15-2 T7N27	平瓦	凹 布目中 凸 タテナデ	厚 1.5	凹 灰色 凸 灰色	夾雜物多量 ・白濁微粒多量 ・同じ粘土層状 ・素地粒 密	
瓦44-218 — 1345	15-2T 7N27	平瓦	凹 布目中 凸 繩目中、一方向タ テ。タテナデ	厚 1.9	凹 にぶい黄橙色 凸 暗灰色	・白濁微粒少量 ・黒褐色微粒微量	凸 ヘラ書き型不明文字
瓦44-219 — 1346	15-3T 7N52	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 タテナデ。糸切り 痕。広端隅に布目(ボ ジ)	厚 2.2／1.6 長 39.4	凹 灰白色。一部炭 素吸着 凸 灰白色。一部炭 素吸着 広端面 黒褐色粘土尾を引く ように	・白濁微粒大量 ・灰白色粘土マーブ ル状 ・パイ皮状	
瓦44-220 — 1348	15-3T 7N52	平瓦	凹 布目なし。回転ヨコ ナデ。凹凸を残す約1cm 単位のナデが明瞭 凸 ヨコナデ	厚 1.7／1.5	凹 灰色 凸 灰色	・白濁微粒大量 ・黒褐色微粒大量 ・均質 ・灰白色粘土僅かに 縞状	・泥条盤築技法 ・広端寄りで外側に反る
瓦45-221 PL. 32-41 1350	15-3T 7N53	平瓦	凹 布目中 凸 微かに繩目中、一方 向タテ密着、繩長。ヨコ ナデ→タテナデ	厚 2.1／1.7	凹 淡橙色。一部炭 素吸着 凸 炭素吸着	・白濁微粒大量 ・赤褐色微粒多量 ・灰白色粘土縞状 ・素地粒 密	
瓦45-222 PL. 33-42 1353	15-3T 7N53	平瓦	凹 布目中。側板圧痕幅 2.0cm。糸切り痕 凸 回転ヨコナデ。回転 ヨコナデの単位の段差明 瞭	厚 2.1／1.4	凹 灰白色 凸 灰白色 端面 灰白色粘土、黒褐色 粘土尾を引いたよう	・白濁微粒大量 ・黒褐色微粒多量 ・灰白色粘土、黒褐 色粘土マーブル状	・粘土巻合せ S
瓦45-223 — 1359	15-3T 7N53	丸瓦	凹 布目中。布袋引上げ 用紐の凹みか 凸 タテケズリ	厚 1.5／1.3	凹 黒褐色 凸 灰色	・白色微粒大量 ・均質 ・精選	・隅切り瓦カ ・狭端面キレイに仕上げず粘 土を表裏に折り返したまま
瓦45-224 — 1355	15-3T 7N53	平瓦	凹 僅かに布目中。ヨコ ナデ。 僅かに糸切り痕	厚 1.4／1.3	凹 灰黄色 凸 灰黄色	・白色微粒大量 ・均質 ・精選	・粘土巻合せ S 凸 格子一体型不明文字(隆 線2本に見える) ・隣落
瓦45-225 — 1365	15-3T 7N53	平瓦	凹 布目中。微かに糸切 り痕 凸 ひし形格子中	厚 1.7／1.6	凹 灰色 凸 暗灰色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	凸 格子一体型「佐位」C類 (左文字) ・笠懸山際窓
瓦46-226 PL. 33-43 1356	15-3T 7N53	軒丸瓦 B101	瓦当面 二重花弁。長い子葉あり。 界線1本。膨らみの ない先細りの花弁。周縁 ナデ 瓦当側面 円周ナデ 瓦当裏 無絞り布目、一部二重。 突帯あり	瓦当厚 1.3	瓦当面 黒褐色 瓦当裏 黒褐色	・白色微粒大量 ・均質 ・精選	・周縁幅 1.2～1.5cm ・瓦当面直径 17.0cm ・界線直径 12.6cm ・突帯幅 1.4～1.7cm ・突帯高 0.8～1.0cm ・周縁肩は直に曲がり下方向 に向って入る ・笠懸山際窓
瓦46-227 PL. 33-44 1357	15-3T 7N53	丸瓦	凹 布目中。粘土合せ 目。長方形の突起。布の 折り目か 凸 回転ヨコナデ	厚 1.4／0.9	凹 暗灰色 凸 暗灰色	・白色微粒まぶした よう ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	・粘土巻合せ S
瓦46-228 PL. 33-45 1358	15-3T 7N53	丸瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 微かに繩目痕。回転 ヨコナデ	厚 1.7／0.8	凹 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色	・白濁微粒大量・凸 面に疊露出 ・灰白色粘土縞状	・凹面に小さな粘土板を幾枚 か足した痕跡か
瓦47-229 PL. 33-46 1371	15-4T 7N57	丸瓦	凹 布目密。端部際に丸 い棒状痕 凸 一方向タテ密着、繩 長。ヨコナデ	厚 1.6／1.4 狭端径 12.3	凹 灰色 凸 灰色	・黒褐色微粒多量 ・灰白色粘土縞状、 粒状	・粘土巻合せ S
瓦47-230 — 1366	15T 7N56 地業内	平瓦	凹 僅かに布目中。ヨコ ナデ 凸 平行四辺形格子中	厚 2.2／1.9	凹 灰オリーブ色 凸 灰色	・白色微粒大量 ・均質 ・精選	
瓦47-231 — 1369	15T 7N56 地業内	丸瓦	凹 微かに布目。タテナ デ 凸 微かに繩目、タテ。 ヨコナデ	厚 1.8／1.7	凹 灰黃褐色 凸 にぶい黄橙色	・白濁微粒多量	
瓦47-232 — 1297	15T 7N36 表土	軒平瓦 NH301カ	瓦当面 三重廊 凹 布目中。糸切り痕 凸 瓦当面際(0.5cm)だ け面取り状にケズリ。顎 及び平瓦はタテ及びナメ にケズリ。側面際に指 頭圧痕	瓦当高 4.0 平瓦厚 2.6／2.2	瓦当面 灰白色 凹 灰白色 凸 灰白色。一部炭 素吸着	・白濁微粒少量 ・黒褐色微粒多量 ・素地粒 粗	・粘土巻合せ Z ・瓦当近くは上下に粘土を足 している可能性があるが、凹 面に側板圧痕らしき弱い稜線 があるため補巻作りと考えら れる

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦47-233 — 1299	15T 7N45 表土	軒平瓦 P002	瓦当面 右偏行唐草。界線1本。 外区珠文あり微少。周縁 範枠の当り痕あり 凹 布目なし 凸 糸切り痕明瞭なため 未調整に近い 瓦当上部 ヨコナデ 額 ヨコナデ、指頭圧痕 三角形額	平瓦厚 2.8/2.5	瓦当面 灰色 凹 灰色 凸 黄灰色	・白色微粒まぶした よう ・均質 ・精選	・瓦当面粘土別か ・笠懸山際窓
瓦47-234 — 1300-1	15T 7M96 表土	軒丸瓦 B104	瓦当面 先端の尖った一重花弁。 子葉あり。界線1本。中 房圓線1本、蓮子1+4か 瓦当裏 ナデ。指頭による溝みあ り。突帯なし 瓦当側面 円周方向ケズリ→ナデ	瓦当厚 2.0	瓦当面 灰白色 瓦当裏 灰白色	・白濁微粒大量 ・赤褐色微粒多量 ・均質 ・バイ皮状	・界線に沿って粘土緋ぎ目か ・丸瓦接合用粘土に丸瓦の布 目痕が転写 ・A-3技法
瓦48-235 — 1302	15T 7N36 表土	有段式 丸瓦	凹 布目中 凸 回転ヨコナデ→タテ ナデ	丸瓦厚 2.4/1.9 玉縁長 8.0	凹 灰黄褐色 凸 灰黄褐色	・白色微粒多量 ・素地粒 密 ・均質 ・精選	・C1a ・玉縁と丸瓦を連続しない別 の粘土で成形か
瓦48-236 — 1317	15T 7N26 表土	丸瓦	凹 布目中。微かに糸切 り痕 凸 タテナデ	厚 2.9/2.2	凹 灰黄褐色 凸 褐灰色	夾雜物大量 ・白濁微粒大量 ・灰白色粘土マーク ル状	凸 ヘラ書き型「上」
瓦48-237 PL. 33-47 1310	15T 7N06 表土	平瓦	凹 布目中。糸切り痕。 布綴じ目 凸 繩目密、一方向タテ 密着、繩長	厚 2.3/2.2 狭端径 27.4	凹 にぶい黄橙色 凸 褐灰色	・黒褐色微粒大量 ・細粒少量 ・灰白色粘土粒 ・素地粒 粗	
瓦48-238 PL. 33-48 1311	15T 7N26 表土	丸瓦	凹 布目中。微かに糸切 り痕。全面自然釉付着 凸 タテケズリ。全面自 然釉付着	厚 1.7/1.4 長 30.8 広端径 18.2 狭端径 14.0	凹 灰黄褐色 凸 にぶい黄橙色	・黒褐色微粒多量 ・白濁微粒少量	・頂部が低く、長さも短い ・特殊な用途か
瓦49-239 — 0036	3T 8P14	軒丸瓦 E202	瓦当面 陰刻花弁。中房圓線な し、蓮子中央に1個直径 1.4cm 瓦当裏 無絞り布目	瓦当厚 2.0/1.2	瓦当面 灰白色 瓦当裏 褐灰色	・白濁微粒多量 ・灰白色粘土縞状 ・素地粒 粗	・灰付着
瓦49-240 — 0037	3T 8P14	丸瓦	凹 布目中 凸 タテナデ	厚 1.1/0.7	凹 褐灰色 凸 褐灰色	・白色微粒大量 ・割れ口 粗	・粘土紐桶巻き作り ・破面b凹から
瓦49-241 — 0045	3T 8P14 廃棄坑	軒丸瓦 C002カ	瓦当面 花弁は陰刻。界線不明。 周縁円周ナデ 瓦当裏 無絞り布目。突帯あり	瓦当厚 1.0/0.8	瓦当面 黄灰色 断面 黄灰色 瓦当裏 黄灰色	・白濁微粒多量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	・周縁幅 1.2~1.5cm ・周縁高 1.0cm ・突帯幅 1.0~1.5cm ・突帯高 0.4~0.9cm
瓦49-242 — 0044	3T 8P15 廃棄坑	丸瓦	凹 布目密 凸 平行条目太、一方向 ナメ、密着	厚 2.1	凹 黄灰色 凸 黄灰色	夾雜物大量 ・白濁微粒多量 ・白色微粒多量	
瓦49-243 PL. 34-49 0054	3T 8P16	平瓦	凹 布目中。僅かに糸切 り痕 凸 僅かに糸切り痕	厚 1.6	凹 にぶい橙色 凸 にぶい橙色	・白色微粒大量 ・赤褐色微粒・細粒 多量	凸 刻印型「法輪」 ・山王庵寺跡
瓦49-244 — 0100	3T 8P21	軒平瓦 NH3系	瓦当面 三重廓 額 ヨコナデ 凹 タテケズリ→ヨコナ デ	瓦当高 3.6	瓦当面 灰白色 凹 灰白色 凸 灰白色	・白色微粒微量 ・黒褐色微粒微量 ・白濁細粒微量	・頸部粘土貼付け明瞭
瓦49-245 — 0066	3T 8P13	丸瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 ヨコナデ	厚 1.3/1.0	凹 黄灰色 凸 灰黄色	・白色微粒まぶした よう	・破面d-凹面から
瓦49-246 — 0065	3T 8P13	平瓦	凹 僅かに布目中。タテ ナデ 凸 糸切り痕あり	厚 1.7/1.4	凹 黄灰色 凸 黄灰色	・白色微粒大量 ・均質	
瓦50-247 — 0072	3T 8P24	平瓦	凹 布目中。側板圧痕か 凸 平行条目か。ナデ	厚 1.5/0.6	凹 暗灰黄色 凸 黑褐色	・白濁微粒多量 ・黒褐色微粒少量 ・素地粒 粗 ・均質	・全体的に薄作り
瓦50-248 — 0073	3T 8P24	平瓦	凹 布目中 凸 平行条目、ナナメ→ ナデ	厚 1.5/1.2	凹 浅黄色 凸 黄灰色	・黒褐色微粒多量 ・褐色細粒微量 ・灰白粘土粒あり ・素地粒 粗	
瓦50-249 PL. 34-50 0077	3T 8P24	有段式 丸瓦	凹 布目中 凸 僅かに縦目中、一方 向タテ。回転ヨコナデ	丸瓦厚 2.4/0.8 丸瓦狭端径 14.8 玉縁径 11.5 玉縁長 6.2	凹 黄灰色 凸 黄灰色	・白濁微粒・細粒多 量 ・黒色微粒・細粒多 量	・C2b ・凸面自然釉

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦50-250 — 0085	3T 8P24	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 繩長密。糸切り痕。 離れ砂	厚 2.0／1.7	凹 灰黄色 凸 灰黄色	・黒褐色微粒多量	
瓦51-251 — 0086	3T 8P24	軒丸瓦 M002	瓦当面 鳥趾状蓮華文七葉。中房 圓線なし、蓮子1個。弁 間に珠文 瓦当側面 ナデ 瓦当裏 ナデ。突帶なし	瓦当厚 1.9／1.6	瓦当面 炭素吸着 瓦当裏 炭素吸着	・黑色微粒大量 ・白色微粒微量 ・素地粒 粗	・瓦当面中央が厚く周縁に 向って薄くなる ・秋間窯
瓦51-252 — 0088	3T 8P24	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 長方形格子中。糸切 り痕	厚 2.0／1.5	凹 にぶい褐色 凸 灰褐色	・白色微粒まぶした よう	・粘土巻合せ Z
瓦51-253 — 0089	3T 8P24	平瓦	凹 布目中 凸 平行条目細、一方向 ヨコ	厚 1.3／0.9	凹 灰黄色 凸 灰白色	・黑色微粒・細粒多 量 ・白濁細粒少量 ・素地粒 粗	
瓦51-254 — 0093	3T 8P24	平瓦	凹 布目中 凸 ヨコナデ	厚 2.4／2.2	凹 橙色 凸 にぶい橙色	・白色細粒多量 ・赤褐色細粒・小礫少 量 ・灰白色粘土縞状に 入る	凸 刻印型「山田」 ・笠懸山際窯
瓦51-255 PL. 34-51 0094	3T 8P24	軒平瓦 P002	瓦当面 右偏行唐草。界線1本。 凸 ヨコナデ	瓦当幅 4.4	凹 灰白色 凸 褐灰色	・白色微粒大量	・顎赤色塗彩 ・笠懸山際窯
瓦51-256 — 0104	3T 8P25	丸瓦	凹 布目中 凸 微かに平行条目。ナ ナメナデ	厚 2.6／1.9	凹 炭素吸着 凸 炭素吸着	・白濁微粒大量 ・赤褐色微粒・細粒 多量	凸 ヘラ書き型不明文字 ・粘土巻合せ S
瓦51-257 — 0110	3T 8P26	丸瓦	凹 糸切り痕 凸 タテケズリ	厚 1.6	凹 黄灰色 凸 灰黄色	夾雜物大量 ・白濁微粒多量 ・白色微粒・細粒多 量・礫あり	・粘土巻合せ Z
瓦51-258 — 0099	3T 8P21	軒丸瓦 判別不 能	瓦当面 二重花弁。子葉あり。珠 文あり。界線1本 瓦当裏 布目なし	瓦当厚 1.5	瓦当面 灰色 瓦当裏 暗灰色	・白色微粒・細粒多 量 ・層状	・周縁幅 5mm程度 ・瓦当裏に溝があるが丸瓦は はまっていないA技法 ・珠文に見えるものは、珠文 ではなく彫れ
瓦52-259 — 0120	3T 8P85	平瓦	凹 微かに布目。糸切り 痕。ヨコナデ 凸 繩目中、繩單か。糸 切り痕	厚 1.5／1.2	凹 褐灰色 凸 にぶい黄橙色	・白色微粒まぶした よう ・赤褐色微粒多量 ・5~10mm礫あり ・素地粒 粗	凹 ヘラ書き型「三」
瓦52-260 — 0144	3T 8P71	平瓦	凹 布目中。布目一部二 重か	厚 1.7／1.4	凹 灰黄色 凸 黄灰色	夾雜物大量 ・白濁微粒多量・細 粒少量・礫あり	
瓦52-261 — 0122	3T 8P85	丸瓦	凹 布目中。粘土紐接合 痕数条あり 凸 タテナデ	厚 1.4	凹 灰色 凸 灰色	・白色微粒まぶした よう ・素地粒 粗	・紐作りか
瓦52-262 — 0157	3T 8P71	丸瓦	凹 布目中 凸 ヨコナデ	厚 0.6	凹 褐灰色 凸 褐灰色	・白色微粒微量 ・素地粒 密	・粘土巻合せ S ・破面b凹面から ・全体に薄作り
瓦52-263 — 0123	3T 8P85	丸瓦	凹 布目中	厚 1.4	凹 灰色 凸 灰色	・白色微粒まぶした よう	・粘土巻合せ Z ・隅切り瓦
瓦52-264 — 0141	3T 8P85	平瓦	凹 僅かに布目中。タテ ナデ 凸 ひし形格子中	厚 3.3／2.5	凹 にぶい黄橙色 凸 灰黃褐色	・白色微粒まぶした よう	
瓦52-265 PL. 34-52 0139	3T 8P74	軒平瓦 新 u002	瓦当面 二重鋸歯文	瓦当幅 7.0 額幅 2.3	瓦当面 灰黄色 瓦当裏 灰黄色	・白色微粒微量 ・黒褐色細粒少量 ・素地粒 粗	・尼寺昭和。住コレ
瓦53-266 — 0142	3T 8P23	平瓦	凹 ヨコナデ	厚 2.1／1.9	凹 灰白色 凸 灰白色	夾雜物大量 ・白濁微粒多量 ・素地粒 粗	・泥条盤築技法
瓦53-267 — 0155	3T 8P71	丸瓦	凹 布目中。粘土紐接合 痕明瞭 凸 ヨコナデ	厚 1.9／1.4	凹 明褐灰色 凸 明褐灰色	・白色微粒少量 ・黒褐色微粒少量 ・赤褐色微粒微量	凸 ヘラ書き型不明文字 ・紐作り
瓦53-268 PL. 34-53 0143	3T 8P71	丸瓦	凹 布目中 凸 ローラーか	厚 1.5	凹 褐灰色 凸 にぶい黄橙色	夾雜物少量 ・黒褐色微粒・細粒 少量 ・素地粒 粗	・紐作り

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦53-269 — 0161	3T 8P75	平瓦	凹 僅かに布目中。タテナデ	厚 2.7／2.2	凹 黄灰色 凸 黄灰色	夾雜物大量 ・白濁微粒・細粒多量・小礫・礫少量 ・表面にも白濁小礫大量に露出	
瓦53-270 — 0146	3T 8P71	平瓦	凹 布目密。タテナデ。 側板圧痕幅3.2～2.9cm 凸 繩目密、一方向タテ 密着、繩長細	厚 2.2	凹 灰色 凸 灰色	・黑色微粒多量 ・灰白色粘土粒状に入る	
瓦53-271 — 0163	3T 8P75	平瓦	凹 僅かに布目。ヨコナ デ 凸 繩目中、一方向ナナ メ、繩長。糸切り痕	厚 1.8	凹 にぶい橙色 凸 にぶい橙色	・白色微粒多量 ・黒褐色細粒少量 ・均質 ・素地粒 粗	
瓦53-272 PL. 34-54 0147	3T 8P71	軒丸瓦 A106	瓦当面 二重花弁四葉。子葉な し。界線1本。中房圓線1 本、蓮子1+4 瓦当裏 無絞り布目。突帶不明	瓦当厚 3.2	瓦当面 灰色 瓦当裏 灰色	・白色微粒多量 ・黒褐色微粒少量	・中房直径 4.0cm ・周縁幅 1.0cm ・周縁肩は明瞭だが側面は外 に広がる ・瓦当部は複数の粘土を重ね て製作か
瓦54-273 — 0150	3T 8P71	軒丸瓦 新	瓦当面 二重花弁。弁数不明。子 葉なし。中房、蓮子不 明。界線1本 瓦当裏 無絞り布目。突帶あり	瓦当厚 2.0／1.6	瓦当面 橙色 瓦当裏 橙色	・白濁微粒・細粒少 量・0.5～1.2cm礫あり ・灰白色粘土筋状に入 る	・弁が角張る ・弁の左際に範傷 ・周縁幅 1.2～2.5cmで一定 してない ・周縁肩はなだらか ・A106に似ているが外側の弁 が角張る ・突帶内側に木型から取りは ずした後にズレの膨らみか ・突帶高 2.7cm
瓦54-274 — 0167	3T 8P75	軒丸瓦 判別不 能	瓦当面 二重花弁。子葉あり押し つぶされている。中房圓 線1本、蓮子1個 瓦当裏 中央が高く、周囲が低 い。布目中	瓦当厚 1.4	瓦当面 灰黄色 瓦当裏 灰黄色	・白色微粒大量 ・黒褐色微粒多量	
瓦54-275 — 0186	3T 8Q06	平瓦	凹 僅かに布目中。ヨコ ナデ。 凸 その他格子	厚 1.8	凹 暗灰色 凸 灰黃褐色	・白色微粒まぶした よう	凸「田」ではなく格子の一 部か
瓦54-276 — 0164	3T 8P75	平瓦	凹 布目中 凸 タテナデ	厚 1.5	凹 黄灰色 凸 灰白色	・黒褐色微粒多量・ 細粒微量	・粘土巻合せ SZ不明
瓦54-277 PL. 34-55 0165	3T 8P75	軒丸瓦 B203カ	瓦当面 二重花弁。中房圓線1 本。子葉あり。界線1本 瓦当裏 無絞り布目。突帶あり	瓦当厚 1.7	瓦当面 灰色 瓦当裏 灰色	・白色微粒多量 ・均質な粘土が薄い 層状	・周縁幅 1.5cmケズリ ・周縁肩直角 ・ごく低い高さの突帶2～3mm
瓦54-278 — 0183	3T 8P86	平瓦	凹 僅かに糸切り痕 凸 ナデ。糸切り痕	厚 2.6／2.0	凹 にぶい黄橙色 凸 炭素吸着	・白濁細粒少量 ・黒色微粒少量 ・層状	凸 刻印型「口に當」 凸 ヘラ書き型「万呂」 ・粘土巻合せ SZ不明
瓦54-279 — 0176	3T 8Q06	平瓦	凹 所々タテに強いナデ (側板圧痕を消したか) 凸 ヨコナデ(幅8.0cmの 板小口でナデ)	厚 1.6／1.2	凹 黄灰色 凸 黄灰色	・白濁微粒微量 ・1cm礫あり ・均質 ・素地粒 粗	
瓦54-280 — 0177	3T 8Q06	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 平行四辺形格子中。 タテナデ。僅かに糸切り 痕	厚 1.6／1.0	凹 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色 (鉄分沈着か)	・白色微粒多量 ・素地粒 粗	
瓦55-281 — 0712	3T 7P79 表土	平瓦	凹 布目中。糸切り痕。 粘土貼合せ目あり 凸 長方形格子中。糸切 り痕	厚 2.3／1.6	凹 灰黃褐色 凸 灰黃褐色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗	・粘土貼り合せか 凸 格子一体型「雀」A類(左 文字) ・笠懸山際窓
瓦55-282 — 0710	3T 7P35	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 繩目中、一方向タテ 密着、繩長	厚 3.3／2.1	凹 灰黄色 凸 灰黄色	・白濁微粒・細粒微 量 ・暗灰色粘土縞状 ・素地粒 密	
瓦55-283 PL. 34-56 0175	3T 8P86	平瓦	凹 ヨコナデ→タテナデ 凸 タテナデ 凹凸 粘土紐接合痕あり	厚 1.4	凹 黄灰色 凸 黄灰色	夾雜物少量 ・白濁微粒微量 ・白色微粒微量 ・径1.5cm礫あり ・素地粒 粗	・泥条盤築技法
瓦55-284 — 0218	3T 8P24	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 繩目密、一方向タテ 密着、繩長。離れ砂。二 次的煤付着	厚 2.3／2.1	凹 にぶい黄橙色 凸 鶴灰色	・黒褐色微粒少量 ・灰白色粘土縞状 ・精選	

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦55-285 — 0709	3T 7P35	平瓦	凹 ヨコナデ→タテナデ 凸 ヨコナデ→タテナデ	厚 2.0	凹 灰黄褐色 凸 暗灰色	・白濁微粒大量 ・黒褐色微粒少量 ・素地粒 粗	・泥条盤築技法 ・粘土巻合せ SZ不明
瓦56-286 — 0235	4T 9P21	平瓦	凹 布目中 凸 不揃いな平行条目太 (棒端部あり)	厚 1.9／1.5	凹 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色	・白色微粒多量 ・赤褐色微粒・細粒 少量 ・均質 ・素地粒 粗	
瓦56-287 — 0237	4T 9P62	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 タテナデ	厚 2.3／1.8	凹 灰黄色 凸 黄灰色	・白濁微粒・細粒少 量・穢あり ・黒褐色穢(7mm大)あ り ・マーブル状	凹 へラ書き型(針書き)不明 文字
瓦56-288 — 0244	4T 8P19	平瓦	凹 布目中。タテナデ タテナデで布目を消す 凸 タテナデ	厚 2.3／1.6	凹 黄灰色 凸 黄灰色	夾雜物多量 ・白濁微量、細粒大 量 ・白色微粒多量 ・マーブル状	・側面、端面に黒色粘土尾を 引く
瓦56-289 — 0251	4T 8P19	軒丸瓦 B20系	瓦当面 子葉のある二重蓮弁。界 線1本。中房圈線1本、蓮 子あり 瓦当裏 無絞り布目中、一部布目 が粗い。突帯なし	瓦当厚 1.2cm	瓦当面 灰黄色 瓦当面 灰黄色	・白色微粒大量 ・層状 ・素地粒 粗	・花弁の先端が界線のつく
瓦56-290 PL. 34-57 0253	4T 9P42	軒丸瓦 M002	瓦当面 鳥趾状蓮華文七葉。中房 圈線なし、蓮子1個。弁 間に珠文 瓦当裏 ヨコナデ。丸瓦付根円周 ナデ。	瓦当厚 2.1／1.8	瓦当面 灰白色 瓦当裏 灰白色	・黒褐色微粒大量 ・灰白色粘土粒 ・素地粒 粗	・瓦当直径 14.5cm ・弁先から周縁まで範傷あり ・蓮子の1つが弁先に付く ・瓦当面中央が厚く周縁に 向って薄くなる ・A-2技法 ・秋間窓
瓦56-291 PL. 34-58 0711	3T 7P67 表土	軒平瓦 NH301	瓦当面 三重廓 凹 頸から平瓦にかけて タテケズリ。瓦当上面ヨ コナデ 三角形頸	瓦当高 3.4 平瓦厚 2.5／1.9	凹 灰黄褐色 凸 灰色。一部自然 釉付着	夾雜物大量 ・白濁微粒大量・細 粒多量・穢あり	
瓦57-292 PL. 35-59 0744	9ST 7Q26	軒丸瓦 新 a006	瓦当面 先端が丸味のある花弁四 葉。子葉あり。界線1本 中房圈線1本、蓮子1個 瓦当裏 無絞り布目。突帯不明	瓦当厚 1.9	瓦当面 灰色 瓦当裏 灰色	・白濁微粒多量 ・灰白粘土穢状	・蓮子直径 0.8cm ・中房直径 1.6cm ・界線直径 9.3cm ・沈線直径 11.4cm ・界線は平坦、幅0.6～1.1cm ・界線の外側に沈線が廻る ・瓦当裏面に小さな段差あり ・花弁の1つは弁先が界線と 一体 ・弁先に範傷のあるものがあ る ・A105と似るが異なる ・No.37と同範
瓦57-293 — 0750	9ST 7Q26	丸瓦	凹 布目中。粘土の合せ 目痕をユビナデで消す 凸 繩目中、一方向位タ テ密着。綱長。ヨコナデ	厚 1.9／1.8	凹 灰白色 凸 灰白色	・白濁微粒大量 ・黒褐色微粒少量	
瓦57-294 — 0749	9ST 7Q26	平瓦	凹 微かに布目。ヨコナ デ→タテナデ 凸 繩目中、二方向X字 状、綱長→木理のある板 叩き→タテナデ	厚 1.6／1.4	凹 炭素吸着。一部 剥落 凸 炭素吸着	・白色微粒まぶした よう ・素地粒 粗	
瓦57-295 — 0762	9ST 7Q27	軒平瓦 P001	瓦当面 右偏行唐草。界線1本。 外区珠文あり。 凹 ヨコナデ→タテナ デ。瓦当上面はヨコナデ 凸 僅かに綱目ナナメ。 タテケズリ。頸から5.0 cm幅のヨコナデ 頸 ヨコナデ	瓦当高 4.1 平瓦厚 1.4	凹 黄灰色 凸 黄灰色	・白色微粒多量 ・黒褐色微粒多量 ・精選 ・均質	・笠懸鹿ノ川窓
瓦57-296 — 0759	9ST 7Q36	平瓦	凹 布目密 凸 繩目中、一方向密 着、T字状綱長。側面際 タテ方向に手で押圧	厚 2.4／1.8	凹 暗灰色 凸 暗灰色	・黒褐色微粒大量 ・灰白色粘土粒	・凹側側面際に粘土折り返し

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦57-297 — 0768	9ST 7Q27	丸瓦	凹 布目中。焼成目に何かで引掛けたような凹みが2個並ぶ。外側は膨らむ 凸 タテケズリ→タテナデ	厚 1.5／1.2	凹 黄灰色 凸 黄灰色	・白色微粒多量 ・均質 ・素地粒 粗	
瓦57-298 — 0765	9ST 7Q27	平瓦	凹 布目中。端面より一部タテナデ 凸 繩目中、一方向タテ密着、繩長細。離れ砂	厚 2.0／1.5	凹 灰白色 凸 灰白色	・黒褐色微粒大量 ・均質 ・素地粒 粗	
瓦58-299 PL. 35-60 0773	9ST 7Q37	軒丸瓦 B202カ	瓦当面 花弁二重縁線。 子葉1本。界線1本。中房 圓線1本、蓮子1+5。周緣 円周ナデ。僅かに細い石 目地あり。微かに間隔が 狭く平行な木理痕あり 瓦当裏 ナデ中央部僅かに布目。 上部が厚い。側面際円周 方向外側に向ってナメ にケズリ、ナデ。突帯な し 瓦当侧面 ヨコケズリ→ナデ	瓦当厚 2.9	瓦当面 にぶい黄橙 色 瓦当裏 にぶい黄橙 色	・白色微粒多量 ・周縁幅 1.5cm	
瓦58-300 — 0772	9ST 7Q37	平瓦	凹 布目密。側面下部に かけて布目連続。糸切り 痕 凸繩目密、一方向タテ密 着、繩長(ローラーか)。 離れ砂	厚 1.9	凹 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色	・夾雜物少量 ・赤褐色微粒多量 ・灰白色粘土粒混ざ る ・均質	・一枚作り技法
瓦58-301 — 0774	9ST 7Q37	軒平瓦 P001	瓦当面 右偏行唐草。界線1本。 外区珠文あり。 凹 布目中。タテナデ。 瓦当上面ヨコナデ 凸 タテケズリ→二方向 X字。頃近接する平瓦ヨ コナデ 小さな曲線顎	瓦当高 4.1 平瓦厚 1.7	瓦当面 にぶい黄橙 色 凹 にぶい黄橙色 凸 灰黃褐色。一部 炭素吸着	・白色微粒大量 ・素地粒 粗	・笠懸鹿ノ川窯
瓦58-302 — 0763	9ST 7Q27	軒平瓦 P001	瓦当面 右偏行唐草。界線1本。 外区珠文あり。周線上辺 に范の端か粘土が凹面か らかぶる 凹 僅かに布目中。タテ ナデ。瓦当上面ヨコナデ 緩い曲線顎と三角形顎の 中間	瓦当高 4.5 平瓦厚 3.6／3.2	瓦当面 にぶい黄橙 色 凹 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・精選	・范ズレのためか下外区の珠 文が消えかかるものあり。界 線も一部乱れる ・笠懸鹿ノ川窯
瓦58-303 — 0721	9NT 7Q56	平瓦	凹 布目中。側板压痕幅 2.6cm。僅かに糸切り痕	厚 2.2／1.8	凹 灰白色 凸 灰白色	・白濁微粒少量 ・黒褐色微粒少量 ・素地粒 粗	
瓦59-304 — 0719	9NT 7Q47	軒平瓦 P001	瓦当面 右偏行唐草。界線1本。 外区珠文あり。 凹 僅かに布目中。ヨコ ナデ 凸 繩目粗、二方向X字 状、繩單。タテケズリ→ 繩叩き 弱い陵のある段顎 顎 ヨコナデ	瓦当高 4.5 平瓦厚 3.4／1.8	凹 炭素吸着 凸 炭素吸着	・白色微粒大量 ・素地粒 粗	・左下隅珠文が界線とつなが る ・笠懸鹿ノ川窯
瓦59-305 — 0731	9NT 7Q47	軒平瓦 P001	瓦当面 右偏行唐草。界線1本。 外区珠文あり。細い石目 地 凹 僅かに布目中。タテ ナデ。瓦当上面ヨコナデ 凸 タテケズリ→繩目中 (二方向) 三角形顎 緩い稜あり	瓦当高 4.4 平瓦厚 3.0／2.1	瓦当面 にぶい黄橙 色 凹 にぶい黄橙色 凸 灰黃褐色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗	・左右下隅珠文から界線にキ ズ ・笠懸鹿ノ川窯
瓦60-306 PL. 35-61 0722	9NT 7Q47	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 長方形格子中、3段 +2列。羽状ナデ(ヘラ)	厚 1.5／1.1 長 39.0 広端径 27.7 狭端径 24.5	凹 黄灰色 凸 黄灰色	・白色微粒多量 ・黒褐色微粒多量	

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦60-307 — 0725	9NT 7Q47	軒平瓦 P001	瓦当面 右偏倚唐草。界線1本。 外区珠文あり。 凹 優かに布目中 凸 タテケズリ→ナナメ 縄叩き 顎 ヨコナデ 緩い段顎	平瓦厚 3.0/2.0	瓦当面 黄灰色 凹 黄灰色 凸 黄灰色	・白色微粒大量 ・均質 ・素地粒 密	・左上隅、下隅の珠文傷あり ・上周縁に范端か ・唐草先端、界線は尖ってい る ・笠懸鹿ノ川窯
瓦60-308 — 0727	9NT 7Q47	軒平瓦 NH3系	瓦当面 三重廊 顎 ヨコナデ 凹 瓦当上面から平瓦に かけて凹む 凸 瓦当上面タテナデ 三角形顎か	瓦当高 4.2 平瓦厚 2.3	瓦当面 灰白色 凹 灰白色 凸 灰白色	・白濁微粒大量 ・片岩あり ・精選	
瓦60-309 — 0723	9NT 7Q47	軒丸瓦 B201	瓦当面 先端内側が反る二重花弁 界線1本。中房、蓮子不明。 細い石目地。周縁円 周方向ナデ 瓦当裏 僅かに布目。ヨコケズ リ。突帶なし 凹 布目中。タテケズリ 瓦当側面 丸瓦のない部分はヨコケ ズリ	瓦当厚 2.6 丸瓦厚 1.9	瓦当面 にぶい褐色 瓦当裏 黄灰色 凹 黄灰色 凸 暗灰黄色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・層状	・弁先から界線まで范傷 ・周縁中位に范端の凹みか ・笠懸鹿ノ川窯
瓦61-310 — 0726	9NT 7Q47	軒平瓦 P001	瓦当面 界線1本。珠文あり 凹 布目中。タテナデ。 瓦当上ヨコナデ 凸 タテケズリ→ナナメ 縄叩き 顎 ヨコナデ 三角形顎	瓦当高 4.5 平瓦厚 2.5/1.3	瓦当面 にぶい黄橙 色 凹 にぶい黄橙色 凸 灰黄色	・白色微粒多量 ・赤褐色微粒多量 ・均質	・上周縁に范端か ・瓦当に向って全体的に下が る ・笠懸鹿ノ川窯
瓦61-311 — 0738	9NT 7Q47	平瓦	凹 布目中。側板圧痕幅 2.5cm。自然釉付着。糸 切り痕。他の瓦の一部が 付着 凸 ヨコナデ	厚 1.9/1.4	凹 暗灰色 凸 暗灰色	・白濁微粒大量	・乾燥時立てかけ棒での歪み か
瓦61-312 — 0729	9NT 7Q47	丸瓦	凹 布目中。微かに糸切 り痕。タテナデ	厚 2.3/1.1 狭端径 16.8	凹 にぶい橙色 凸 にぶい褐色	・白濁微粒大量・細 粒多量 ・黒褐色微粒大量	・粘土巻合せ Z ・隅切り瓦カ ・高さのない丸瓦
瓦62-313 — 0730	9NT 7Q47	丸瓦	凹 布目中。糸切り痕。 布袋引上げ紐の痕跡 凸 微かに縄目中、一方 向タテ密着、縄長→回転 ヨコナデ	厚 1.6/1.1 長 37.7 狭端径 15.5	凹 黄灰色 凸 灰白色	・白濁微粒多量 ・片岩あり	
瓦62-314 — 0737	9NT 7Q47	平瓦	凹 微かに布目。微かに 糸切り痕。ヨコナデ→タ テナデ 凸 縄目中、一方向ナナ メ、二方向X字状、縄單	厚 1.3/1.0	凹 褐灰色 凸 褐灰色	・白色微粒大量 ・精選	凹 浅いへラ書き型「三」 ・文字が浅く長い、表面が炭 素吸着でないため他の数字の 文字瓦とは異質
瓦62-315 — 0741	9NT 7Q47	平瓦	凹 微かにかに布目 凸 縄目中、二方向ハ字 状(左右対称)、縄單	厚 1.5/1.3	凹 灰色 凸 灰色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗	・破面b凹面から
瓦62-316 — 0720	9NT 7Q47	平瓦	凹 布目なし。回転ヨコ ナデ 凸 縄目中、一方向タテ 平行、縄短。糸切り痕	厚 2.4/1.1	凹 黄灰色 凸 黄灰色	・白色微粒大量 ・黒褐色微粒少量 ・素地粒 粗	
瓦63-317 PL. 35-62 0743	9NT 7Q47	軒丸瓦 B201	瓦当面 先端内側が反る二重花 弁。界線1本。子葉あり。 中房圓線あり。細い 石目地 瓦当裏 ヨコナデ。突帶なし。瓦 接合部分円周ナデ 瓦当側面 下半分は円周ナデ 凹 布目中。瓦当裏から 7.0cmの幅でヨコナデ 凸 複数回重ねてタテケ ズリ	丸瓦厚 2.0/0.7 丸瓦長 33.5 狭端径 11.3	瓦当面 灰色 瓦当裏 灰色 凹 灰色 凸 灰色	・白色微粒多量 ・素地粒 粗	・周縁幅 0.5~1.2cm ・瓦当面直径 15.0cm ・界線直径 12.0cm ・弁先から界線まで范傷 ・周縁肩は角張る ・複数の粘土を使用したためか 丸瓦中央で接合あり ・笠懸鹿ノ川窯
瓦63-318 — 0742	9NT 7Q47	丸瓦	凹 布目中 凸 全面自然釉付着	厚 1.6/10.9	凹 灰色 凸 黑褐色	夾雜物大量 ・白濁微粒大量	・側面中央付近から歪む

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦70-350 PL. 37-73 0321	5-2NT 6Q31	平瓦	凹 布目中 凸 タテナデ	厚 2.2／1.3 狭端径 19.5	凹 灰白色 凸 灰白色	・白濁微粒大量 ・パイ皮状 ・マーブル状	・粘土巻合せ S
瓦71-351 PL. 37-74 0330	6-1ET 5P28	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 ナデで微かに縦長	厚 2.2／1.8	凹 浅黄橙色 凸 にぶい黄橙色	・白濁微粒多量・細 粒少量 ・素地粒 粗	・粘土巻合せ Z ・剥離により接合面露出
瓦71-352 PL. 37-75 0332	6-1ET 5P28	軒丸瓦 B201	瓦当面 先端内側が反る二重蓮弁 五葉。子葉あり。界線1 本。中房圓線1本、蓮子 1+5 瓦当裏 ヨコケズリ。突帯なし	瓦当厚 2.0	瓦当面 黄灰色 瓦当裏 黄灰色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	・中房直径 3.8cm ・周縁幅 0.8～1.5cm ・弁先から界線まで沿傷 ・瓦当部の粘土は横積みでは ない ・界線が2本に見えるのは範 の端の圧痕のためと解されて いる(他の個体も同じ) ・笠懸鹿ノ川窯
瓦71-353 — 0331	6-1ET 5P28	平瓦	凹 僅かに布目中。糸切 り痕明瞭 凸 ヨコナデ。僅かに糸 切り痕	厚 1.5／1.3	凹 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色	・白濁微粒多量・細 粒微量	
瓦71-354 — 0323	6-1ET 5P28	平瓦	凹 布目中。タテナデ 凸 長方形、平行四辺形 格子中	厚 2.2	凹 にぶい黄橙色 凸 灰黄褐色	・白色微粒多量 ・精選 ・均質 ・素地粒 粗	凸 「田」ではなく格子の一 部カ
瓦71-355 — 0329	6-1ET 5P28	平瓦	凹 側板压痕幅2.0～2.4 cm 凸 回転ヨコナデ	厚 1.6	凹 灰黄色。一部炭素吸 着 凸 灰白色。一部炭素吸 着	・白濁微粒・細粒大 量	
瓦71-356 — 0324	6-1ET 5P28	丸瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 微かに縫目中、一方 向タテ、縦長。ヨコナデ	厚 1.5／1.1	凹 灰色 凸 灰白色	・白濁微粒少量 ・黒褐色微粒微量 ・均質 ・素地粒 粗	
瓦72-357 PL. 38-76 0340	6-1WT 5P30	平瓦	凹 布目中 凸 素文(木理ナナメ に)。タテナデ	厚 1.6／1.2 長 40.3 広端径 27.0	凹 灰黄色 凸 黄灰色	・白濁微粒大量 ・黒褐色細粒少量	・粘土巻合せ S
瓦72-358 — 0333	6-1WT 5P30	軒平瓦 P001	瓦当面 右偏行唐草。界線1本。 外区珠文あり。細い石目 地 三角形頬(平瓦を強く 削って微かな段りあり)	瓦当高 4.4	瓦当面 灰黄色 凹 灰黄色 凸 灰黄色	・白濁微粒多量 ・均質 ・素地粒 粗	・右下範キズか界線と珠文が つながる ・笠懸鹿ノ川窯
瓦72-359 — 0339	6-1WT 5P30	軒平瓦 P008カ	瓦当面 右偏行唐草。界線2本	—	瓦当面 暗灰色 凹 暗灰色 凸 暗灰色	夾雜物大量 ・白濁微粒多量・細 粒少量・礫少量	・瓦当面上から平瓦凹にかけ て1cmほど窪む
瓦72-360 — 0347	6-2ET 5067	丸瓦	凹 布目中。ヨコナデ。 糸切り痕。粘土巻合せ目 が側面に沿って残る 凸 ヨコナデ	厚 1.8／1.3	凹 暗灰色 凸 暗灰色	・白色微粒大量 ・均質 ・素地粒 粗	・粘土巻合せ SZ不明
瓦72-361 — 0346	6-2ET 5068	丸瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 ヨコナデ	厚 1.7／1.2 狭端径 12.5	凹 灰色 凸 灰色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗	・粘土巻合せ Z ・破面b凹面から
瓦73-362 PL. 38-77 0348	6-2ET 5068	丸瓦	凹 布目中。糸切り痕。 一部自然釉付着 凸 回転ヨコナデ(へ ラ)。一部自然釉付着	厚 1.7／1.3 長 37.0 広端径 21.2	凹 暗灰色 凸 暗灰色	夾雜物大量 ・白濁微粒大量・細 粒微量・礫あり	・側部の一部が内側に窪んで いる
瓦73-363 PL. 38-78 0349	6-2ET 5067	軒丸瓦 判別不 能	瓦当面 界線1本 凹 布目中。緯糸の寄り が多数か所。瓦当面から 3.0cmのところに帶状の 窪み。狭端部指押さえ状 の窪み粘土貼付け痕 凸 タテケズリ。周縁外 0.8cmでヨコケズリ	厚 2.8／2.2 長 43.0 狭端径 12.5	凹 黄灰色 凸 黄灰色	・白色微粒大量 ・均質	・周縁幅 2.7～3.0cm ・狭端面はナデ仕上げの後で 粘土がかぶり調整していない
瓦74-364 — 0350	6-2ET 5068	丸瓦	凹 布目中。糸切り痕。 広端部2.0～3.0cm幅でヨ コケズリ 凸 タテナデ。広端部 1.0cm幅でヨコケズリ。 一部煤付着	厚 2.1／1.5 長 37.0	凹 灰黄褐色 凸 にぶい黄橙色	・白色微粒多量 ・素地粒 粗	・破面b凹面から

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦74-365 PL. 39-79 0352	6-2ET 5067	平瓦	凹 布目中 凸 繩目中、二方向ハの字状、繩單	厚 2.3 / 1.6	凹 灰色 凸 灰色	・白色微粒大量	
瓦74-366 PL. 39-80 0343	6-2ET 5068	軒丸瓦 B203カ	瓦当面 二重花弁。子葉あり。界線1本 瓦当裏 無絞り布目。突帯不明 凸 タテケズリ	瓦当厚 1.8	凹 灰色 凸 灰色	・白色微粒多量 ・素地粒 粗	・布目は丸瓦と連続していない。丸瓦との接合部細い構状に凹む ・周縁部の端が残る ・周縁幅 3.3cm ・周縁端から1.5cm内側に円形にビビが連続。丸瓦接合痕か。
瓦75-367 PL. 39-81 0372	6-2WT S11	軒平瓦 P002	瓦当面 右偏行唐草。界線1本。 外区珠文なし 凹 布目中 凸 タテナデ 顎 ヨコケズリ 三角形顎	瓦当高 5.2 瓦当幅 29.0	凹 暗灰色 凸 暗灰色	・白色微粒多量	・瓦当面と凹面の一部に煤付着、電に使用か ・笠懸山際窓
瓦76-368 — 0367	6-2WT S11	軒丸瓦 E103	瓦当面 蟹爪状蓮華文八葉。周縁 円周ナデ 瓦当裏 ナデ 凸 タテケズリ→タテナデ	瓦当厚 2.5 / 1.9	瓦当面 にぶい黄橙色 瓦当裏 にぶい黄橙色	・白濁微粒・細粒多量 ・疊あり	・A-3技法 ・割れてから二次的被熱
瓦76-369 PL. 39-82 0366	6-2WT S11	軒丸瓦 B001a	瓦当面 二重花弁五葉。子葉のある花弁とない花弁が混在。弁間に珠文。弁と弁を繋ぐ隆線あり。界線1本 瓦当裏 ナデ。突帯なし	瓦当厚 0.8	瓦当面 灰白色 瓦当裏 灰白色	・黒褐色微粒・細粒少量 ・均質 ・素地粒 粗	・A-2技法 ・山王庵寺跡。綿貫庵寺跡。熊野堂I遺跡。唐松庵寺跡など ・秋間八重巻窓
瓦76-370 PL. 39-83 0371	6-2WT S11	軒丸瓦 E202	瓦当面 陰刻花弁八葉。周縁ナデ。中房圓線なし、蓮子中央に1個直径1.4cm 瓦当裏 無絞り布目。突帯あり。突帯に沿って円周ナデ	瓦当厚 2.0	瓦当面 炭素吸着 瓦当裏 突帯基部を除いて炭素吸着	・白濁微粒・細粒大量	・瓦当面肩丸味をもつ ・瓦当面端部内側の窪みが範の端か ・周縁側が肥厚 ・高崎市吉井町長根下高原(古瓦研No.3)
瓦76-371 — 0368	6-2WT S11	軒平瓦 P002	瓦当面 右偏行唐草。界線1本。 外区珠文なし 曲線顎	瓦当高 6.1	瓦当面 灰黃褐色 凹 にぶい黄橙色 凸 暗灰色	・白色微粒多量 ・黒褐色細粒少量 ・均質	・笠懸山際窓
瓦76-372 PL. 39-84 0373	6-2WT S11	有段式 丸瓦	全長37.8 丸瓦厚 2.5 / 1.7 丸瓦長 30.0 丸瓦広端径 17.0 丸瓦狭端径 16.0 玉縁厚 1.7 / 1.3 玉縁長 7.8 玉縁径 12.2 凹 布目中。糸切り痕 凸 回転ヨコナデ		凹 にぶい橙色 凸 にぶい黄橙色	・白色微粒大量	・C2a
瓦77-373 — 0374	6-2WT S11	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 繩目密、一方向タテ密着、繩長細	厚 2.1 / 1.7 狭端径 25.7	凹 黄灰 凸 黄灰	・黒褐色微粒・細粒大量 ・灰白色粘土粒あり ・均質 ・素地粒 粗	・長さ2.0cm大疊が凹面から凸面まで露出し焼きはぜになる ・煤付着
瓦77-374 — 0375	6-2WT S11	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 繩目中、繩長をナデ消し。タテナデ	厚 2.2 / 1.8 広端径 25.0	凹 にぶい黄橙色 凸 灰黃～黃灰色	・白濁微粒・細粒多量	
瓦77-375 — 0379	6-2WT S11	平瓦	凹 布目中。煤付着 凸 繩目中、ナデ消し。タテナデ。灰付着	厚 2.0 / 1.4	凹 灰色 凸 灰色	・白濁微粒・細粒多量 ・素地粒 密	
瓦78-376 PL. 39-85 0381	6-2WT S12	軒平瓦 P001	瓦当面 右偏行唐草。界線1本。 外区珠文あり。 凹 タテナデ 凸 繩目中、一方向ヨコ、繩單。タテケズリ、顎部だけヨコナデ 低い曲線顎	瓦当高 4.7 平瓦厚 2.9 / 1.3 長 40.3	凹 暗灰色 凸 にぶい褐色 瓦当面 暗灰色	・白色微粒まぶしたよう	・瓦当面に范傷 ・笠懸庵ノ川窓
瓦78-377 — 0010	2T 5N68	軒平瓦 P001	瓦当面 右偏行唐草。界線1本。 外区珠文あり。 凹 布目中 凸 タテケズリ→タテナデ 三角形顎	瓦当高 5.3	凹 灰色 凸 灰色 瓦当面 灰色	・白色微粒微量 ・6mm疊あり ・素地粒 密	・瓦当際凹面深く窪む ・笠懸庵ノ川窓

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦78-378 — 0014	2T 5N68	平瓦	凹 布目なし。糸切り痕 凸 米字叩き。タテナデ	厚 2.2／2.0	凹 橙色 凸 橙色	・白濁微粒多量 ・黒褐色微粒多量	・米字叩きは一片のみ
瓦78-379 — 0009	2T 5N90	平瓦	凹 布目中 凸 微かに縦目。タテナ デ	厚 2.1／1.2	凹 灰白色 凸 灰白色	夾雜物大量 ・白濁細粒微量・礫 多量 ・黒褐色細粒多量 ・層状	
瓦79-380 PL. 40-86 0015	2T 5N68	軒丸瓦 A106	瓦当面 二重花弁四葉。子葉な し。界線1本。中房圓線1 本、蓮子不明 瓦当裏 無絞り布目。突帯不明	瓦当厚 2.2	瓦当面 黄灰色 瓦当裏 黄灰色	・白濁微粒多量 ・灰白色粘土縞状	
瓦79-381 — 0017	2T 5N78	平瓦	凹 布目密 凸 ナデ	厚 1.9／1.4	凹 褐灰色 凸 黑褐色	夾雜物大量 ・白濁微粒大量・礫 微量	凸 ヘラ書き型不明文字
瓦79-382 — 0020	2T 5N88	軒丸瓦 B207a	瓦当面 細い隆線。中位が膨らむ 二重花弁五葉。子葉あ り。界線1本。中房圓線1 本、蓮子1+4。周縁円周 ナデ 瓦当裏 粘土合わせ目。無絞り布 目。低い突帯	瓦当厚 2.3	瓦当面 灰白色 瓦当裏 灰白色	夾雜物大量 ・白濁微粒多量 ・黒褐色微粒多量 ・白色粘土縞状	・中房直径 2.5cm ・周縁幅 1.6～1.8cm ・界線直径 11.2cm ・周縁直径 18.8cm ・藤岡金山2号窯 ・瓦当裏面下半が膨らむ(木 型の反映か)
瓦79-383 — 0024	2T 5N90 表土	軒平瓦 P3系カ	瓦当面 離れ砂。界線1本 三角形彌か	瓦当残存高 2.6	瓦当面 灰白色 凹 灰白色 凸 灰白色	・黒褐微粒多量 ・素地粒 粗 ・均質	・瓦当上部剥離か ・頬赤色塗彩
瓦79-384 — 0022	2T 5N89	平瓦	凹 布目中 凸 素文。タテナデ	厚 2.3／2.1	凹 茶褐色 凸 灰黃褐色	・白濁微粒多量 ・灰白色粘土縞状	凸 ヘラ書き型不明文字
瓦79-385 PL. 40-87 0027	2T 5N90 表土	軒丸瓦 B201	瓦当面 先端内側が反る隆線二重 花弁。子葉あり。界線1 本 瓦当裏 ケズリ→ナデ。突帯不明	瓦当厚 3.3	瓦当面 灰色 瓦当裏 灰色	・白色微粒大量 ・層状 ・均質	・笠懸鹿ノ川窯
瓦79-386 — 0004	1T 5007	平瓦	凹 働かに布目中。タテ ナデ 凸 縄中、縄長。X字状	厚 1.4／1.2	凹 炭素吸着 凸 炭素吸着	・白色微粒まぶした よう ・素地粒 粗 ・均質	凹 指押さえ有
瓦79-387 — 0006	1T 5027	平瓦	凹 布目中 凸 素文	厚 1.9／1.7	凹 にぶい黄橙色 凸 灰黄色	・白濁微粒大量・細 粒多量 ・バイ皮状 ・色の異なる粘土縞 状	凸 ヘラ書き型不明文字
瓦79-388 — 0002	1T 5016 表土	平瓦	凹 布目なし。ヨコナデ 凸 ひし形格子中。ナデ 方向不明。糸切り痕	厚 1.7	凹 褐灰色 凸 灰黃褐色	・白色微粒多量 ・素地粒 粗 ・均質	凸 格子一体型「渕」(左文 字) ・十三宝塚。住コレ ・僧寺跡出土なし
瓦79-389 — 0003	1T 5N25 表土	丸瓦	凹 布目中 凸 微かに糸切り痕。ヨ コナデ。墨書	厚 2.1	凹 灰黃褐色 凸 にぶい黄橙色	・白濁微粒多量 ・赤褐微粒少量	凸 墨書型不明文字
瓦80-390 — 0389	7-1T 6L73	軒丸瓦 B201	瓦当面 二重花弁。界線1本。周 縁一定方向にケズリ 瓦当裏 突帯なし	瓦当厚(内区)2.4	瓦当面 灰黄色 瓦当裏 黄灰色	・白色微粒まぶした よう ・黒褐色細粒多量 ・素地粒 粗	・弁先から界線まで範 傷 ・笠懸鹿ノ川窯
瓦80-391 — 0390	7-1T 6L63	丸瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 ヨコナデ→タテナデ	厚 1.9／1.7	凹 灰白色 凸 褐灰色	・白色微粒大量・細 粒多量 ・暗褐色細粒少量	・粘土巻合せ S
瓦80-392 — 0391	7-2T 7L72	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 タテナデ。糸切り痕	厚 1.9	凹 灰黃褐色 凸 褐灰色	・白色微粒大量 ・均質 ・素地粒 粗	凸 格子一体型「雀」A類(左 文字) ・笠懸山際窯
瓦80-393 — 0392	7-2T 7L62	平瓦	凹 布目中 凸 ナデ方向不明	厚 2.6／2.4	凹 灰色 凸 灰色	夾雜物多量 ・白濁微粒大量・細 粒多量・小礫あり	凸 ヘラ書き型「大」カ
瓦80-394 — 0395	7-2T 7L72	平瓦	凹 布目中 凸 ナデ方向不明	厚 2.1	凹 灰色 凸 灰色	夾雜物多量 ・白濁微粒大量・細 粒多量・礫あり	凸 ヘラ書き型「大」

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦80-395 PL. 40-88 0393	7-2T 7L62 表土	軒丸瓦 新 a007	瓦当面 外側が直立する片葉研磨の手書き花弁か。中房圈線1本、蓮子不明 瓦当裏 ナデ。突帯なし 瓦当側面 ナデ	瓦当厚 1.7/1.3	瓦当面 灰白色 瓦当裏 灰黄色	・黒褐色微粒微量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	・瓦当表裏とも指頭圧が弱い 凹凸あり
瓦80-396 — 0396	7-3T 7L70	平瓦	凹 布目中 凸 微かに縄目中、一方 向タテ、縄長。ナデ方向 不明	厚 2.7/0.8	凹 暗褐色 凸 にぶい黄橙色	夾雜物大量 ・白濁微粒・細粒多 量 ・1.0cm大礫あり ・素地粒 粗	・粘土巻合せ Z
瓦80-397 — 0404	7-3T 7L70	丸瓦	凹 布目中 凸 タテナデ	厚 1.1/0.7	凹 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色	・白濁微粒少量 ・黒褐色微粒微量 ・灰白色粘土縞状	凸 ヘラ書き型(針書き) ・側部よりも中央よりが極め て薄い
瓦81-398 — 0406	7-3T 7L69	丸瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 ヨコ、ナメナデ	厚 1.7/1.5	凹 灰色 凸 黄灰色	・白色微粒まぶした よう ・素地粒 粗	・粘土巻合せ Z ・破面d+凸面から
瓦81-399 — 0407	7-3T 7L69	丸瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 微かに縄目中、縄長 密を回転ヨコナデで消す	厚 1.8/1.2	凹 浅黄橙色 凸 淡黄色	・褐色微粒少量、細 粒微量 ・白色粘土粒含む ・均質 ・精選 ・素地粒 粗	
瓦81-400 — 0435	7-3T 7L69	軒丸瓦 B105	瓦当面 弁先の丸い二重花弁。子 葉あり。界線1本。中房 圈線なし、蓮子1個。弁 先から界線に範キズ。木 理が明瞭 瓦当裏 無絞り布目	瓦当厚 1.8	瓦当面 灰色 瓦当裏 灰色	・白濁細粒多量 ・灰白色粘土マーブ ル状	・周縁肩を面取り後にナデ
瓦81-401 — 0415	7-3T 7L90	丸瓦	凹 布目中 凸 長方形格子小、一方 向、ナメ密着	厚 2.1	凹 暗褐色 凸 炭素吸着	・白濁微粒大量・細 粒多量 ・灰白色粘土縞状 ・凹凸面に疊あり	・凸面に緩い稜あり
瓦81-402 PL. 40-89 0414	7-3T 7L59	平瓦	凹 僅かに布目中。タテ ナデ 凸 縄目中、一方向タテ 密着、縄長ナデ消し。ヨ コナデ。僅かに別瓦の布 目(ボジ)痕あり	厚 2.2/1.7 長 39.4 広端径 24.7	凹 炭素吸着 凸 炭素吸着	・白濁微粒多量 ・白色微粒多量	
瓦82-403 — 0420	7-3T 7L70	軒丸瓦 E103	瓦当面 蟹爪状蓮華文八葉。界線 1本。中房圈線1本、蓮子 あり 瓦当裏 ヨコナデ。接合部円周ナ デ。突帯不明 凹 布目中。糸切り痕 凸 タテケズリ	瓦当厚 1.9/1.4	瓦当面 にぶい褐色 瓦当裏 灰黄褐色 凹 灰黄褐色 凸 灰黄褐色	・白濁微粒多量・細 粒少量、疊少量(瓦表 面に露出) ・素地粒 密	・弁区が盛り上る ・A技法
瓦82-404 PL. 40-90 0430	7-3T 7L70	平瓦	凹 布目中。ナメナ デ。糸切り痕。長軸方向 に凹み数か所にあり。側 板圧痕か。 凸 長方形格子小。糸切 り痕。布目(ボジ)あり	厚 1.4/1.1	凹 橙色 凸 にぶい橙色	・白色微粒大量 ・赤褐色細粒少量 ・均質 ・素地粒 粗	
瓦82-405 — 0429	7-3T 7L59	平瓦	凹 僅かに布目中。ヨコ ナデ。ヘラ状工具?痕あり 凸 平行四辺形格子中。 糸切り痕。成形時に粘土 を足している	厚 2.2/1.6	凹 暗灰黄色 凸 暗灰黄色	・白色微粒まぶした よう ・素地粒 粗	
瓦83-406 — 0436	7-3T 7L70	丸瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 ヨコナデ	厚 2.0/1.2	凹 灰黄褐色 凸 灰黄褐色	・白色微粒まぶした よう ・均質	・広端部寄りが肥厚
瓦83-407 — 0419	7-3T 7L69	平瓦	凹 布目中。側板圧痕幅 2.8cm僅かに残る 凸 糸切り痕	厚 1.7/1.1	凹 灰白色 凸 黄灰色	・白濁微粒大量 ・黒褐色微粒多量 ・素地粒 粗	・No.408と同一個体か
瓦83-408 — 0413	7-3WT 7L60	平瓦	凹 布目中。側板圧痕幅 1.3cm 凸 タテナデ。糸切り痕	厚 1.6/1.1	凹 灰黄褐色 凸 暗褐色	・白濁微粒大量 ・黒褐色微粒多量 ・素地粒 粗	・No.407と同一個体か

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦83-409 — 0432	7-3WT 7L80	軒平瓦 P002	瓦当面 右偏行唐草。界線1本。 外区珠文あり 凹 ヨコナデ 凸 テイネイなタテナデ 三角形顎	瓦当高 5.0	凹 黄灰色 凸 灰黄色	夾雜物少量 ・白色細粒微量 ・均質 ・精選	・左の界線から周縁に向けて 范キズ ・笠懸山際窯
瓦84-410 — 0823	10-5T 11020	有段式 丸瓦	凹 布目中、縫糸の寄り が激しい。タテナデ。粘 土合わせ目をナデ 凸 縄目中、一方向タテ 平行、縄長。回転ヨコナ デ	厚 1.9 玉縁長 5.0	凹 にぶい黄橙色 凸 灰黄色	夾雜物多量 ・白濁微粒多量 ・素地粒 密	・C2a ・粘土巻合せ Z
瓦84-411 — 0833	10-5T 11020	丸瓦	凹 布目中。粘土巻合せ 時に布を巻込む 凸 回転ヨコナデ	厚 1.6	凹 灰色 凸 灰色	・白色微粒まぶした よう ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	・粘土巻合せ SZ不明 ・破面b凹面から
瓦84-412 — 0829	10-5T 11020	平瓦	凹 布目中。焼ハゼあり 凸 ひし形格子中	厚 2.0／1.6	凹 灰色 凸 灰色	・白色微粒まぶした よう ・素地粒 粗	
瓦84-413 PL. 40-91 0831	10-5T 11020	丸瓦	凹 布目中、広端際布目 が乱れる 凸 素文。回転ヨコナデ	厚 2.5／1.7	凹 灰黄褐色 凸 灰黄褐色	・白色微粒多量 ・黒褐色微粒少量 ・素地粒 粗	・破面a凹面から ・分割時に二度刃のものを入れ たためか側面が二段になる (図→) ・広端凸側に肥厚し端部を面 取り
瓦84-414 — 0837	10-6T 11001	有段式 丸瓦	凹 布目中。玉縁寄り縫 糸の寄りが大きい。僅か に糸切り痕 凸 僅かに縄目中、縄 長。回転ヨコナデ	丸瓦厚 1.9／1.3 玉縁長 8.3	凹 褐灰色 凸 褐灰色	・白濁微粒多量 ・白色微粒多量 ・黒褐色微粒少量 ・片岩あり ・均質	・C2a ・粘土巻合せ S
瓦85-415 PL. 40-92 1377	10-6T 10010	軒平瓦 P002	瓦当面 右偏行唐草。界線1本。 外区珠文極小あり 三角形顎 凹 布目なし。タテケズ リ→瓦当上部ヨコケズリ 凸 タテケズリ。顎周辺 ヨコナデ	平瓦厚 2.4／2.1	瓦当面 褐灰色 凹 褐灰色 凸 褐灰色	・白色微粒多量 ・灰白粘土縞状、粒 状	・笠懸山際窯
瓦85-416 — 0779	10-1T 10006 10-1T 10007	丸瓦	凹 布目中。布目痕二重 凸 平行条目細、一方向 ナナメ	厚 2.4／2.0	凹 灰色 凸 暗灰色	・白濁微粒多量 ・灰白色粘土縞状	
瓦85-417 — 0780	10-1T 10006	丸瓦	凹 布目中 凸 回転ヨコナデ	厚 1.5／1.2	凹 灰色 凸 灰色	・白色微粒多量 ・素地粒 粗 ・均質 ・層状	・紐作り
瓦85-418 PL. 40-93 0782	10-1T 10006	軒平瓦 P101	瓦当面 唐草主葉と支葉左偏行。 界線1本。珠文なし 凹 布目中。瓦当上面凹 む、ヨコナデ 曲線顎 顎 ヨコナデ	瓦当高 3.4	瓦当面 灰色 凹 にぶい黄橙色 凸 灰色	・白濁微粒大量	・瓦范に薄く(0.5cm)粘土を つめて製作か
瓦85-419 — 0815	10-1T 10008	平瓦	凹 布目なし。回転ヨコ ナデ 凸 ヨコナデ→タテナデ	厚 1.7／1.4	凹 灰白色 凸 灰白色	・白濁微粒多量 ・層状	・泥条盤築技法 ・広端面にU字形の溝状窪み
瓦85-420 — 0816	10-1T 10018	軒平瓦 Q001	瓦当面 飛雲文。界線なし。左か ら2番目3番目 三角形顎	瓦当高 4.1	瓦当面 灰黄褐色 凹 灰黄褐色 凸 褐灰色	・白色微粒大量 ・素地粒 密 ・均質	・凹面剥離面に糸切り痕があ り粘土を貼り合せたことがわ かる ・笠懸山際窯または間野谷古 窯跡
瓦86-421 — 0814	10-1T 10019 10-1T 10009	平瓦	凹 布目中。側板圧痕幅 2.6cm。僅かに糸切り痕 凸 微かに縄目密、一方 向タテ密着、縄長。ヨコ ナデ	厚 1.7／1.4 長 37.3 狭端径 18.8	凹 褐灰色 凸 褐灰色	・白濁微粒大量・両 面に露出 ・片岩あり	

団番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦86-422 — 0844	10-7T 10N89	平瓦	凹 布目中。僅かに糸切り痕 凸 長方形格子中。僅かに糸切り痕	厚 1.6	凹 炭素吸着 凸 炭素吸着	・白色微粒多量 ・黒褐色微粒大量 ・赤褐色微粒少量 ・素地粒 粗 ・層状	
瓦86-423 — 0820	10-4T 10N39	平瓦	凹 僅かに布目中。ティネイなタテナデ 凸 一方向タテ平行、縄長。指頭圧痕多数	厚 2.2／1.8	凹 黄灰色 凸 黄灰色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗	
瓦86-424 — 0843	10-7T 10N90	丸瓦	凹 布目密。側面際分割用棒状凹み 凸 微かに縄目中、一方向タテ密、縄長。ヨコナデ	厚 1.7／1.4	凹 灰白色 凸 灰白色	・黒褐色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	
瓦86-425 PL. 40-94 0819	10-4T 10N48	軒丸瓦 F001	瓦当面 三角形花弁九葉。外区に珠点10個。子葉1本。中房圓線1本、蓮子1+4 瓦当裏 ヨコナデ。突帯なし	瓦当厚 1.7	瓦当面 接灰色 瓦当裏 灰色	・黒褐色微粒大量 ・素地粒 粗	・中房直径 4.2cm ・周縁幅 5mm ・A技法 ・山王庵寺跡。住谷西毛 ・秋間窓
瓦87-426 — 0787	10-2T 10N19	軒丸瓦 M002	瓦当面 鳥趾状蓮華文七葉。中房圓線なし、蓮子1個。弁間に珠文。周縁円周ナデ 瓦当裏 ナデ布目なし。丸瓦との接合部へラ状ナデ。突帯なし 凹 布目密 凸 瓦当部から丸瓦にかけて緩く下る	瓦当厚 2.1／1.7	瓦当面 灰白色 瓦当裏 黄灰色 凹 黄灰色 凸 灰白色	・黒褐色微粒大量 ・灰白色粘土粒 ・素地粒 粗	・弁先から周縁まで範傷あり ・A技法 ・秋間窓
瓦87-427 — 0793	10-2T SI1	軒丸瓦 A106	瓦当面 二重蓮弁四葉。子葉なし。界線1本。周縁円周ナデ。中房圓線1本、蓮子1+4 瓦当裏 無紋り布目。突帯あり 瓦当側面 下半分ヨコナデ、上半分タテナデ 凸 タテナデ	接合部径 16.5	瓦当面 炭素吸着 瓦当裏 炭素吸着 凹 炭素吸着 凸 炭素吸着	・白濁微粒大量 ・灰白色粘土縞状 ・素地粒 密	・瓦当面直径 17.0cm ・界線直径 11.2cm ・中房直径 3.8～4.1cm ・周縁幅 1.5～2.5cm ・全体に範ズレあり ・肩は丸味をもつ ・突帯低く細い
瓦87-428 — 0791	10-2T SI1	平瓦	凹 布目なし。ヨコナデ 凸 タテナデ→ヨコナデ	厚 1.5／1.3	凹 灰色 凸 灰色	・白濁微粒大量 ・黒褐色微粒多量 ・灰白色粘土マープル状	・泥条盤築技法
瓦87-429 — 0792	10-2T SI1	丸瓦	凹 布目中 凸 回転ヨコナデ(へラ)	厚 2.0／1.6	凹 接灰色 凸 接灰色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質	
瓦87-430 — 0795	10-2T SI1	平瓦	凹 布目中 凸 素文	厚 2.0／1.7	凹 接灰色 凸 接灰色	・白濁微粒大量・細粒多量 ・疊あり ・灰白色粘土縞状 ・パイ皮状	凸 ヘラ書き型「人」
瓦87-431 — 0794	10-2T SI1	平瓦	凹 布目中。タテナデ。 糸切り痕 凸 長方形格子中。糸切り痕	厚 2.1／1.8	凹 黄灰色 凸 黄灰色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・層状	
瓦88-432 PL. 40-95 0797	10-2T SI1	平瓦	凹 布目中。端面近くヨコナデと掌押圧。糸切り痕 凸 縄目密、一方向タテ密着、縄長押圧か。離れ砂	厚 2.6／2.3	凹 灰白色 凸 灰白色	・黒褐色微粒大量 ・灰白色粘土粒斑に入る ・素地粒 密	
瓦88-433 — 0798	10-2T SI2	平瓦	凹 僅かに布目中。回転ヨコナデ	厚 1.3／1.2	凹 接灰色 凸 接灰色	・白色微粒大量 ・均質 ・精選 ・素地粒 密	
瓦88-434 — 0804	10-2T SD1	丸瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 微かに縄目痕。回転ヨコナデ	厚 2.3／2.1	凹 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色 側面際接灰色	夾雜物大量 ・白濁微粒大量 ・灰白色粘土マープル状 ・パイ皮状	
瓦88-435 — 0802	10-2T SD1	平瓦	凹 布目中 凸 長方形格子中。糸切り痕	厚 1.3	凹 黄灰色 凸 黄灰色	・白色微粒大量 ・素地粒 密 ・均質	・屈曲が大きい

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦88-436 — 0801	10-2T SD1	平瓦	凹 微かに布目中。ヨコ ナデ 凸 長方形格子中。微か に糸切り痕	厚 3.0	凹 暗灰黄色 凸 暗灰黄色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質	
瓦88-437 — 0799	10-2T SD1	丸瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 微かに縄目密、一方 向タテ、縄長。ヨコナデ	厚 1.5	凹 灰色 凸 灰色	・白濁微粒多量 ・黒褐色微粒大量 ・素地粒 密	
瓦88-438 — 0786	10-2T 10N8 表土 10-2T 10N18 表土	平瓦	凹 布目中。タテナデ。 糸切り痕 凸 平行四辺形格子中。 タテナデ。糸切り痕	厚 1.5／1.3	凹 褐灰色 凸 灰白色	・白色微粒大量 ・均質	
瓦89-439 — 0788	10-3T 10M78	平瓦	凹 僅かに布目中。ヨコ ナデ 凸 糸切り痕	厚 1.3	凹 灰黄色 凸 灰黄色	・白色微粒大量 ・素地粒 密 ・精選	
瓦89-440 — 0789	10-3T 10M79	平瓦	凹 布目中。タテナデ。 側面から折り返した粘土 に布目痕あり 凸 ヨコナデ	厚 1.7／1.6	凹 灰色 凸 灰色	夾雜物大量 ・白濁微粒大量・細 粒多量・礫あり	
瓦89-441 — 1084	12T 10P90	丸瓦	凹 布目中 凹 堂で押圧か。ヨコナ デ	厚 1.2	凹 にぶい黄橙色 凸 橙色	・白濁微粒大量 ・同質粘土層状 ・素地粒 粗	
瓦89-442 — 1083	12T 10P100	丸瓦	凹 布目密 凸 微かに縄目あり。回 転ヨコナデ	厚 3.0／2.3	凹 にぶい黄橙色 凸 灰黃褐色	・白濁微粒微量 ・赤褐色微粒微量 ・灰白粘土粒あり ・黒褐色粘土尾を引 く ・素地粒 粗	
瓦89-443 — 0195	3T 8093	軒平瓦 NH3系	凹 タテナデ 凸 領接合部ナナメ→ヨ コナデ	瓦当高 3.5	凹 灰色 凸 灰色	・白濁微粒多量・細 粒・小礫微量・礫あ り	
瓦89-444 — 0201	3T 8093	平瓦	凹 布目中 凸 タテナデ	厚 1.3	凹 にぶい黄橙色 凸 褐灰色	夾雜物わずか ・白濁微粒微量 ・素地粒 密	凹 ヘラ書き型「中」
瓦89-445 — 0199	3T 8093	軒丸瓦 B101	瓦当面 二重花弁。長い子葉あ り。界線1本。膨らみの ない先細りの花弁。周縁 欠落。中房圓線1本、蓮 子1+4か 瓦当裏 外から約2.0cmほど中心 寄りが約1mm低い。この 部分は無絞り布目が二重 になる。	瓦当厚 1.8	瓦当面 灰黃褐色 瓦当裏 黑褐色	・白色微粒多量	・笠懸山際窯
瓦89-446 — 0204	3T 8093	平瓦	凹 布目なし。タテナ デ。連続したユビ押さえ の凹み 凸 ヨコナデ	厚 1.9／1.6	凹 灰黄色 凸 灰黄色	・白濁微粒少量 ・1.5cm礫あり	・泥条盤築技法
瓦89-447 — 0203	3T 8093	丸瓦	凹 布目中 凸 平行条目細。ナナメ 一部交差か	厚 2.6／2.3	凹 灰褐色 凸 黑褐色	・白色微粒微量 ・白濁微粒・細粒・ 小礫微量	・凹のみ灰付着
瓦90-448 — 0207	3T 8093	軒丸瓦 B105	瓦当面 弁先の丸い二重花弁。太 い子葉あり。界線1本。 周縁ナデ 瓦当側面 ナデ 瓦当裏 無絞り布目。突帯なし	瓦当厚 2.2／2.1	瓦当面 灰色 瓦当裏 灰色	・白濁微粒大量 ・白色微粒多量 ・礫あり ・層狀	
瓦90-449 — 0673	3T 7059	平瓦	凹 布目なし。ヨコナデ →タテナデ 凸 縄目中、二方向V字 状、縄長か	厚 1.5／1.2	凹 炭素吸着 凸 炭素吸着	・白色微粒まぶした よう ・均質	凹 ヘラ書き型「二」
瓦90-450 — 0215	3T 8083	軒丸瓦 判別不 能	瓦当面 界線1本。中房・子葉不 明 瓦当裏 無絞り布目。突帯あり	瓦当厚 1.8	瓦当面 灰色 瓦当裏 灰色	・白色微粒多量 ・黒褐色細粒少量 ・層狀 ・素地粒 粗	・界線から周縁にかけて范傷 あり ・花弁先端界線に付く ・周縁端から1.5cm幅で円周 方向ケズリ

団番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦90-451 — 0674	3T 8051	平瓦	凹 布目中 凸 長方形格子	厚 1.8	凹 灰色 凸 灰色	・白色微粒多量 ・均質 ・精選	凸 格子一体型「菌田」 ・文字部範傷（菌と田が繋がる） ・笠懸山際窓
瓦90-452 — 0061	3T 8P03	平瓦	凹 布目密 凸 繩目密、一方向タテ、密着。離れ砂	厚 1.7	凹 灰黄色 凸 灰黄色	・黒褐色微粒・細粒多量 ・灰白色粘土粒あり ・素地粒 粗 ・均質	
瓦90-453 — 0805	3T 7089	平瓦	凹 布目中 凸 平行四辺形格子中 タテナデ	厚 2.0／1.9	凹 暗灰黄色 凸 暗灰黄色	・白色微粒多量 ・均質 ・素地粒 密	
瓦90-454 — 0208	3T 8096	軒丸瓦 M002	瓦当面 鳥趾状蓮華文七葉。弁間に珠点 瓦当裏 ナデ。突帶なし 瓦当側面 段々	瓦当厚 2.1／1.8	瓦当面 灰白色 瓦当裏 灰白色	・黒褐色微粒多量・ 細粒少量 ・均質 ・素地粒 粗	・瓦当側面に周縁から0.6cm のところに範枠のあたり痕か ・A-2技法 ・秋間窓
瓦90-455 — 0684	3T 7068	軒丸瓦 B201	瓦当面 先端内側が反る花弁二重子葉あり。界線1本。細い石目地。周縁円周ナデ 周縁外 タテナデ 瓦当裏 ナデ。突帶不明	瓦当厚 2.4／2.0	瓦当面 褐灰色 瓦当裏 暗灰色 凹 褐灰色 凸 褐灰色	・白色微粒まぶした よう ・精選	・周縁幅 1.6～1.8cm ・周縁肩角張る ・笠懸鹿ノ川窓
瓦91-456 — 0807	3T 8051	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 ヨコナデ。糸切り痕	厚 1.2	凹 黄灰色 凸 黄灰色	・白濁微粒多量 ・素地粒 密 ・均質 ・精密	
瓦91-457 — 0809	3T 8052	平瓦	凹 布目中。微かに糸切り痕 凸 繩目密、一方向タテ 密着、縄長。タテナデ	厚 2.7／2.0	凹 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色。 一部灰色	・白濁微粒大量・穢 あり ・片岩あり	
瓦91-458 PL. 41-96 0810	3T 7070	軒丸瓦 B102b	瓦当面 二重花弁。子葉あり中房 圈線1本、蓮子1+4。弁間に竹管状珠文 瓦当裏 一部ナデ消し無絞り布 目。周縁際ナナメに円周 ケズリ。突帶有無不明	瓦当厚 1.4／1.3	瓦当面 にぶい黄橙 色 瓦当裏 褐灰色	・白色微粒少量 ・層状	・中房直径 4.0cm ・弁区の中位を強く押したた めか弁先殆ど消える ・上植木廃寺跡 ・笠懸山際窓
瓦91-459 — 0808	3T 8051	丸瓦	凹 布目中 凸 回転ヨコナデ	厚 1.7／1.5	凹 褐灰色 凸 褐灰色	・白色微粒多量 ・素地粒 密 ・均質 ・精選	
瓦91-460 — 0685	3T 7099 表土	軒丸瓦 B205カ	瓦当面 二重花弁五葉か。子葉あ り。界線1本 瓦当裏 無絞り布目。突帶不明瞭	瓦当厚 2.2	瓦当面 褐灰色 瓦当裏 褐灰色	・白濁微粒多量 ・白色微粒多量 ・灰白色粘土マーブ ル状 ・均質	・周縁肩は丸みを持って外に 広がる ・No.20と胎土、弁形が似る
瓦91-461 — 0677	3T 7P09 表土	軒丸瓦 E202	瓦当面 陰刻花弁 瓦当裏 布目無絞り	瓦当厚 2.0	瓦当面 浅黄橙 瓦当裏 浅黄橙	・白濁微粒多量・細 粒少量 ・層状	・周縁幅 7mm ・周縁肩は丸みを持って外に 広がる
瓦91-462 PL. 41-97 0679	3T 7P09 表土	軒平瓦 P004	瓦当面 右偏行唐草。界線2本 凹 布目中 凸 微かな縄目痕跡 額付根付近ヨコナデ 段頸	瓦当高 4.5	瓦当面 にぶい黄橙色 凹 灰白色 凸 灰黃褐色	・白濁微粒多量	凸 ヘラ書き型「馬」カ ・右界線は潰れにより消失 ・額は粘土貼付け ・額近辺に赤色塗彩 ・一部割れ口に二次的煤付着 ・藤岡金山2号窓

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦92-463 PL. 41-98 1085	4T 8059 表土	軒丸瓦 B102カ	瓦当面 二重花弁五葉。子葉あり。界線1本。中房圓線1本、蓮子1+4。笠傷。周縁円周ナデ。一部面取り。范枠の圧痕。肩は角張る 瓦当裏 無絞り布目。突帯なし	瓦当中央厚 1.2	瓦当面 にぶい黄橙色 瓦当裏 暗灰色	・白色微粒多量 ・素地粒 密 ・均質 ・精選	・瓦当直径 19.1cm ・界線直径 13.5cm ・圓線直径 3.8cm ・周縁幅 1.9~2.7cm ・子葉の高さが進弁より高い ・瓦当裏 下半の突帯を削り落したのか2.5cm幅で円周方向ケズリ ・B102と思われるが本品には突帯がない ・笠懸山際窓
瓦92-464 PL. 41-99 0847	11-1ET 8020	軒丸瓦 B103	瓦当面 二重蓮弁五葉。子葉あり。界線1本。中房圓線1本、蓮子1+4 瓦当裏 無絞り布目中。突帯あり 凹 備かに糸切り痕 凸 平行条目太、丸瓦ナメ方向、瓦当側面タテ及びヨコ方向、狭端部は交差、中位より上の側面際及び瓦当から5~10cm幅はナデで消える。タテ方向に稜がある	瓦当厚 1.7 / 1.2 丸瓦厚 2.0 / 1.2 長 38.0 広端径 15.4 狭端径 12.8	瓦当面 にぶい黄橙色 瓦当裏 にぶい黄橙色 凹 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色	・白濁微粒少量 ・瓦の表面灰白色粘土縞状	・粘土巻合 Z ・周縁幅 0.7~1.2cm ・瓦当面直径14.0cm ・界線径 10.8cm ・中房直径 2.4cm ・突帯高 1.1~2.0cm ・丸瓦部のほか瓦当面タテ方向にも平行条目叩きを施す ・瓦当面上部が押されて丸瓦側に入る ・古瓦研No.3 ・山王庵寺跡(この項目は以下では略) ・中房が瓦当面に比して小さい
瓦93-465 PL. 41-100 0857	11-1ET 8010 11-1ET 8020	平瓦	凹 備かに布目中。微かに糸切り痕。回転ヨコナデ→タテナデ 凸 繩目中(条間まばら)、一方向タテ、繩長。糸切り痕	厚 2.2 / 1.8 長 38.8	凹 灰白色 凸 にぶい黄橙色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質	・粘土巻合 Z
瓦93-466 — 0858	11-1ET 8020	平瓦	凹 布目中。備かに糸切り痕。粘土合せ目をユビナデで消す 凸 備かに繩目密、一方向タテ密着、繩長。タテナデ	厚 2.8 / 1.3 長 41.5	凹 灰白色 凸 灰白色	・白濁微粒大量 ・均質 ・層状	・広端に向けて厚くなる
瓦94-467 PL. 41-101 0860	11-1ET 8020	平瓦	凹 布目中。タテナデ糸切り痕。全面自然釉付着 凸 タテナデ。広端面及び広端から約12cm自然釉付着	厚 3.6 / 2.6 長 43.5	凹 灰黄褐色 凸 にぶい黄橙色	・黒褐色微粒大量 ・灰白色粘土マーブル状	・4,510g ・狭端面焼成時の敷藁窓か、狭端面を下にして焼成か。
瓦94-468 — 0862	11-1ET 8020	平瓦	凹 布目中。備かに糸切り痕。布袋引上げ紐痕か 凸 タテナデ。別瓦の布目一部転写	厚 2.8 / 1.9	凹 灰黄褐色 凸 暗灰色	夾雜物大量 ・白濁微粒大量 ・黒褐色微粒多量 ・片岩あり ・灰白色粘土縞状 ・バイ皮状	凸 ヘラ書き型「平」
瓦95-469 — 0863	11-1ET 8020	丸瓦	凹 布目中。微かに糸切り痕。石ハゼ 凸 タテナデ。石ハゼ	厚 2.3 / 2.0	凹 黒褐色 凸 黑褐色	夾雜物大量 ・白濁微粒大量 ・片岩あり	凸 ヘラ書き型「山」
瓦95-470 — 0870	11-1ET 8020	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 タテナデ	厚 1.3 / 1.0	凹 灰黄褐色 凸 灰色	・黒褐色微粒大量 ・素地粒 粗 ・精選	・隅切り瓦カ
瓦95-471 — 0864	11-1ET 8020	丸瓦	凹 布目中。糸切り痕支点あり 凸 タテナデ	厚 3.6 / 2.3 長 39.8	凹 暗灰色 凸 暗灰色	夾雜物大量 ・白濁微粒大量・細粒多量 ・灰白色粘土縞状 ・素地粒 粗	凸 ヘラ書き型「井／」 ・粘土巻合 S
瓦96-472 — 0865	11-1ET 8020	丸瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 タテナデ	厚 3.8 / 2.9	凹 灰黄色 凸 黄灰色 侧面、端面に黒褐色粘土が尾を引く	夾雜物大量 ・白濁微粒大量 ・灰白色粘土縞状 ・素地粒 粗 ・バイ皮状 ・両面に疊が露出	凸 刻印型「口に當」 ・粘土巻合 S
瓦96-473 PL. 42-102 0866	11-1ET 8020	平瓦	凹 布目なし。ヨコナデ→タテナデ 凸 その他格子中2。叩き3段+2段で2列	厚 3.8 / 3.3 長 41.6 狭端径 24.0	凹 灰色 凸 灰色	・白色微粒まぶしたよう ・均質 ・精選	凸 「田」ではなく格子の一部カ ・粘土巻合 Z ・6,730g

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦97-474 — 0867	11-1ET 8020	丸瓦	凹 布目中。タテナデ 凸 平行条目細、広端際 ヨコ方向→ナナメ。側面 際に平行条目残るが頂部 はナデで消える。糸切り 痕	厚 3.0／1.9 長 41.5 幅 21.2	凹 灰色 凸 灰色	・白濁微粒大量 ・黒褐色微粒少量 ・素地粒 密	・5,405g
瓦97-475 — 0936	11-1ET 8020	軒平瓦 Z008カ	瓦当面 平坦 段頭 凸 布目中	瓦当高 3.9	瓦当面 灰褐色 瓦当裏 褐灰色 凹 にぶい赤褐色 凸 褐灰色	・白濁微粒多量 ・灰白色粘土縞状 ・パイ皮状	
瓦97-476 — 0874	11-1ET 8020	平瓦	凹 布目中。木葉状压痕 あり 凸 ヨコナデ。微かに糸 切り痕	厚 2.6／1.1 狭端径 20.4	凹 灰黄褐色 凸 灰黄褐色	・白濁微粒大量・細 粒少量 ・パイ皮状	・凹面木の葉状压痕あり
瓦98-477 — 0875	11-1ET 8020	平瓦	凹 布目中 凸 平行条目→ナデ	厚 2.1／1.3 長 38.4 広端径 24.3	凹 にぶい黄橙色 凸 灰白色	・白濁微粒大量 ・灰白色、褐灰色粘 土縞状	
瓦98-478 PL_42-103 0876	11-1ET 8020	平瓦	凹 布目中。強いユビナ デ数本あり 凸 微かに縄目、一方向 タテ密着、長縄。ヨコナ デ→タテナデ	厚 3.0／1.8 長 42.0	凹 にぶい橙色。褐 灰色 凸 褐灰色	夾雜物大量 ・白濁微粒大量 ・灰白色粘土マーブ ル状	
瓦99-479 PL_43-104 0882	11-1ET 8020	平瓦	凹 布目中 凸 縄目密、一方向タテ 密着、長縄、押圧(ロー ラーか)。離れ砂	厚 2.2／1.8 長 38.8 広端径 29.4 狭端径 26.2	凹 灰白色 凸 褐灰色	・赤褐色微粒多量 ・黒褐色微粒少量 ・灰白色粘土粒 ・精選 ・均質	・凸面狭端際に縄目T字状 ・3,965g
瓦99-480 PL_43-105 0907	11-1ET 8020	丸瓦	凹 布目粗 凸 平行条目、細叩きの 向きが左側面は直交、中 央寄りは左下斜、右側面 際は左上斜。タテナデ	厚 2.1／1.8 狭端径 16.0	凹 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色	・白濁微粒大量	
瓦100-481 — 0891	11-1ET 8020	平瓦	凹 布目密 凸 縄目中、一方向タテ 密着、縄長、押圧(ロー ラーか)。離れ砂	厚 2.0／1.8 狭端径 27.4	凹 灰白色 凸 にぶい黄橙色	・黒褐色微粒大量 ・灰白色粘土断面及 び側面に縞状 ・均質 ・精選 ・素地粒 粗	・凸面狭端際に縄目T字状
瓦100-482 — 0909	11-1ET 8020	丸瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 平行条目、ナナメ同 一方向に何回も重ね打 ち。微かに糸切り痕	厚 2.7／2.2	凹 灰黄褐色 凸 灰黄褐色 側面 黒色、灰白色 粘土尾を引く	夾雜物大量 ・白濁微粒大量・細 粒多量 ・灰白色粘土マーブ ル状	
瓦100-483 — 0913	11-1ET 8020	丸瓦	凹 布目中。ナナメナデ 凸 素文。ヨコナデ	厚 2.7／2.3 長 32.7	凹 黑褐色 凸 褐灰色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	・長さの短い丸瓦
瓦101-484 PL_43-106 0908	11-1ET 8020	丸瓦	凹 布目中。袋綴じ。布 袋引き上げ紐痕 凸 回転ヨコナデ	厚 1.9／1.1 長 38.8 広端径 22.7	凹 炭素吸着 凸 炭素吸着	・白色微粒少量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	・凹凸面二次的灰付着
瓦101-485 — 0918	11-1ET 8020	丸瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 回転ヨコナデ(ヘラ)	厚 2.1／1.0 広端径 19.9	凹 褐灰色 凸 灰黄褐色	・白色微粒少量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	・粘土巻合せ Z ・破面d+凸面から
瓦102-486 — 0919	11-1ET 8020	丸瓦	凹 布目中 凸 長方形格子中、全面 重ね打ち→一部ヨコナ デ、側面に対し弓なりに 打つ	厚 2.2／2.0 長 40.9 広端径 40.9	凹 にぶい黄橙色 凸 灰白色	・白濁微粒多量 ・灰白色粘土粒	・粘土巻合せ S
瓦102-487 — 0915	11-1ET 8020	丸瓦	凹 布目中。自然釉付着 凸 タテナデ。自然釉付 着	厚 2.4／1.6 長 39.7	凹 暗灰色 凸 暗灰色	・黒褐色微粒大量 ・白濁微粒多量	・粘土巻合せ Z ・広端際右側部斜めに切落し ・右側部内側に歪む
瓦103-488 — 0922	11-1ET 8020	軒丸瓦 新 a108	瓦当面 一重單弁四葉。子葉あ り。界線1本。中房圓線2 本、蓮子1+4 瓦当裏 ナデ。丸瓦接合部ティネ イナナデ。突端なし 凹 布目中 凸 縄目中、縄長→タテ ケズリ	瓦当厚 1.9／1.6 丸瓦厚 2.2／1.3	瓦当面 灰黃褐色 瓦当裏 褐灰色 凹 褐灰色 凸 褐灰色	・黒褐色微粒多量 ・赤褐色微粒多量 ・僅かに灰白色粘土 縞状 ・均質 ・精選	・A系技法 ・花弁は細い隆線 ・子葉は短い二等辺三角形 ・中房直徑 6.5cm、5.0cm ・T字状の間弁 ・范に粘土をつめたときのつ ぎめが見える ・瓦当范木理、范キズあり ・周縁、界線と同じ太さ(3 mm) ・国分寺縁辺

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦103-489 — 0924	11-1ET 8020	平瓦	凹 布目中 凸 微かに糸切り痕→タ テナデ	厚 1.6／1.4	凹 灰黄褐色 凸 褐灰色	・白濁微粒大量 ・素地粒 粗	凸 ヘラ書き型「十」
瓦103-490 — 0929	11-1ET 8020	丸瓦	凹 布目中。微かに糸切 り痕。自然釉付着 凸 自然釉付着	厚 2.7／1.9	凹 灰色 凸 暗灰色	夾雜物多量 ・白濁微粒大量 ・灰白色粘土縞状 ・マーブル状	凸広端隅 ヘラ書き型記号
瓦104-491 — 0925	11-1ET 8020	平瓦	凹 布目中 凸 素文。タテナデ	厚 2.7／2.4	凹 灰黄褐色 凸 褐灰色	夾雜物多量 ・白濁微粒大量・細 粒多量 ・灰白色粘土パイ皮 状	凸 ヘラ書き型「子友」
瓦104-492 — 0927	11-1ET 8020	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 タテナデ。微かに糸 切り痕	厚 2.0／1.1	凹 炭素吸着 凸 炭素吸着	・白濁微粒多量 ・灰白色粘土縞状 ・パイ皮状 ・素地粒 密	凹 ヘラ書き型「子」 ・No.493と胎土、文字が似る
瓦104-493 PL. 44-107 0928	11-1ET 8020	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 タテナデ	厚 1.6／1.4 長 42.3	凹 にぶい橙色 凸 オリーブ褐色	夾雜物多量 ・白濁微粒大量 ・灰白色粘土縞状 ・パイ皮状 ・素地粒 密	凹 ヘラ書き型「子子」 ・No.492と胎土、文字が似る
瓦104-494 — 0941	11-1ET 8020	軒平瓦 新 u002	瓦当面 范による二重の 鋸齒文 段顎	—	瓦当面 にぶい褐色 瓦当裏 灰褐色	夾雜物少量 ・白濁微粒微量 ・赤褐色微粒微量 ・灰白色粘土縞状 ・均質	・尼寺昭和。住コレ
瓦105-495 PL. 44-108 0930	11-1ET 8020	軒丸瓦 B103	瓦当面 二重花弁五葉。子葉あ り。中房圓線1本、蓮子 1+4。界線1本 瓦当裏 突帶あり 凸 平行条目細、瓦当周 縁に平行、瓦当侧面に斜 め	瓦当厚 1.6／1.2	瓦当面 にぶい黄橙 色 瓦当裏 にぶい黄橙 色	・黒褐色微粒・細粒 少量 ・灰白色と褐灰色粘 土が互層 ・瓦当面に灰白色粘 土粒あり	・瓦当面直径 15.2cm ・界線直径 10.4cm ・中房直径 2.3cm ・突帶高 2.7cm ・瓦当裏中央膨らむ、丸瓦接 合部に布が入る ・瓦当と丸瓦接合部にスキ間 あり
瓦105-496 PL. 44-109 0931	11-1ET 8020	軒平瓦 P010	瓦当面 右偏行唐草だが一部逆向 き。界線2本 額と平瓦の付根ヨコナデ 凹 布目中 段顎と三角形顎の中間形	平瓦厚 2.1／2.0	瓦当面 灰白色 凹 灰白色 凸 灰白色	・黒褐色微粒大量 ・白濁微粒多量 ・灰白粘土粒縞状	・途中で范が割れたか、文様 面の高さが異なる ・頸部貼付け
瓦105-497 — 0932	11-1ET 8020	丸瓦	凹 布目中。粘土紐接合 痕あり。袋布引上げ紐 痕。中央に分割棒痕か 凸 タテナデ。一部自然 釉付着	厚 1.8／1.5 広端径 19.2	凹 暗灰色 凸 暗灰色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	・紐作り、桶巻作り ・粘土巻合せ SZ不明
瓦106-498 PL. 44-110 0910	11-1ET 8020 瓦溜り	丸瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 素文。タテナデ	厚 2.3／1.5 長 42.6	凹 灰黄褐色 凸 灰黄褐色	・白濁微粒多量 ・灰白色粘土層状 ・素地粒 粗	
瓦106-499 — 0911	11-1ET 8020	丸瓦	凹 タテナデ。凹凸はあ るがティネイなナデで粘 土紐接合痕を消す 凸 ヨコナデ→タテナデ	厚 1.9／1.3 長 37.2	凹 灰色 凸 暗灰色	・白濁微粒大量 ・黒褐色微粒多量 ・素地粒 粗	・泥条盤築技法 ・広端凸面にU字状の溝 ・両端面とも肩に丸味はない
瓦107-500 PL. 44-111 0937	11-1ET 8020	軒平瓦 P002	瓦当面 右偏行唐草。界線1本。 外区珠文小さなもの1個 顎 ヨコナデ 三角形顎 凹 布目中。糸切り痕。 粘土合せ目。瓦当面上ヨ コナデ 凸 長方形格子中。タテ ナデ	瓦当高 5.3 平瓦厚 3.2／2.6 広端径 29.1	瓦当面 灰色 凹 灰色 凸 灰色	・白濁微粒大量 ・黒褐色微粒多量 ・均質 ・素地粒 粗	・頸赤色塗形 ・瓦当面右隅は粘土を貼り足 したのか文様が潰れる ・笠懸山際窓
瓦107-501 PL. 45-112 0923	11-1ET 8020	平瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 ヨコナデ一部タテナ デ。叩き3段+2列。羽状	厚 1.8／0.9 長 41.7	凹 灰黄褐色 凸 灰褐色	・白色微粒多量 ・1cmを超える角疊複 数あり	凸 格子一体型不明文字 ・粘土巻合せ S ・石ハゼ ・縦軸のない退化した格子が 文字を囲んでいる。 ・元總社蒼海(116)

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦108-502 — 1386	11-1ET 8N100	平瓦	凹 布目中。側板压痕 (不明瞭) 凸 優かに縄目中、一方 向タテ密着、縄長。ヨコ ナデ	厚 2.2 / 1.9	凹 にぶい黄橙色。 一部炭素吸着 凸 にぶい黄橙色 一部炭素吸着 凹凸 二次的に端部 際5.5cm幅は炭素吸 着せず	・白濁微粒多量・礫 微量 ・1.0cm大礫あり ・素地粒 粗 ・均質	
瓦108-503 — 1389	11-1ET 8N100	丸瓦	凹 莓藻目 凸 ヨコナデ	厚 1.7 / 1.5	凹 灰黄色 凸 灰黄色	微小次雜物大量 ・白濁微粒大量 ・白色微粒多量 ・素地粒 粗	
瓦108-504 — 1388	11-1ET 8N100	軒平瓦 P001	瓦当面 右偏行唐草。界線1本。 外区珠文あり。細い石目 地 継い段顎 凹 ヨコナデ 瓦当上面 ヨコナデ 顎面と凸面 ヨコナデ	—	凹 黄灰色 凸 黄灰色	・黒褐色微粒多量 ・白色微粒大量 ・均質 ・精選	・右下隅と右から2番目の珠 文は界線と傷でつながる ・顎赤色塗彩 ・一部二次的な灰付着 ・笠懸鹿ノ川窯
瓦108-505 — 0950	11-1WT 9001	有段式 丸瓦	凹 布目中。糸切り痕 凸 優かに縄目中、一方 向タテ密着、縄長。ヨコ ナデ	丸瓦厚 2.8 / 1.7 丸瓦狹端径 19.3 玉縁長 8.1	凹 炭素吸着 凸 炭素吸着	夾雜物大量 ・白濁微粒多量 ・赤褐色微粒多量 ・2.0cm礫あり	・C2a
瓦108-506 — 0956	11-1WT 9N91	軒丸瓦 判別不 能	瓦当面 二重花弁。子葉不明。界 線1本。周縁ナデ 瓦当裏 布目なし。ヨコナデ。丸 瓦接合部円周ナデ	瓦当厚 3.7	瓦当面 にぶい橙色 瓦当裏 棕灰色	・黒褐色微粒多量 ・白濁微粒多量 ・均質	・周縁幅 1.0~1.5cm
瓦108-507 — 0990	11-1WT 9N91	平瓦	凹 ヨコナデ→タテナデ 凸 格子ヘラ描	厚 2.5 / 2.2	凹 炭素吸着 凸 炭素吸着	・白色微粒多量 ・素地粒 粗 ・均質	
瓦108-508 — 1003	11-1WT 9001 地業内	丸瓦	凹 布目密。僅かに糸切 り痕 凸 微かに縄長→ヨコナ デ。自然釉付着	厚 1.5 / 1.4	凹 灰色 凸 灰色	・白濁微粒多量 ・灰白色粘土マーブ ル状	・端部寄り歪む
瓦108-509 PL. 45-113 1398	11-1ET 8020 表土	軒平瓦 R003	瓦当面 流水紋 低い段顎 凹 布目中。瓦当上面ヨ コナデ 凸 顎と顎付根部分平瓦 ヨコナデ	瓦当高 3.2 平瓦厚 1.9	瓦当面 灰色 凹 灰色 凸 オリーブ黒色	・白濁微粒多量 ・僅かに灰白色粘土 縞状	・顎、平瓦赤色塗彩 ・瓦当面の高さが低いため範 の上部は切れている
瓦109-510 PL. 45-114 1403	8-1ST 7M10 表土	鬼瓦 新	表面 曲線的に立ち上がる。周 縁(幅1.1cm高さ0.6cm)の 内側に竹管状珠文。ティ ネイなナデ 裏面 布目痕の上をナデ 側面 直線的ではなく下半分が 内側に入る。ナデ。	高 3.7	表面 炭素吸着 裏面 炭素吸着	・黒褐色微粒少量 ・赤褐色微粒微量 ・僅かに灰白色粘土 縞状 ・断面に粘土貼り合 せ(重ね)痕	
瓦109-511 PL. 45-115 0969	11-1WT 9N81	鬼瓦 新	表面 型を用いず手作り。周縁 の内側に高さ6.2cm以上 (伴う窪み底部から2.5cm 以上)の隆帶で顔の一部 を造る。窪み部はナデ 裏面 粗い仕上げで粘土接合痕 残す 側面 平滑な仕上げではなく指頭 圧の窪みと粘土接合痕を 残してヨコナデ	周縁高 4.5	表面 橙色 裏面 橙色	微粒夾雜物大量 ・白濁微粒大量 ・均質 ・素地粒 粗	
瓦109-512 — 1169	13-1T 7029 表土	鬼瓦 新	表面 幅1.6cmの周縁、その内 側に隆線で区画された珠 文帯。珠文頂部は平坦で 厚さ1.5mm、径は1.8cm × 1.5cm。周縁僅かに糸切 り痕 裏面 布目中。糸切り痕。平坦 側面 周縁肩に小さな丸み。中 位から内側へ斜めに入 る。底面隙を幅5mmで面 取り	厚 3.3	表面 黄灰色 裏面 黄灰色	夾雜物大量 ・白濁微粒大量・細 粒多量 ・灰白色粘土縞状 ・片岩	・僧寺C類に似るが、C類は珠 文基部をヘラ書きしている点 が異なる

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦109-513 PL. 45-116 1170	13-1T 7029 表土	鬼瓦	側面内側に珠文帯。珠文 径2.0cm。基部周縁をナ デ 裏面 布目中 側面 高さ3.7cm。ヨコナデ	表面 周縁幅1.0、高さ0.8 厚 2.5	表面 炭素吸着 裏面 炭素吸着	・黒褐色微粒多量 ・赤褐色微粒多量 ・均質 ・素地粒 粗	
瓦109-514 PL. 45-117 1120	13-1T 7029 表土	鬼瓦 A類	珠文帯の幅は2.7cm、珠 文は直径1.5cm高さ0.4 cm。周縁はティネイナナ デ。範型による 裏面 布目中。微かに糸切り 痕。縁を0.5cm幅で面取 り状にケズリ 側面 表面寄りは直立するケズ リ。裏面内側に向って斜 めケズリ	表面 周縁幅は頂部寄り広 <(2.5cm)肩から細く (1.2cm)なる。 厚 3.1	表面 にぶい橙色 裏面 暗灰色	夾雜物大量 ・白濁微粒大量・細 粒多量・1.2cm大の礫 あり ・いくつかの粘土塊 を使用したためか割 れ口の部位によつて 異なるが、灰白色粘 土がマーブル状、パ イ皮状となる部分あ り	・尼寺昭和で中門跡と想定さ れた7トレンチ出土と同范
瓦109-515 — 1171	13-1T 7029 表土	鬼瓦 新	表面 隆帯の剥離痕あり。ナデ 裏面 水平ではなく途中から小 さく斜めに上がる。ナデ	厚 2.8 / 2.6	表面 炭素吸着 裏面 炭素吸着	・黒褐色微粒多量 ・白濁微粒少量 ・灰白色粘土綱状	
瓦109-516 — 1042	11-2T 9N21 表土	鬼瓦 新	表面 緩く湾曲した凸面(表)か ら凹面(裏)まで焼成前に 穿孔。鬼の目か。穿孔径 は表側が裏側より大きい 漏斗状 裏面 僅かに布目中。ナデ	厚 2.1 / 1.9	表面 灰色 裏面 にぶい褐色	・白色微粒多量 ・均質 ・精選 ・素地粒 粗	
瓦110-517 — 0777	9ST 7037 表土	鬼瓦 新	表面 裏面まで焼成前に直径 1.5cmの釘穴を穿孔す る。ナデ 裏面 僅かに布目中。ナデ	厚 4.3	表面 灰色 裏面 灰色	微粒夾雜物大量 ・白濁微粒大量 ・灰白色粘土綱状 ・層状	・伽藍地北辺築垣内側
瓦110-518 PL. 45-118 0526	8-3NT 7M53	不明 瓦製品	片面が剥離しているため 残存面を上面とする 上面 タテナデ。幅2.0~3.0cm の帯状の凹みが2条あ り、側部際も低くなつて 側面に続く 側面 緩く曲がり、下面に向つ て斜めに入る 下面 剥離と思われるが面は平 坦	厚 2.5 / 2.3	表面 灰色 裏面 灰白色	・白濁微粒微量 ・黒褐色微粒少量 ・素地粒 密 ・均質 ・精選	
瓦110-519 — 0694	3T 8091	瓦製品	残存面ナデ調整。焼成前 円形に穿孔	残存部厚 1.6	残存面 灰色 剥離面 浅黄色	夾雜物少量 ・白色微粒少量 ・均質	・剥離により片面のみ残存
瓦111-520 PL. 45-119 0304	5-2NT 5Q39	瓦製品 (鳥 巣カ)	離面 布目中 側面 ヨコナデ	残存 3.3	離面 炭素吸着 側面 炭素吸着	・白濁微粒少量 ・黒褐色微粒少量 ・均質	・側面の向きに対して離面の 方向は斜め ・円形側面と布目のある離面 の一部のみ残存
瓦111-521 — 1178	13-1T 7039 表土	面戸瓦	凹 布目中 凸 タテケズリ	厚 2.8cm	凹 黄灰色 凸 黄灰色	・白濁微粒多量・細 粒少量 ・黒褐色微粒・細粒 少量 ・素地粒 粗 ・均質 ・層状	・焼成前に成形
瓦111-522 PL. 45-120 1172	13-1T 7029 表土	瓦埠	表面 平滑なナデ。ヘラ状工具 を使用か。 裏面 僅かに布目中。ナデ。微 かに糸切り痕。平坦だが 表面に比べると粗い仕上 げ。粘土合せ目の亀裂が 残る。 側面 ナデ調整。粗い仕上げで 凹凸を残す	厚 4.7 / 4.5	表面 黄灰色 裏面 暗灰黄色	夾雜物大量 ・白濁微粒大量・細 粒多量	・型枠に粘土を詰めて成形し たためか側面際は斜めに粘土 の流れがはっきりしている

図番号 写真番号 整理番号	出土地	瓦種	観察
瓦112-523 PL. 46-121 1004	11-1WT 9N74	瓦塔 初層軸部	<p>二重基壇、方三間の造り 初層軸部の破片2片からなり、A片は基壇・柱・壁、B片は二層目受け部・柱・壁が残っている。A・B片の胎土・焼成・塗彩の状況から同一個体と認められる。復元にあたっては東村山瓦塔(下註)を基に復元した。</p> <p>法量 高さ30.1cm。上基壇 長さ21.6cm、高さ1.4cm(奥)。下基壇 長さ23.6cm、高さ0.9cm(奥)。柱間 5.5cm (壁)+6.9cm(入口)+5.5cm(壁)。軸ずり 0.4cm×0.5cmの隅丸長方形、深さ0.5cm。壁厚さ 0.8~1.2cm 色調 表面 にぶい橙色、裏面 にぶい橙色 胎土 白色微粒多量・細粒少量、白濁微粒多量、黒褐色微粒少量、赤褐色微粒少量 備考 A片 入口脇に幅0.8cm、厚さ0.6cmの角柱を貼り付ける。基壇の後ろに底面から壁を貼り付ける。内壁は底面から2.5cmまでヨコケズリ、ナデを施し、それより上はヨコナデとユビ押さえ。 B片 二層軸受け下に斗供の剥離痕あり。上面から下3.5cmまでヨコヘラケズリ、ナデを施し、それより下はタテナデとユビ押さえ。 A・B片に共通 円柱に近い部位の内壁は強く押された凹みがあり、壁と一体で作られた円柱のところで他方の壁を接合する。柱・基壇正面に赤色塗彩、外壁に白色塗彩を施す。 註 『瓦塔調査報告書』東京都東村山市教育委員会 1997</p>
瓦113-524 — 0032	2T 5N90 表土	瓦塔 屋蓋	<p>屋蓋 半截竹管状工具により丸瓦のみ表現。丸瓦は上幅0.67cm、下幅0.79cm、高さ0.48cmで組目は1節で、上段より下段が低くなる。 軒裏 垂木は一軒。断面逆台形で上幅1.14cm、下幅1.34cm、高さ0.48cm。垂木は切り出しと思われるが明確な切り出し線はない。軒先は先端から内側に向って斜めに下る。 色調 裏面 にぶい橙色、表面 にぶい橙色 胎土 微粒夾雜物を多量に含む。白濁微粒微量、白色微粒微量、赤褐色微粒微量、黒褐色微粒微量、小礫あり、素地粒粗</p>
瓦113-525 — 0118	3T 8P36 表土	瓦塔 屋蓋	<p>屋蓋 半截竹管状工具により丸瓦のみ表現。丸瓦頂部やや平坦。上幅0.66cm、下幅0.86cm、高さ0.4cm。丸瓦縫目は不明。 軒裏 剥離のため垂木は不明。 色調 屋蓋 炭素吸着、軒裏 にぶい橙色 胎土 白濁微粒微量、赤褐色微粒微量、黒褐色微粒微量</p>
瓦113-526 — 0695	3T 8091 表土	瓦塔 軸部の 柱カ	<p>法量 厚1.5cm。柱部 幅1.5cm、厚0.6cm 色調 表面 橙色、裏面 橙色 胎土 白濁微粒多量、黒褐色微粒多量、赤褐色微粒多量、素地粒粗 備考 柱部(凸部)貼付け後、側面をヘラケズリ。柱の一部としたが、斗供の可能性もある。</p>
瓦113-527 PL. 47-122 0693	3T 7058	瓦塔 屋蓋	<p>屋蓋 半截竹管状工具により丸瓦と隅降棟を表現。平瓦は無い。丸瓦は長さ2.0~2.8cm、高さ0.4cm、下幅1.1cmの半円形で縫目は4筋。並びの筋目はやや不揃いで、特に3段目から下の丸瓦は左方(隅降棟)側に向いている。隅降棟は下幅約2.0cm、高さ0.6cmだが、途中を深く削ることで2か所の突出部を持つ。稚児棟を表したか。天井は屋根側を幅約1.5cmで斜めに削り、内側は平坦だが中心孔は不明。 軒裏 削り出しの垂木が一軒と貼付けと思われる隅木がある。垂木は軒先から1.8cm内側に切り出し用目印があり、そこから上幅1.5cm、下幅1.7cm、高さ0.3cmの垂木が軒先と同じく切り出し用目印に沿って削り出されている。垂木の間隔は垂木幅とほぼ同じ1.8cmで、疎垂木。隅木は断面台形で軒先に向って幅が太くなる。軒裏は天井に向って緩い曲線。 色調 軒裏 にぶい黄橙色、屋蓋表 にぶい黄橙色 胎土 白色微粒多量、白濁微粒少量、赤褐色微粒微量、均質、素地粒粗</p>

## 土器類

():復元値、[]:残存値

※出土レベルは堅穴建物跡床面からの高さ

No	出土場所	器種	法量(cm)	①残存 ②色調 ③胎土、焼成の特徴	成・整形技法の特徴	出土位置 出土レベル
1	1T	土師器 杯	口径 11.0 底径 - 器高 [3.65]	①1/5残 ②橙色	外面 体部範削り、口縁部横撫で。 内面 体部範撫で、口縁部横撫で。/体部と口縁部を画す稜線から口縁部に向けて外傾気味に立ち上がる。	5O-16
2	1T	須恵器 蓋	口径 13.3 摘要 3.1 器高 2.4	①2/3残 ②灰白色	外面 天井部範削り、体部輪轍整形、口縁部横撫で。 内面 天井部から口縁部輪轍整形。/水平な天井部から緩やかに湾曲する口縁部に至り、つまみ出した短い返りが付く。	5O-14
3	1T	須恵器 杯	口径 - 底径 - 器高 [3.6]	①口縁部破片 ②にぶい褐色 ③酸化焰焼成	外面 体部輪轍整形、口縁部横撫で。 内面 体部輪轍整形後範撫で。 墨書き(文字不明)。	5N-96
4	2T	須恵器 椀	口径 9.8 底径 5.1 器高 3.2	①完形 ②橙色 ③酸化焰焼成	外面 体部輪轍整形後撫で調整、口縁部横撫で、底部回転糸切り。 内面 体部輪轍整形、口縁部横撫で。 小型で体部が直線的に外反。	5N-88
5	3T (679)	土師器 杯	口径 (14.5) 底径 - 器高 [3.4]	①1/6残 ②橙色	外面 体部範削り、口縁部横撫で。 内面 体部範撫で、口縁部横撫で。 内湾する体部から外反気味の口縁部に至る。	8P-3
6	3T (679)	土師器 杯	口径 14.3 底径 - 器高 3.6	①3/4残 ②褐灰色	外面 底部から体部範削り、口縁部横撫で。 内面 底部から体部範撫で、口縁部横撫で。/体部と口縁部を画す稜線から口縁部に向けて外傾気味に立ち上がる。	-
7	3T (679)	須恵器 杯	口径 (12.0) 底径 (5.3) 器高 [3.5]	①1/2残 ②にぶい橙色 ③酸化焰焼成	外面 体部輪轍整形後範撫で、口縁部横撫で。底部糸切り後範調整。 内面 底部から体部輪轍整形後範撫で。 底部径小さく、体部直線的に外反。内面に煤付着。	8O-93
8	3T (679)	須恵器 椀	口径 (15.6) 底径 (8.5) 器高 [5.5]	①1/4残 ②灰色	外面 体部輪轍整形、口縁部横撫で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輪轍整形、口縁部横撫で。 直線的な体部で、断面台形の低い高台を付す。	8P-71
9	3T (679)	須恵器 椀	口径 (16.55) 底径 (8.7) 器高 [4.6]	①1/4残 ②暗灰色 ③焼成か	外面 体部輪轍整形、口縁部横撫で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輪轍整形、口縁部横撫で。/体部僅かな丸みを持って大きく外反する。断面台形の低い高台を付す。	8P-21
10	4T	須恵器 蓋	口径 - 底径 - 器高 [2.6]	①体部破片摘要部欠損 ②灰色	外面 天井部輪轍整形。 内面 天井部輪轍整形。/浅い直線的な体部から一旦下方に曲がり括れる口縁部に至る。大型。	8P-40
11	4T	須恵器 杯	口径 13.7 底径 7.1 器高 3.4	①3/4残 ②灰白色	外面 体部輪轍整形、口縁部横撫で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輪轍整形、口縁部横撫で。 体部中位に膨らみを持ち、口縁部が反り気味に開く。	8P-78
12	4T	灰釉陶器 皿	口径 - 底径 (7.7) 器高 [1.4]	①底部破片 ②灰白色	外面 輪轍整形、底部に回転範撫で調整。 内面 輪轍整形。	9P-21
13	4T	灰釉陶器 皿	口径 - 底径 (8.1) 器高 [1.3]	①底部破片 ②灰白色	外面 輪轍整形、底部に回転範撫で調整。 内面 輪轍整形。 崩れた三日月状の高台を付す。内面に重ね焼き痕あり。	9P-42
14	4T	土師器 甕	口径 (20.0) 底径 - 器高 [18.5]	①口縁部～胴部破片 ②にぶい橙色	外面 胴部範削り、口縁部横撫で。 内面 胴部範撫で、口縁部横撫で。 胴部に膨らみがなく、口縁部外反。	9P-61
15	5-1T	土師器 杯	口径 (11.2) 底径 - 器高 [3.1]	①1/3残 ②橙色	外面 底部から体部範削り、口縁部横撫で。 内面 底部から体部範撫で、口縁部横撫で。 底部から体部緩やかに湾曲、口縁部短く直立。	6Q-32
16	5-1T	土師器 杯	口径 (11.0) 底径 - 器高 [2.9]	①口縁部～体部破片 ②橙色	外面 底部から体部範削り、口縁部横撫で。 内面 底部から体部範撫で、口縁部横撫で。 体部と口縁部を隔する稜線を持つ。	6Q-32
17	5-1T	須恵器 杯	口径 8.45 底径 4.5 器高 2.55	①完形 ②灰白色	外面 体部輪轍整形後撫で調整、口縁部横撫で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輪轍整形、口縁部横撫で。/小形杯。内側に僅かな紅付着。底部厚く、糸切り縦。体部緩やかに外反。	6Q-22
18	5-1T	土師器 杯	口径 (12.0) 底径 - 器高 [3.3]	①1/5残 ②橙色	外面 底部から体部範削り、口縁部横撫で。 内面 底部から体部範撫で、口縁部横撫で。 底部から体部緩やかに湾曲、口縁部短く直立。	6Q-22
19	5-1T	須恵器 椀	口径 (12.4) 底径 4.9 器高 [4.6]	①2/3残 ②灰白色	外面 体部輪轍整形、口縁部横撫で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輪轍整形、口縁部横撫で。 平底、直線的な深い体部で口縁部外傾。	6Q-22
20	5-1T	須恵器 椀	口径 (14.0) 底径 6.1 器高 [5.6]	①2/3残 ②にぶい黄橙色 ③小石を多く含む。	外面 体部輪轍整形、口縁部横撫で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輪轍整形、口縁部横撫で。/僅かな膨らみを持つ深い体部で口縁部外傾。内面底部に重ね焼き痕あり。	6Q-22
21	5-1T	須恵器 椀	口径 - 底径 - 器高 [2.1]	①底部のみ残高台部欠損 ②にぶい黄褐色	外面 体部輪轍整形、底部回転糸切り後範調整。 内面 底部から体部輪轍整形。	6Q-62
22	5-1T	土師器 杯	口径 (13.2) 底径 (8.0) 器高 [2.9]	①1/4残 ②にぶい褐色	外面 体部範削り、口縁部横撫で。 内面 底部から体部範撫で、口縁部横撫で。/平底の底部から体部下位に僅かな膨らみを持つ。口縁部指撫で、横撫で。	5Q-28
23	5-2T	須恵器 杯	口径 9.8 底径 4.6 器高 2.1	①完形 ②浅黄橙色 ③酸化焰焼成	外面 体部輪轍整形、口縁部横撫で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輪轍整形、口縁部横撫で。 上げ底。底部突出気味、体部浅く厚みがあり外反。	28.7cm

## 土器類

():復元値、[]:残存値

No	出土場所	器種	法量(cm)	①残存 ②色調 ③胎土、焼成の特徴	成・整形技法の特徴	出土位置 出土レベル
24	5-2T	須恵器 杯	口径 (9.0) 底径 4.2 器高 [1.8]	①1/3残 ②浅黄橙色	外面 体部輦轔整形、口縁部横撫で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輦轔整形、口縁部横撫で。 平底。体部浅く緩やかに外反。	34.6cm
25	5-2T	須恵器 杯	口径 (8.6) 底径 4.2 器高 [1.7]	①2/3残 ②橙色 ③酸化焰焼成	外面 体部輦轔整形、口縁部横撫で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輦轔整形、口縁部横撫で。/平底。底部突出 気味、体部浅く皿状、下位は水平で稜線を持ち外反。	35.6cm
26	5-2T	須恵器 蓋	口径 - 摘み 4.1 器高 [2.2]	①摘み部～体部破片 ②灰白色	外面 摘みボタン状。天井部から体部回転箝削り。 内面 天井部から体部輦轔整形。	55.6cm
27	5-2T	須恵器 杯	口径 (13.2) 底径 (7.0) 器高 [4.5]	①1/3残 ②外-灰色、内-灰白色	外面 体部輦轔整形、口縁部横撫で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輦轔整形、口縁部横撫で。 平底の底部から体部直線的に外反。	5Q-38
28	5-2T	灰釉陶器 椀	口径 - 底径 (7.0) 器高 [1.35]	①底部破片 ②灰白色	外面 底部回転撫で調整。 内面 体部に灰釉。 高台断面台形。	5Q-38
29	5-2T	須恵器 大甕	口径 (37.8) 底径 - 器高 [23.5]	①口縁部～胴部破片 ②灰白色	外面 胴部平行叩き目、口縁部輦轔整形後箝調整。 内面 胴部叩き目、口縁部輦轔整形後箝調整、指頭撫で？ 胴部大きく開き球状、口縁部外反し口唇部二段口唇。	5Q-39
30	6-1T	須恵器 杯	口径 (12.5) 底径 (8.0) 器高 [3.1]	①1/2残 ②灰黄色	外面 体部輦轔整形、口縁部横撫で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輦轔整形、口縁部横撫で。 平底の底部から体部直線的に外反。	5P-28
31	6-2T SI1	須恵器 椀	口径 11.1 底径 5.8 器高 4.8	①完形 ②灰白色	外面 体部輦轔整形、口縁部横撫で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輦轔整形、口縁部横撫で。 体部歪み強く、丸く湾曲し、口縁部外傾。煤付着。	10.8cm
32	6-2T SI1	須恵器 壺	口径 - 底径 (16.9) 器高 (9.0)	①底部～胴部破片 ②灰白色	外面 胴部カキ目、底部回転糸切り。 内面 胴部輦轔整形。 胴部直線的に外反。	床面直上
33	6-2T SI1	羽釜	口径 (21.0) 底径 - 器高 [8.0]	①口縁部～胴部破片 ②にぶい赤褐色 ③酸化焰焼成	外面 胴部回転箝調整、口縁部横撫で。 内面 胴部箝調整、口縁部横撫で。/緩やかな膨らみを持つ胴部から 断面三角形の鍔を経て緩やかに内湾する口縁部に至る。口唇部平坦。	6.2cm
34	6-2T	須恵器 蓋	口径 (14.0) 摘み - 器高 [2.2]	①口縁部～体部破片 ②灰白色	外面 天井部から体部輦轔整形後箝調整、口縁部横撫で。 内面 天井部から体部輦轔整形、口縁部横撫で。/水平な天井部から 緩やかに湾曲して口縁部に至り、つまみ出した短い返りが付く。	5O-68
35	6-2T	須恵器 杯	口径 12.7 底径 6.9 器高 4.5	①口縁部一部欠損 ②外-灰 色、内-灰白色	外面 体部輦轔整形、口縁部横撫で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輦轔整形、口縁部横撫で。 平底から体部直線的に外反。	5O-68
36	6-2T	須恵器 杯	口径 (14.4) 底径 7.0 器高 [2.8]	①2/3残 ②灰白色	外面 体部輦轔整形、口縁部横撫で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輦轔整形、口縁部横撫で。 上げ底の底部から緩やかに内湾し、口縁部にかけて外反。	5O-67
37	6-2T	羽釜	口径 28.0 底径 - 器高 [5.6]	①口縁部～胴部破片 ②灰褐色 ③酸化焰焼成	外面 胴部回転箝調整、口縁部横撫で。 内面 胴部回転箝調整。/やや上向きの崩れた台形の鍔を経て、 内傾する口縁部に至る。口唇部平坦。	5O-66
38	6-2T	須恵器 杯	口径 (10.8) 底径 5.6 器高 [3.6]	①1/2残 ②淡黄色 ③酸化焰焼成	外面 体部輦轔整形、口縁部横撫で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輦轔整形、口縁部横撫で。 上げ底の底部から体部直線的に外反し口縁部外傾。	5O-70
39	6-2T	灰釉陶器 椀	口径 (16.9) 底径 (9.0) 器高 [6.6]	①1/3残 ②灰白色	外面 体部輦轔整形、口縁部横撫で、底部回転撫で調整。 内面 底部から体部輦轔整形、口縁部横撫で。/断面V字状の開いた 高台から丸みを持つ深い体部に至る。口縁部外傾。	5O-70
40	6-2T	灰釉陶器 椀	口径 (13.4) 底径 (7.7) 器高 [4.2]	①1/3残 ②灰白色	外面 体部輦轔整形、口縁部横撫で、底部回転箝調整。 内面 底部から体部輦轔整形、口縁部横撫で。 断面三日月状の高台から体部緩やかに湾曲し外反。	5O-70
41	7-3T	須恵器 杯	口径 (11.3) 底径 6.1 器高 [4.5]	①2/3残 ②灰白色	外面 体部輦轔整形、口縁部横撫で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輦轔整形、口縁部横撫で。/平底気味の底部から 体部緩やかに外反し、口縁部一部歪んで外傾。	7L-70
42	7-3T	須恵器 杯	口径 - 底径 5.6 器高 [1.9]	①底部～体部破片 ②橙色 ③ 酸化焰焼成	外面 体部輦轔整形、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輦轔整形。 平底の底部から体部直線的に外反。	7L-70
43	7-3T	須恵器 杯	口径 - 底径 6.8 器高 [2.4]	①底部～体部破片 ②灰色	外面 体部輦轔整形、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輦轔整形。 平底気味の底部から体部緩やかに湾曲。	7L-69
44	8-2T	土師器 杯	口径 12.2 底径 6.3 器高 4.0	①口縁部一部欠損 ②明赤褐色	外面 体部箝削り、指撫で、口縁部横撫で、底部箝削り。 内面 底部から体部箝撫で、口縁部横撫で。 平底の底部から体部丸く湾曲。	7M-56
45	8-2T	灰釉陶器 椀	口径 - 底径 (7.0) 器高 [1.8]	①底部～体部破片 ②浅黄色	外面 体部輦轔整形、底部回転撫で調整。 内面 底部から体部輦轔整形。 断面三日月状の高台を付す。	7M-36
46	8-3T	須恵器 蓋	口径 - 摘み 7.2 器高 [1.8]	①破片 ②灰白色	外面 摘み部輦轔整形、天井部箝調整。 内面 天井部から体部輦轔整形。 摘み部ボタン状で大きい。	7M-53

## 土器類

():復元値、[]:残存値

No	出土場所	器種	法量(cm)	①残存 ②色調 ③胎土、焼成の特徴	成・整形技法の特徴	出土位置 出土レベル
47	8-3T	須恵器 高台付杯	口径 - 底径 [12.0] 器高 [2.4]	①底部～体部破片 ②灰白色	外面 体部輻轂整形後笠調整、底部回転笠調整。 内部 底部から体部輻轂整形。 削り出し高台。	—
48	8-3T	須恵器 杯	口径 - 底径 6.2 器高 [1.5]	①底部破片 ②灰白色	外面 体部輻轂整形、底部回転糸切り。 内部 底部から体部輻轂整形。 平底の底部から体部直線的に外反。	7M-43
49	8-3T	須恵器 椀	口径 - 底径 [8.0] 器高 [2.8]	①底部～体部破片 ②灰白色	外面 体部輻轂整形、底部回転笠調整。 内部 底部から体部輻轂整形。 底部広く平坦、体部丸く湾曲し、高台削り出しか。	7M-43
50	9T SI1	土師器 杯	口径 (17.2) 底径 - 器高 [4.5]	①口縁部～体部破片 ②橙色	外面 体部笠削り、口縁部横撫で。 内部 体部笠撫で、口縁部横撫で。 底部から体部緩やかに湾曲し、口縁部短く内傾する。	6.7cm
51	9T SI1	土師器 杯	口径 (17.0) 底径 - 器高 [2.8]	①口縁部～体部破片 ②橙色	外面 体部笠削り、口縁部横撫で。 内部 体部笠撫で、口縁部横撫で。 底部から体部浅く緩やかに湾曲し、口縁部短く直立する。	14.6cm
52	9T SI1	須恵器 椀	口径 - 底径 9.9 器高 [3.6]	①底部残～体部破片 ②灰白色	外面 体部輻轂整形、底部切り離し後笠調整。 内部 底部から体部輻轂整形。/底部径が大きく、下位に丸みを持つ 体部で、開いた高い高台を付す。	53.5cm
53	9T SI1	須恵器 甕	口径 (14.0) 底径 - 器高 [18.7]	①1/2残 ②灰白色	外面 脊部輻轂整形後条線状カキ目で調整、口縁部二段口縁で横撫 内部 脊部輻轂整形後同心円状あて目、口縁部横撫で。 胴部上位で最大径となり口縁部外反。	床面直上
54	9T SI1	須恵器 甕	口径 - 底径 (11.0) 器高 [9.9]	①底部～胴部破片 ②外-灰色、内-灰黄褐色	外面 輻轂整形、胴部下位平行叩き、中位回転笠撫で、底部笠調整。 内部 輻轂整形。 平底の底部から胴部が僅かな膨らみを持つ。	18.3cm
55	9T SI2	須恵器 椀	口径 13.0 底径 - 器高 [4.0]	①4/5残 ②灰黄色 ③小石を多く含む	外面 体部輻轂整形、口縁部横撫で、底部回転糸切り。 内部 底部から体部輻轂整形、口縁部横撫で。 丸みを持つ体部から外反する口縁部に至る。高台部欠損。	7.6cm
56	10-1T	磁器 碗	口径 - 底径 - 器高 -	①体部破片 ②明オーラーイグ灰色	外面 輻轂整形、青磁釉。 内部 輻轂整形、青磁釉。	100-6
57	10-2T SI1	土師器 杯	口径 12.6 底径 7.9 器高 3.6	①ほぼ完形 ②にぶい橙色	外面 底部から体部笠削り、口縁部横撫で。 内部 底部から体部笠撫で、口縁部横撫で。/平底の底部からやや 膨らみを持って外反する体部に至り、内面底部に一本の沈線廻る。	11.9cm
58	10-2T SI1	須恵器 椀	口径 14.6 底径 7.8 器高 4.8	①完形 ②黄灰色 ③小石を多く 含む	外面 輻轂整形、口縁部横撫で、底部回転糸切り。 内部 輻轂整形、口縁部横撫で。 直線的な体部で断面台形の高台を雜に付す。	19.0cm
59	10-2T SI1	須恵器 椀	口径 15.4 底径 7.25 器高 5.4	①口縁部一部欠損 ②にぶい橙色 ③酸化焰焼成、小石を多く含む	外面 輻轂整形、口縁部横撫で、底部回転糸切り。 内部 輻轂整形、口縁部横撫で。 体部が丸みを持って、輻轂痕が顕著。	11.6cm
60	10-2T SI1	須恵器 椀	口径 14.3 底径 7.1 器高 5.05	①4/5残 ②にぶい橙色	外面 輻轂整形、口縁部横撫で、底部回転糸切り。 内部 輻轂整形、口縁部横撫で。/体部が丸みを持って大きく外反し、 断面台形の低い高台が雜に付く。	16.8cm
61	10-2T SI1	須恵器 椀	口径 14.0 底径 6.8 器高 5.5	①口縁部一部欠損 ②にぶい黄橙色	外面 輻轂整形、口縁部横撫で、底部回転糸切り後笠調整。 内部 輻轂整形、口縁部横撫で。 体部が直線的で輻轂痕が顕著、断面台形の低い高台を付す。	11.6cm
62	10-2T SI1	須恵器 椀	口径 14.7 底径 6.9 器高 5.3	①5/6残 ②にぶい赤褐色	外面 輻轂整形、口縁部横撫で、底部回転糸切り。 内部 輻轂整形、口縁部横撫で。/体部が丸みを持って輻轂痕が顕著、断面台形の低い高台を付す。	床面直上
63	10-2T SI1	須恵器 椀	口径 14.1 底径 6.45 器高 5.2	①5/6残 ②灰黄褐色	外面 輻轂整形、口縁部横撫で、底部回転糸切り後調整。 内部 輻轂整形、口縁部横撫で。/体部が丸みを持って輻轂痕が顕著、断面台形の低い高台を付す。	2.3cm
64	10-2T SI1	須恵器 椀	口径 (14.3) 底径 7.0 器高 4.9	①1/2残 ②にぶい黄橙色	外面 輻轂整形、口縁部横撫で、底部回転糸切り。 内部 輻轂整形、口縁部横撫で。 体部が僅かな丸みを持って外反し、断面台形の高台を付す。	床面直上
65	10-2T SI1	須恵器 椀	口径 16.55 底径 7.5 器高 7.2	①2/3残 ②灰黄褐色	外面 輻轂整形、口縁部横撫で、底部回転糸切り。 内部 輻轂整形、口縁部横撫で。/僅かな膨らみを持つ深い体部で、 断面が台形の低い高台を付し、体部に輻轂痕が顕著。	19.4cm
66	10-2T SI1	土師器 甕	口径 (19.9) 底径 - 器高 [8.8]	①口縁部～胴部上位破片 ②にぶい橙色	外面 脊部笠削り、口縁部横撫で。 内部 脊部笠撫で、口縁部横撫で。 球状の胴部から口縁部が短く外反する。	4.2cm
67	10-2T SI1	土師器 甕	口径 (17.0) 底径 - 器高 [5.5]	①口縁部～胴部上位破片 ②にぶい橙色	外面 脊部笠削り、口縁部横撫で。 内部 脊部笠撫で、口縁部横撫で。/丸みを持つ胴部上位から直立 して上位が短く外反する「コ」の字状の口縁部に至る。	11.9cm
68	10-2T	須恵器 甕	口径 - 底径 (11.4) 器高 [7.4]	①底部～胴部破片 ②褐灰色	外面 輻轂整形、併行叩き、笠撫で、底部笠調整。 内部 輻轂整形。 底部平底。	—
69	10-2T SI2	土師器 杯	口径 (12.0) 底径 - 器高 [3.4]	①1/2残 ②橙色	外面 底部から体部笠削り、口縁部横撫で。 内部 底部から体部笠撫で、口縁部横撫で。 底部から体部が湾曲して口縁部が短く内傾する。	23.0cm

## 土器類

():復元値、[]:残存値

No	出土場所	器種	法量(cm)	①残存 ②色調 ③胎土、焼成の特徴	成・整形技法の特徴	出土位置 出土レベル
70	10-2T SI2	土師器 杯	口径(13.25) 底径 - 器高 [4.1]	①1/2残 ②橙色	外面 底部窓削り、口縁部横撫で。 内面 体部から口縁部横撫で。 丸底から浅い体部を経て、口縁部直立する。	23.8cm
71	10-2T SI2	土師器 杯	口径(18.0) 底径 - 器高 [4.0]	①1/5残 ②にぶい橙色	外面 底部から体部窓削り、口縁部横撫で。 内面 底部から体部窓撫で、口縁部横撫で。 底部から体部が湾曲して短く直立する口縁部に至る。	15.2cm
72	10-2T SI2	土師器 杯	口径(17.0) 底径 - 器高 [2.9]	①1/6残 ②橙色	外面 体部窓削り、口縁部横撫で。 内面 体部窓撫で、口縁部横撫で。 体部と口縁部を区画する稜線を持ち、口縁部外湾する。	—
73	10-2T SI2	須恵器 蓋	口径 18.2 底径 (4.0) 器高 3.4	①4/5残 ②外-灰色、内-灰白色	外面 輻轂整形、天井部窓撫で、口縁部横撫で。 内面 輻轂整形。/水平な天井部から緩やかに湾曲して口縁部寄りに僅かな返りが付く。	19.8cm
74	10-2T SI2	須恵器 蓋	口径(16.0) 底径 - 器高 [3.0]	①1/4残 ②灰色	外面 輻轂整形、天井部窓撫で、口縁部横撫で。 内面 輻轂整形。/天井部から緩やかに湾曲して口縁部に至り、つまみ出した短い返りが付く。	24.6cm
75	10-2T SI2	土師器 甕	口径(22.0) 底径 - 器高 [25.3]	①口縁部～胴部破片 ②橙色	外面 胴部窓削り、口縁部横撫で。 内面 胴部窓撫で、口縁部横撫で。 胴部中に膨らみを持ち、口縁部強く屈曲する。	床面直上
76	10-2T グリッド	須恵器 蓋	口径(17.6) 摘み - 器高 [2.1]	①口縁部～体部破片 ②褐灰色	外面 輻轂整形、天井部窓撫で、口縁部横撫で。 内面 輻轂整形。/浅く直線的な体部から口縁部に至り、つまみ出した短い返りが付く。	10N-19
77	10-1T	軟質陶器 鉢	口径 36.0 底径 - 器高 [7.8]	①口縁部～胴部破片 ②にぶい橙色	外面 胴部撫で調整、口縁部横撫で。 内面 胴部撫で調整、口縁部横撫で。 胴部直線的に外反、口唇部平坦、内側に丸み。	10O-29
78	10-6T	須恵器 椀	口径 - 底径 (8.0) 器高 [2.1]	①底部1/2残 ②灰白色	外面 底部回転糸切り。 内面 底部輻轂整形。 細く高い高台を付す。	11O-1
79	11-2T	かわらけ	口径 (7.7) 底径 5.4 器高 2.1	①2/3残 ②灰白色 ③酸化焰焼成	外面 体部輻轂整形、口縁部横撫で、底部回転糸切り後窓調整。 内面 底部から体部輻轂整形、口縁部横撫で。 平底。底部から体部肉厚で小型。	9N-21 B混土中
80	11-2T	須恵器 椀	口径(14.6) 底径 - 器高 [6.0]	①口縁部～体部破片 ②灰白色	外面 体部輻轂整形、口縁部横撫で。 内面 底部から体部輻轂整形、口縁部横撫で。 体部深く、緩やかに外反、口縁部外傾。	8N-20
81	11-2T	須恵器 壺	口径 - 底径 10.4 器高 [4.3]	①底部～胴部破片 ②灰白色	外面 胴部撫で調整、底部回転糸切り。 内面 底部から胴部輻轂整形。 底部から胴部厚みがあり、胴部直線的に外反。	8N-20
82	12T SI1	羽釜	口径(16.0) 底径 - 器高 7.5	①口縁部～胴部破片 ②にぶい橙色	外面 胴部撫で調整、口縁部横撫で、鍔三角形。 内面 胴部輻轂整形、口縁部横撫で。/直線的な胴部から、やや上向きの断面三角形の鍔を経て、内傾する口縁部に至る。口唇部平坦。	SI1
83	13-3T	土師器 杯	口径 10.0 底径 - 器高 [2.9]	①口縁部～体部破片 ②橙色	外面 体部窓削り、口縁部横撫で。 内面 体部窓撫で、口縁部横撫で。 内湾する体部から外傾気味の口縁部に至る。	8N-63
84	13-3T	須恵器 杯	口径 11.2 底径 5.7 器高 3.1	①5/6残 ②にぶい黄橙色 ③酸化焰焼成	外面 体部輻轂整形後窓調整、指頭成形、口縁部横撫で、底部回転糸切り(二回?)。 内面 底部から体部輻轂整形、口縁部横撫で。/平底。突き出した底部から体部内湾し、口縁部丸みを帯びながら外傾。	8N-33
85	13-3T	須恵器 杯	口径(11.3) 底径 5.4 器高 [3.35]	①1/2残 ②にぶい黄橙色 ③酸化焰焼成	外面 体部輻轂整形後窓調整、口縁部横撫で、底部回転糸切り(二回?)。 内面 底部から体部輻轂整形、口縁部横撫で。/平底。突き出した底部から体部内湾し丸みを帯びた口縁部外傾。	8N-33
86	13-3T	須恵器 杯	口径 - 底径 5.4 器高 [2.1]	①1/2残 ②にぶい黄橙色	外面 体部輻轂整形後窓調整、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輻轂整形。 平底。突出気味の底部から体部湾曲。	8N-33
87	13-3T	須恵器 杯	口径(12.8) 底径 6.0 器高 [3.0]	①1/2残 ②灰白色	外面 体部輻轂整形、口縁部横撫で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輻轂整形、口縁部横撫で。 平底の底部から体部緩やかに外反し、口縁部外傾。	8N-53
88	13-3T	須恵器 杯	口径(13.7) 底径 (7.0) 器高 [4.15]	①底部～体部破片 ②灰白色	外面 体部輻轂整形、口縁部横撫で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輻轂整形、口縁部横撫で。 平底の底部から体部直線的に外反。底部突出、削り出し高台。	8N-55
89	13-3T	須恵器 椀	口径 - 底径 6.1 器高 [2.0]	①底部破片 ②淡黄色	外面 体部輻轂整形、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輻轂整形。 開いた細い高台を付す。	8N-53

## 円面硯

90	8-3T	須恵器 円面硯	口径 - 底径 (16.0) 器高 [2.7]	①脚部破片 ②灰白色	外面 脚部輻轂整形。 内面 脚部輻轂整形後窓調整。 透かしの数未確定、線刻数不明。	—
----	------	------------	-------------------------------	------------	---	---

## 土製品

( ):復元値、[ ]:残存値

No	出土場所	素材	器種 種類	寸法(cm)、重量、特徴	出土位置 出土レベル
91	6-2T	土製品	紡錘車?	最大幅(3.6) 最小幅(2.1) 孔径 0.6 厚 0.75 重 5.27g	5O-67
92	6-2T	土製品	羽口	最大幅(10.0) 最小幅 8.8 厚 2.8 重 485.10g	5O-67

## 鉄製品

93	3T (679)	鉄製品	釘	長 17.8 幅 2.2 厚 0.85 重 72.00g	8P-23
94	4T	鉄製品	釘	長 13.2 幅 1.2 厚 0.4 重 15.25g	8P-60
95	5-1T	鉄製品	鉄鍤	長 16.2 幅 2.0 厚 0.3 重 22.10g	6Q-62
96	5-2T	鉄製品	釘	長(4.6) 幅(1.0) 厚 0.5 重 3.75g	5Q-39
97	8-3T	鉄製品	釘	長 22.0 幅 1.5 厚 0.75 重 100.21g	7M-64
98	3T (735)	鉄製品	釘	長(6.3) 幅(1.5) 厚 0.4 重 6.36g	7P-19
99	11-1ET	鉄製品	釘	長(6.8) 幅(1.6) 厚 0.8 重 32.58g	8N-90
100	15T	鉄製品	釘	長 18.0 幅 6.2 厚 1.2 重 204.0g	7N-44

## 錢貨

101	10-1T	銅製品	錢貨	外輪径 2.35×2.35 内輪径 1.9×1.85 郭径 0.7 厚 0.1 重 2.48g 治平元寶	10O-7
-----	-------	-----	----	--	-------

## 石製品

102	5-1T	石製品	石製模造品	最大幅 2.9 最小幅 1.15 厚 0.3 重 3.0g 滑石製	6Q-62
103	10-1T	石製品	環状加工礫	最大幅 12.3 最小幅 11.0 厚 6.1 重 668g	10N-97
104	13-2T	石製品	凝灰岩 切石	最大幅(25.3) 最小幅(15.2) 厚 11.9 基壇外装の一部か	7N-69 攪乱内
105	13-2T	石製品	凝灰岩 切石	最大幅(18.1) 最小幅(17.9) 厚 12.1 基壇外装の一部か	7N-69 攪乱内
106	13-2T	石製品	凝灰岩 切石	最大幅(16.1) 最小幅(12.8) 厚(10.5) 重 1407g 基壇外装の一部か	7N-69 攪乱内

## 巻頭カラ一写真図版

1	3T (679)	石製品	碁石	最大幅 1.5 最小幅 1.3 最大厚 0.65 重 1.71g 5Y8/1灰白色	8P-25
2	3T (679)	石製品	碁石	最大幅 1.2 最小幅 1.05 最大厚 0.55 重 1.02g 10YR1.7/1黒色	8P-53
3	4T (679)	石製品	碁石	最大幅 1.7 最小幅 1.55 最大厚 0.35 重 1.63g N3/0暗灰色	8P-29
4	11-1ET	被熱粘土 塊	壁材	最大幅 10.1 最小幅 5.8 最大厚(4.5) 重 121g	8N-100
5	13-1T	被熱粘土 塊	壁材	最大幅 9.9 最小幅 5.87.9 最大厚(4.6) 重 135g	8O-24